

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第308集

光仙房遺跡

(集 落 編)

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

2 0 0 3

日 本 道 路 公 団
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第308集

光 仙 房 遺 跡

(集 落 編)

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

2 0 0 3

日 本 道 路 公 団
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



光仙房遺跡遠景（後方の山並は赤城山）

序

北関東自動車道は、本県高崎市の関越自動車道から分岐し、茨城県那珂湊にいたる延長約150kmの高速自動車道であります。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されています。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間約15kmの建設に先立って、平成7年6月から36の遺跡で発掘調査が行われましたが、当事業団ではその内、31遺跡の発掘調査を担当致しました。

また、それらの遺跡整理作業は平成10年度から実施しており、本書『光仙房遺跡』はその第17集として刊行するものです。

本遺跡は、伊勢崎市三和町内に所在し、発掘調査は平成9年度から11年度まで、整理は平成12年度から実施してきました。その結果、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡や生産跡などの遺構と遺物が数多く発見されました。

本報告書は旧石器時代から奈良・平安時代にわたる遺構・遺物編と平安時代須恵器窯跡編の2巻としてまとめたものです。この中で注目されるものに、柱材とこれを支えた礎盤をもつ古墳時代前期の竪穴住居跡のほか、土器制作に用いる粘土を採取した多数の粘土採掘坑とこれに使用された木製土掘り具の発見があります。また隣接する舞台遺跡に続き、当遺跡においても12基の平安時代と考えられる須恵器窯の存在が明らかになり、須恵器生産のあり方に新しい視点を提供することになりました。

本報告書は、北関東自動車道建設に先立ち発掘調査された他の遺跡と共に、波志江沼周辺地域の原始・古代の歴史を明らかにしていく貴重な資料のひとつになるものと確信しております。

最後になりましたが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化課、伊勢崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝いたします。

平成15年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は、北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域建設に伴い事前調査された光仙房遺跡(遺跡略号 KT-310)の発掘調査報告書である。本書は集落・須恵器窯編の2分冊である。
2. 光仙房遺跡は群馬県伊勢崎市三和町1823-1, 1824, 1825, 1826, 1827, 1828, 1842-1・2, 1845, 1846-1・2・3, 1847-1・2, 1848-1・2, 1849-1・2, 1850-1・2, 1354-1・2・3・5・6, 1355-2・3, 1356-1・3, 1392-1, 1894-1・2, 1895-1, 1897-2, 1910-1・3・5・6・7, 1909, 1911-1・2, 1912, 1913-3・4・7, 1844, に所在する。
3. 事業主体 日本道路公団
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査担当者・調査期間
C・D区 石塚久則・内田敬久 平成9年4月1日～平成10年10月31日
A・B区 綿貫邦男・友廣哲也・今泉 晃・内田敬久 平成10年4月1日～平成10年10月31日
B区南部 友廣哲也・吉田和夫・今泉 晃 平成11年8月23日～平成11年10月31日
6. 整理期間 平成12年4月1日～平成15年3月31日
7. 整理組織
事務担当 小野宇三郎 菅野 清 原田恒弘 赤山容造 渡辺 健 住谷 進 神保侑史 水田 稔
小淵 淳 坂本敏夫 大島信夫 中束耕志 西田健彦 井上 剛 国定 均 笠原秀樹
小山健夫 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 宮崎忠司 岡島伸昌 片岡徳雄 森下弘美
大澤友治
整理担当 友廣哲也 島崎敏子 大塚とし子 高柳哲子 岩淵フミ子 安藤(旧姓勲)美奈子 木原幸子
遺物写真 佐藤元彦
遺構写真 C・D区 石塚久則 内田敬久
A・B区 綿貫邦男 友廣哲也 吉田和夫 今泉 晃 内田敬久
保存処理 関 邦一 土橋まり子 横倉知子
8. 石器石材鑑定 飯島静夫(群馬県地質研究会)
9. 発掘調査資料・出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
10. 発掘調査及び報告書作成には以下の方々にご協力・ご指導を頂いた。記して感謝いたします。
伊勢崎市教育委員会 荒川正夫 石井榮一 小笠原良人 北原勝彦 昆 彭生 加部二生 佐々木幹雄
須長泰一 高橋 紘 平田貴正
11. 本書の編集
集落編は友廣が編集執筆を担当した。(C・D区は調査終了時に調査担当者より図面・写真を引き継いだ。)
須恵器窯跡編は綿貫が担当した。
12. 本書の執筆者
第1章第1節 中束耕志(当事業団調査研究第1課長)
第3章第4節 D区概要 内田敬久(現伊勢崎市立宮郷小学校)
第5章縄文時代 原 雅信(当事業団主幹兼専門員)
第6章旧石器時代 関口(櫻井)美枝(当事業団専門員)
上記以外 友廣哲也

凡 例

1. 本書における調査区名称は西からA・B・C・Dの4区に分けてある。A・B区とC・D区は調査年度と調査担当が異なるためそれぞれ調査時の遺構番号が重複している。このため報告はA B C Dの順に区ごとに分けてある。さらに遺構番号の前に区名をA～Dと表記してある。さらにB区は南側道部調査を工事の都合により北側終了後再調査をし、2時期に分かれている。このため2次調査時の遺構名の前に南と冠してある。また木器と旧石器については図版の構成上最後に掲載した。
2. 本書の遺構図版中にある+印とそれに記される3桁2種の数値は、国家座標X・Y地を表す。ただし、5桁数値のうち前桁のX値38、Y値54は省略してある。A・B区の調査は北関東自動車道の調査計画で10単位でグリッドを設定したが、C・D区についてはグリッドの設定が異なっていたため整理時にすべて設定をA・B区にあわせなおした。
3. 本書における遺構図には比例値を冠していない。遺構図は基本的に住居跡は1/60、土坑、井戸、掘立柱建物跡は1/40である。この限りでないものは比例値を示してある。
4. 本書における遺物図版はすべて基本的には1/3である。しかし大・小形のものはこの限りではない。それらには図版中に比例値を記してある。また遺物写真はすべてが同じ縮尺ではない。縮尺は特に付していない。このため実寸をみるには実測図を参照されたい。
5. 本書における遺構図版中の断面基準は標高値でこれを示した。単位はmである。
6. 各遺構図版中の遺物・遺物図版・遺物写真図版・遺物観察表の遺物に付された番号は同一である。
7. 土器の実測図は原則として四分画法をとった。ただし残存量が1/2以下の場合は180度回転して図上復元してある。
8. 遺物の撮影及び展開・断面は基本的に一角法で示した。
9. 土器の色調は「標準土色帳」農林省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修に準拠した。
10. 本書で使用する浅間山及び榛名山噴火による降下火砕物・泥流堆積物の呼称については以下のように表記する。

As-A	浅間山噴出の火砕流	1783 (天明三) 年
As-B	浅間山噴出の火砕流	1108 (天仁元) 年
FP 泥流	榛名山ニッ岳噴出の火砕泥流堆積物	
FP	榛名山ニッ岳噴出の火砕物	
FA 泥流	榛名山ニッ岳噴出の火砕泥流堆積物	
FP	榛名山ニッ岳噴出の火砕物	
As-C	浅間山噴出の火砕物	
11. 本書中D区粘土採掘坑の土層については調査時より別の略称を用いている、そのため第3章第4節に表記してある。

報 告 書 抄 録

ふりがな	こうせんぼういせき
書名	北関東自動車道（高崎－伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第17集
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第308集
調査担当者	C・D区 石塚久則 内田敬久
	A・B区 綿貫邦男 友廣哲也 内田敬久 吉田和夫 今泉 晃
編集者	友廣哲也
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2
発行年月日	2003年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうせんぼういせき 光仙房遺跡	いせきまし 伊勢崎市 さんわちょう 三和町	10204		36°21'05"	139°13'32"	19970401 } 19991031	34,650m ²	北関東自動車道 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
光仙房遺跡	集落	奈良・平安	竪穴住居跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	住居跡52軒
	旧石器	後期		尖頭器・剝片等	遺物236点

目 次

序

例 言

凡 例

報告書抄録

目 次

第1章 発掘調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第2章 遺跡の立地と歴史環境	2
第1節 遺跡の立地	2
第2節 歴史環境	3
第3章 検出された遺構と遺物	8
第1節 A 区	8
第2節 B 区	15
第3節 C 区	45
第4節 D 区	133
第4章 光仙房遺跡出土木器	193
第5章 縄文時代	203
第6章 旧石器時代	211

写真図版

第1章

発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯

光仙房遺跡は北関東自動車道建設に伴う事前の埋蔵文化財調査として平成9年度に開始された遺跡である。東で舞台遺跡に隣接している。このため本遺跡周辺部は舞台遺跡と同様、県企業局の三和工業団地建設予定地と接している。三和工業団地建設予定地は伊勢崎市教育委員会と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により「三和工業団地遺跡」として調査され、北関東自動車道埋蔵文化財調査と一部並行して行われた。また北関東自動車道と一般国道17号（上武道路）と結ぶ地点は建設省（現国土交通省）の委託により本事業団が「下植木壱町田遺跡」として発掘調査が並行して実施された。

本遺跡は北関東自動車道伊勢崎インターチェンジ部分の舞台遺跡の西に接している。

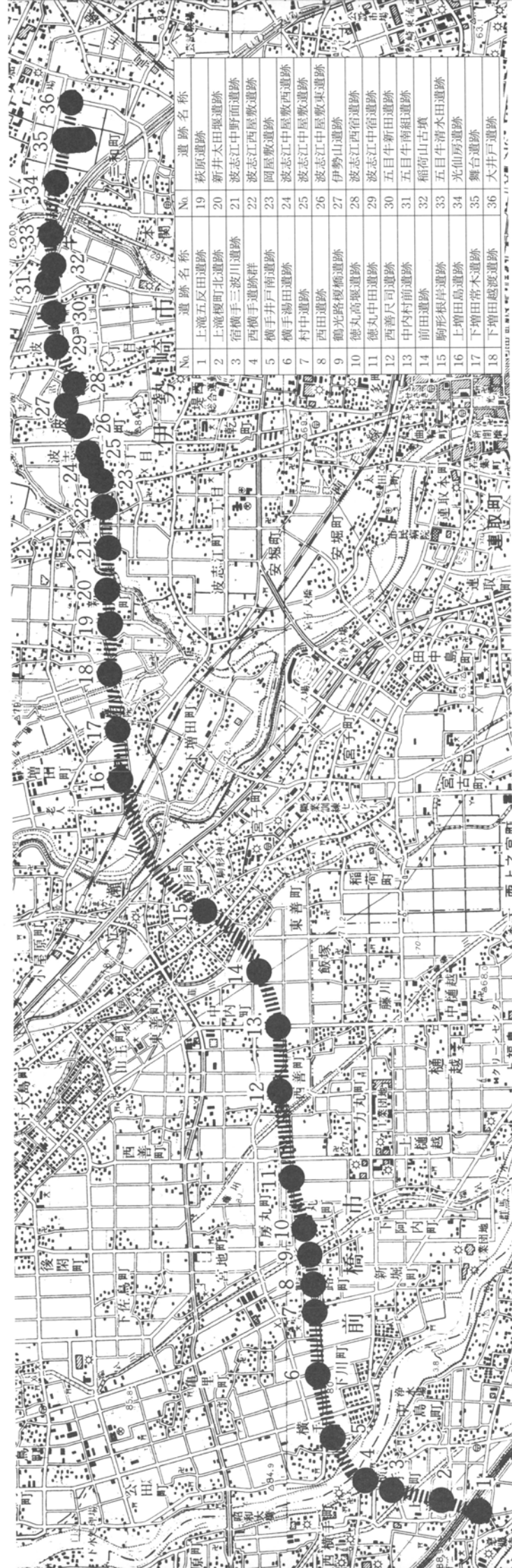
このように東側を舞台遺跡、南側を伊勢崎市教育委員会調査部分に接するため、当初より試掘調査は実施せず本調査を行った。全体総面積は34,650㎡を測る。

平成7年11月20日と平成8年1月30日「北関東自動車道文化財調査に関する調整会議」が開催された。

この会議は日本道路公団、県土木部道路建設課高速道路対策室、県教育委員会、当事業団が参加し、「北関東自動車道文化財調査に関する調整会議」として光仙房遺跡を含めた遺跡群の調査の実施を決定した。

さらに同年2月22日「第1回北関東自動車道地域埋蔵文化財調査に関する沿線市町村連絡調整会議」が開催された。

これらの調整会議を受け、平成9年4月1日より光仙房遺跡の発掘調査が開始された。



第1図 北関東自動車道伊勢崎インターチェンジ周辺遺跡位置図

第2節 調査の方法と経過

調査にあたっての方眼設定には、国家座標第IX系を用いた10mを基準とした。各方眼の名称は、南東隅の座標値で表し、 $X = 389,980 \cdot Y = -347,740$ のように表記した。本遺跡の調査は、複数年次に渡ることが予測されたため、対象地区を便宜的にA～D区に分けて実施した。さらに、農道や用地買収状況によりB区の南側道部については遺構の頭にB区南とした。他はアルファベットのABCDを遺構名の前に冠してある。

1. 平成9年度 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)

C・Dの調査。C区住居跡、D区粘土採掘坑の調査。

2. 平成10年度 (平成10年4月1日～平成10年10月31日)

C・D区調査継続。B区・B区南住居跡・旧石器・須恵器窯跡調査・A区古墳調査。

C・D区については平成9年4月より平成10年10月31日まで継続して調査が行われ、A・B区については一度平成10年10月31日にB区南部、(未買収地)を残し一時終了した。B区南側道部の調査は平成11年8月23日から同年10月31日の期間に終了した。これをもって光仙房遺跡の調査はすべて終了した。

第2章 遺跡の立地と歴史環境

第1節 遺跡の立地

光仙房遺跡は、伊勢崎市三和町に所在する。群馬県の南部に位置する伊勢崎市域は、その南を埼玉県本庄市と利根川を介して県境とする。市域の大半は平坦地形をなし、北東部は粕川が南流する。中央部には広瀬川が南東流し、地質的にはこの広瀬川沿に左岸が洪積台地に、右岸は沖積台地に大別される。

光仙房遺跡の位置する三和町は、伊勢崎市域の西北部にあたり、東は佐波郡東村に、北は赤堀町に接する。西は粕川に区切られている。粕川を境にしてその西側は、赤城南麓の開析された低台地が樹枝状に発達する。東側は、足尾山地に源を発する渡良瀬川によって形成された、古期大間々扇状地桐原面の広大な低台地が広がる(第2図)。三和町は、この大間々扇状地形の西南端部にあたり、洪積台地上には多くの湧水池が点在する。この湧水池による浸食で、周辺域には多くの細長い谷地形が形成されている。当遺跡地や隣接地においても「あまが池」・「男井戸」・「角弥清水」・「谷地清水」などの湧水池が知られている。「男井戸」は現在でも湧水池として残るが、多くは昭和50年代の土地改良工事によって消滅している。光仙房遺跡の所在するこれらの湧水池からやや西側に位置し、台地の上であり水が乏しい部分にあっている。これはB区東端に検出された溝に水の流れを確認でき当該時期に水路(水利)に利用されたことが推定される。

さらに光仙房遺跡D区の小河川東台地、広瀬川左岸の洪積台地では、江戸時代水量の乏しい湧水と赤城山小沼を水源とする神沢川・粕川水系の小河川に属するため湯水に苦しむことが多かったとされる。外観は広大な平坦地勢をなす当該地域であるが、可耕地の拡大には溜池と用水路の築造が不可欠となり、寛文年間・貞享年間には華蔵寺下沼・上沼が、元治年間には八幡沼がそれぞれ完成した。なお溜池灌漑のみに頼れず、八坂用水を造り桃の木川から引水した。宝永年間の完成である。遡っては中世、赤城山南面の裾野に延びる女堀が知られる。広大な大間々扇状地を潤すべく開削されたこの用水路は、天仁元年の浅間山噴火に伴う火

山灰 (As—B) による耕地の壊滅的被害からの復興が直接的な動機であったとされる。このことは、当該地域においては水源不足から生じる渇水という自然条件が、基本的問題として内在していることを物語っている。

光仙房遺跡は東に湧水地「男井戸」「角谷清水」の谷地形の西に台地上に展開する。またC・D区を分ける小さな谷が南北に存在する。

光仙房遺跡の構成は、旧石器時代より中世に至る複合遺跡であるが、古墳時代から歴史時代にかけては数度の断絶が認められている。しかし光仙房遺跡周辺は広大な三和工業団地・東に隣接する舞台遺跡が調査され、これらの遺跡は同一のものと認識できるものである。本遺跡の動向はそこでの成果をふまえた上での総合的な検討がされなければならない。また、この現象の理解には周辺地域における水量の増減もまた一つの要件として考慮されるべき視点になろう。

第2節 歴史環境

光仙房遺跡は、旧石器時代から中世に至る複合遺跡である。したがって検出された遺構は住居跡・墓域(古墳)等様々にわたりこれらに伴う遺物もまた豊富で様々である。特にD区で確認された粘土採掘坑は出土遺物は古墳時代後期の甕が検出されている。近年では並行して調査が行われた北関東自動車道の中宿遺跡にも4世紀代と考えられる粘土採掘坑が認められている。

旧石器時代 旧石器時代における赤城山南麓は、岩宿遺跡の発見に象徴されるように日本旧石器研究にとって重要な地域である。旧石器時代の遺跡は外形遺跡のような高標高地帯から麓端の底平なローム台地に多く分布するが、伊勢崎市豊城町にある独立丘陵権現山台地に発見された権現山遺跡では岩宿遺跡より遡る石器が出土したことで著名である。石器は関東ローム層の八崎軽石層(Hr—HP)下で検出され、現在のところ赤城山南麓地域で最も旧く中期旧石器時代に位置づけられている。また、石器の形態についても、洋なし型・心臓型握斧など全国的にも未だ類似する資料を見ないものである。大間々扇状地端より南には権現山台地の他、新田町木崎台地・太田市由良台地など扇状地より古い洪積台地が点在しており、同時代の資料の発見が期待される。光仙房遺跡を含め周辺地域では、現在のところ(Ys—YP)含有のローム層からAT含有の暗色帯及び最下位暗色帯層での後期旧石器時代の発見に留まる。

光仙房遺跡東に接した舞台遺跡、北に連続する三和工業団地I遺跡では(As—YP)含有ローム層以下AT下暗色帯の間に4つの文化層が層位的に確認されている。両極剥離痕のある石器(ピエス・エスキュー)・尖頭器・大型礫・局部磨製石斧及び台形様石器などが検出されている。広範囲に分布する石器群から、環状分布を抽出するが、単層的文化面との見通しから剥片生産、ピエス・エスキュー、石材など各種石器分布の分析から遺跡構造解明に迫っている。また、周辺地域では昭和49年から63年にかけて調査された上武国道(国道17号線)関連では8遺跡、その他あわせて11カ所の旧石器時代遺跡が発見されており旧石器時代人の濃密な活動状況が窺われる。

縄文時代 赤城山南麓の縁端に位置する伊勢崎市の縄文時代遺跡は、広範な広瀬川低地帯を挟み、主にはその東側に色濃く、西側に若干の分布が見られる。広瀬川西側の前橋台地上には遺跡数が少ないが、縄文後期後半の時期のものが希薄ながら点在する。赤城山斜面・大間々扇状地・伊勢崎台地などの東側地帯では、遺跡の実態は不明ながら草創期の遺物が発見された間之山遺跡がある。早期の遺跡としては、波志江六反田・山崎・波志江権現山・高山・書上本山・八寸B等の諸遺跡があり、小丘陵上やその裾部に立地する。

第2章 遺跡の立地と歴史環境

縄文時代前期に至り、遺跡は湧水に近い台地の縁辺部に立地する傾向が見られるようになる。この時期の遺跡には波志江天神山・書上浄水場・尼ヶ池周辺・天ヶ堤・下吉祥寺遺跡等が知られる。集落は数軒の単位で比較的小規模なものがほとんどであるが、三和工業団地Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡では前期を中心とした草創期から後期に至る130軒あまりの竪穴住居跡が調査されている。

縄文時代前半にはやや減少傾向となるが、後半から後期前半には遺跡数・集落規模ともピークに達し、それともなって遺跡の立地も湧水や小河川を臨む広い台地上に占拠するようになる。この時期には、渡良瀬川扇状地の西端縁にある赤堀町曲沢遺跡では、住居跡100軒を上回る集落を形成し、赤城山南麓有数の遺跡となっている。伊勢崎市域の遺跡には鯉沼東・下海老・ネタンブチ・宮柴遺跡などがある。

縄文後期から晩期にかけての遺跡は前代に比べてかなり減少するが、荒砥川左岸の八坂遺跡・粕川左岸の大道西遺跡など広瀬川低地帯をのぞむ伊勢崎台地の西縁の河川や湧水に恵まれた地帯に立地し、より低台地化した平地へ占地する。八坂遺跡では遺物散布の範囲が2ヘクタールにも及び獣骨・炭化物・土製耳飾り・配石遺構等の発見があり当該期の文化様相を示す遺跡として注目されている。また、断絶をもちつつも、八坂遺跡付近に集中する弥生遺跡の存在に、その類似する立地条件からして先駆的な農耕の芽生えもあったと考えられている。舞台遺跡では縄文時代はその前期を中心としている。竪穴住居跡5軒・Tピットと呼ばれる狭深な落とし穴が検出されている。光仙房遺跡の縄文時代は、遺構は検出されず主にD区の低地・河川部に土器が検出され前期から後・晩期にわたって出土している。

弥生時代 関東地方における弥生文化は従来中期からとされてきたが、群馬県では渋川市南大塚遺跡・藤岡市沖Ⅱ遺跡・安中市注連引原Ⅱ遺跡・子持村押手遺跡等の発見によってその成立の時期が前期に遡る可能性が高まった。南大塚では東海地方に発生をもつ水神平系の土器が、また沖Ⅱ・注連引原Ⅱ・押手からは西日本の遠賀川式土器が検出されている。

内陸部に位置する群馬県の弥生文化の波及は、複数の土器系譜として認められ、県域ではおおそ西部山間部及び利根川西の平野部と、利根川東の赤城山南麓から渡良瀬川流域の地域に大別される。弥生時代前期末から中期前半では、前者が縄文的要素の強い岩櫃山式が、後者は東関東地方を中心とする野沢Ⅰ式、南関東を主とする須和田式の影響を受ける。

赤城山南麓および大間々扇状地帯での弥生時代の遺跡は希薄な状況である。近年、低台地をひかえた山麓の末端地域では徐々にではあるがその事例が増加しているが、なお集落遺跡としての十分な展開を見せるに至ってはいない。伊勢崎市域での弥生時代遺跡の主分布は古利根川低地帯を流れる広瀬川の北側微高地上に立地している。遺跡の形成は中期から知られるが、西太田遺跡・中組遺跡では中期後半から後期前半にかけての当地域では数少ない竪穴住居跡が検出されている。後期に属する遺跡には、大道西遺跡・合同庁舎北遺跡などがあり、樽式土器を中心にするが北関東に形成される土器文化の摂取も見られ、前者からは茨城県の十王台式系が、後者からは栃木県の二軒屋式系の土器を検出している。この時期には大集落形成が見られず、後の水田開発地域への先達的な遺跡としての性格が考えられている。

赤城山南麓地域には後期後半になって、縄文系の赤井戸式土器が県内の主体土器形式である樽式土器と混在しはじめる。壺・甕型土器の口頸部に残す輪積痕と縄文の施文を特徴とする土器群である。赤井戸式土器は従来、赤城山南麓を主とした分布圏をもつとされていたが、近年では鐮川流域ををはじめ県内各地に分布することが知られている。

伊勢崎地域では、弥生時代中期後半に至ってようやく水田耕作の兆しを感じられる。しかし、農耕適地を求めて様々な異系統土器文化が進出・交錯しながらも、なお当該地域に根付くことなく、また発展しなかつ

た。このような遺跡の状況は、利根川流域の広大な湿潤地帯が開発の対象となるには当時の技術的未成熟を示していると考えられている。耕地への本格的な動きは古墳時代前期を待たなければならなかった。

光仙房遺跡では弥生時代の遺構遺物はほとんど確認することはできなかった。古墳時代前期の伊勢崎低台地の開拓まではほとんど弥生時代文化の痕跡は認められない。これは東に隣接する舞台遺跡も同様である。

古墳時代 県内における稲作農耕が飛躍的な展開を見せるのは古墳時代になってからである。その前半期には中小の河川流域の沖積地の開発を背景に多くの集落遺跡が形成される。群馬県を中心とした北関東の初期古墳文化は、東海地方特に伊勢湾を中心とした外来系土器文化圏に強い影響を受けて発展したと考えられている。県内においてその代表的な土器がS字状口縁台付甕である。しかし、足のない土器が東海から来ることはない。したがって人が作り、運んだことが想定される。しかし、伊勢崎を始め県内のS字状口縁台付甕はほとんどが在地産と考えられ、技法や形から東海地方の甕の形態とは全く異なる。このことから毛野の人々が文化の交流のなか、在地で作っていたものと考えられる。さらにそのS字状口縁台付甕を作り使った人々は樽式土器・赤井戸式土器文化の人々であり、進歩した農耕技術を会得した彼らが（在地の弥生文化をもっていた人々）赤城山南麓、そして伊勢崎周辺の低台地の開拓者であった。

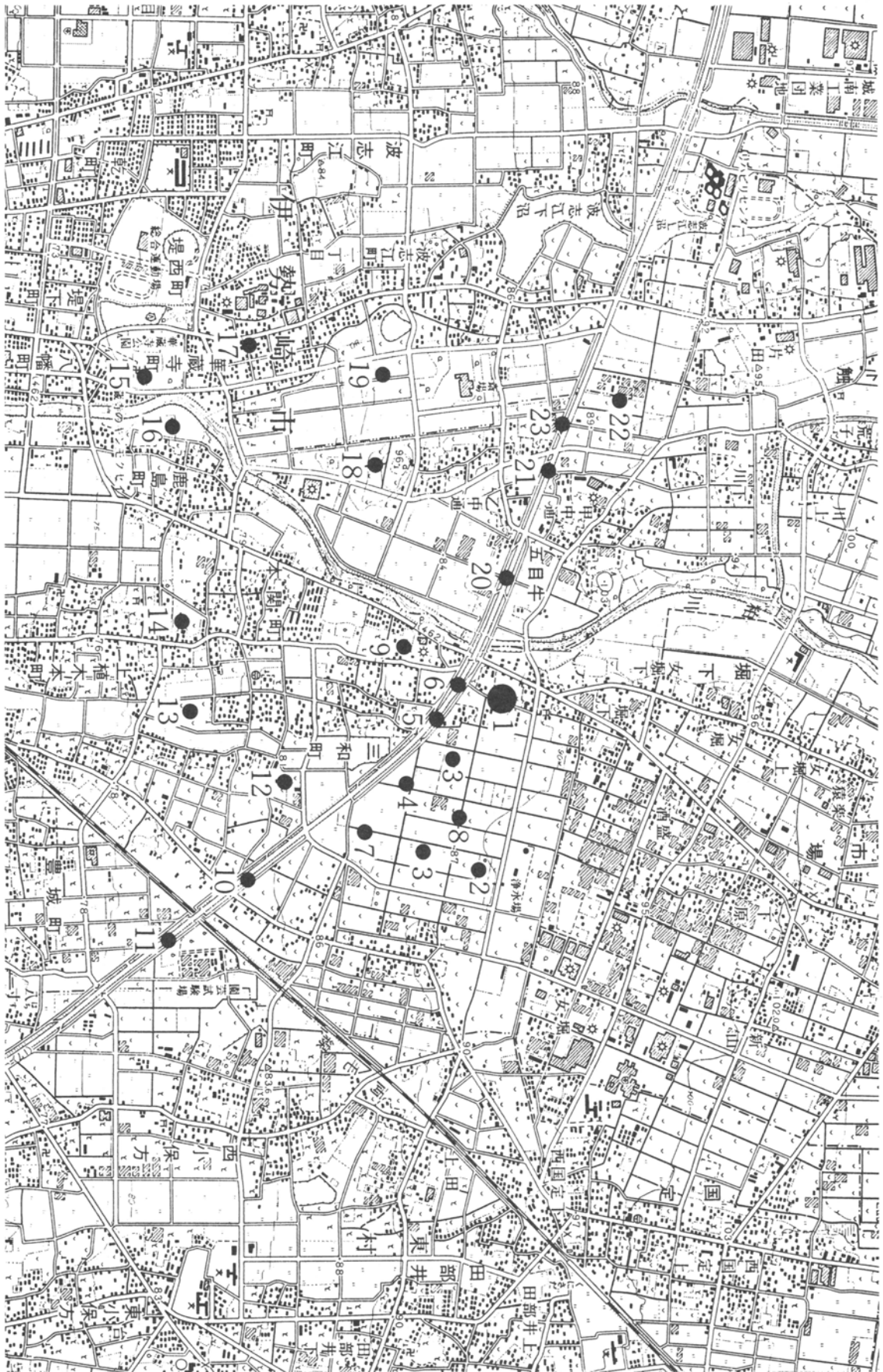
伊勢崎周辺での古墳の足跡は、伊勢崎地域最古とされる4世紀代に比定される華蔵寺山古墳がある。さらに5世紀代になると全長125mを測る前方後円墳、御富士山古墳がある。御富士山古墳の主体部には長持形石棺が確認され、赤城山南麓に広範な社会構造の創出を認めることができる。

光仙房遺跡でも古墳時代前期の住居跡が確認され、隣接する舞台遺跡、さらには三和工業団地遺跡の前期集落との並行関係が確認できる。さらに舞台遺跡の周溝墓群の存在と、光仙房遺跡では全く周溝墓が確認できない点から同一の集落を構成していた可能性も考えることができる。

光仙房遺跡の五世紀台の遺構は確認できないが六世紀台に比定できる古墳が2基確認でき、周辺に古墳群の存在が以前より確認されている。

歴史時代 多くは広瀬川の東方に遺跡分布のある伊勢崎市域で、その東北部はとみに豊富な遺跡が知られている。三和町内では舞台遺跡及び南に位置する上植木光仙房遺跡（上武国道調査）等が主体であり、今回報告の光仙房遺跡（北関東自動車道）はその北西部に位置している。光仙房遺跡北方約400mに推定東山道が東西走り、南南西方1.3kmには著名な上植木廃寺が位置する。当遺跡内住居跡からも上植木廃寺の瓦と思われる遺物の検出がある。

光仙房遺跡はこのような背景を持ち須恵器の窯跡が12基確認されている。詳述は後段に譲るがやや時間が先行する舞台遺跡に続き光仙房遺跡での工人集団等の検討が必要である。9世紀から10世紀にかけては光仙房遺跡のみでは解明できる問題ではなく三和工業団地・上植木光仙房遺跡（上武道路分）・舞台遺跡等との総合した検討を必要とする。その結果は最終的には古代後半期の地域開発に関わる実態解明に大きく寄与するものである。



第2図 周辺遺跡位置図

周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡の概要	備考
1	光仙房遺跡	旧石器、古墳前期・後期住居跡、古墳後期粘土採掘坑 平安住居跡・須恵器窯跡、水路他	本報告書・『年報17』・『年報18』群埋文 1998・ 1999
2	三和工業団地Ⅰ遺跡	旧石器・古墳前期～後期住居跡、平安時代住居跡他	『三和工業団地Ⅰ遺跡』(1)・同(2)群埋文 1999
3	三和工業団地Ⅱ～Ⅳ 遺跡	旧石器、縄文前期住居跡、古墳前期住居跡・周溝墓、古 墳後期住居跡・奈良・平安住居跡・須恵器窯、中世馬房 他	『年報15』・『年報16』・『年報17』群埋文 1996～ 1988
4	下植木沓町田遺跡	旧石器・古墳前期・後期住居跡、奈良・平安住居跡、中 世館跡、平安水田	『下植木沓町田遺跡』群埋文 1999
5	上植木沓町田遺跡	縄文中期～平安住居跡、中世井戸他	『書上下吉祥寺遺跡・書上上之原遺跡・上植木沓町 田遺跡』群埋文 1988
6	上植木光仙房遺跡	古墳・平安時代住居跡	『上植木光仙房遺跡』群埋文 1989
7	鯉沼遺跡	古墳～平安時代住居跡	『鯉沼東遺跡・舞台遺跡』伊勢崎市教育委員会 1977
8	舞台遺跡	旧石器・縄文前期住居跡・陥穴・古墳前期周溝墓・住居 跡・後期住居跡・奈良・平安住居跡、平安須恵器窯	『舞台遺跡(1)』(奈良・平安時代他偏)
9	関山古墳群	粕川左岸に立地。6～7世紀代の古墳群、上植木光仙房 遺跡・光仙房遺跡の調査でその一部が調査された。	『関山古墳群』『伊勢崎市史 通史偏Ⅰ』 1997
10	書上本山遺跡	旧石器、古墳時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物 跡瓦塔片出土	『書上本山遺跡』群埋文 1985
11	書上上之原城遺跡	平安時代住居跡・掘立柱建物跡	『書上下吉祥寺遺跡・書上上之原城遺跡・上植木沓 町田遺跡・下植木沓町田遺跡』群埋文 1988
12	高山古墳群	7世紀代の古墳群 竪穴式・横穴式石室	『高山遺跡・天ヶ堤遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』 伊勢崎市教育委員会 1977
13	丸塚山古墳	全長81mの帆立貝式前方後円墳。後円部に箱式棺状の堅 穴式石室3基を設ける。5世紀後半	『丸塚山古墳』『伊勢崎市史 通史偏Ⅰ』伊勢崎市 教育委員会
14	上植木廃寺	7世紀後半の創建で、県内初期寺院の一つ。	『上植木廃寺発掘調査概報Ⅰ』伊勢崎市 1984 『上植木廃寺発掘調査概報Ⅱ』伊勢崎市 1985 『上植木廃寺』—昭和59年度発掘調査概報— 伊勢 崎市教育委員会 1985
15	華蔵寺裏山古墳	全長40m前後の前方後円墳と考えられ、4世紀初頭頃の 築造と推定されている。複合口縁壺が出土。	『華蔵寺裏山古墳』『伊勢崎市史 通史偏Ⅰ』伊勢 崎市 1987
16	上西根遺跡	古墳・奈良時代住居跡、古墳前期周溝墓	『上西根遺跡』伊勢崎市教育委員会 1985
17	台所山古墳群	『総覧』では7基が確認。調査では箱式石棺の主体部をも つ1基がある。	『台所山古墳』『伊勢崎市史 通史偏Ⅰ』伊勢崎市 1987、『上毛古墳総覧』群馬史跡名勝天然記念物報 告第5輯 群馬県 1938
18	地藏山古墳群	5世紀～8世紀代の古墳55基からなる古墳群	松村一昭『赤堀村地藏山の古墳1』1978、『赤堀村 地藏山の古墳2』1979 赤堀村教育委員会
19	蟹沼東古墳群	6世紀末～7世紀の10基を越す古墳群。縄文時代住居 跡・古墳前期住居跡・周溝墓。	『宮貝戸古墳群・蟹沼東古墳群』伊勢崎市教育委員 会 1983、『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』伊勢崎 市教育委員会 1978、『蟹沼古墳群』伊勢崎市教育 委員会 1988
20	五目牛清水田遺跡	縄文前期住居跡、古墳前期住居跡、前方後円墳、奈良時 代住居跡、水田他	『五目牛清水田遺跡』群埋文 1993
21	五目牛南組遺跡	縄文前期住居跡、古墳、近世屋敷跡	『五目牛南組遺跡』群埋文 1992
22	八幡林古墳群	縄文前期住居跡、6世紀～7世紀古墳4基	『八幡林古墳群及び縄文住居跡調査概報』赤堀村教 育委員会 1982
23	堀下八幡遺跡	旧石器、縄文前期住居跡、奈良・平安時代住居跡他	『堀下八幡遺跡』群埋文 1990

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 A 区

本地区は光仙房遺跡西端にあたり遺跡を南北走る桐生大間々線により分断された小区画にある。確認された遺構は古墳とその主体部の痕跡、周溝内に墓と考えられる土坑1基、他に縄文の遺物が表採されたが縄文時代の遺構は確認されていない。

周辺環境にあるように光仙房遺跡周辺は舞台遺跡、あるいは三和町工業団地遺跡等が接して存在しており、特に南側周辺には石室が確認され、さらに多くの古墳の存在が認められる。本円墳も群集墳を構成する1基と考えられる。また古墳時代後期の住居跡は本遺跡内では確認できず、さらに東方の舞台遺跡まで確認することができない。さらにA区では古墳時代の当古墳以外の遺構は確認されず、従って古墳時代の居住区・墓地との区別があったことと理解できる。古墳周溝内から確認された土坑は周溝が埋まってから掘りこまれたもので出土した須恵器からほぼ10世紀頃と考えられる。同時期の住居跡は本遺跡B・C区に確認ができるがA区内の同時期の遺構は確認できず、墓域との理解があった可能性はあるが1基のみの検出で検証することはできない。

A1号古墳（第3～9図、PL1・22）

A区の地形は西端はすぐに粕川に向かい南西側に傾斜して落ちている。周溝の確認面がこの傾斜のためと考えられるが周溝はやや楕円形状を呈し、北側の形状は確認できなかったが、円墳と考えられる。周溝覆土の断面には中段に浅間B軽石層が確認されている。

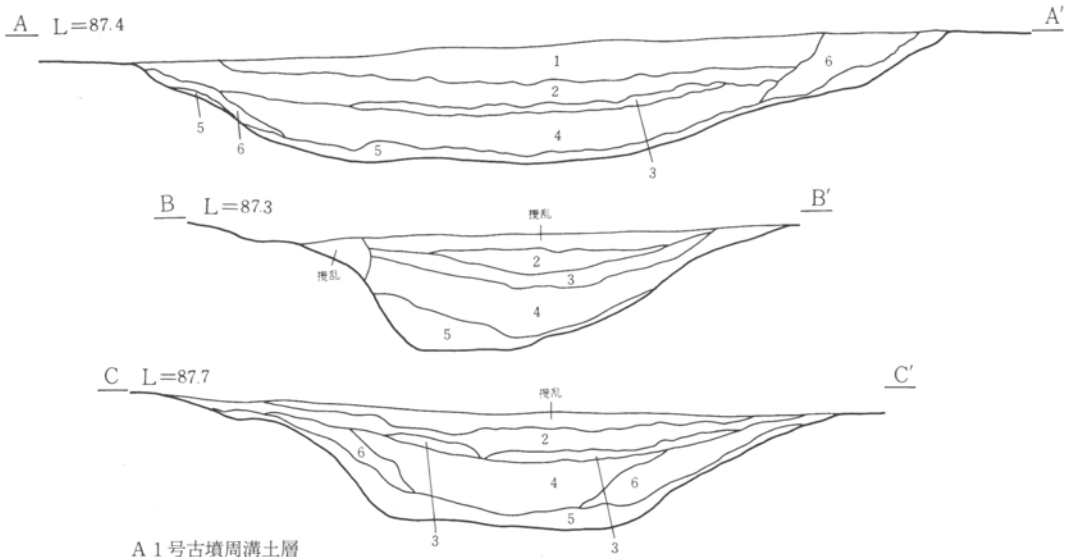
古墳の主体部の床最下面まで現代の家の基礎のコンクリートが敷設されていた。このコンクリートをはがすと小礫の面が確認され、主体部石室の最下面と確認された。主体部礫床面の石の隙間から耳環が2個体検出された。周溝からは多数の埴輪とともに土師器・須恵器（図版1～4）が検出された。しかし、前述のように現代の攪乱がひどく出土した埴輪はほとんどが破碎された小片で、円筒埴輪（第6図12～第9図56）を主体とし、形象埴輪（第6図5～11）も含まれている。

A1号土坑（墓坑）（第10・11図、PL1・22）

古墳の周溝墓堀の調査中に確認された墓坑であると考えられる。供献されたと考えられる須恵器の椀はほぼ10世紀頃と考えられ古墳の時期とは全く離れているために古墳の周堀がある程度埋まった状態の時に埋葬されたものと考えられる。骨等は検出されていないが供献されたと考えられる須恵器等から墓と考える。

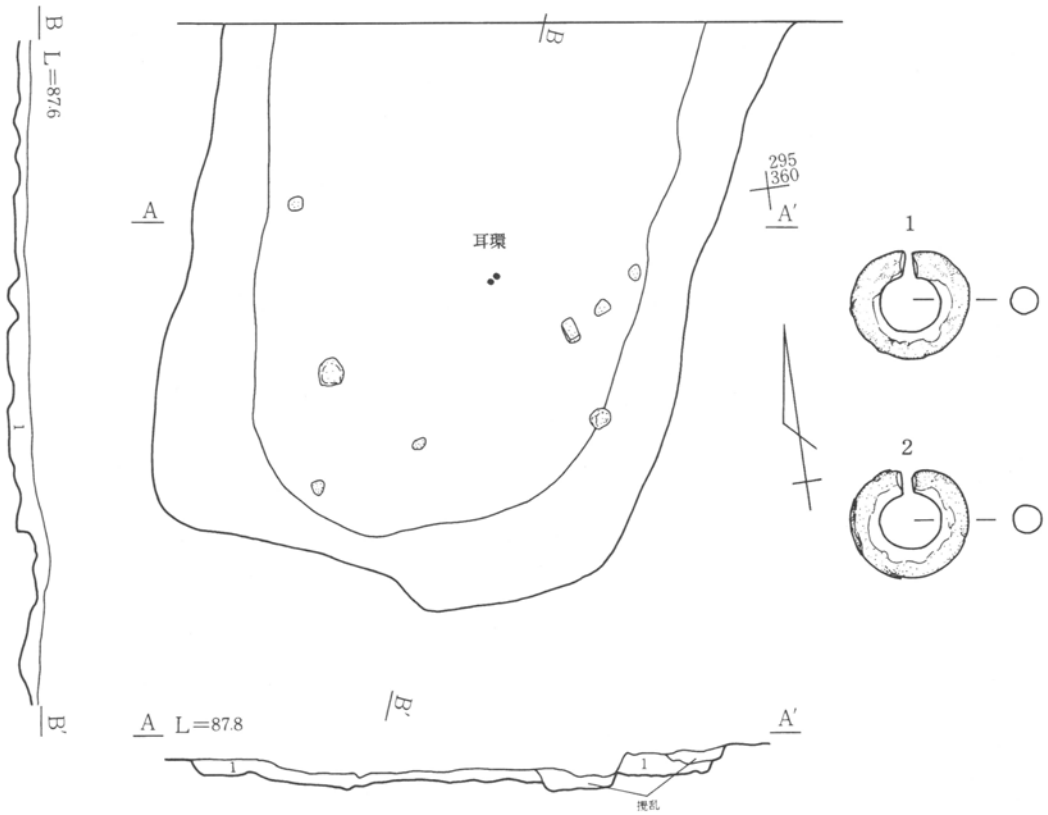


第3図 A区全体図



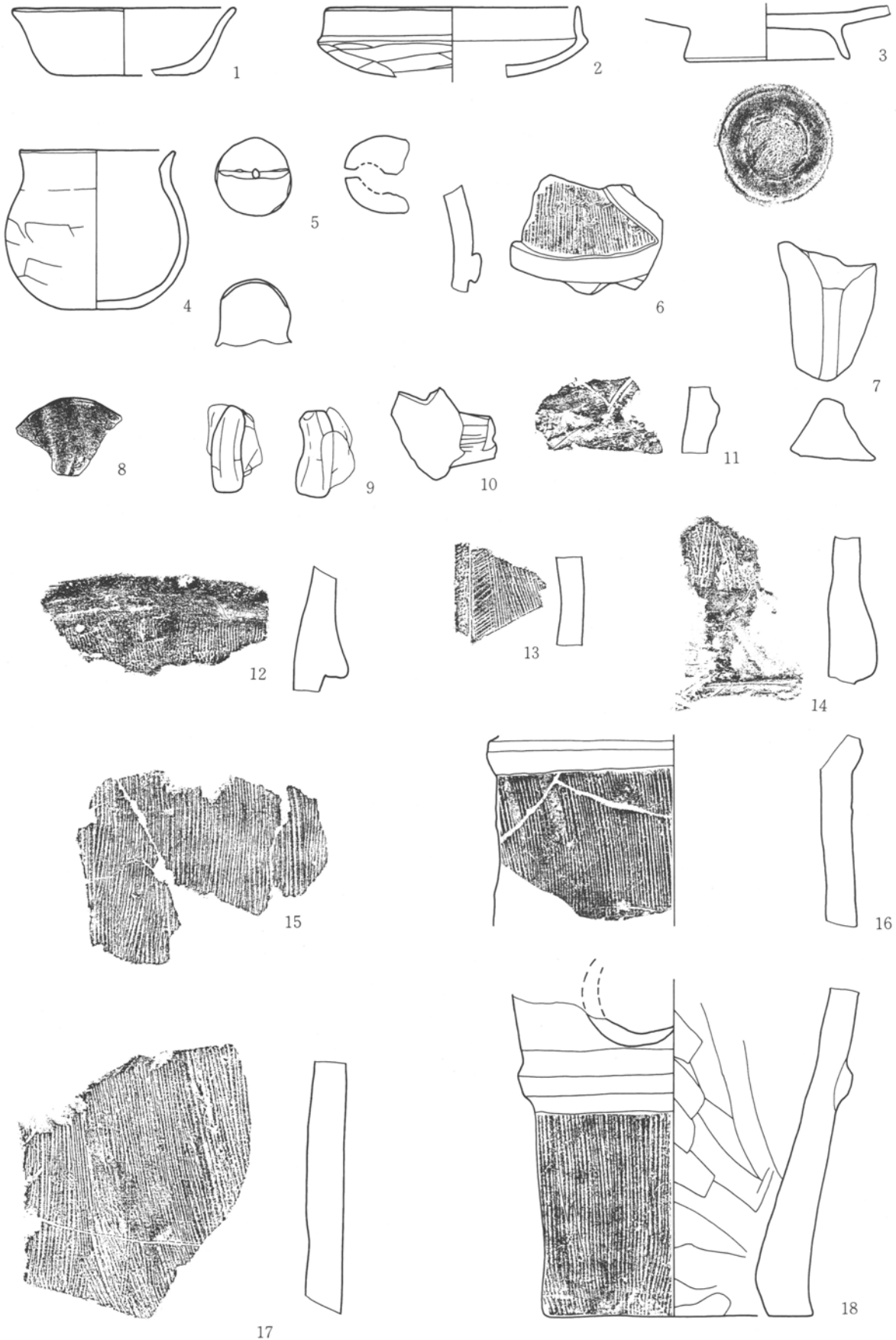
- A 1号古墳周溝土層
1. 黄褐色土層 後世の洪水等による砂層
 2. 黒褐色土層 黒色土と浅間B軽石混土
 3. 浅間B軽石層 ピンクアッシュ確認
 4. 暗褐色土層 黒色土、ロームブロック混土
 5. 黄褐色土層 ローム崩落土
 6. 黄褐色土層 ロームブロック多量含む

第4図 A 1号古墳周溝断面図

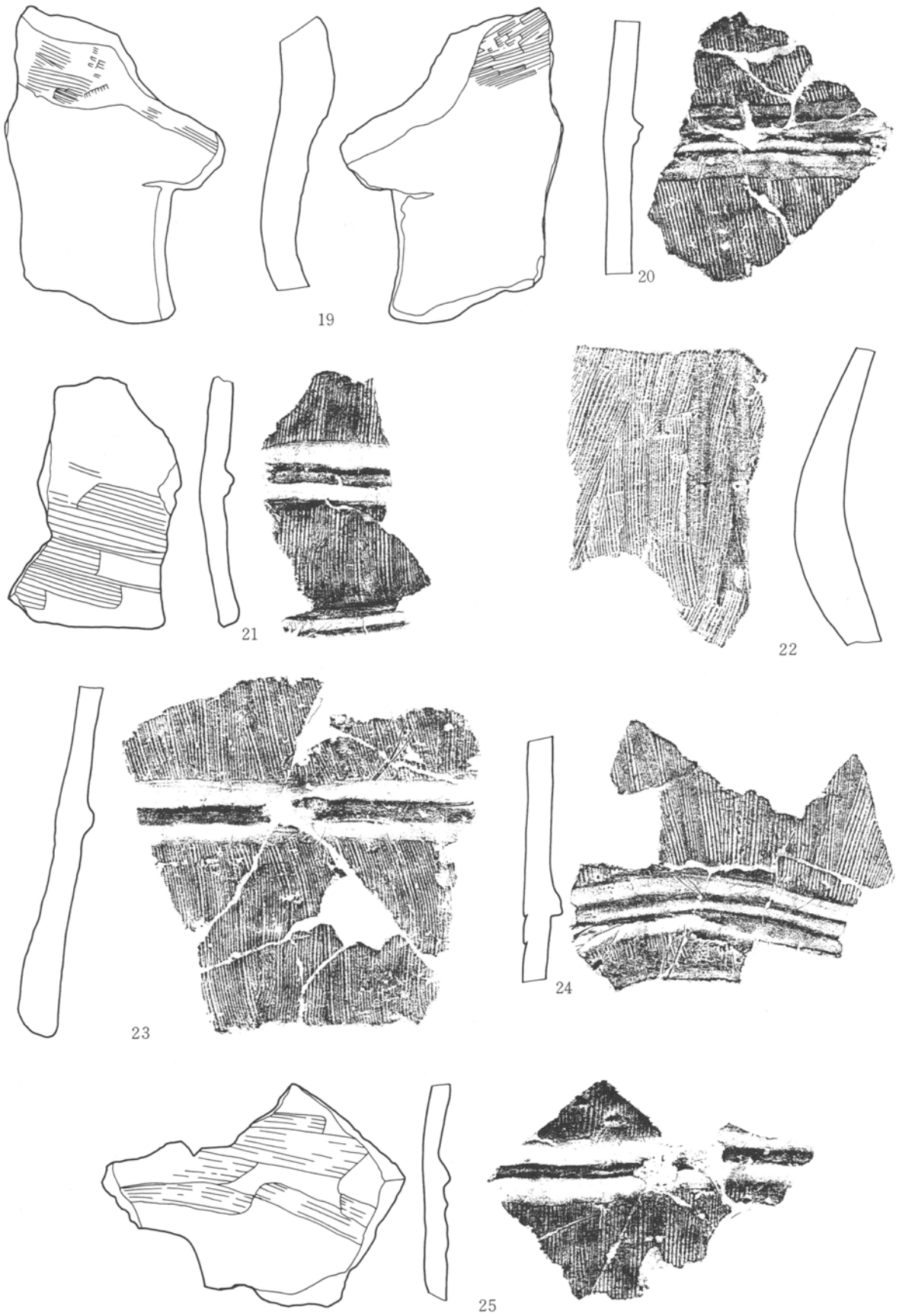


- A 1号古墳石室土層
1. 版築面 黒色土を固めている

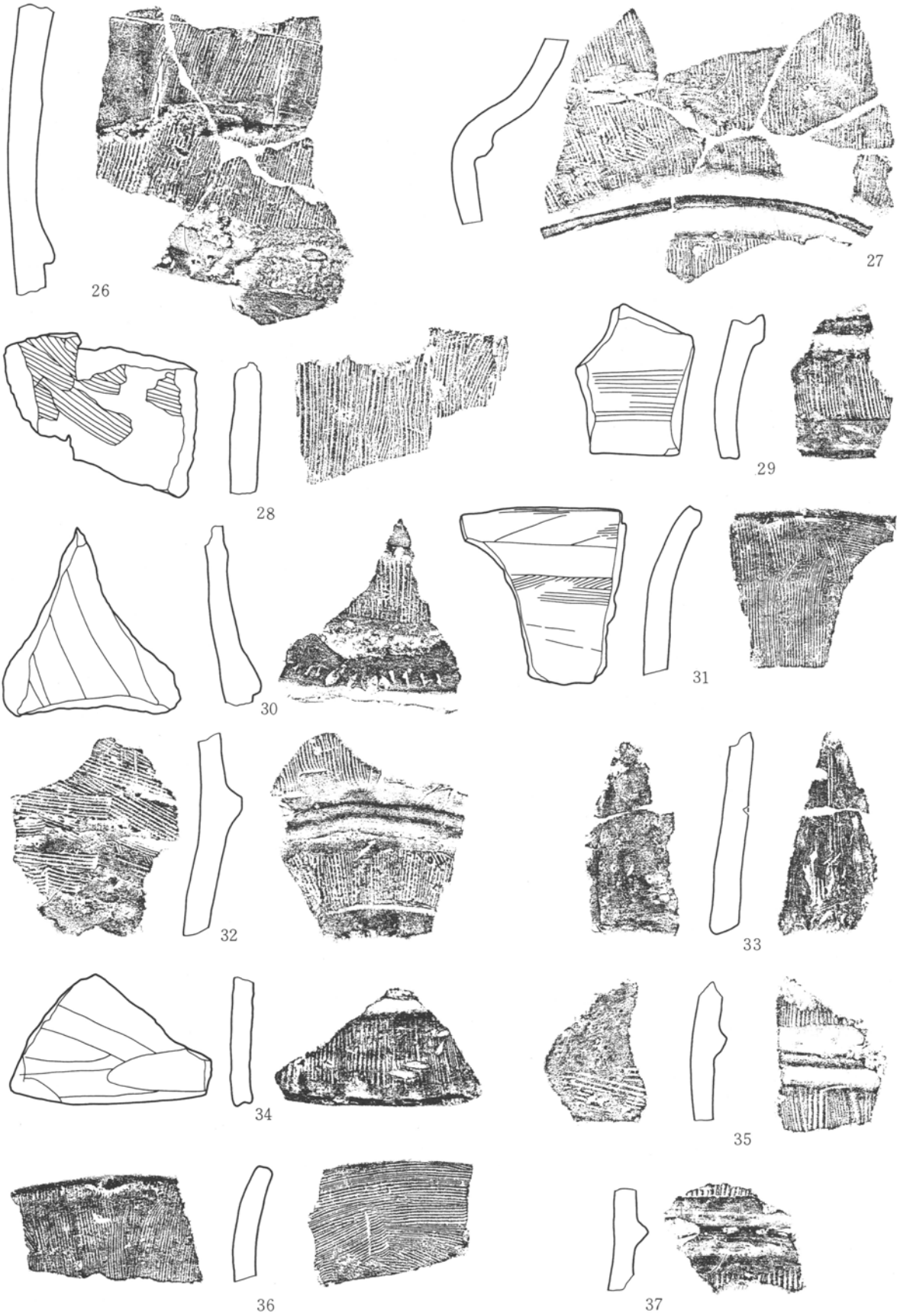
第5図 A 1号古墳主体部平面図・断面図



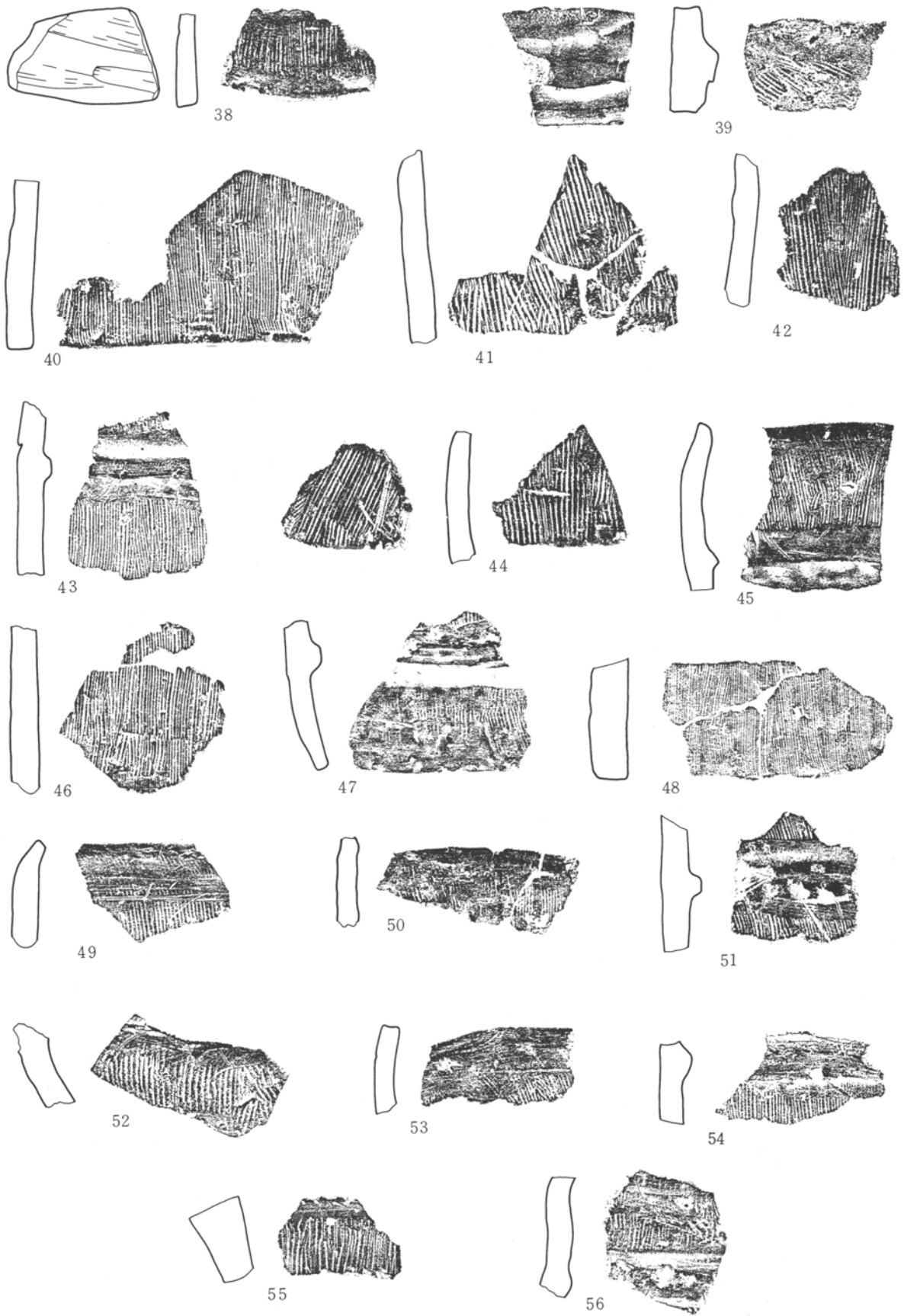
第6図 A1号古墳出土遺物(1)



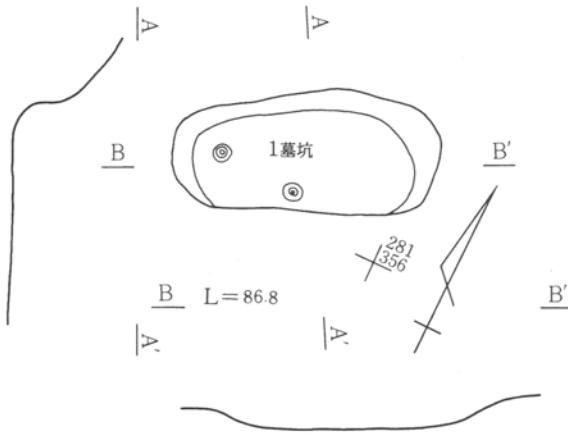
第7図 A1号古墳出土遺物(2)



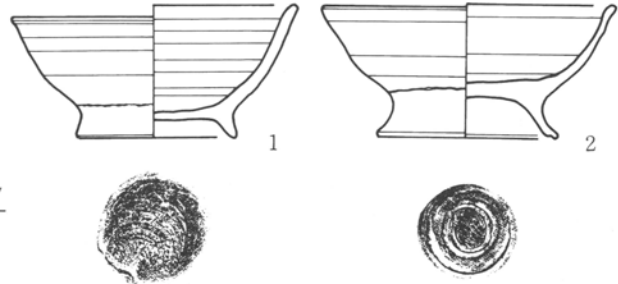
第8図 A1号古墳出土遺物(3)



第9図 A1号古墳出土遺物(4)



第10図 A1号墓坑平面図



第11図 A1号墓坑出土遺物

第2節 B 区

光仙房遺跡のA区とB区の西端は県道大間々線と粕川をまたぐ橋脚工事が必要であった。このためB区の調査は当初橋脚部（県道に沿い東へ約30m）であった。調査が終了した段階でさらに東側部の調査に入り、西側約2/3の調査を開始した。この段階で須恵器窯が確認された。（須恵器窯跡編）さらにB区全体の調査へと変更が重なった。しかし、南側部は買収ができず、都合4期にわたる調査となった。

調査当初橋脚部下から旧石器が検出された。石器はB区南西部に集中して検出された。他のブロックにも同様な試掘を入れたが確認できなかった。

B区東側からは縄文時代の黒曜石が多数検出されたが他の区同様縄文時代に比定される遺構は検出されていない。

本遺跡はA区で円墳が確認され、当B区においても円墳が検出された。古墳は本地域に南北に細い範囲に存在する群集墳であり、B区にはこの1基のみが検出されている。

また同時期の住居跡は確認されず、古墳に伴う集落の存在は当遺跡内では確認することはできなかった。

奈良・平安時代に比定される須恵器窯の時期は須恵器の形態から9世紀代に比定できる。東に隣接する舞台遺跡の窯に継続しているものと考えられる。当遺跡内C区に轆轤ピット状の小穴をもつ住居跡の存在も指摘でき、本B区内でも1号住居跡はゴボウの耕作に伴う深いトレンチャーで縦横無尽に攪拌されていた。このため1号住居跡は床面の確認もできなかったが南壁際に粘土塊が確認されている。またB南1号住居跡南壁際には轆轤ピットと考えられる小穴を確認した。

B1号古墳（第36～38・51図、PL22）

南西部には古墳が1基確認され、一部は当事業団調査による県道拡幅部に入り、図上の線がその境である。250～270—320～340グリッドの範囲にある。平面形態は西半部は県道下にあり、周溝は確認されないが残存

第3章 検出された遺構と遺物

部南北長約25mを測る円墳である。出土遺物は須恵器の大形の甕と土師器の坏である。

他に掘立柱建物跡8基、墓坑2基、土坑8基、井戸3基、溝9条が確認された。掘立柱建物跡と溝は北東部に集中している。溝は後述する大形の8号溝に関連することが想像されるが、時期等は不明である。

掘立柱建物跡は8棟が確認され、ほとんどが北東部に集中している。各々からの出土遺物は検出されず、時期等は不明である。周辺の遺構等からはほぼ奈良・平安以降と考えられる。

B 1号掘立柱建物跡（第39図、PL 5）

B区北東部に位置し280—230グリッドの範囲にあり、2号掘立柱建物跡の西に接している。桁行・梁行は2間の総柱である。桁行総長3.1m、柱間は西面で西北から1.4m、1.8m、東面は2.2mを測る。梁行総長は3.2m、柱間は南面で東から1.4m、1.8mを測る。柱の深さは約30cm～40cmを測る。

B 2号掘立柱建物跡（第40図、PL 6）

B区北東部に位置し280—220・230グリッドの範囲にあり、1号掘立柱建物跡の東に接している。桁行3間、梁行2間である。桁行総長は3.2m、柱間は北面で東から1.2m、0.8m、1.2m、南面は1間3mを測り庇状に小穴が4基確認された。庇の柱間は東から0.8m、0.8m、1.2mである。梁行総長は2.8m柱間は東面で南から1.6m、1.2m、西面で南から1.2m、1.6mを測る。

B 3号掘立柱建物跡（第41図、PL 6）

B区北東部に位置し280—220・230グリッドの範囲にあり、2号掘立柱建物跡と西面の一部を重複、あるいは柱穴を共有している。桁行3間、梁行2間である。桁行総長は6m、柱間は南面で東から1.8m、1.8m、1.8m、北面で東から2.1m、1.8m、1.8mを測る。梁総長は東面で4.2m、柱間は南から2.1m、2.1m、西面は南から2.3m、2.1mを測る。

B 4号掘立柱建物跡（第42図、PL 6）

B区北東部に位置し270—220・230グリッドの範囲にあり、3号掘立柱建物跡の南にある。桁行2間、梁行2間である。桁総長は6.3m、柱間は南面で東から3m、3.2m、北面は東から3m、3.3mを測る。梁行総長は4.8m、柱間は東面で2.2m、2.6mを測る。

B 5号掘立柱建物跡（第43図、PL 6）

B区北東部に位置し260—220・230グリッドの範囲にあり、4号掘立柱建物跡の南にある。桁行2間、梁行1間である。桁総長は2.7m、柱間は東面で南より1.3m、1.4m、梁の柱間は1間で南北両面ともに2.3mを測る。

B 6号掘立柱建物跡（第44図、PL 6）

B区北東部に位置し260—210グリッドの範囲にあり、5号掘立柱建物跡の東にある。桁行2間、梁行2間である。桁総長は4.2m、柱間は北面で東から2.1m、2.1m、南面は東より2.1m、2.2m、梁総長は3.9m、柱間は南面で東より4m、柱間は東面で北より2m、1.8m、西面で北より2m、1.8mを測る。

B 7号掘立柱建物跡（第45図、PL 6）

B区北東部に位置し270・280—200グリッドの範囲にあり、6号掘立柱建物跡の北東にある。桁行2間、梁行1間である。桁総長は3.6m、柱間は北面で東より2m、1.8m、南面で東より1.8m、1.8m、梁総長は東西とも2.7mを測る。

B南1号掘立柱建物跡（第46図、PL 6）

B区南西部に位置し240・250—280・290グリッドの範囲にある。桁行2間・3間、梁行2間である。桁総長は6m、柱間は北面で東から4m、2.1m、南面で東より2m、2m、2m、梁総長は4.2m、東西面共に柱間は2.1mを測る。

B墓坑

墓坑は2基が確認され、1号からは須恵器皿、灰釉陶器、さらに石帯が出土した。（第51図）

B溝

溝は西部に2条、東部に4条が確認され、3号溝をのぞいてはすべて南北走する。

B 8号溝（付図全体図、PL 9）

B区東端に南北流する8号溝が確認された。本溝は南に接する工業団地遺跡内、さらに17号バイパス（国道17号）建設時に調査された『上植木光仙房遺跡』で確認することができる。

規模は幅約5m、深さ約3mを測り、底部は細く深くなり、底面を水流がえぐったと思われる跡が確認された。覆土の検討からおそらく3時期にわたって機能したことが考えられる。堆積土は下面近くで少量の浅間B軽石が確認されているが水流に流されていること等からこの溝が機能した時期ははっきりとはしない。ただ本地域（B区）は粕川左岸に接する南北に長いローム台地上に位置すること、古墳時代後期の群集墳が周囲にあること、検出される住居跡はすべて奈良・平安時代にあること等から古墳時代以降に人工的につくられた用水路である可能性が指摘できる。人工的に作られた理由は本台地への水の給排水が最も妥当な理解である。本遺跡周辺は大間々扇状地末端に位置し、湧水地等も多いがすべて南北の谷地形を形成している。しかし湧水点は南北にのみ給水を可能にしていた。それは本遺跡C・D区を含めさらに東の舞台遺跡からも理解できる点である。従って当遺跡内のC・Dを挟む谷からの給水は難しかったと理解できる。このため本台地へ水を引くには遺跡さらに北側の粕川からかなり大がかりな土木工事を必要としたと考えられる。8号溝はまさにそのような過程を踏み作られたと理解できる。

その他には旧石器時代の石器が出土し、削器等を含め198個体を検出した。すべては西南部に集中している。B区全体に同様な試掘坑を入れたが確認できたのは本地域のみである。

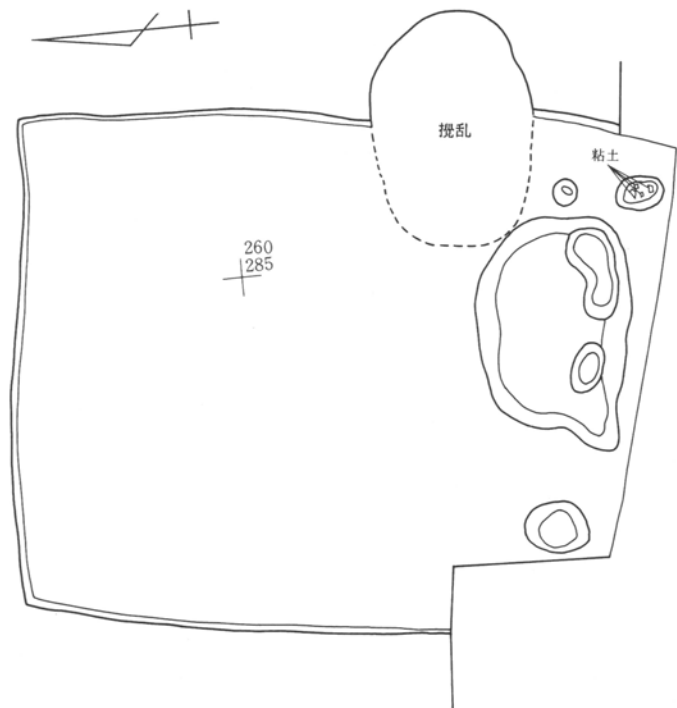
B区住居跡

B区は西側で北関東自動車道が県道（伊勢崎・大間々線）とさらに西側の粕川をまたぐための橋脚工事工程の関係で南側の一部に工場が稼働中に開始された。このため発掘調査は南側道部分は翌年に行ったため1号住居跡の南壁の一部を確認することができなかった。調査が2時期に分かれたため南側道部の2軒の住居跡は各々南1・2号住居跡とした。また国家座標点Y軸-55,290~55,240の範囲は発掘以前の畑地（ごぼう栽培）のため地表から幅約15cm深さ約1mほどの耕作溝が縦横に走り耕作痕が無い部分が全くないといってよいほどの状態であった。

B1号住居跡（第12図）

当住居跡はB区南西部に位置し250・260-280グリッドの範囲にある。2号住居跡の東にあり、他の遺構との重複はない。調査時はB区南側に工場が稼働していた。この結果南側の壁を確認することができなかった。また耕作痕も全面を覆っていた。規模は東西辺で4.1mを測る。床面及び竈の存在は確認できたが耕作痕のため形状を押さえるのみであった。明確な床面、壁周溝、柱穴等の諸施設は確認できなかった。

住居跡内の南部に土坑を確認した。規模は1.1m×1.2mを確認したが深さは約15cm~20cmである。南東部の土坑中から粘土の固まりが検出され住居跡の北側にある須恵器窯との関連が考えられる資料であったが残存状況からはっきりとしたことは言えない。

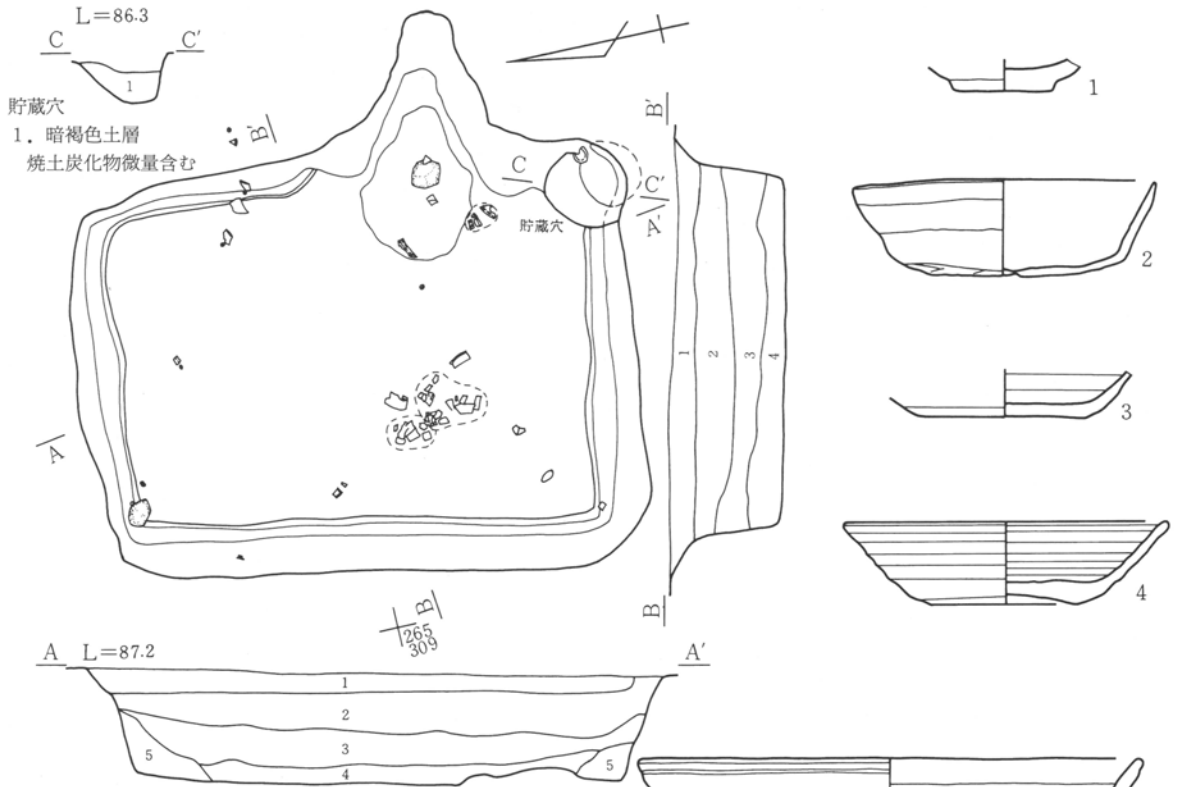


第12図 B1号住居跡平面図

B2号住居跡（第13~15図、PL 1・23）

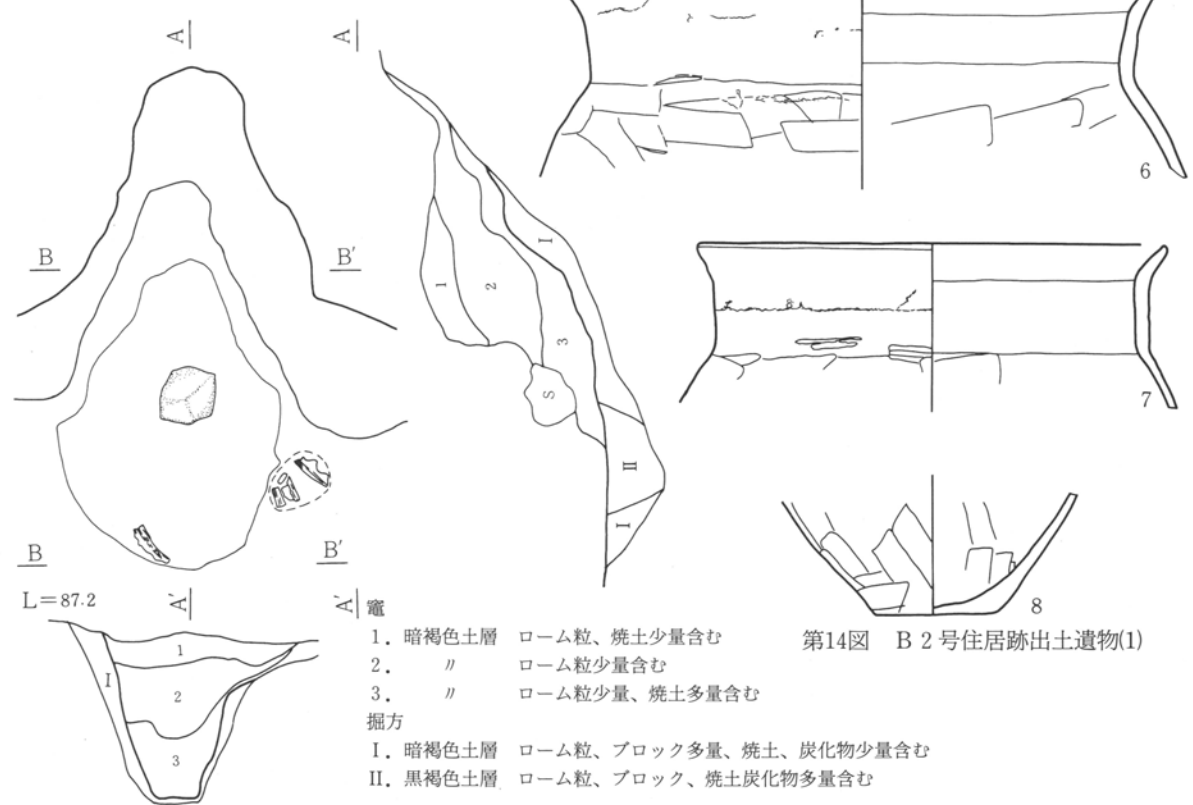
当住居跡はB区南西部に位置し260-300グリッドの範囲にある。1号住居跡の西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.5m、短辺3.4mを測る。壁高は90cmを測り、壁の残存状態は良好である。床面は平坦をなし、壁周溝、貯蔵穴、竈は確認できたが柱穴は確認できなかった。

壁周溝は幅15cm~20cm、深さは数センチを測り深い部分でも5cmを測る。貯蔵穴は南東コーナーに確認された。規模は65cm×55cm、深さ35cmを測る。底部は南に向かい約10cm斜めに掘り込まれ、壁面がオーバーハングしている。竈は東壁やや南寄りに確認された。規模は長軸1.4m、幅1.9mを測る。竈燃焼部中央部から竈構築材と考えられる石が検出された。



B 2号住居跡

- 1. 黒褐色土層 黒色土、ローム粒混土
- 2. 暗褐色土層 黒色土、ローム粒、ブロック多量含む
- 3. 黒褐色土層 黒色土、ローム粒、焼土少量含む
- 4. // ロームブロック、ローム粒含む
- 5. // ロームブロック含む、ローム粒多量含む

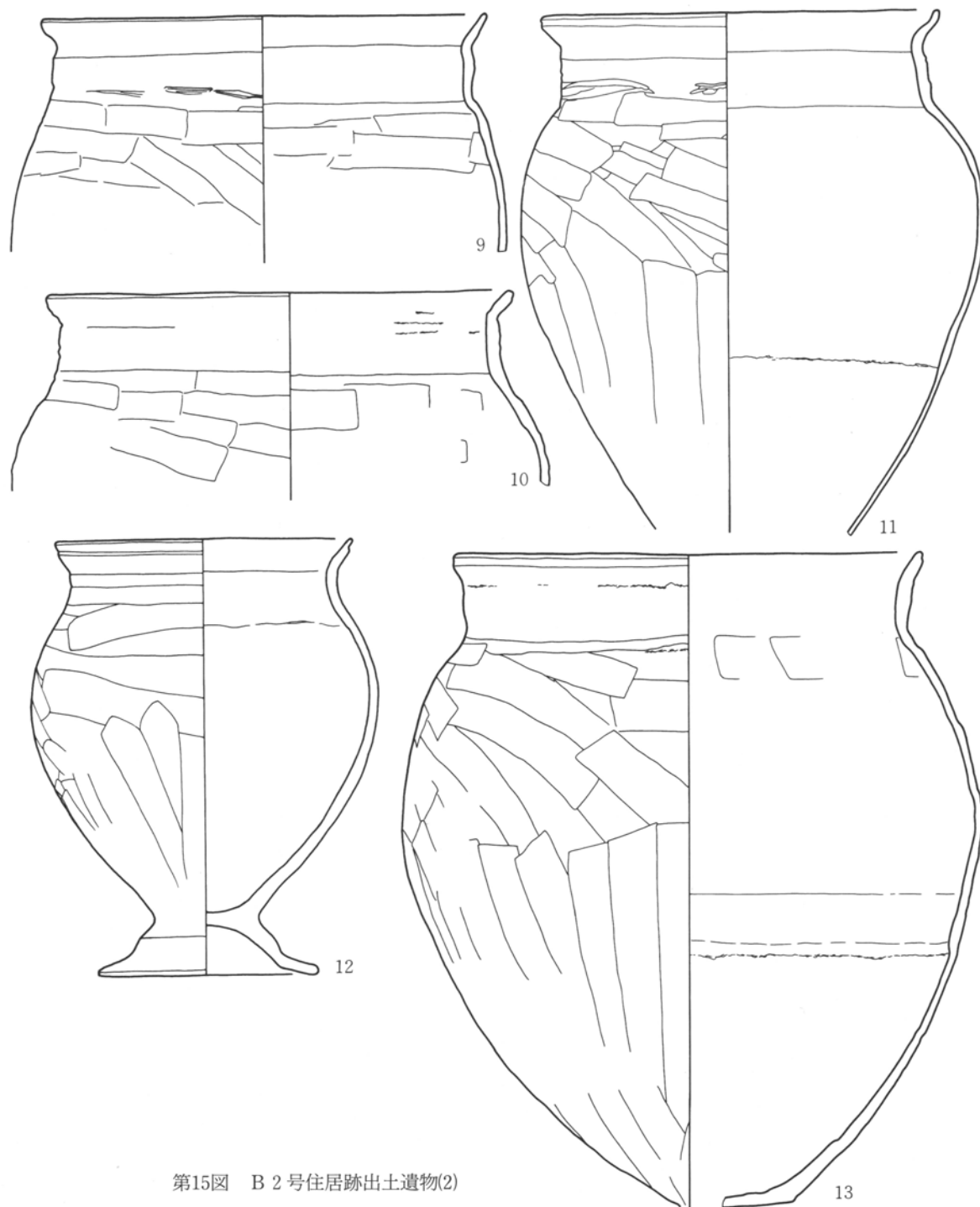


- 1. 暗褐色土層 ローム粒、焼土少量含む
 - 2. // ローム粒少量含む
 - 3. // ローム粒少量、焼土多量含む
- 掘方
- I. 暗褐色土層 ローム粒、ブロック多量、焼土、炭化物少量含む
 - II. 黒褐色土層 ローム粒、ブロック、焼土炭化物多量含む

第14図 B 2号住居跡出土遺物(1)

第13図 B 2号住居跡・竈平面図

第3章 検出された遺構と遺物



第15図 B2号住居跡出土遺物(2)

B2号住居跡

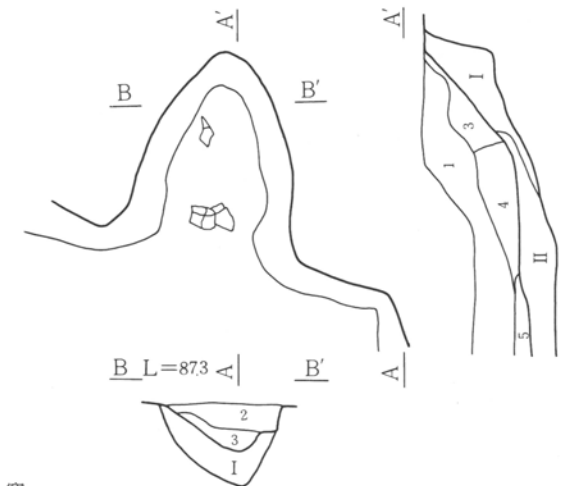
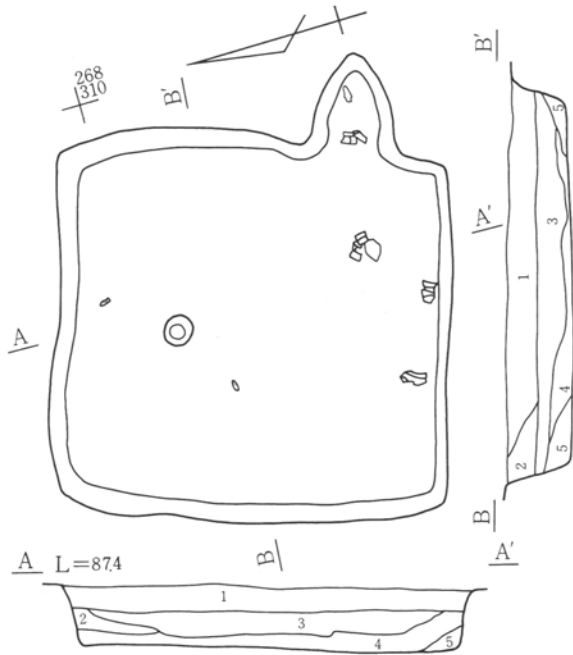
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	緑釉陶器 椀	底 3.8	①細砂粒混入 ②良好 ③10YR 8/2 灰白	轆轤整形 べた高台貼り付け 内外面緑施釉
2	土師器 鉢	口 12 高 3.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5/3 にぶい黄褐色	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部などで 底部へら削り 内面なで
3	須恵器 鉢	底 6.6	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 4/1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り
4	須恵器 鉢	口 12.8 底 5.8 高 3.3	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6/2 灰オリーブ	轆轤整形 底部回転糸切り 外面底部周囲一部 回転へら調整
5	土師器 甕	口 20	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5/6 明赤褐色	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面なで へらなで
6	土師器 甕	口 12	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5/6 明赤褐色	口縁部外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面なで

7	土師器	口 18.6	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 6明褐	口縁部内外面よこなで 外面 ヘラ削り 内面 なで ヘラなで
8	土師器	底 4.8	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 3にぶい黄褐	外面 ヘラ削り 内面 なで ヘラなで 外面は火を受けてすす付着
9	土師器	口 21	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 5 / 6明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで ヘラなで
10	土師器	口 13	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 6明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで ヘラなで
11	土師器	口 18.9	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 6明赤褐	口縁部外面 よこなで 胴上部横ヘラ削り 下部縦ヘラ削り 内面 なで ヘラなで
12	土師器 台付	口 14 底 10.5 高 20.5	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 3 / 1明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
13	土師器	口 22.1 底(5.4) 高 30.7	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 6明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで ヘラなで

B 3号住居跡 (第16~18図、PL 2・23・24)

当住居跡はB区南西部に位置し260-310グリッドの範囲にある。2号住居跡の西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺・短辺ともに3.1mを測りほぼ正方形を呈する。壁高は約50cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝、貯蔵穴、柱穴等の諸施設は検出されていない。

竈は東壁南寄りに検出された。規模は長軸1m、燃烧部幅70cmを測る。



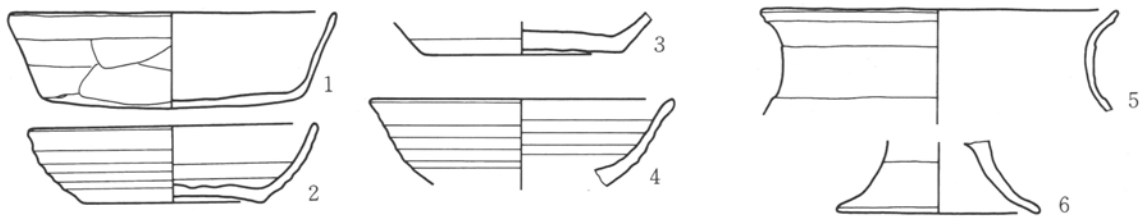
竈

- 1. 暗褐色土層 ローム粒、ブロック、焼土微量含む
 - 2. 黒褐色土層 ローム粒、ブロック、炭化物微量、焼土多量含む
 - 3. 暗褐色土層 ローム粒、ブロック、炭化物少量、焼土多量含む
 - 4. 黒褐色土層 ローム粒、ブロック微量、焼土多量、黒色粘質土ブロック含む
 - 5. 黒色灰層
- 掘方
- I. 黄褐色土層 ローム粒多量、ロームブロック少量含む
 - II. 黒褐色土層 炭化物、ローム粒、ブロック多量含む

B 3号住居跡

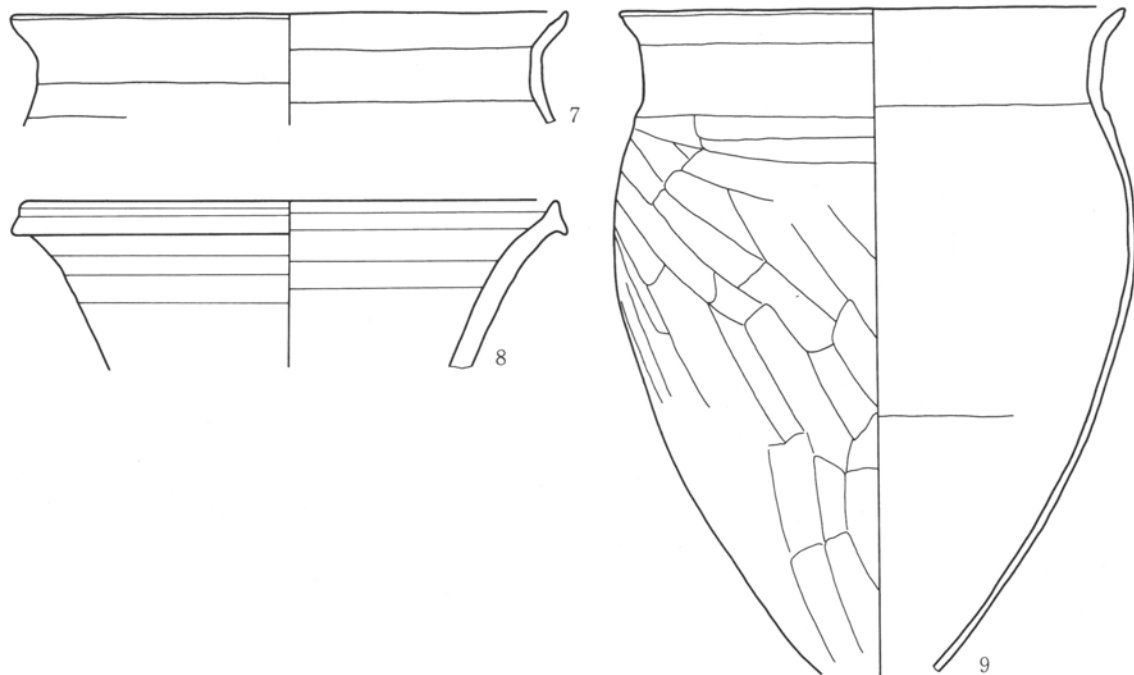
- 1. 暗褐色土層 ローム粒、ブロック含む、わずかにB軽石混入
- 2. 黄褐色土層 ローム粒多量含む
- 3. 暗褐色土層 ロームブロック含む
- 4. // ローム粒、ブロック含む
- 5. 黄褐色土層 ローム粒多量含む

第16図 B 3号住居跡・竈平面図



第17図 B 3号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



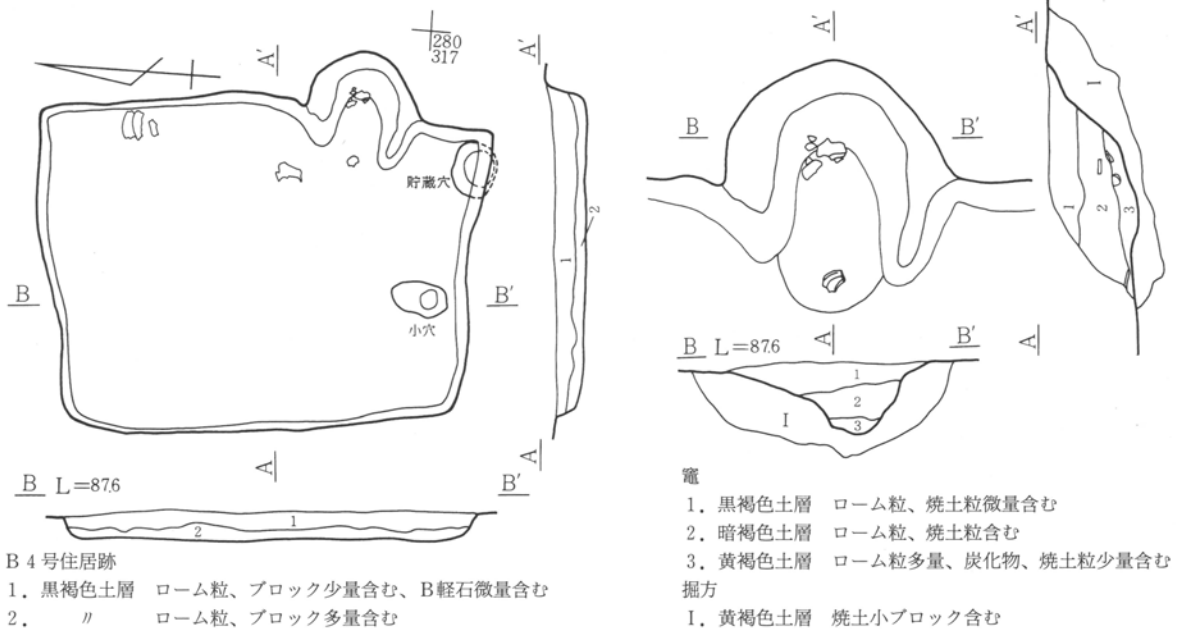
第18図 B3号住居跡出土遺物(2)

B3号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 坏	口13 底9.5 高3.7	①砂粒含む ②良好 ③5YR6/6橙	口縁部内外面よこなで 外面 口縁部まで 底部ヘラ削り 内面 まで
2	須恵器 坏	口11.4 底7 高3	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y6/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
3	須恵器 坏	底8	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
4	須恵器 坏	口12	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形
5	土師器 甕	口14	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 まで
6	土師器 付甕	底8	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙	裾よこなで 脚内外面まで
7	土師器 甕	口22	①砂粒含む ②良好 ③5YR6/6橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 まで
8	須恵器 甕	口21	①砂粒含む ②良好 ③5Y4/1灰	轆轤整形
9	土師器 甕	口21	①砂粒含む ②良好 ③5YR6/6橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 まで

B4号住居跡 (第19・20図、PL2・24)

当住居跡はB区西部に位置し270・280—310・320グリッドの範囲にある。3号住居跡の西北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.5m、短辺2.6mを測り、壁高は約25cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝、柱穴等の諸施設は検出されていない。南東コーナー部に貯蔵穴が検出された。規模は70cm×70cm、深さ17cmを測る。2号住居跡貯蔵穴と同様南壁に斜めに掘り込まれ南壁面はオーバーハングしている。また南壁中央に小穴が検出された。規模は90cm×50cm、深さ約30cmを測る。竈は東壁南よりに検出された。規模は長軸80cm、袖幅55cmを測る。やや丸みを持った形状を呈する。



第19図 B4号住居跡・竈平面図



第20図 B4号住居跡出土遺物

B4号住居跡

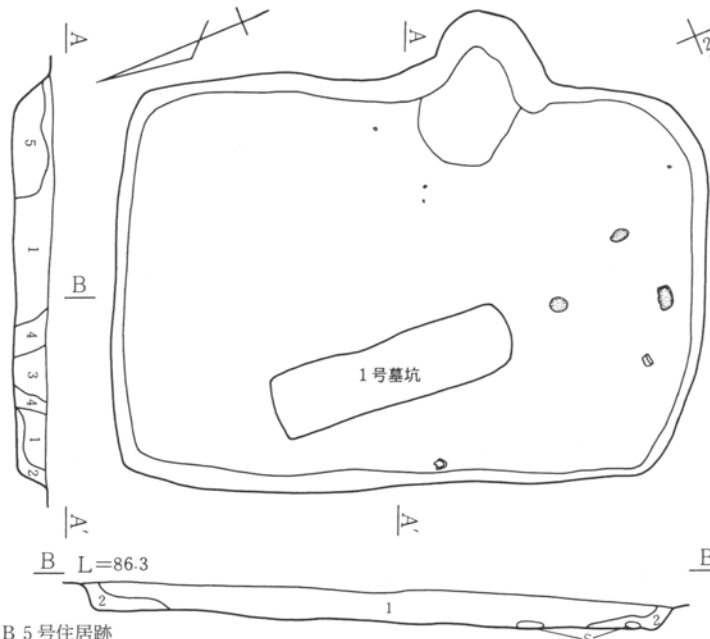
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 環	底 6	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8/1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
2	土師器 甕	口 20.7	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 4/6 赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで

B5号住居跡 (21~23図、PL 3・24) 1号墓坑 (第47図、PL 5・26)

当住居跡はB区南東に位置し230・240—240グリッドの範囲にある。1号住居跡の南東にあり、他の遺構との重複関係は住居跡西部に、主軸を北に持つ長方形の土坑がある。土坑は墓坑（1号墓坑）と考えられる。新旧関係は墓坑が新しい。規模は長辺4.7m、短辺3.3mをはかる。壁高は20cm~30cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝、貯蔵穴、柱穴等の諸施設は検出されていない。

竈は東壁やや南よりに検出された。規模は長軸80cm、燃烧部幅90cmと4号住居跡竈と同様丸く煙道部が短い。

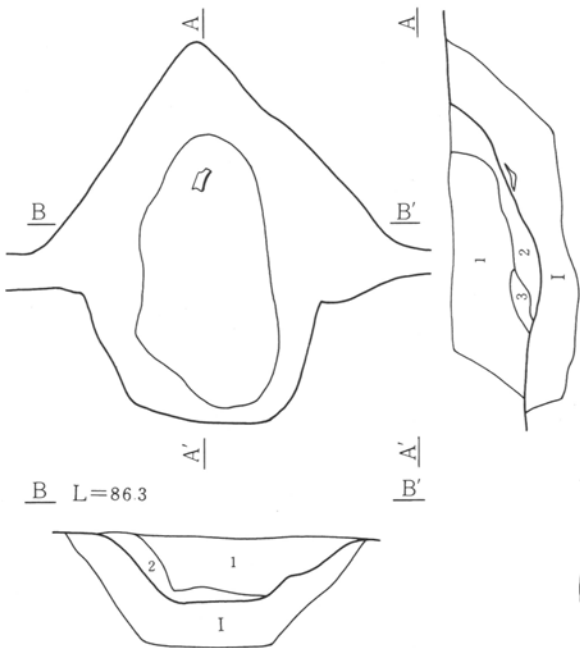
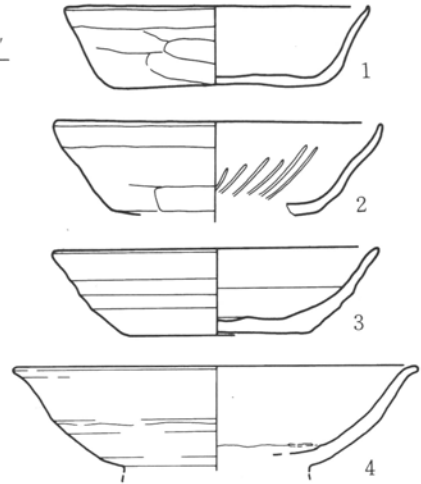
1号墓坑 当住居跡の調査中に確認された。住居跡の覆土中に掘り込まれていた。規模は長軸1.9m、幅60



cm、深さは住居跡の床面から約30cmを測る。主軸は北を向くが出土遺物は南側に集中している。灰釉陶器、砥石の他石製帯具が出土した。

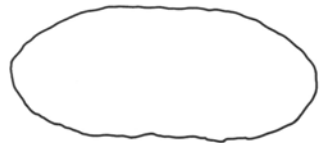
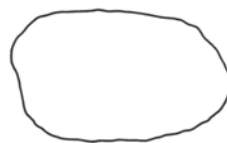
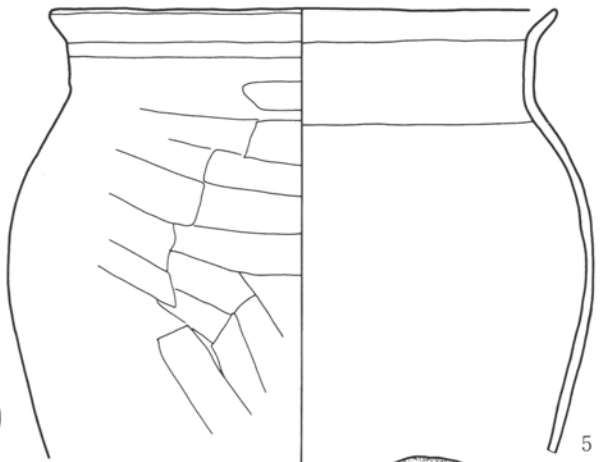
B 5号住居跡

1. 暗褐色土層 ローム粒、ブロック少量、白色軽石多量含む
2. " " ローム粒、ブロック多量含む、白色軽石少量含む（壁崩落土）
3. " " ローム粒、ブロック多量含む
4. 黒褐色土層 ローム粒少量含む
5. 暗褐色土層 ローム粒、白色軽石少量含む



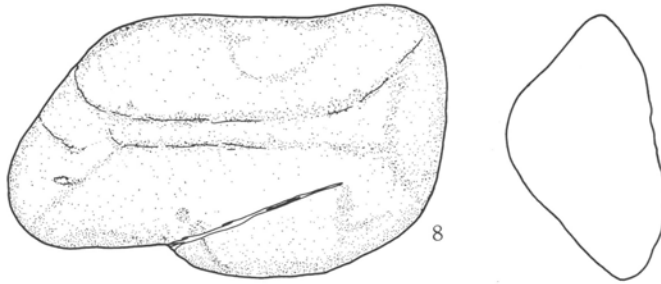
竈

1. 暗褐色土層 焼土、暗灰色粘土ブロック少量含む
 2. 暗灰色粘土層 焼土、炭化物多量含む
 3. 灰色粘土 熱を受け焼けている
- 掘方
- I. 黒褐色土層 焼土、灰含む



第21図 B 5号住居跡・竈平面図

第22図 B 5号住居跡出土遺物(1)



第23図 B 5号住居跡出土遺物(2)

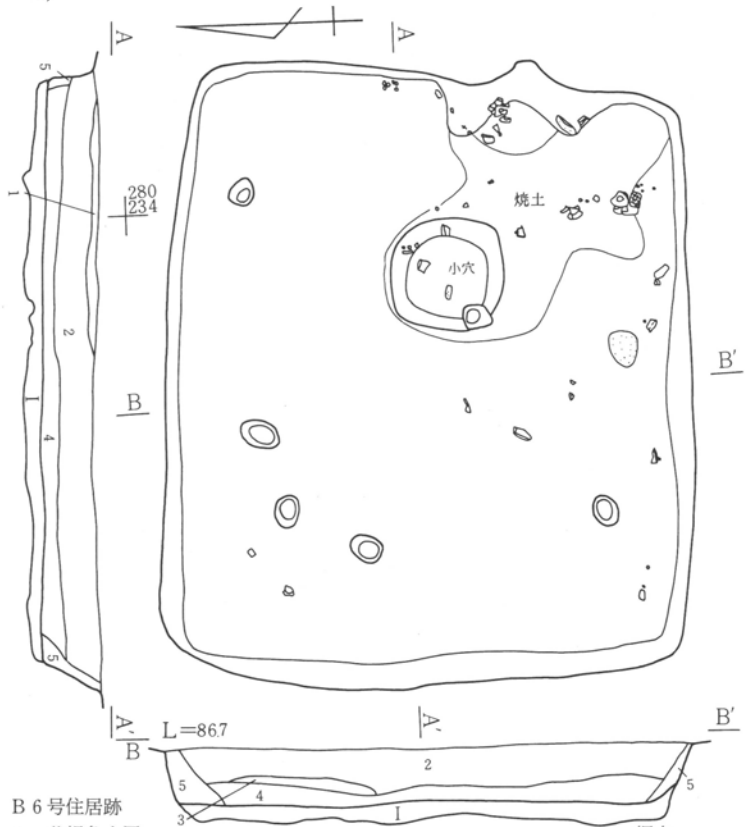
B 5号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 坏	口 12 底 8.5 高 3.1	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部などで 底部へラ削り 内面 などで
2	土師器 坏	口 13	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部などで 底部へラ削り 内面 などで放射状研磨
3	須恵器 坏	口 13 底 7 高 3.4	①砂粒含む ②良好 ③2.5 YR 6 / 3 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り
4	灰釉陶器 碗	口 16	①緻密 ②良好 ③2.5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 釉薬刷毛塗り 内面 重ね焼き痕
5	土師器 甕	口 20	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 6 明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へラ削り 内面 などで
6	石	長 12.8 幅 8.5 厚 5.1		
7	石	長 14.8 幅 12.2 厚 5		
8	石	長 17 幅 10.3 厚 6.5		

B 6号住居跡 (第24・25図、PL 3・24)

当住居跡はB区北東に位置し270-230グリッドの範囲にある。5号住居跡の北東にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.9m、短辺3.2mを測る。壁高は約45cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝、貯蔵穴、柱穴等の諸施設は検出されていない。床面中央部やや東よりに小穴が検出された。この小穴は、配置、深さ等から用途は明確とはいえない。しかし、小穴の周辺及び覆土中から焼土が認められること、土層堆積の状態等から当住居跡に伴うものと考えられる。規模は径1m、深さ10cmを測る。

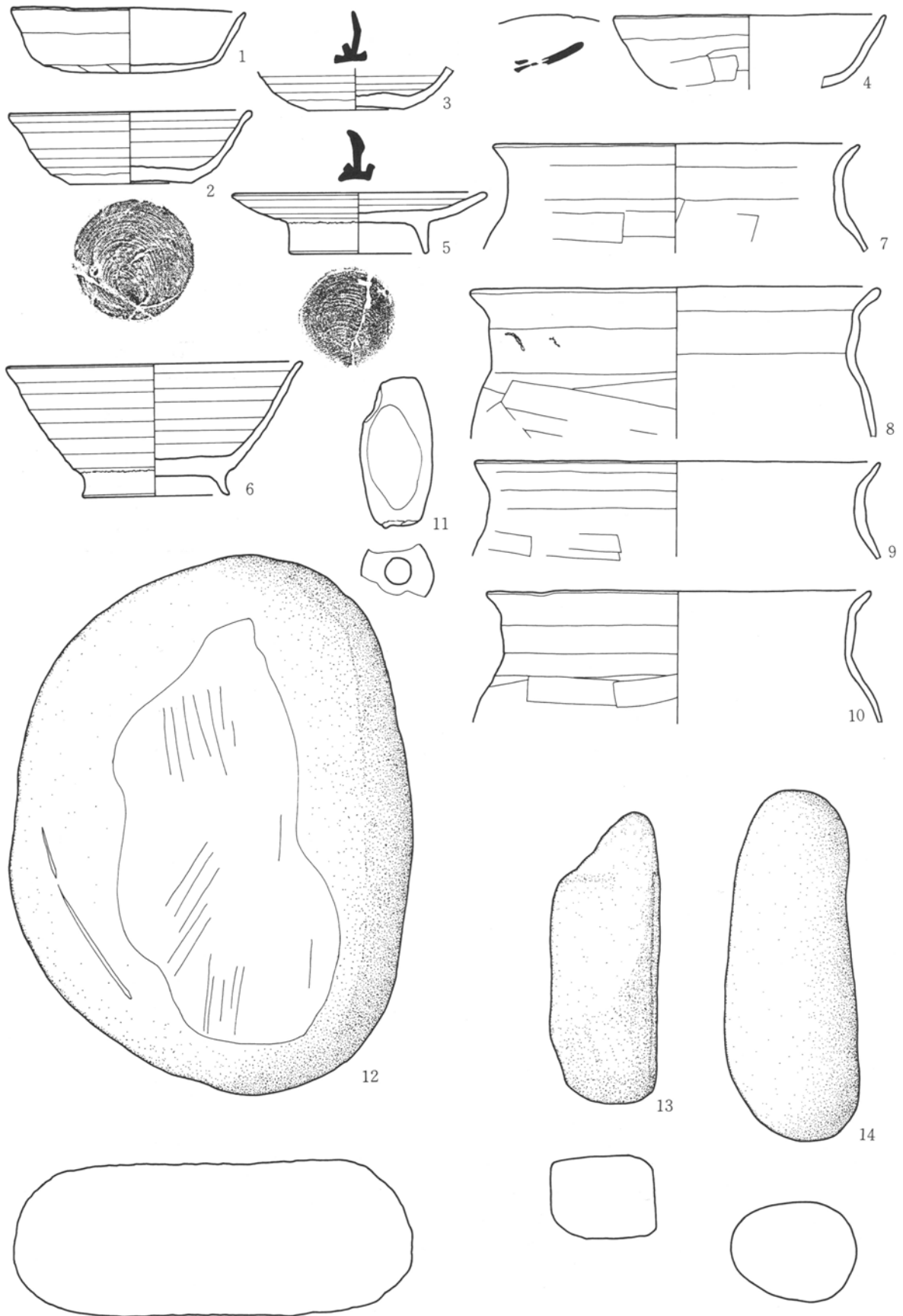
竈は東壁南よりに確認された。規模は長軸50cm、袖幅90cmと小さいが竈前面に焼土が広く広がること等から壊された可能性も考えられる。



B 6号住居跡

- 1. 黄褐色土層
 - 2. 暗褐色土層
 - 3. 黒褐色土層
 - 4. 暗褐色土層
 - 5. //
- 掘方
- I. 黄褐色土層
 - 白色軽石含む、焼土、炭化物微量含む
 - 炭化物多量含む
 - ローム粒、ブロック多量含む、焼土炭化物少量含む
 - ローム粒、ブロック多量含む

第24図 B 6号住居跡平面図



第25図 B 6号住居跡出土遺物

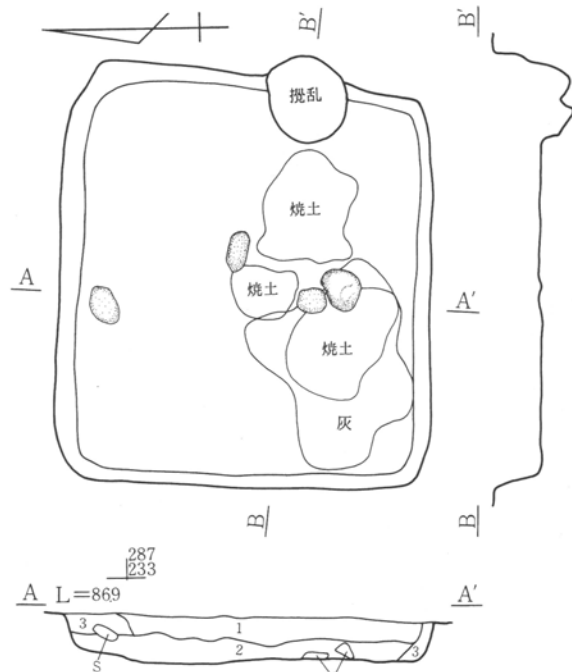
B 6号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土 師器 坏	口 12.2 底 9.2 高 3.4	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/6 橙	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部 などで 底部へら削り 内面 などで
2	須 惠器 坏	口 12.6 底 6.4 高 3.2	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 4 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り
3	須 惠器 坏	底(5)	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 6 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り後底部周囲手持ちへら削り 底部内外面に墨書
4	土 師器 坏	口(14.1)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5 / 4 にぶい褐	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部などで 底部周辺へら削り 内面 などで
5	須 惠器 皿	口(13.2) 底 7 高 3.2	①砂粒含む ②良好 ③N 5 / 0 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
6	須 惠器 椀	口(15.4) 底(7.6) 高 6.8	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
7	土 師器 甕	口(19)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 などで
8	土 師器 甕	口 21.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 などで
9	土 師器 甕	口(11)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 などで
10	土 師器 甕	口(20)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 6 明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 などで
11	土 錘	長 7.8 径 3.8 孔径1.4	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 5 / 1 黄灰	外面 などで へらなどで
12	石	長 27.9 幅 21.1 厚 8		スリ石 表面に使用痕あり
13	石	長 15.1 幅 5.3 厚 4.3		
14	石	長 18.2 幅 7 厚 5.2		

B 7号住居跡 (第26~28図、PL 3・424)

B区北東部に位置し280-220・230グリッドの範囲にある。6号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.3m、短辺3mを測り、壁高は35cm~40cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝、貯蔵穴、柱穴等の諸施設は検出されていない。床面上にはかなり広い範囲で炭化物に少量の焼土が混じった層が広がっている。炭化物、焼土は床面直上に厚さ2cm~3cmある。また床面上には40cm~50cmの石が4個おかれたような状態で検出された。

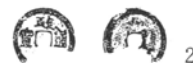
竈は検出されなかった。東壁南寄りには竈状の掘り込みがあったが覆土、掘り込み、断面等の状況から後世のものである。竈の存在は確認できなかったが、床面の炭化物層、石等の存在から一般的な生活遺構としての住居跡とはやや趣を異にしている。



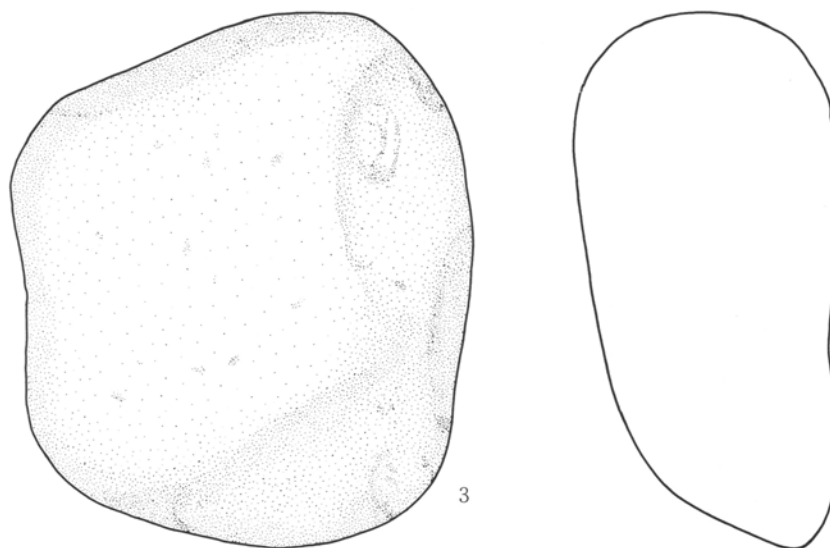
B 7号住居跡

- 1. 暗褐色土層 ローム粒、ブロック、炭化物、白色軽石少量含む
- 2. // ロームブロック、粘土ブロック含む
- 3. // ローム粒、ブロック多量含む、炭化物少量含む

第26図 B 7号住居跡平面図



第27図 B 7号住居跡出土遺物(1)

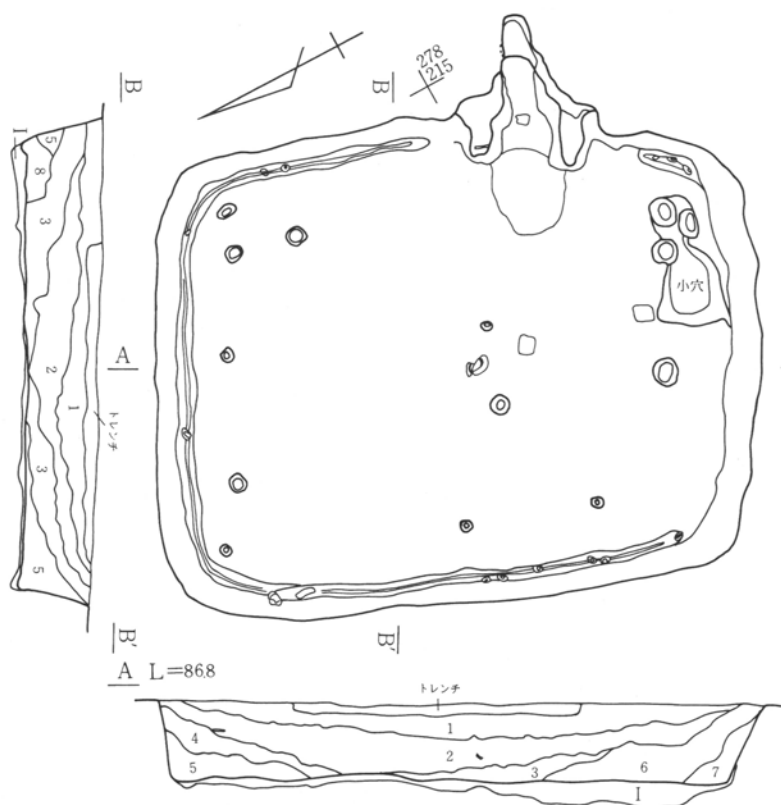


第28図 B7号住居跡出土遺物(2)

B7号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器	口(15)	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/2灰オリーブ	轆轤整形 口縁部破片
3	石	長 21.2 幅 17.1	厚 10.1	作業台 研いだような跡

B8号住居跡 (第29~31図、PL 4・24・25・26)

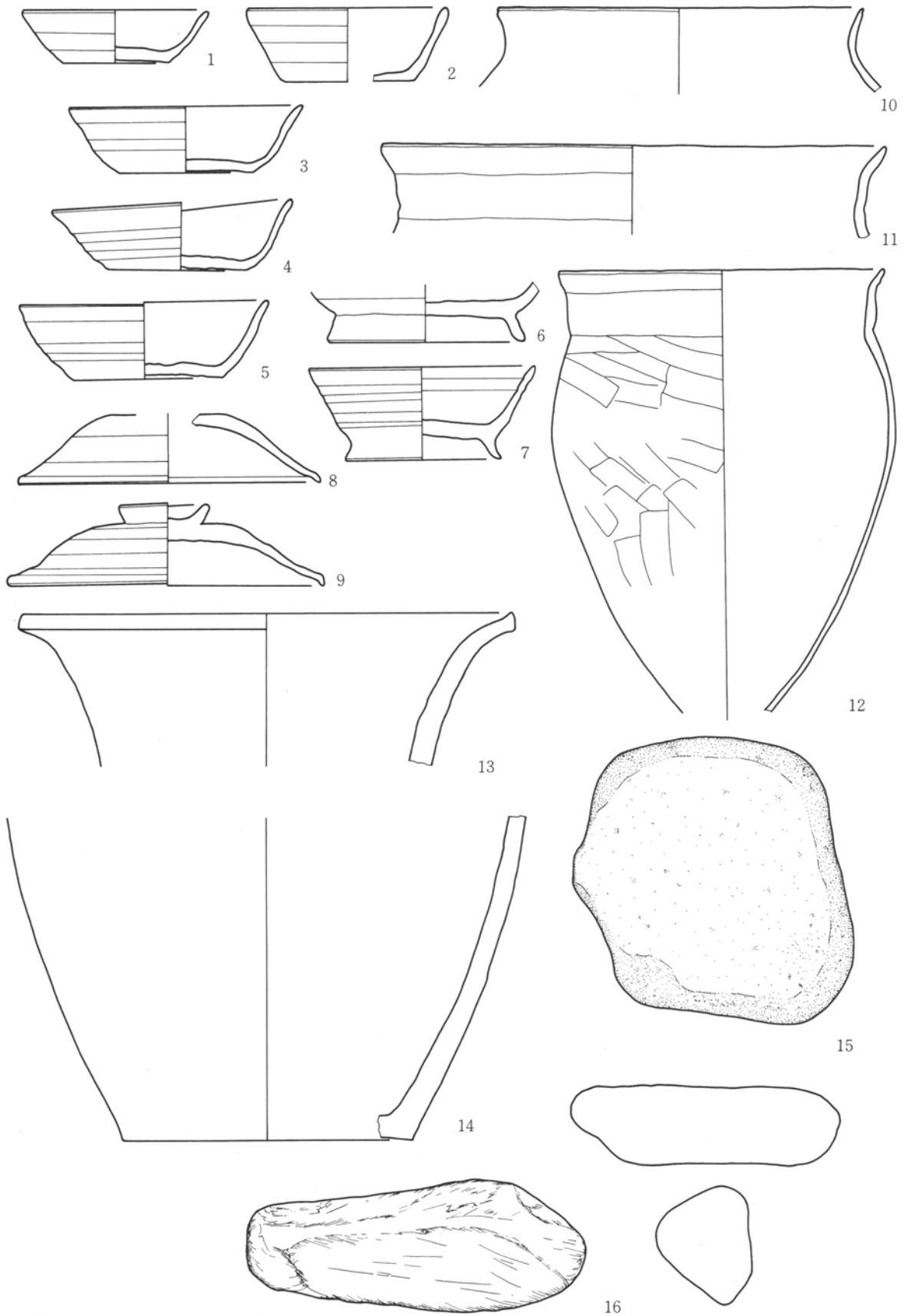


B8号住居跡

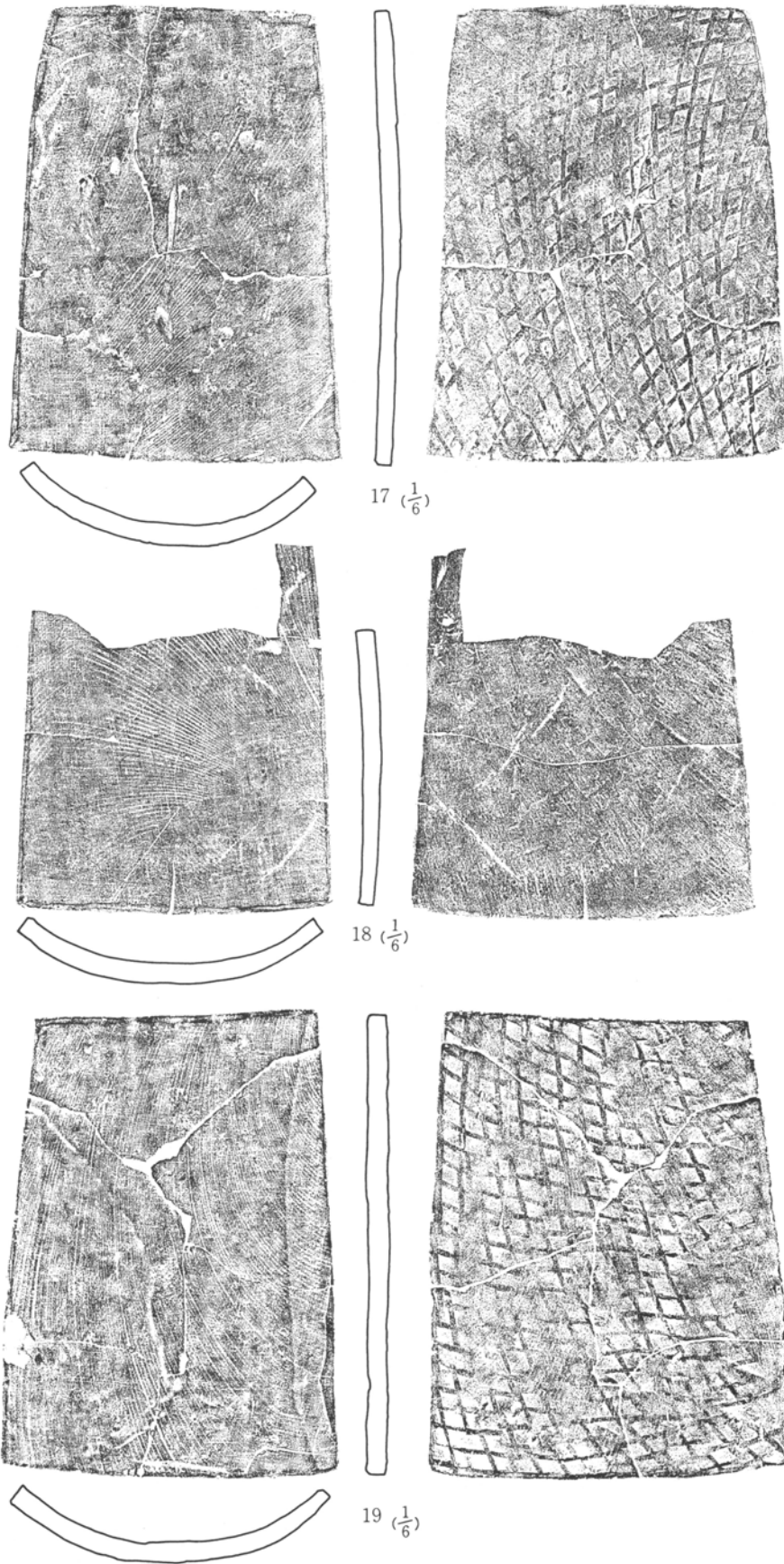
- | | | | |
|----------|-------------|----------|---------------|
| 1. 黒褐色土層 | 白色軽石少量含む | 6. 黄褐色土層 | ローム粒・ブロック多量含む |
| 2. 暗褐色土層 | ロームブロック多量含む | 7. 褐色土層 | ロームブロック少量含む |
| 3. 〃 | ロームブロック含む | 8. 黒褐色土層 | ローム粒、ブロック少量含む |
| 4. 黒褐色土層 | ロームブロック少量含む | 掘方 | |
| 5. 暗褐色土層 | ローム粒、ブロック含む | 1. 黄褐色土層 | ローム混土 |

第29図 B8号住居跡平面図

当住居跡はB区北東部に位置し270・280-210グリッドの範囲にある。7号住居跡の東にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.9m、短辺3.8mを測り、壁高は60cm~65cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝が検出されたが柱穴等の施設は検出されていない。壁周溝は南壁のみで確認できなかった。規模は幅10cm~20cm、深さ5cm~10cmを測る。南東コーナー部に小穴が確認された。やや細長く規模は1m×45cm、深さ10cmと浅く形状からも明確に貯蔵穴とは言えない。竈は東壁南寄りに確認された。規模は長軸1.3m、袖幅1.2mを測る。竈の袖は大きく床面に張り出しており右袖部の中から構築材の石が出土した。また燃焼部中央には支脚に利用されたと考えられる石が刺さった状態で確認された。



第30図 B 8号住居跡出土遺物(1)



第31図 B 8号住居跡出土遺物(2)

B 8号住居跡

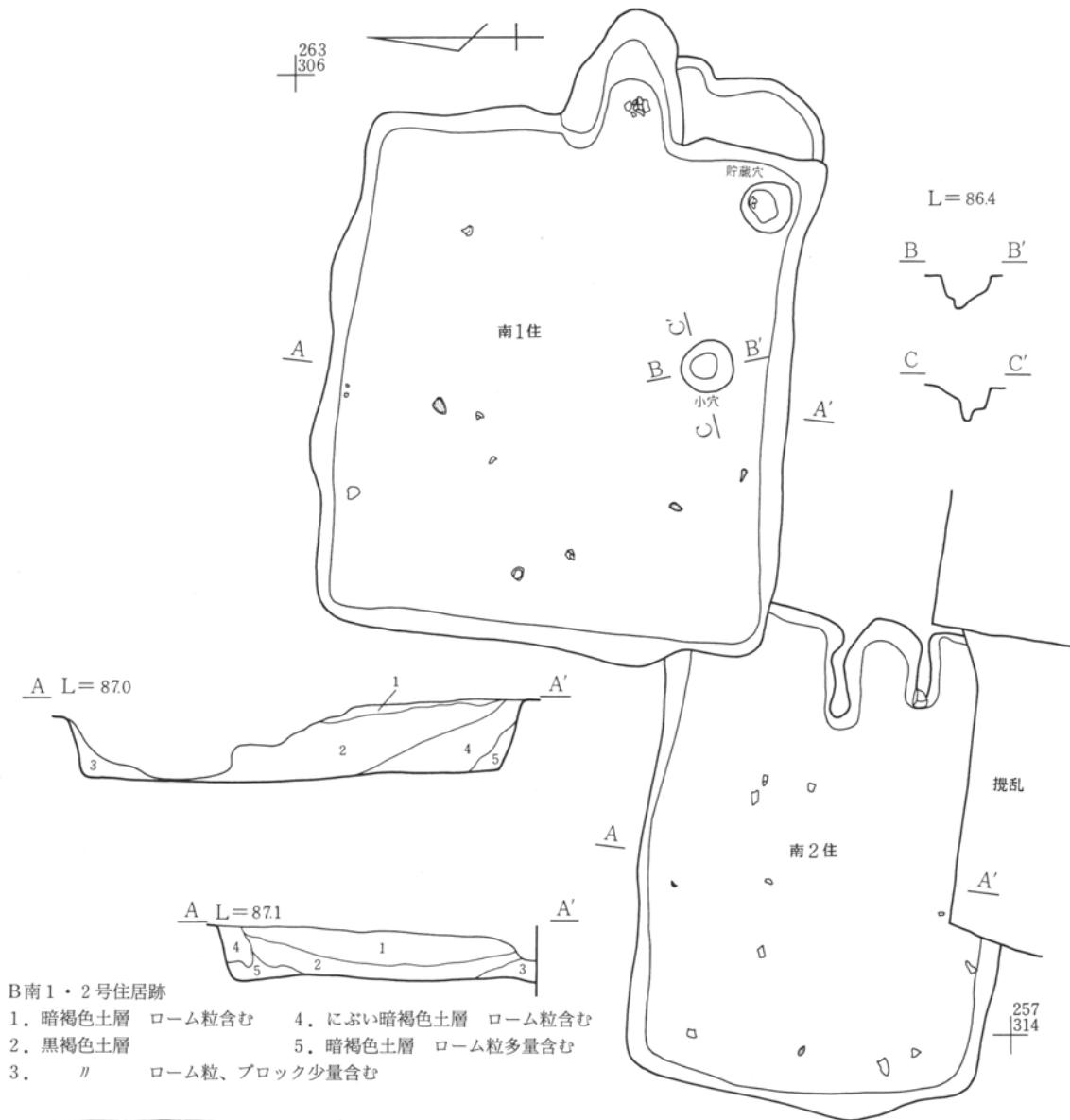
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器	口(9.6) 底(2.7) 高(2.7)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y5/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
2	須恵器	口(10.4) 底(7) 高3.3	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
3	須恵器	口(14) 底(6.8) 高3.4	①砂粒含む ②良好 ③N4/0灰	轆轤整形 底部回転糸切り
4	須恵器	口12.5 底7.3 高3.6	①砂粒含む ②良好 ③N5/0灰	轆轤整形 底部回転糸切り
5	須恵器	口12.9 底7.8 高4	①砂粒含む ②良好 ③5Y4/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
6	須恵器	底(10) 高(3)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
7	須恵器	口(11.6) 底(8) 高4.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
8	須恵器	口(15.6) 高(3.5)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y5/1灰	轆轤整形
9	須恵器	口16.4 摘径4.6 高4.3	①砂粒含む ②良好 ③5Y8/1灰白	轆轤整形 外面 摘み周辺回転ヘラ調整
10	土師器	口(18.8)	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/6明赤褐	口縁部内外面よこなで
11	土師器	口(26)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR5/3にぶい褐	口縁部内外面よこなで
12	土師器	口(17)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR5/4にぶい褐	口縁部内外面よこなで 外面 胴部ヘラ削り 内面 なで
13	須恵器	口(25.2)	①砂粒含む ②良好 ③N5/0灰	轆轤整形
14	須恵器	底(15)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y5/1灰	轆轤整形
15	石	長13.8 幅13.3 厚3.9		台石?
16	石	長17.5 幅6.7 厚4.8		
17	女瓦	厚1.7	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端面 両側部 面取り2面
18	女瓦	厚1.8	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y5/1灰	外面 なで 内面 布目 端面面取り2面 側面取2～ 3面
19	女瓦	厚1.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y8/1灰白	外面 斜格子目叩き後部分的にヘラなで 内面布目 上端面面取り2面他1面

B南1・2号住居跡 (第32～35図、PL 5・26)

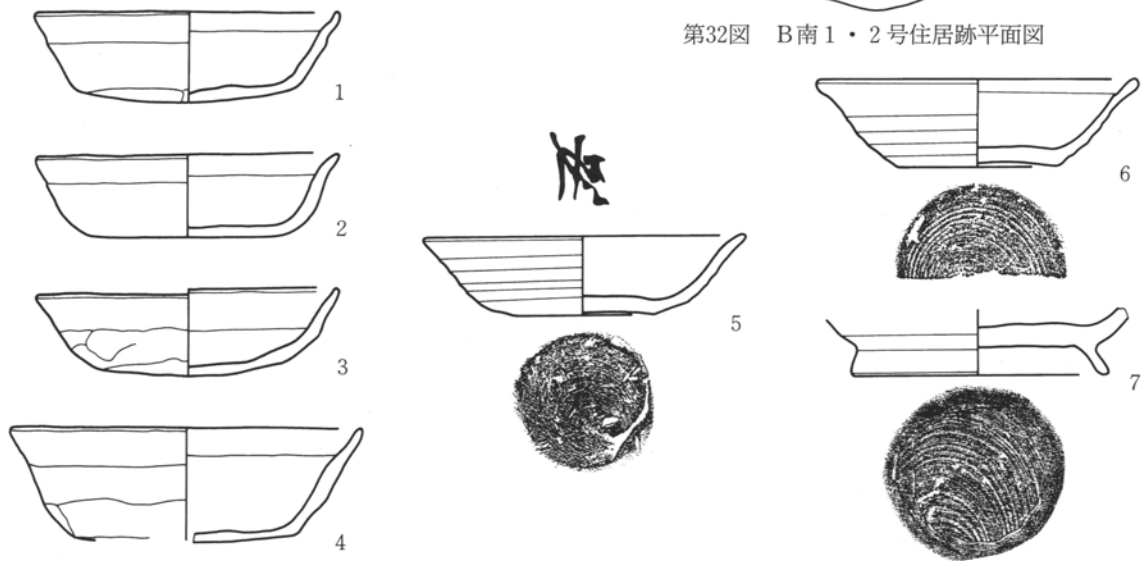
当住居跡はB区南西部に位置し250・260—300・310グリッドの範囲にある。2号住居跡の南にあり、1・2号住居跡は重複している。新旧関係は南1号住居跡が南2号住居跡より新しい。

南1号住居跡 規模は長辺4.5m、短辺3.9mを測り、壁高は50cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝、柱穴等の諸施設は検出されていない。貯蔵穴は南東コーナーに確認された。規模は45cm×40cm、深さ10cmを測る。また南壁寄りに小穴が検出された。規模は径45cm、深さ20cmを測る。竈は東壁南寄りに確認された。規模は長軸1.2m、燃烧部幅60cmを測る。住居跡の床面はハードルーム面に達し掘方はなく、ルームを掘り込んだ堅い面を床面としていた。

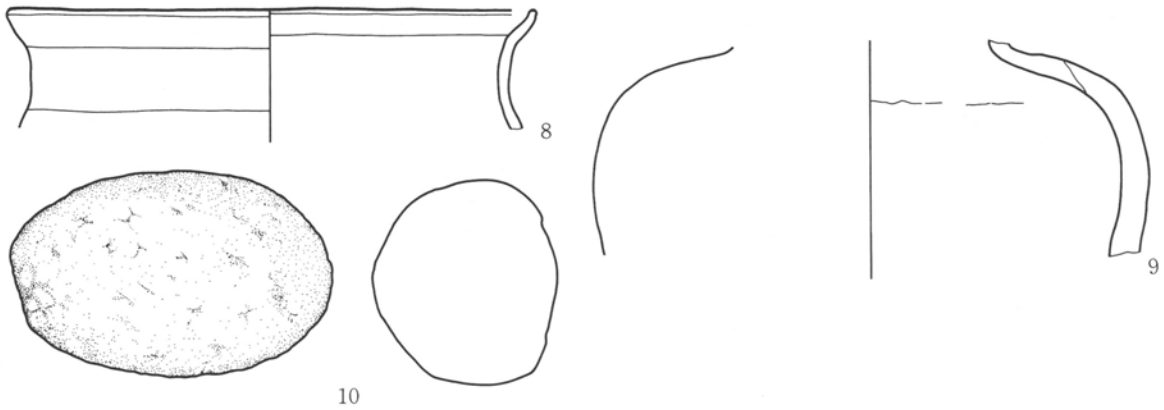
南2号住居跡 規模は長辺4m、短辺3mを測り、壁高は50cm～60cmを測る。北東部は南1号住居跡により壊され、南壁は近代の攪乱によって壊されてる。床面は平坦をなし、壁周溝、貯蔵穴、柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に確認された。規模は長軸90cm、袖幅60cmを測る。右袖部に袖の構築材と考えられる石が確認された。床面は南1号住居跡と同様掘方は確認されていない。



第32図 B南1・2号住居跡平面図



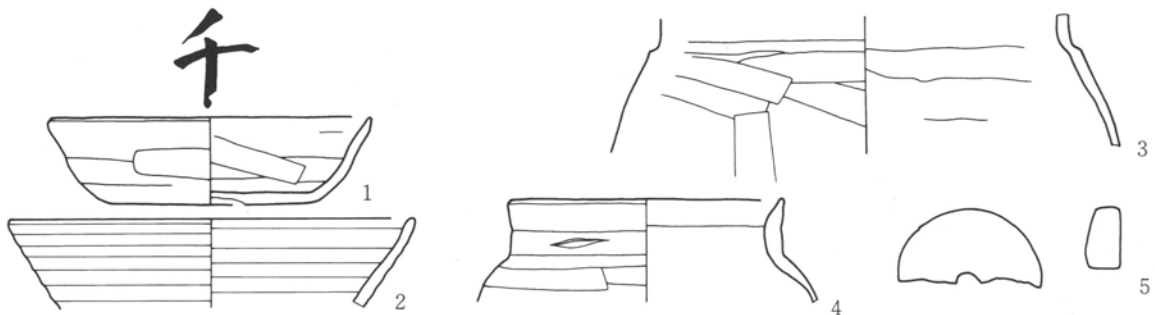
第33図 B南1号住居跡出土遺物(1)



第34図 B南1号住居跡出土遺物(2)

B南1号住居跡

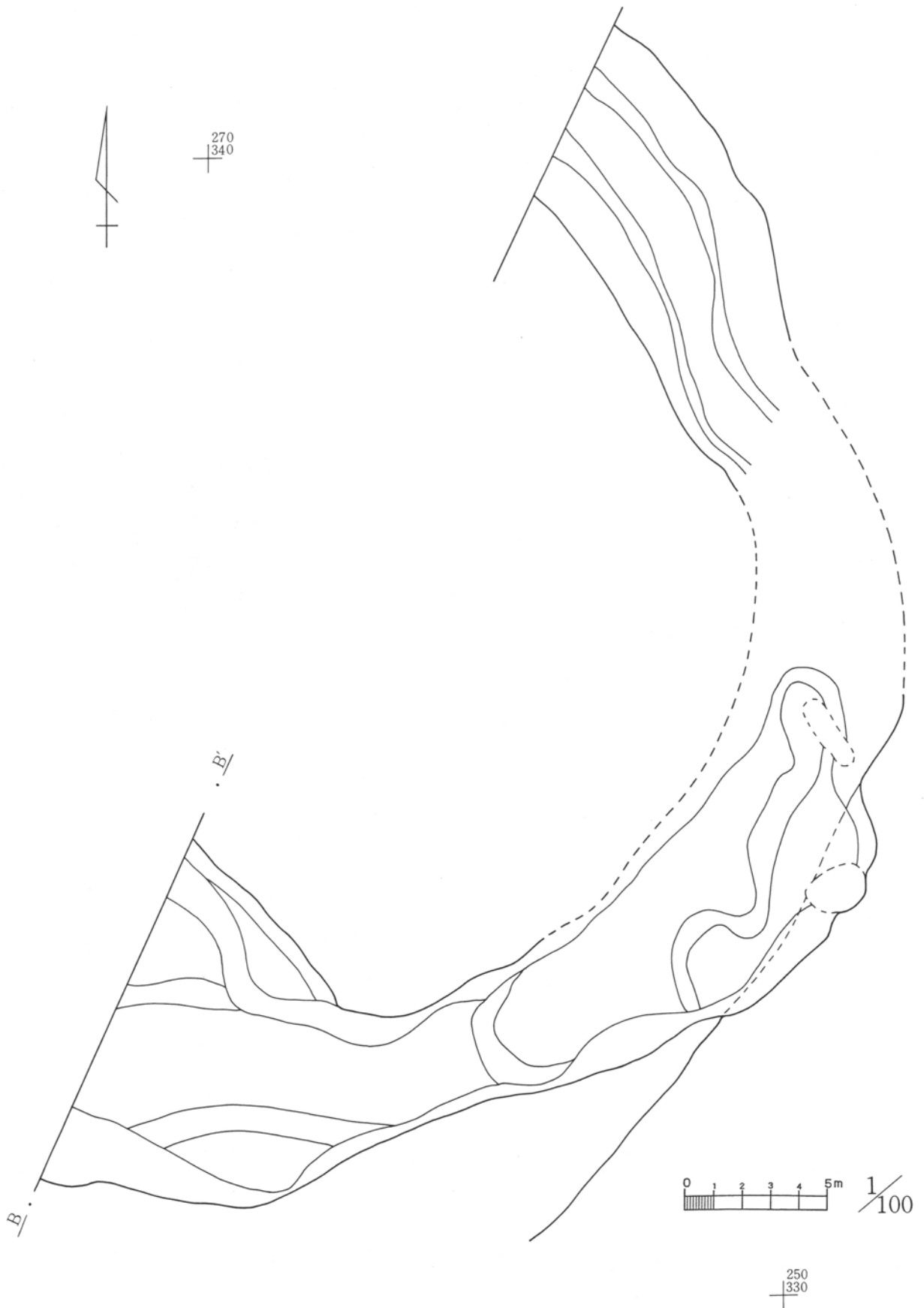
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 鉢	口12 高3.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR5/6明赤褐	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部などで 体部ヘラ削り 内面 なで
2	土師器 鉢	口(12) 高3.3	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/6明赤褐	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部などで 体部ヘラ削り 内面 なで 外面すず付着
3	土師器 鉢	口12 高3.3	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/6明赤褐	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部などで 体部ヘラ削り 内面 なで 内面にすず付着
4	土師器 鉢	口14 底8.8 高4.5	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 外面 口縁下部などで 底部ヘラ削り 内面 なで 底部外面に墨書
5	須恵器 鉢	口(12.7) 底5.5 高3.2	①砂粒含む ②良好 ③10YR6/2灰黄褐	轆轤整形 底部回転糸切り 底部外面周囲回転ヘラ調整 口縁・底部外面に墨書
6	須恵器 鉢	口(12.8) 底(6.7) 高3.4	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
7	須恵器 皿	底10	①砂粒含む ②良好 ③5Y8/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
8	土師器 甕	口(21)	①砂粒含む ②良好 ③5YR4/4にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで
9	須恵器 瓶		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y5/1黄灰	轆轤整形 外面 自然釉
10	石	長12.8 幅8.1 厚7.3		すり石



第35図 B南2号住居跡出土遺物

B南2号住居跡

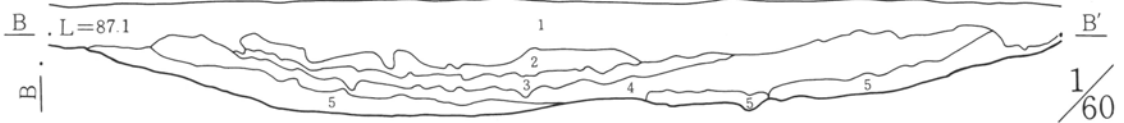
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 鉢	口12.8 底7.8 高3.5	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙	口縁部内外面よこなで 外面 体部ヘラなどで 底部 回転ヘラ削り 内面 なで ヘラなどで 底部内面墨書
2	須恵器 鉢	口(16)	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/2灰オリーブ	轆轤整形
3	土師器 甕		①砂粒含む ②良好 ③10YR5/3にぶい黄橙	外面 口縁部よこなで 胴部 ヘラ削り 内面 ヘラなどで なで
4	土師器 甕	口(11)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR4/2灰褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
5	石製紡錘車	厚1.4		



第36図 B1号古墳

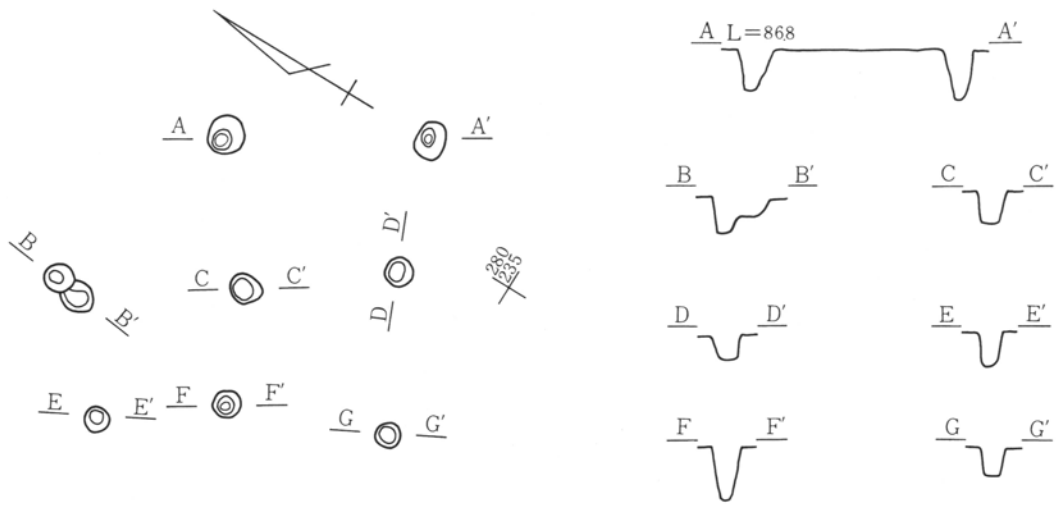


第37図 B 1号古墳出土遺物平面図

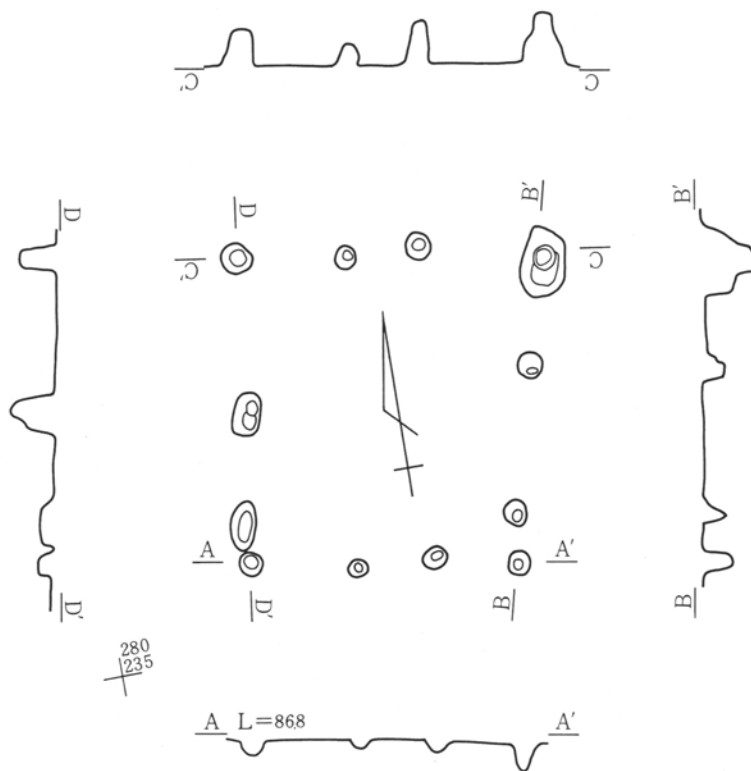


- B 1号古墳土層
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 現地表土 | 4. 黒褐色土層 FP・ロームブロック少量含む |
| 2. 黒褐色土層 浅間B軽石を含む | 5. 黄褐色土層 ローム含む |
| 3. 浅間B軽石層 上面にピンクアッシュ層含む | |

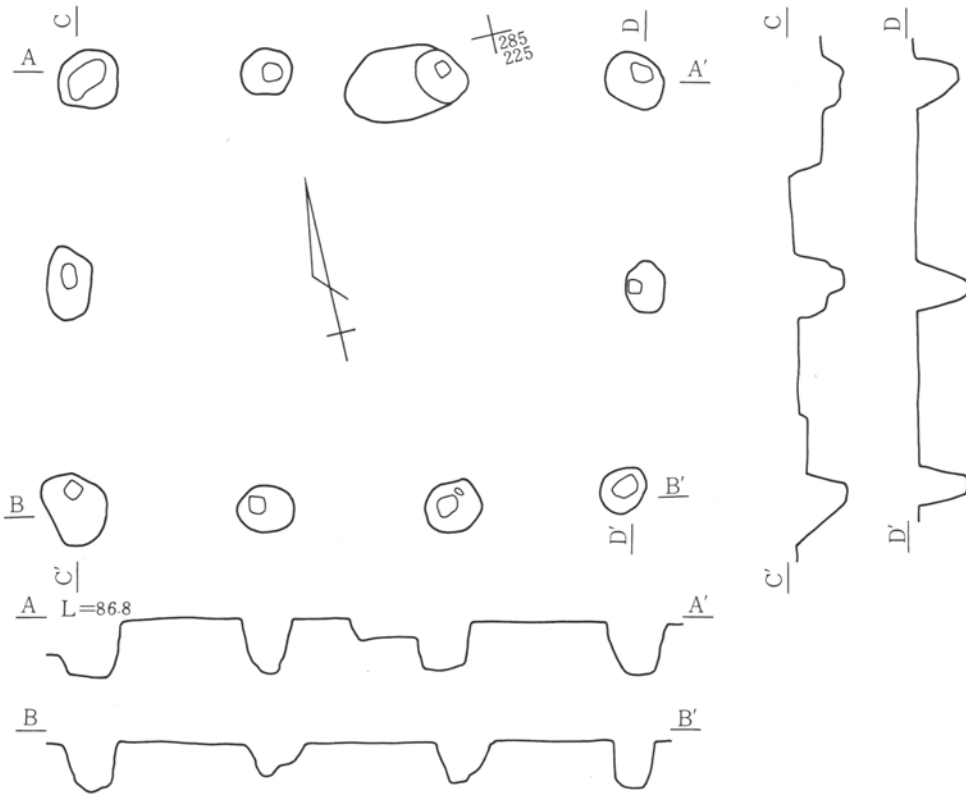
第38図 B 1号古墳周溝断面図



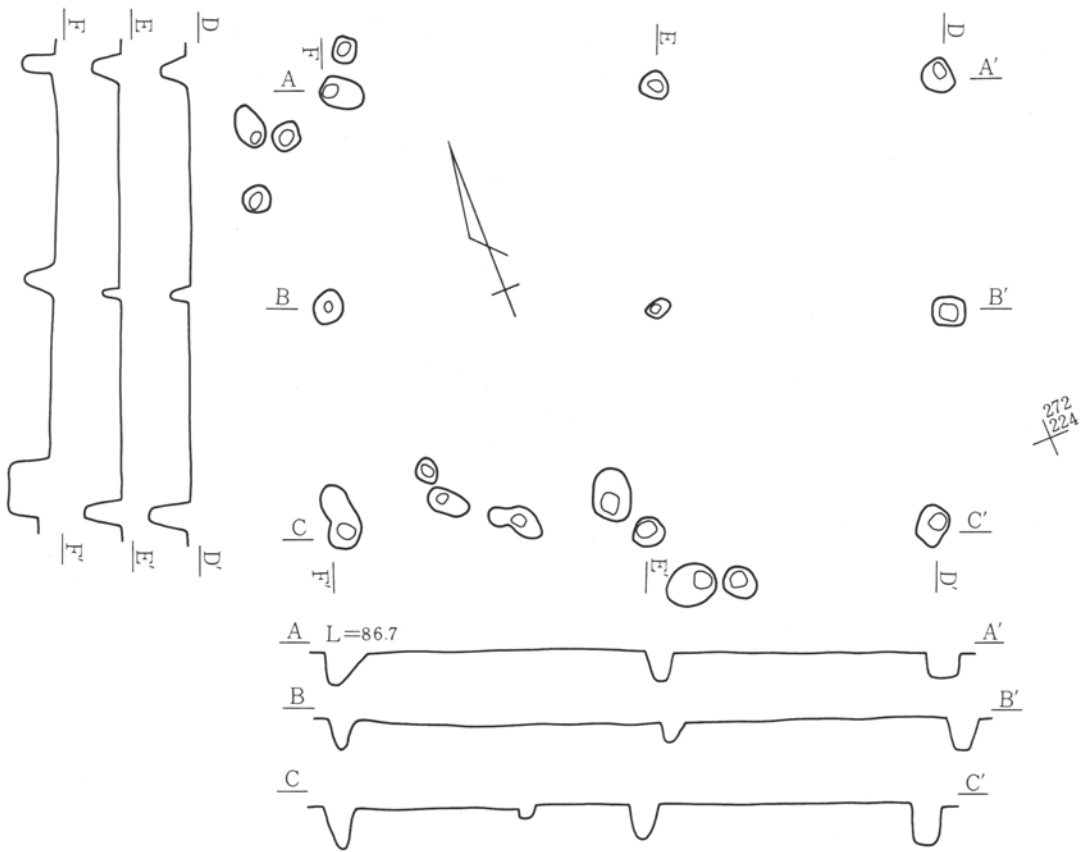
第39図 B 1号掘立柱建物跡



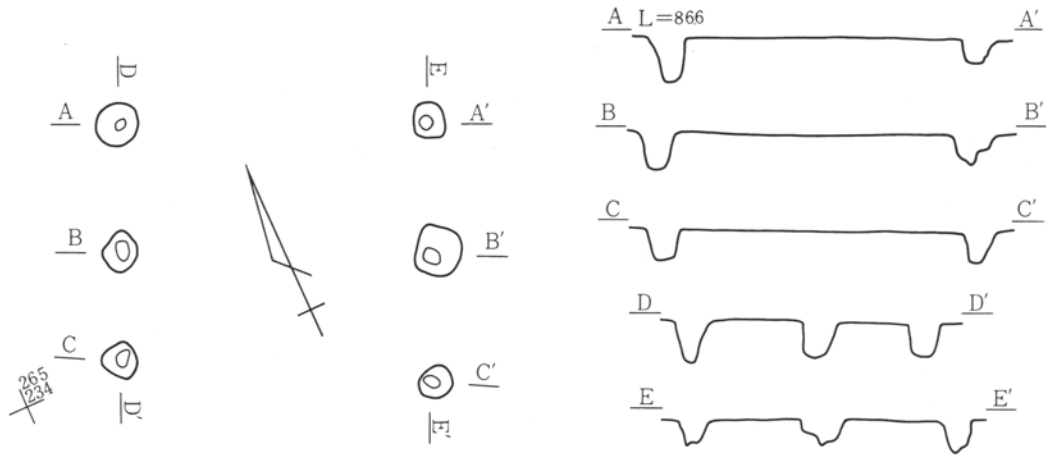
第40図 B 2号掘立柱建物跡



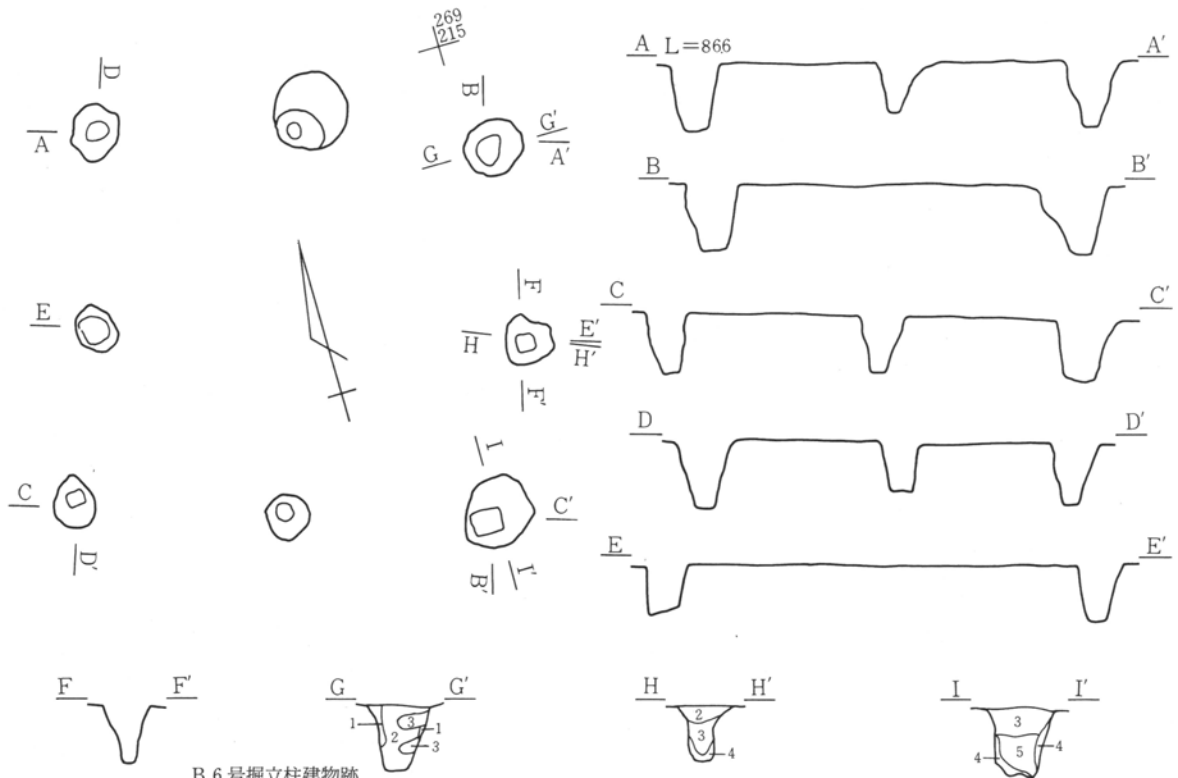
第41图 B 3号掘立柱建物跡



第42图 B 4号掘立柱建物跡



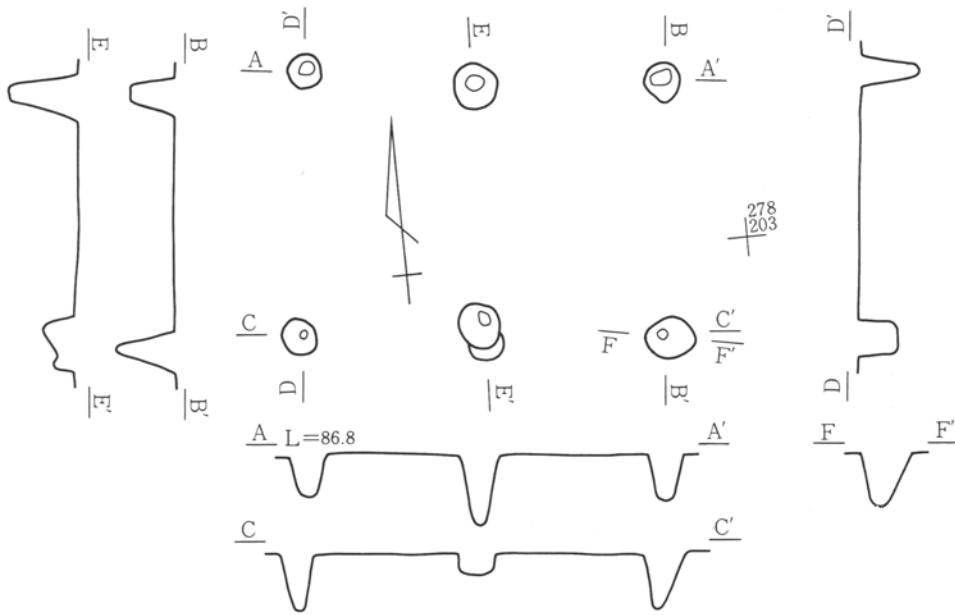
第43図 B5号掘立柱建物跡



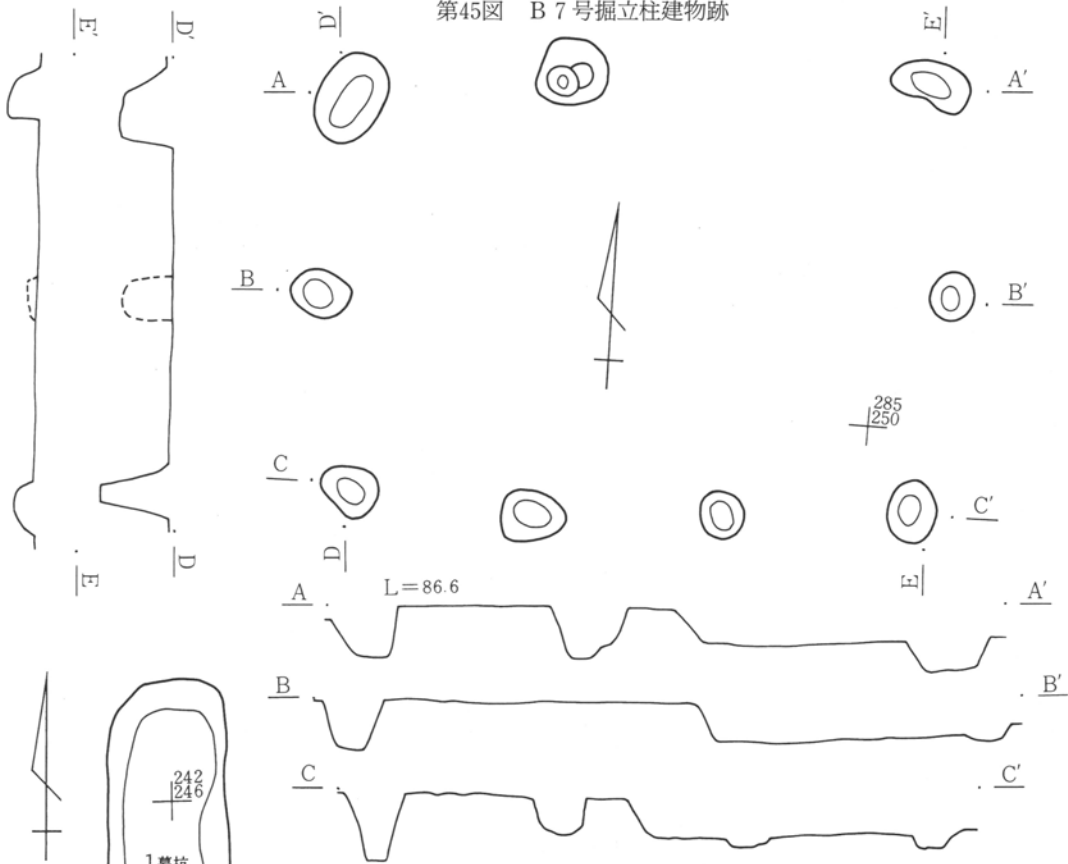
B6号掘立柱建物跡

1. 褐色土層 ローム粒多量含む
2. 暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック含む
3. 暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む
4. 黄褐色土層 ローム混土
5. 黒褐色土層 ローム粒微量含む

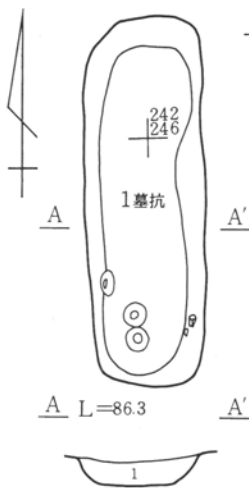
第44図 B6号掘立柱建物跡



第45図 B 7号掘立柱建物跡



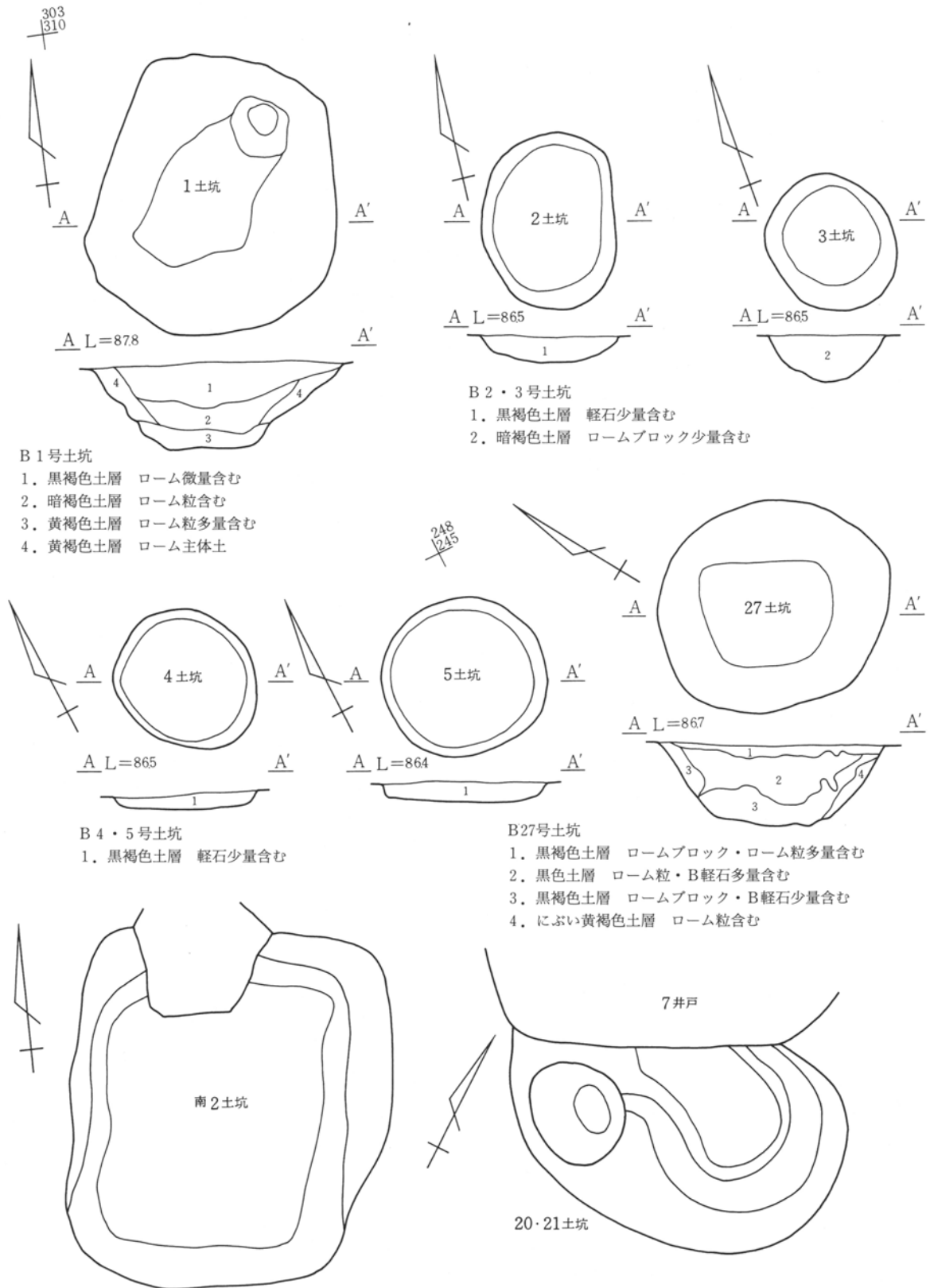
第46図 B南1号掘立柱建物跡



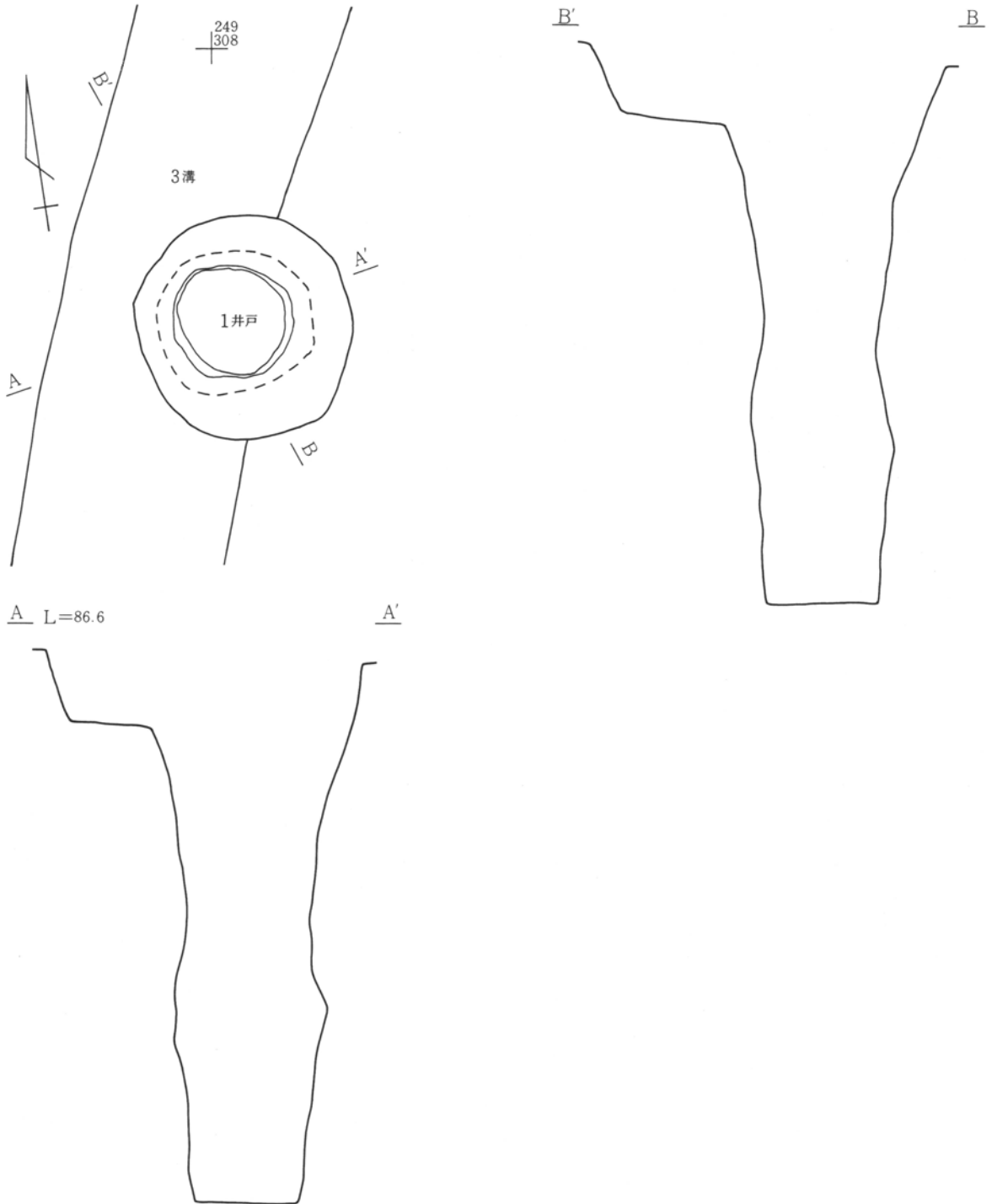
B 1号墓坑

1. 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロック含む

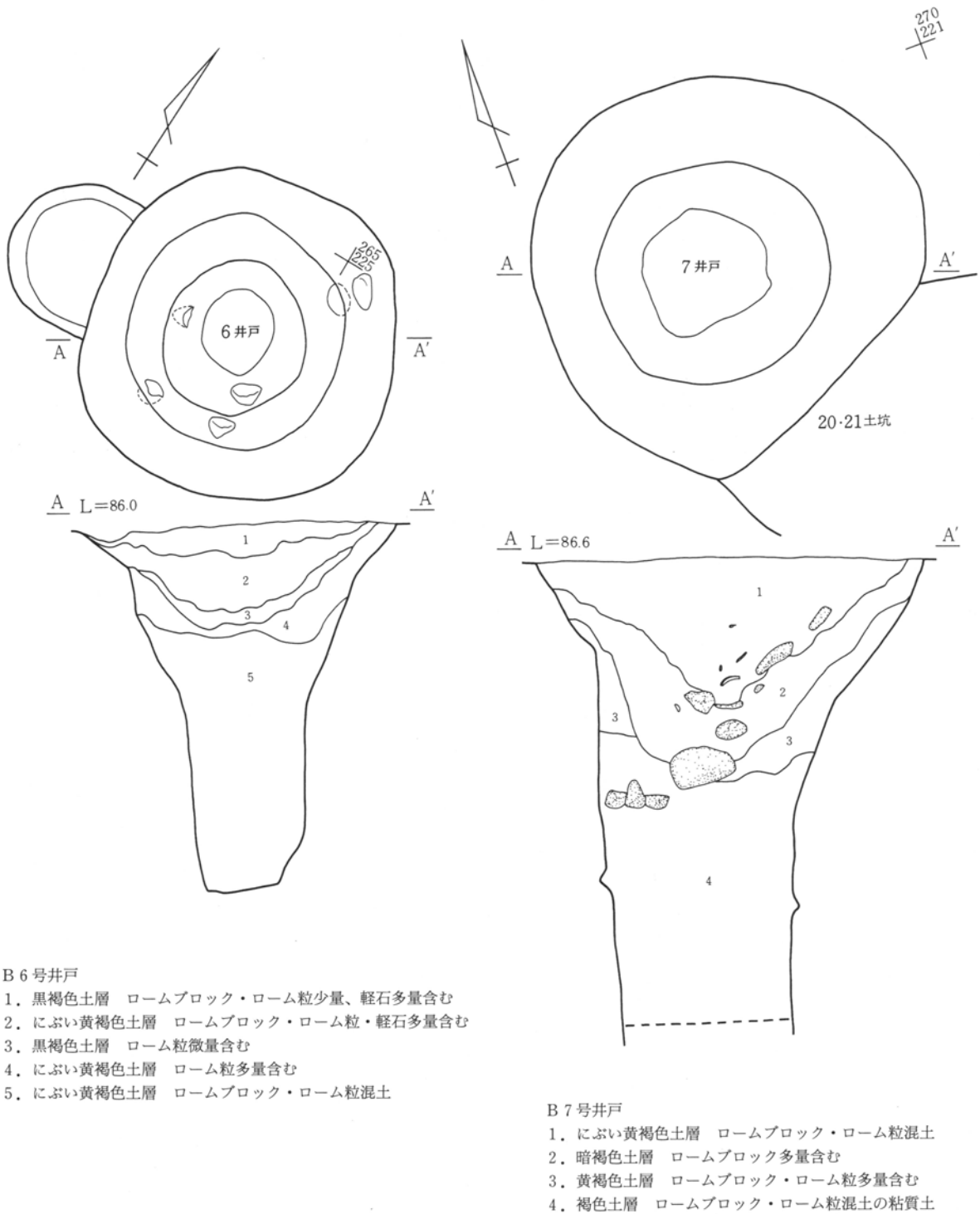
第47図 B 1・B南1号墓坑



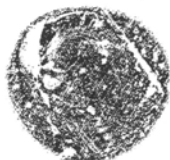
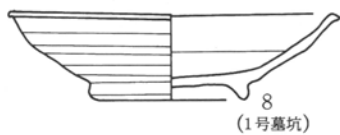
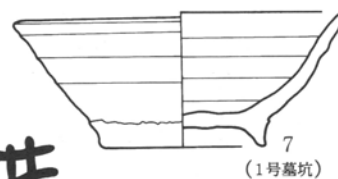
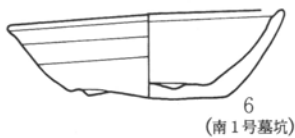
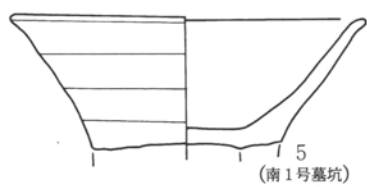
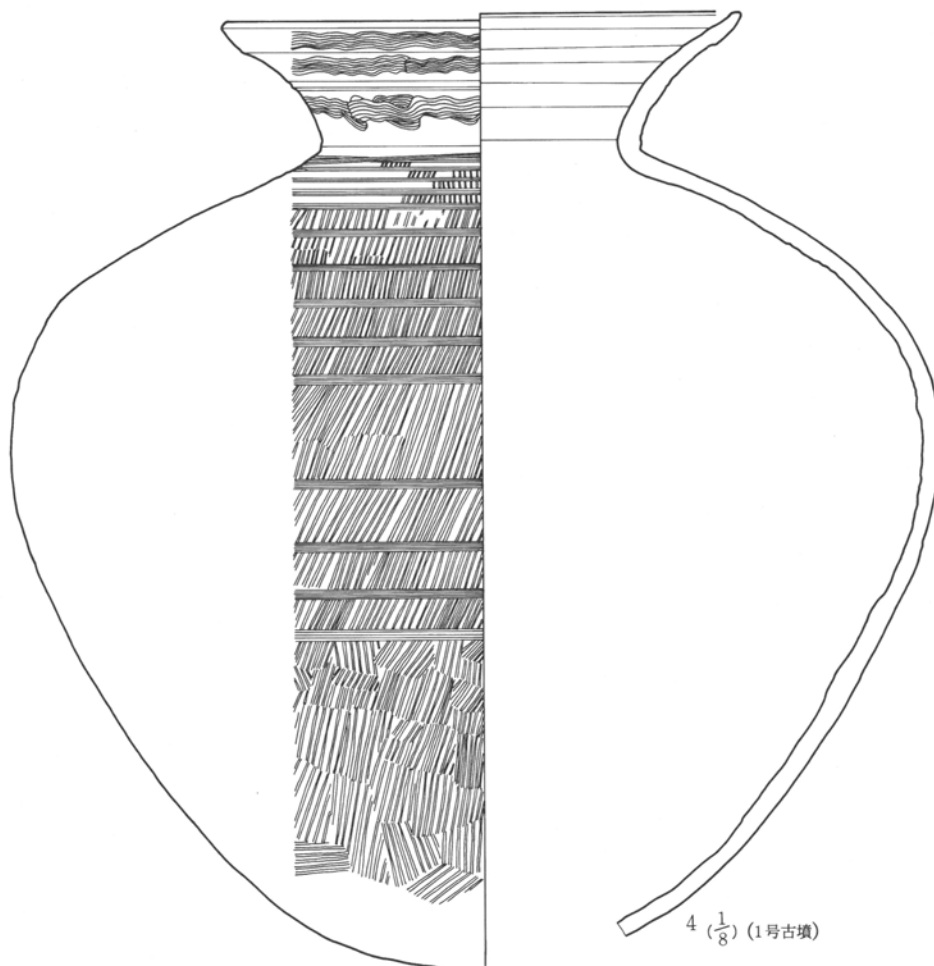
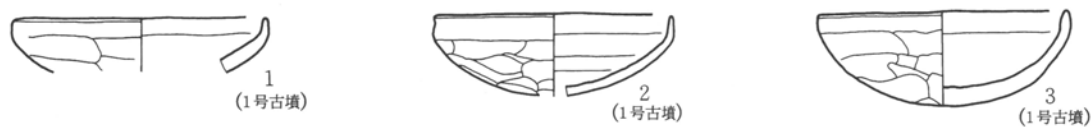
第48図 B区土坑



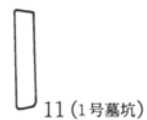
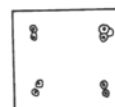
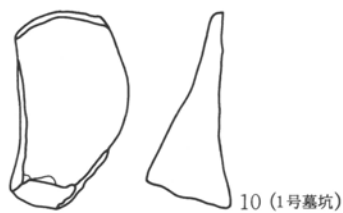
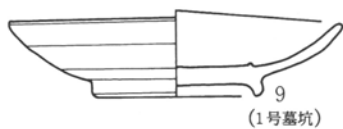
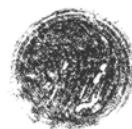
第49図 B区井戸(1)



第50図 B区井戸(2)

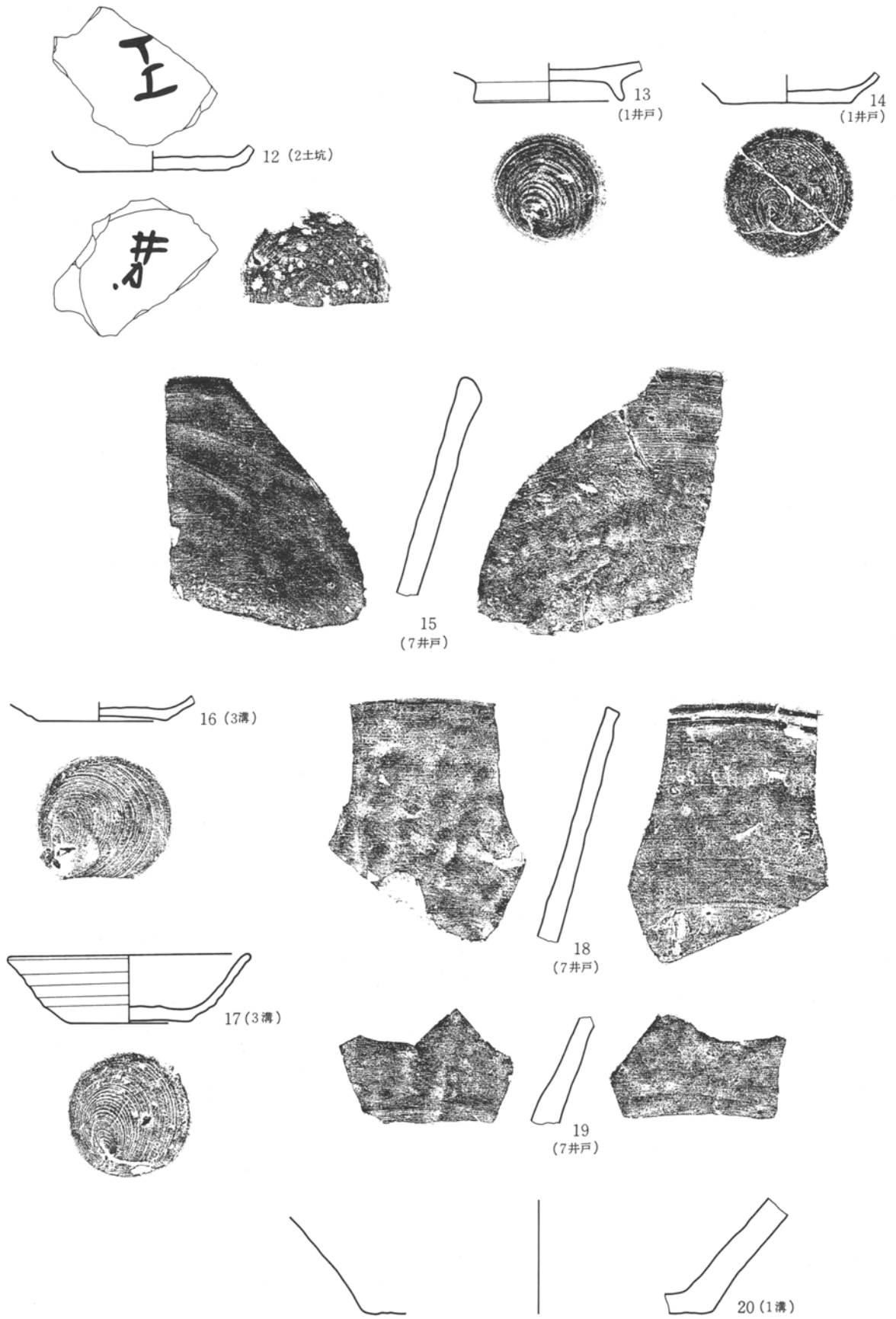


#

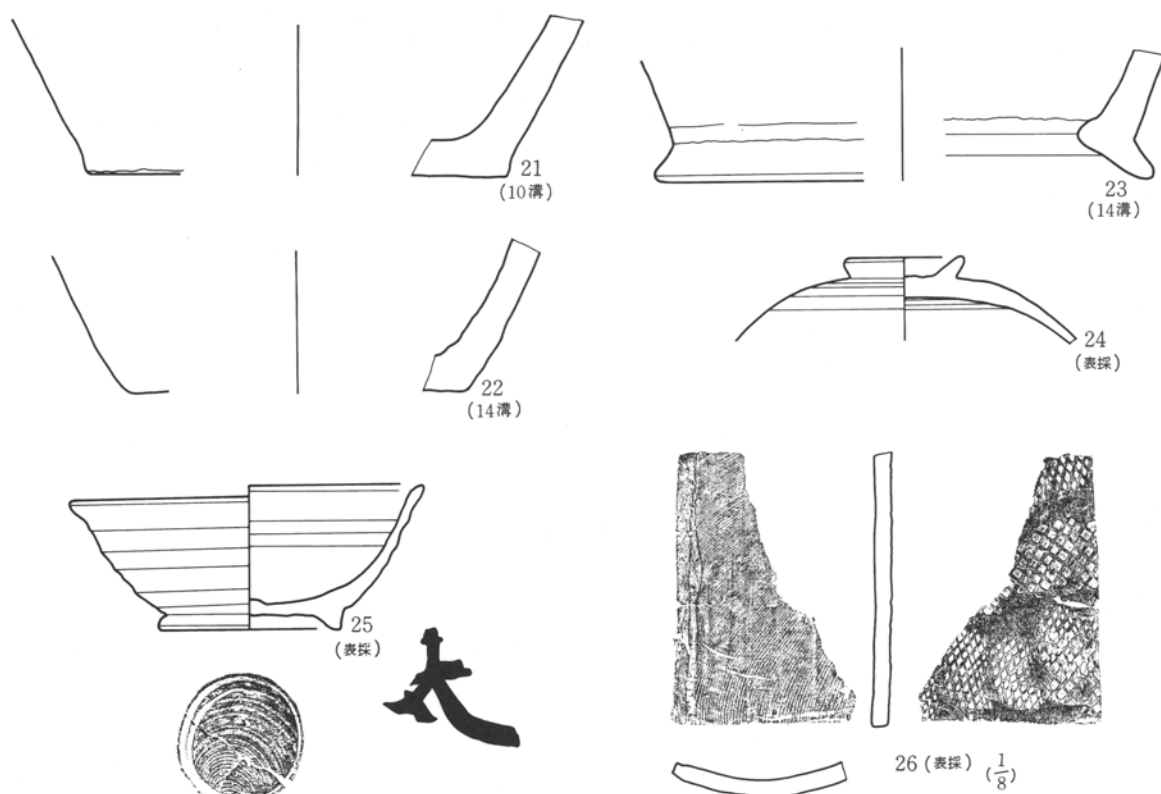


第51图 B区出土遗物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第52図 B区出土遺物(2)



第53図 B区出土遺物(3)

第3節 C 区

概要

C区の遺構は古墳時代前期の住居跡と奈良・平安時代の住居跡あわせて41軒、他に土坑・井戸・溝等である。C区東部には畑の畝の跡が確認されている。

住居跡は前述のとおり古墳時代前期と奈良・平安時代に分けられる。このうちB区須恵器窯と並行する9世紀頃の住居跡は14軒が確認された。B区で確認された須恵器窯の時期は出土遺物等から9世紀前半から中頃に比定することができる。B区須恵器窯に並行・関連すると考えられる住居跡のうち15・16・18号住居跡からは床面上に轆轤を設置することが可能と考えられる円形の小穴が検出されている。また同様に並行する時期の住居跡からは須恵器制作に伴う置き台等に使う事が想定される瓦も多数検出された。また15号住居跡で9個体、18号住居跡で4個体、表採としても5個体の耳杯の耳が出土しているが、完成された耳杯の出土は皆無で、耳杯の耳だけが出土している。さらに東に隣接する舞台遺跡でも耳杯、耳杯の耳の出土は確認できず、光仙房遺跡C区でのみ出土する耳杯の耳の出土が意味するものは不明である。おそらくは須恵器生産に伴う何らかの可能性が考えられる。須恵器生産に伴う事例はさらにB区1号住居跡床面上からは粘土塊が出土し、須恵器窯を軸とする関係を考えることができる。このように須恵器生産に伴う住居跡は轆轤の存在を想像させる住居跡、工房の存在と同住居跡内にある用具としての瓦が指摘できる。

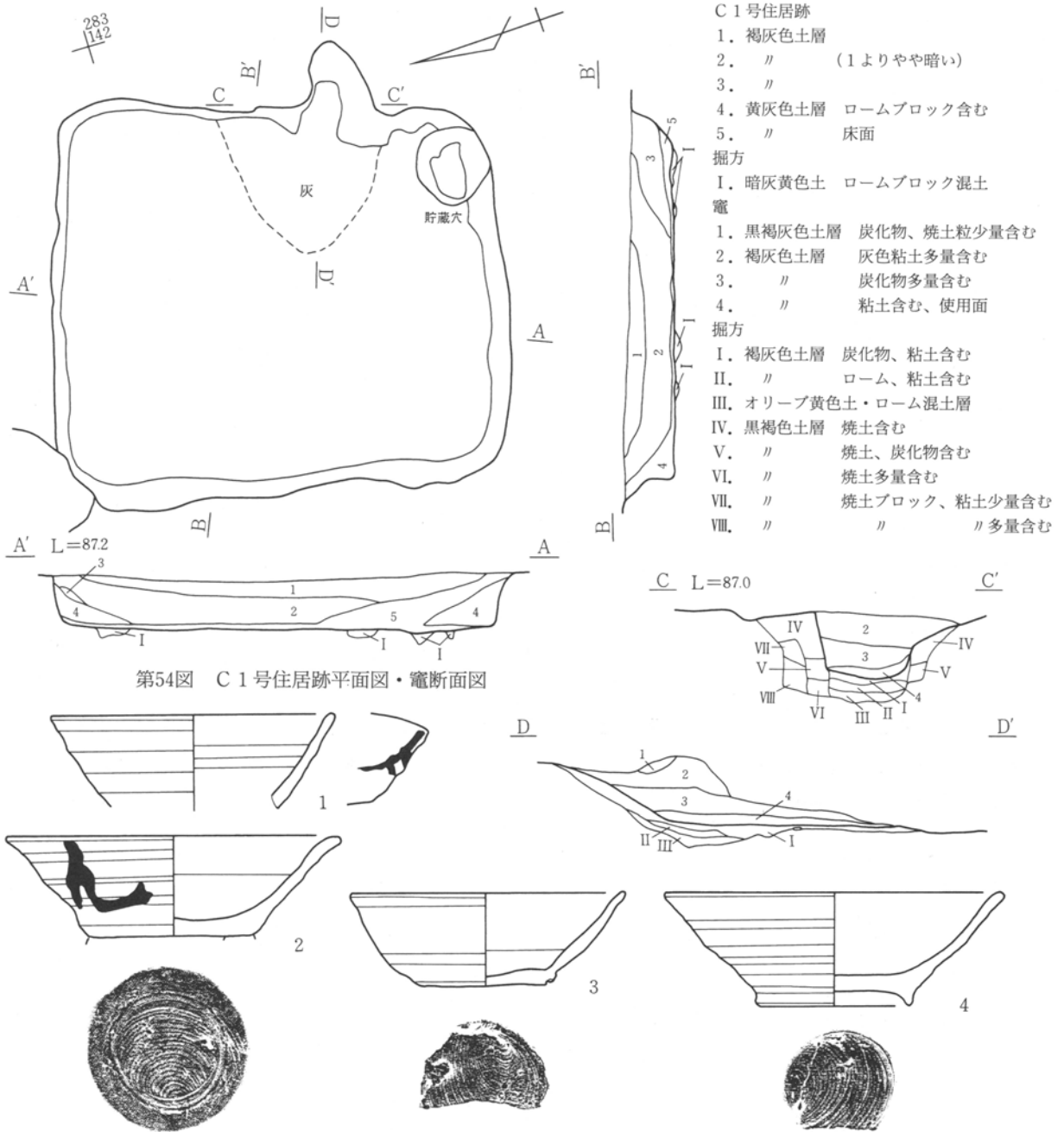
C区では古墳時代前期の住居跡は10軒が確認され、31号・39号住居跡柱穴からは礎盤と駒の出土があるが、39号住居跡のエレベーションEラインに一部点線で記載がある他は写真・図面はない。

他の住居跡は平安時代の住居跡である。須恵器生産と古墳時代前期の集落は隣接する舞台遺跡と密接な関連が指摘できる。

第3章 検出された遺構と遺物

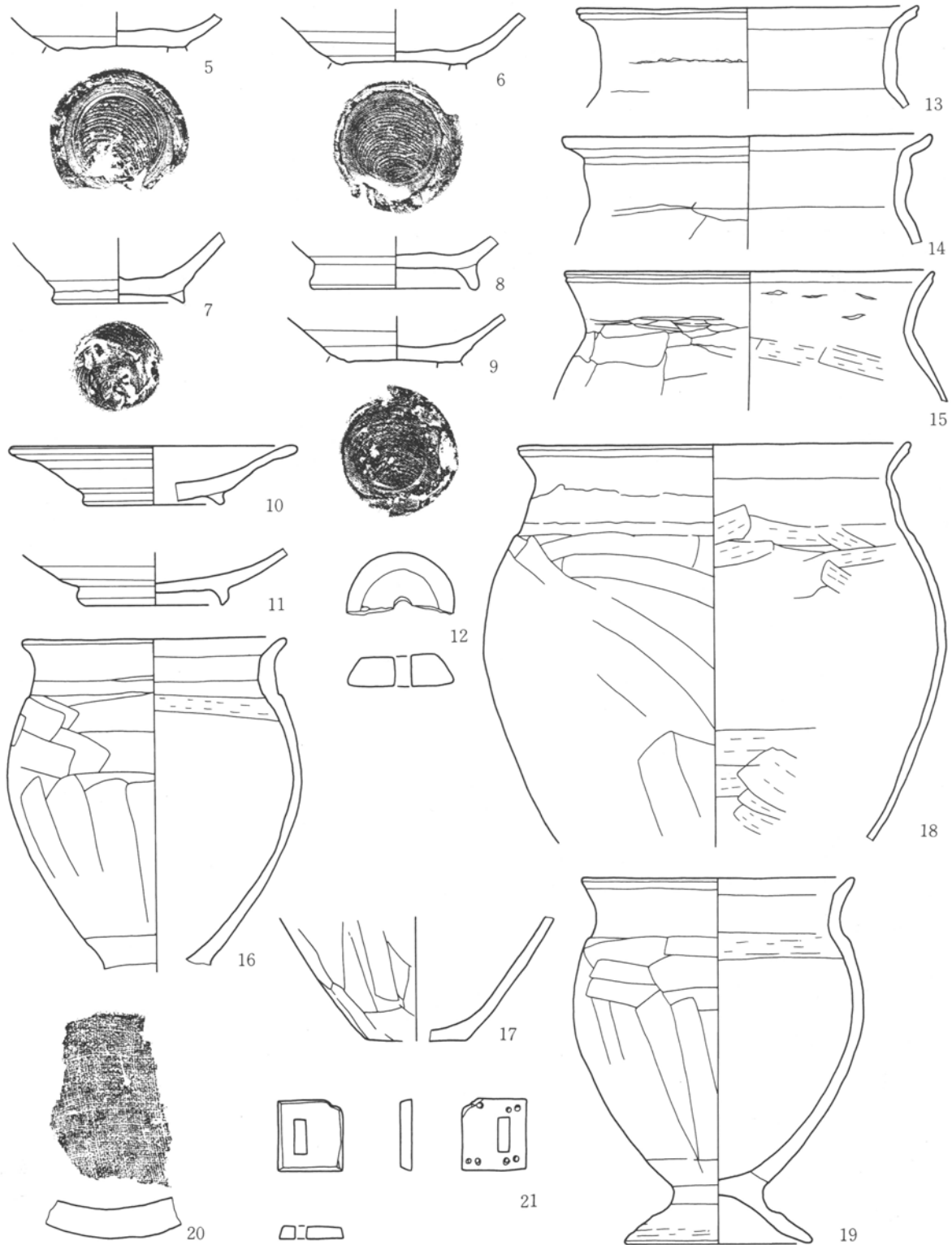
C1号住居跡 (第54~56図、PL 9・27・28)

当住居跡はC区中央北部に位置し280—140グリッドの範囲にある。規模は長辺4 m、短辺3.8mを測る。他の遺構との重複はなく、形態は隅丸方形を呈す。長軸はやや東にふれる。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦で壁周溝は認められない。竈は東壁やや南寄りに付設され、竈前面には炭化物灰が床面上に広がっている。貯蔵穴が竈右側南東コーナー部に検出された。規模は長軸80cm、短軸70cm、深さ約30cmを測る。柱穴は検出されていない。出土遺物は土師器、須恵器片が多数、墨書土器が検出された。他に石製の帯金具が検出された。



第54図 C1号住居跡平面図・竈断面図

第55図 C1号住居跡出土遺物(1)



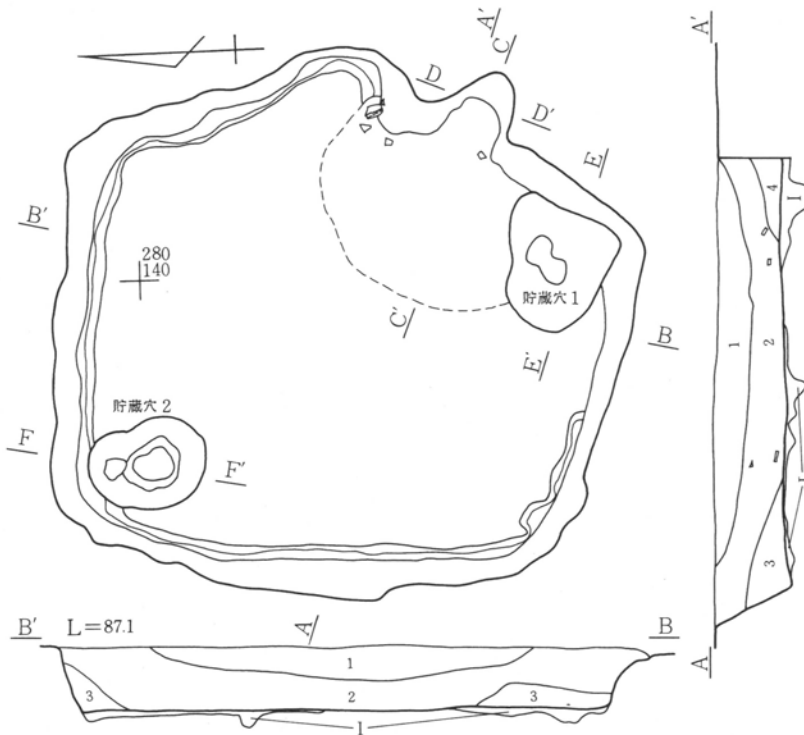
第56図 C1号住居跡出土遺物(2)

C1号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 坏	口(14)	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1 灰白	轆轤整形 口縁部内面に墨書
2	須恵器 碗	口 15.4 底(7.5) 高(4.6)	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 7/2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台剝離

第3章 検出された遺構と遺物

3	須恵器 坏	口(12.6) 底 6 高 4.3	①白色粒含む ②良好 ③2.5Y 5 / 1 黄灰	轆轤整形 底部回転糸切り 2度切り 底部内面ヘラ調整
4	須恵器 椀	口(15.6) 底 6.8 高 5.2	①黒色鉱物含む ②良好 ③5 Y 5 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
5	須恵器 椀	底(6.8)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 3 / 1 オリーブ黒	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台剥離
6	須恵器 椀	底(6.6)	①白色粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 4 にぶい橙	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台剥離
7	須恵器 椀	底 6.2	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 3 浅黄	轆轤整形 底部回転糸切り
8	須恵器 椀	底 8	①黒白色粒含む ②良好 ③10YR 7 / 4 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り
9	須恵器 器	底(4.3)	①白色粒含む ②良好 ③5 Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台剥離
10	須恵器 皿	口(14.2) 底(6.6) 高 2.9	①黒色粒含む ②良好 ③2.5Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 付け高台
11	灰釉陶器 皿	底 6.7	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 7 / 1 灰白	施釉刷毛塗り 底部内面重ね焼痕 K90新〜光ヶ丘
12	石製紡垂車	径 5.3 孔径0.8		
13	土師器 器	口(16.6)	①黒色粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで
14	土師器 器	口(18)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面 ヘラ削り 内面 なで
15	土師器 器	口(18)	①白色粒・砂粒含む ②良好 ③2.5YR 5 / 6 明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
16	土師器 器	口 13	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
17	土師器 器	底 5	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	外面 ヘラ削り 内面 なで
18	土師器 器	口 19	①白色粒含む ②良好 ③2.5YR 5 / 6 明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
19	土師器 器	口(13.2) 底(9.1) 高 17.8	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 3 / 1 暗赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面なで 脚 外面よこなで 内面 なで
20	瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③N 5 / 灰	内面 布目
21	石 帯	3.4×3.2 厚 0.6		完形

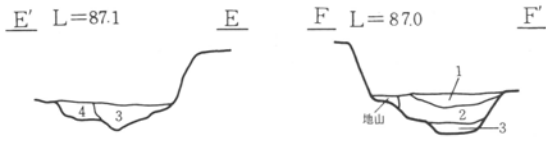


第57図 C2号住居跡平面図

C2号住居跡

(第57〜61図、PL 9・28)

当住居跡はC区中央北部に位置し270・280—140・150グリッドの範囲にある。規模は長辺4.6m、短辺4.4mを測る。他の遺構との重複はなく、形態は方形を呈するが、竈が付設される東壁が大きく張り出している。壁高は約50cmを測る。床面は平坦をなし、竈右袖部脇と、対角をなす西北コーナー部に2基の貯蔵穴が検出され1・2とした。各々の規模は1が径約1m、深さ20cm。2は1m×70cm、深さ20cmを測る。壁溝は南壁東半部を除き4壁で確認され、幅



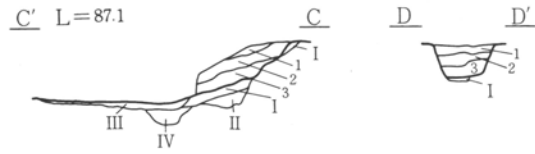
第58図 C2号住居跡貯蔵穴断面図

C2号住居跡・貯蔵穴

- 1. にぶい黄褐色土層
- 2. 褐灰色土層 粘土ブロック多量含む
- 3. 灰褐色土層
- 4. 褐灰色土層 炭化物多量含む

掘方

- I. 褐灰色粘土層 焼土含む

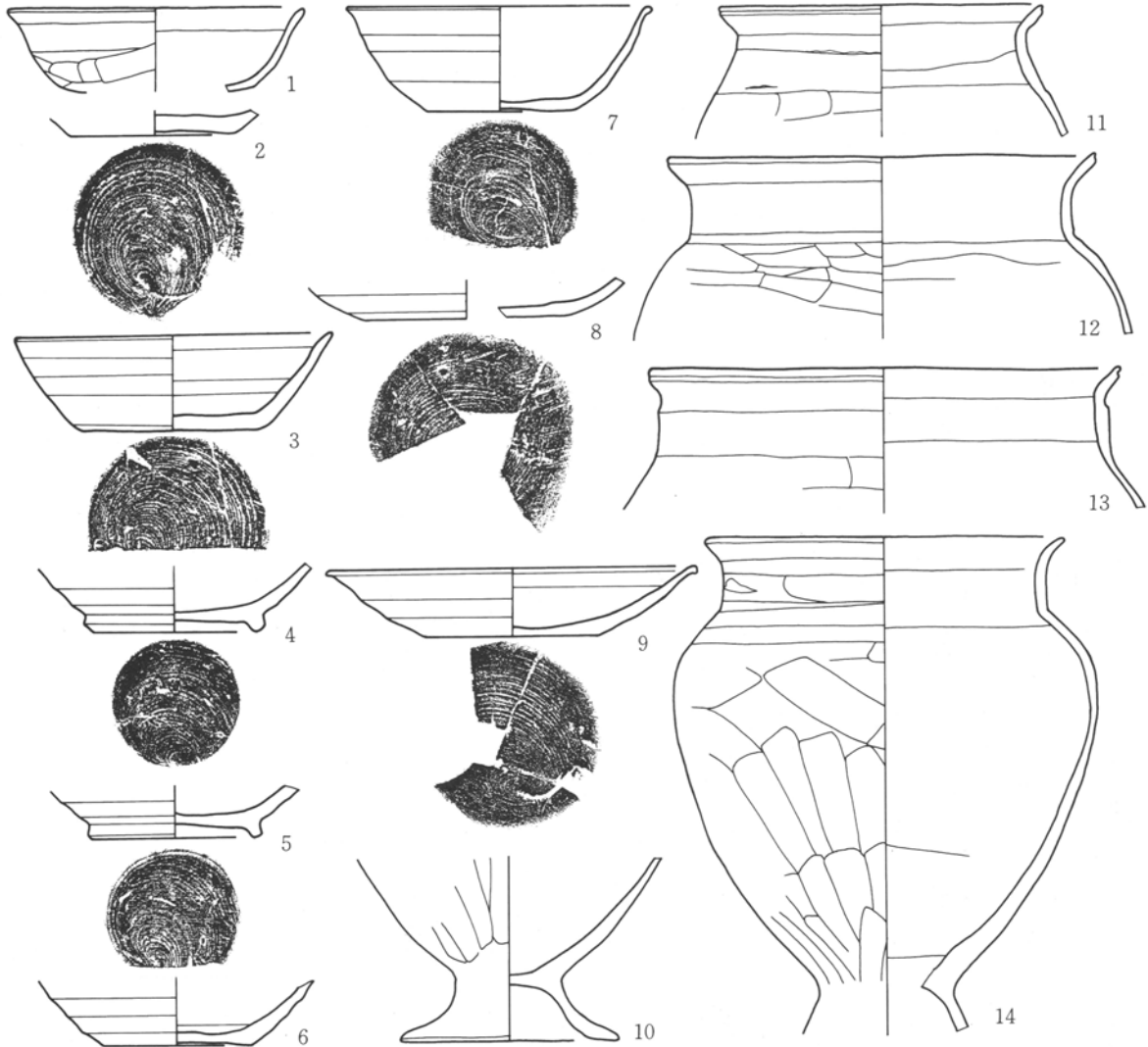


第59図 C2号住居跡竈断面図

10cm~20cm、深さは5cm~10cmを測る。竈は東壁やや南寄りに確認され、左側袖部が東に大きく張り出している。このため竈の主軸方位は東側に傾いている。また竈の右袖部側も西壁とは並行せずやや南側へ傾いている。掘方面は浅く中央部は掘込みがほとんどない部分もあり、南壁際を掘込んでいる。また住居跡覆土中より鎌(21)が検出された。

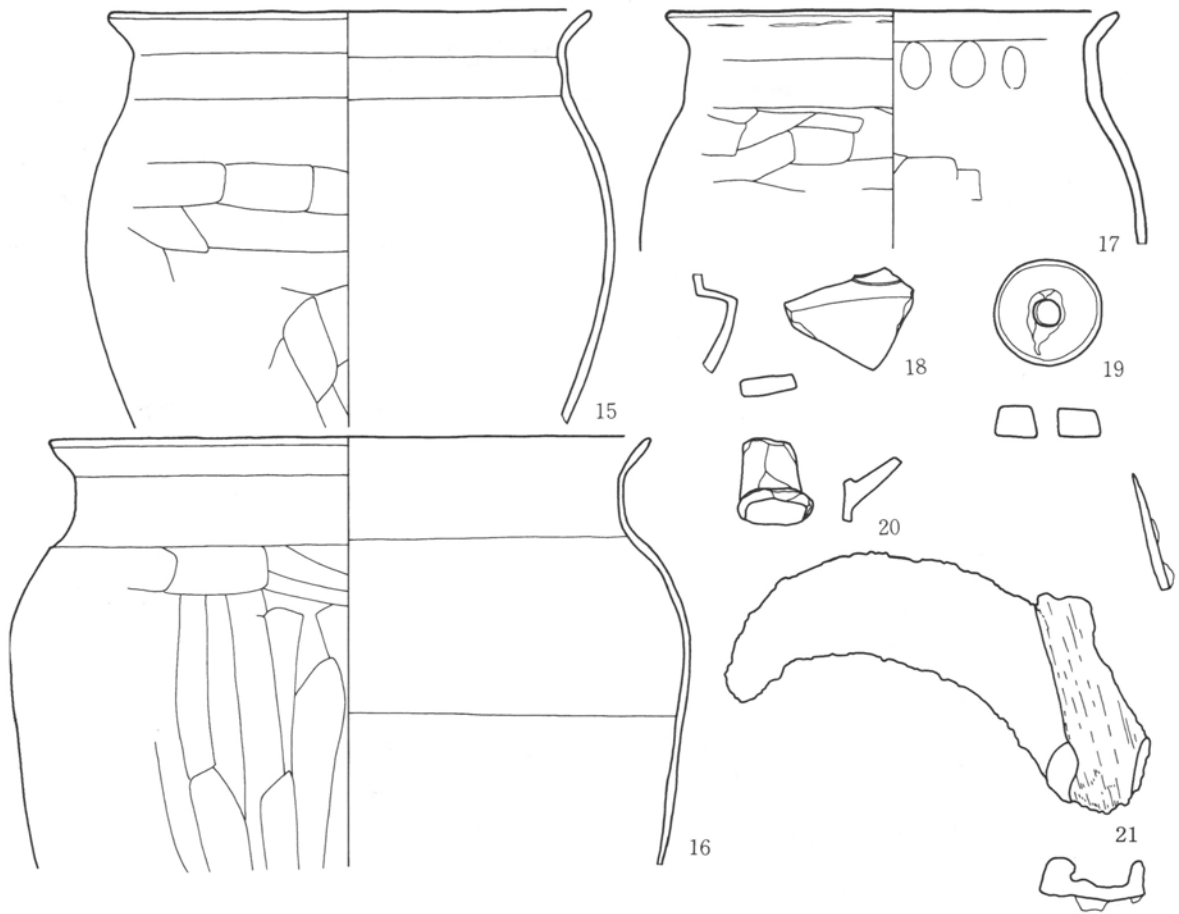
竈

- 1. 褐灰色土層 ローム多量に混入
 - 2. 明褐灰色土層 天井の崩落土
 - 3. 暗赤灰色焼土・黒色炭化物・赤橙色化した壁材ブロック混土
- 掘方
- I. 赤灰色炭化物・粘土・灰・焼土混土
 - II. 明褐灰色土層 灰、焼土、粘土含む
 - III. 褐灰色粘土質土 灰、粘土、焼土含む
 - IV. にぶい黄橙ローム質土 灰、粘土、焼土含む



第60図 C2号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第61図 C2号住居跡出土遺物(2)

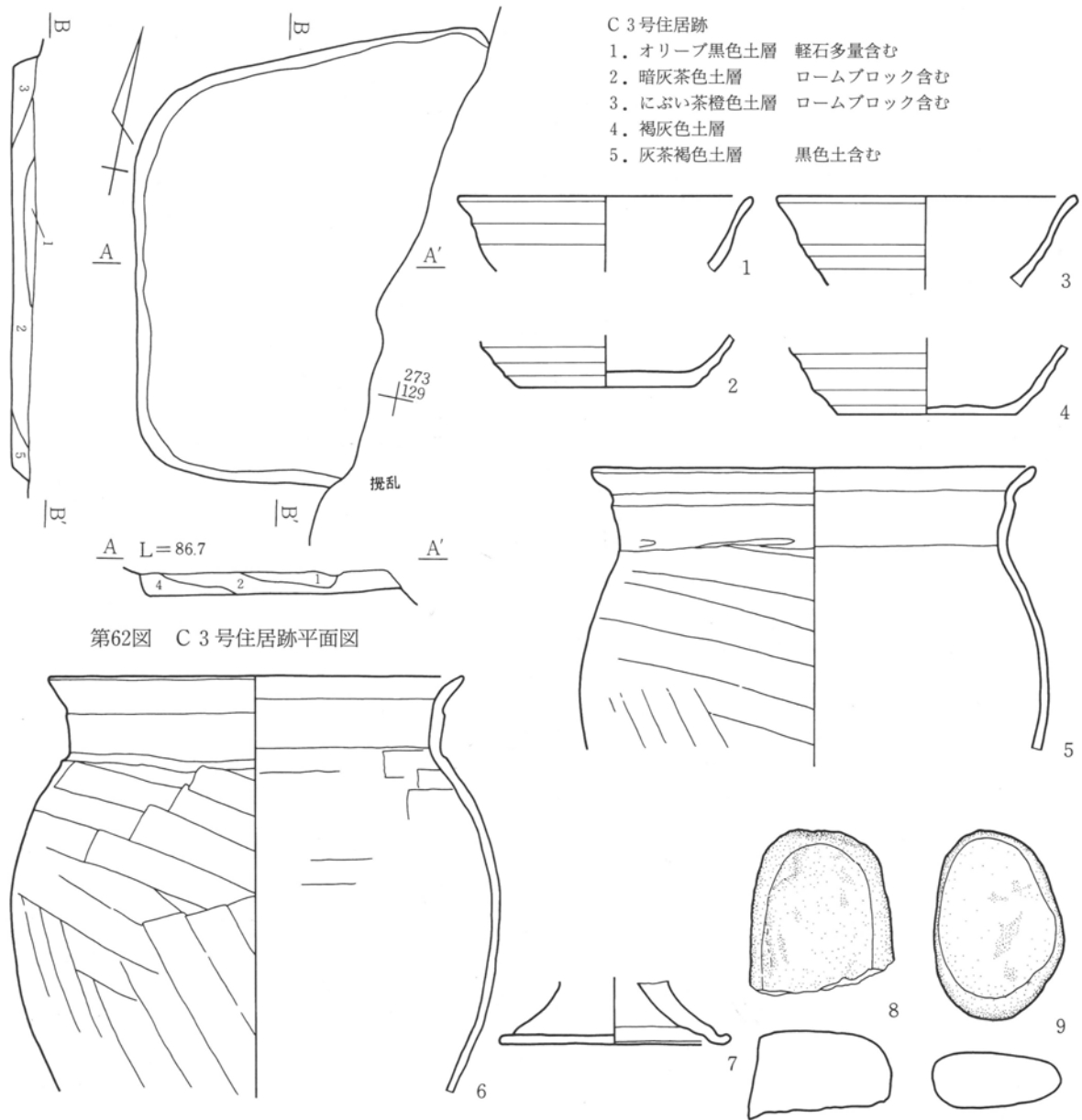
C2号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 甕	口 12 高(3.3)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 8 橙	口縁部内外面よこなで 外面 体部ヘラ削り調整 内面 などで 口縁部内外面部分的にすず附着
2	須恵器 甕	底 6.8 高(0.9)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 3 浅黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り
3	須恵器 甕	口 12.8 底 7 高 3.8	①細砂粒含む ②良好 ③5 Y 6 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り
4	須恵器 甕	底 7.4 高(2.7)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 2 灰黄褐	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
5	須恵器 甕	底 7 高 2	①白色粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
6	須恵器 甕	底 6	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 6 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り
7	須恵器 甕	口 12.4 底 6 高 4.3	①細砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 4 にぶい橙	轆轤整形 底部回転糸切り 内黒 内面磨き
8	須恵器 甕	底 8	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 4 にぶい橙	轆轤整形 底部回転糸切り
9	須恵器 甕	口 15 底 7 高 1.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 4 にぶい橙	轆轤整形 底部回転糸切り 口縁端部外反
10	土師器 甕	底 8.8	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	外面 ヘラ削り 内面 などで 脚 内外面よこなで
11	土師器 甕	口 13	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで
12	土師器 甕	口 17.2 高(7.3)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで
13	土師器 甕	口 19	①細砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで
14	土師器 甕	口 14.4	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 3 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで
15	土師器 甕	口 19	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 8 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで

16	土師器	口 24	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5 / 6 明褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで
17	土師器	口 18	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 指頭痕
18	須恵器 小壺		①細砂粒含む ②良好 ③5 Y 6 / 1 灰	小型壺の耳の部分破片 外面 自然釉
19	石製紡錘車	径 4.2 孔径 1 厚 1.25		
20	須恵器 耳環	厚 0.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 1 黄灰	4面ヘラ削り調整

C 3号住居跡 (第62・63図、PL28)

当住居跡はC区中央北部に位置し270-120・130グリッドの範囲にあり、1・2号住居跡の南東部にある。東半部は攪乱により壊されている。規模は西壁3.5mを測る。床面は平坦をなし、竈、貯蔵穴、柱穴等の施設は検出されていない。



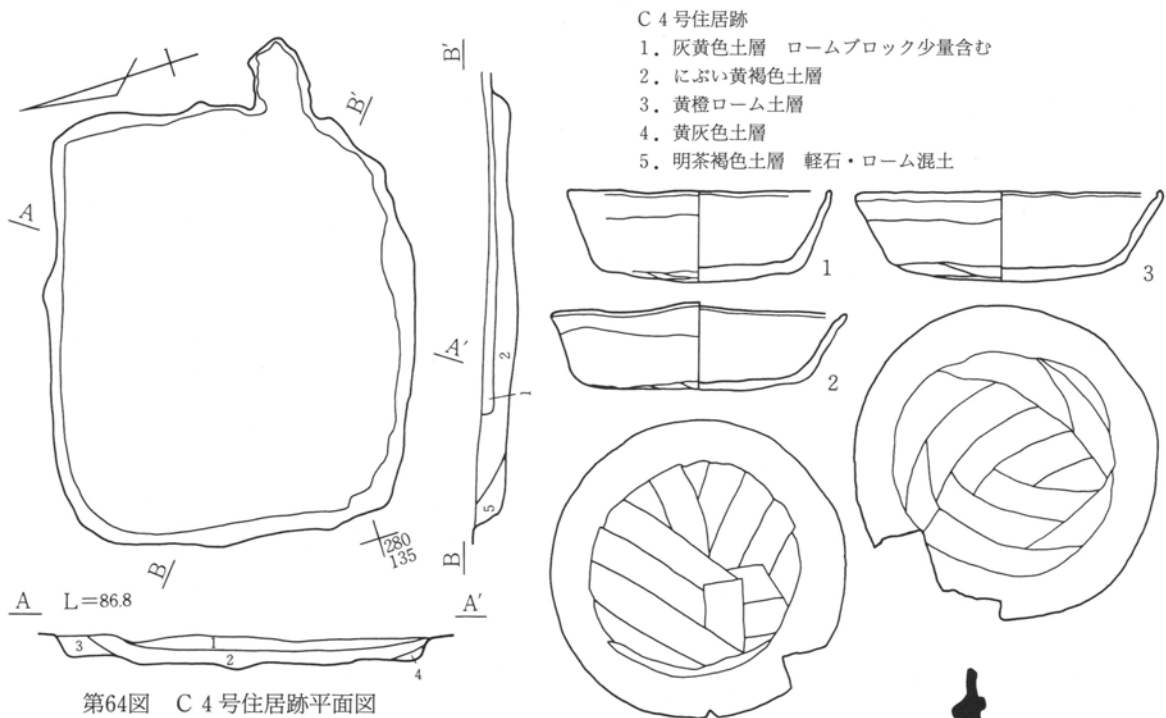
第3章 検出された遺構と遺物

C 3号住居跡

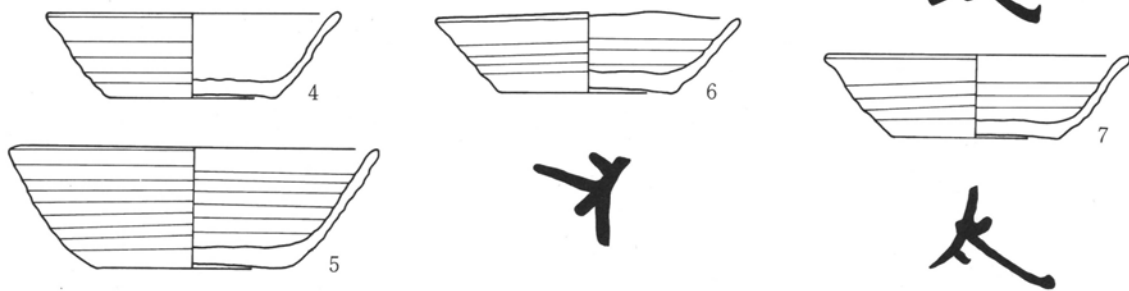
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器	口(12.6)	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/2灰白	轆轤整形
2	須恵器	底 7.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/2灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
3	須恵器	口(13)	①細砂粒含む ②良好 ③2.5Y3/2黒褐	轆轤整形
4	須恵器	底 7.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
5	土師器	口(19)	①砂粒含む ②良好 ③5YR4/3にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 ヘラなで なで
6	土師器	口(18)	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/6にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 ヘラなで なで
7	土師器	底(10)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙	脚部 内外面よこなで
8	石	幅 6.1 厚 3.5		
9	石	長 8.2 幅 5.6 厚 2.7		

C 4号住居跡 (第64~66図、PL 9・28・29)

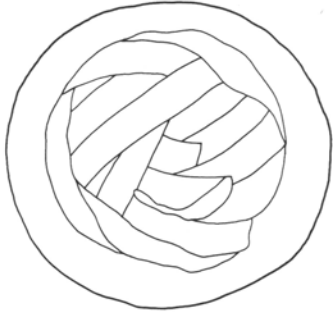
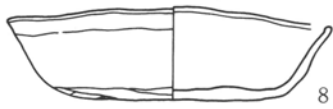
当住居跡はC区中央北部に位置し270・280-130グリッドの範囲にある。規模は長辺3.6m、短辺3mを測る。平面形態は長方形を呈し、竈は東壁南寄りに検出された。壁高は20cm~25cmを測る。床面は平坦をなし、貯蔵穴、柱穴、壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東に延び、煙道の痕跡は明確ではない。



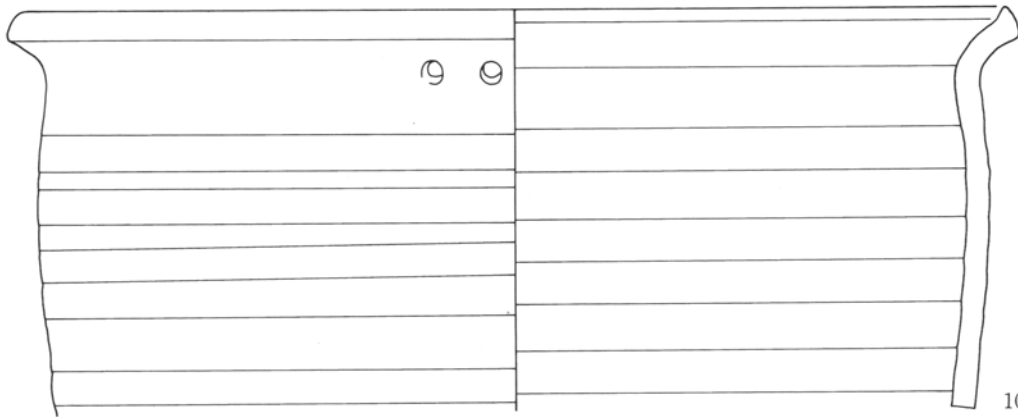
第64図 C 4号住居跡平面図



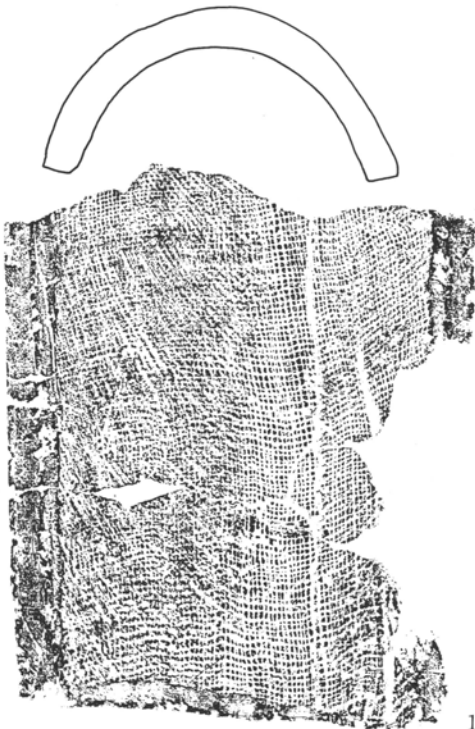
第65図 C 4号住居跡出土遺物(1)



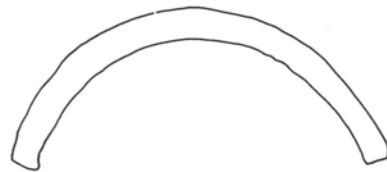
9



10



11



12



第66図 C 4号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

C4号住居跡

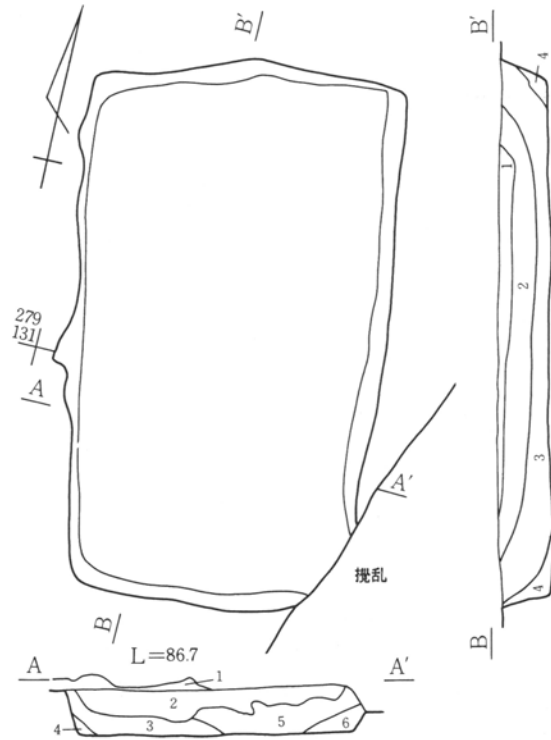
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器	口(10.4) 底 7.2 高 3.6	①細砂粒含む ②良好 ③7.5Y6/4にぶい橙	口縁部内外面よこなで 体部 などで 底部 ヘラ削り内面 などで
2	土師器	口 11.8 底 8 高 3.4	①細砂粒含む ②良好 ③5YR6/6橙	口縁部内外面よこなで 体部 などで 底部 ヘラ削り内面 などで 口縁部数カ所にすず付着
3	土師器	口 12.2 底 4.5 高 3.6	①細砂粒含む ②良好 ③7.5Y5/4にぶい橙	口縁部内外面よこなで 体部 などで 底部 ヘラ削り内面 などで 口縁部数カ所にすず付着
4	須恵器	口(11.8) 底 6.8 高 3.4	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
5	須恵器	口 14.6 底 7.6 高 4.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
6	須恵器	口 12 底 7 高 3.2	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
7	須恵器	口 12 底 6.6 高 3.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り 底部内外面に墨書「太」
8	須恵器	口 12.8 底 8.5 高 3.7	①細砂粒含む ②良好 ③7.5Y6/4にぶい橙	口縁部内外面よこなで 体部ヘラなどで 底部 ヘラ削り内面 などで 底部内外面に墨書
9	男瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y6/1灰	外面 ヘラなどで 内面 布目 剥ぎ取り痕 端面面取り1面 側部面取り2面
10	須恵器	口(39)	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 口縁部円孔2
11	男瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/2灰白	外面 ヘラなどで 内面 布目 剥ぎ取り痕 端面面取り1面 側部面取り3面
12	男瓦	厚 1.3	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	外面ヘラなどで 内面 布目 剥ぎ取り痕 端面面取り2面 両側部面取り1面

C5号住居跡 (第67~69図、PL29)

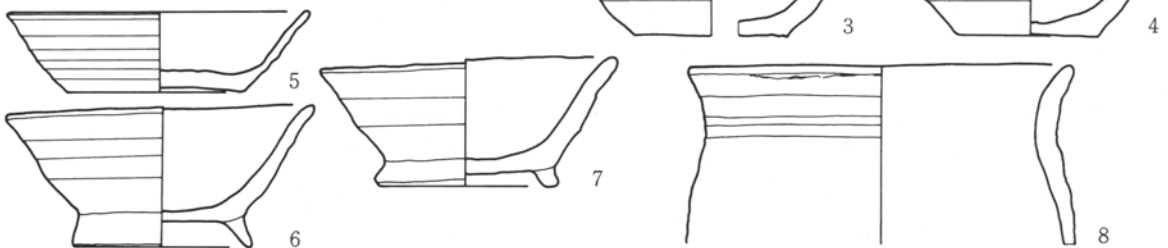
当住居跡はC区中央北部に位置し270・280—120・130グリッドの範囲にある。規模は長辺7m、短辺4mを測る。平面形態は長方形を呈するが、東側は大きく傾斜し攪乱が広がっている。このため当初の形態はさらに東に延びる事が想定される。東側の攪乱のため竈は検出されていない。残存する床面はほぼ平坦をなすが貯蔵穴、柱穴等の諸施設は検出されていない。壁周溝も検出されていない。しかし、壁高は30cm~40cmを確認した。

C5号住居跡

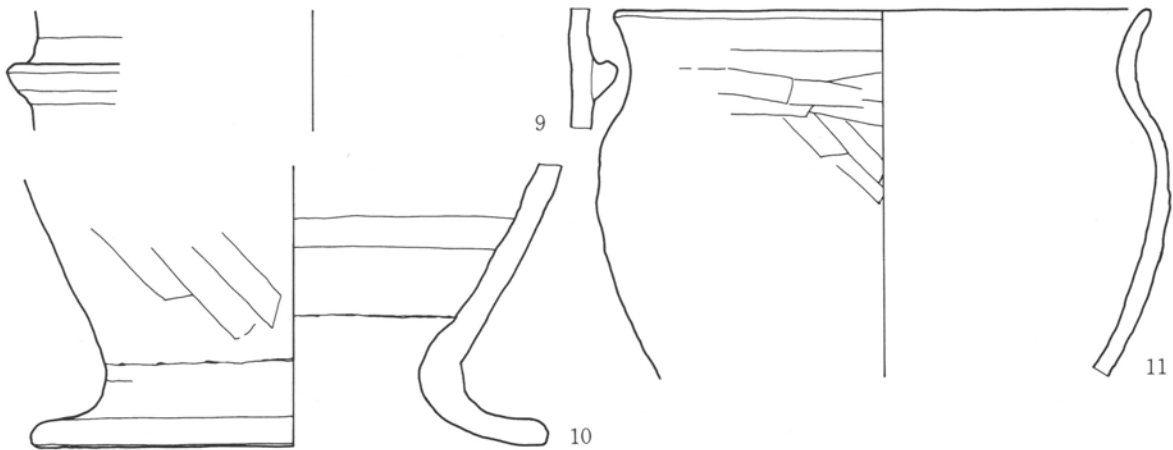
- 1. 褐灰色土層 粘土含む
- 2. 黒褐色土層 C軽石多量含む
- 3. 褐灰色粘質土
- 4. 浅茶褐色土層 ローム質土
- 5. 明茶褐色土層 ローム質土
- 6. にぶい橙色土層 ローム質土



第67図 C5号住居跡平面図



第68図 C5号住居跡出土遺物(1)



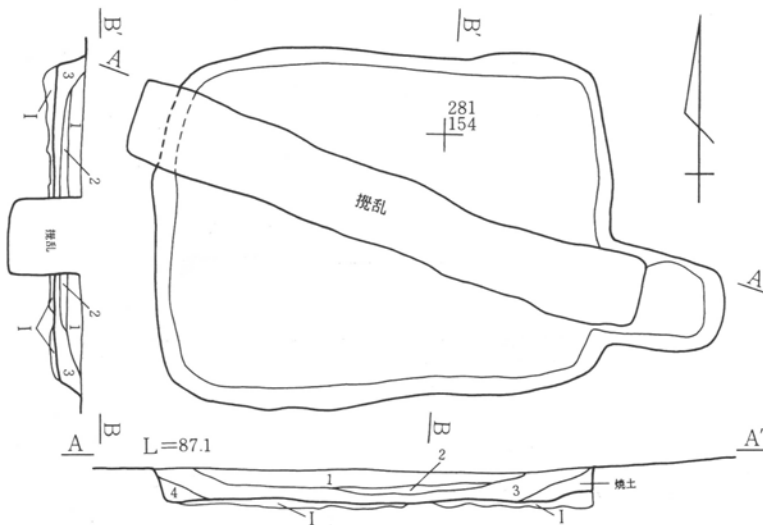
第69図 C5号住居跡出土遺物(2)

C5号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴	
1	土師器 坏	口(10.2) 高(3.9)	底(4.8)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y5/2暗灰黄	口縁部内外面よこなで 体部 ヘラなで ヘラ痕 内面 なで
2	須恵器 坏	口10.4 高4.1	底5.8	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/2灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り
3	須恵器 坏	口(11.3) 高4.1	底(6)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/2灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り
4	須恵器 坏	口11 高4.6	底5.5	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y5/2暗灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り
5	須恵器 坏	口12 高3.2	底7	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y5/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
6	須恵器 碗	口12.2 高5.3	底7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/3浅黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
7	須恵器 碗	口11.8 高5.4	底6.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
8	土師器 甕	口(15.3)		①砂粒含む ②良好 ③10YR5/2灰黄褐	口縁部内外面よこなで 内面 なで
9	羽釜			①砂粒含む ②良好 ③10YR8/3浅黄橙	轆轤整形 鈎や上を向く
10	甕	底20.2		①砂粒含む ②良好 ③10YR7/2にぶい黄橙	轆轤整形 外面 ヘラ調整
11	土師器 甕	口(21.2)		①砂粒含む ②良好 ③10YR5/2灰黄褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで

C6号住居跡 (第70・71図、PL30)

当住居跡はC区中央北部に位置し270・280—150グリッドの範囲にある。規模は長辺3.5m、短辺2.8mを測る。平面形態は長方形を呈し、竈は東壁南寄りに検出された。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、



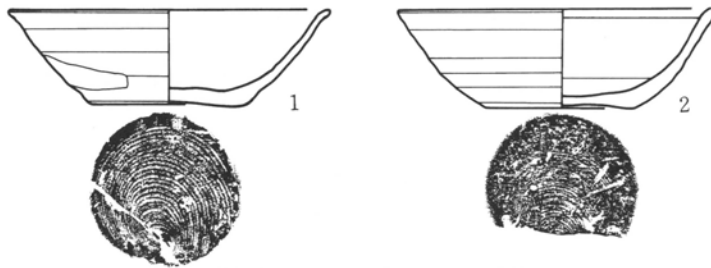
第70図 C6号住居跡平面図

貯蔵穴、柱穴、壁周溝等の諸施設は検出されていない。住居跡中央を東西方向やや南に傾き大きく攪乱が入っているため西壁の一部と床面は大きく削られている。竈も燃焼部前面まで攪乱を受けており内部の大半が壊されている。

C6号住居跡

- 1. にぶい黄橙色土層
- 2. 灰黄褐色土層
- 3. 褐灰色土層
- 4. にぶい黄橙色土層
- 掘方
- I. 浅灰色土層

第3章 検出された遺構と遺物



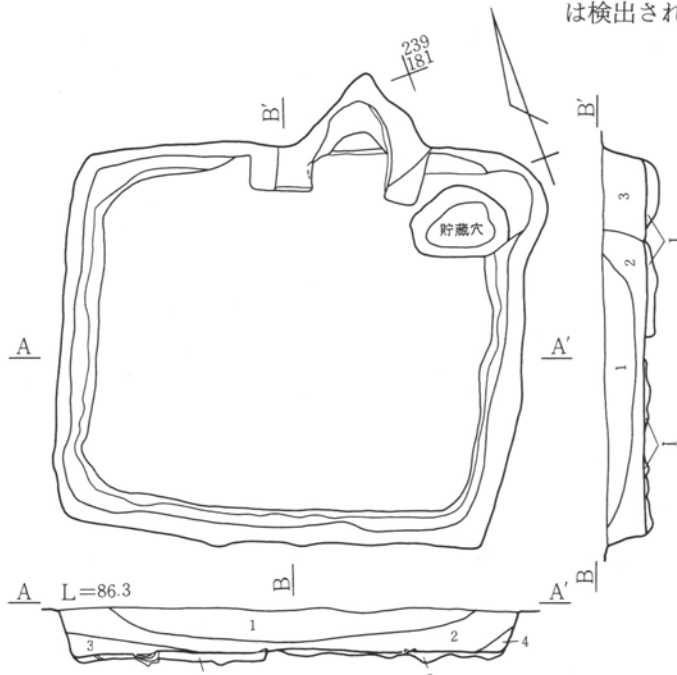
第71図 C6号住居跡出土遺物

C6号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 坏	口(12.8) 底(6) 高 3.7	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/3 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 成形後外面へラ調整
2	須恵器 坏	口 2.6 底 5.9 高 3.9	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 8/2 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り

C7号住居跡 (第72~74図、PL 9・30)

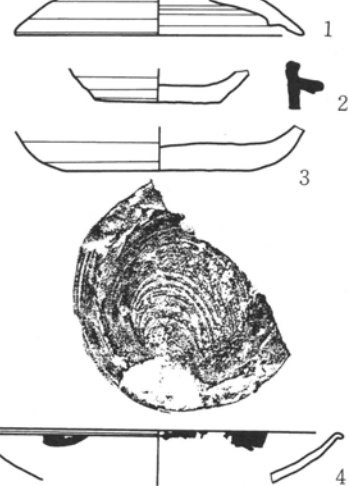
当住居跡はC区南西部に位置し230-180グリッドの範囲にある。規模は長辺3.7m、短辺3.1mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。他の遺構との重複はない。竈は北壁やや東寄りに検出された。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、北東コーナー部に貯蔵穴が検出された。規模は80cm×60cm、深さ約25cmである。4壁には壁周溝が検出され、幅約10cm~15cmを測り、深さ5cm前後から深い所では15cm前後を測る部分もある。また柱穴等の施設は検出されていない。竈は燃燒部から奥に向かい段を持ち高くなっているが煙道部までは検出されていない。両袖部はやや床面上に延びている。



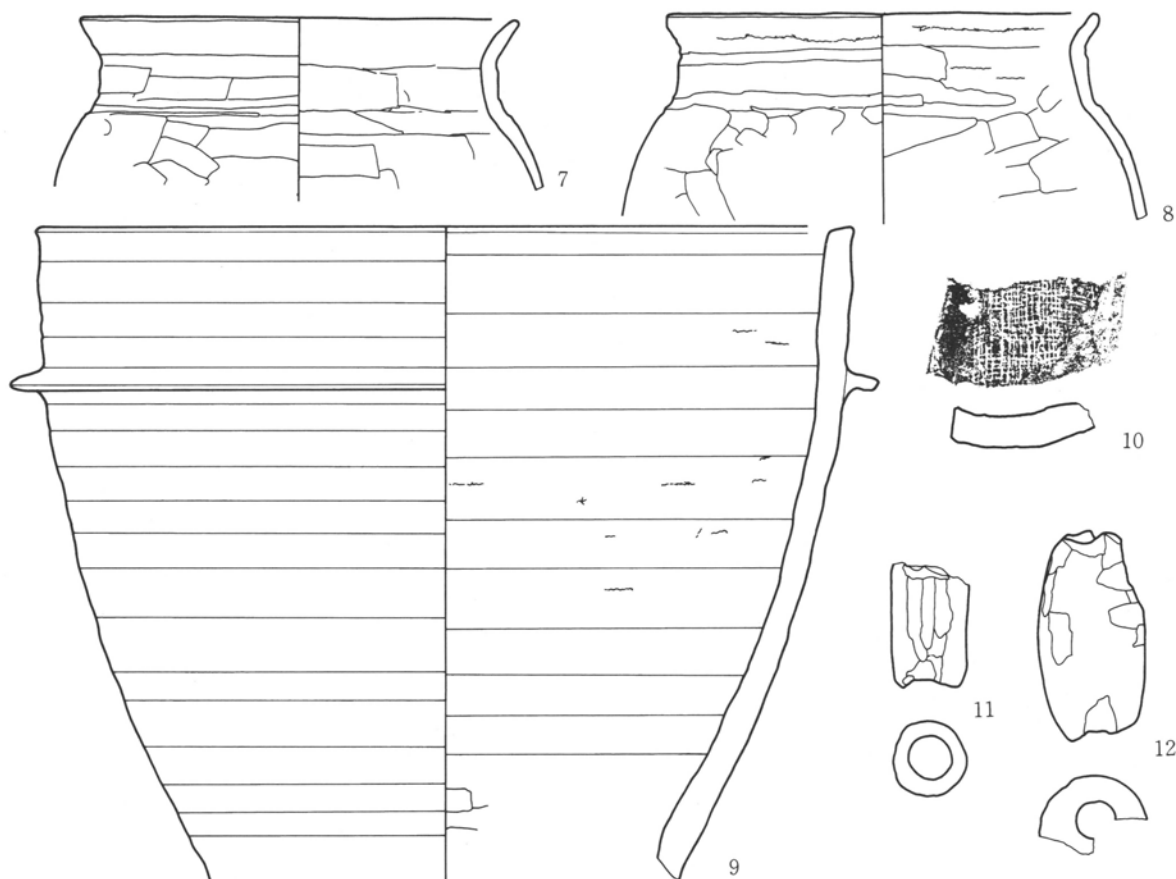
第72図 C7号住居跡平面図

C7号住居跡

- 1. にぶい黄橙色土層
- 2. 褐色土層
- 3. 黄灰色土層
- 4. 鈍い黄橙色土層にロームブロック混入掘方
- I. 褐灰色土層 黄色ロームブロック混土、灰色粘土多量含む



第73図 C7号住居跡出土遺物(1)



第74図 C7号住居跡出土遺物(2)

C7号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器	口(11.4)	①緻密 ②良好 ③N5/0灰	轆轤整形 県外産 断面はセピア色
2	須恵器 坏	底(5)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y8/2灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 底部外面に墨書
3	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台欠落
4	灰釉陶器 皿	口(14.6)	①緻密 ②良好 ③2.5Y8/1灰白	轆轤整形 口縁端部部分的にすず付着
5	土師器	口(17)	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR5/6明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 なで
6	土師器	口(20.2)	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 なで
7	土師器	口(15.4)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/4にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 外面 頸部へらなで調整 胴部へら削り 内面 なで
8	土師器	口(17)	①砂粒含む ②良好 ③10YR6/4にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 へらなで調整
9	甕	口(32.2)	①砂粒含む ②良好 ③10YR5/1褐灰	轆轤整形 鈔薄く下方を向く
10	瓦	厚 1.2	①砂粒含む ②良好 ③5Y5/1灰	外面 へらなで 内面 布目 側部面取り2面
11	土 錘	径 3 孔径1.7	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/6明赤褐	外面 へら調整
12	土 錘	長 8	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	片側は破損 外面 へら調整

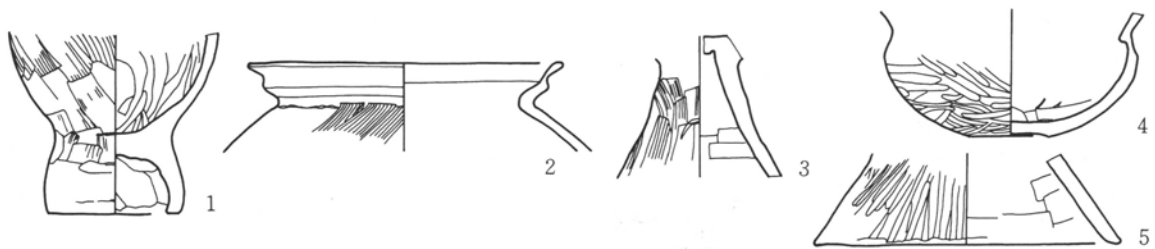
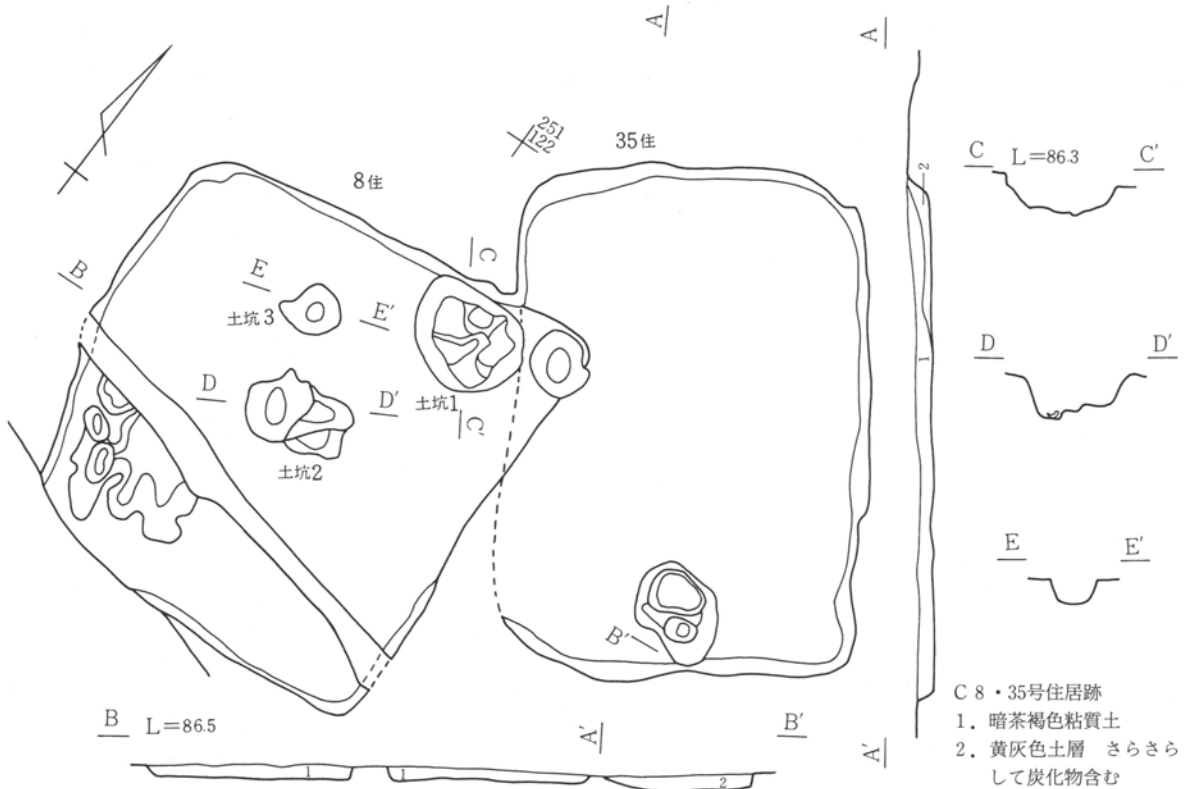
C8号住居跡・35号住居跡 (第75・76図、PL30)

8号住居跡はC区ほぼ中央に位置し240-120グリッドの範囲にある。規模は一辺3.5mを測る。平面形態はほぼ正方形を呈する。他の遺構との関係は北東部で35号住居跡と重複する。新旧関係は8号住居跡が新しい。出土した遺物からは8・35号住居跡ともに4世紀代の遺構と考えられる。壁高は10cm~15cmを測る。床面は

第3章 検出された遺構と遺物

ほぼ平坦をなし、炉、柱穴等の施設は検出されていない。土坑が3基検出され、各々1～3とした。規模は1、1m×80cm、深さ30cm。2、90cm×60cm、深さ40cm。3、径約40cm、深さ30cmを測る。

35号住居跡はC区ほぼ中央に位置し240・250—110・120グリッドの範囲にある。規模は長辺4m、短辺2.9mを測る。平面形態は長方形を呈する。他の遺構との重複は西壁で8号住居跡と重複する。新旧関係は8号住居跡が新しい。壁高は10cm～15cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝、柱穴、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。炉は検出されていない。

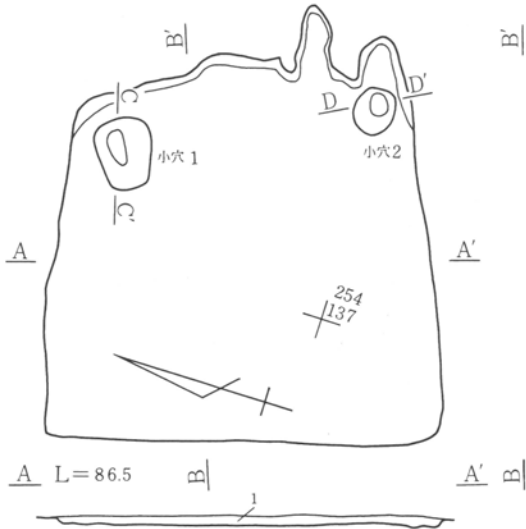


C 8・35号住居跡

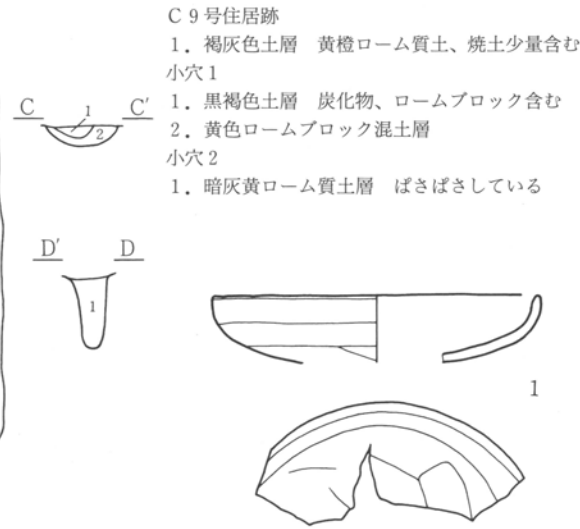
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土器 小型台付甕	底 5.2	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5/4 にぶい黄褐	外面 刷毛目 内面ヘラ調整 絞り痕 脚は内湾し低い
2	土器 甕	口(6.2)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6/2 灰黄	口縁部外面よこなで 頸部 ヘラ先で調整 胴部 刷毛目 内面 なで S字状口縁台付甕
3	土器 器台		①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/3 にぶい黄橙	外面 刷毛目後部分的にヘラなで 外面 ヘラなで
4	土器 小型器埴	底 3	①細砂粒含む ②良好 ③10YR 6/4 にぶい黄橙	体部 外面ヘラ磨き 内面 ヘラなで
5	土器 高器環	底(12.2)	①細砂粒含む ②良好 ③5 YR 5/6 明赤褐	外面 磨き 内面 ヘラなで

C 9号住居跡 (第77・78図)

当住居跡はC区中央部に位置し250—130グリッドの範囲にある。他の遺構との重複はない。規模は1辺3mを測り、平面形態は西壁がやや開く台形状を呈する。東壁は住居跡の範囲は明確だが西に向かうに従い住居跡の壁は明瞭ではない。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなし、南東コーナー部に貯蔵穴と思われる小穴、また北東コーナー部に小穴が検出され、各々1・2とした。規模は1、径約60cm×45cm、深さ約20cm。2、径約30cm、深さ70cmを測る。柱穴、壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。



第77図 C 9号住居跡平面図



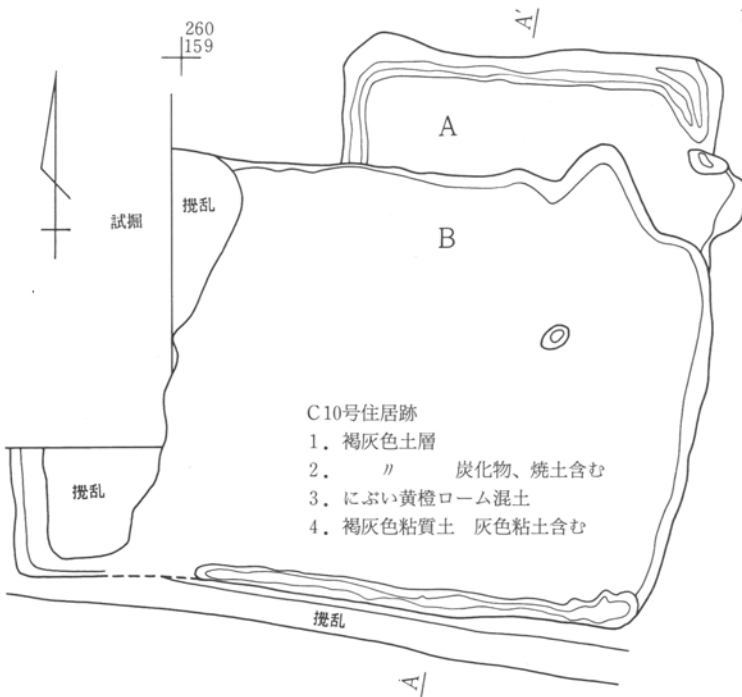
第78図 C 9号住居跡出土遺物

- C 9号住居跡
- 1. 褐灰色土層 黄橙ローム質土、焼土少量含む
 - 小穴1
 - 1. 黒褐色土層 炭化物、ロームブロック含む
 - 2. 黄色ロームブロック混土層
 - 小穴2
 - 1. 暗灰黄ローム質土層 ばさばさしている

C 9号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 土師環	口(13) 高(2.7)	①細砂粒含む ②良好 ③10YR 6/4明黄褐	口縁部内外面よこなで 体部 などで 底部 ヘラ削り内面 などで

C10号住居跡 (第79~81図、PL 9・30)



第79図 C10号住居跡平面図

- C10号住居跡
- 1. 褐灰色土層
 - 2. // 炭化物、焼土含む
 - 3. にぶい黄橙ローム混土
 - 4. 褐灰色粘質土 灰色粘土含む

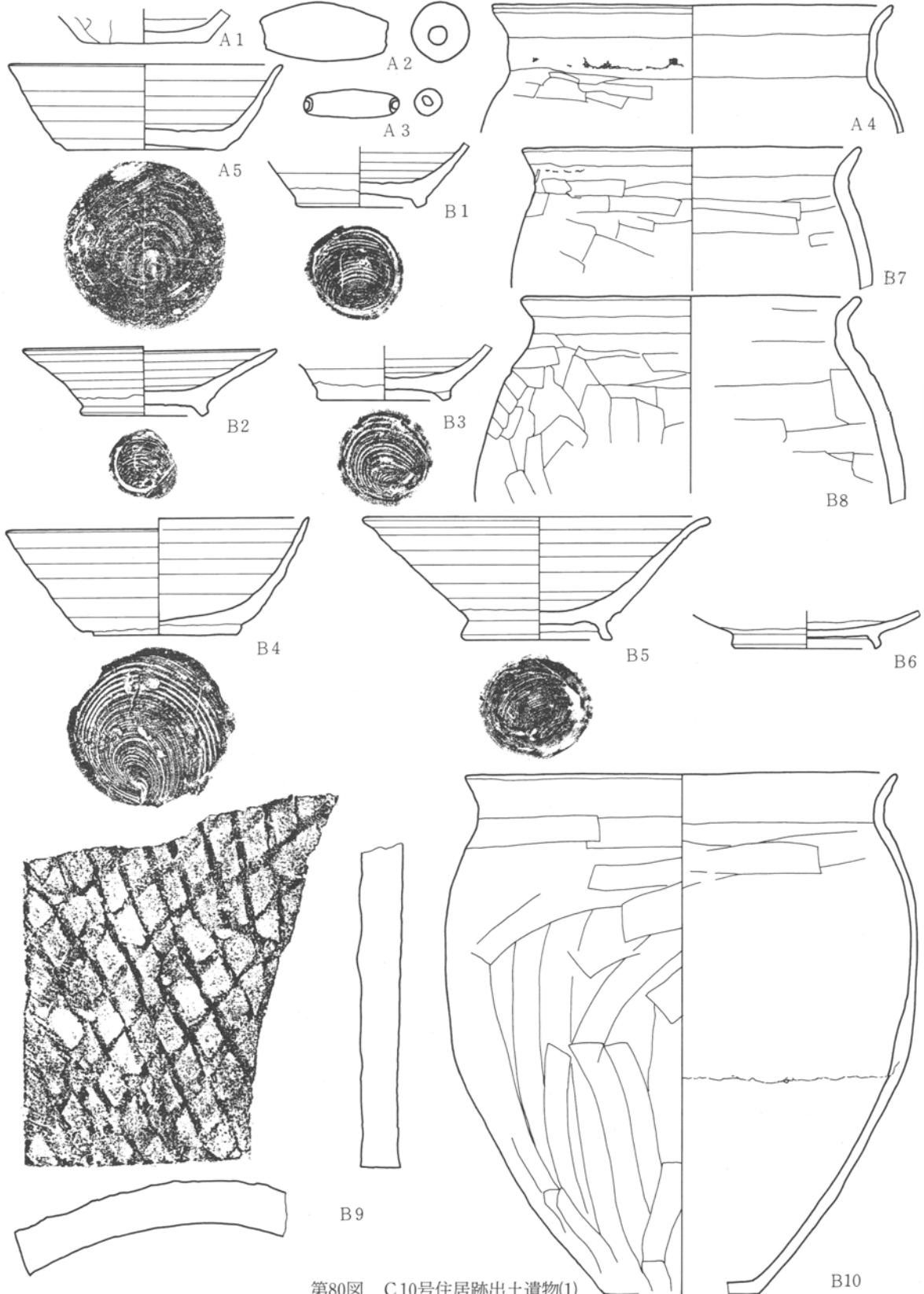


当住居跡はC区中央に位置し250—150グリッドの範囲にある。調査時の所見によれば1軒としているが整理時の検討により2軒とした。このため10号住居跡A・Bとし、北側をA、南側をBとした。新旧関係はBが新しい。

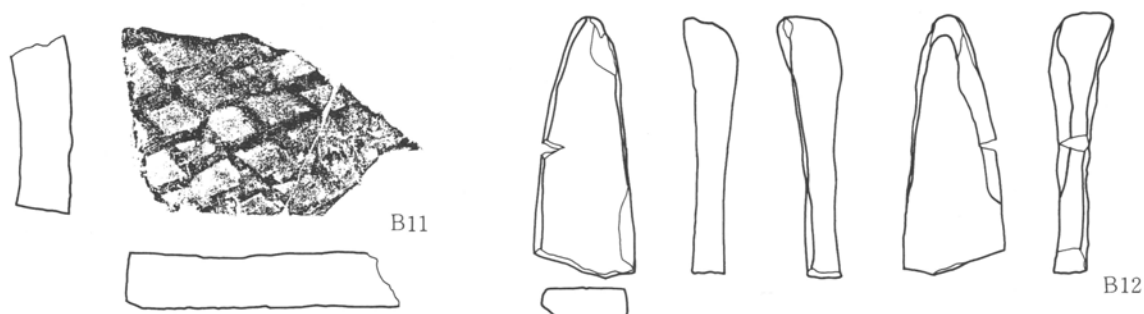
Aは南半部をBにより切られている。規模は東西軸で3mを測る。平面形態は方形を呈すると思われる。床面は平坦をなし、北壁、西壁に壁周溝が検出された。周溝の規模は幅約15cm~20cm深さ約6cmを測る。壁高は約20cmを測る。柱穴、貯蔵穴等の施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。

第3章 検出された遺構と遺物

Bの規模は長軸5.5m、短軸3.5mを測る。平面形態は長方形を呈する。壁高は15cm~20cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴、柱穴等の諸施設は検出されていない。南壁で壁周溝が検出され、幅約25cm、深さ約7cm~10cmを測る。竈は北壁東寄りに検出された。



第80図 C10号住居跡出土遺物(1)



第81図 C10号住居跡出土遺物(2)

C10号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
A-1	土師器 坏	底(6.4)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR7/6橙	外面 ヘラなどで 内面 などで
2	土 鍾	長 6.5 径 1.4 孔径0.5	①細砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/6にぶい褐	外面 ヘラ調整
3	土 鍾	長 4.8 径 1.4 孔径0.5	①細砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/6にぶい褐	外面 ヘラ調整
4	土師器 甕	口(20.2)	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR5/6明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで
5	須恵器 坏	口(13.8) 底(8) 高 4.3	①砂粒含む ②良好 ③5Y4/1灰	轆轤整形 底部回転ヘラ調整
B-1	須恵器 碗	底 6.6	①砂粒含む ②良好 ③10YR5/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
2	須恵器 皿	口 12.9 底 6 高 3.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y4/1黄灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
3	須恵器 碗	底 6.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y8/2 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
4	須恵器 坏	口 15.3 底 8.2 高 5.9	①細砂粒含む ②良好 ③10YR4/1褐灰	轆轤整形 底部回転糸切り 底部円形粘土板作り
5	須恵器 碗	口(17.5) 底 7.6 高 6.2	①細砂粒含む ②良好 ③7.5YR7/3にぶい橙	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
6	灰釉陶器 皿	底(14)	①緻密 ②良好 ③2.5Y6/2灰黄	轆轤整形 底部回転ヘラ調整 付け高台 高台断面 三日月状を呈す
7	土師器 甕	口(17)	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで
8	土師器 甕	口(17.2)	①砂粒含む ②良好 ③10YR8/2灰白	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り後などで 内面 ヘラなどで
9	女 瓦	厚 2.1	①砂粒含む ②良好 ③10YR8/3浅黄橙	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部側面取り1 面
10	土師器 甕	口 21.7	①砂粒含む ②良好 ③5YR6/6橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで
11	女 瓦	厚 2.0	①砂粒含む ②良好 ③10YR8/2灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部側面取り1面
12	砥 石	厚 1.2		

C11号住居跡 (第82図)

当住居跡はC区西部に位置し240-150グリッドの範囲にある。調査時の所見では住居跡の床を確認したが明確な範囲、壁の検出には至っていない。その想定範囲は調査時の所見に従い全体図に図示した。



第82図 C11号住居跡出土遺物

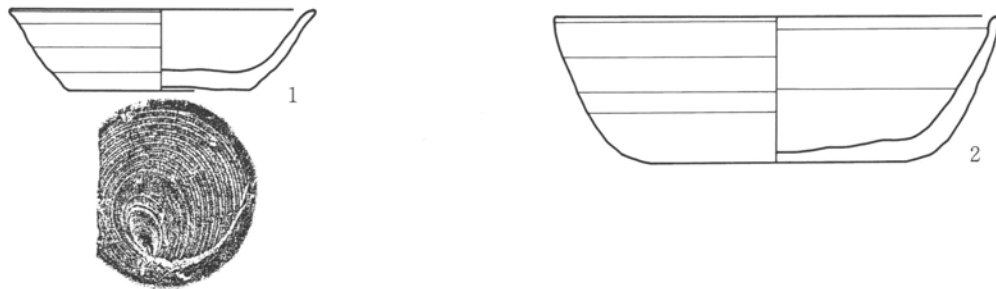
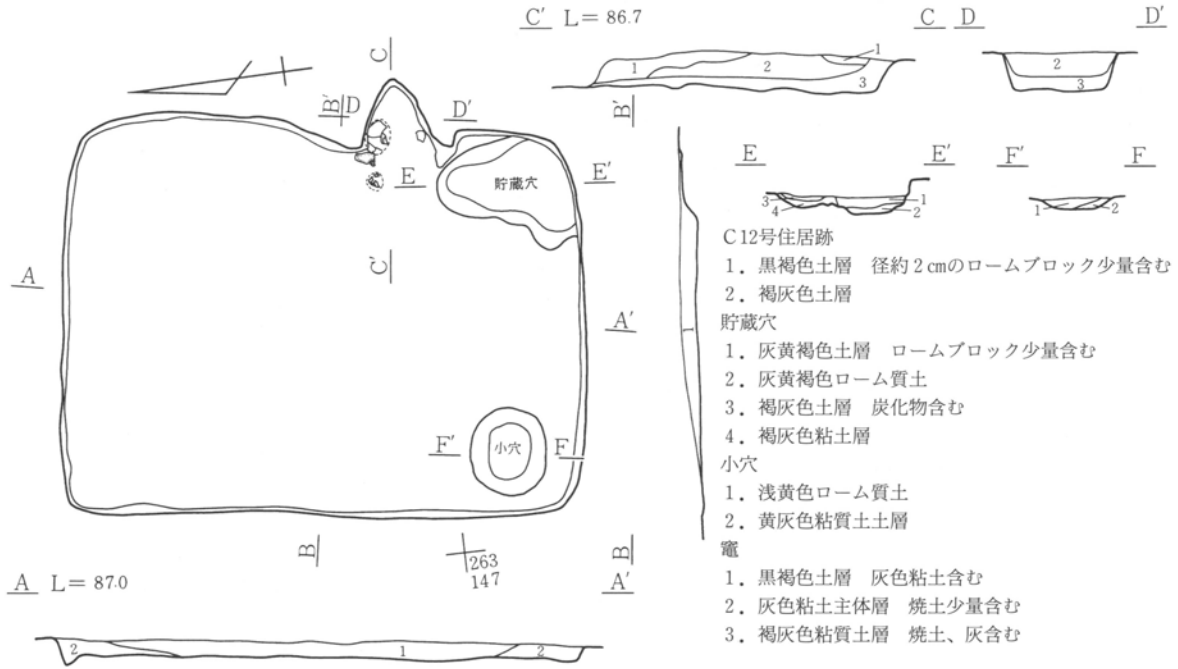
C11号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 碗	底(6.6)	①砂粒含む ②やや軟質 ③2.5Y7/2灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
2	須恵器 碗	口(13.0)	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/2灰白	轆轤整形

第3章 検出された遺構と遺物

C12号住居跡 (第84・85図、PL 9・31)

当住居跡はC区ほぼ中央に位置し260—140グリッドの範囲にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3.2mを測る。壁高は約15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、柱穴、壁周溝等の施設は検出されていない。貯蔵穴は南東コーナー部竈際に検出され、他に南西コーナー部に小穴が検出された。各々の規模は貯蔵穴が1.1m×60cm、深さ約10cmを測る。小穴は70cm×60cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は長軸55cm、袖幅50cmを測り、左袖部に袖材と考えられる石を検出した。煙道部等の施設は検出されていない。遺物は竈前面に破片等が検出されたが出土量はあまりない。



第84図 C12号住居跡出土遺物

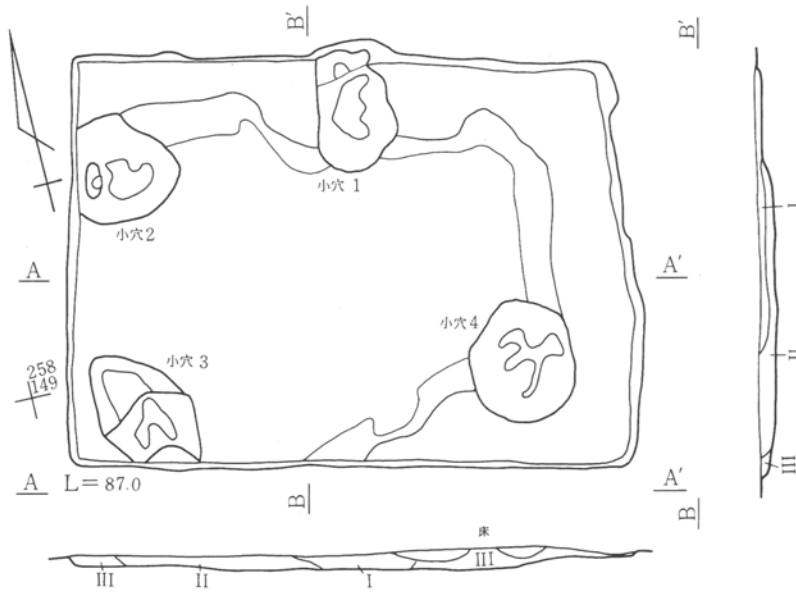
C12号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 環	口 12.2 高 7.3 底 3.2	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
2	須恵器 碗	口 17.6 高 5.8 底 10	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 3 にぶい黄	轆轤整形 底部 腰部回転ヘラ調整 銅碗を模した?

C13号住居跡 (第85図)

当住居跡はC区ほぼ中央に位置し250・260—140グリッドの範囲にある。規模はほぼ長方形を呈し、他の遺構との重複はない。調査時の所見によれば確認面は床面であり、住居跡の規模その他は掘方により確認した。規模は長辺4.5m、短辺3.3mを測る。西部にかけて床面が約10cm低くなり、4ヶ所に小穴が確認され、各々

第3節 C 区



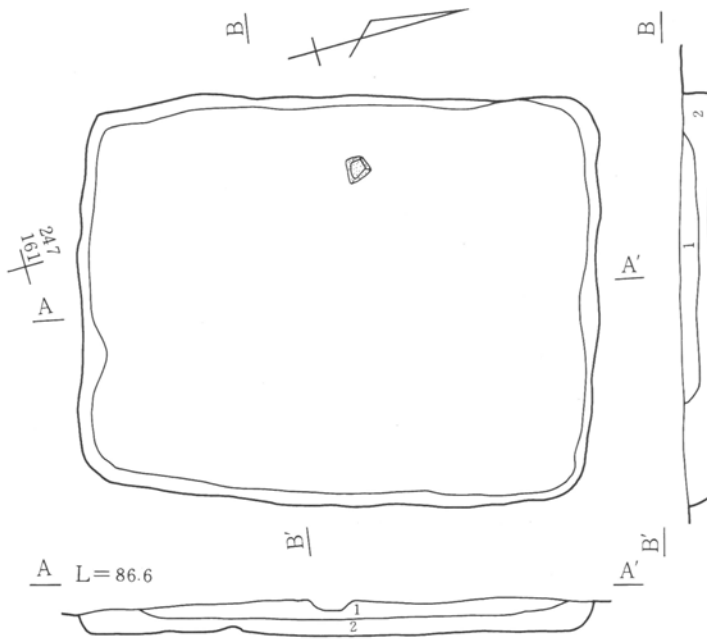
第85図 C13号住居跡平面図

1～4とした。規模は1、1m×60cm、深さ25cm。2、径約80cm、深さ25cm。3、1.2m×70cm、深さ20cm。4、1m×70cm、深さ20cmを測る。柱穴、竈等の諸施設は検出されていない。遺物の出土も確認されていない。

- 13号住居跡掘方
 床面 褐灰色土層
 I. 褐灰色土層 黄橙ローム
 ブロック少量含む
 II. 灰黄褐色ローム質土
 III. 褐灰色土層 ローム
 ブロック混入

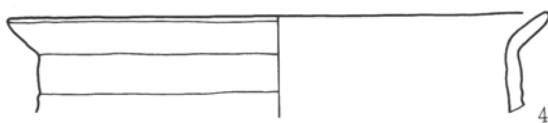
C14号住居跡 (第86～88図)

当住居跡はC区西部に位置し240・250—150・160グリッドの範囲にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.1m、短辺3.3mである。壁高は約20cmを測る。床面は平坦をなし竈、貯蔵穴、柱穴等の諸施設は検出されていない。

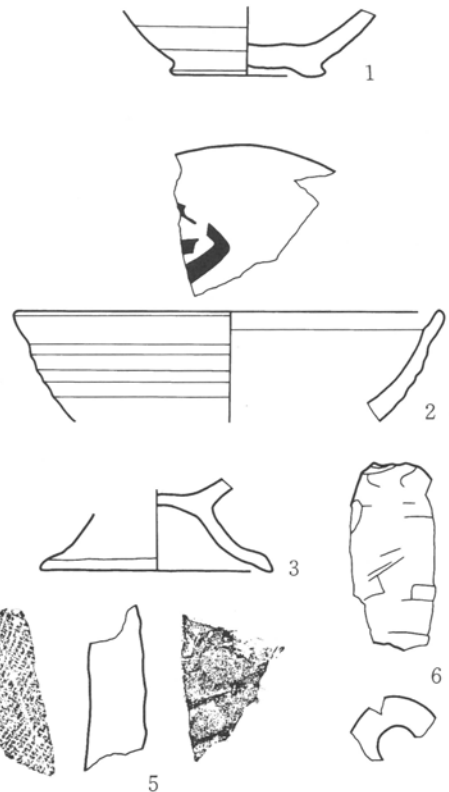


第86図 C14号住居跡平面図

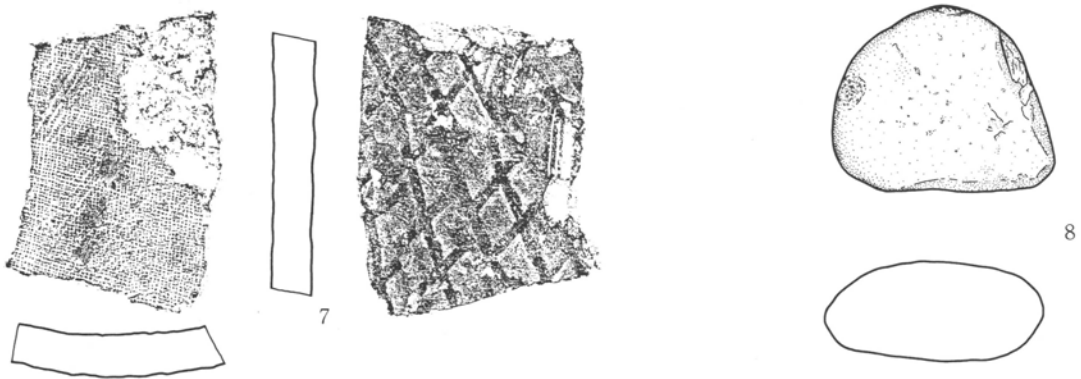
- C14号住居跡
 1. 褐灰色土層
 2. " 強くしまっている



第87図 C14号住居跡出土遺物(1)



第3章 検出された遺構と遺物

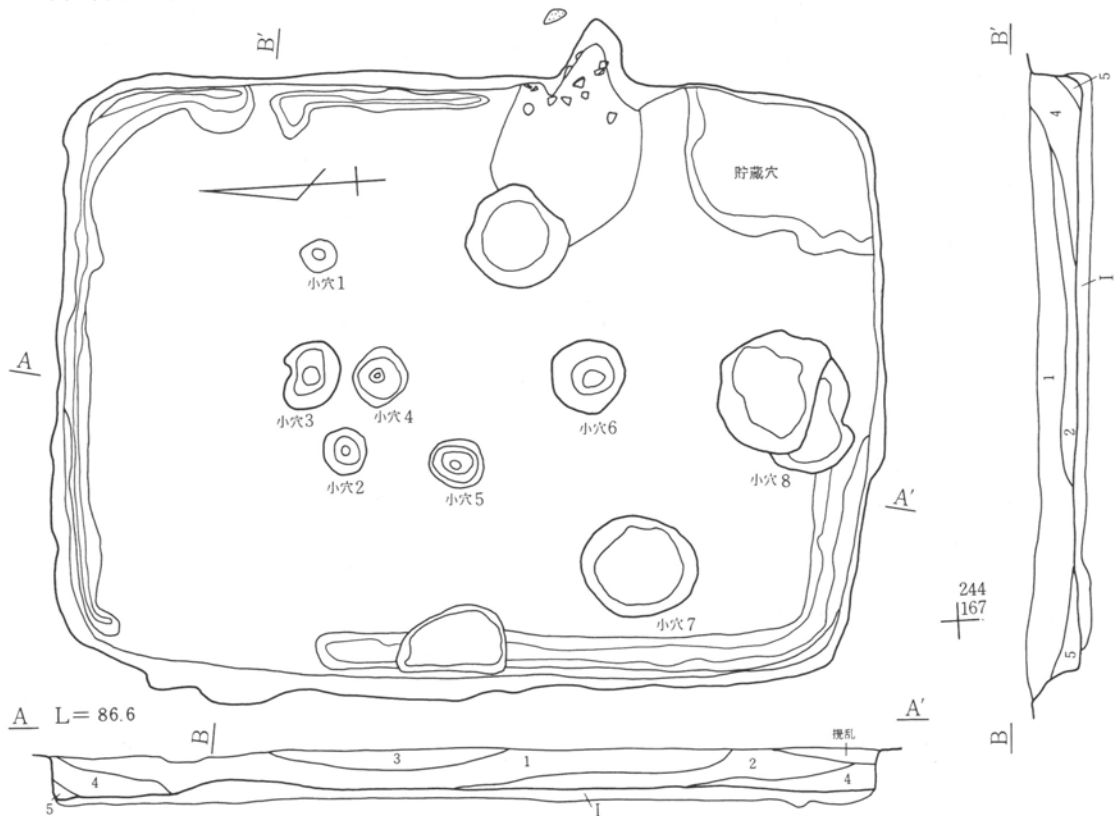


第88図 C14号住居跡出土遺物(2)

C14号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器	底(6.2)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/4 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
2	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/2 灰黄	轆轤整形 外面に墨書
3	土師器	底 9.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5/4 にぶい褐	内外面よこなで
4	土師器	口(20.4)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7/4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 口縁部コの字を呈する
5	瓦	厚 2.2	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 7/3 浅黄	内面 布目 外面 格子目叩き
6	土錘		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 5/1 黄灰	外面ヘラ調整
7	瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/2 灰黄	外面 斜格子目叩き 内面 布目
8	すり石	長 7.2 幅 8.7 厚 3.9		両面平坦面にすった跡

C15号住居跡 (第89~94図、PL10・31~33)



第89図 C15号住居跡平面図

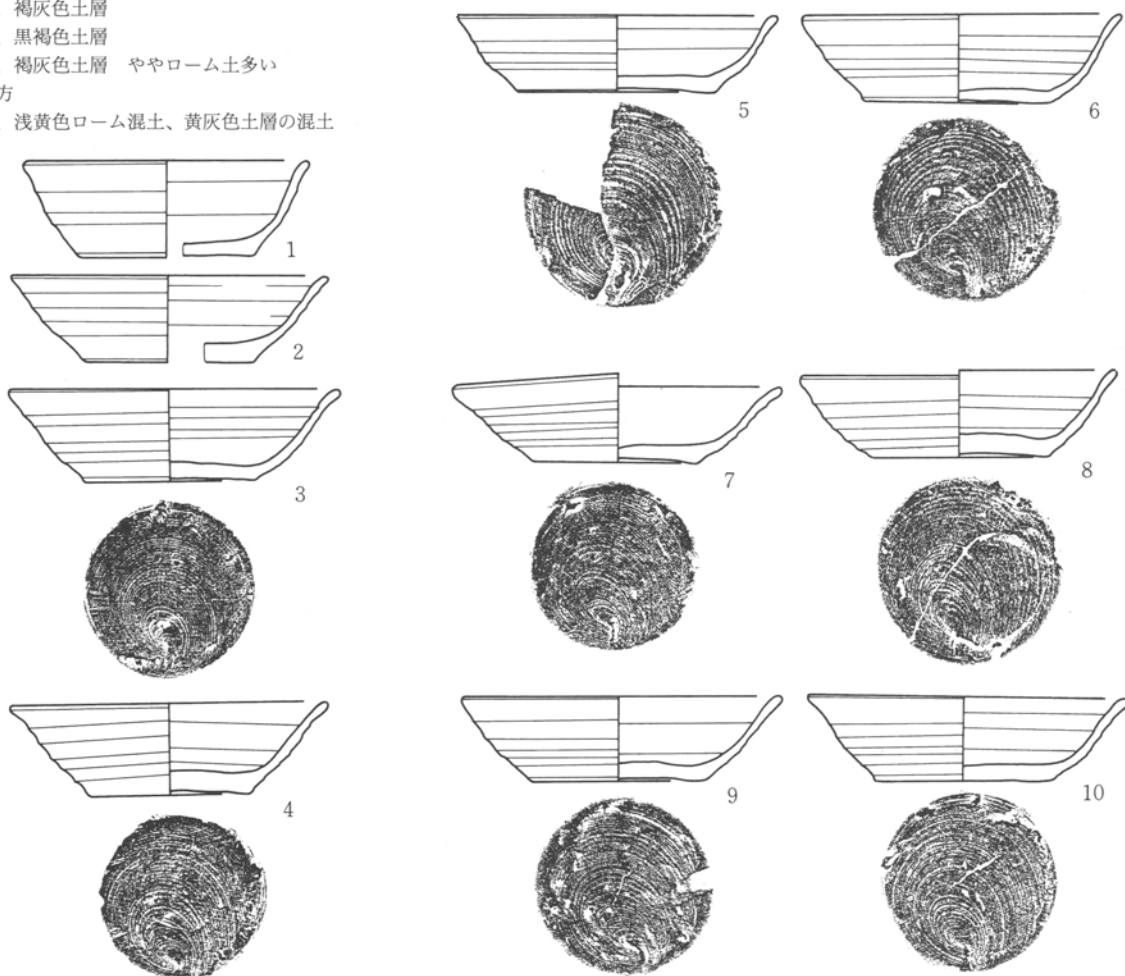
当住居跡はC区西部に位置し240・250—160グリッドの範囲にある。他の遺構との重複はない。平面形態は長方形を呈する。規模は長辺6.6m、短辺5mを測る。壁高は約40cmを測り大形の住居跡である。床面は平坦をなし、北壁の一部と南西コーナー部に壁周溝が認められた。貯蔵穴は南東竈脇に、柱穴は住居跡中央部に3本が確認されたが土坑の可能性あるいは中心が細く深く、平面形態が円を描くため轆轤等の施設の可能性も考えられる。各々1～8とした。規模は1、径30cm、深さ29cm。2、径30cm、深さ37cm。3、50cm×40cm、深さ69cm。4、径50cm、深さ37cm。5、径40cm、深さ40cm。6、径60cm、深さ83cm。7、径1m、深さ17cm。8、径1m、深さ42cmを測る。竈は東壁やや南寄りに確認された。規模は長軸1.2m、袖幅1.5mを測る。明確な形での袖は確認されていない。出土遺物は大量に出土している。特に須恵器の椀、坏が多く皿、蓋等の器種も出土している。さらにこれらの破損品が大量に出土し、まるで窯の灰原を想定させ、耳環の耳の部分のみがまとまって出土している。また甕等の煮炊き具は非常に少なく、瓦も多量に出土している。床面に確認された轆轤ピットと考えられる4は径50cmで、中央の小穴の周囲は深さ17cmを測り平坦面を持っている。同様に7も深さ17cmで平坦面を持つ。西に接するB区の須恵窯には置き台に利用された瓦も確認されており、この集落内の工房としての意味合いを想定させる。

C15号住居跡

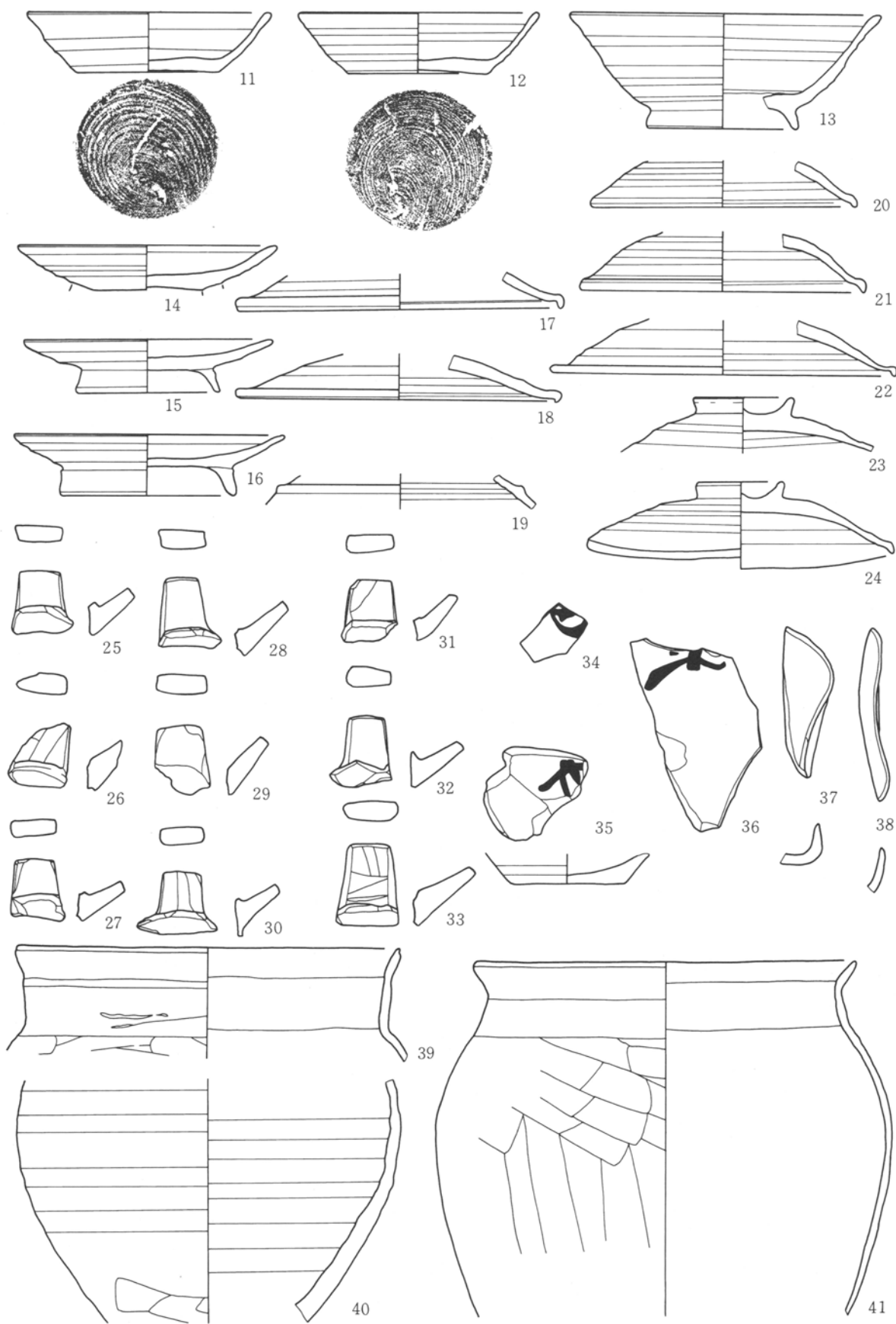
1. 褐灰色土層
2. におい黄橙ローム質土 明黄褐色ロームブロック含む
3. 褐灰色土層
4. 黒褐色土層
5. 褐灰色土層 ややローム土多い

掘方

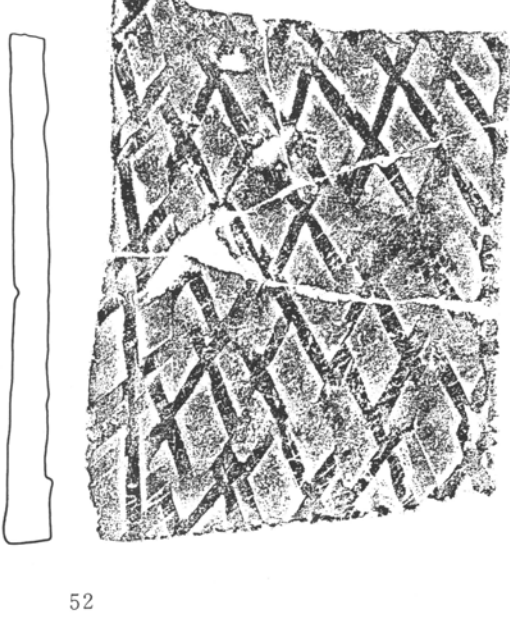
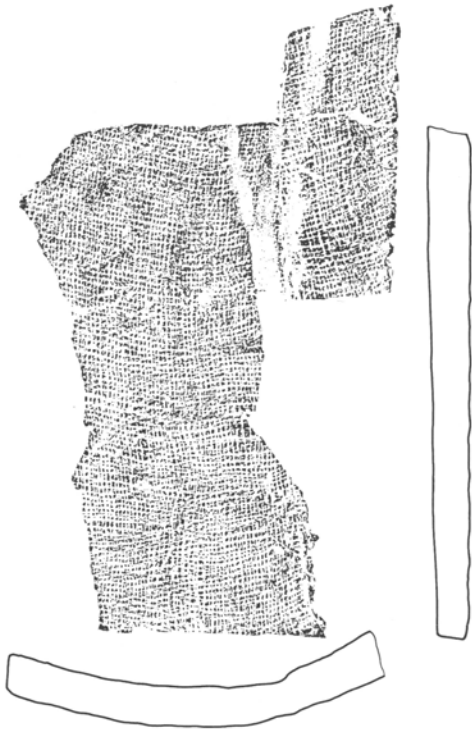
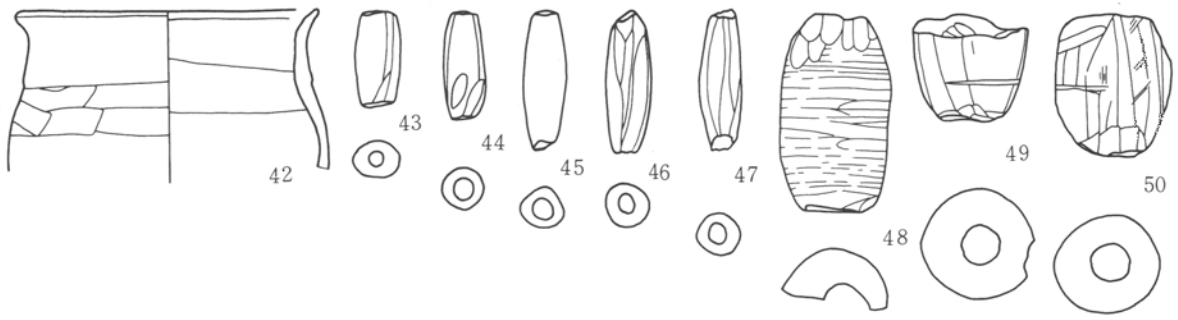
- I. 浅黄色ローム混土、黄灰色土層の混土



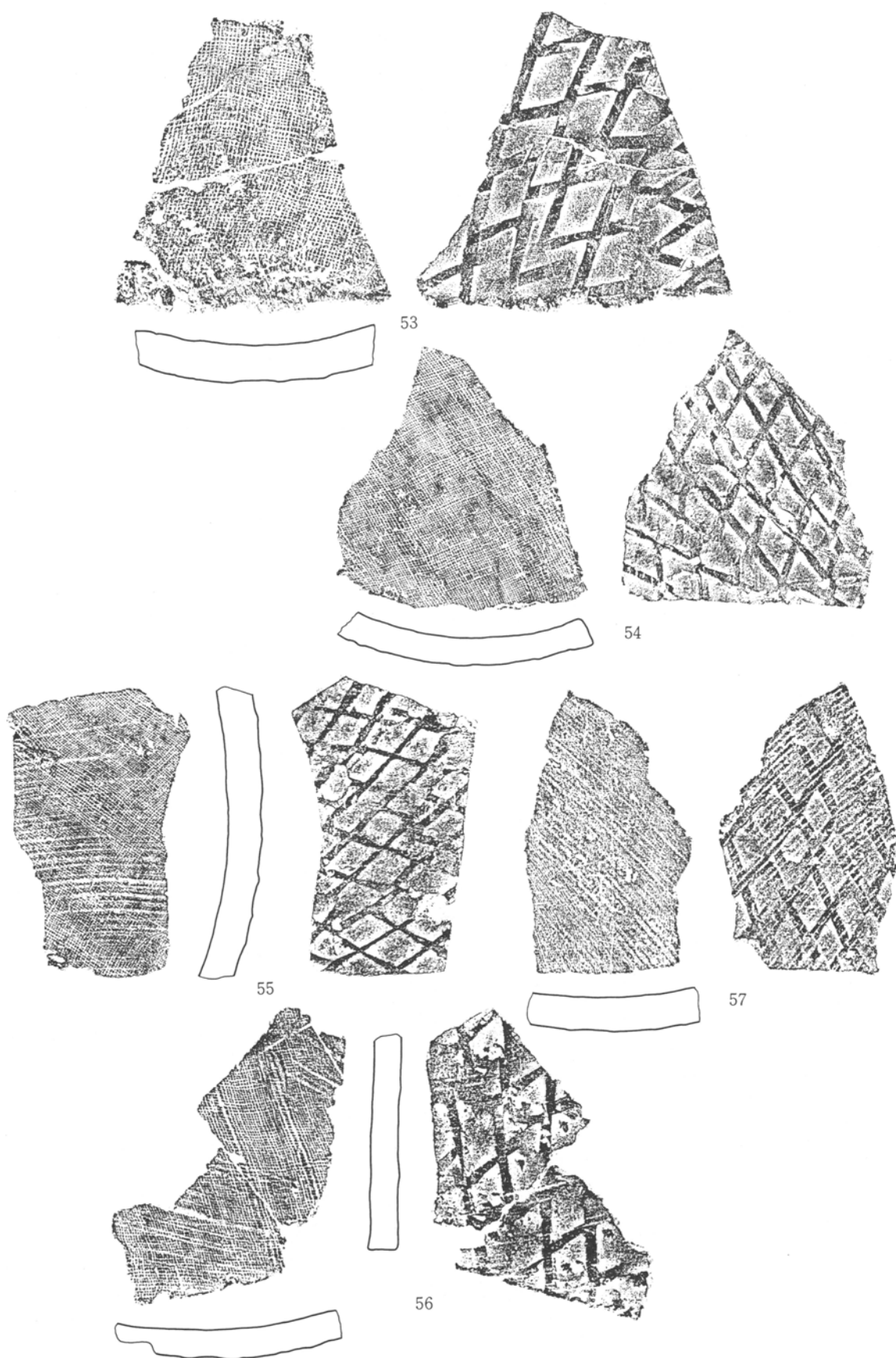
第90図 C15号住居跡出土遺物(1)



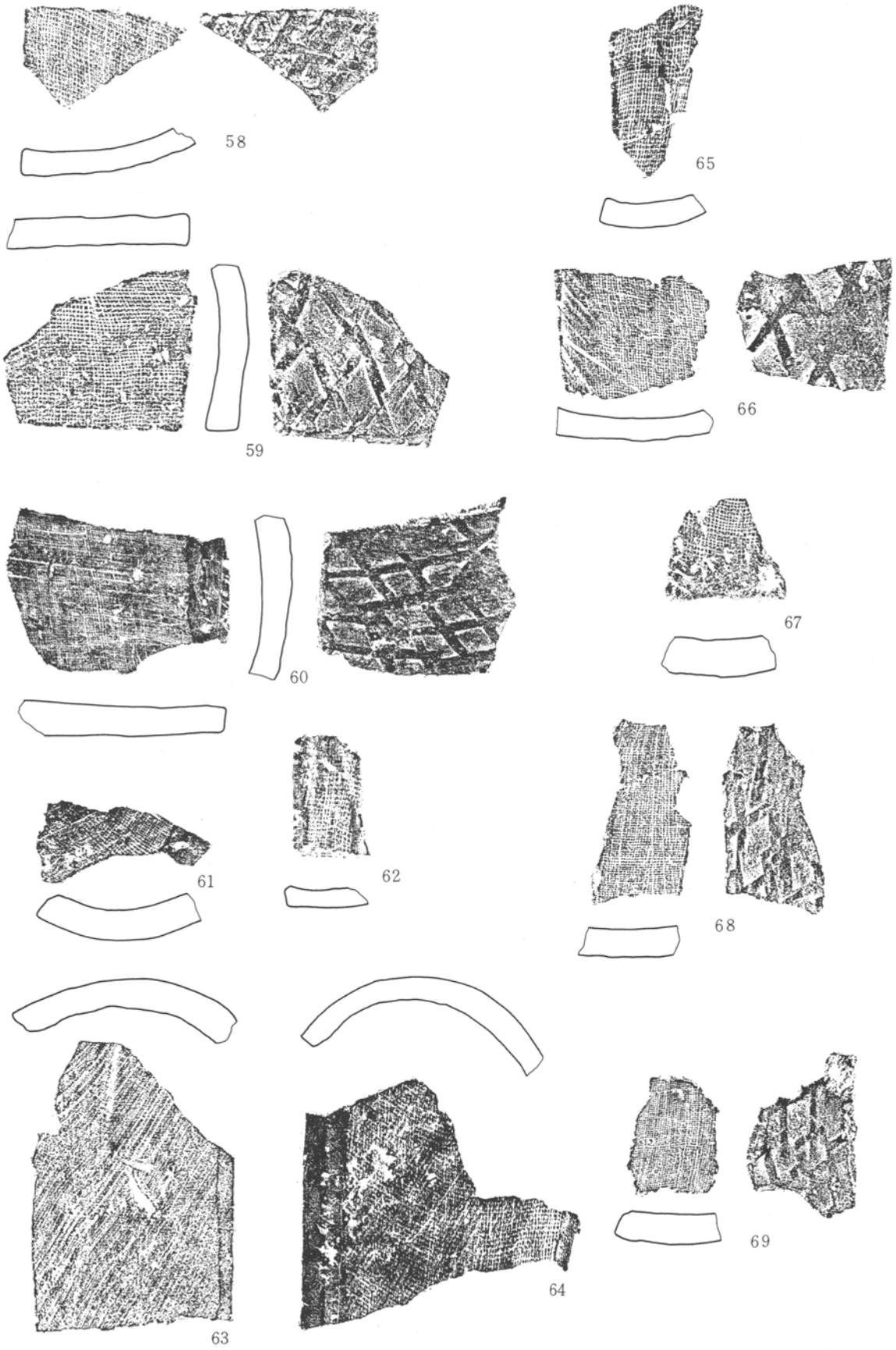
第91図 C15号住居跡出土遺物(2)



第92図 C15号住居跡出土遺物(3)



第93図 C15号住居跡出土遺物(4)



第94図 C15号住居跡出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物

C15号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器	口 11.4 高 3.8 底 7	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
2	須恵器	口 12.6 高 3.4 底 6.8	①白色粒含む ②良好 ③7.5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
3	須恵器	口 13.2 高 3.6 底 6.8	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り
4	須恵器	口 12.7 高 3.7 底 6.4	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
5	須恵器	口 12.8 高 3 底 7.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
6	須恵器	口 12.7 高 3.4 底 7.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
7	須恵器	口 13.1 高 3.5 底 6	①白色粒含む ②良好 ③2.5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
8	須恵器	口 12.6 高 3.4 底 7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
9	須恵器	口 12.6 高 3.4 底 7	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR7/6橙	轆轤整形 底部回転糸切り
10	須恵器	口 12.7 高 3.4 底 7	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
11	須恵器	口 12.8 高 3.2 底 7.4	①黒色粒含む ②良好 ③2.5Y8/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
12	須恵器	口 12.6 高 3.2 底 7.2	①砂粒含む ②良好 ③5Y5/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
13	須恵器	口 16.2 高 6 底 8	①細砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	轆轤整形 付け高台
14	須恵器	口 13.6	①細砂粒含む ②良好 ③10YR6/3にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台欠落
15	須恵器	口 13 高 2.7 底 7.6	①細砂粒含む ②良好 ③10YR5/1褐灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
16	須恵器	口 14.2 高 3.2 底 8.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
17	須恵器	口 17	①黒色粒含む ②良好 ③2.5Y8/1灰白	轆轤整形
18	須恵器	口 17	①白色粒含む ②良好 ③2.5Y7/3浅黄	轆轤整形 外面回転ヘラ調整
19	須恵器		①細砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/2灰黄	轆轤整形 外面上部に粘土帯を貼り付けてある
20	須恵器	口 14	①白色・黒色粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形
21	須恵器	口 15	①細砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	轆轤整形 外面回転ヘラ調整
22	須恵器	口 18	①白色粒含む ②良好 ③7.5Y5/1灰	轆轤整形 外面回転ヘラ調整
23	須恵器	口径5.2	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 外面回転ヘラ調整 環状摘み
24	須恵器	口 16 高 4.5 口径4.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 外面回転ヘラ調整 環状摘み
25	須恵器	厚 0.9	①砂粒含む ②良好 ③5Y4/1灰	四面端部全面ヘラ削り状の調整
26	須恵器	厚 1.1	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y6/1黄灰	四面端部全面ヘラ削り状の調整
27	須恵器	厚 0.9	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	四面端部全面ヘラ削り状の調整
28	須恵器	厚 1	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	四面端部全面ヘラ削り状の調整
29	須恵器	厚 1	①砂粒含む ②良好 ③10YR4/1褐灰	四面端部全面ヘラ削り状の調整
30	須恵器	厚 0.9	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	四面端部全面ヘラ削り状の調整
31	須恵器	厚 1	①砂粒含む ②良好 ③10YR6/1褐灰	四面端部全面ヘラ削り状の調整
32	須恵器	厚 1.1	①白色粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	四面端部全面ヘラ削り状の調整
33	須恵器	厚 1.1	①白色粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	四面端部全面ヘラ削り状の調整
34	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/1灰白	轆轤整形 外面に墨書
35	須恵器	底 6	①砂粒含む ②良好 ③5Y8/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 底部内面に墨書
36	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③2.5YR7/2灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 底部外面に墨書
37	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③5Y8/1灰白	外面折り返し部の破片

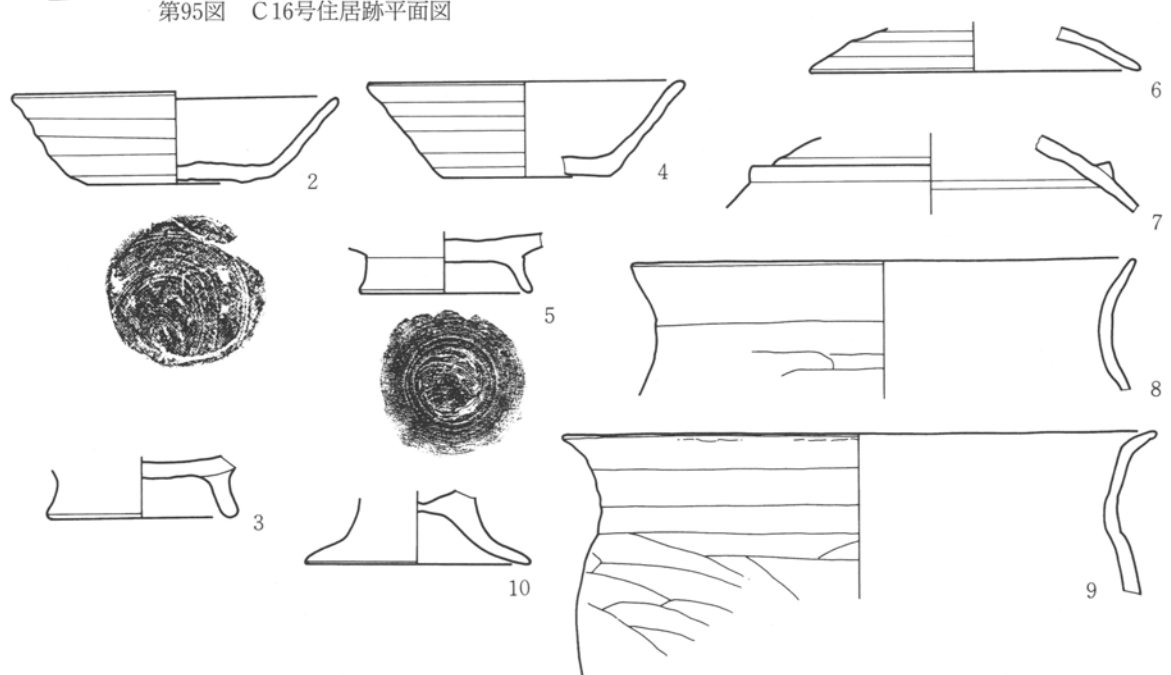
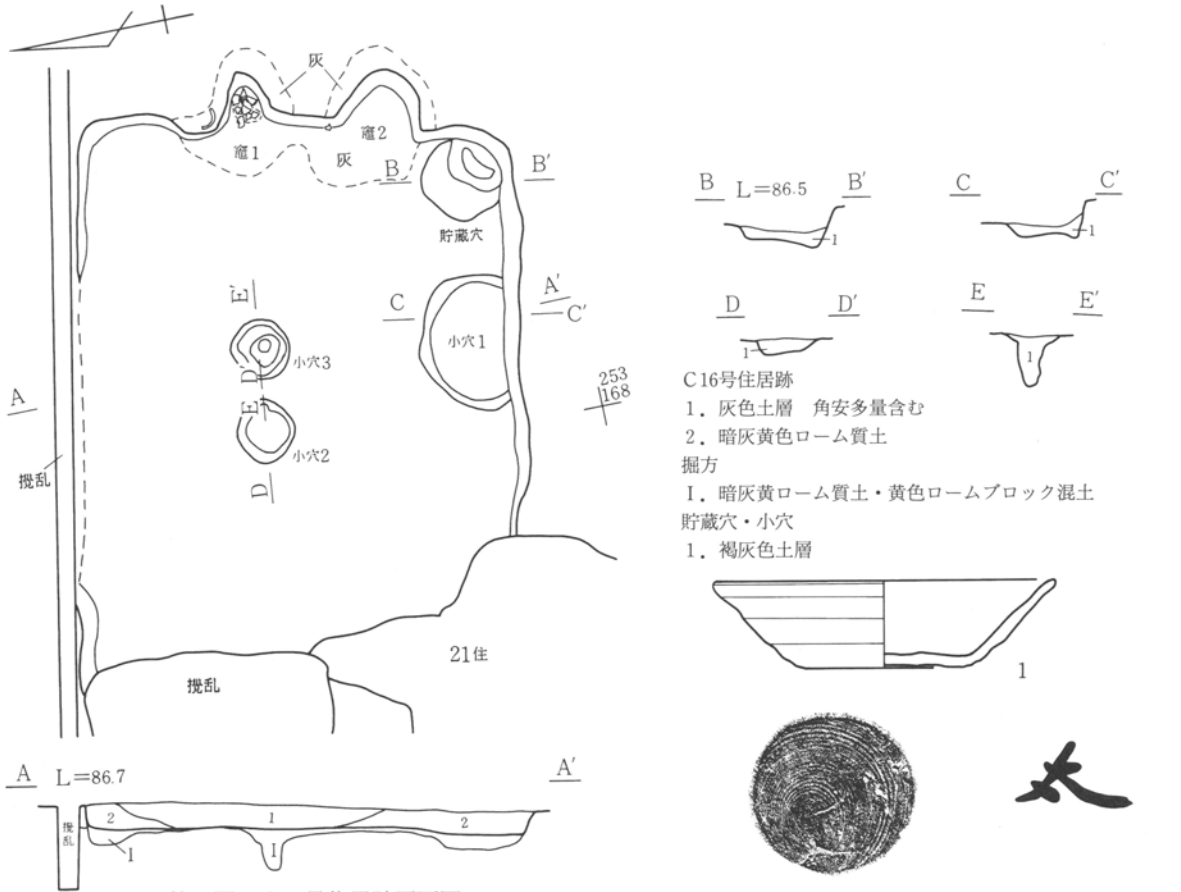
38	須惠器 耳皿		①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	耳皿縁部分破片
39	土師器 甕	口20	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 なで
40	須惠器 壺	最大胴部幅20	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 外面下部へら調整
41	土師器 甕	口20	①砂粒含む ②良好 ③5YR6/6橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 なで
42	土師器 甕	口12	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 なで
43	土 錘	長 3.8 径 1.8 孔径0.6	①砂粒含む ②良好 ③10YR5/3にぶい黄褐	外面 へらなで調整
44	土 錘	長 4.2 径 1.7 孔径0.8	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/2にぶい黄橙	外面 へらなで調整
45	土 錘	長 5.5 径 1.7 孔径0.8	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR8/3浅黄橙	外面 へらなで調整
46	土 錘	長 5.6 径 1.8 孔径0.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y4/1灰	外面 へらなで調整
47	土 錘	長 5.6 径 1.7 孔径0.7	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	外面 へらなで調整
48	土 錘	長 7.8 径 4.2	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/2にぶい黄橙	外面 へらなで調整
49	土 錘	径 4.4 孔径1.5	①砂粒含む ②良好 ③10Y4/1灰	外面 へらなで調整
50	土 錘	径 4.5 孔径1.5	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y5/1灰	外面 へらなで調整
51	女 瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部側面取り1面
52	女 瓦	厚 1.3	①砂粒含む ②良好 ③10Y7/1灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部側面取り1面
53	女 瓦	厚 1.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR6/2黄褐	外面 斜格子目叩き 内面 布目
54	女 瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側面取り1面
55	女 瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/1灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目
56	女 瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側面取り1面
57	女 瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/3浅黄	外面 斜格子目叩き後へらなで調整 内面 布目 剥ぎ取り痕
58	女 瓦	厚 1.2	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/1灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側面取り1面
59	女 瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③5Y8/3浅黄	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部側面取り1面
60	女 瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y8/1灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部面取り2面
61	男 瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	外面 へらなで 内面 布目 側面取り2面
62	男 瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	外面 へらなで 内面 布目
63	男 瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	外面 へらなで 内面 布目上へらなで 側面取り2面
64	男 瓦	厚 1.3	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	外面 へらなで 内面 布目 側部付近へらなで 側面取り1面
65	男 瓦	厚 1.3	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR7/3にぶい橙	外面 へらなで 内面 布目 側面取り1面
66	女 瓦	厚 1.2	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側面取り1面
67	女 瓦	厚 1.8	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR7/2灰黄	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側部へらなで 平坦面が不明瞭
68	女 瓦	厚 1.4	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目
69	女 瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③5Y8/2灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側面取り2面

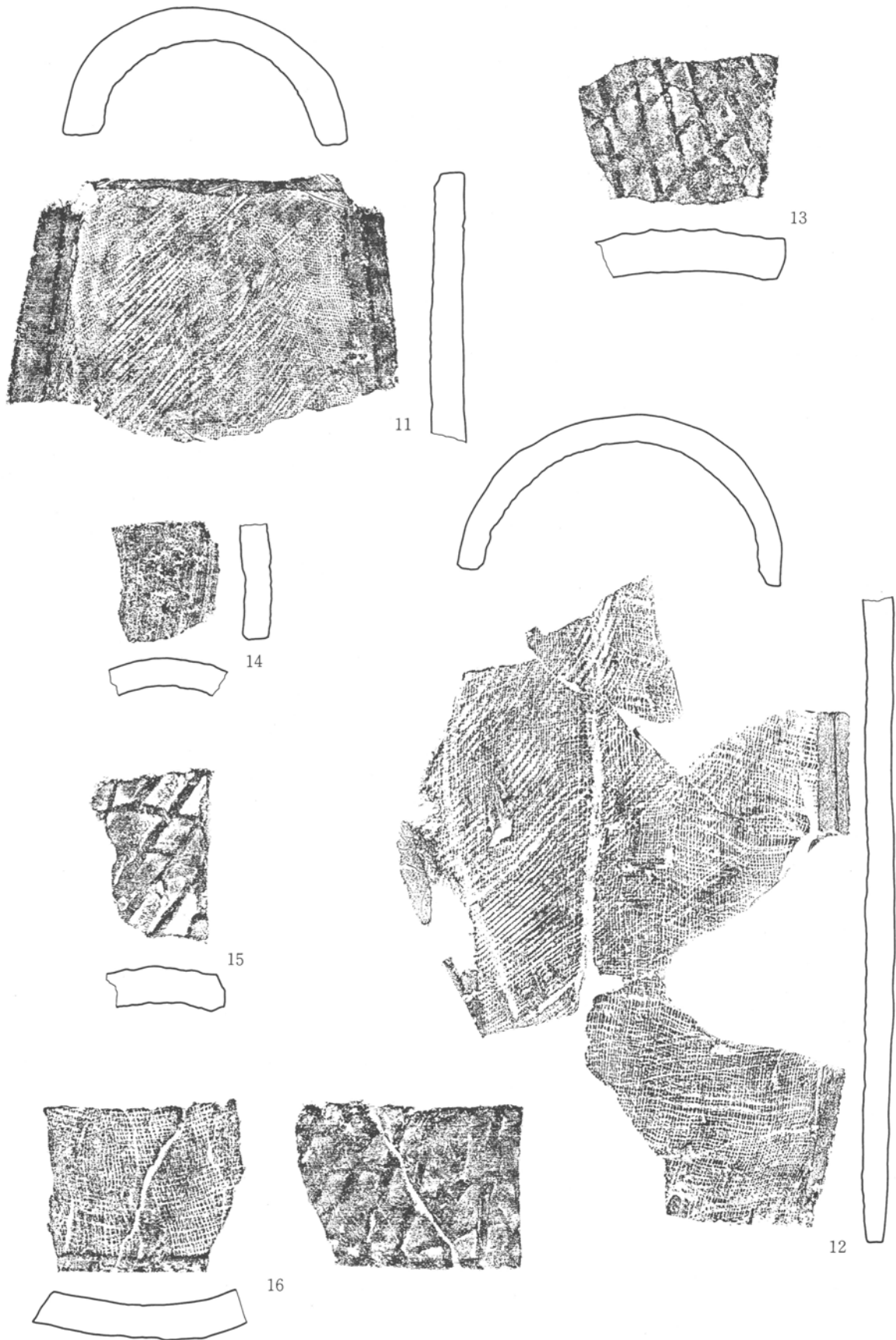
C16号住居跡（第95～98図、PL10・34）

当住居跡はC区西部に位置し250—160グリッドの範囲にある。他の遺構との関係は南西部で21号住居跡と重複している。新旧関係は21号住居跡が新しい。平面形態は長方形を呈し、規模は短辺で3.5mを測り、長辺は南西部は21号住居跡に壊され、西部は攪乱により壊されているため残存長で4.2mを測る。床面は平坦をなし、南東コーナー部に貯蔵穴が確認された。規模は径70cm、深さ10cmを測る。柱穴、壁周溝等の施設は検出

第3章 検出された遺構と遺物

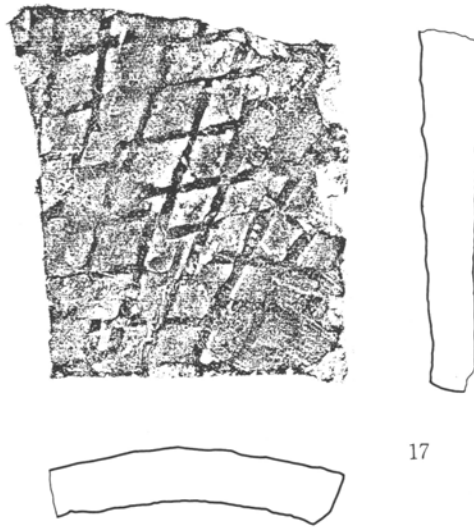
されていない。また住居跡中央部に2基、南壁に接し1基の小穴が検出され、各々1~3とした。規模は1、1.1m×70cm、深さ10cm。2、径50cm、深さ10cm。3、径50cm、深さ35cmを測る。竈は東壁中央部とさらに南に隣接して2基が確認された。北から1・2とした。規模は1、長軸60cm、燃烧部幅45cmを測り、明確な形での袖は検出されていない。2、長軸50cm、燃烧部幅70cmを測る。





第97図 C16号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



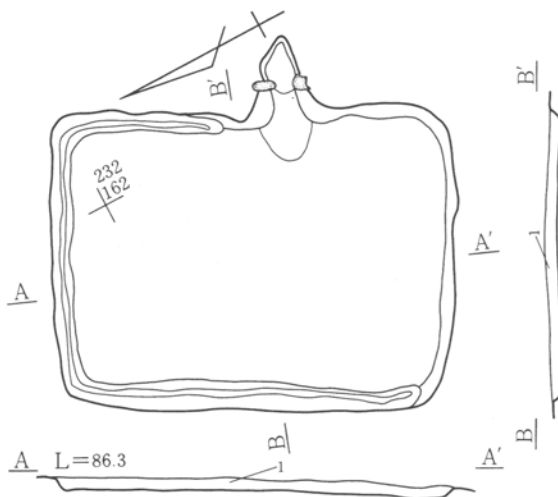
第98図 C16号住居跡出土遺物(3)

C16号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器	口(13.6) 底(6.2) 高 3.5	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 7 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 底部周辺回転ヘラ調整 底部外面に墨書
2	須恵器	口(13) 底 6.1 高 3.6	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 底部周辺回転ヘラ調整
3	須恵器	底 7.6	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 5 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
4	須恵器	口(12.6) 底 6.8 高 3.8	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 底部周辺回転ヘラ調整
5	須恵器	底(6.8)	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 8 / 2 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
6	須恵器	口(13.2)	①白色粒含む ②良好 ③5 Y 6 / 1 灰	轆轤整形
7	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 外面回転ヘラ調整 外面に粘土帯貼り付け
8	土師器	口(20)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで 口縁部コの字状を呈する
9	土師器	口(23.5)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 口縁部コの字状を呈する
10	土師器	底(9)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5 / 4 にぶい褐	裾部内外面よこなで
11	男瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 6 明黄褐	外面 ヘラなどで 内面 布目 側部面取り 2～3面 端部面取り 2面
12	男瓦	厚 1.3	①砂粒含む ②良好 ③2.5GY 5 / 1 オリーブ灰	外面 ヘラなどで 内面布目 剥ぎ取り痕 側部面取り 2面
13	女瓦	厚 2.1	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 2 灰黄	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側部面取り 1面
14	男瓦	厚 1.4	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	外面 などで 内面 布目上ヘラなどで 端部面取り 1面
15	瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 3 浅黄橙	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側部面取り 2面
16	瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 8 / 1 灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側部面取り 1面
17	瓦	厚 2.1	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 6 黄橙	外面 斜格子目叩き 内面 布目 剥ぎ取り痕 端部側部面取り 1面

C17号住居跡 (第99図、PL10)

当住居跡はC区南西部に位置し220・230—160グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈し、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.2m、短辺2.3mを測る。壁高は10cmを測る。床面は平坦をなし、柱穴、貯蔵穴、壁周溝等の施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央部に検出された。規模は長軸70cm、燃烧部幅40cmを測る。明確な形での袖は認められていないが、竈の壁部分に石が検出されている。住居跡内から出土した遺物は少なく図にできる物はなかった。

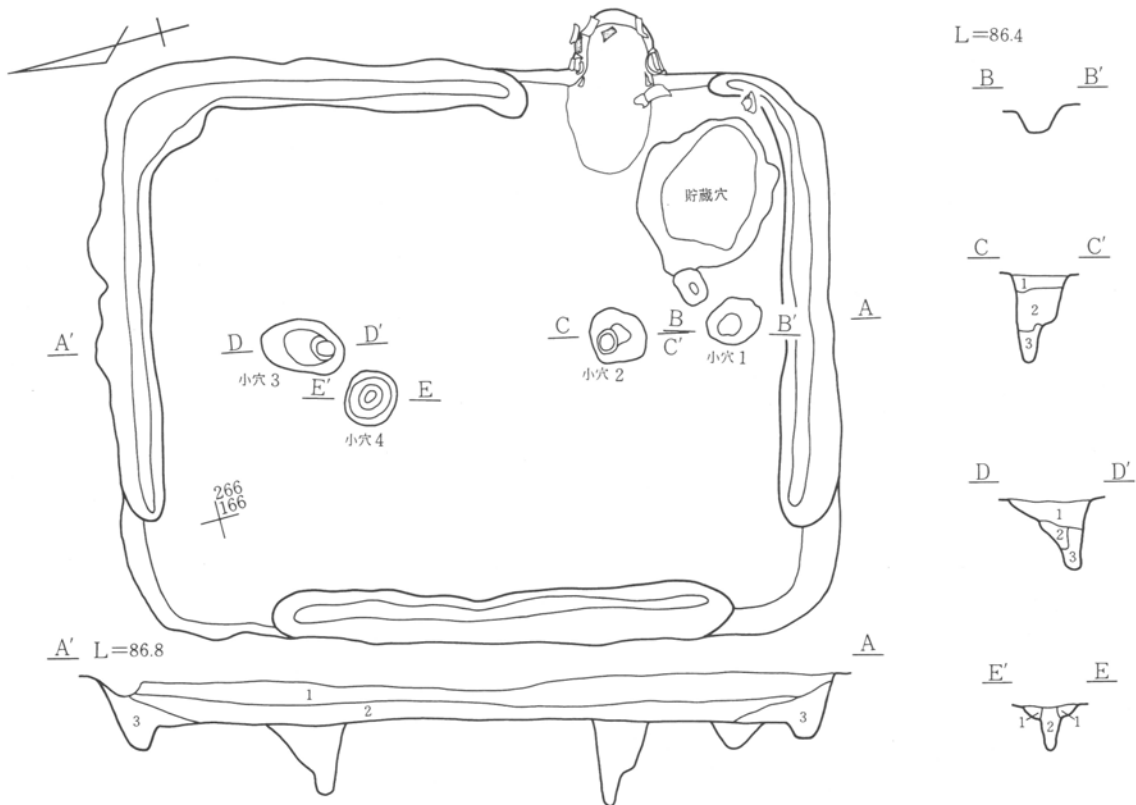


第99図 C17号住居跡平面図

C17号住居跡
1. にぶい黄褐色土層

C18号住居跡 (第100～106図、PL10・34～37)

当住居跡はC区西部に位置し260—160グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈し他の遺構との重複はない。規模は長辺5.8m、短辺4.6mを測る。壁高は40cm～50cmを測る。床面は平坦をなし、南東コーナー部に貯蔵穴を検出した。規模は1.3m×1.1m、深さ約10cmを測る。調査時の所見によれば柱穴だが検討の結果小穴とした。小穴は4基検出され、各々1～4とした。規模は1、40cm×30cm、深さ17cm。2、径40cm、深さ70cm。3、70cm×40cm、深さ55cm。4、径40cm、深さ40cmを測る。壁周溝は4壁に確認され、幅20cm～50cmを測り深さは5cm～20cmを測る。竈は東壁南寄りに確認した。規模は長軸70cm、燃烧部幅60cmを測る。竈の壁体には石や瓦を構築材として使用している。



第100図 C18号住居跡平面図

第3章 検出された遺構と遺物

C18号住居跡

1. 褐灰色土層 軽石多量含む (FA層)

2. // 明黄褐色ブロック含む

3. にぶい黄橙ローム質土

小穴 2・3

1. 灰褐色土層 炭化物、灰色粘土含む

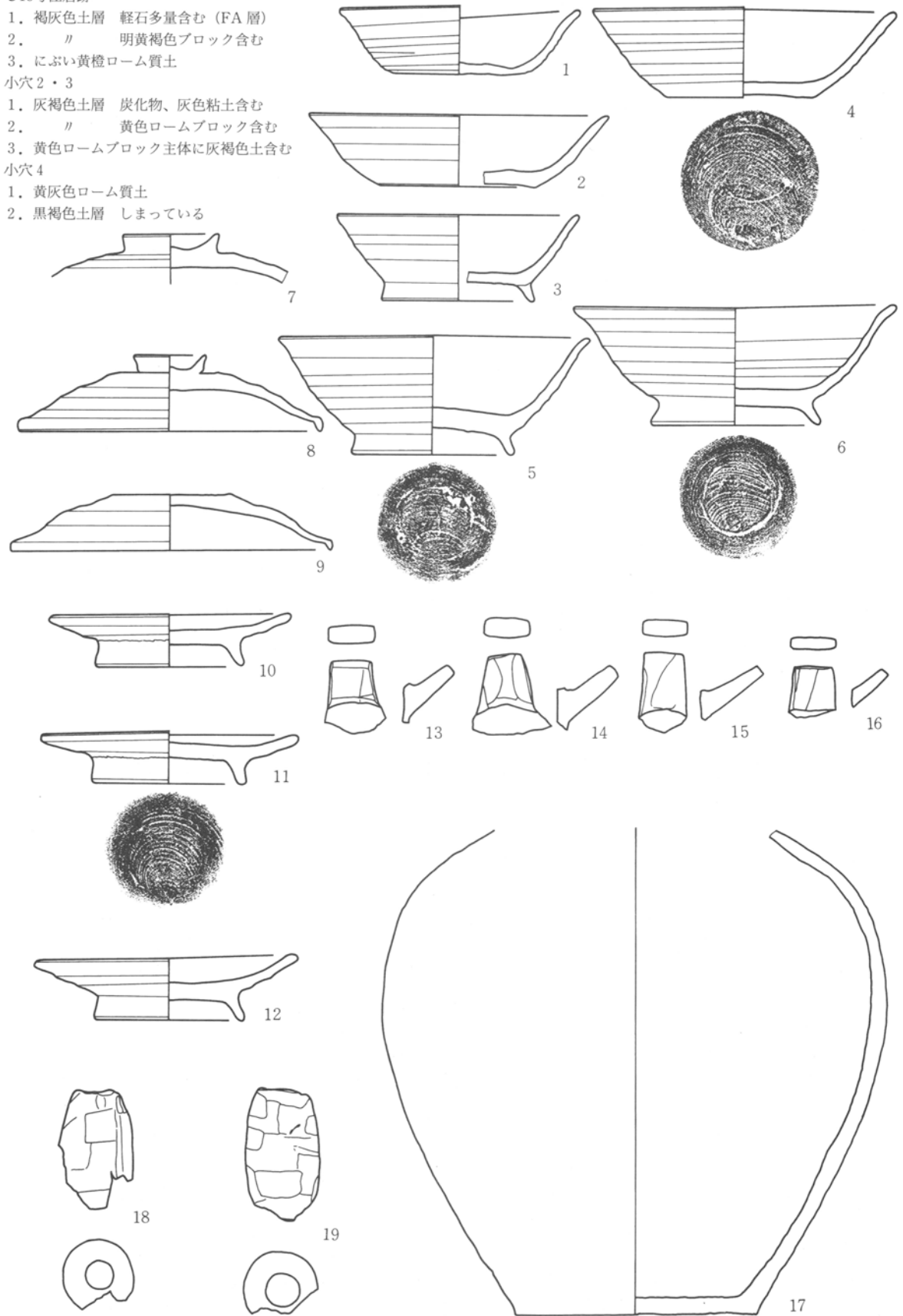
2. // 黄色ロームブロック含む

3. 黄色ロームブロック主体に灰褐色土含む

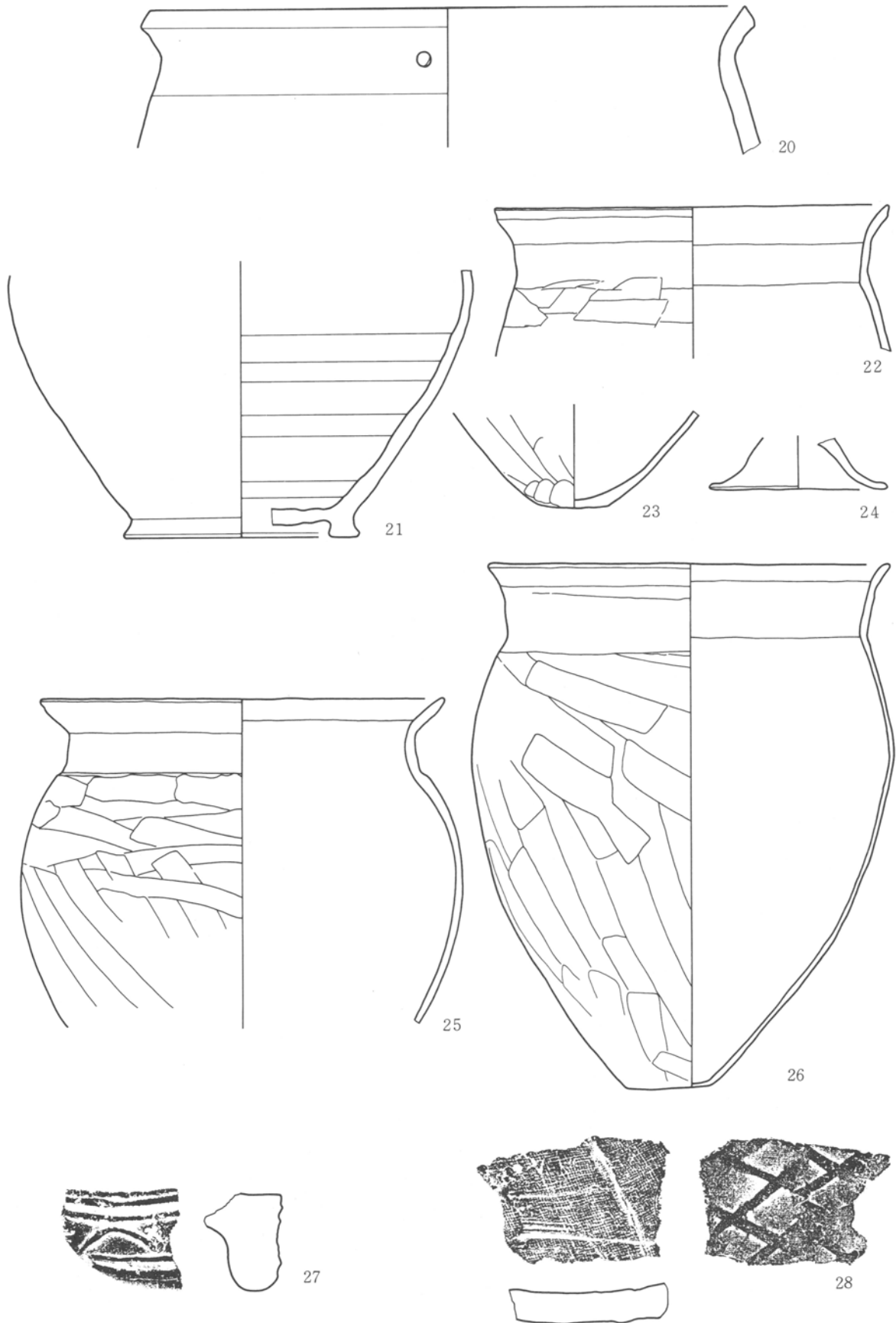
小穴 4

1. 黄灰色ローム質土

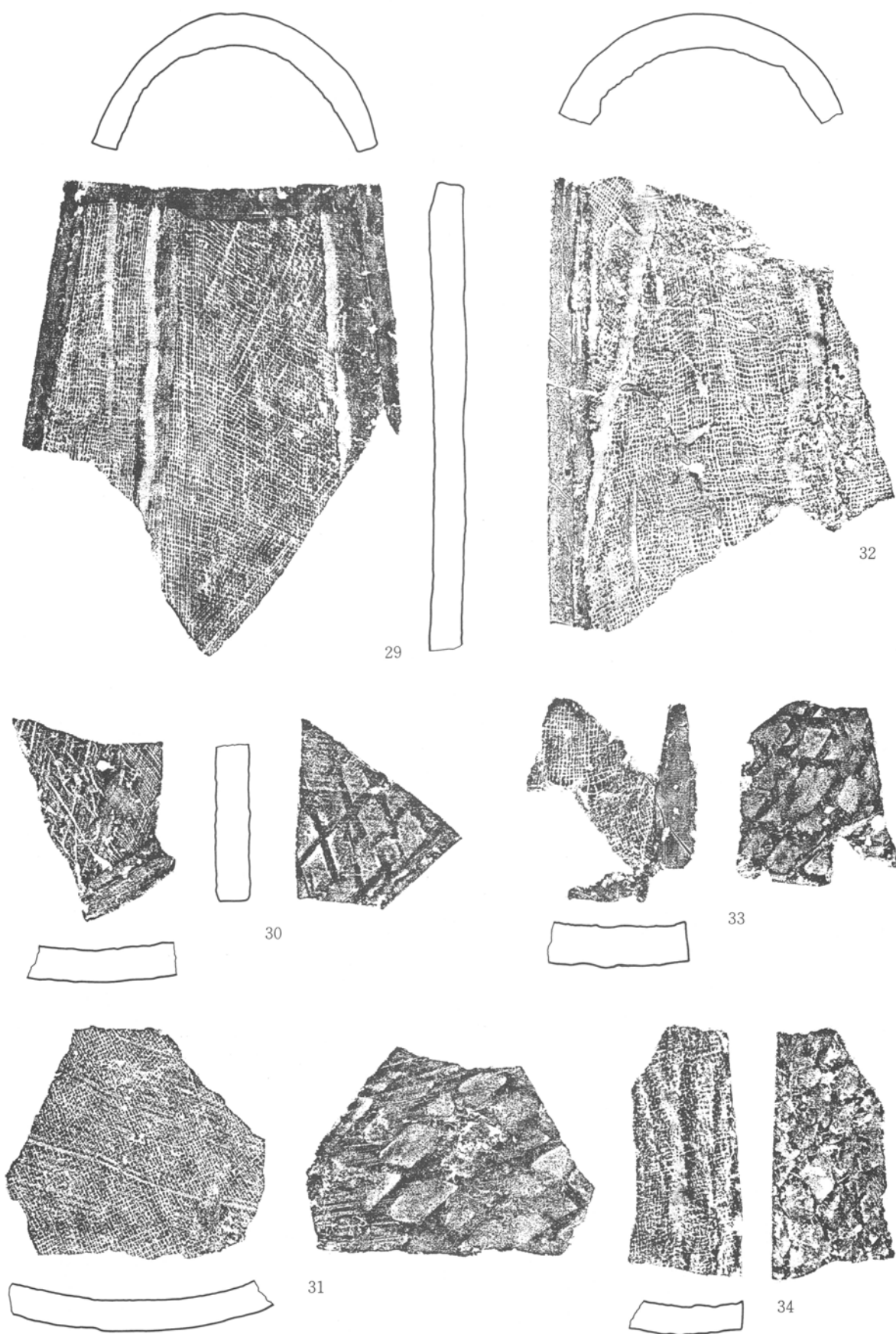
2. 黒褐色土層 しまっている



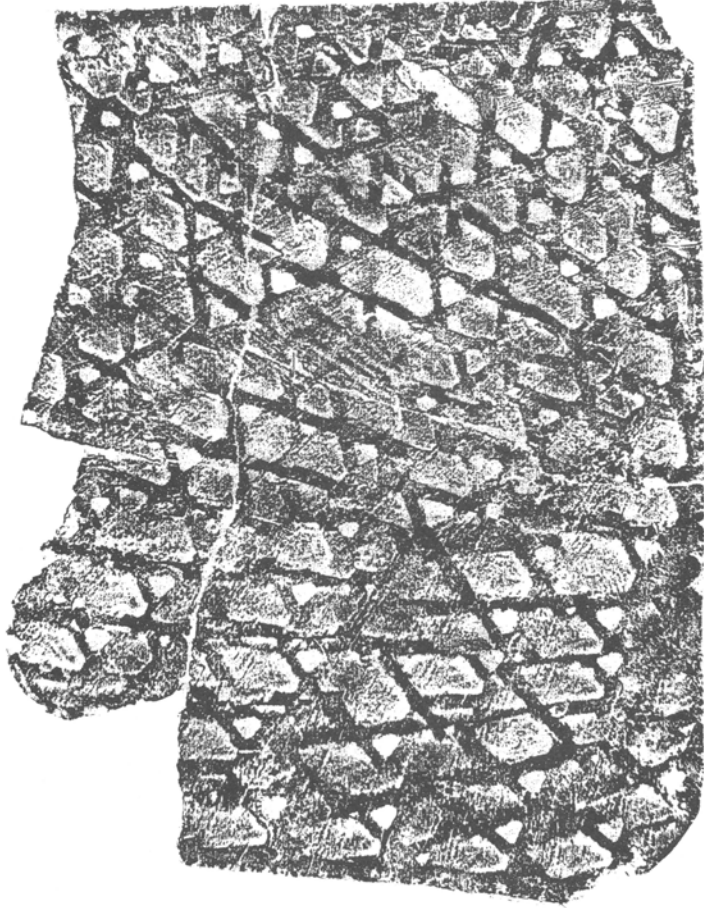
第101図 C18号住居跡出土遺物(1)



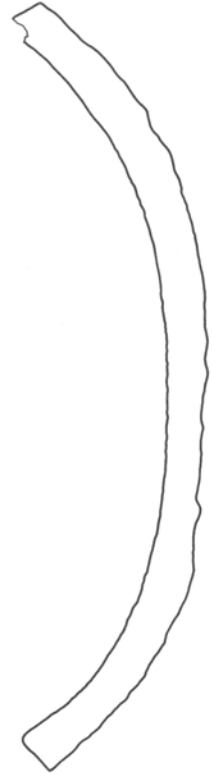
第102図 C18号住居跡出土遺物(2)



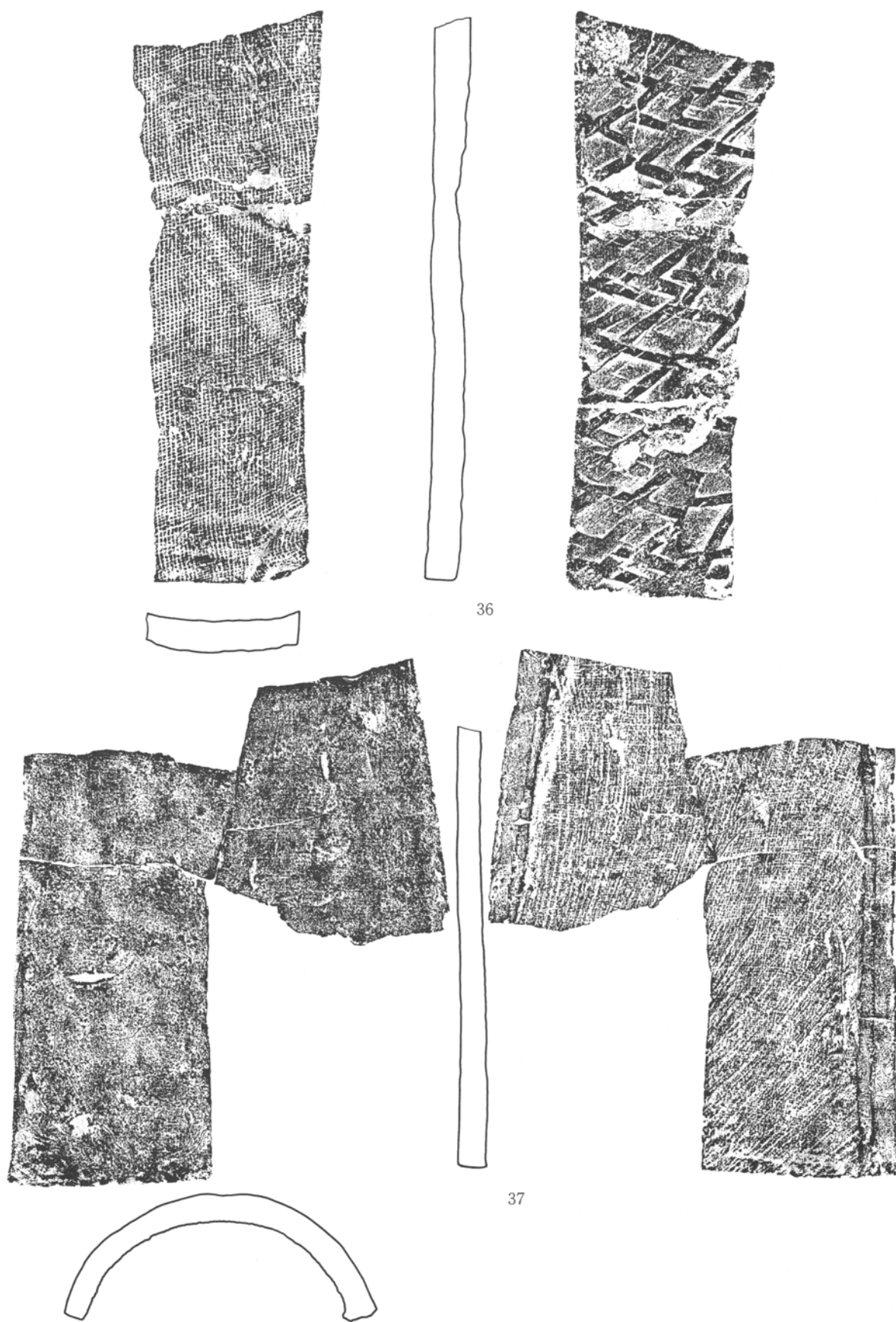
第103図 C18号住居跡出土遺物(3)



35



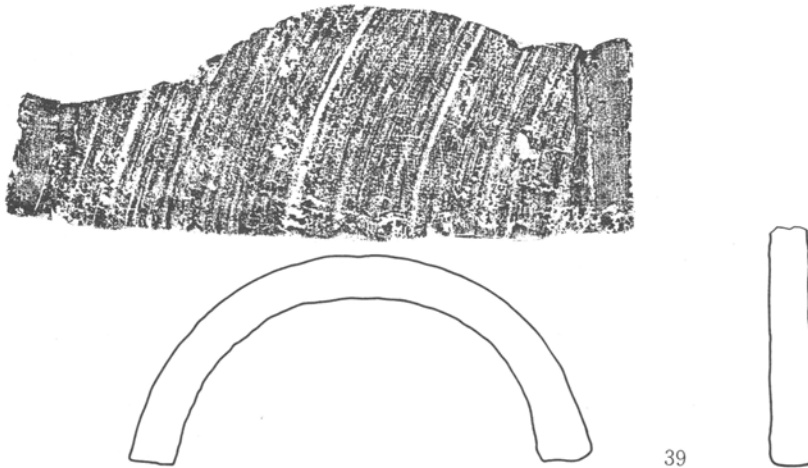
第104図 C18号住居跡出土遺物(4)



第105図 C18号住居跡出土遺物(5)



38



39

第106図 C18号住居跡出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物

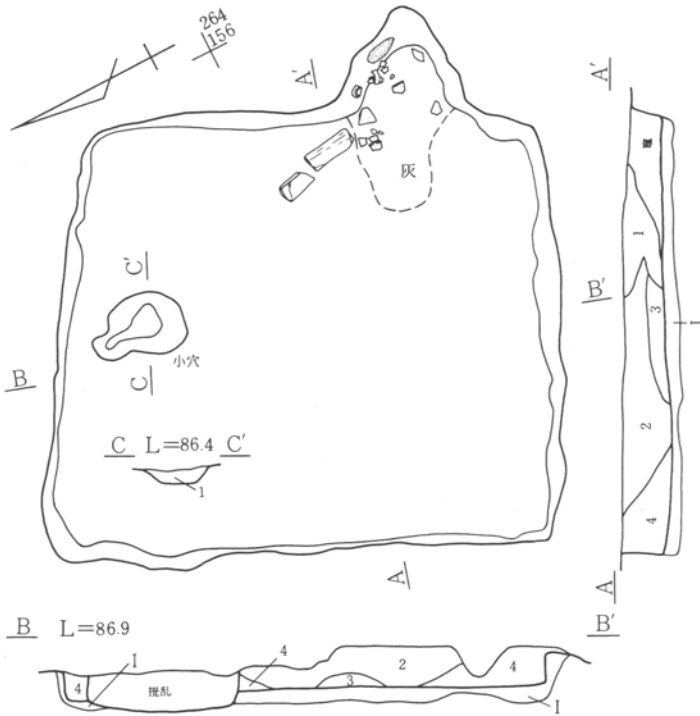
C18号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 坏	口 12.5 底 5.7 高 3.5	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 2 灰黄	轆轤整形 底部手持ちヘラなどで調整
2	須恵器 坏	口(15.5) 底(8) 高 3.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 底部周辺回転ヘラ調整
3	須恵器 碗	口(12.4) 底(7.8) 高 4.4	①白色粒含む ②良好 ③5 Y 5 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
4	須恵器 坏	口 15.8 底 7.6 高 4.6	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 5 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 底部周辺回転ヘラ調整
5	須恵器 坏	口(16) 底 8.4 高 6.1	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
6	須恵器 碗	口(16.6) 底 8.7 高 6.1	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
7	須恵器 蓋	摘径5	①黒色粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	轆轤整形 環状摘周辺回転ヘラ調整
8	須恵器 蓋	口 15.8 高 3.9 摘径3.8	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 5 / 1 灰	轆轤整形 環状摘周辺回転ヘラ調整
9	須恵器 蓋	口 16.6 高 2.9 上端径6	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 上端面回転ヘラ調整 摘なし
10	須恵器 皿	口 12.6 底 7.7 高 2.7	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
11	須恵器 皿	口 13.4 底 8.2 高 2.6	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
12	須恵器 皿	口 13.7 底 7.8 高 3.4	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
13	耳 坏	厚 0.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	全面ヘラ削り調整
14	耳 坏	厚 1	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	全面ヘラ削り調整
15	耳 坏	厚 0.9	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 7 / 1 灰白	全面ヘラ削り調整
16	耳 坏	厚 0.6	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 4 / 1 灰	全面ヘラ削り調整
17	須恵器 壺	底(12.4)	①白色粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	外面 胴部叩き 下部 ヘラなどで 内面 上部あて目痕 下部 ヘラなどで などで
18	土 錘	径 3.7 孔径0.9	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 4 / 1 灰	外面 ヘラ調整
19	土 錘	径 3.8 孔径1.7	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 3 / 1 オリーブ黒	外面 ヘラ調整
20	須恵器 甕	口 30.8	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 2 灰黄	轆轤整形 口縁部円孔
21	須恵器 壺	底(12)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 4 / 2 暗灰黄	轆轤整形 外面回転ヘラ調整 内面 ヘラ調整 付け高台 外面・内面底部自然釉
22	土 師器	口(10.2)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 4 / 1 褐灰	口縁部内外面よこなどで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 口縁部コの字状を呈す
23	土 師器	底 3.8	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 4 / 4 褐	外面 ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで
24	土 師付 器甕	底(9.2)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 4 / 2 灰褐	裾部内外面よこなどで
25	土 師器	口 21	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 5 / 6 明赤褐	口縁部内外面よこなどで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで 口縁部コの字状を呈す
26	土 師器	口 20.6 底 4.3 高 27	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなどで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで
27	軒先 瓦		①白色粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	下面 布目 文様周辺はヘラ調整
28	女 瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 7 / 1 灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目
29	男 瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 2 灰黄	外面 などで 内面布目 剥ぎ取り痕 両端部側部面取り1面
30	女 瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 2 灰黄	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部面取り1面
31	女 瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 5 / 1 灰	外面 斜格子目叩き 内面 布目
32	男 瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 2 灰黄褐	外面 などで 内面 布目 側部面取り3面
33	女 瓦	厚 2	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 4 にぶい黄橙	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部側部面取り1面

34	女	瓦	厚 1.4	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 1 灰	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側部面取り1面
35	女	瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	外面 斜格子目叩き 斜格子内部に小さな三角形 内面 布目 両側部面取り2面
36	女	瓦	厚 1.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR 4 / 2 灰黄褐	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部側部面取り1面
37	男	瓦	厚 1.4	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 6 / 1 灰	外面 なで 内面 布目 側部面取り1面
38	男	瓦	厚 2.4	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	外面 なで ヘラ調整 内面 布目 上端部面取り2面 下端部側部面取り1面
39	男	瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 8 / 3 浅黄橙	外面 なで 内面 布目 剥ぎ取り痕 端部両側部面取り1面

C19号住居跡 (第107~109図、PL10)

当住居跡はC区西部に位置し260-150・160グリッドの範囲にある。他の遺構との重複はない。平面形態は長方形を呈する。規模は長辺4m、短辺3.5mを測る。壁高は30cm~40cmを測る。床面は平坦をなし、貯蔵穴、



第107図 C19号住居跡平面図

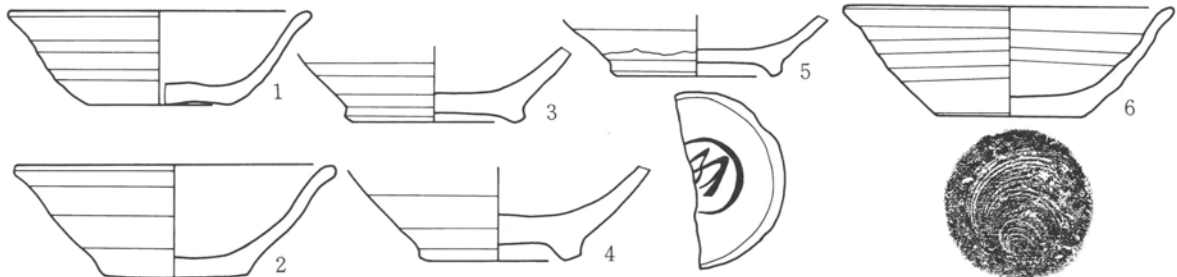
柱穴、壁周溝等の施設は検出されていない。北壁付近に小穴が検出された。規模は70cm×60cm、深さ10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は長軸90cm、燃烧部幅80cmを測り、前面には灰層が広がる。また左前には石が検出され、竈の袖材等の構築材として使用されたと理解される。

C19号住居跡

- 1. におい橙色 電焼土の崩落土
- 2. におい茶褐色土層 軽石多量含む
- 3. 褐灰色粘質土 灰色焼土少量含む
- 4. におい黄橙土層

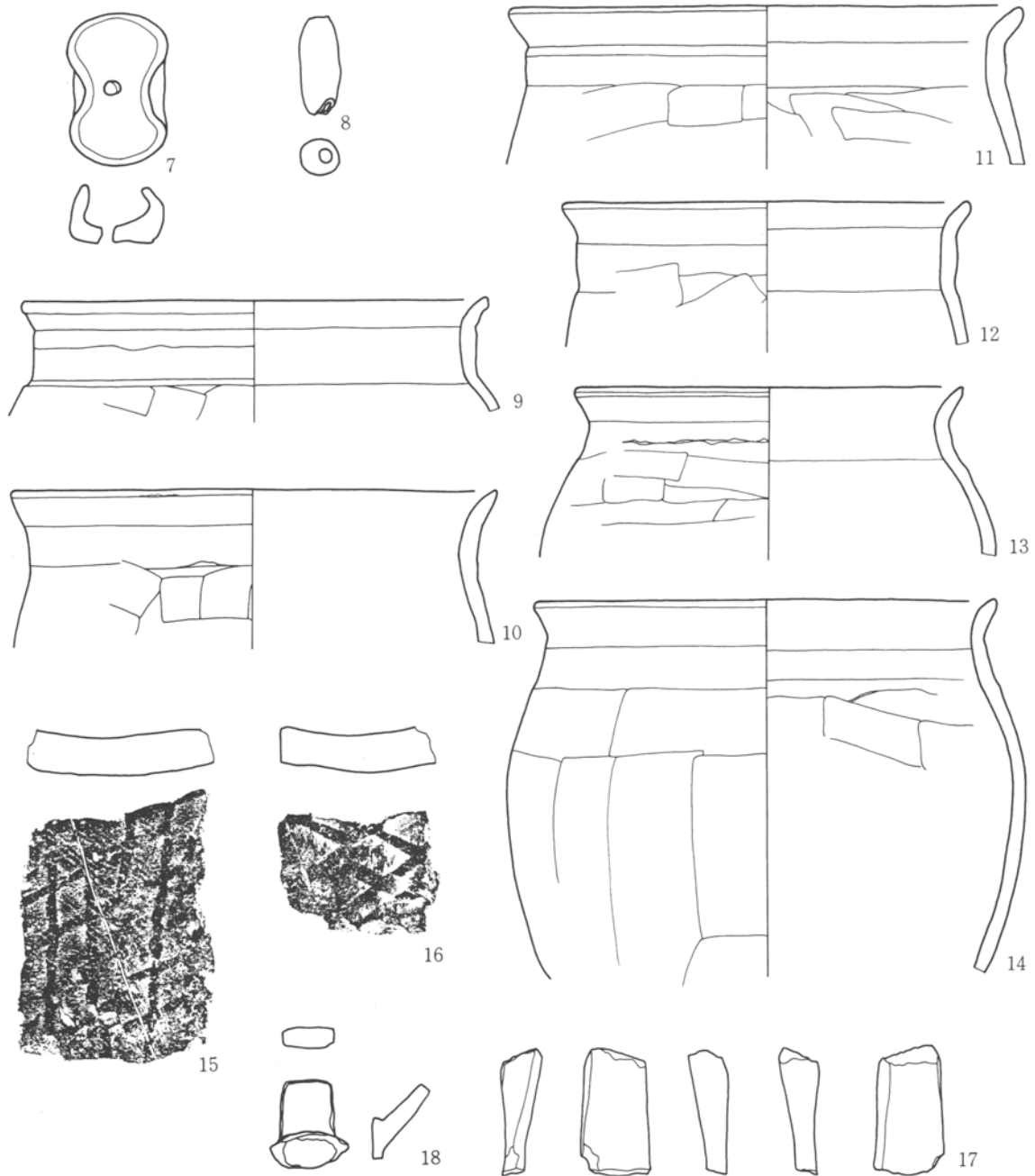
掘方

- 1. 黄灰色ローム質土 粘土多量含む
- 小穴
- 1. 黄灰色ローム質土 粘土多量含む



第108図 C19号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第109図 C19号住居跡出土遺物(2)

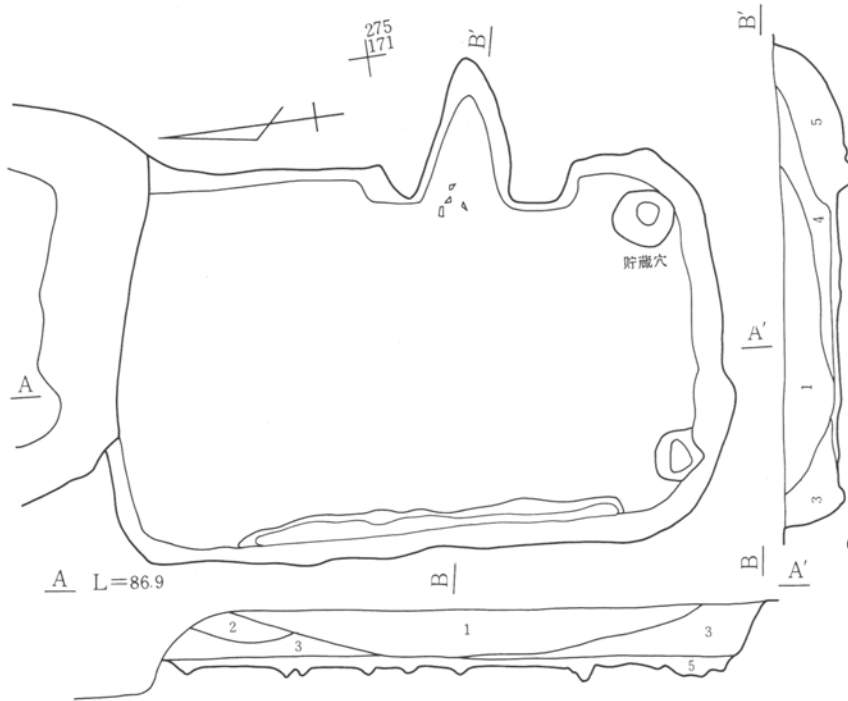
C19号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 坏	口(12) 底(5.6)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
2	須恵器 坏	口(12.8) 底 5.6 高 4.5	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 3 にぶい赤褐	轆轤整形 底部及び腰部下部へラ調整 口縁部一部にすず付着
3	須恵器 椀	底 6.6	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
4	須恵器 椀	底 6.3	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 4 浅黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
5	須恵器 椀	底(6.3)	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台 底部外面に墨書
6	須恵器 坏	口 13 底 6 高 4.3	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 2 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 底部周辺へラ調整
7	須恵器 皿	長 6.8 底 3.5 高 2.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 にぶい黄橙	全面なで調整 底部中央に円孔

8	土 錘	長 4.3 孔径0.6	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	外面などで調整
9	土 師 器	口(20.5)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 3 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 口縁部コの字状を呈す
10	土 師 器	口(21.4)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7 / 3 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 外面 ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 口縁部コの字状を呈す
11	土 師 器	口(23.8)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 口縁部コの字状を呈す
12	土 師 器	口(18)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7 / 4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 口縁部コの字状を呈す
13	土 師 器	口(17)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7 / 4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 口縁部コの字状を呈す
14	土 師 器	口(20.4)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで ヘラなどで 口縁部コの字状を呈す
15	女 瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 にぶい黄橙	外面 斜格子目叩き 内面 布目
16	女 瓦	厚 1.7	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 5 / 1 灰	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側部 面取り1面
17	砥 石	長 5.6 幅 2.5		中央部が使用により薄くなっている
18	須 恵 器 耳	厚 0.9	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	四面端部全面ヘラ削り状の調整

C20号住居跡 (第110~112図、PL11・37)

当住居跡はC区西北部に位置し270—170グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈し、他の遺構との重複はない。規模は長辺5m、短辺3.1mを測る。壁高は約40cmを測る。床面は平坦をなし、南東コーナー部に

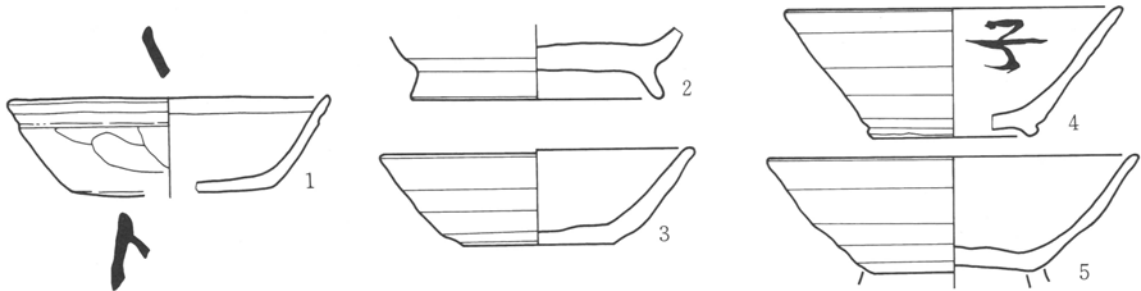


に貯蔵穴を検出した。規模は径50cm、深さ30cmを測る。西壁に壁周溝を検出し、幅20cm深さ5cm~15cmを測る。柱穴は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は長軸1.2m、燃烧部幅80cmを測る。

第110図 C20号住居跡平面図

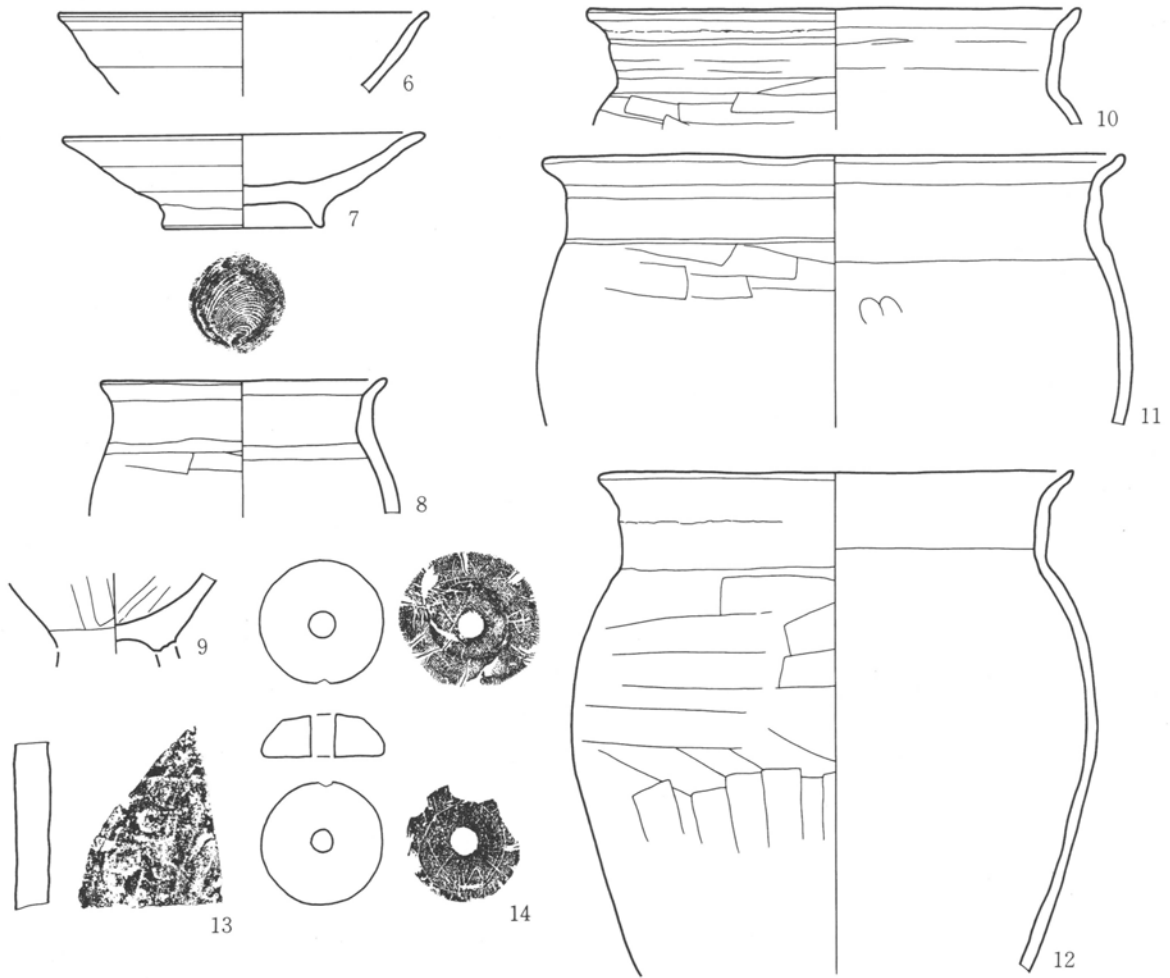
C20号住居跡

1. 灰黄褐色土層
2. 褐灰色土層 炭化物含む
3. にぶい黄褐色ローム質土
4. 褐灰色土 褐灰色粘土ブロック、焼土含む
5. 褐灰色粘質土



第111図 C20号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



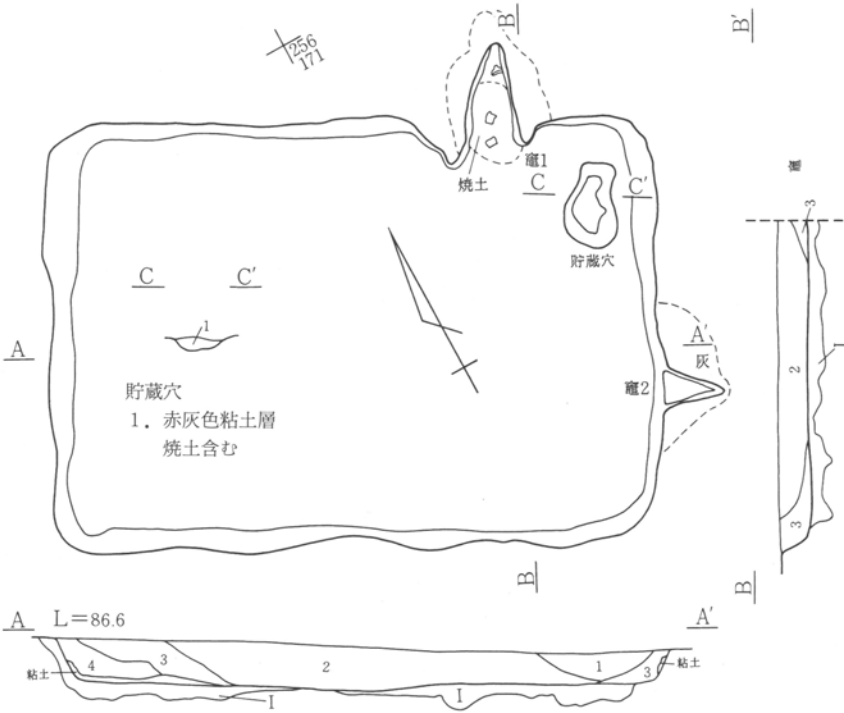
第112図 C20号住居跡出土遺物(2)

C20号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 甕	口12.8 底7.8 高3.8	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR5/6明赤褐	口縁部内外面よこなで 外面 内で 底部 ヘラ削り 内面 内で 底部内外面に墨書
2	須恵器 碗	底10	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
3	須恵器 甕	口12.6 底6 高3.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り
4	須恵器 碗	口13.4 底6.3 高5.1	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/2灰黄	轆轤整形 付け高台 内面に墨書
5	須恵器 碗	口14.7 底(6.6) 高(4.5)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y6/1黄灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台欠落
6	灰釉陶器 碗	口(14.8)	①緻密 ②良好 ③5Y6/2灰オリーブ	轆轤整形 口縁部外側へ屈曲する
7	須恵器 皿	口14.4 底6.3 高3.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y4/1黄灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
8	土師器 甕	口11.4	①砂粒含む ②良好 ③10YR6/4にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 内で ヘラ内で
9	土台 器付		①砂粒含む ②良好 ③10YR5/3にぶい黄橙	胴部 外面ヘラ削り 接合部内で 内面 ヘラ調整
10	土師器 甕	口(19.5)	①砂粒含む ②良好 ③5YR4/3にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 内で ヘラ内で
11	土師器 甕	口23	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y4/4褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 内で ヘラ内で
12	土師器 甕	口(18.9)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR3/4暗褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 内で
13	女瓦	厚1.4	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/1灰	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側面面取り1面
14	石製紡錘車	径4.8 孔径0.9 厚1.7		

C21号住居跡 (第113~115図、PL11・37・38)

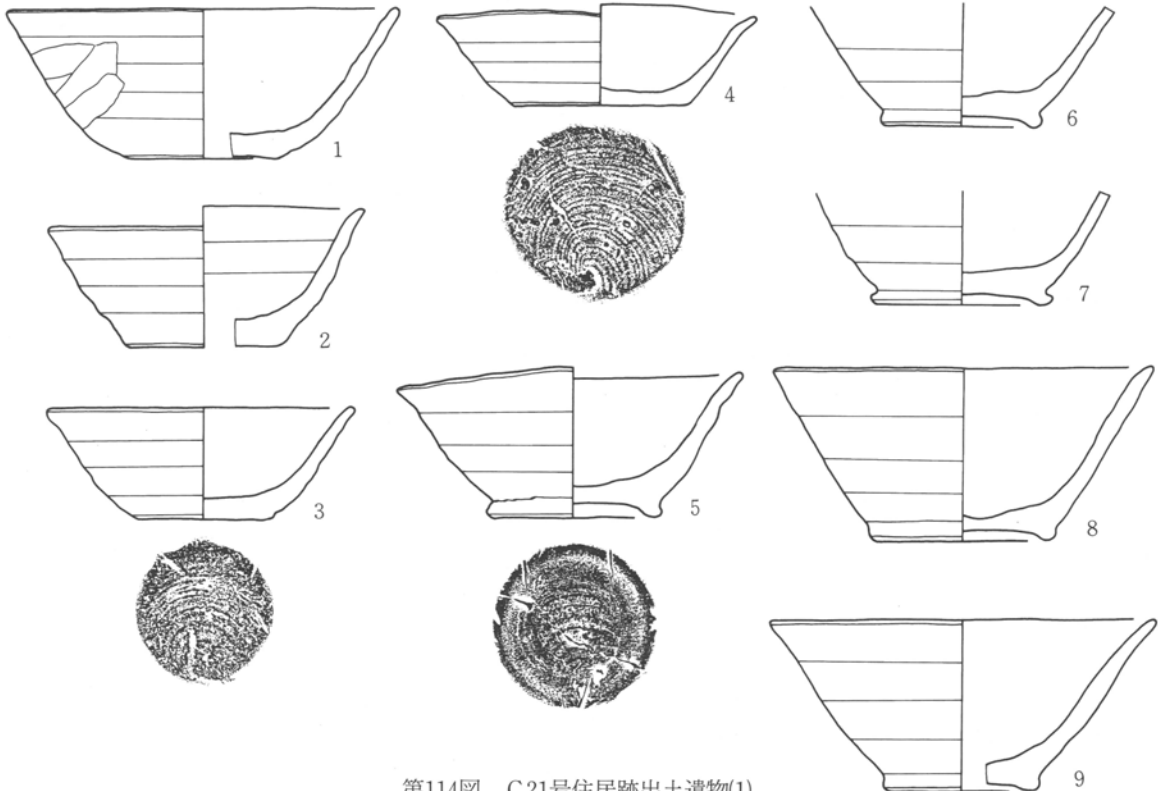
当住居跡はC区西部に位置し250-160・170グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈し、他の遺構との関係は北東部で16号住居跡と重複している。新旧関係は21号住居跡が新しい。規模は長辺5m、短辺3.1mを測る。壁高は30cmを測る。床面は平坦をなし北東コーナー部に貯蔵穴を検出した。規模は70cm×40cm、深



第113図 C21号住居跡平面図

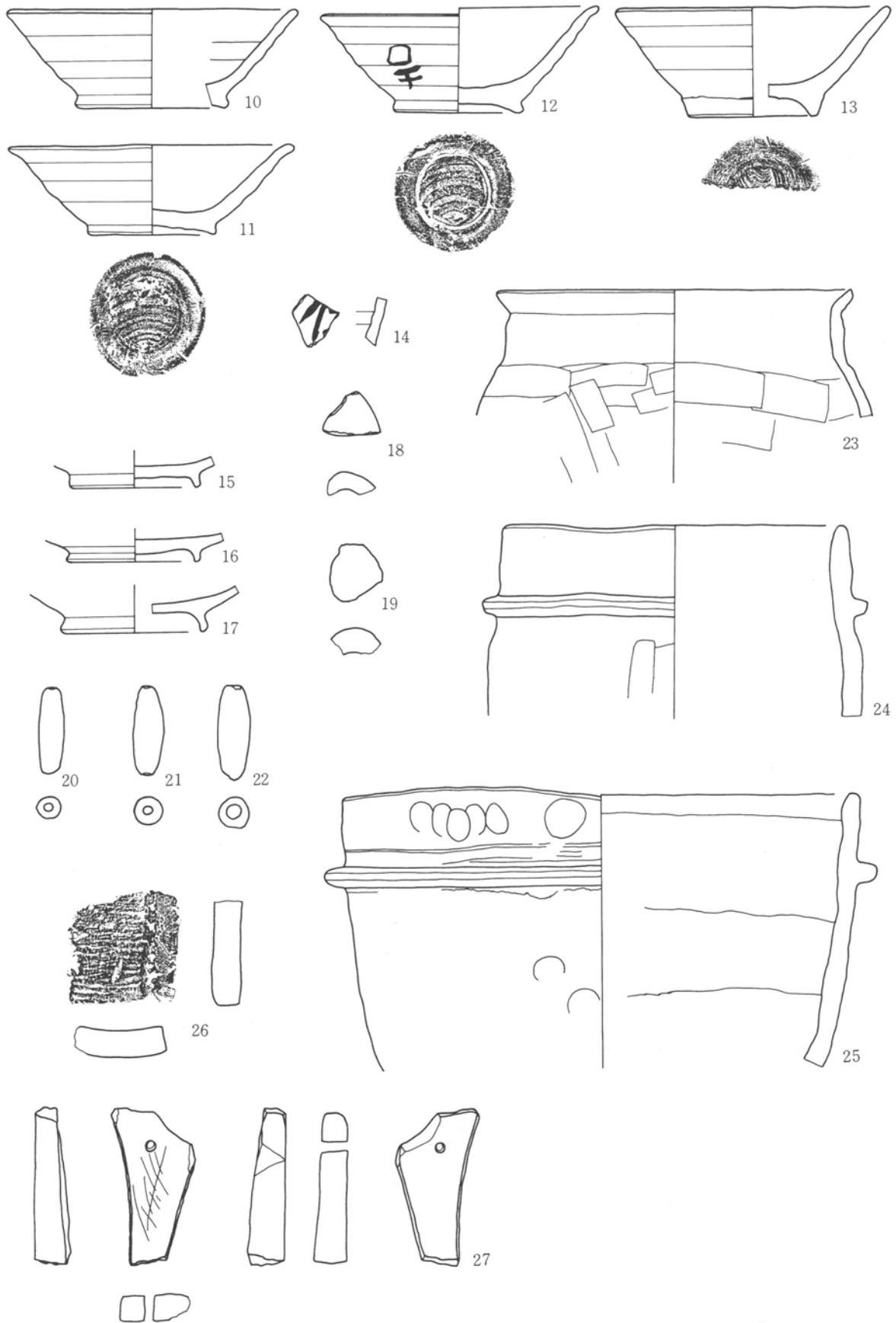
さ10cmを測る。柱穴、壁周溝等の施設は検出されていない。竈は北壁東寄り、東壁南寄りに2基確認された。各々1・2とした。規模は1、長軸1m、袖幅60cm、2、長軸60cm、燃烧部幅30cmを測る。住居跡壁面の床面近くに粘土を張った痕跡が確認されている。

- C21号住居跡
1. 明黄褐色ロームブロック
 2. 褐灰色土層
 3. 黄灰色土層
 4. 褐灰色粘土 焼土、灰含む 掘方
 5. 褐灰色土層 浅黄橙ロームブロック混土



第114図 C21号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



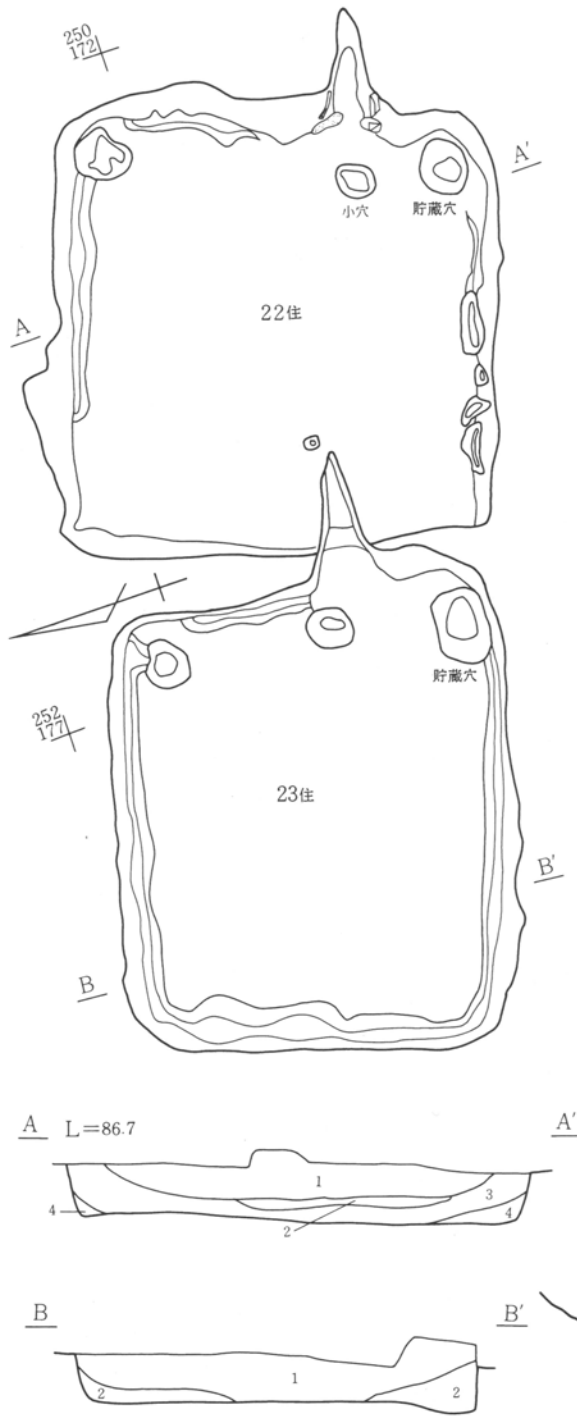
第115図 C21号住居跡出土遺物(2)

C21号住居跡

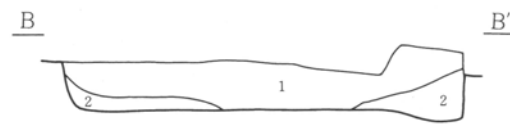
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 環	口15.5 底6 高5.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/4 にぶい黄橙	轆轤整形 外面一部まで
2	須恵器 環	口12.6 底6 高5.5	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 7/2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り
3	須恵器 環	口12.2 底5.4 高4.3	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
4	須恵器 環	口12.7 底6.8 高3.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/2 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り
5	須恵器 環	口13.7 底5.9 高6.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6/2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
6	須恵器 碗	底5.8	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/2 灰黄褐	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
7	須恵器 碗	底(6.5)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
8	須恵器 碗	口15 底(6.8) 高6.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y 6/1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
9	須恵器 碗	口15.3 底5.8 高6.3	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6/1 黄灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
10	須恵器 碗	口(15.2) 底5.1 高(7.6)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
11	須恵器 碗	口14.8 底6.6 高4.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 5/1 黄灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
12	須恵器 碗	口14.5 底6.5 高5.5	①砂粒含む ②良好 ③5Y 5/1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
13	須恵器 碗	口14.5 底6.5 高5.5	①砂粒含む ②良好 ③5Y 5/1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台 外面に墨書
14	須恵器 片		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/2 灰黄	墨書
15	灰釉陶器 碗	底6.5	①緻密 ②良好 ③2.5Y 7/1 灰白	轆轤整形 底部回転ヘラ調整 付け高台
16	灰釉陶器 皿	底6.8	①緻密 ②良好 ③5Y 7/1 灰白	轆轤整形 底部回転ヘラ調整 付け高台
17	灰釉陶器 碗	底(7.2)	①緻密 ②良好 ③5Y 7/1 灰白	轆轤整形 底部回転ヘラ調整 付け高台
18	土 錘		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 4/1 黄灰	外面 などで調整
19	土 錘		①砂粒含む ②良好 ③5Y 3/2 オリーブ黒	外面 などで調整
20	土 錘	長4.4 径1.3 孔径0.5	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 5/4 にぶい褐	外面 などで調整
21	土 錘	長4.6 径1.6 孔径0.5	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 3/2 オリーブ黒	外面 などで調整
22	土 錘	長4.9 径1.7 孔径0.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 4/1 黄灰	外面 などで調整
23	土 師器	口(18.4)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8/3 浅黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などでヘラなで
24	羽 釜	口(17.9)	①砂粒含む ②良好 ③5Y 4/1 灰	轆轤整形 胴部 たてヘラ削り 月夜野系
25	羽 釜	口(26.8)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6/2 灰黄	轆轤整形 口縁部外面指頭痕
26	瓦	厚1.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/1 灰白	外面ヘラ調整 内面 布目 端部1面 側部面取り2面
27	砥石	長8.1 幅4.3 厚1.9		

C22号住居跡 (第116～118図、PL11・38)

当住居跡はC区西部に位置し240・250—170グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈する。他の遺構との関係は西側の一部を23号住居跡と重複する。新旧関係は23号住居跡が新しい。規模は長辺3.8m、短辺3.5mを測る。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、北・東・南壁に壁周溝を確認した。幅は10cm～20cmを測り、深さは約5cm～10cmである。貯蔵穴は南東コーナー部に確認され、規模は50cm×40cm、深さ30cmを測る。また竈前に小穴が検出され、規模は径約30cm、深さ10cmを測る。柱穴等の施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は長軸1m、袖幅30cmを測り、細長く壁外へ延びている。両袖部先端には石が各々1個づつ設置され袖材として使用している。また袖石の先、燃焼部壁には両壁共に瓦が壁を造るよう立てて設置されている。竈には石と瓦が構築材として使用されていた。



A L=86.7



C22号住居跡

- 1. 灰黄褐色土層
- 2. にぶい黄褐色土層
- 3. 灰黄褐色土層 粘土含む
- 4. // ロームブロック含む

C23号住居跡

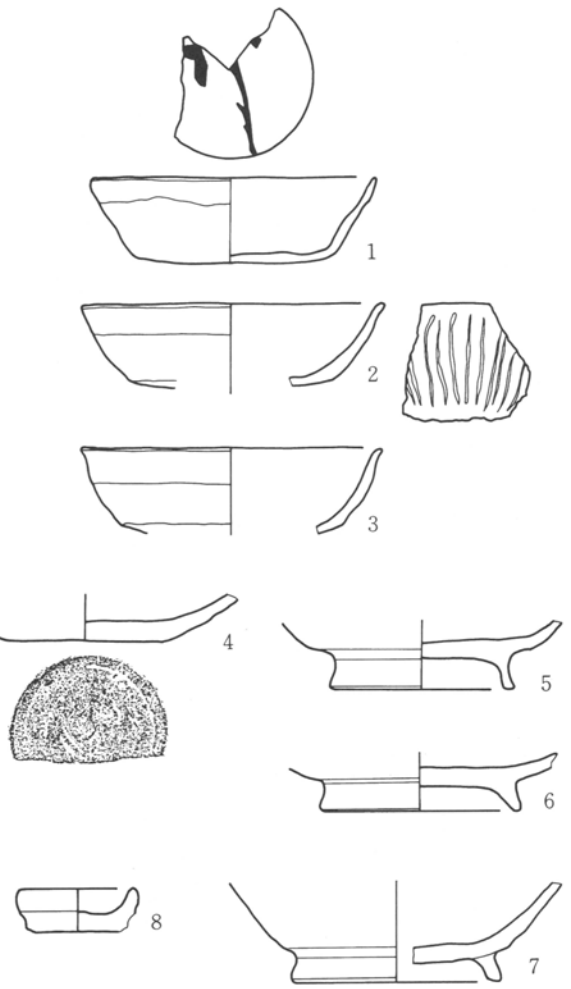
- 1. にぶい黄橙土層
- 2. // ロームブロック少量含む

第116図 C22・23号住居跡平面図

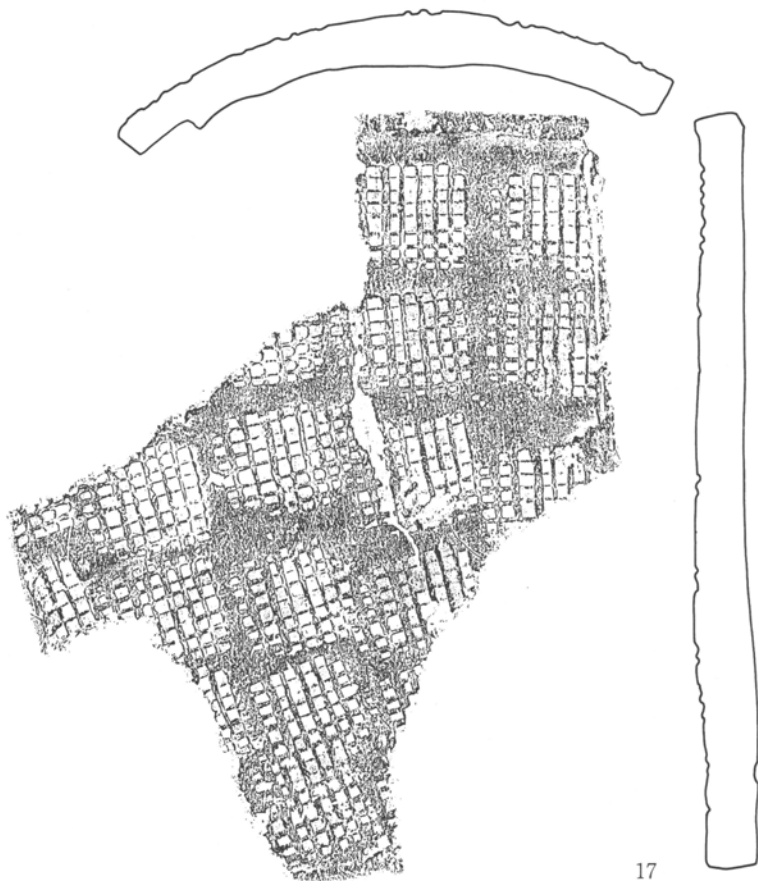
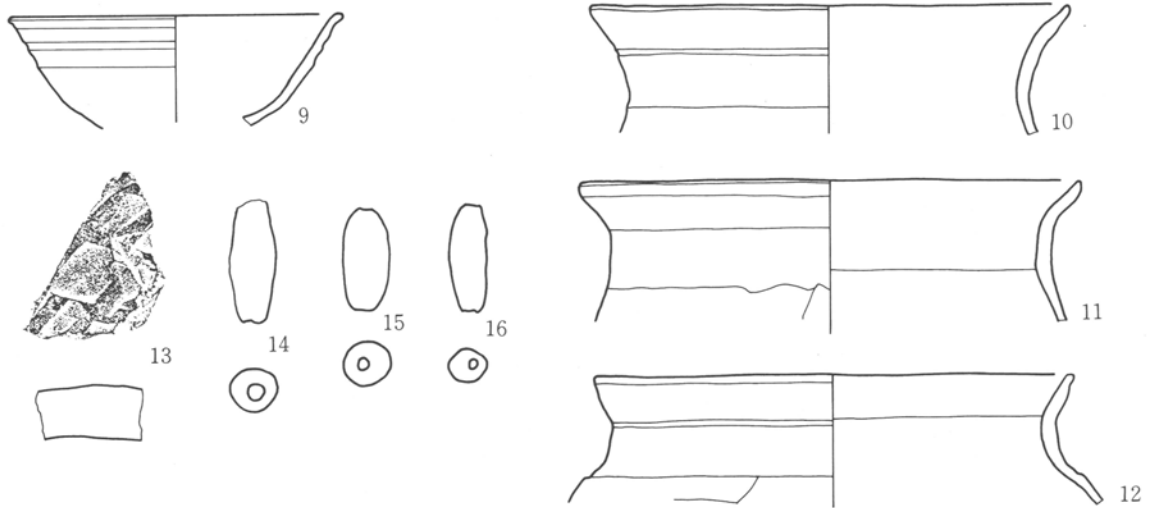
C23号住居跡

(第116・119・120図、PL11・38・39)

当住居跡はC区西部に位置し240・250—170・180グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈する。他の遺構との関係は東部の竈部で22号住居跡と重複している。新旧関係は23号住居跡が新しい。規模は長辺4.1m、短辺3.2mを測る。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし壁周溝とはぎれとぎれであるが4壁に確認された。幅は10cm~40cm、深さ10cm~20cmを測る。貯蔵穴は南東コーナー部に確認された。規模は60cm×40cm、深さ30cmを測る。柱穴は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに確認された。竈の規模は長軸1.2m、燃烧部幅60cmを測る。竈の形状は重複する22号住居跡と同様、東に長く延びる。



第117図 C22号住居跡出土遺物(1)



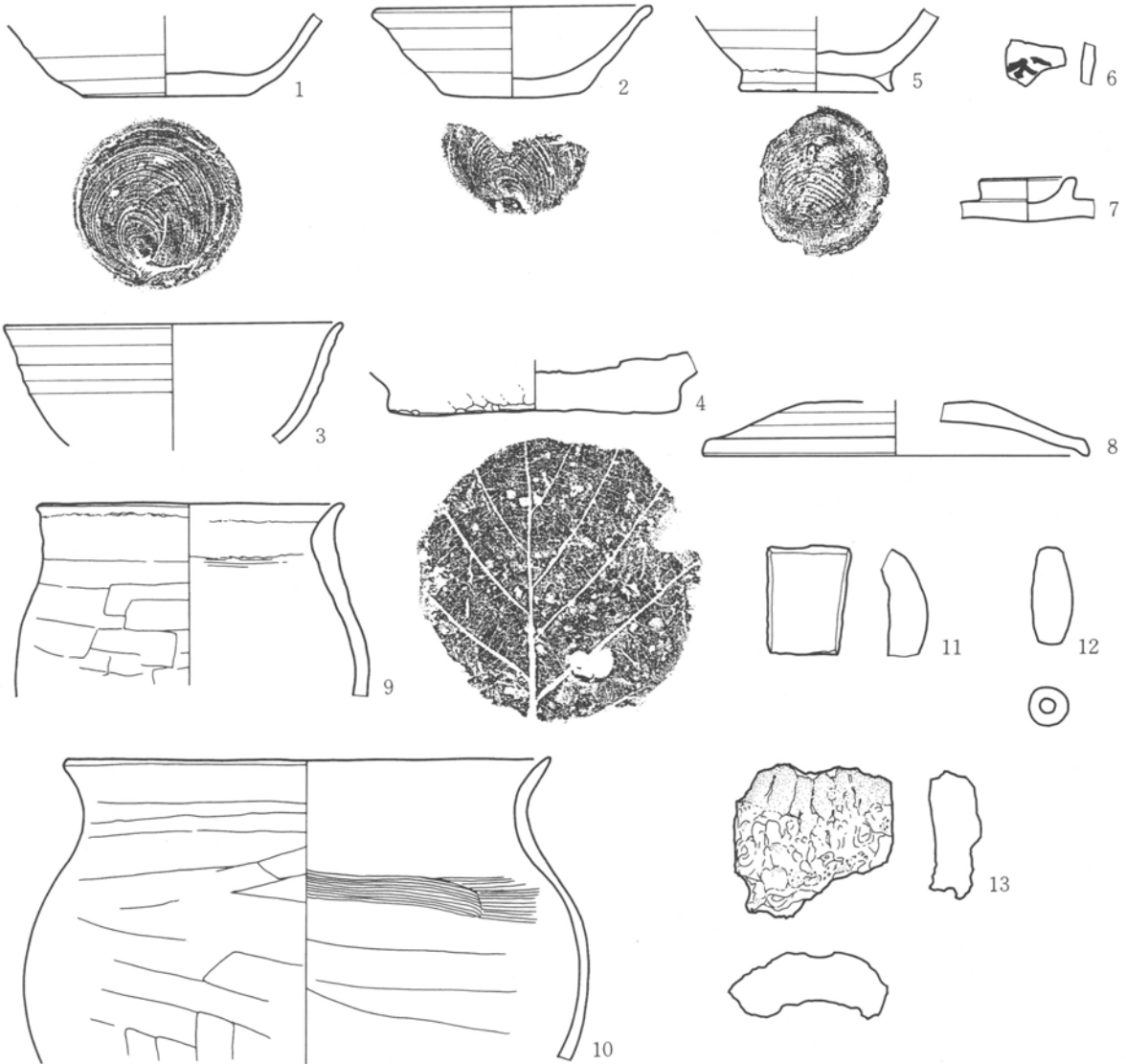
第118図 C22号住居跡出土遺物(2)

C22号住居跡

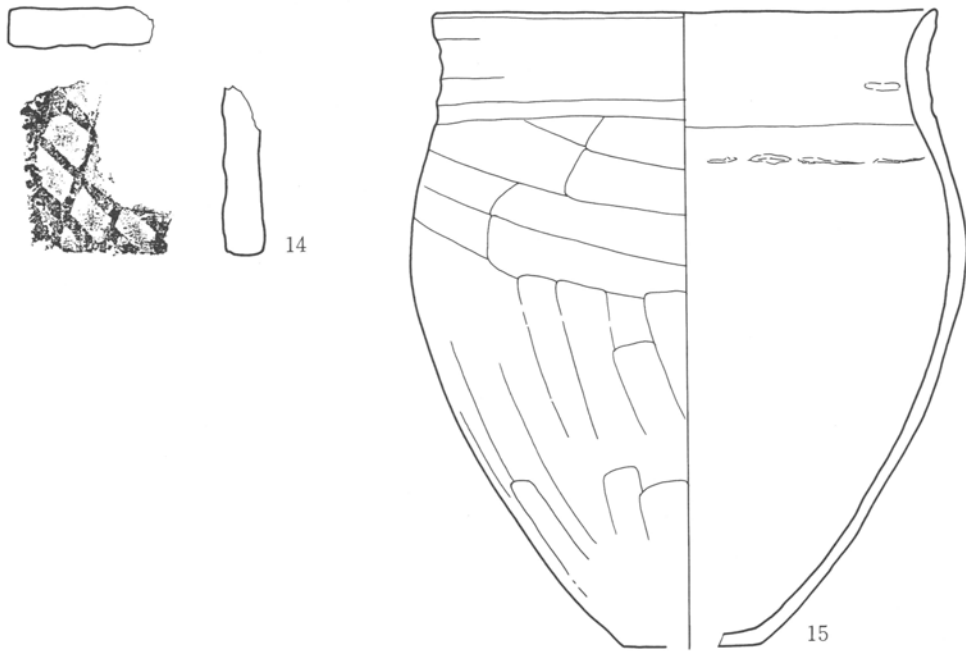
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 坏	口 11.4 底 8 高 3.3	①細砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5/4 にぶい褐	口縁部内外面よこなで 外面 体部などで調整 底部手持ちヘラ削り 内面 などで 底部内面に墨書
2	土師器 坏	口(12)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5/4 にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 外面 体部などで 底部手持ちヘラ 削り 内面 などで放射状研磨
3	土師器 坏	口(12)	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 5/6 明赤褐	口縁部内外面よこなで 外面 体部などで 底部手持ちヘラ削り 内面 などで
4	須恵器 皿	底 6	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り後回転ヘラ調整
5	須恵器 椀	底 7.3	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 8/1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台

第3章 検出された遺構と遺物

6	須恵器	底(7.9)	①細砂粒含む ②良好 ③2.5Y4/1黄灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
7	須恵器	底(8.4)	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
8	須恵器	口径4.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形 擬宝珠
9	灰釉陶器	口(13.3)	①緻密 ②良好 ③5Y7/1灰白	轆轤整形
10	土師器	口(19)	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで
11	土師器	口(20)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y5/4にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 なで
12	土師器	口(19)	①砂粒含む ②良好 ③5YR4/2灰褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へら削り 内面 なで
13	瓦	厚 2.1	①砂粒含む ②良好 ③5YR7/4にぶい橙	外面 斜格子目叩き 内面 布目
14	土 錘	長 4.8 径 1.8 孔径0.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y5/1黄灰	外面なで調整
15	土 錘	長 4 径 1.9 孔径0.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙	外面なで調整
16	土 錘	長 4.2 径 1.5 孔径0.4	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	外面なで調整
17	女 瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y6/6橙	外面 正格子目叩き 内面 布目 端部両側面取り2面



第119図 C23号住居跡出土遺物(1)



第120図 C23号住居跡出土遺物(2)

C23号住居跡

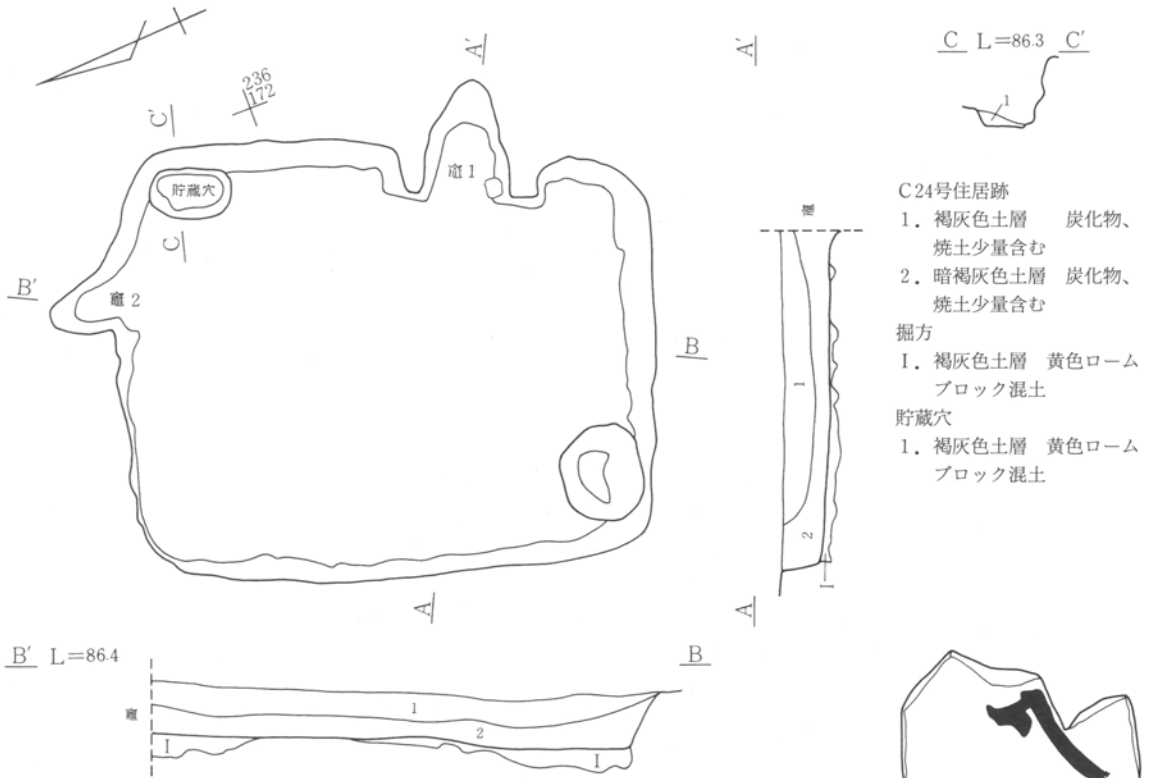
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 坏	底 6.8	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り
2	須恵器 坏	口(11.6) 底(6) 高 3.7	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り
3	灰釉陶器 碗	口(14)	①緻密 ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形
4	土師器	底 11.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	底部木葉痕
5	須恵器 碗	底(6.2)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
6	須恵器 破片		①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 にぶい黄橙	轆轤整形 墨書
7	須恵器 蓋	摘径(4)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 4 / 1 灰	轆轤整形
8	須恵器 蓋	口(16)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	轆轤整形 外面 回転ヘラ調整
9	土師器	口 12.7	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 3 にぶい褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
10	土師器	口 20	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 2 灰黄	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
11	須恵器 破片		①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 2 灰オリーブ	取っ手の部分 全面自然釉
12	土 錘	長 3.9 径 1.7 孔径0.6	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 5 / 3 にぶい褐	外面 なで調整
13	羽 口		①小石含む ②良好 ③10YR 3 / 3 暗褐	外面 溶解物多量に付着
14	瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 2 灰黄	外面 斜格子目叩き 内面 布目 端部側面取り1面
15	土師器	口 20 底 5.4 高 24.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 3 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで

C24号住居跡 (第121~124図、PL11・39・40)

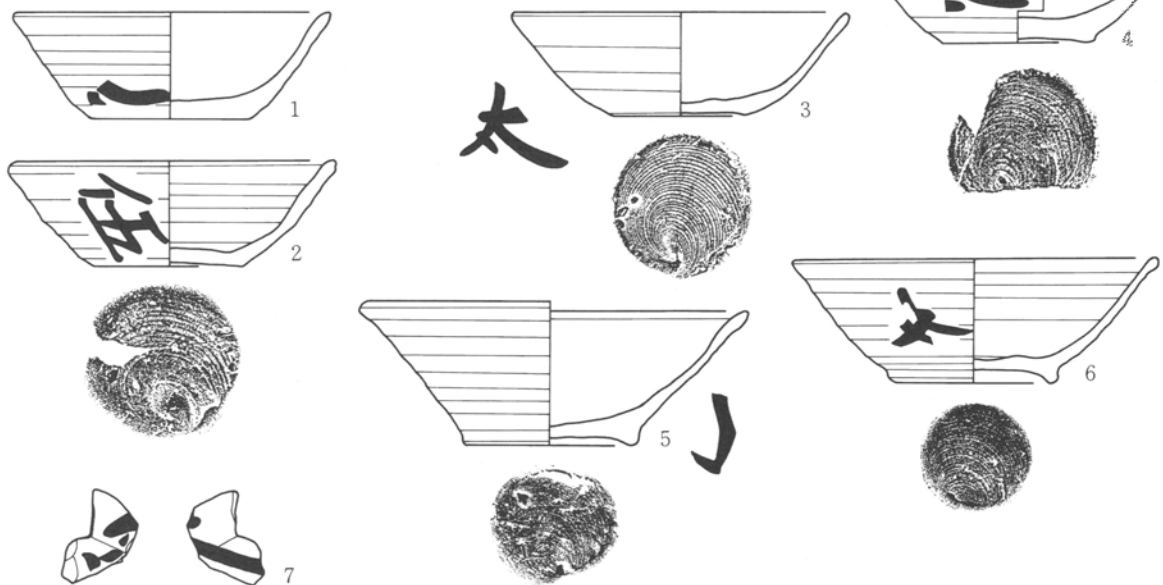
当住居跡はC区南西部に位置し230-170グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈する。他の遺構と

第3章 検出された遺構と遺物

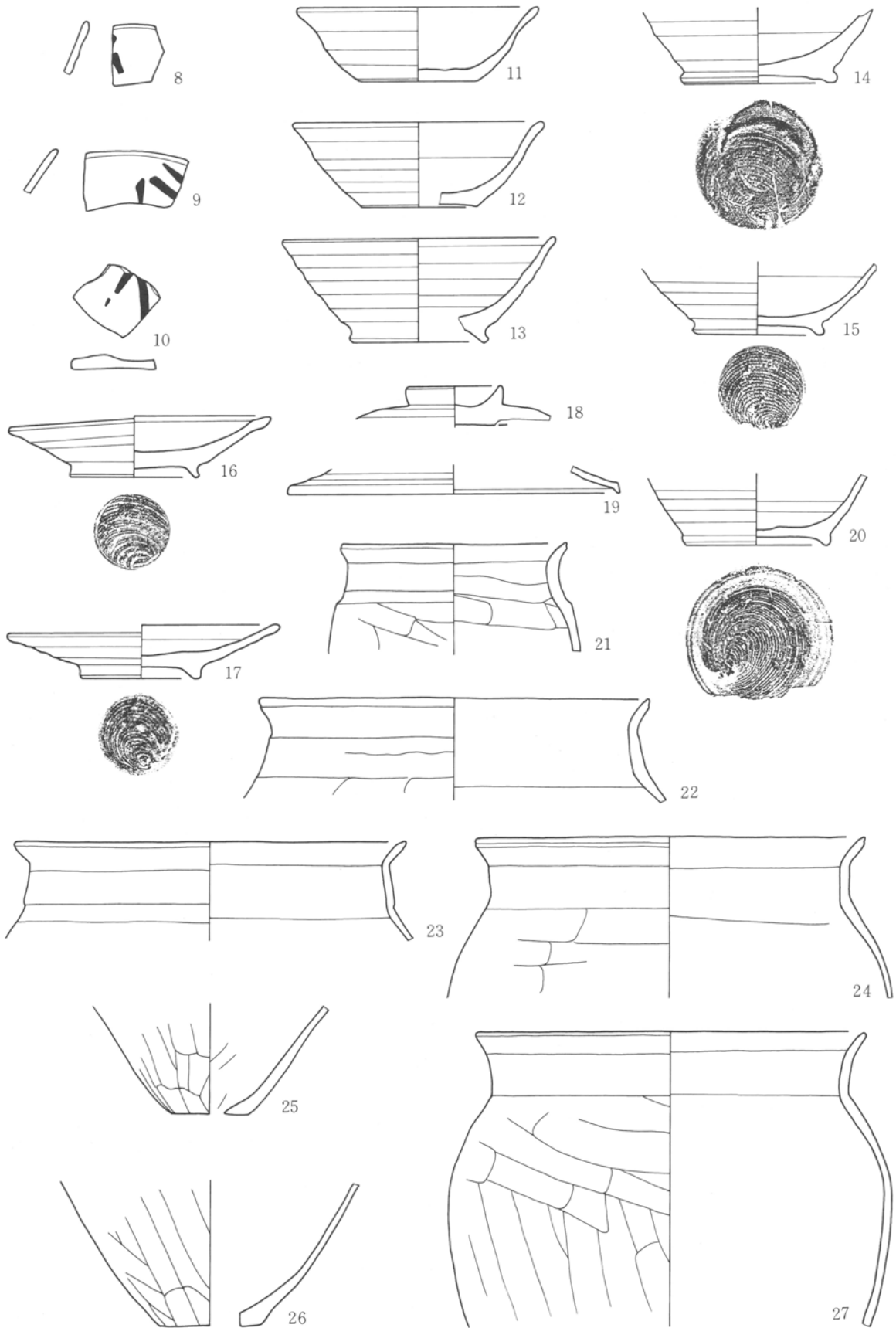
の重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3.5mを測る。壁高は約35cmである。床面は平坦をなし、柱穴等の施設は検出されていない。貯蔵穴は北東コーナー部に確認され、規模は65cm×45cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁やや南寄りと北壁やや東寄りに2基確認され、各々1・2とした。竈1の規模は長軸1m、袖幅55cmを測る。竈の右袖には袖材として使われたと思われる石が出土している。竈2は長軸60cm、燃烧部幅40cmを測り、2の方がやや小さい。出土遺物の中で墨書が多数出土している。破片類が多いので判読は難しいが「太」「伍」が判読できる。



第121図 C24号住居跡平面図

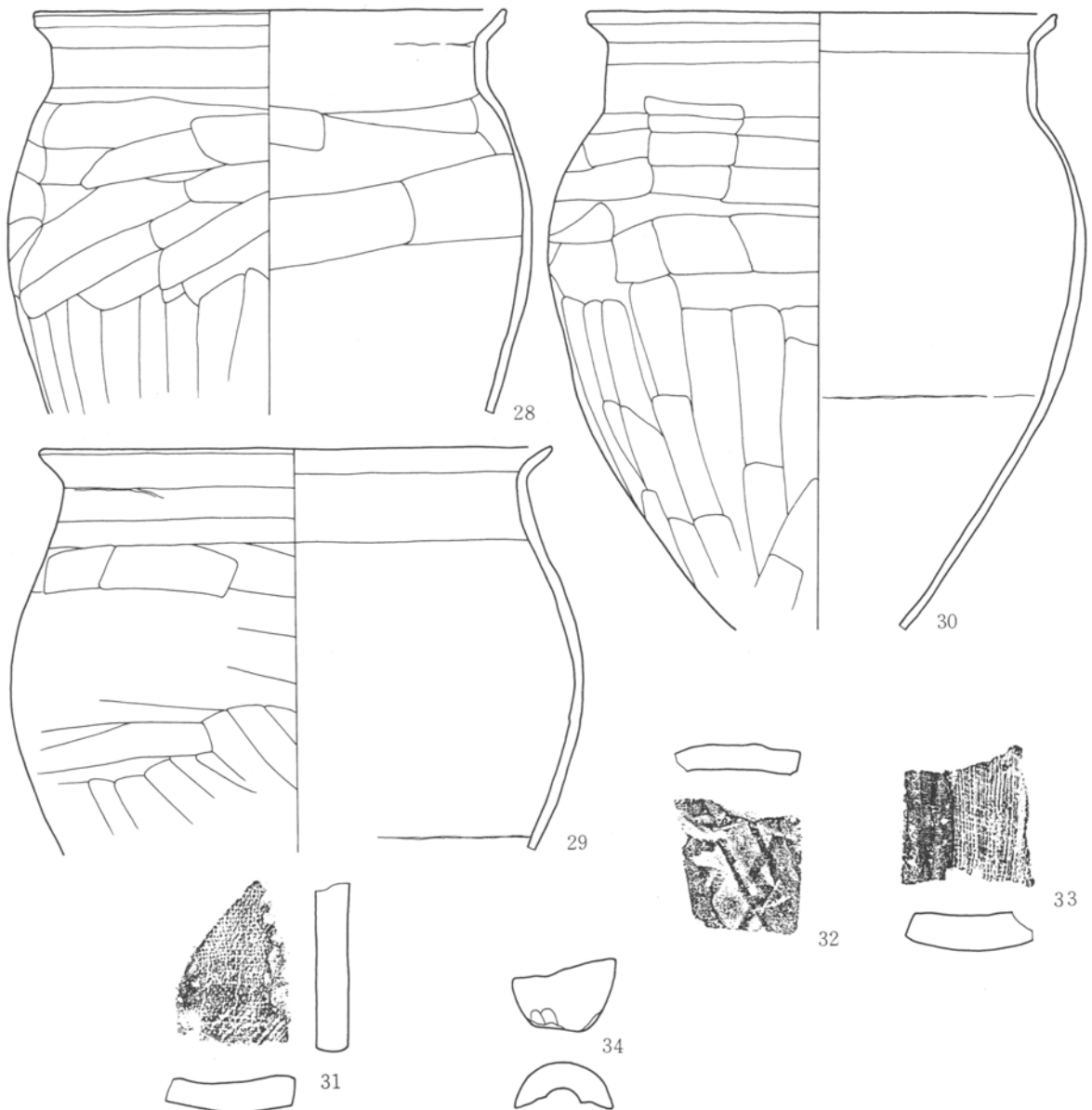


第122図 C24号住居跡出土遺物(1)



第123図 C24号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第124図 C24号住居跡出土遺物(3)

C24号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 坏	口 12.6 底 6.4 高 4.2	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/2 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 外面に墨書
2	須恵器 坏	口 13 底 3 高 4.3	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/3 浅黄	轆轤整形 底部回転糸切り 体部外面に墨書「伍」
3	須恵器 坏	口 13.4 底 5.4 高 4.1	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/3 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 外面に墨書「太」
4	須恵器 坏	底 6	①砂粒含む ②良好 ③5Y4/1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り 底部内外面に墨書
5	須恵器 碗	口 15.4 底 6.8 高 5.3	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台 口縁部内面墨書
6	須恵器 坏	口 14.6 底 6.6 高 4.9	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/3 浅黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台 外面に墨書
7	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③5Y7/1 灰白	内外面に墨書
8	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1 灰	外面に墨書

9	須惠器		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 1 灰白	外面に墨書
10	須惠器		①砂粒含む ②良好 ③5 Y 6 / 1 灰	外面に墨書
11	須惠器 坏	口 12.4 底 6 高 3.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り
12	須惠器 坏	口 13.2 底 6 高 4.3	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り
13	須惠器 碗	口 14 底 7 高 5.3	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
14	須惠器 碗	底 8	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 4 にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
15	須惠器 碗	底 6.8	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
16	須惠器 皿	口 13.4 底 6.6 高 3.1	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 3 浅黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
17	須惠器 皿	口 13.9 底 6.2 高 2.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
18	須惠器 蓋	摘径5	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 外面回転ヘラ調整
19	須惠器 蓋	口 17	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形
20	須惠器 碗	底 7.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 8 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
21	土器 甕	口 11.6	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 外面 ヘラ削り 内面 なで ヘラなで
22	土器 甕	口 20	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7 / 8 黄橙	口縁部内外面よこなで 外面 ヘラ削り 内面 なで
23	土器 甕	口 20	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 6 明赤褐	口縁部内外面よこなで 外面 ヘラ削り 内面 なで
24	土器 甕	口 20	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 外面 ヘラ削り 内面 なで
25	土器 甕	底 4	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	外面 ヘラ削り 内面 ヘラなで なで
26	土器 甕	底 5	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 6 橙	外面 ヘラ削り 内面 ヘラなで なで
27	土器 甕	口 20	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 4 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
28	土器 甕	口 20	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
29	土器 甕	口 21.8	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
30	土器 甕	口 20	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 5 / 8 明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
31	男 瓦	厚 1.4	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 6 / 1 灰白	外面 ヘラなで 内面 布目 側面取り1面
32	女 瓦	厚 1.1	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 4 / 1 灰	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側面取り1面
33	男 瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 3 浅黄橙	外面 ヘラなで 内面 布目 側面取り1面
34	土 錘		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6 / 2 灰黄	外面 なで調整

C25号住居跡 (第125・126図)

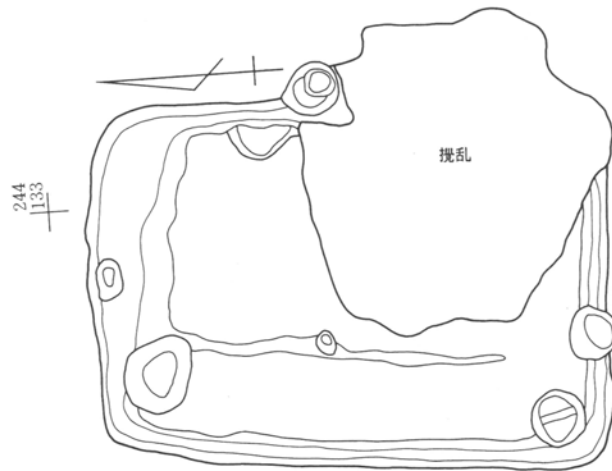
当住居跡はC区中央に位置し、250-130グリッドの範囲にある。調査時の所見によれば攪乱穴により大半は壊されており、掘方で住居跡の存在を確認した。



第125図 C25号住居跡出土遺物

C25号住居跡

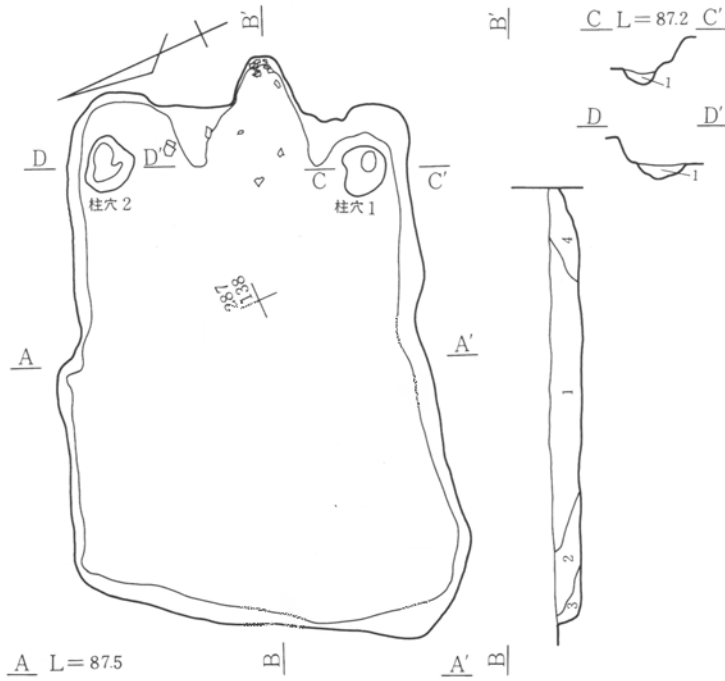
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	瓦	厚 2.1	①砂粒含む ②良好 ③N 4 / 灰	外面 ヘラなで 内面 布目



第126図 C25号住居跡平面図

C区26号住居跡 (第127~129図、PL11・40・41)

当住居跡はC区中央北端部に位置し280-130・140グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈し、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺2.1m、壁高は約25cmを測る。床面は平坦をなし、貯蔵穴、壁周溝等の諸施設は検出されていない。東壁北、南コーナー部に穴が2基確認され調査時の所見に従い柱穴とした。規模は柱穴1、径約40cm、深さ10cm、柱穴2、径約40cm、深さ10cmを測る。竈は東壁ほぼ中央に検出された。規模は長軸1m、袖幅1mを測る。



柱穴1

1. 褐灰色土層 焼土、炭化物少量含む

柱穴2

1. 暗灰黄軟質土層

C26号住居跡

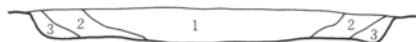
1. 褐灰色土層

2. 灰褐色土層

3. にぶい褐灰ローム質土層

4. 黒褐色土層 やや粘質強く、炭化物含む

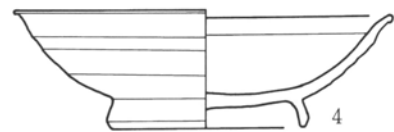
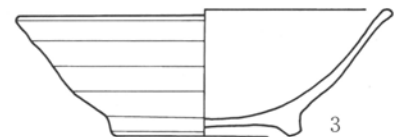
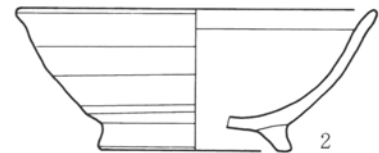
A L=875

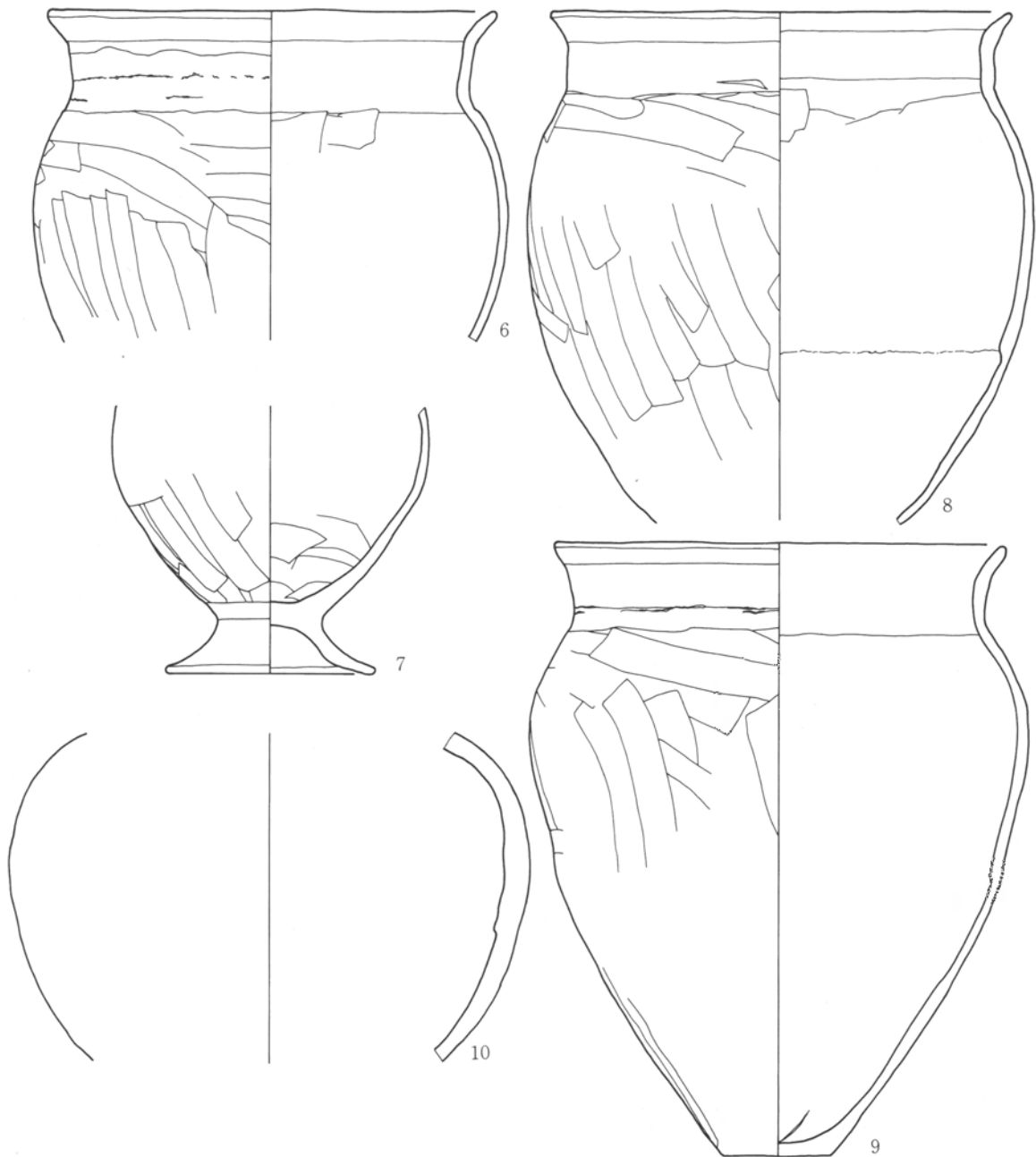


第127図 C26号住居跡平面図



第128図 C26号住居跡出土遺物(1)





第129図 C26号住居跡出土遺物(2)

C26号住居跡

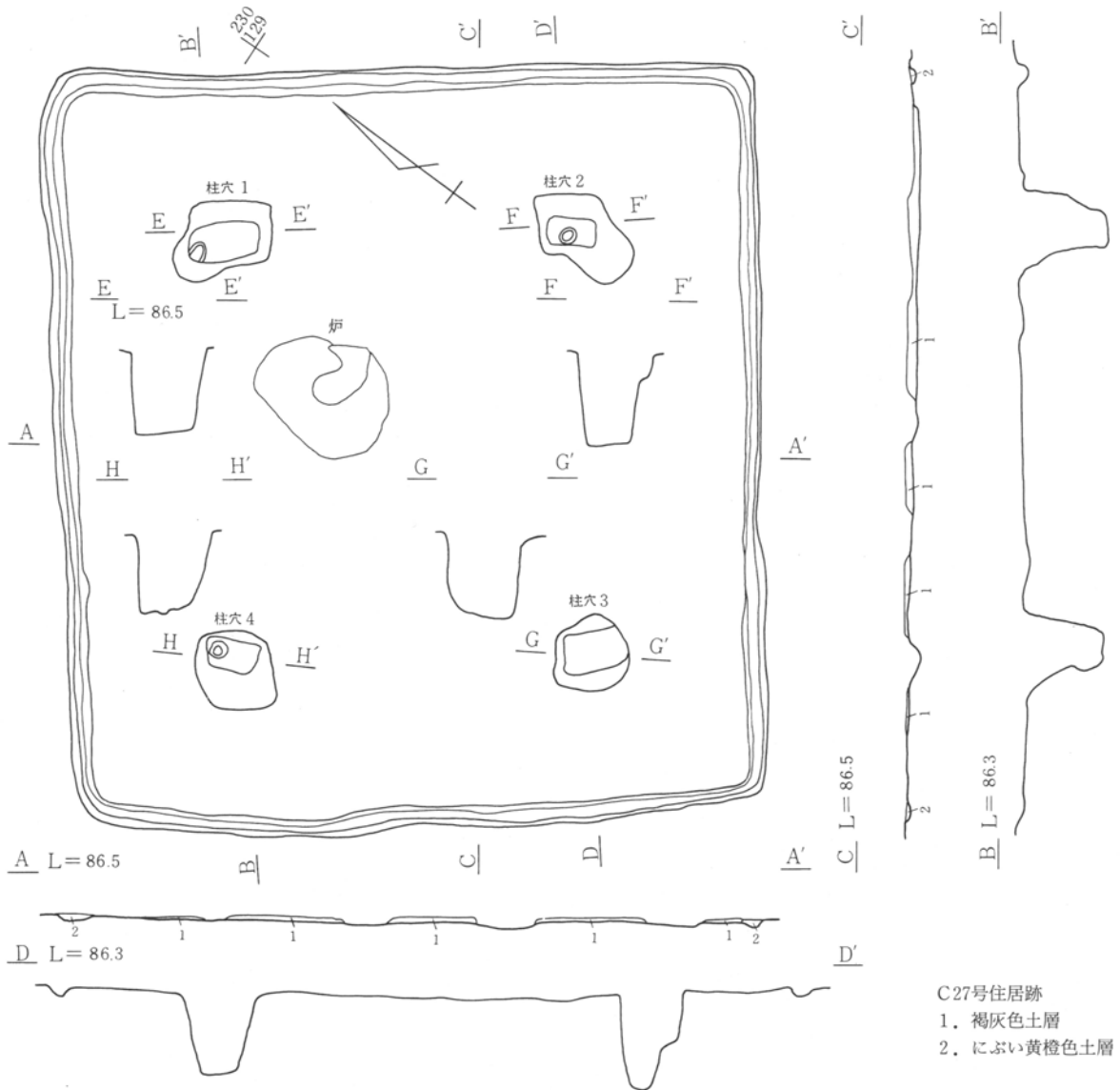
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 坏	口 12.4 高 3.5 底 8.6	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 5 / 4 にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 体部 内で 底部 ヘラ削り 内面 内で
2	須恵器 碗	口(14.4) 高 5.6 底(7.7)	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 1 灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
3	須恵器 碗	口 15.1 高 4.8 底 7.6	①砂粒含む ②良好 ③2.5 Y 6 / 2 灰黄	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
4	灰釉陶器 碗	口 15 高 4.5 底 7.6	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 3 浅黄	轆轤整形 底部回転ヘラ調整 付け高台 内外面釉薬刷毛塗り
5	土師器 甕	底(4.6)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 3 / 1 黒褐	外面 ヘラ削り 内面 内で
6	土師器 甕	口(19.8)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 4 にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 内で ヘラ内で
7	土師器 付甕	脚径(9.3)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 4 にぶい赤褐	外面 胴部ヘラ削り 脚部よこなで 内面 胴部ヘラ内で 脚部よこなで

第3章 検出された遺構と遺物

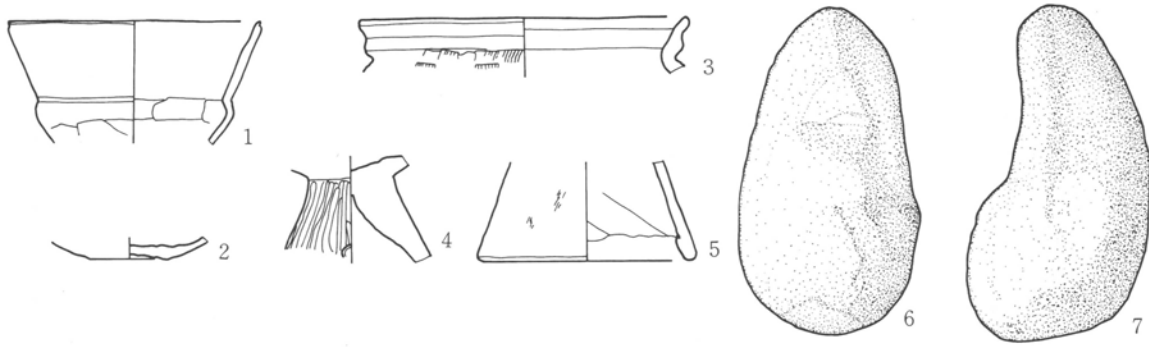
8	土師器	口 20.4	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へラ削り 内面 などで へラなどで
9	土師器	口(20) 高 27	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面へラ削り 内面 などで
10	須恵器		①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	長頸壺胴部

C27号住居跡 (第130・131図、PL11)

当住居跡はC区中央南部に位置し220・230—120・130グリッドの範囲にある。当住居跡が確認された周辺は確認面が浅く現代の畑地の攪乱を受けていた。平面形態は方形を呈し、他の遺構との重複はない。規模は一辺約6.5mの方形である。壁高は確認できなかった。床面は平坦をなし中央やや北東寄りに炉、これを囲むように4本の柱穴、また4辺には壁周溝が検出された。炉の規模は1.2m×90cm、東側に薄く焼土が確認された。壁周溝は幅20cm～25cm、深さ約5～6cmを測る。柱穴は4本確認され、各々1～4とした。規模は1、90cm×50cm、深さ80cm。2、1m×50cm、深さ80cm。3、65cm×60cm、深さ60cm。4、70cm×60cm、深さ70cmを測る。柱間はほぼ均等に3.2m～3.4mの幅におさまっている。



第130図 C27号住居跡平面図

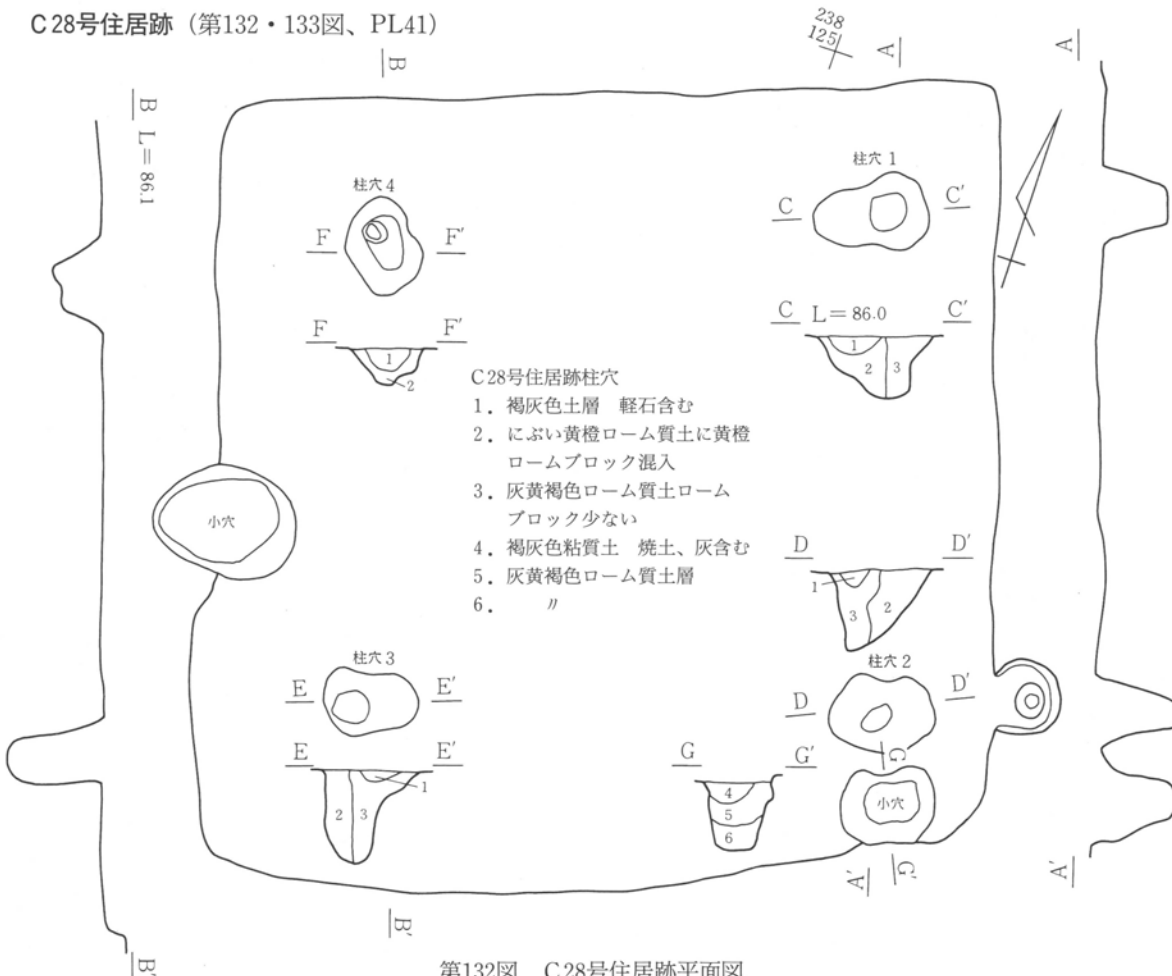


第131図 C27号住居跡出土遺物

C27号住居跡

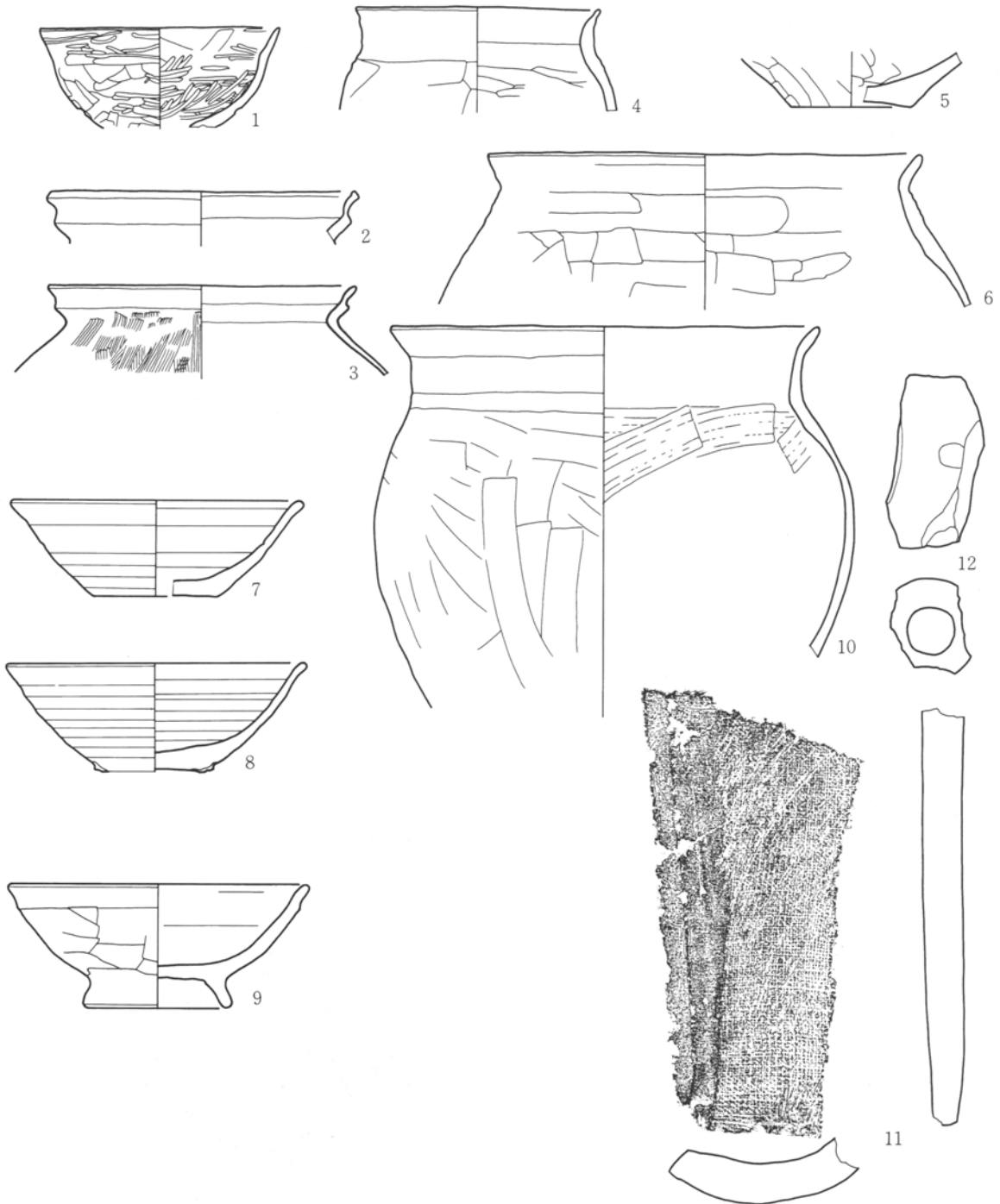
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 器埴	口(10)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/4 にぶい黄橙	内外面 ヘラ調整後など
2	土師器 器埴	底(3)	①砂粒含む ②良好 ③5Y 5/2 灰オリーブ	平底
3	土台 師付 器甕	口(13)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 3/1 黒褐	口縁部内外面よこなどで 外面 刷毛目
4	土師器 器坏		①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 8/4 浅黄橙	外面 ヘラ調整後磨き 内面 など
5	土師器 器脚	底(8.4)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/6 橙	外面 ヘラなどで 内面 などで 折り返し
6	石	長 13 幅 7.2 厚 5		
7	石	長 13.3 幅 7.5 厚 3.5		

C28号住居跡 (第132・133図、PL41)



第3章 検出された遺構と遺物

当住居跡はC区中央南部に位置し220・230—120グリッドの範囲にある。平面形態は一辺が6.2mの方形を呈する。住居跡は床面で確認され、明確な壁は確認されなかった。床面は平坦をなし、柱穴が4基確認され、各々1～4とした。規模は1、90cm×60cm、深さ50cm。2、90cm×50cm、深さ60cm。3、75cm×50cm、深さ70cm。4、75cm×60cm、深さ30cmを測る。また柱穴以外にも小穴が確認され、南東コーナー部の小穴は貯蔵穴の可能性が考えられる。西壁中央部ににかかる小穴は住居跡の関連の可能性は薄い。出土土器は古墳時代から平安時代の遺物が混在する。出土遺物からすると数軒の重複も考えられるが、ここでは調査時の所見に従う。

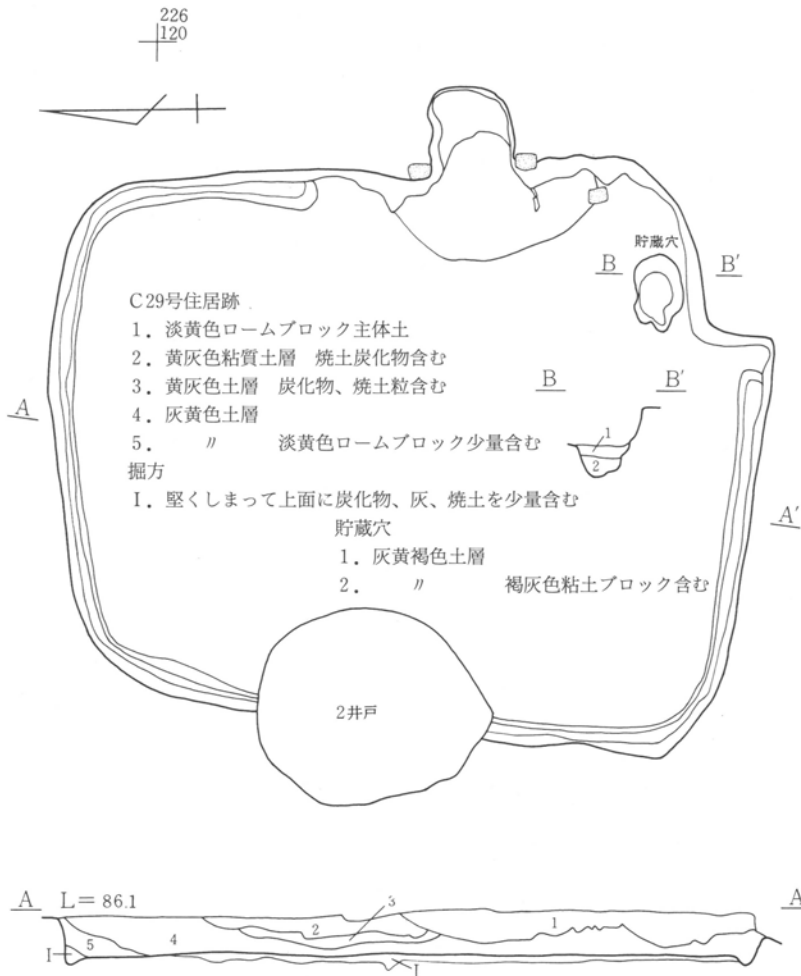


第133図 C28号住居跡出土遺物

C28号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師鉢	口(11)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/4 にぶい黄橙	内外面ヘラなどで調整後磨き
2	土師付器	口(14)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5/2 灰黄褐	口縁部などでS字状口縁台付甕
3	土師付器	口(14.4)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 4/3 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 外面 刷毛目 内面 なで
4	土師甕	口(11.2)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/4 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
5	土師甕	底(5.6)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5/4	外面 ヘラ削り 内面 なで
6	土師甕	口(20)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 4/2 灰黄褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで
7	須恵器	口(13.4) 底(5.8) 高 4.4	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5/3 にぶい黄褐	轆轤整形 底部回転糸切り
8	須恵器	口(14) 底(5.4) 高 5.5	①砂粒含む ②良好 ③10Y 6/2 灰オリーブ	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
9	須恵器	口(13.8) 底(7.4) 高 5.8	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 5/2 暗灰黄	轆轤整形 底部 ヘラ調整 外面 手持ちヘラ調整 付け高台
10	土師甕	口(19.8)	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 4/6 赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで ヘラなで
11	男瓦	厚 1.8	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 6/1 灰	外面 なで 内面 布目 側面取り2面
12	土 錘	孔径2.2	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 8/2 灰白	ヘラなで

C29号住居跡 (第134・135図、PL11・41)

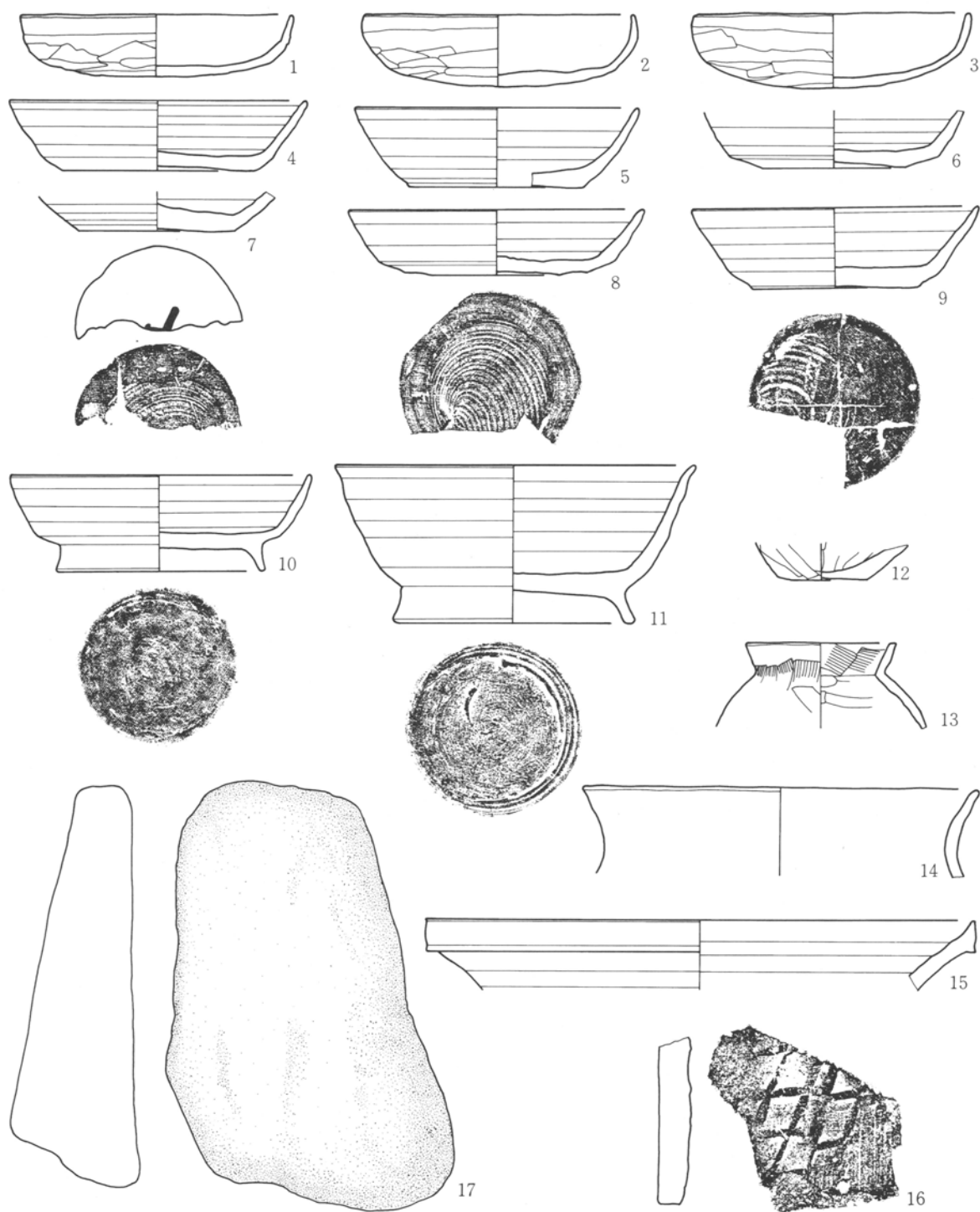


第134図 C29号住居跡平面図

当住居跡はC区中央南に位置し220—120グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈するが南東コーナー部はやや歪んでいる。他の遺構との関係は西壁を壊して2号井戸がある。新旧関係は井戸が新しい。住居跡の規模は長辺4.7m、短辺4.2mを測る。壁高は35cmを測る。

床面は平坦をなし、柱穴は確認されていない。貯蔵穴は南東コーナー部に確認された。規模は65cm×45cm、深さ30cmである。南東コーナー部を除き4辺には壁周溝が確認され、規模は幅約10cm~15cm、深さ5cmを測る。竈は東壁やや南寄りに確認された。規模は長軸80cm、袖幅90cmを測り両袖部には構築材として石が設置されている。

第3章 検出された遺構と遺物



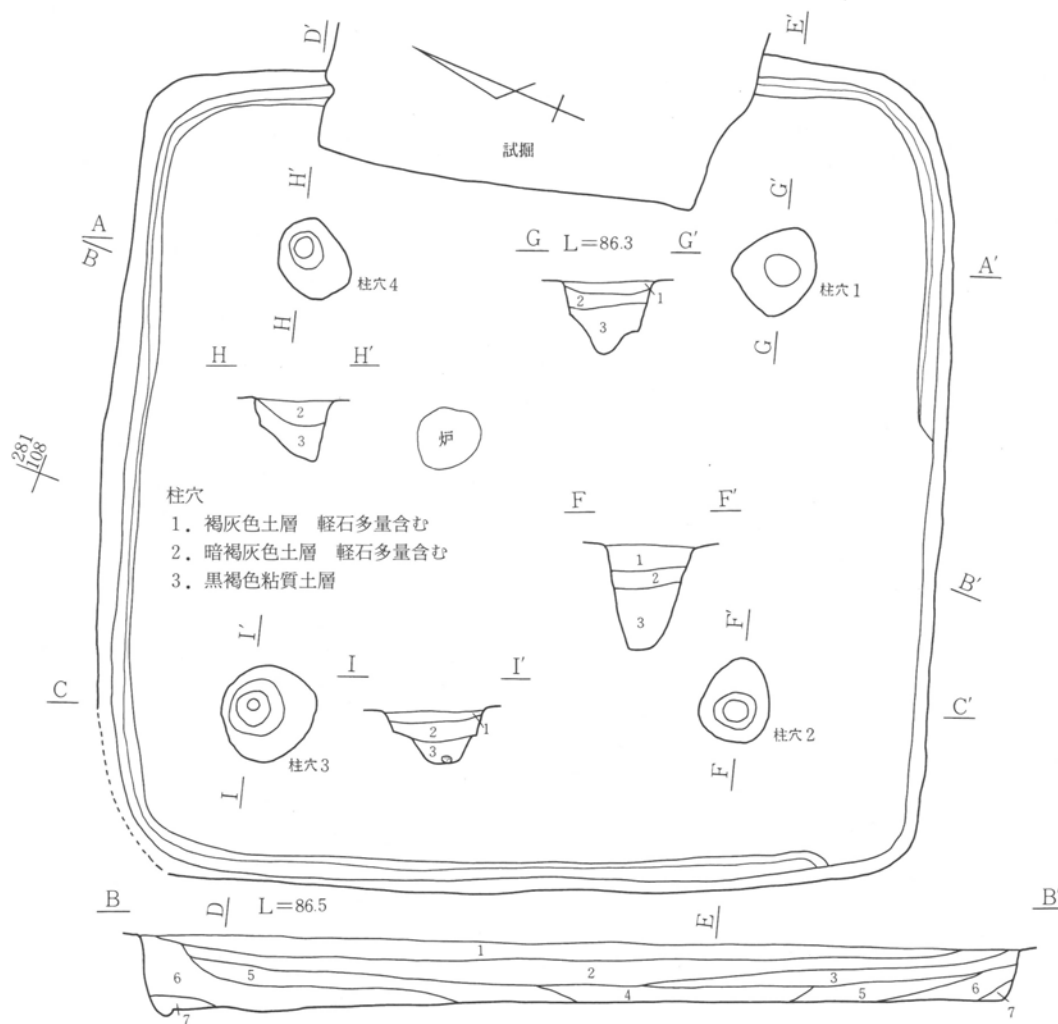
第135図 C29号住居跡出土遺物

C29号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 钵	口(13) 高 2.9 底(6)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙	外面 口縁部よこなで 下部 なで 体部 ヘラ削り内面
2	土師器 钵	口 12.4 高 3.5 底 6	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6 / 6 橙	外面 口縁部よこなで 下部 なで 体部 ヘラ削り内面
3	土師器 钵	口 13.2 高 3.5 底 5	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/6 橙	外面 口縁部よこなで 下部 なで 体部 ヘラ削り内面
4	須恵器 钵	口(14.2) 高 3.4 底(9)	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 7 / 2 灰白	轆轤整形 底部回転ヘラ調整
5	須恵器 钵	口(13.4) 高(3.8) 底(8.4)	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 5 / 2 灰オリーブ	轆轤整形 底部回転糸切り

6	須惠坏器	底(6.8)	①砂粒含む ②良好 ③5Y8/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 周辺回転ヘラ調整
7	須惠坏器	底(7.4)	①砂粒含む ②良好 ③10YR6/4にぶい黄橙	轆轤整形 底部回転糸切り 周辺回転ヘラ調整 底部外面に墨書
8	須惠坏器	口(14) 底(8.6) 高 3.1	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y7/1灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 周辺回転ヘラ調整
9	須惠坏器	口(13.6) 底(9.8) 高 3.8	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転糸切り後手持ちヘラ調整 腰部一部手持ちヘラ調整
10	須惠碗	口 14.3 底 9.8 高 4.5	①砂粒含む ②良好 ③5Y7/2灰白	轆轤整形 底部回転糸切り 付け高台
11	須惠碗	口 17 底 11 高 7.5	①砂粒含む ②良好 ③5Y6/1灰	轆轤整形 底部回転ヘラ調整 付け高台
12	土師器	底 4.3	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙	外面 ヘラ削り 内面 ヘラなで
13	土師器	口(7)	①砂粒含む ②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙	外面 口縁部よこなで 頸部刷毛目 内面 口縁部刷毛目 胴部なで
14	土師器	口(18.8)	①砂粒含む ②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで
15	須惠器	口(26)	①砂粒含む ②良好 ③N4/0灰	轆轤整形
16	女瓦	厚 1.6	①砂粒含む ②良好 ③5Y8/1灰白	外面 斜格子目叩き 内面 布目 側部面取り1面
17	石	長 20.4 幅 13.6 厚 6.2		

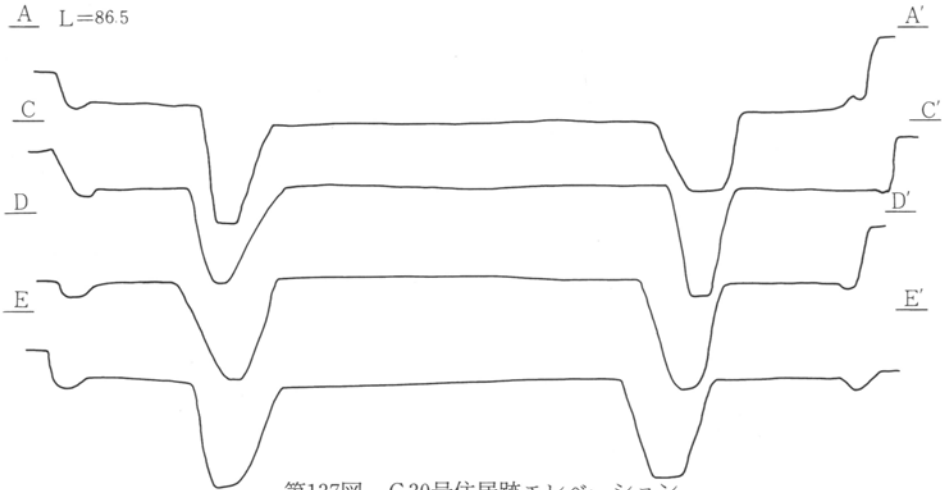
C30号住居跡 (第136~138図、PL12・42)



第136図 C30号住居跡平面図

第3章 検出された遺構と遺物

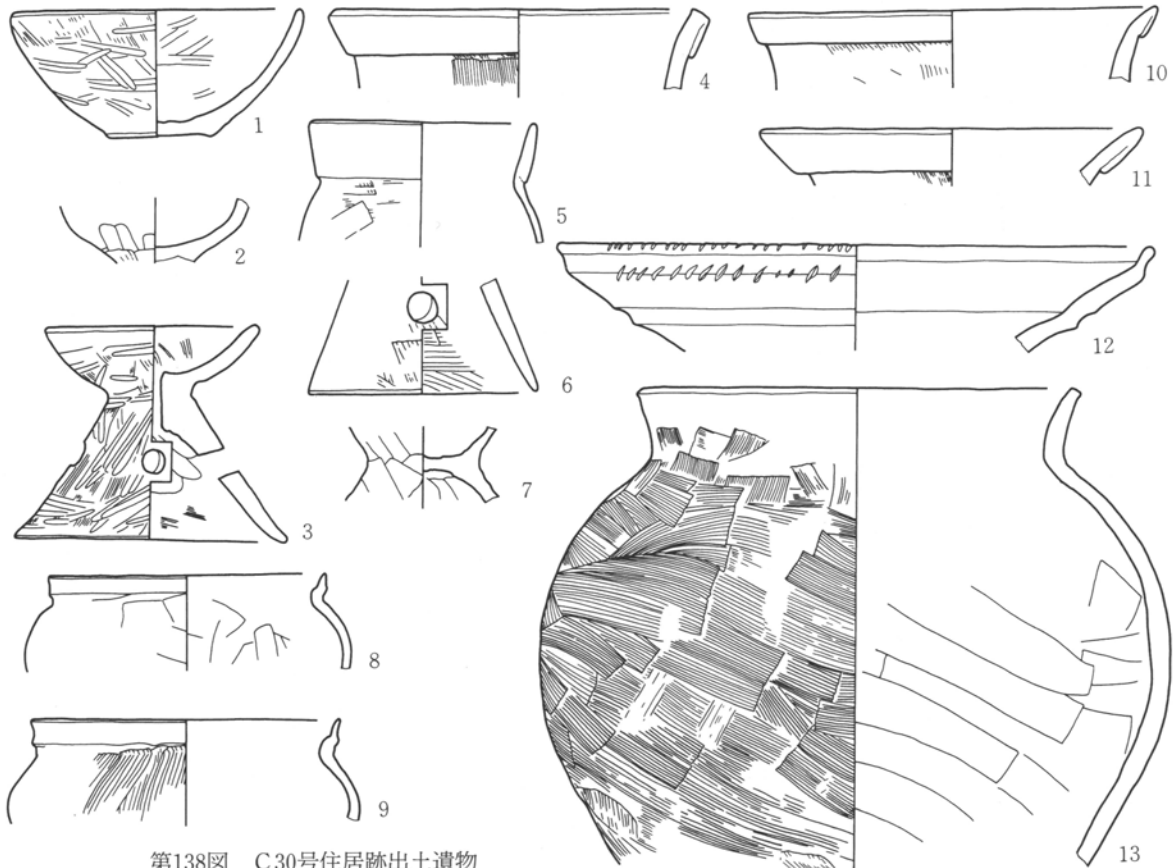
当住居跡はC区北部に位置し270・280—100・110グリッドの範囲にある。平面形態は一辺が6.5mの方形を呈する。他の遺構との重複はないが東壁の一部とさらに西北コーナーの一部が試掘により壊されている。壁高は40cm～55cmを測る。床面は平坦をなし、柱穴が4本と壁周溝が確認されている。貯蔵穴は確認されていない。壁周溝は幅30cm～40cm、深さ10cm～15cmを測る。柱穴は各々1～4とした。規模は1、74cm×68cm、深さ60cm。2、68cm×56cm、深さ84cm。3、径約78cm、深さ44cm。4、66cm×50cm、深さ50cmを測る。炉は住居跡ほぼ中央に確認され、規模は径50cm、掘方はなく焼土の厚さ2cmを確認した。



C30号住居跡

第137図 C30号住居跡エレベーション

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 褐灰白色土層 C軽石含む | 5. 褐灰色年質土層 軽石少量含む |
| 2. 褐灰色粘質土層 軽石含む | 6. 黒褐色粘質土層 軽石少量含む |
| 3. " 軽石、灰白色粘土ブロック少量含む | 7. 黒褐色粘質土層 |
| 4. " 軽石、灰白色土ブロック少量含む | |

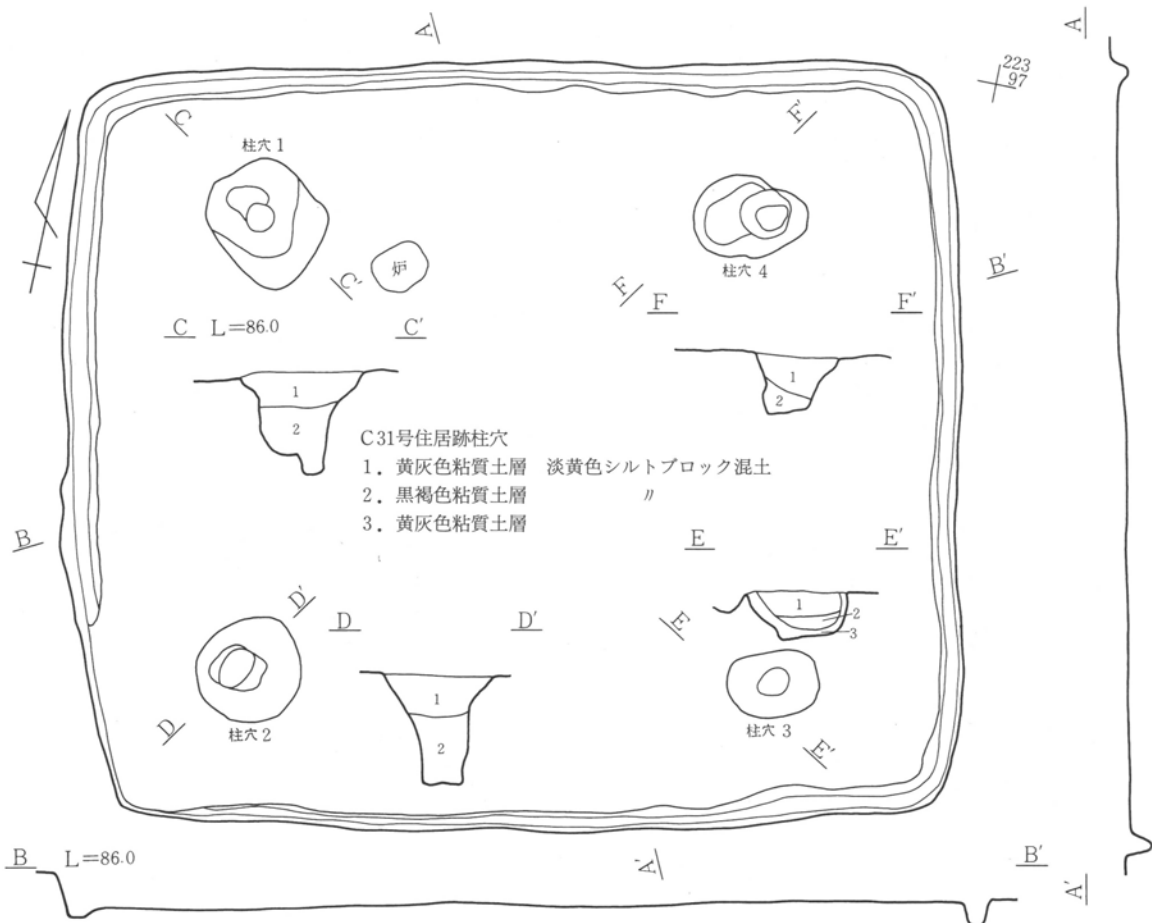


第138図 C30号住居跡出土遺物

C30号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器鉢	口 11.6 底 3.8 高 5.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR 3/1 黒褐	外面 刷毛目後などで磨き 内面 ヘラなどで後磨き
2	土師器器坏		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/2 灰黄	内外面ヘラなどで
3	土師器器台	口 8.5 底 10.9 高 8.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/3 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなどで 坏部内外面ヘラなどで後磨き脚部 外面ヘラなどで後磨き 内面 などで ヘラなどで
4	土師器壺	口(7.8) 高(3.1)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/3 にぶい黄橙	外面 口縁部よこなどで 折り返し 頸部刷毛目 内面 などで
5	土師器壺	口(9) 高(4.7)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/4 浅黄	口縁部よこなどで 胴部 外面ヘラなどで 内面 などで
6	土師器器台	底(14)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/3 浅黄	外面 ヘラなどで などで 内面 ヘラなどで
7	土師器器付		①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/3 にぶい褐	外面 刷毛目 内面 ヘラなどで などで
8	土師器壺	口(11)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 7/3 浅黄	口縁部内外面よこなどで 胴部 外面ヘラ調整 などで内面 などで
9	土師器壺	口(12.2)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 8/4 淡黄	口縁部内外面よこなどで 胴部 外面刷毛目 内面 などで
10	土師器壺	口(16.2)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/4 明黄褐	口縁部折り返しよこなどで 口縁下部 外面刷毛目 内面 などで
11	土師器壺	口(15)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/6 橙	口縁部折り返しよこなどで 口縁下部 外面刷毛目 内面 などで
12	土師器壺	口(23.6)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/3 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなどで 外面2段のヘラ先刺突
13	土師器壺	口(17.6)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/4 明黄褐	口縁部内外面よこなどで 胴部 外面刷毛目 内面 ヘラなどで などで

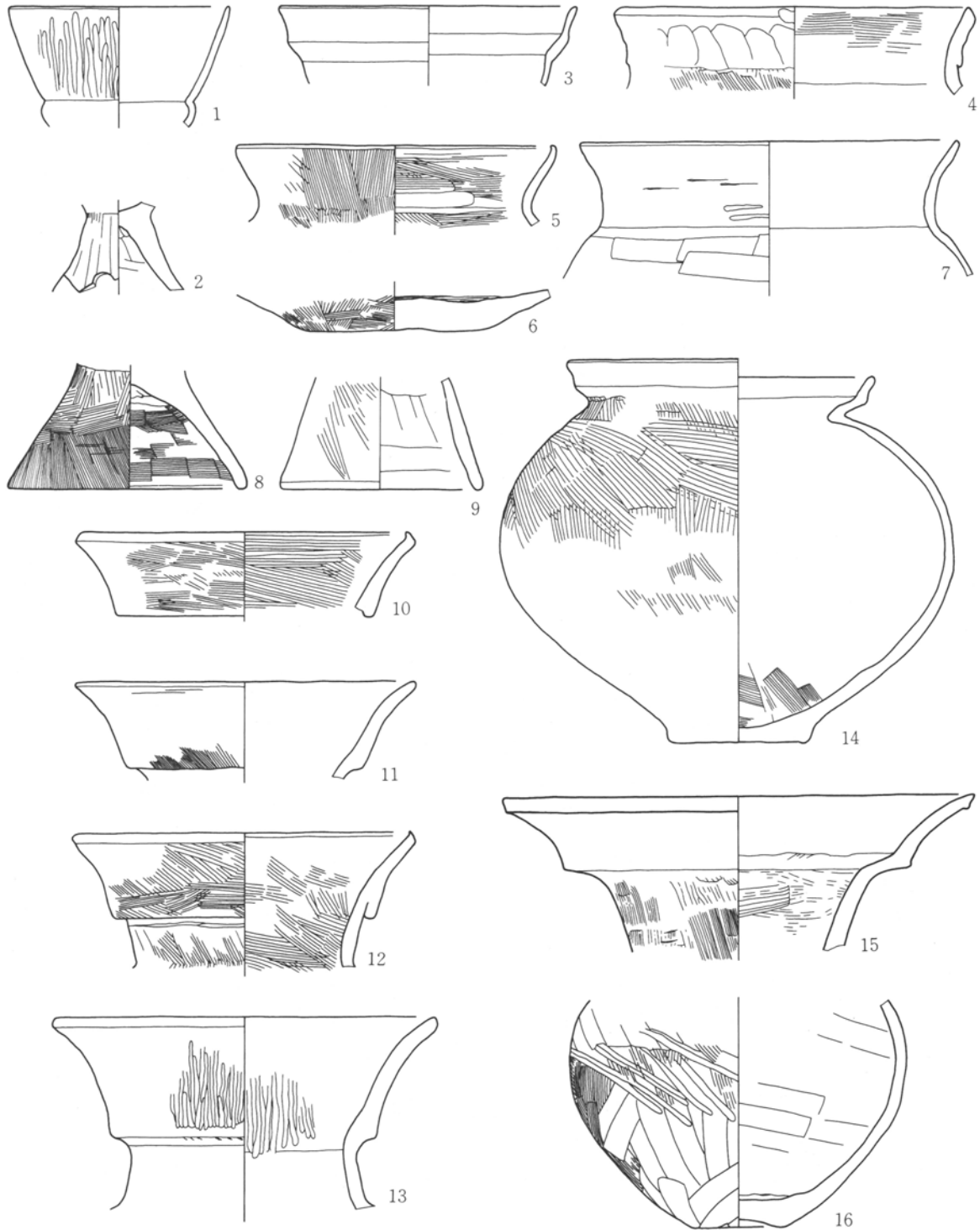
C31号住居跡 (第139~142図、PL12・42)



第139図 C31号住居跡平面図

第3章 検出された遺構と遺物

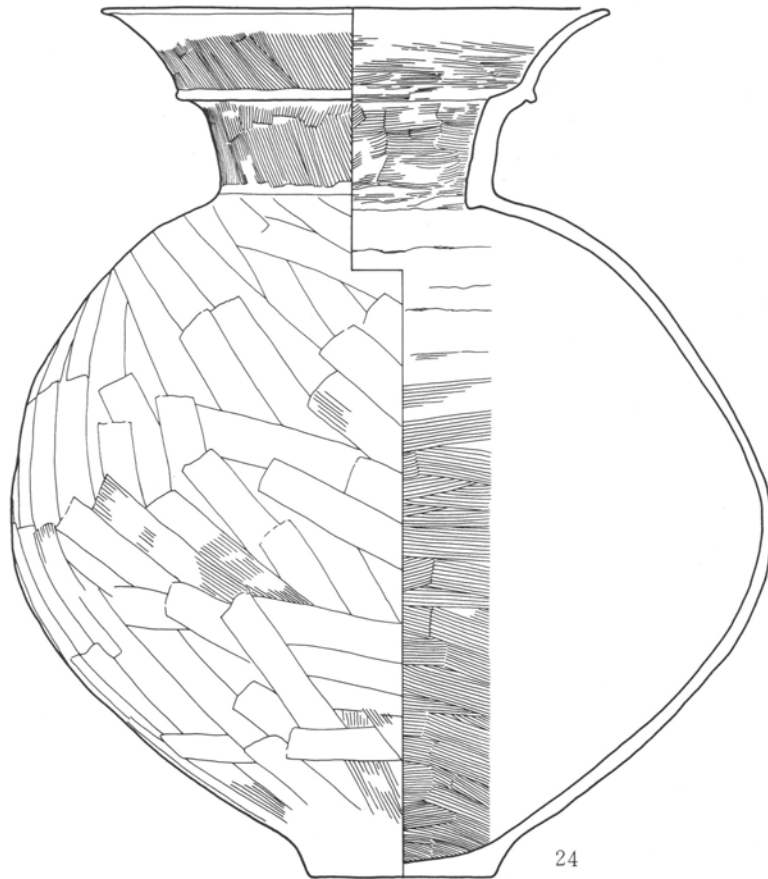
当住居跡はC区南東部に位置し210・220-90・100グリッドの範囲にある。平面形態は長方形を呈し、他の遺構との重複はない。規模は長辺7.2m、短辺6.2mを測る。壁は北、西が確認され壁高は30cmを測り、東・南壁は確認されていない。床面は平坦をなし、4辺に壁周溝、西北部に炉が確認された。炉は柱穴1の東側にあり40cm×30cmの規模を持つ。柱穴は4基確認され、各々1~4とした。規模は1、1m×80cm、深さ80cm。2、90cm×80cm、深さ85cm。3、70cm×50cm、深さ40cm。4、90cm×60cm、深さ50cmを測る。なお掲載No.15は表採遺物に取り上げられたが出土位置の検討により当住居跡の遺物の中に入れた。



第140図 C31号住居跡出土遺物(1)



第141図 C31号住居跡出土遺物(2)



第142図 C31号住居跡出土遺物(3)

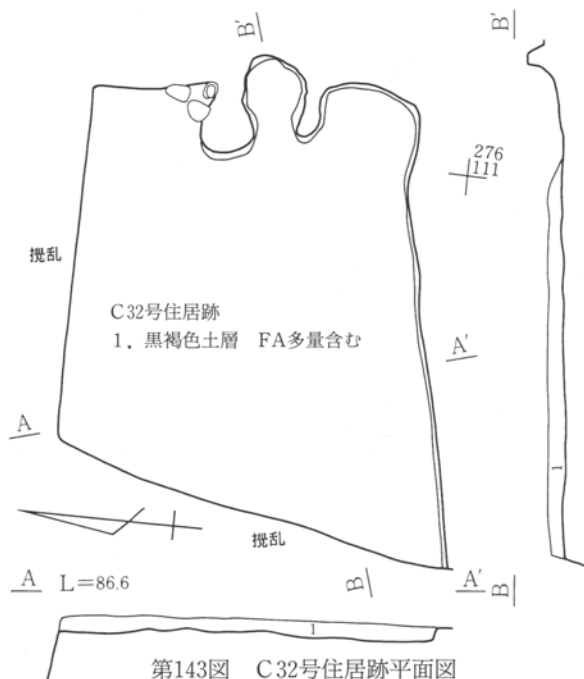
C31号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土 器 小 型 器 罎	口(10.4)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/4 にぶい橙	外面 口縁部磨き 内面 などで 口縁部一部赤彩の痕跡
2	土 器 高 型 器 坏		①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/3 にぶい黄橙	外面 ヘラなどで などで 内面 などで
3	土 器 鉢	口(14)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/4 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 内外面赤彩
4	土 器 甕	口(16.6)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/4 にぶい橙	外面 ヘラなどで ヘラ先で押さえた痕 内面 刷毛目状ヘラなどで後なで
5	土 器 甕	口(15)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5/3 にぶい黄橙	口縁部内外面刷毛目
6	土 器 甕	底(8)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/3 にぶい黄橙	内外面刷毛目
7	土 器 甕	口(18)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/4 にぶい橙	口縁部外面 よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 などで
8	土 器 甕 付 台	底 11.2	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5/6 黄褐	外面 刷毛目後上部ヘラなどで 内面 刷毛目後ヘラなどで
9	土 器 甕 付 台	底(9.4)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/3 にぶい黄橙	外面 刷毛目 内面 ヘラなどで
10	土 器 壺	口(8)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/3 にぶい黄橙	口縁部内外面刷毛目後なで
11	土 器 壺	口(16)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/3 にぶい黄橙	内外面刷毛目後なで
12	土 器 壺	口(16)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/4 にぶい黄橙	口縁部内外面刷毛目後なで
13	土 器 壺	口(18)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/4 にぶい橙	外面 口縁部よこなで後磨き 内面 ヘラなどで
14	土 器 甕	口 14.6 底 6.6 高 18.1	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7/4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面刷毛目 内面ヘラなどで などで 底部内面刷毛目
15	土 器 甕	口(22.2)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 6/3 にぶい黄	口縁部内外面よこなで 頸部 外面刷毛目 内面 ヘラなどで
16	土 器 壺	底 4.2	①砂粒含む ②良好 ③10YR 3/2 黒褐	胴部 外面 刷毛目後ヘラなどで 磨き 内面 ヘラなどで

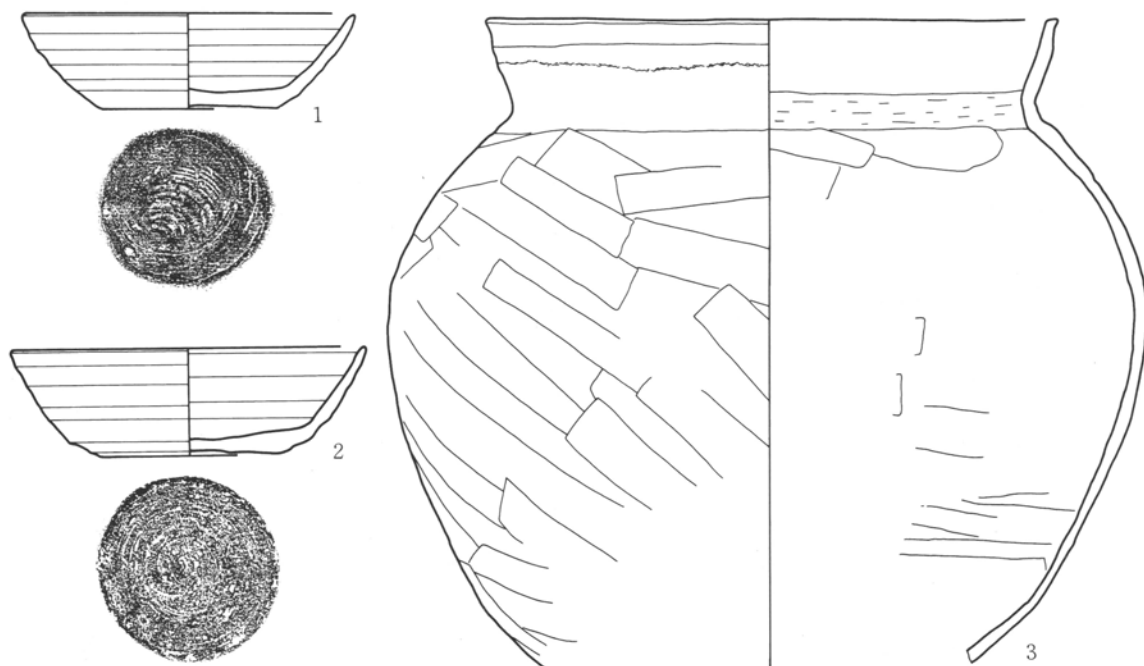
17	土 師 器	口 13.6 底 7 高 27	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7 / 4 にぶい橙	胴部 外面 口縁部刷毛目 胴部刷毛目後まで 頸部 磨き 内面 ヘラなどで
18	土 師 器	口 16 底 9 高 34	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 4 にぶい黄橙	外面 口縁部よこなで 刷毛目 胴部 ヘラ削り状 などで後磨き 内面 などで ヘラなどで 底部刷毛目
19	石	長 11 幅 4.6 厚 4.3		
20	石	長 12.3 幅 8.5 厚 6		
21	石	長 10.3 幅 7.2 厚 4		
22	石	長 8.3 幅 6.5 厚 5.2		
23	石	長 12.9 幅 5.4 厚 5		
24	土 師 器	口(20) 底 7.2 高 34.2	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 3 にぶい黄橙	外面 口縁部よこなで 刷毛目 胴部 刷毛目後まで ヘラなどで 内面 口縁部よこなで 刷毛目 胴部刷毛目

C32号住居跡 (第143~145図、PL12・43)

当住居跡はC区北東部に位置し270-110グリッドの範囲にある。30号住居跡の西に接するが重複は確認されていない。また北側と西側で大きく攪乱を受けており、平面形態ははっきりとは確認されていないが、残存状態の規模は東西3.7m、南北2.8mを測る。床面は平坦をなし、貯蔵穴、柱穴、壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に確認された。規模は長軸80cm、袖幅50cmを測る。竈の袖は左右共に床面に大きく伸びて確認された。

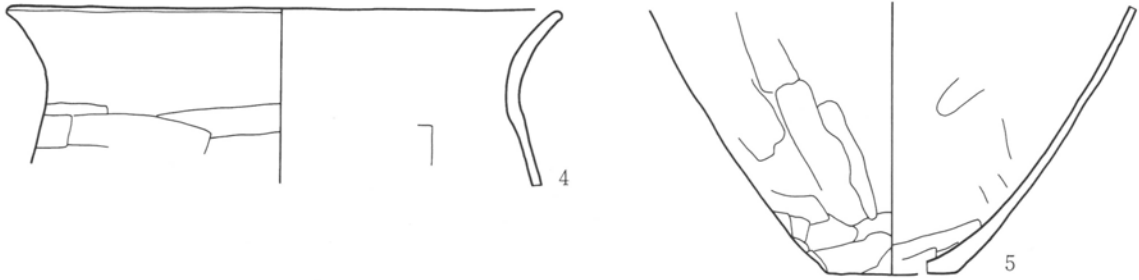


第143図 C32号住居跡平面図



第144図 C32号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第145図 C32号住居跡出土遺物(2)

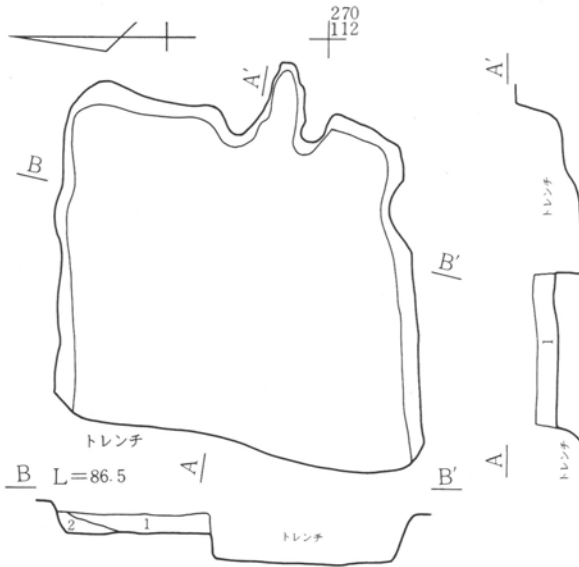
C32号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 坏	口 13.2 底 7 高 3.8	①砂粒含む ②良好 ③N 5 / 0 灰	轆轤整形 底部周辺回転ヘラ調整 県外産
2	須恵器 坏	口(14) 底(7) 高 4.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6 / 1 灰	轆轤整形 底部回転糸切り後周辺回転ヘラ調整 県外産
3	土師器	口 22.8	①砂粒含む ②良好 ③5 YR 5 / 6 明赤褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 ヘラなで なで
4	土師器	口 21.9	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5 / 4 にぶい褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面ヘラ削り 内面 なで ヘラなで
5	土師器	底(5)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 3 / 2 黒褐	外面 ヘラ削り 内面 なで ヘラなで

C33号住居跡 (第146・147図、PL43)

当住居跡はC区北東部に位置し270—110グリッドの範囲にある。32号住居跡の南に位置し、他の遺構との重複はない。南北辺は2.8mを測り、西半部はトレンチにより壊されているため確認できない。壁高は約15cm

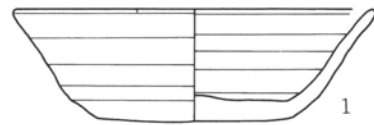
をはかる。床面は南半部をトレンチにより壊されているために明確には確認されていない。また壁周溝、柱穴、貯蔵穴等の諸施設は確認されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は長軸70cm、袖幅50cmをはかる。



第146図 C33号住居跡平面図

C33号住居跡

1. 暗褐色土層 FA含む
2. 浅黄色ロームを含む粘質土層



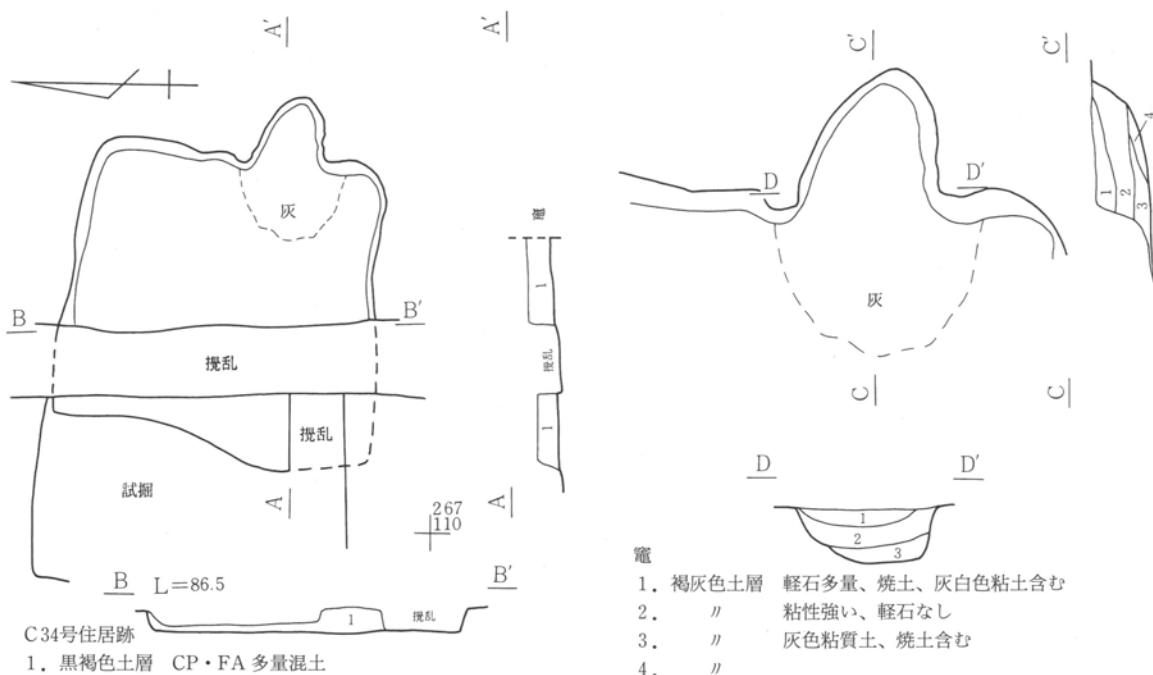
第147図 C33号住居跡出土遺物

C33号住居跡

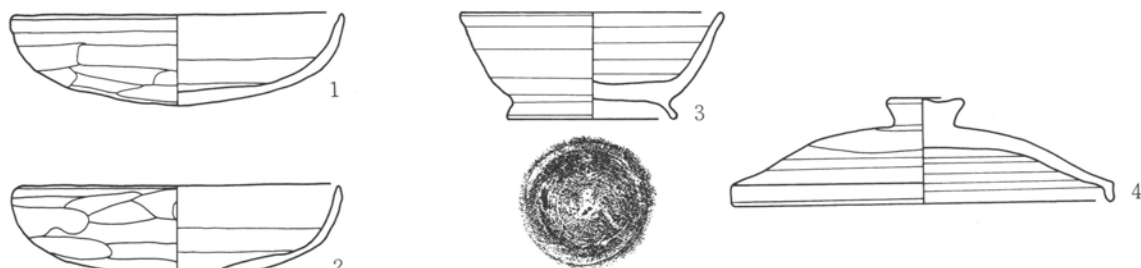
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	須恵器 坏	口(14.4) 底(7.8) 高 4.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 4 にぶい黄褐	轆轤整形 底部周辺回転ヘラ調整

C34号住居跡 (第148・149図、PL43)

当住居跡はC区北東部に位置し260—100グリッドの範囲にある。33号住居跡の南東にあり、他の遺構との重複はない。西半部は最近の攪乱により壊されている。南北壁長は2.4mを測る。壁高は15cm～20cmを測る。床面は明確には確認されず、壁周溝、柱穴、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに確認され、規模は長軸70cm、燃烧部幅60cmを測る。竈前面床面上には灰が集中して確認された。



第148図 C34号住居跡・竈平面図



第149図 C34号住居跡出土遺物

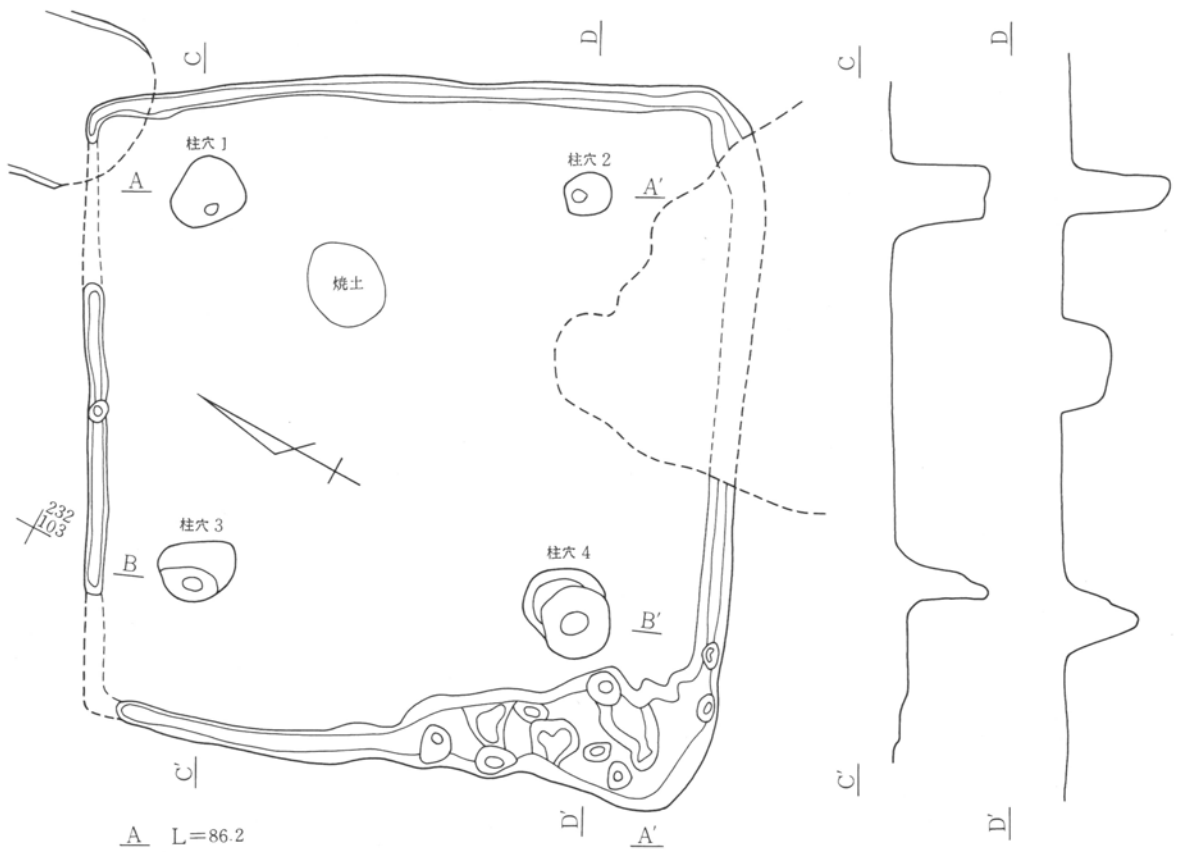
C34号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土 節器 坏	口(13.2)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5/6 明褐	口縁部内外面よこなで 体部 ヘラ削り 内面 などで
2	土 節器 坏	口 13	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5/6 明褐	口縁部内外面よこなで 体部 ヘラ削り 内面 などで
3	須 惠器 椀	口(10.6) 底(6.6) 高 4.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 6/1 灰	轆轤整形 底部回転ヘラ調整 付け高台
4	須 惠器 蓋	口 15 摘径3.1 高 4.2	①砂粒含む ②良好 ③N 6/0 灰	轆轤整形 外面回転ヘラ調整 針状鉱物混入

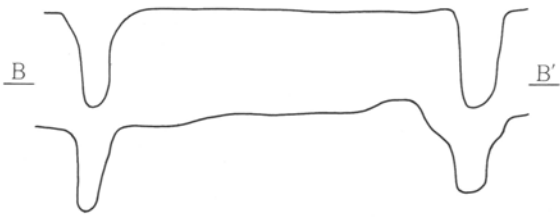
C36号住居跡 (第150~153図、PL12・43)

当住居跡はC区南東部に位置し230-100グリッドの範囲にある。38号住居跡の南東にあり、他の遺構との重複はないが、東壁の一部と西北コーナーを攪乱により壊されている。調査時の所見では床面及び炉と考えられる焼土を確認した。このため壁は確認されていないが壁周溝を確認した。壁周溝から測る住居跡の規模は長辺5.4m、短辺5.2mを測る。壁周溝は幅4cm~5cm、深さ5cm~10cmを測る。炉の規模は70cm×60cmを測る。柱穴は4基確認され、各々1~4とした。規模は1、60cm×55cm、深さ70cm。2、径40cm、深さ80cm。3、60cm×50cm、深さ70cm。4、80cm×60cm、深さ70cmを測る。柱穴の深さは4基ともに床面からほぼ同じの約70cm~80cmの深さである。

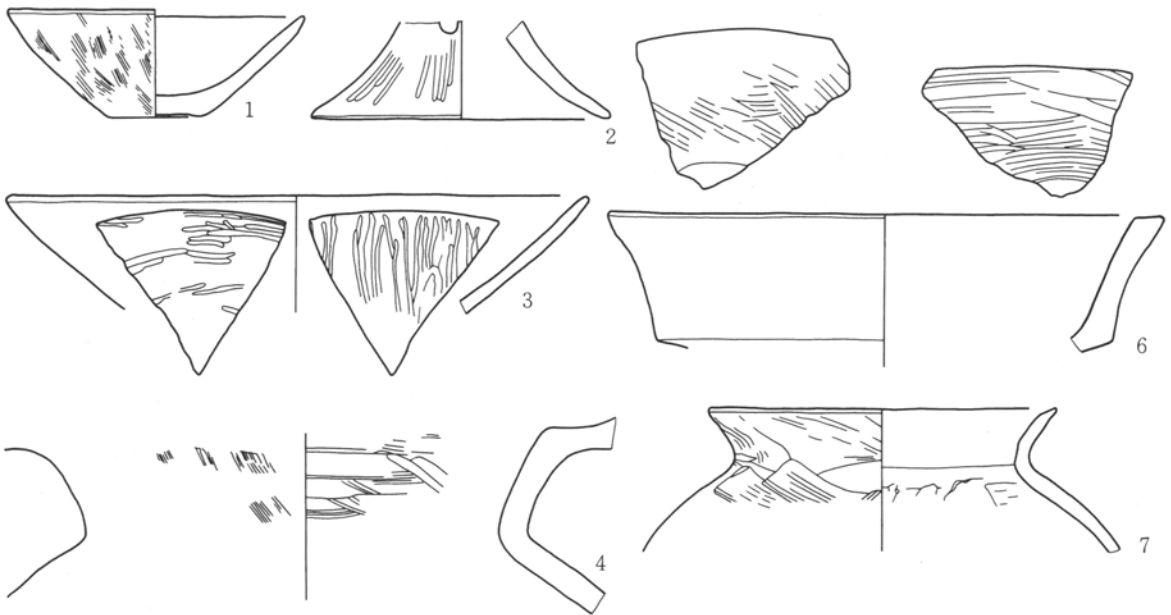
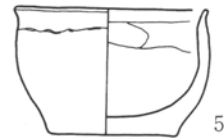
第3章 検出された遺構と遺物



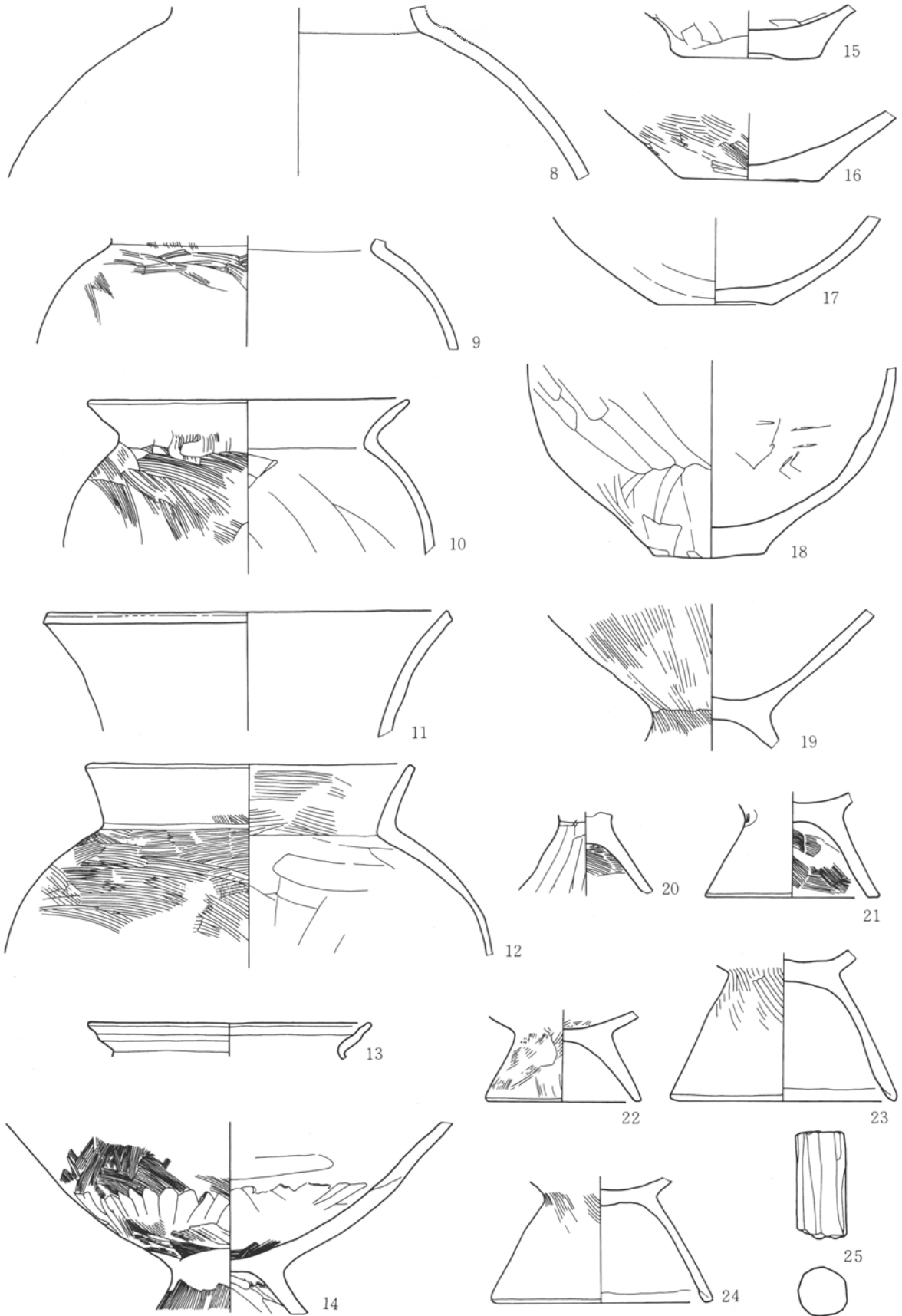
A L=86.2



第150図 C36号住居跡平面図

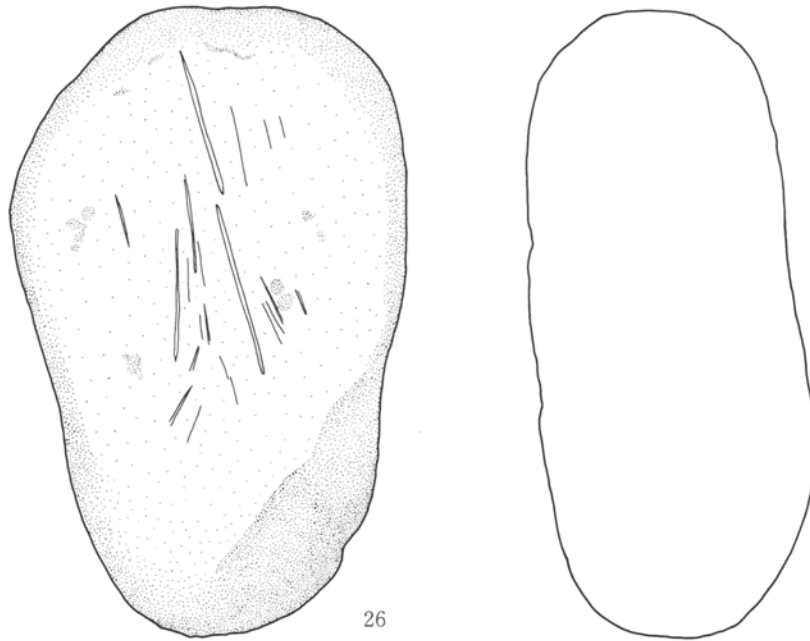


第151図 C36号住居跡出土遺物(1)



第152図 C36号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第153図 C36号住居跡出土遺物(3)

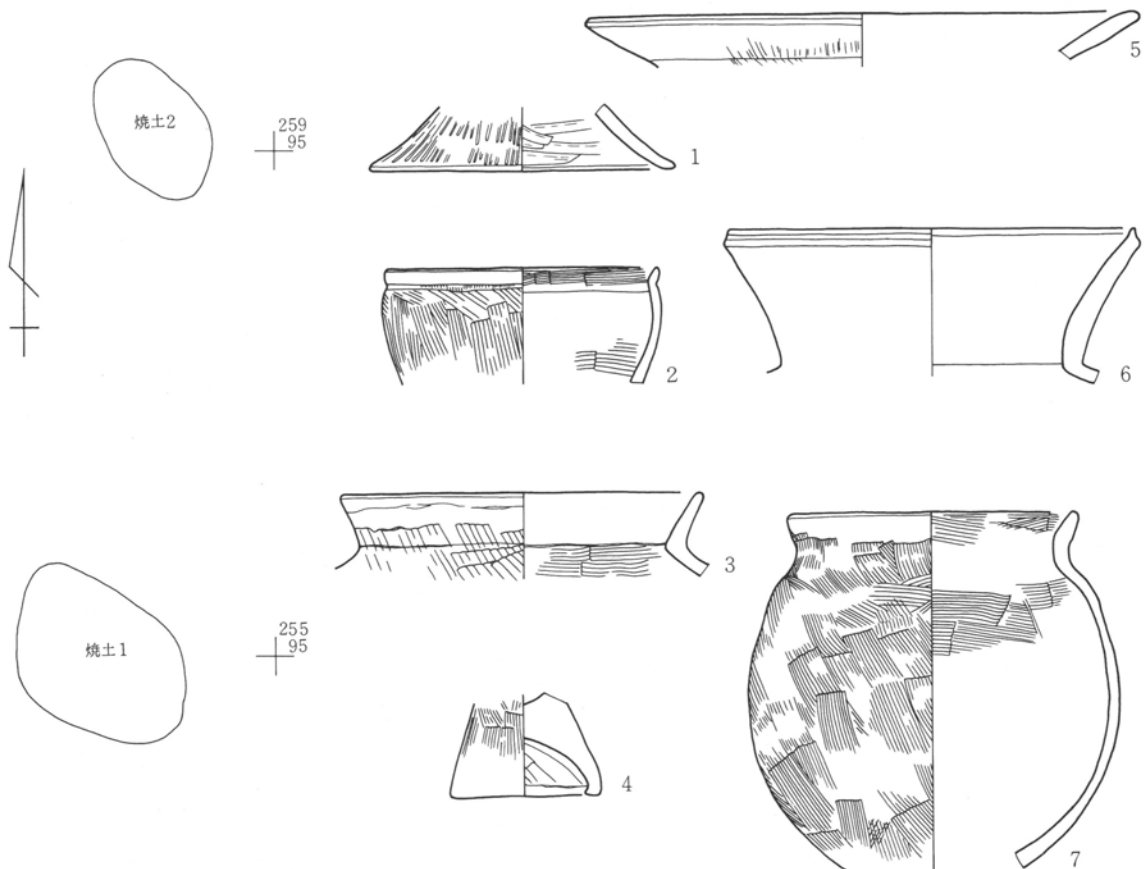
C36号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器鉢	口 11.8 底 3.7 高 4.3	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	内外面ヘラ状工具による調整後なで
2	土師器坏	底(11.8)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 にぶい黄橙	外面 磨き 赤彩 内面 なで
3	土師器坏	口(23)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 3 / 2 明赤褐	内外面磨き 赤彩
4	土師器壺		①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 3 にぶい黄橙	外面 刷毛目後なで 内面 刷毛目 ヘラなで
5	土師器鉢	口 7.7 底 5 高 5	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	内外面 なで ヘラなで
6	土師器壺	口(22)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 4 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 外面 刷毛目後なで
7	土師器甕	口(13.8)	①砂粒含む ②良好 ③5 Y 4 / 1 灰白	口縁部 刷毛目後なで 外面 刷毛目 内面 ヘラなで
8	土師器壺		①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 にぶい黄橙	胴上部 外面羽状縄文 内面 ヘラなで
9	土師器甕		①砂粒含む ②良好 ③10YR 4 / 2 灰黄褐	外面 刷毛目後なで 内面 ヘラなで
10	土師器甕	口(16.6)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 4 / 2 灰黄褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面刷毛目 内面 ヘラなで なで
11	土師器壺	口(20.7)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 4 にぶい黄橙	内外面ヘラなで
12	土師器甕	口(17)	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 5 / 4 にぶい赤褐	口縁部内外面よこなで 下部 刷毛目 外面 胴部刷毛目 頸部 外面ヘラ調整後刷毛目 内面 刷毛目 ヘラなで
13	土師器付甕	口(14.6)	①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 4 / 1 黄灰	口縁部よこなで S字状口縁台付甕
14	土師器付甕		①砂粒含む ②良好 ③10YR 4 / 1 褐灰	胴部 外面 刷毛目 接合部なで ヘラなで 内面 ヘラ なで 底部 外面刷毛目 S字状口縁台付甕
15	土師器甕	底 7.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 5 / 6 明赤褐	内外面ヘラなで
16	土師器甕	底(7.3)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 4 にぶい黄橙	外面 刷毛目 内面 ヘラなで
17	土師器甕	底 6	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 7 / 4 淡赤橙	内外面ヘラなで
18	土師器甕	底 5.7	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 6 / 6 橙	内外面ヘラなで

19	土師器 土台付甕		①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/4 にぶい黄橙	外面 刷毛目 内面 なで
20	土師器 土高坏		①砂粒含む ②良好 ③2.5Y 8/3 浅黄	外面 ヘラなで 内面 刷毛目
21	土師器 土台付甕	底(9)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/3 にぶい黄橙	外面 なで 内面 刷毛目 なで
22	土師器 土台付甕	底(8)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/4 にぶい黄橙	外面 刷毛目 内面 ヘラなで 脚内面なで
23	土師器 土台付甕	底(11.5)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8/3 浅黄橙	外面 刷毛目後なで 内面 なで 裾部内面折り返し S字状口縁台付甕
24	土師器 土台付甕	底(11.7)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/3 にぶい黄橙	外面 刷毛目後なで 内面 なで 裾部内面折り返し S字状口縁台付甕
25	土師器 土不器明		①砂粒含む ②良好 ③5 YR 6/4 にぶい橙	外面 平坦面削り
26	台石	長25.2 幅15.9 厚10.8		平坦面に削った痕跡

C37号住居跡 (第154図、PL44)

当住居跡はC区東部に位置し250-90・100グリッドの範囲にある。39号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。調査時の所見によれば焼土を確認し、住居跡とした。このため住居跡のプラン、壁、壁周溝、柱穴、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。炉と考えられる焼土を2カ所確認し、中央を1、北側を2とした。規模は1、1.6m×1.2m、厚さ3cm。2、1.2m×80cm、厚さ3cmを測る。



第154図 C37号住居跡平面図・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

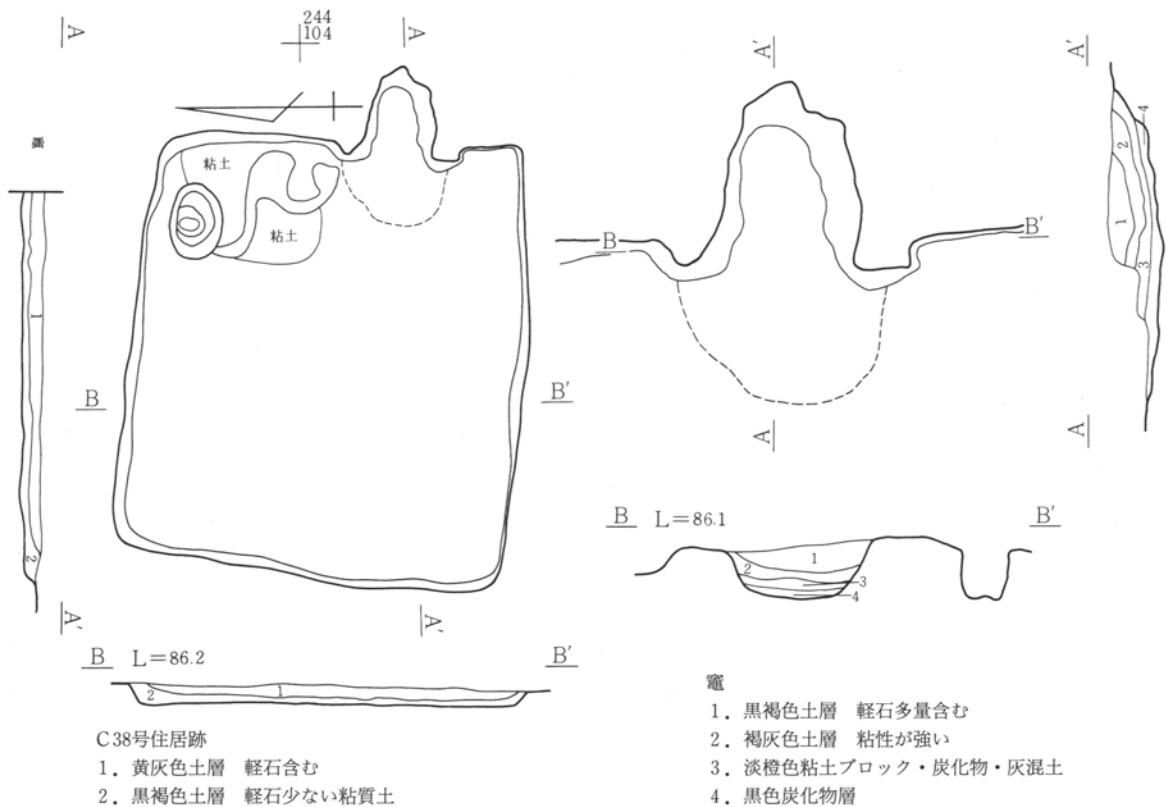
C37号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 高師器 底	12	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 5/6 明赤褐	外面 磨き 内面 ヘラなどで 内外面赤彩
2	土師器 小型 甕	口(10.8)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/2 灰黄褐	外面 口縁端部などで 頸部刷毛状工具刺突 胴部 刷毛目 内面 刷毛目 などで
3	土師器 甕	口(14.4)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8/3 浅黄橙	外面 口縁上部よこなで 下部刷毛目 胴部刷毛目 内面 口縁部よこなで 胴部刷毛目
4	土師器 底	6	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6/2 灰黄褐	外面 刷毛目 などで 内面 絞り痕 裾部折り返し状に 内面肥厚
5	土師器 甕	口(22)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 外面 刷毛目
6	土師器 壺	口 18.1	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/3 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで
7	土師器 壺	口 11.6 高(14.1)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7/4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 胴部 外面刷毛目 内面 刷毛目 ヘラなどで

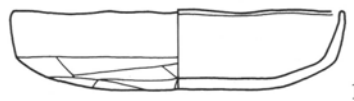
C38号住居跡 (第155・156図)

当住居跡はC区東部に位置し240-100グリッドの範囲にある。41号住居跡の西にあり、他の住居跡との重複はない。規模は長辺3.5m、短辺3.2mを測る。壁高は15cm~20cmを測る。床面は平坦をなし、北東部床面に粘土が確認された。その他壁周溝、柱穴、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。

竈は東壁やや南寄りに確認された。規模は長軸80cm、燃烧部幅70cmを測る。



第155図 C38号住居跡・竈平面図



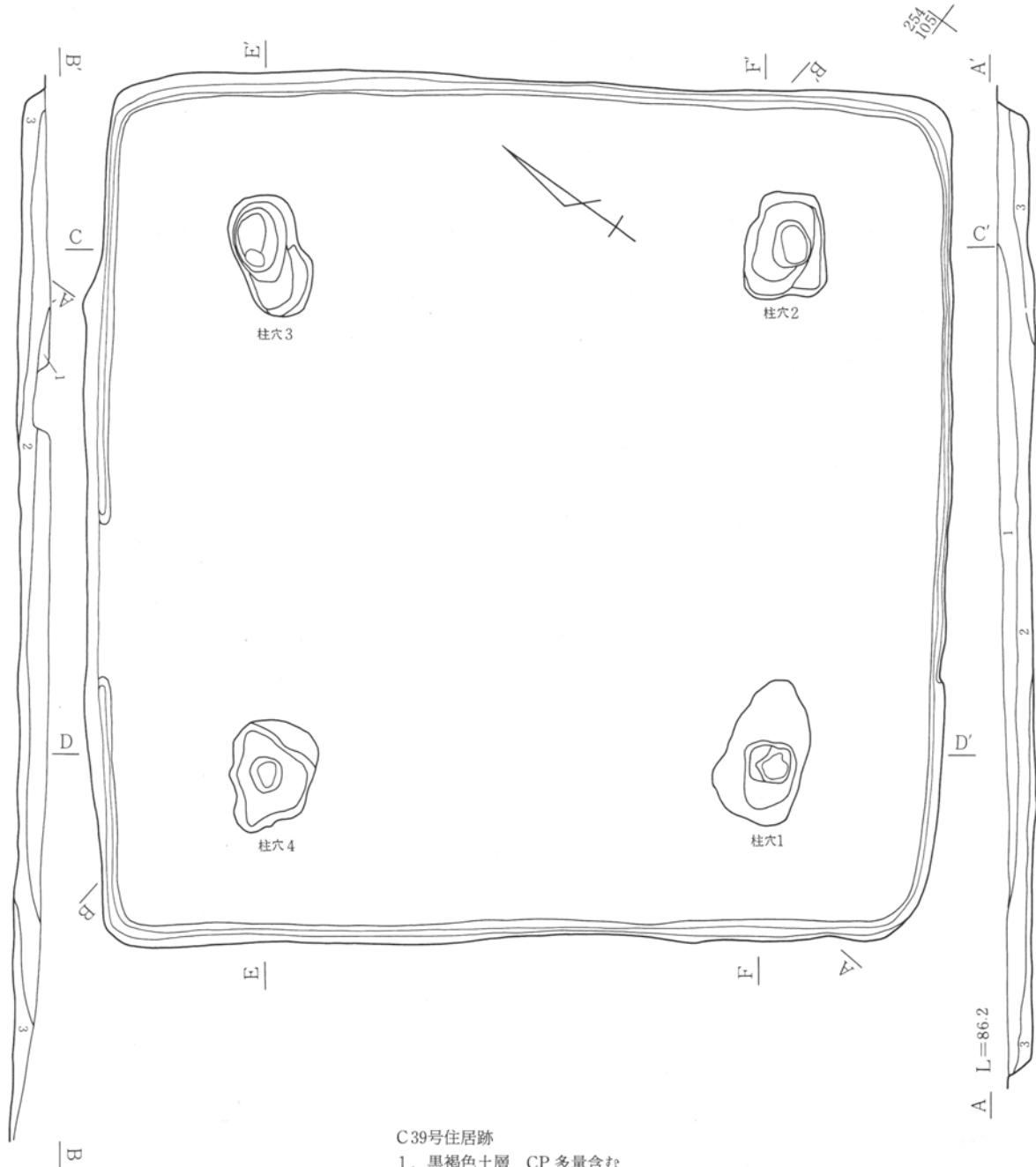
第156図 C38号住居跡出土遺物

C38号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 甕	口 13.2 高 3.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5/4 にぶい褐	外面 口縁部よこなで 底部周辺などで 底部ヘラ削り 内面 などで

C39号住居跡 (第157~160図、PL44)

当住居跡はC区東部に位置し240・250—100・110グリッドの範囲にある。38号住居跡の西北にあり、他の遺構との重複はない。規模は一辺8mのほぼ正方形を呈する。壁高は30cm~40cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝、柱穴が確認され、炉は検出されていない。壁周溝の規模は幅25cm~50cmを測り、深さ5cm~10cmを測る。柱穴は4基確認され1~4とした。各々の規模は1、1.3m×70cm、深さ1m。2、1m×70cm、深さ90cm。3、1.2m×60cm、深さ80cm。4、1.1m×70cm、深さ90cmを測る。

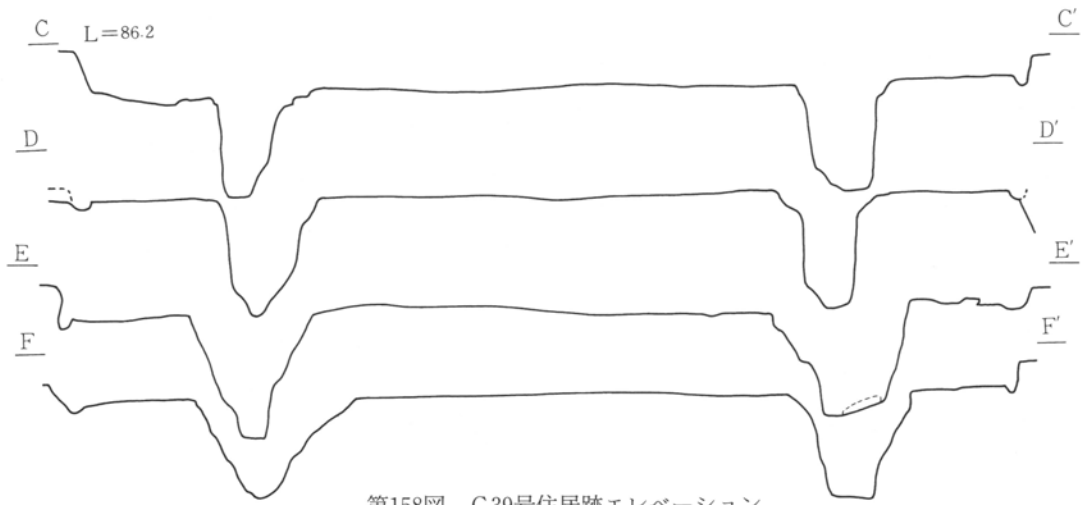


C39号住居跡

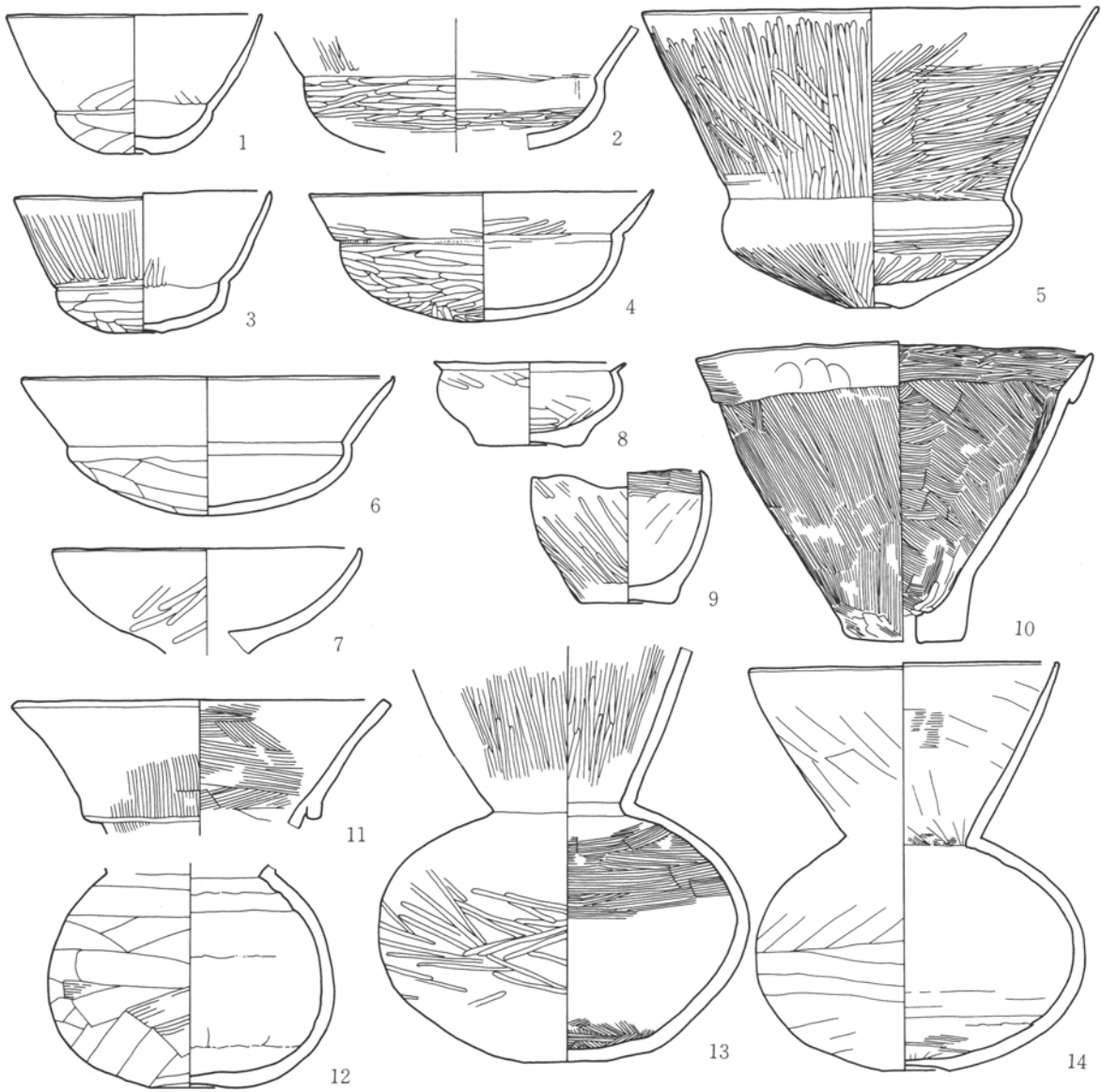
- 1. 黒褐色土層 CP 多量含む
- 2. 褐灰色土層 CP 含む
- 3. 褐灰色粘質土 CP 少量含む

第157図 C39号住居跡平面図

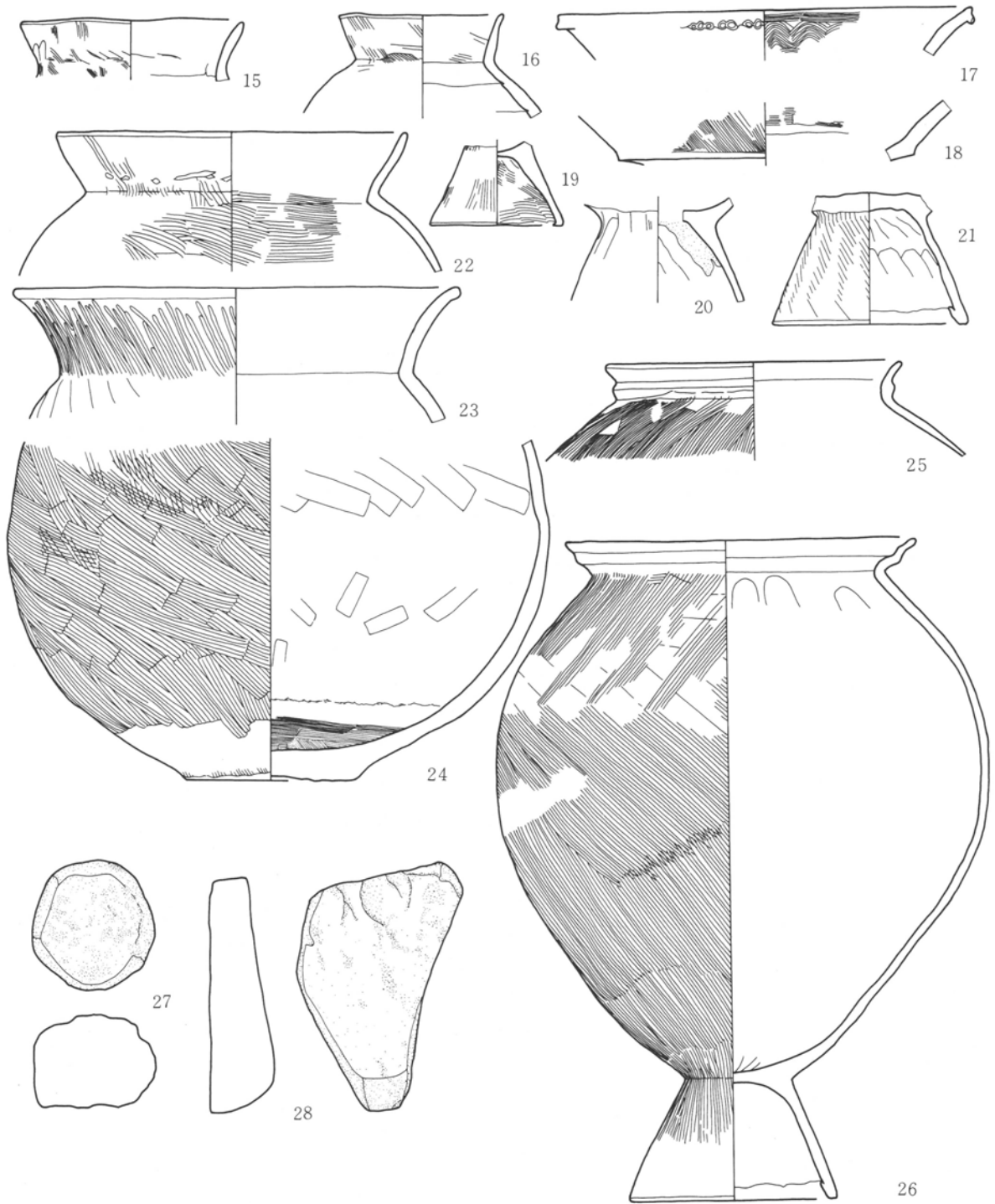
第3章 検出された遺構と遺物



第158図 C39号住居跡エレベーション



第159図 C39号住居跡出土遺物(1)



第160図 C39号住居跡出土遺物(2)

C39号住居跡

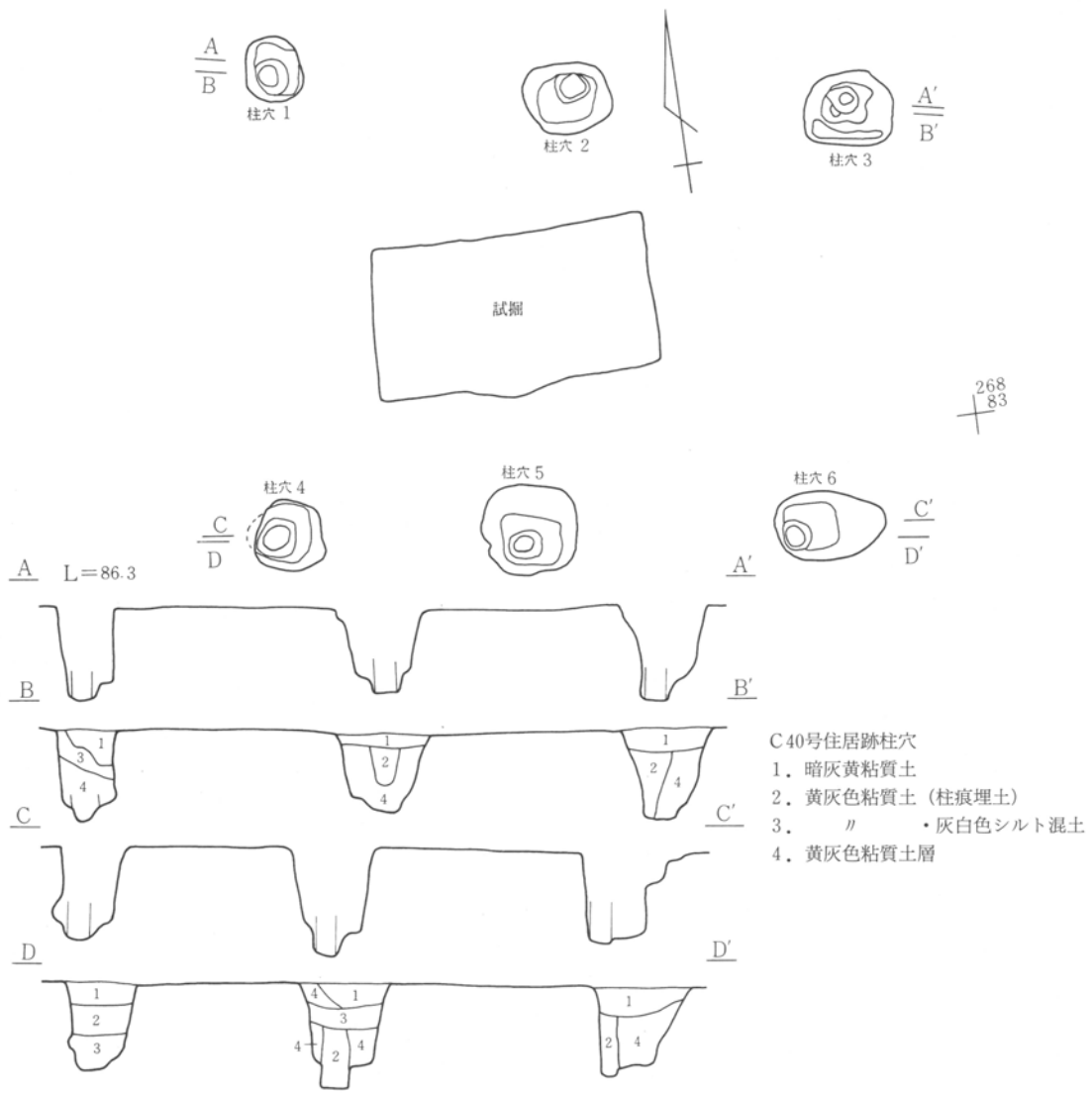
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土節器 小型罎	口 10.6 高 5.8	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 4 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 口縁下部・体部ヘラ調整 内面 ヘラなで なで
2	土節器 小型罎		①砂粒含む ②良好 ③10YR1.7 / 1 黒	外面 磨き 内面 ヘラなで 体部 磨き 内外面赤彩
3	土節器 小型罎	口 11 高 6	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 外面 磨き 内面 下部磨き 体部 外面ヘラなで 内面 なで 内外面赤彩
4	土節器 小型罎	口 14.6 高 5.4	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7 / 2 明褐灰	内外面磨き 体部内面ヘラなで くびれ部 外面刷毛目状工具による調整

第3章 検出された遺構と遺物

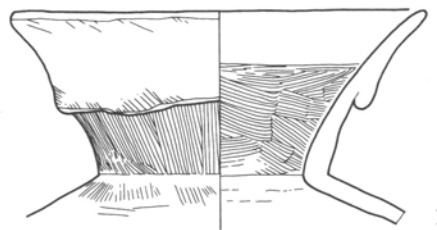
5	土師器 小型器 埴	口 19.2 高 12.6	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	内外面磨き
6	土師器 小型器 埴	口 12.6 高 5.8	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 4 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで 体部外面へらなで 内面 なで
7	土師器 高 坏	口(13)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 4 にぶい黄橙	内外面剥離著しい 外面 磨き へらなで 内面 なで
8	土師器 小型器 壺	口(8) 底 4.4 高 3.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	内外面へらなで なで
9	土師器 鉢	口 7.2 底 3.8 高 5.6	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	外面 なで後磨き 内面 上部刷毛目 下部なで
10	土師器 甕	口 16.8 底 4.8 高 12.5	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 灰白	内外面刷毛目 なで
11	土師器 壺	口(16)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 4 にぶい黄橙	口縁部破片 内外面刷毛目状なで
12	土師器 壺	底 3.2	①砂粒含む ②良好 ③ 5 YR 6 / 6 橙	外面 へらなで 内面 なで
13	土師器 壺	底 3.4	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 灰白	口縁部内外面磨き 胴部外面磨き 内面刷毛目 口縁部内外面胴部外面赤彩
14	土師器 壺	口(13) 底 2.5 高 17.2	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 2 灰黄褐	口縁部内外面へらなで なで 胴部内外面へらなでなで 底部内面刷毛目 外面赤彩痕跡
15	土師器 甕	口 10.4	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	口縁部外面へらなで なで 内面なで
16	土師器 壺	口 7.8	①砂粒含む ②良好 ③ 5 YR 5 / 4 にぶい赤褐	口縁部内外面へらなで後よこなで 胴部内外面へらなで なで
17	土師器 壺	口(19.6)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 3 にぶい黄橙	外面肥厚し刻み 内面 刷毛目平行線文 流水文 口縁部破片
18	土師器 壺		①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	外面 刷毛目 内面 へらなで 口縁部破片
19	土師器 台付 甕	底 6.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 4 にぶい橙	内外面刷毛目
20	土師器 台付 甕		①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 4 にぶい黄褐	外面 へら調整 内面 なで
21	土師器 台付 甕	底 9.2	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5 / 4 にぶい褐	外面 刷毛目後なで 内面 なで 裾部 内面折り返し S字状口縁台付甕
22	土師器 甕	口(16.5)	①砂粒含む ②良好 ③ 5 YR 3 / 1 黒褐	口縁部内外面刷毛目後よこなで 胴部内外面刷毛目
23	土師器 甕	口(21)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 にぶい黄橙	口縁部内外面よこなで後磨き
24	土師器 甕	底 8.2	①砂粒含む ②良好 ③7.6YR 7 / 4 にぶい橙	外面 刷毛目 内面 へらなで なで 底部 刷毛目
25	土師器 台付 甕	口(14)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 3 にぶい黄褐	口縁部内外面よこなで 胴部 外面刷毛目 内面なで 頸部へら先調整
26	土師器 台付 甕	口 16.4 底 9.6 高 31	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 外面 胴部へら削り後刷毛目 脚部刷毛目 内面 へらなで 指なで
27	石	長 6.1 幅 5.8 厚 4.3		
28	石	長 11.8 幅 7.5 厚 0.3		

C40号住居跡 (第161・162図、PL12・45)

当住居跡はC区北東部に位置し260・270—80グリッドの範囲にある。37号住居跡の北東にあり他の遺構との重複はない。壁等のプランは確認されておらず明確な規模は不明である。壁、壁周溝、貯蔵穴、炉等の諸施設は検出されていない。柱穴は6基が確認され各々1～6とした。規模は1、55cm×45cm、深さ80cm。2、70cm×55cm、深さ80cm。3、70cm×60cm、深さ80cm。4、径60cm、深さ70cm。5、80cm×75cm、深さ85cm。6、90cm×55cm、深さ80cmを測る。



第161図 C40号住居跡平面図



第162図 C40号住居跡出土遺物

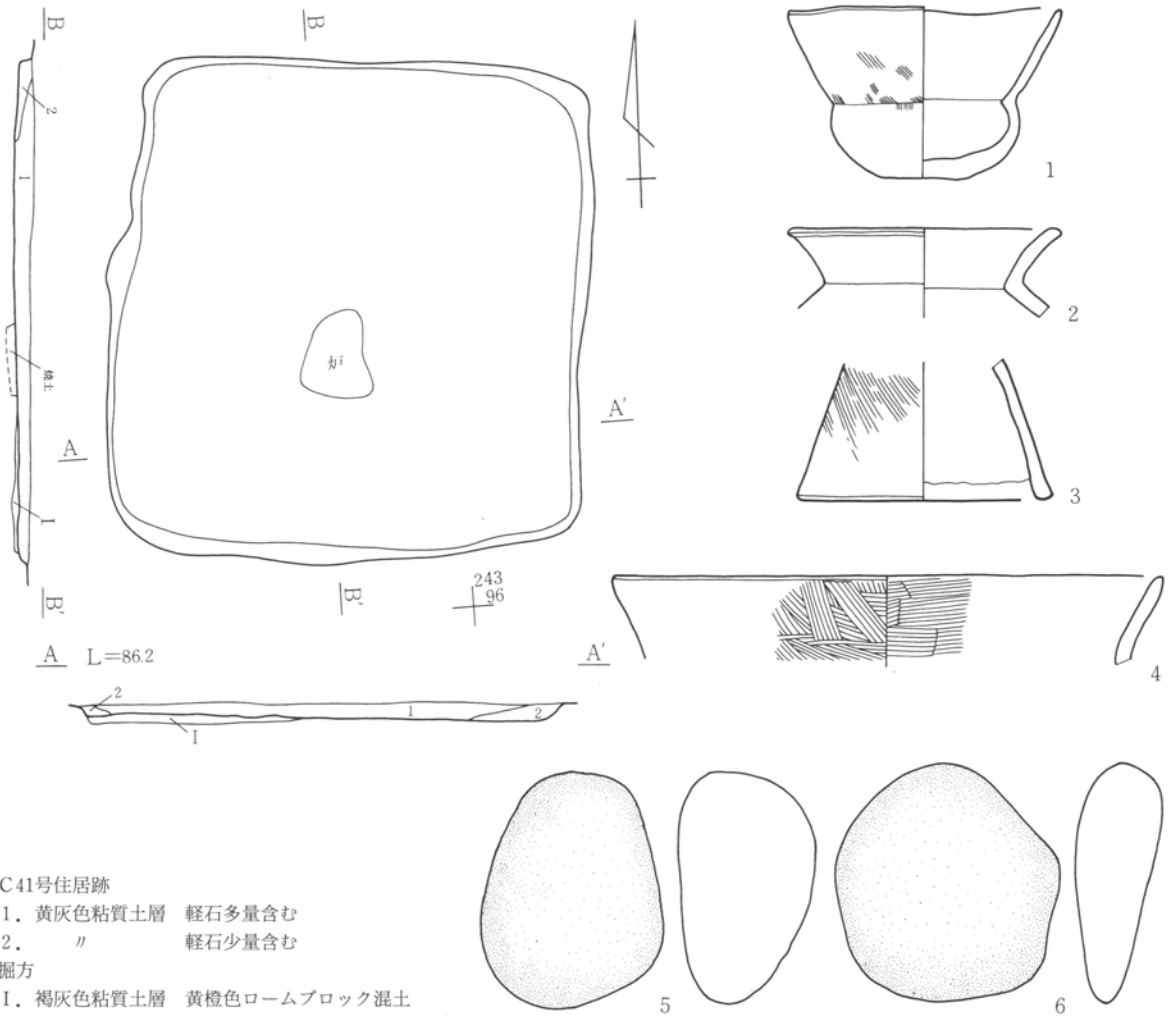
C40号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土節器壺	□ 16.4	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/4 に近い黄橙	口縁部内外面よこなで 口縁下部 内外面刷毛目状調整

C41号住居跡 (第163図、PL12・45)

当住居跡はC区東部に位置し240-90グリッドの範囲にある。37号住居跡の南にあり他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺3.7mを測る。壁高は40cm~50cmを測る。床面は平坦で住居跡中央部がやや低く壁側がやや高くなる。壁周溝、柱穴、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。住居跡中央部に炉が検出された。規模は80cm×60cm、焼土の厚みは3cmを測る。

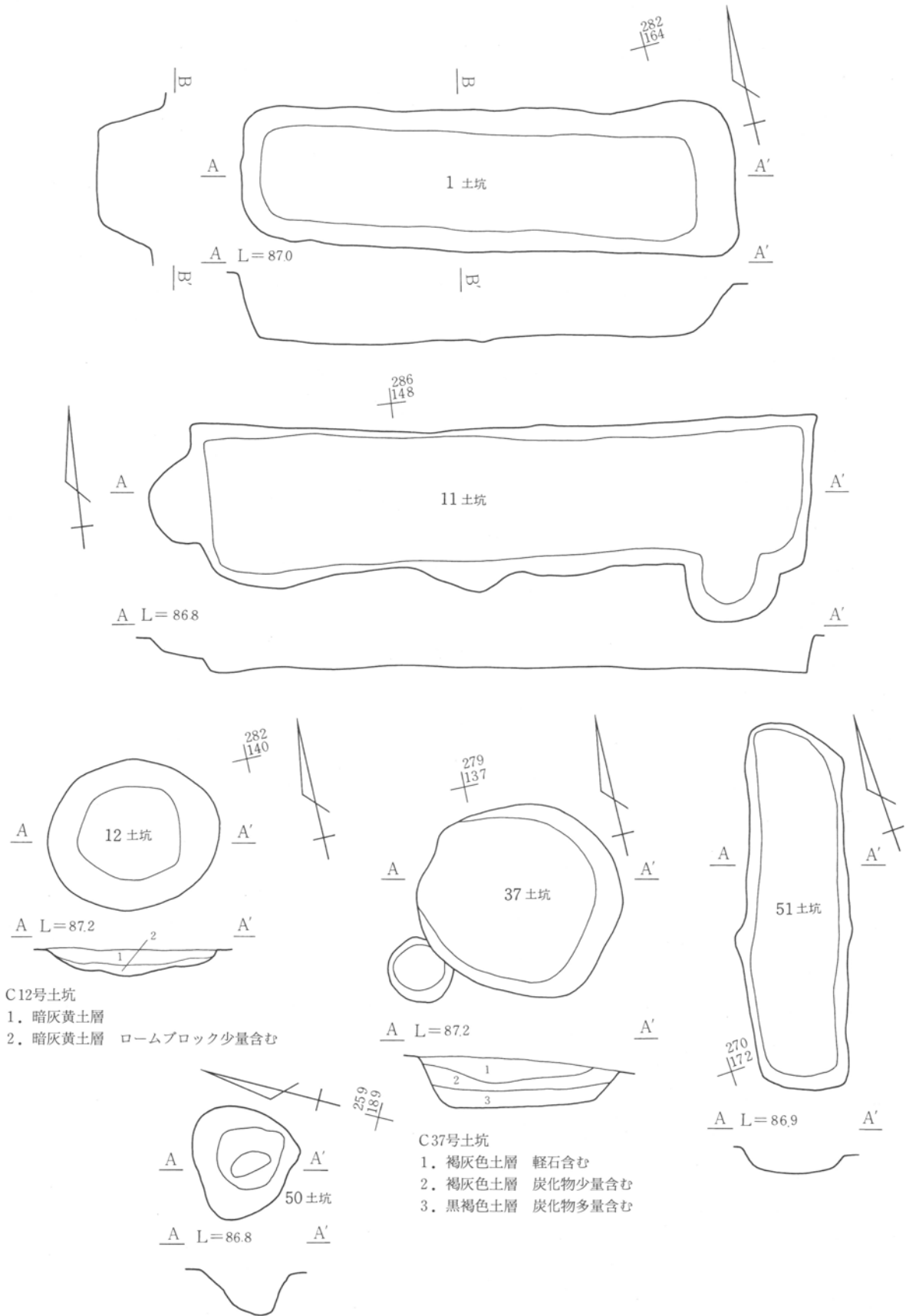
第3章 検出された遺構と遺物



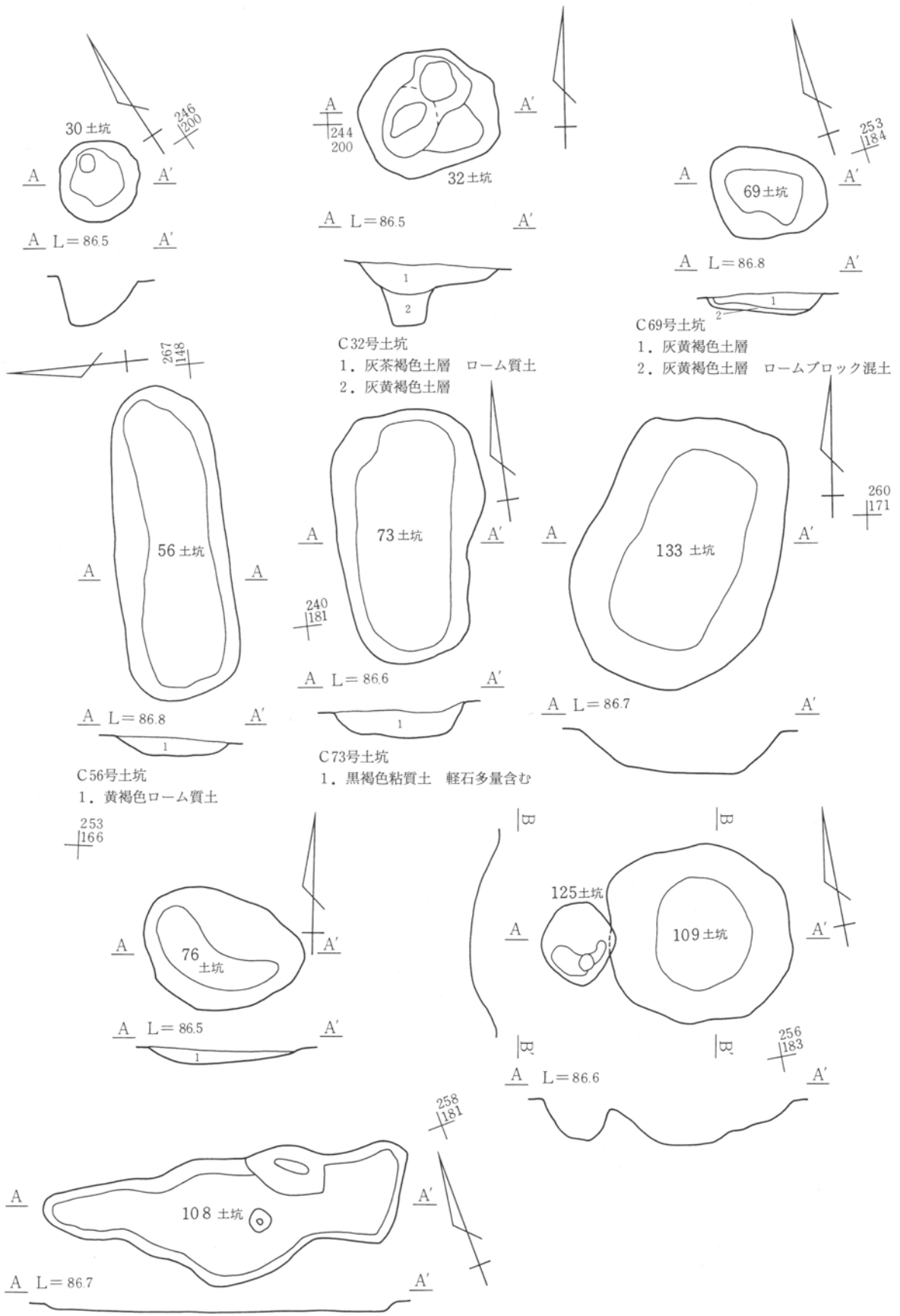
第163図 C41号住居跡平面図・出土遺物

C41号住居跡

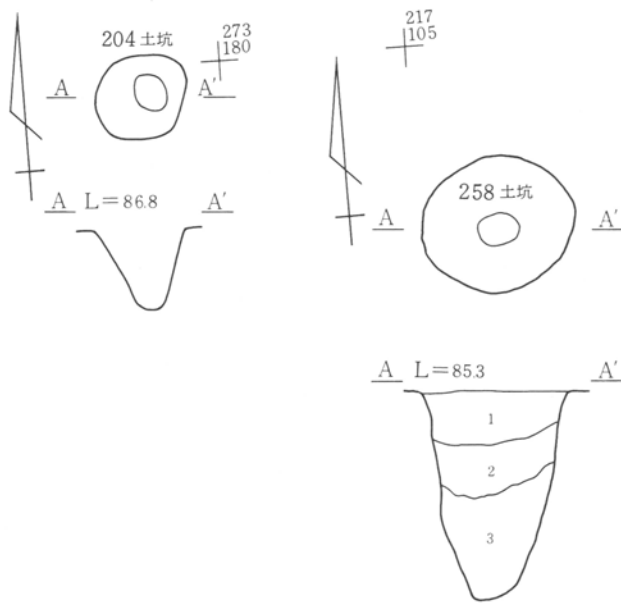
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 小型 罎	口 10.8 底 3 高 6.7	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7/2 にぶい黄橙	外面 口縁部ヘラなで なで 内面 なで
2	土師器 壺	口 10.8	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6/4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで
3	土師器 付 台	底(10)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8/2 灰白	外面 刷毛目後なで 内面 なで 裾部折り返し
4	土師器 甕	口(21.8)	①砂粒含む ②良好 ③7.5Y 3/1 オリーブ黒	口縁部内外面刷毛目
5	石	長 9.3 幅 7.1 厚 5.5		
6	石	長 9.4 幅 8.9 厚 3.4		



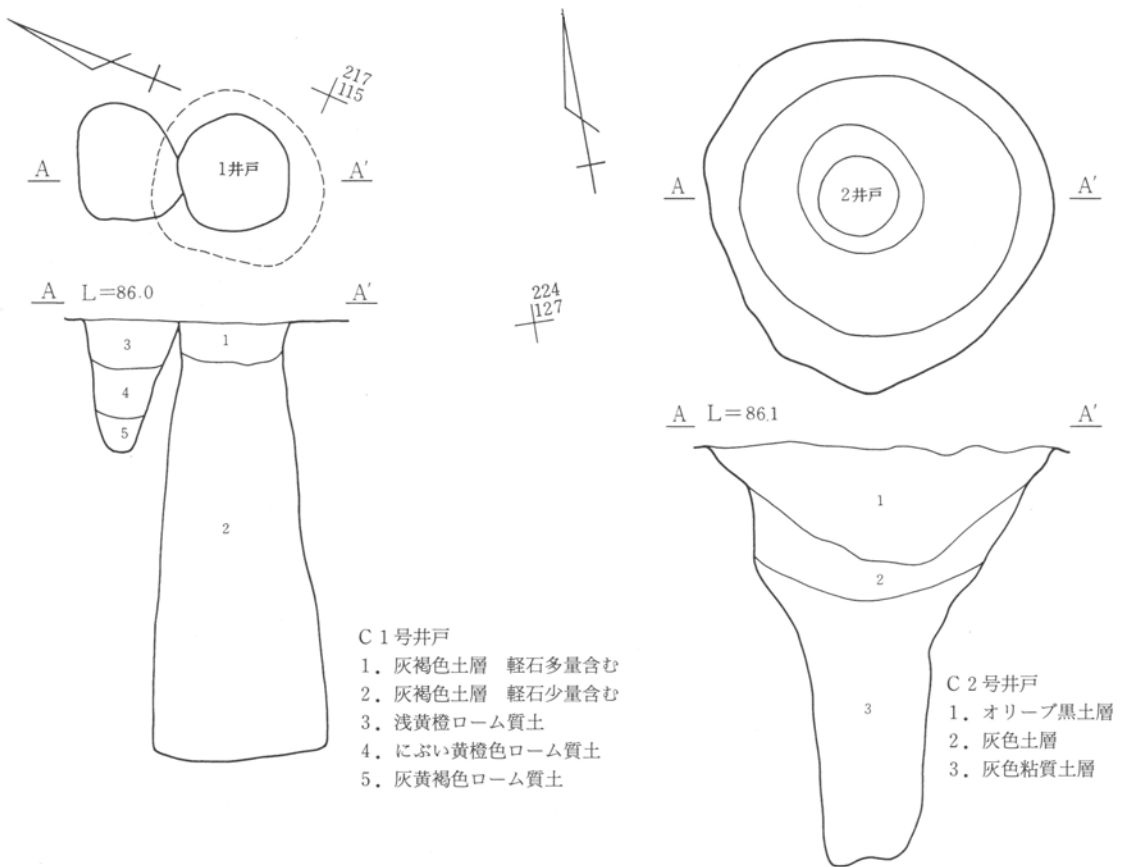
第164図 C区土坑平面図(1)



第165図 C区土坑平面図(2)

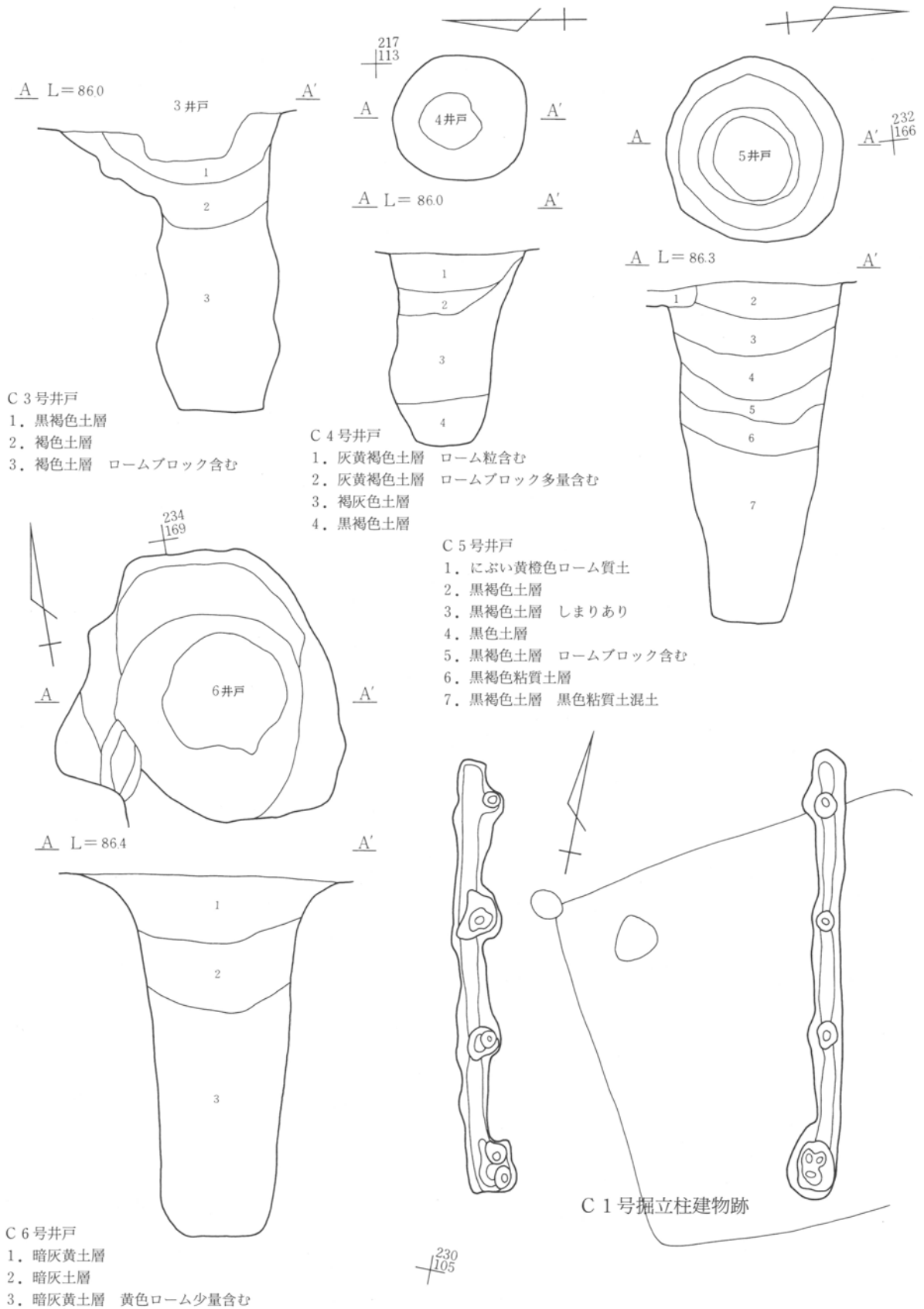


第166図 C区土坑平面図(3)

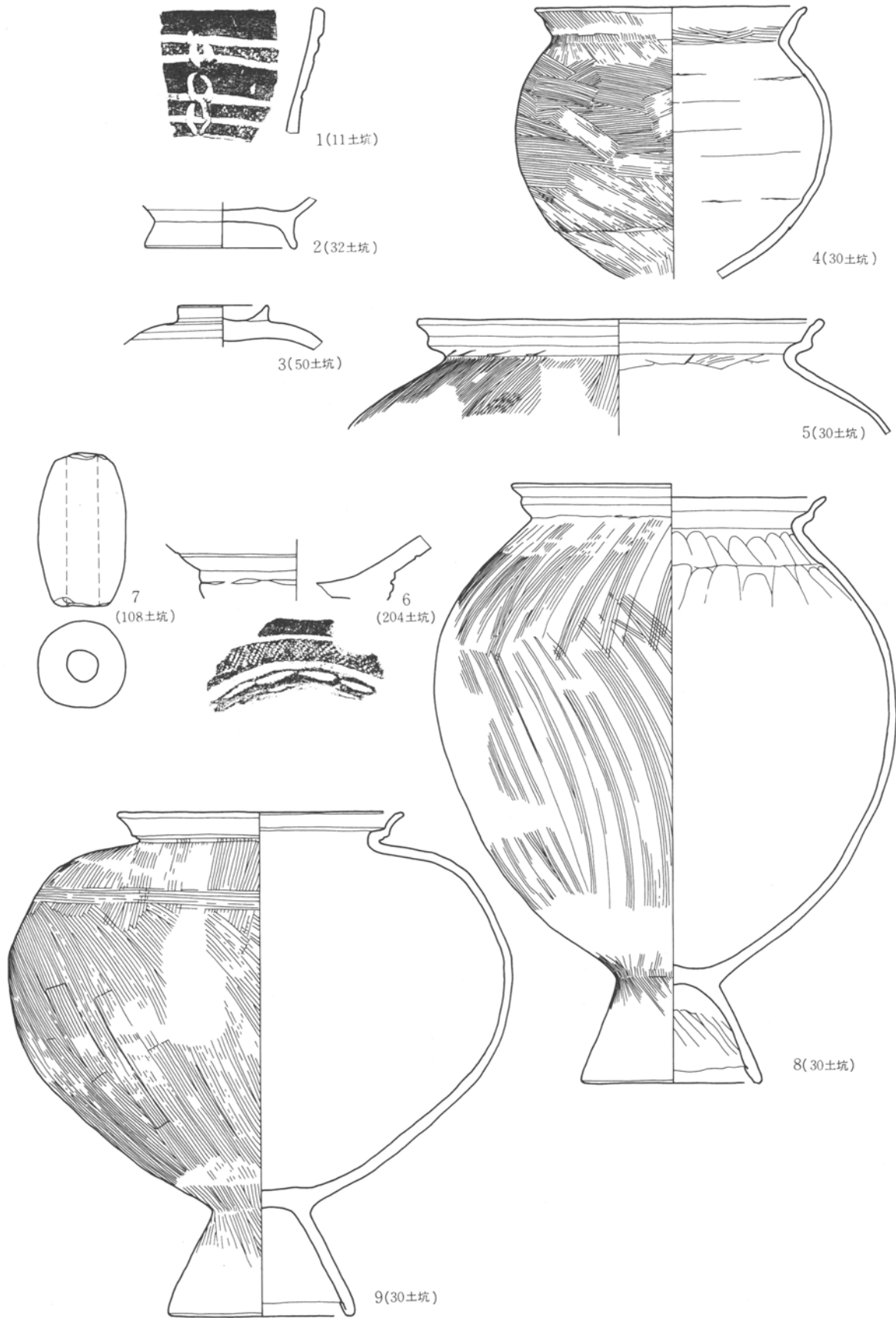


第167図 C区井戸平面図(1)

第3章 検出された遺構と遺物

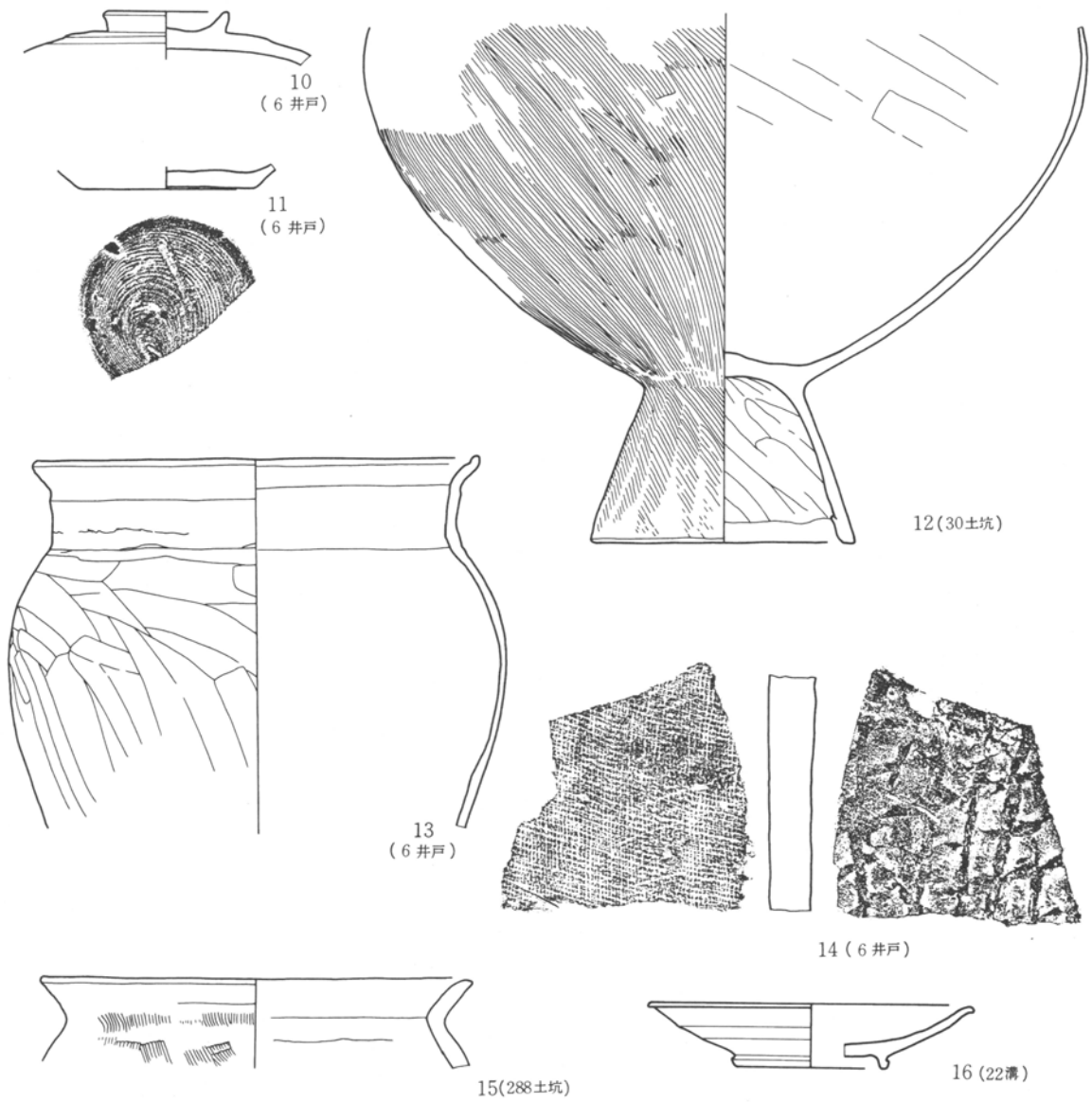


第168図 C区井戸(2)・掘立柱建物跡平面図



第169图 C区土坑出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



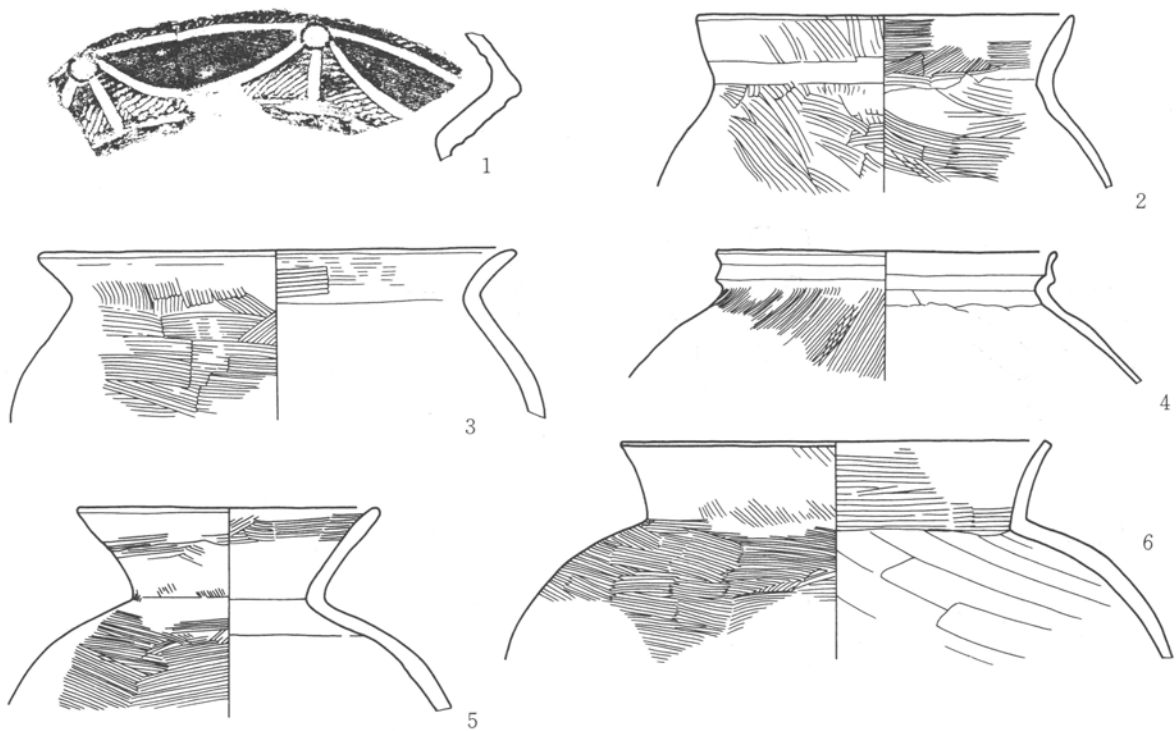
第170図 C区土坑(2)・井戸・溝出土遺物

C区 表採遺物 (第171・172図、PL46)

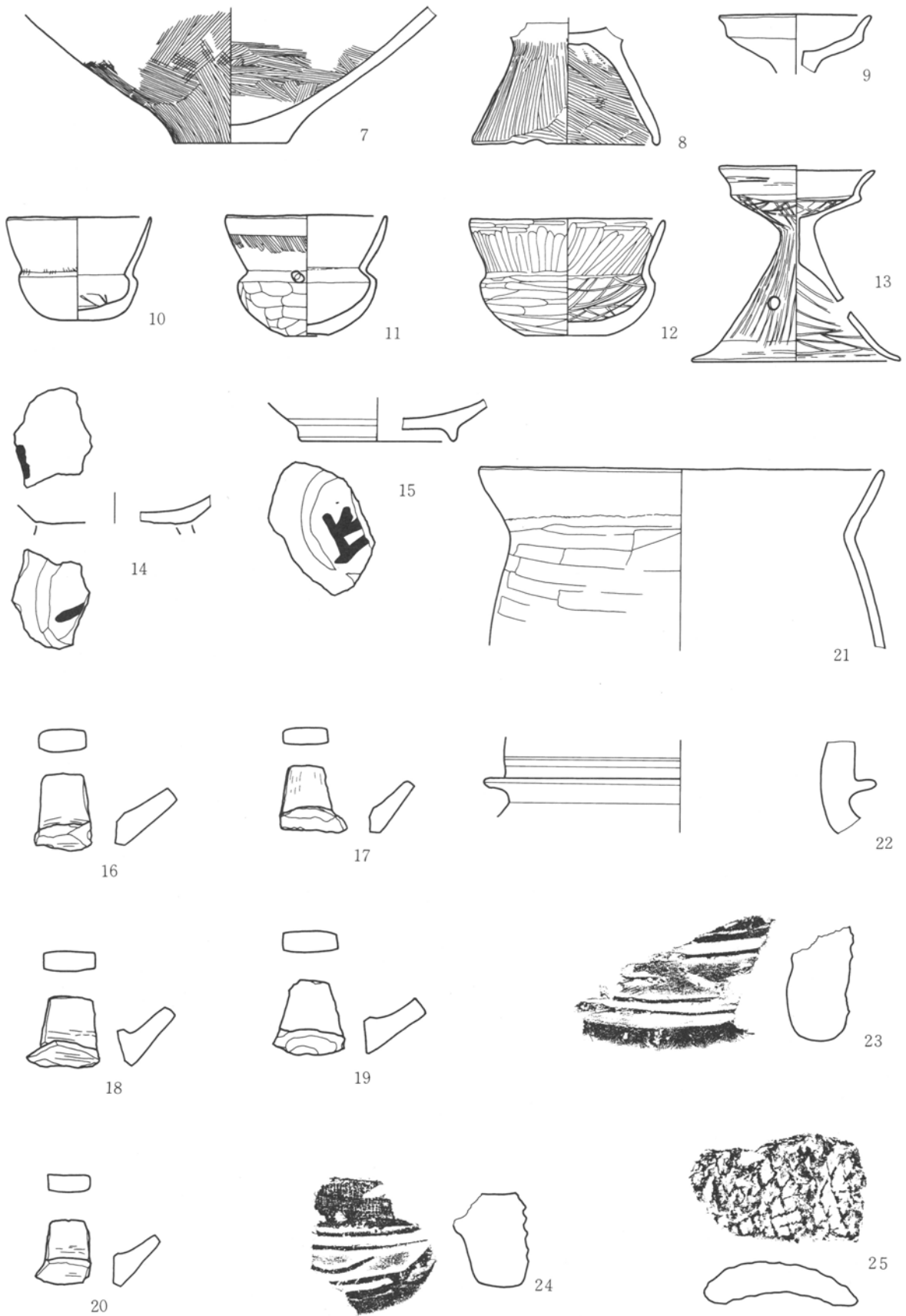
C区で表採された遺物は縄文時代から近世に至るまで多様であった。その内ここではその中から図表現可能なものを選んで掲載した。C区には古墳時代前期の住居跡が多数確認された。さらに後段のD区では1軒が確認され、C～D区にかけての集落の存在が指摘できる。

古墳時代の土器は甕、壺、小型埴、器台が出土し、特に甕の口縁部に刷毛目状のなでが施されている。群馬県内で確認される弥生時代樽式土器の中には認められない技法で、北陸の影響である。台付甕はS字状口縁台付甕(4)と単口縁台付甕(8)、さらに小型埴(10～12)と畿内・東海・北陸と各地域との交流の結果をうかがわせる。

須恵器耳環の耳が5個体出土している。C区概要で述べたように耳環の耳だけが本光仙房遺跡で出土し、特に限られた住居跡15号住居跡(9個体)、18号住居跡(4個体)が出土している。表採でも5個体の計18個体が光仙房遺跡C区でのみ検出されている。またC区内の住居跡から瓦が多数確認され、18号住居跡からは軒先瓦が1点出土しており、表採でも軒先瓦が2点出土している。他の平瓦は正格子目をもつものがほとんどであり、上植木廃寺遺跡との関連が指摘できる。



第171図 C区表採遺物(1)



第172図 C区表採遺物(2)

第4節 D 区

D区は当遺跡東部に位置し東部で舞台遺跡と隣接している。光仙房遺跡D区の谷を挟んだ東側が舞台遺跡である。

D区は現在はa台地のみがローム台地であったが、c台地はさらに西北部にある湧水地から水の影響を受け湿地化していた。このためa台地では黄色いローム台地であったがc台地はシルト・あるいは粘土となっていた。

D区全体では南西部はローム台地のa台地で、東に南東流するb河道、さらに粘土採掘坑があるc台地、d河道、e台地、f河道と続く。a台地には4世紀代に比定できる住居跡が1軒検出され、4本の柱穴からは柱材と礎盤、礎盤を固定する駒が検出された。D1号住居跡は西に接するC区住居跡群の一部であり、単独に存在するものではない。D1号住居跡に出土した礎盤や柱穴も同様に同時期のC区の住居跡から確認され、同じ構築法がとられていることが分かる。

b河道からは4世紀を中心とする時期の大量の土器が出土し、c台地には粘土採掘坑が多数検出され、d河道・f河道からは縄文土器が出土し、e台地上には土坑・溝が検出された。

a・c台地は共にローム台地であるがc台地は長い時期水没した影響を受け台地全体が粘土化して多数の粘土採掘坑を確認調査した。採掘坑の中からは古墳時代後期に比定される土器が土掘り具の木器と共に出土している。

d・f河道は小さなe台地を東西に挟み、共に賀曾利BⅡ式土器を出土した。

これらの事からD区全体地形の形成過程はd・f河道が一番最初に形成されたかは不明だが、少なくとも地形利用の順番はd・f河道周辺に縄文時代に生活の痕跡を認め、次にb河道とa台地、最後にc台地の粘土採掘坑が形成されたものと考えることができる。

従ってD区の土地利用はd・f河道から縄文土器が集中することから縄文時代に、次にa台地とb河道、その後古墳時代後期になりc台地上に粘土採掘坑が集中し、その後は安定し平安時代から中世へと経過したものと理解できる。

(1) 粘土採掘坑と粘土の概要

光仙房遺跡の粘土採掘坑は総数383基が確認されている。光仙房遺跡と舞台遺跡の間には、両遺跡の集落が立地する台地より約1m前後低い低地が形成されている。遺跡は赤城山裾野のローム層を原形面とする台地と、湧水点によって浸食された谷地形の低地帯からなる。

谷底部からは縄文時代後期の土器が検出されていることから、少なくともこの時期には谷地が形成されていたと考えられる。

採掘坑は二筋の谷地形に挟まれた舌状の微高地にあり、微高地の南東縁辺部と西から南西縁辺部に著しく重複し密集している。採掘坑の数は高まりを増す台地基部の北側へ向かうにつれて減少し重複も少ない。この傾向は地表より粘土層までの深さと関係していると考えられる。粘土層への到達は北部分では0.7m、南部分では0.35mであり、台地の末端部分を掘削する方が能率的であるためと推測できる。また、西側縁辺部は約100基の採掘坑が密集し地形のほとんどが掘削されている。微高地上における土坑分布の偏在性は著しく、谷部に近い縁辺部がより粘土層の形成に好条件を備えていたものと考えられ、採掘が集中してなされた

第3章 検出された遺構と遺物

結果であろう。台地の基部に近づくほどに採掘坑内粘土層の挟りが少なくなっている。当初、これらの土坑については粘土貯蔵の機能を考えていた。しかし、その規模や貯蔵の根拠が希薄なことから、むしろ採取粘土の確認のための土坑の可能性が高い。

粘土採掘坑の構造は基本的に堅穴である。粘土の採掘手順はまず堅穴を掘削し、底面の粘土を採取する。その後、堅穴の壁部分の粘土層を採取する。このため採取の対象となった粘土層の部分では横へ広がって挟られている。この工程を基本とし、周辺へ連続的に拡張している。採掘坑の平面は不定楕円形を呈し、長径1.5m、1.3m前後の規模である。そのほか、これよりも一回り小型の円形のものも見られる。断面形は底面に近くオーバーハングを見せる。埋没土はローム塊で埋まり、上層で黒色粘質土が堆積するものもある。黒色粘質土には Hr-FA (榛名ニッ岳火山灰) と考えられるパミスを含んでいる。また、ローム塊の堆積があることから採掘坑は時間を置かずに入為的に埋められたといえる。つまり次の採掘坑の掘削土を前の採掘坑に埋め戻したものと推測できる。これは東京都南多摩窯跡群等で調査されている粘土採掘坑に見られる方法と同じである。

採掘坑の壁面に観察される層序から、採掘坑は暗色帯下部又は暗色帯を抜いたところで止まっていることから AT (始良火山灰) 下の暗色帯に相当する粘性が高い粘土を採掘していると推測される。採掘坑の底部はほぼ平坦をなしている。また暗色帯より上層の BP (浅間板鼻褐色火山灰) グループの粘性が高い粘土層を採掘していると見られる2基の採掘坑も検出している。暗色帯相当の粘土層は12~14cmの厚みがある。上層の BP グループの粘土層は5~8cmの厚みがある。これらの粘土層は関東ローム層が水つきにより粘土化したものと推定される。

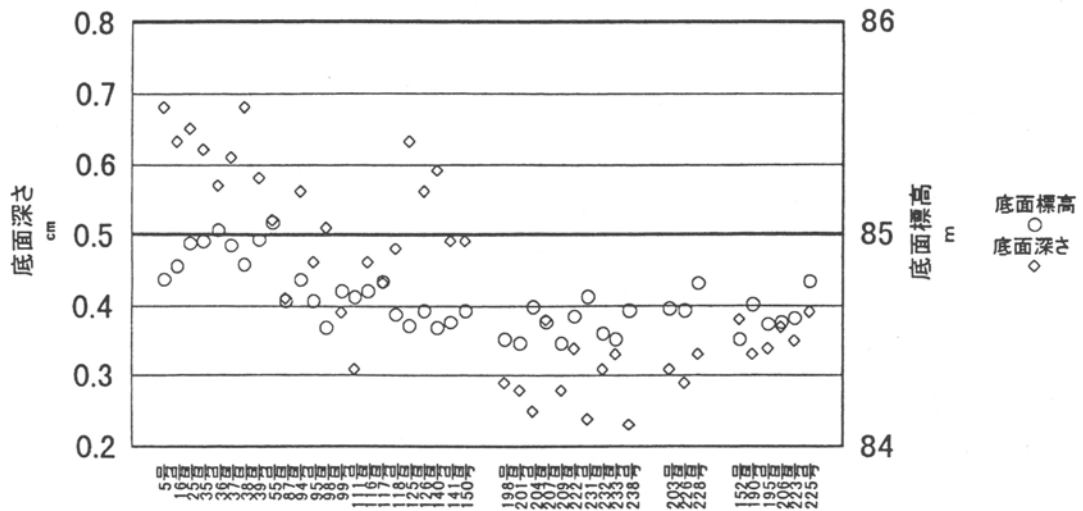
光仙房遺跡粘土採掘坑基本土層は次のようである。

1. 浅間大窪沢第1軽石 (OKI) 「黄灰色シルト質土」
2. 浅間板鼻褐色軽石群 (BP グループ) 「灰白色シルト質土」
3. 浅間板鼻褐色軽石群 (BP グループ) 「灰色シルト質土」採掘粘土層
4. 浅間板鼻褐色軽石群室田軽石 (BP グループ MP) 「灰色シルト質土」
5. AT 含有層「暗灰色粘質土」
6. 暗色帯「暗灰色粘質土」採掘粘土層
7. 赤城小沼テフラ含有層

これら各層を電気炉を用いて焼成した特徴は第1表に示してある。6・7層は乾燥過程段階において収縮率が高く、上位層より粒子が細かく、このため水分量を多く含んでいると考えられる。粘性の高い5・6層は600度・800度の加熱段階では質的にきめが細かく良好な焼き上がりといえる。また1・2・3・4層についても5・6層に比べてやや細粒・微細粒の混入が目立つものの、同温での加熱では同様な質感を示し、1,000度を超える加熱では3・5・6層以外では小さな亀裂が生じ始める。しかし、須恵器が1,000度前後の焼成温度で良しとするならば、いずれの層でも焼成は可能である。

層	温度	焼成前	焼成後	減率
1	600	135	134	99.259
	800	36	134	98.529
	1000	36	133	97.794
2	600	138	136	98.551
	800	136	134	98.529
	1000	137	133	97.080
3	600	138	136	98.551
	800	137	135	98.540
	1000	138	134	97.101
4	600	136	134	98.529
	800	136	132	97.059
	1000	135	128	94.815
5	600	136	133	97.794
	800	138	134	97.101
	1000	138	130	94.203
6	600	134	132	98.507
	800	133	131	98.496
	1000	133	127	95.489
7	600	132	129	97.727
	800	133	131	98.496
	1000	132	126	95.455

第1表 粘土層別収縮率



第2表 粘土採掘坑底面レベル

(2) 出土遺物

D区C台地上から383基の土坑が確認された。確認された土坑はほとんどが粘土採掘坑と考えられる。出土遺物は1(109号)2(98号)をのぞけばすべて甕である。また1は4世紀代、3・5・7・8は平安時代に比定されるがこの5個体をのぞけばすべて古墳時代後期に比定される。

そこで時期の異なる5個体をのぞくと2以外はすべて甕である。土坑が粘土採掘坑という意味とあわせれば作業に伴う道具であろう。おそらく掘り出した粘土の運び出し等に使用されたものと考えられる。

粘土採掘坑から出土した甕のうち14個体は異なった土坑から出土した破片同士が接合している。つまり同時期に数基の土坑が並行して掘られていたことが理解できる。

b 河道

b河道からは3世紀末から4世紀にかけての土師器が大量に出土している。甕は単口縁台付甕・土師器平底甕・S字状口縁台付甕等が出土し、土師器平底甕は口縁部くの字を呈し内外面に荒い刷毛目状のなでが施され、従前の群馬県内にある樽式土器の技法の踏襲ではなく北陸系の影響を強く感じさせるものである。S字状口縁台付甕も同様に内面底部に刷毛目状のなで技法が施されるものが目立つ。東に隣接する舞台遺跡大形の前方後方形周溝墓からは頸部に縄文が施される壺が出土し、複数地域の外来土器文化が導入されたことが理解できる。さらに壺は東海系瓢壺、畿内系二重口縁壺、南関東を連想させる羽状縄文をもつもの等が確認されている。そして、b河道出土甕に認めることができるように在来・外来の技法が入り交じって確認され、外来搬入土器の独自性・主張は弱まっていることが理解できる。従って毛野の地の古墳時代文化は在地の社会構造を背景に発展した事を看取できる。

c 台地

粘土採掘坑から出土した土器はほとんどが甕で、粘土の採掘作業に伴う事が想定できる。また遺物の右下の番号で確認できるように離れた土坑からの破片が接合され、接合された土坑同士が同時期に採掘されたこと、あるいは同時期に開口していた事実を示すものと理解できる。土掘り具も91・127号土坑から出土している。

d・f 河道

d・f河道からは賀曾利B II段階の遺物が集中して出土している。しかし、周辺には当該時期の集落は未だ確認されていないが、おそらくあったものと考えられる。

D1号住居跡(第173~176図、PL47)

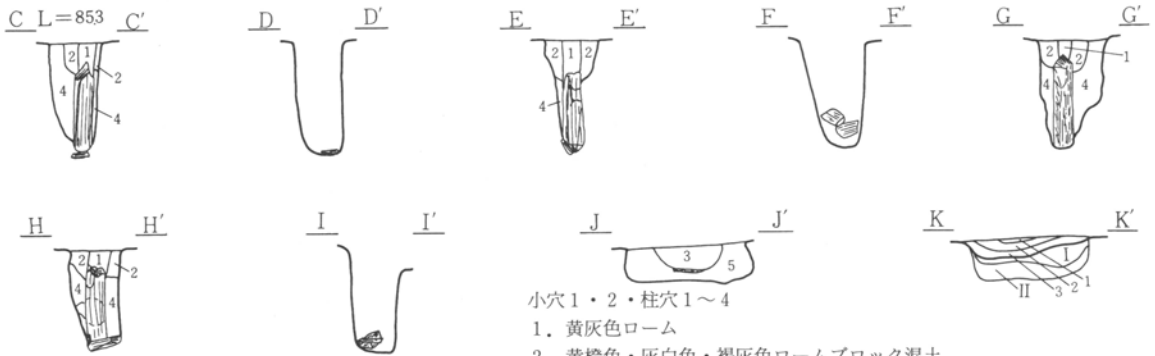
D区南西部に位置し220・230-040・050グリッドの範囲にある。D区のa台地上にあり、他の遺構との重複はない。D区で確認された住居跡は1号住居跡のみである。規模は長辺7.4m、短辺7mを測る。壁高は40cm~45cmを測る。住居跡の一部は現代の暗渠排水により攪乱を受けている。床面は平坦をなし、壁周溝は確認されていない。床面全体には建築部材と考えられる炭化物により覆われ焼失家屋である。柱穴は4本が確認され各々1~4とした。規模は1、径25cm、深さ95cm。2、径45cm、深さ90cm。3、径55cm、深さ85cm。4、径30cm、深さ80cmを測る。各々の柱穴には柱材の木が残存し、さらに最低部にその柱材を支える礎盤が確認されている。他に南西壁際と北東コーナー部に小穴が2基確認された。



- D 1号住居跡
1. オリーブ黒色土層 C軽石を多量含む
 2. 灰黄褐色粘質土層 焼土、炭化物を含む
 3. にぶい褐色粘質土層 炭化物、焼土ブロック多量含む
 4. 褐灰色粘質土層
- 掘方
1. ローム混土層

第173図 D 1号住居跡平面図

第3章 検出された遺構と遺物



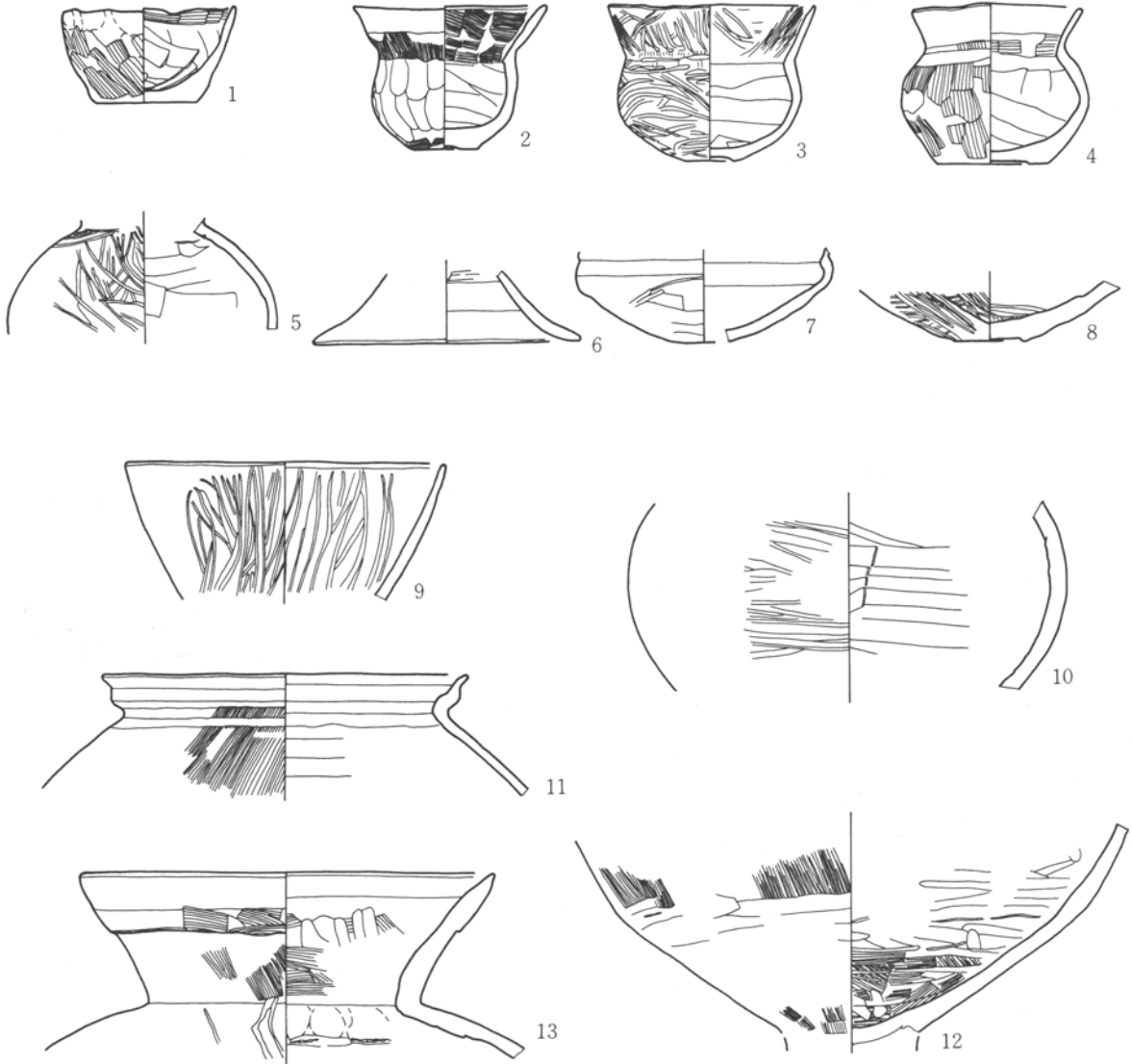
第174図 D1号住居跡・柱穴・小穴土層図

小穴 1・2・柱穴 1~4

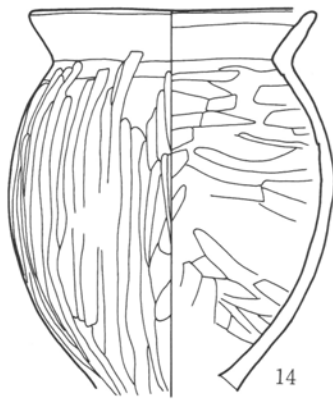
- 1. 黄灰色ローム
- 2. 黄橙色・灰白色・褐灰色ロームブロック混土
- 3. 褐灰色粘質土 炭化物多量含む
- 4. 2層に黄灰色粘土が少量混じる
- 5. 褐灰色粘質土と灰黄色粘土混土層 炭化物少量含む

掘方 I. におい黄橙色土層 黄橙ロームブロック含む

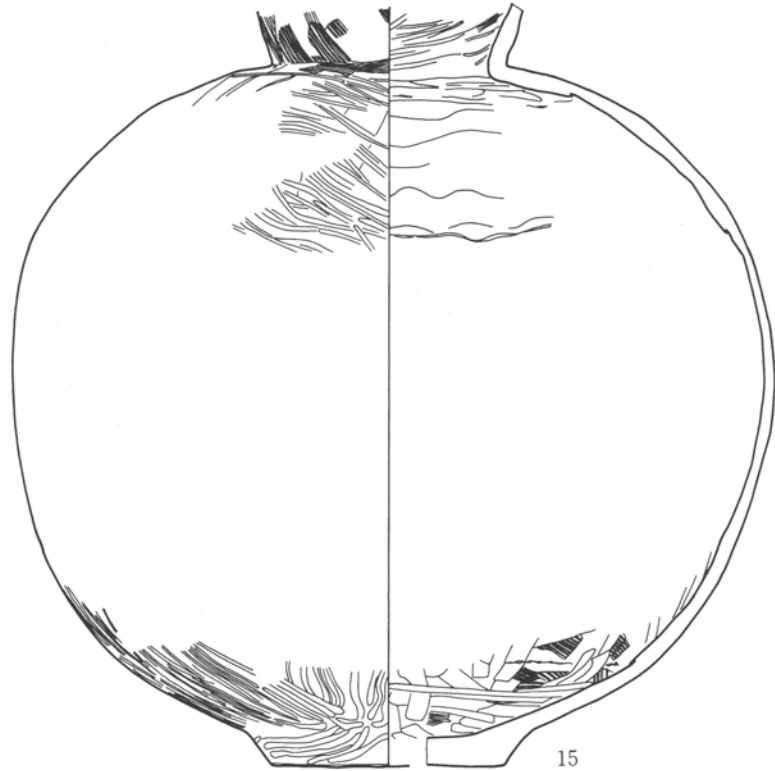
II. におい黄橙色層



第175図 D1号住居跡出土遺物(1)



14



15

第176図 D1号住居跡出土遺物(2)

D1号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形の特徴
1	土師器 小型土器	口 7.1 底 4.1 高 3.9	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 にぶい黄橙	外面刷毛目後なで 内面 刷毛目 ヘラなで
2	土師器 小型土器	口 8 底 2.7 高 5.9	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 8 / 2 灰白	口縁部内外面よこなで 外面刷毛目 ヘラなで なで 内面 刷毛目 なで
3	土師器 小型土器	口 8.4 底 2 高 6.4	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 3 浅黄橙	口縁部内外面よこなで 外面磨き くびれ部刷毛目 内面 口縁部磨き 体部なで 内外面赤彩
4	土師器 小型土器	口 7 底 4.6 高 6.6	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 7 / 4 にぶい橙	口縁部内外面よこなで 外面 胴部刷毛目 なで 内面 頸部刷毛目 胴部なで
5	土師器 壺		①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 6 / 4 にぶい橙	外面 磨き 内面 なで 外面 赤彩
6	土師器 坏	底(11)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 8 / 3 浅黄橙	外面 磨き 内面 なで 外面 赤彩
7	土師器 小型土器	口(10) 底 2 高 3.8	①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 2 にぶい黄橙	外面 ヘラなで 磨き 内面 なで
8	土師器 小型土器	底(3)	①砂粒含む ②良好 ③2.5YR 6 / 4 にぶい橙	外面 磨き 内面 ヘラなで なで 外面 赤彩
9	土師器 壺	口(13)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 2 灰白	内外面磨き 赤彩
10	土師器 壺		①砂粒含む ②良好 ③10YR 7 / 3 灰白	外面 磨き 内面 ヘラなで なで 外面 赤彩
11	土師器 付甕	口(15)	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 6 / 2 灰褐	口縁部内外面よこなで 外面 胴部刷毛目 頸部下なで 内面 頸部よこなで 胴部なで S字状口縁台付甕
12	土師器 付甕		①砂粒含む ②良好 ③10YR 6 / 3 にぶい黄橙	外面 刷毛目 なで 内面刷毛目後ヘラなで S字状口縁台付甕
13	土師器 壺	口(17)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 8 / 3 浅黄橙	外面 口縁部刷毛目後なで 頸部刷毛目後なで 内面 口縁部刷毛目後なで
14	土師器 付甕	口 11.4	①砂粒含む ②良好 ③7.5YR 5 / 4 にぶい褐	口縁部内外面よこなで 胴部 胴部ヘラ削り 内面 なで
15	土師器 壺	底(9.2)	①砂粒含む ②良好 ③10YR 5 / 1 褐灰	外面 頸部刷毛目 胴部ヘラなで後磨き 内面 頸部刷毛目後磨き 底部刷毛目 ヘラ調整

第3章 検出された遺構と遺物

D区粘土採掘坑

D区の粘土採掘坑の覆土の土層は調査時より担当者が採取粘土を細分している。このため報告書の整理段階でも調査当時の細分をそのまま採用している。

粘土の細分は以下のとおりである。

D区粘土採掘坑基本土層

A 黒色土が主体

A-1 微量のロームを含む

A-2 シルトロームを約10%含む

B 黒色土とロームとの混土

B-1 黒色土約80%・シルトローム約20%

B-2 黒色土約50%・シルトローム約50%

B-3 黒色土約20%・シルトローム約80%

C シルトロームが主体

C-1 黒色土を約10%含む

C-2 微量の黒色土を含む

シルトローム基本土層

S0 浅間大窪沢第1軽石 (OKI) 黄灰色シルト質土

S1 浅間板鼻褐色軽石群 (BP グループ) 白灰色シルト質土

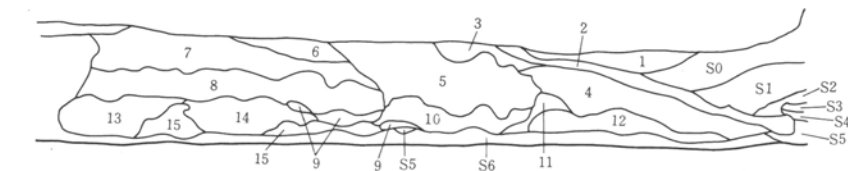
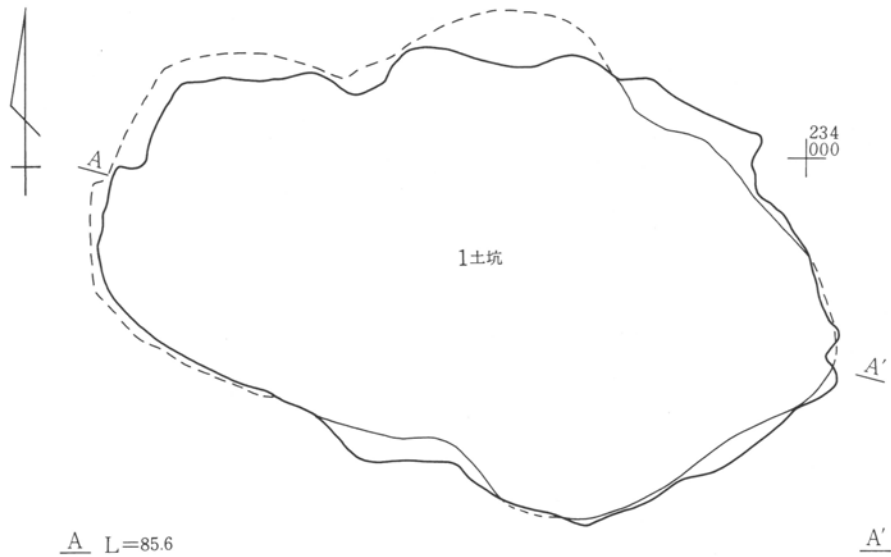
S2 浅間板鼻褐色軽石群 (BP グループ) 灰色シルト質土

S3 浅間板鼻褐色軽石群—室田軽石 (BP グループ—MP) 灰色シルト質土

S4 AT を含む 暗灰色粘質土

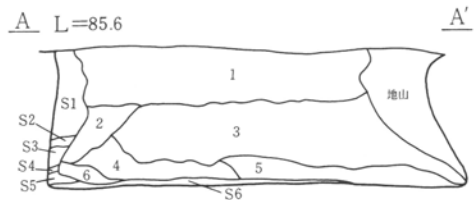
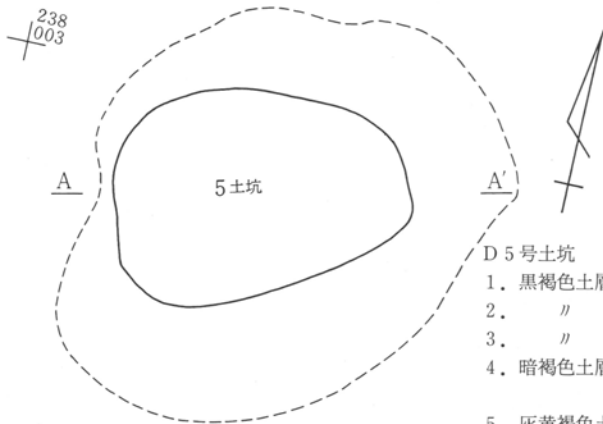
S5 暗色帯 暗灰色粘質土

S6 赤城小沼テフラを含む 暗褐色シルト質土



D 1号土坑

1. 黒褐色土層 A-1 白色パミス、S 0ブロック微量含む
2. 褐灰色土層 A-2 白色パミス微量、S 0ブロック少量含む
3. 黒褐色土層 B-1 白色パミス、S 0ブロック少量含む
4. 褐灰色土層 B-3 S 0-30%、S 1-40%、S 2-10%、S 4-10%含む
5. 灰黄褐色土層 B-3 S 0-40%、S 1-50%、S 4-10%
6. 黒褐色土層 B-1 S 0-20%、S 2-80%
7. 褐灰色土層 C-1 S 0-40%、S 2-40%、S 3-5%、S 4-5%
8. // B-2 S 0-30%、S 1-50%、S 2-5%、S 3-10%、S 4-5%
9. 灰黄褐色土層 C-2 S 0-50%、S 2-50%
10. 褐灰色土層 B-3 S 0-20%、S 1-40%、S 2-20%、S 3-10%、S 4-10%
11. 黒褐色土層 C-1 S 0-5%、S 1-60%、S 2-20%、S 3-15%
12. 褐灰色土層 C-2 S 1-70%、S 2-5%、S 3-10%、S 4-15%
13. 灰白色土層 C-2 S 0-60%、S 1-30%、S 2-10%
14. 褐灰色土層 C-2 S 0-40%、S 1-40%、S 2-10%、S 3-10%、S 4微量
15. 黒褐色土層 C-2 S 1-30%、S 2-50%、S 3-10%、S 4-5%、S 5-5%

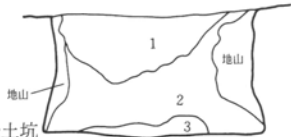
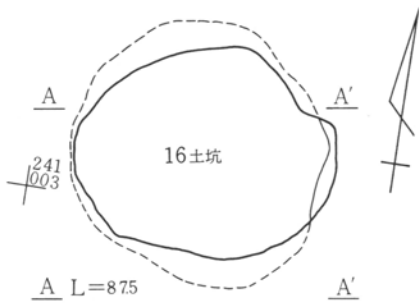


D 5号土坑

1. 黒褐色土層 A-1 S 1微量含む
2. // B-2 S 1-70%、S 2-20%、S 3-10%
3. // B-3 S 1-60%、S 2-20%、S 3-10%、S 4・5-10%
4. 暗褐色土層 B-3 S 1-40%、S 2-20%、S 3-10%、S 4-20%、S 5-10%
5. 灰黄褐色土層 C-2 S 1-40%、S 2-20%、S 3-20%、S 4-15%、S 5-5%
6. 黒褐色土層 C-2 S 4・5混土、S 1少量含む

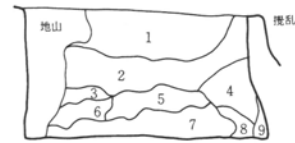
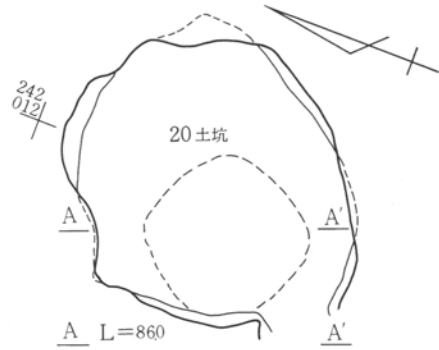
第177図 D区土坑(1)

第3章 検出された遺構と遺物



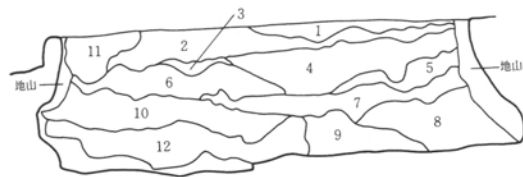
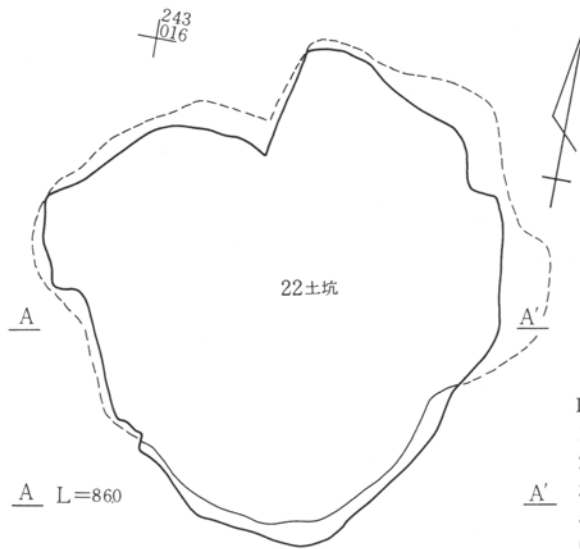
D16号土坑

1. 黒褐色土層 A-1 砂質土層、白色パミス微量含む
2. // A-1 砂質土層
3. 灰黄褐色土層 C-1 S1-70%、S2-5%、S3-20%、S4-5%



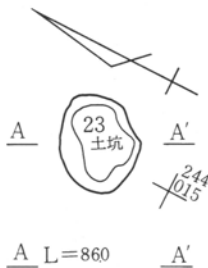
D20号土坑

1. 黒褐色土層 A-1 S1を微量含む
2. 灰黄褐色土層 A-2 S1・炭化物少量含む
3. 灰白色土層 S1-80%、S2-20%
4. 褐灰色土層 A-2 S1と黒褐色土の互層
5. // C-2 S1-20%、S2-20%、S3-60%、S4-10%
6. 黒褐色土層 A-1 S1微量含む
7. 褐灰色土層 C-2 S1-30%、S2-10%、S3-30%、S4-20%、S5-10%
8. 灰黄褐色土層 C-2 S1-20%、S3-60%、S4-10%、S5-5%
9. 黒褐色土層 C-2 S3-20%、S4-30%、S5-50%



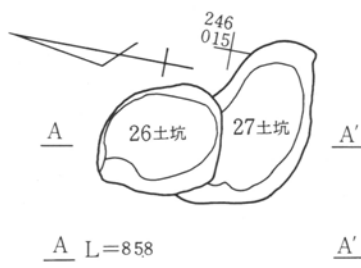
D22号土坑

1. 黒褐色土層 A-1 白色パミス多量含む
2. 灰黄褐色土層 C-1 S1・白色パミス多量含む
3. 黒褐色土層 A-2 S1含む
4. // B-2 S1-80%、S2-5%、S3-15%
5. 灰黄褐色土層 B-3 S1-40%、S2-10%、S3-40%、S4-5%
6. // C-1 S1層
7. 黒褐色土層 B-3 S1-80%、S2-5%、S3-15%
8. 灰黄褐色土層 C-1 S1崩落土
9. 褐灰色土層 C-1 S4層、S1・3少量含む
10. 黒褐色土層 A-2 S1-50%、S2-20%、S3-20%、S4-5%、S5-5%
11. 灰白色土層 C-1 S1-80%、S4-15%、S5-5%
12. 灰黄褐色土層 C-1 S1-20%、S2-20%、S3-40%、S4-20%、



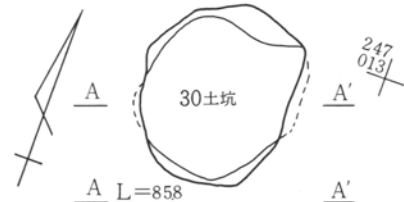
D23号土坑

1. 黒色土層 砂多量に含むシルト層



D26・27号土坑

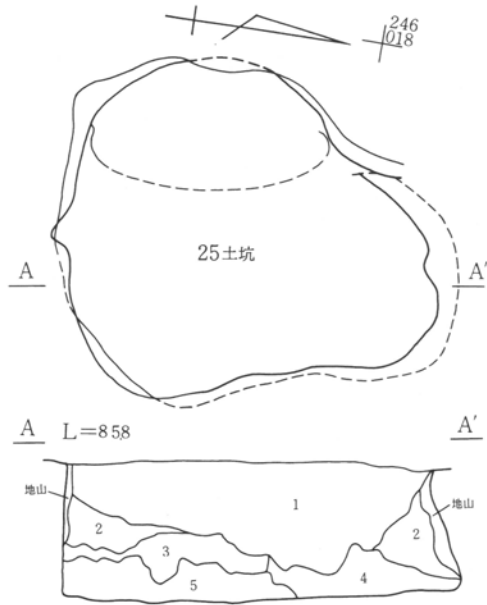
1. 黒褐色土層 砂質土白色パミス、ロームブロック多量含む
2. // 白色パミス、ロームシルトブロック少量含む



D30号土坑

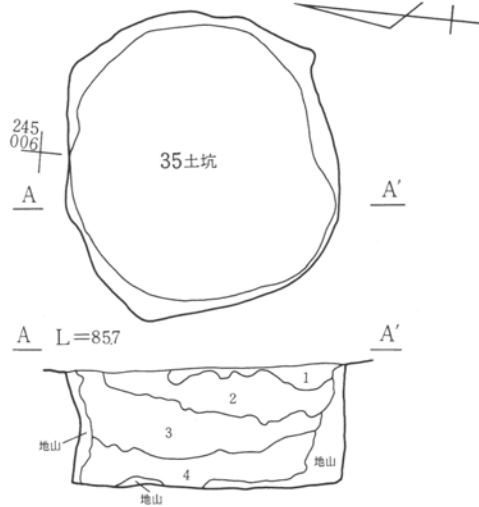
1. 黒色土層 粘質土 白色パミス、ロームシルトブロック少量含む
2. 黒褐色土層 粘質土 ロームシルトブロック微量含む

第178図 D区土坑(2)



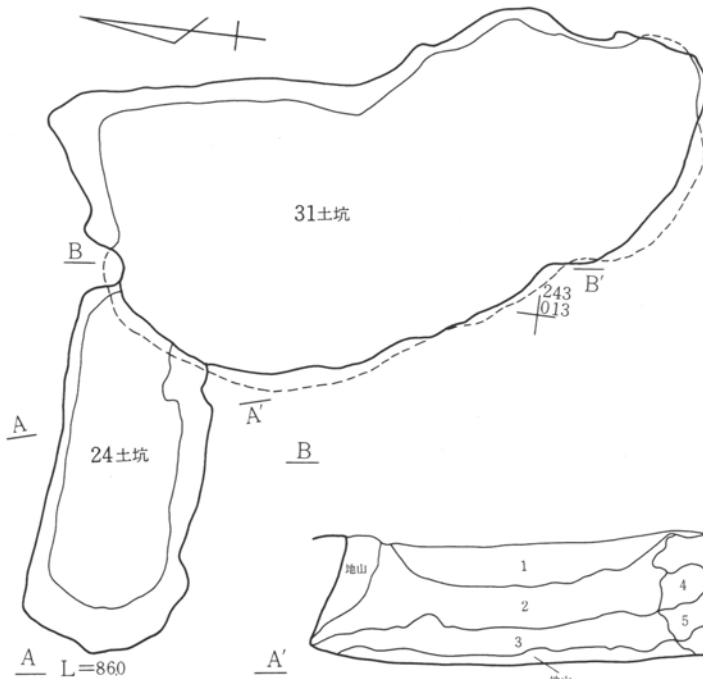
D25号土坑

1. 黒色土層 A-1 白色パミス、ロームシルトブロック少量含む
2. 黒褐色土層 A-2 白色パミス少量含む
3. にぶい黄橙色土層 C-2 S1-30%、S2-30%、S3-20%、S4-15%、S5-5%
4. 灰黄褐色土層 C-1 S1-60%、S2-20%、S3-10%、S4-5%、S5-5%
5. 褐灰色土層 B-1 S1-20%、S2-40%、S3-20%、S4-10%、S5-10%



D35号土坑

1. 黒褐色土層 A-1 白色パミス多量含む
2. にぶい黄橙色土層 C-1 S1-80%、S2-20%
3. 黒褐色土層 A-2 S1-60%、S2-10%、S3-20%
4. 褐灰色土層 B-1 S1-60%、S3-30%、S4-5%、S5-5%



D31号土坑

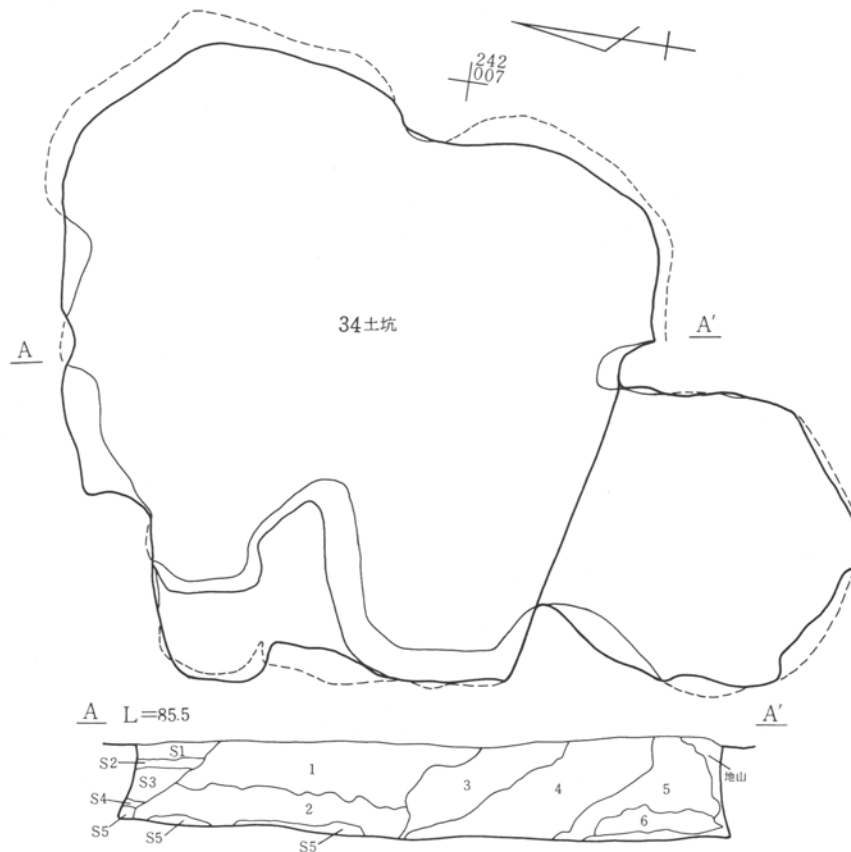
1. 黒色土層 A-1 S1少量含む
2. 黒褐色土層 A-1 S1と黒色土互層
3. にぶい黄橙色土層 C-2 S1-30%、S2-10%、S3-40%、S4-10%、S5-5%
4. " C-2 S1層
5. 灰黄褐色土層 C-2 S1-30%、S2-20%、S3-30%、S4-20%
6. " C-2 S1-50%、S2-20%、S3-20%、S4-10%、S5-少量



D24号土坑

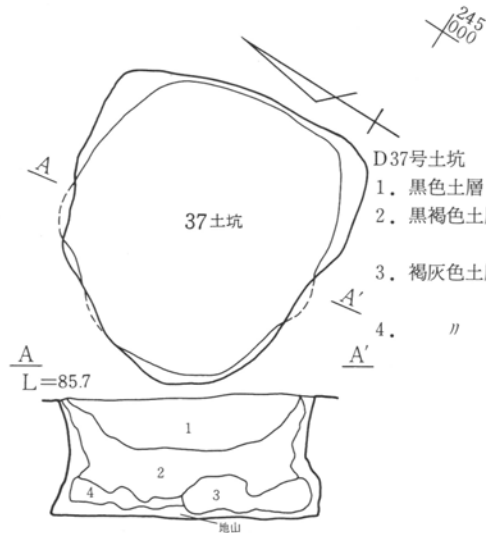
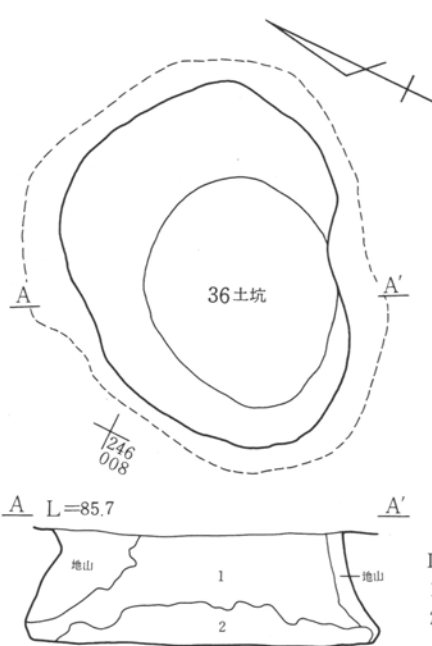
1. 黒褐色土層 S1含む

第179図 D区土坑(3)



D34号土坑

1. 黒褐色土層 B-1 S1-70%、S2-10%、S3-40%、S4少量、S5-10%
2. 灰黄褐色土層 C-2 S1-30%、S2-20%、S3-40%、S4少量、S5-10%
3. 黒褐色土層 C-2 S1・2・3混土
4. // B-1 S1-40%、S2-30%、S3-20%、S4-10%、S5微量
5. にぶい黄橙色土層 C-2 S1-70%、S2-10%、S3-20%、S4微量
6. 灰黄褐色土層 C-2 S1-30%、S2-30%、S3-10%、S4-30%



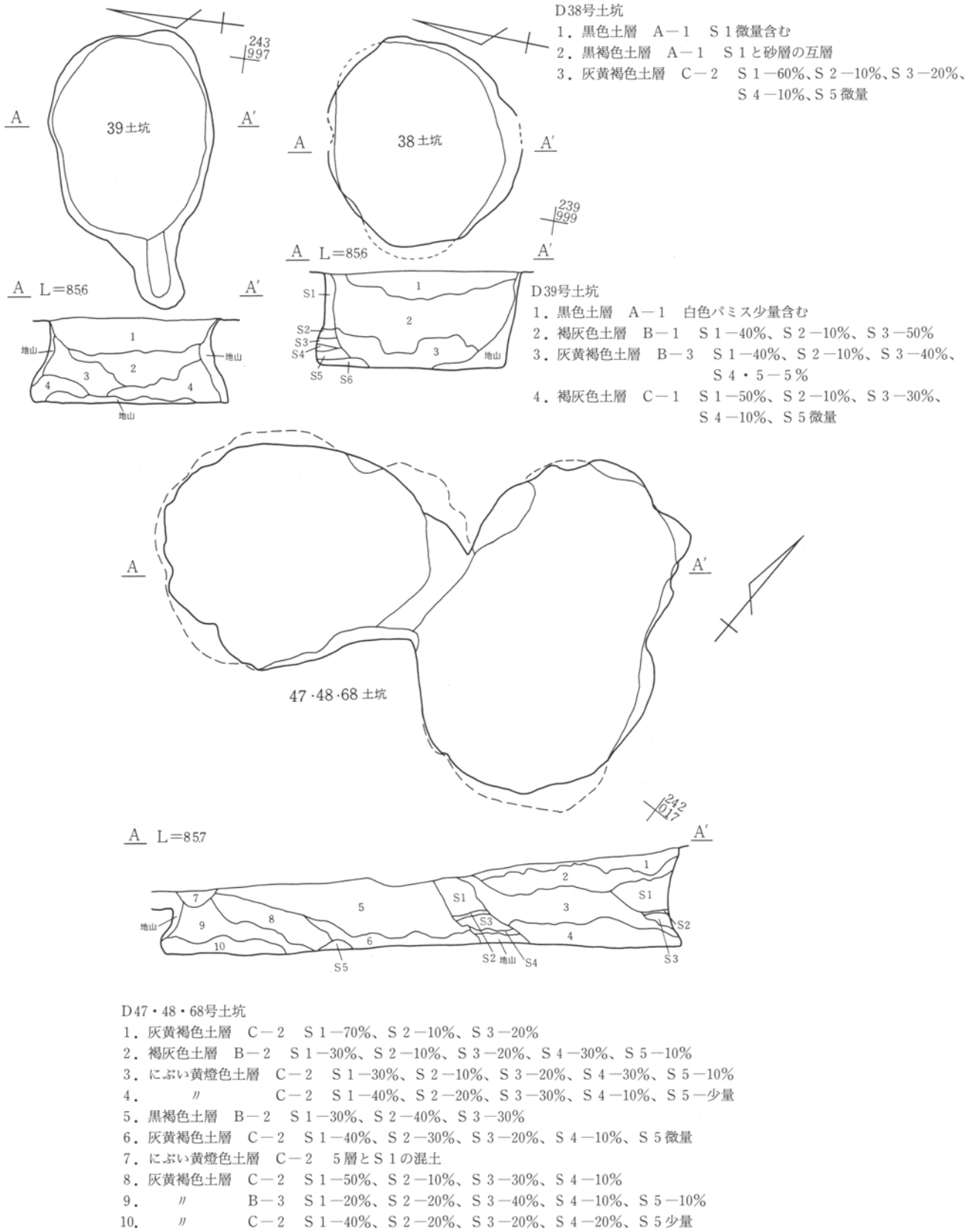
D37号土坑

1. 黒色土層 A-1 白色パミス微量含む
2. 黒褐色土層 A-2 S1-40%、S2-5%、S4-5%
3. 褐灰色土層 C-1 S1-20%、S2-5%、S3-60%、S4-10%
4. // C-1 S1-60%、S3-20%、S4・5-10%

D36号土坑

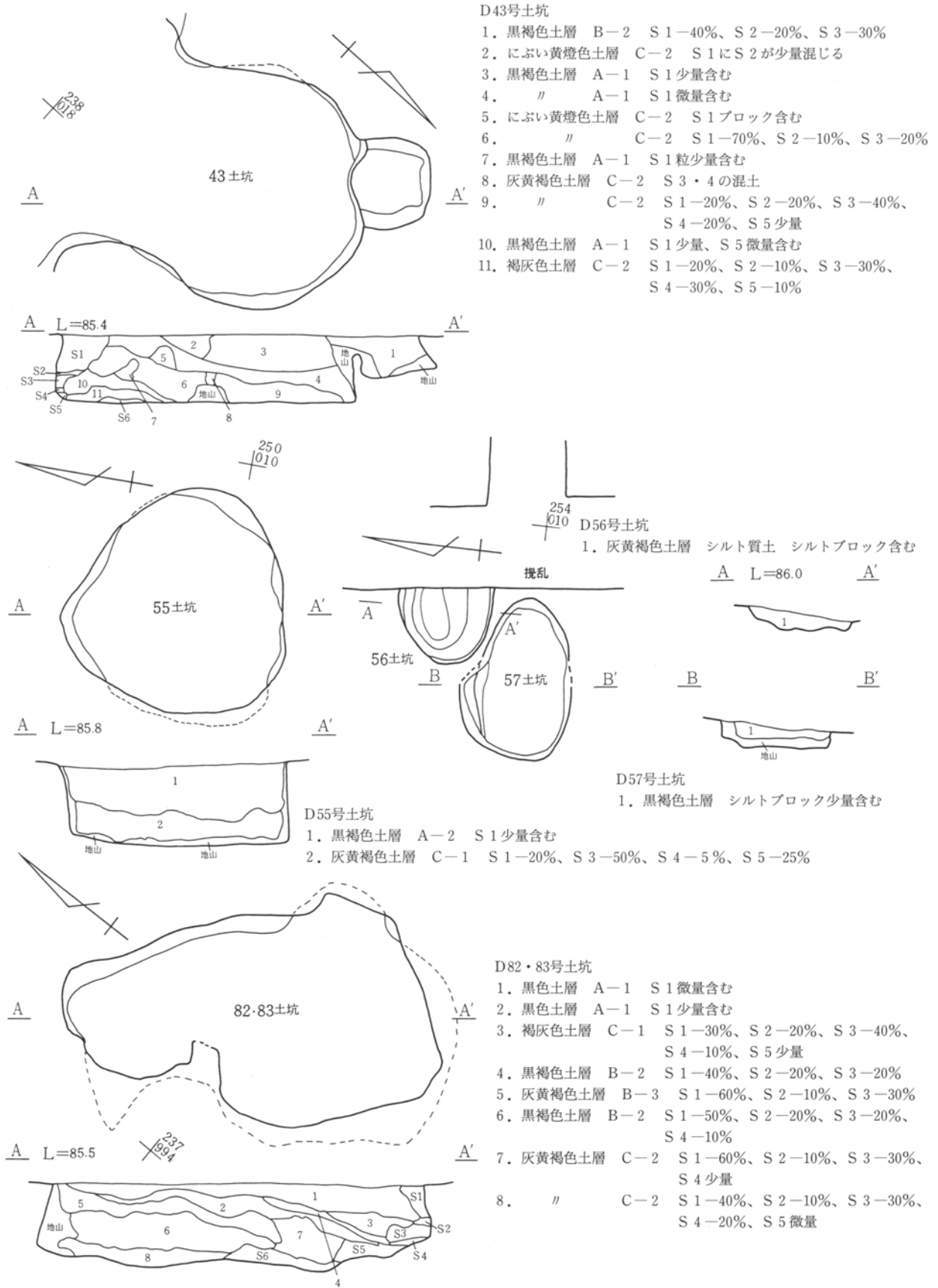
1. 黒褐色土層 A-2 白色パミス少量含む
2. 灰黄褐色土層 C-1 S1-30%、S3-60%、S5-10%

第180図 D区土坑(4)

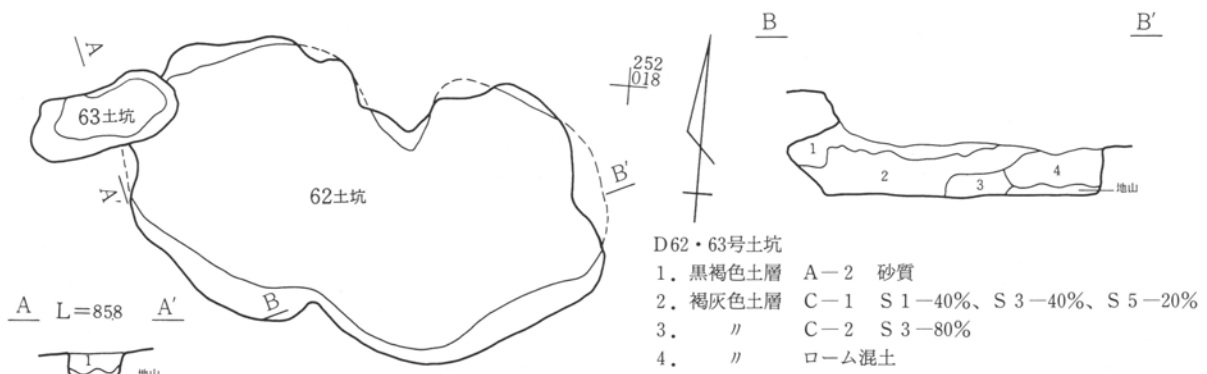
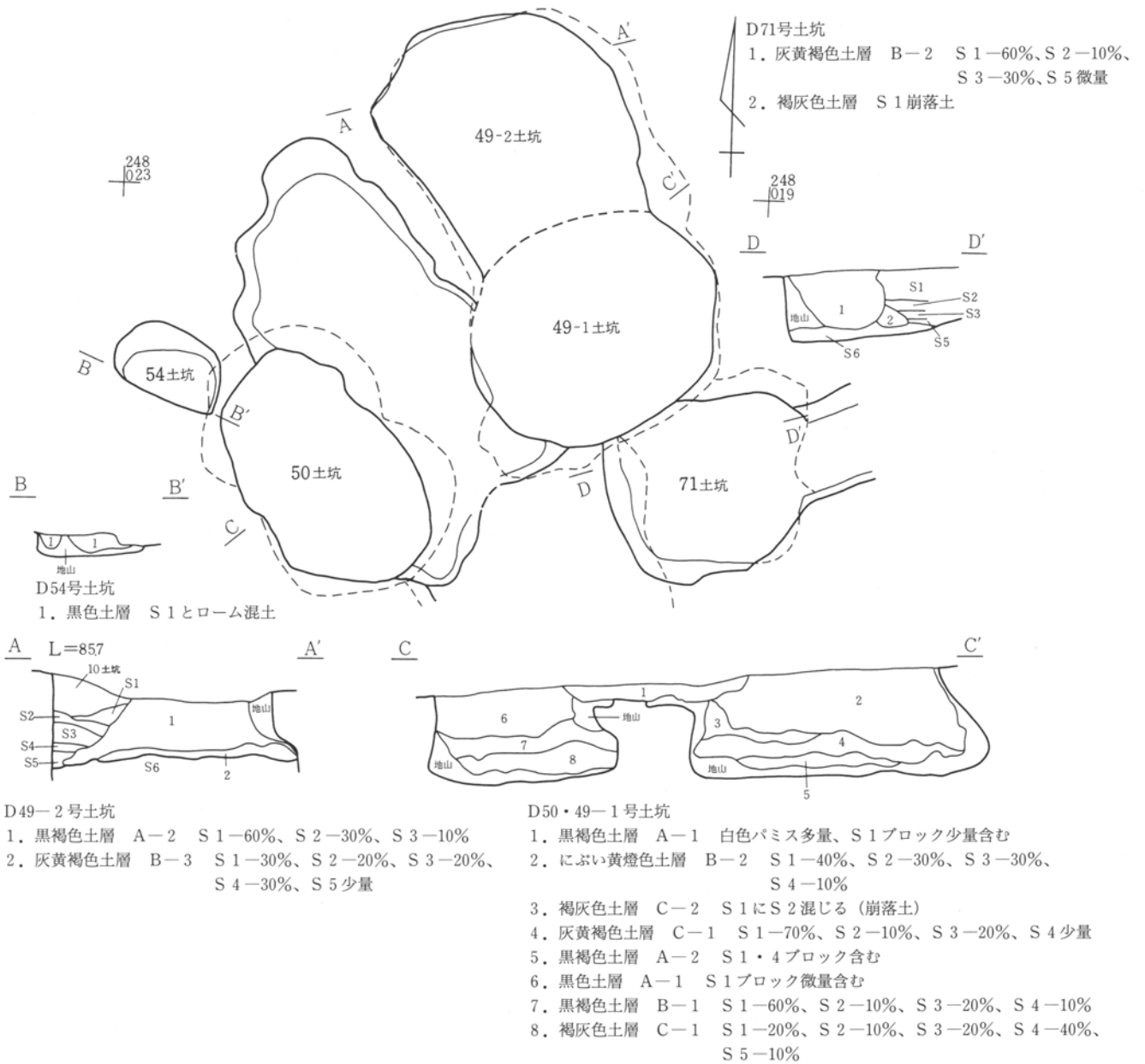


第181図 D区土坑(5)

第3章 検出された遺構と遺物

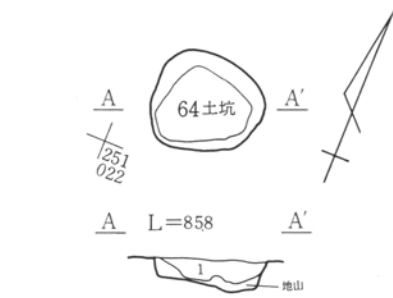


第182図 D区土坑(6)

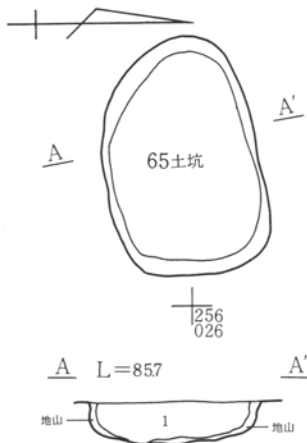


第183図 D区土坑(7)

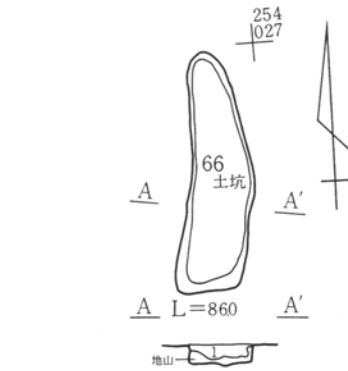
第3章 検出された遺構と遺物



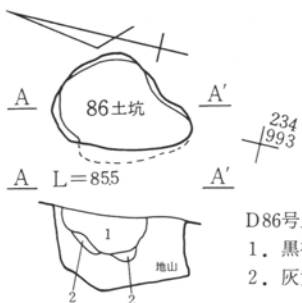
D64号土坑
1. 黒褐色土層 ロームシルトブロック含む



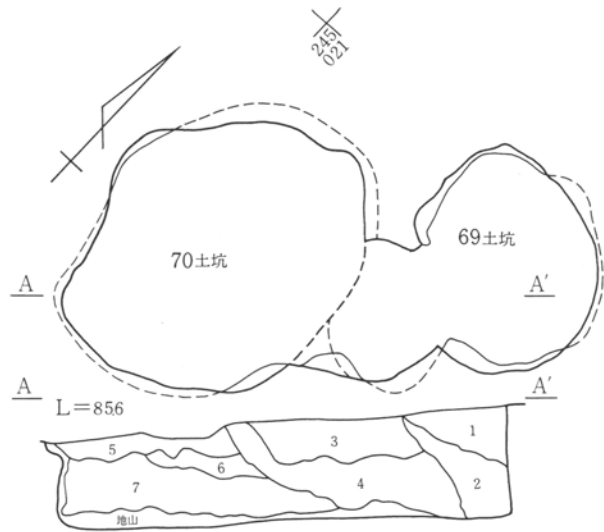
D65号土坑
1. 黒褐色土層 シルトブロック少量含む



D66号土坑
1. 黒褐色土層 ロームシルトブロック含む

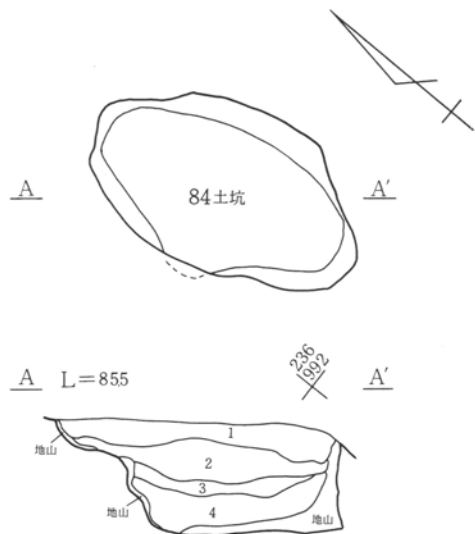


D86号土坑
1. 黒褐色土層 S1ブロック多量含む
2. 灰黄褐色土層 S1ブロック含む



D69・70号土坑

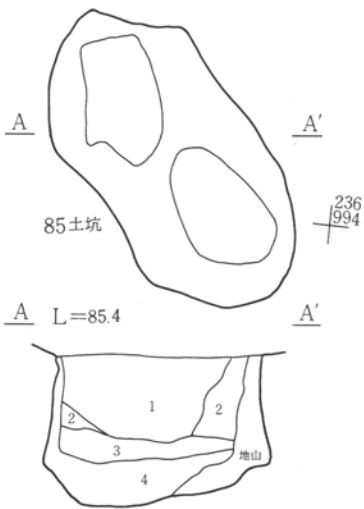
1. 黒褐色土層 A-1 白色パミス含む
2. 灰黄褐色土層 C-2 S1互層
3. 黒褐色土層 B-1 S1-60%、S2-20%、S3-20%
4. " B-2 S1-50%、S2-20%、S3-30%
5. 灰黄褐色土層 A-1 S1主体土
6. 黒色土層 A-1 S1微量含む
7. 灰黄褐色土層 C-2 S1-40%、S2-20%、S3-30%、S4-10%、S5少量



D84号土坑

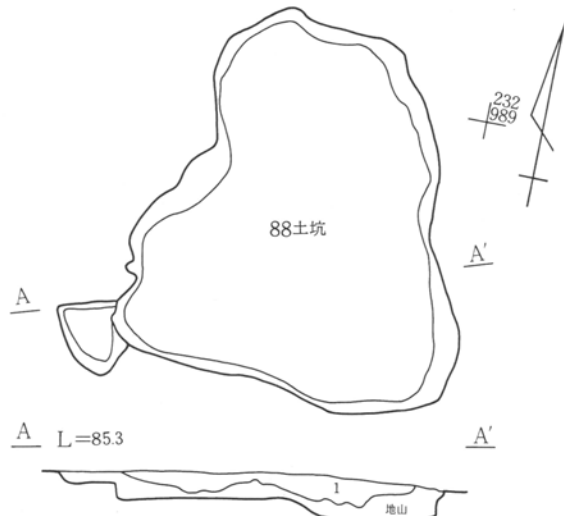
1. 黒褐色土層 A-1 S1少量含む
2. 黒色土層 A-1 S1含む
3. 黒褐色土層 B-2 S1-80%、S2-10%、S3-10%
4. 灰黄褐色土層 C-2 S1-40%、S2-10%、S3-30%、S4-20%、S5少量

第184図 D区土坑(8)



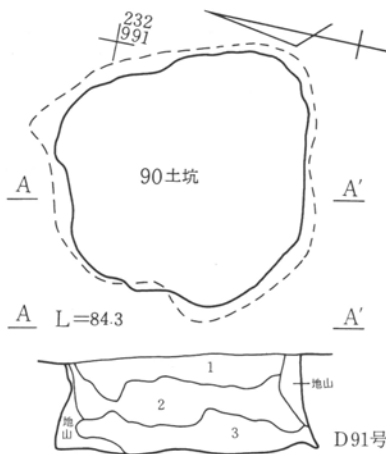
D85号土坑

1. 黒色土層 A-1 S1微量含む
2. 黒褐色土層 A-1 S1-80%、S2-10%、S3-10%
3. 黒色土層 A-1
4. // A-1



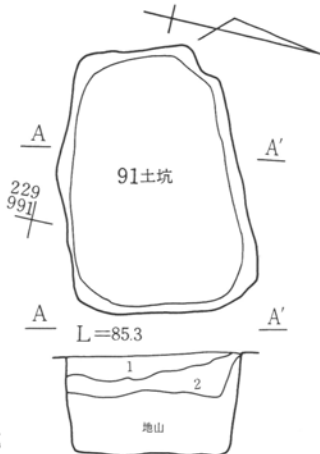
D88号土坑

1. 黒褐色土層 B-2 S1-40%、S2-30%



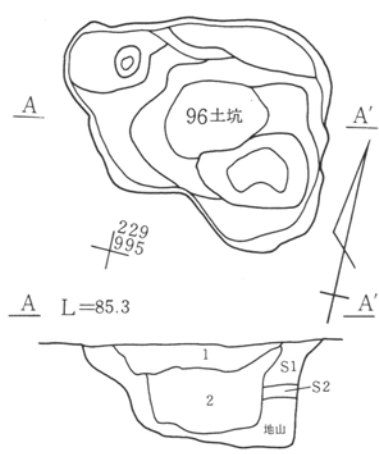
D90号土坑

1. 黒褐色土層 A-1
2. 黒色土層 A-2 S1少量含む
3. 灰黄褐色土層 C-1 S1・2少量、S3-30%、S4-20%、S5少量



D91号土坑

1. 黒色土層 ロームシルトブロック少量含む
2. 褐灰色土層 ロームシルトブロック多量含む



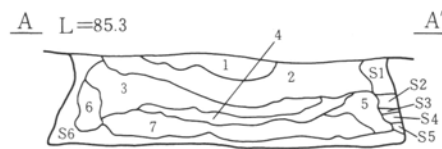
D96号土坑

1. 黒褐色土層 A-2 S1-40%
2. 灰黄褐色土層 B-3 S1-40%、S2-10%、S3-40%、S4-10%



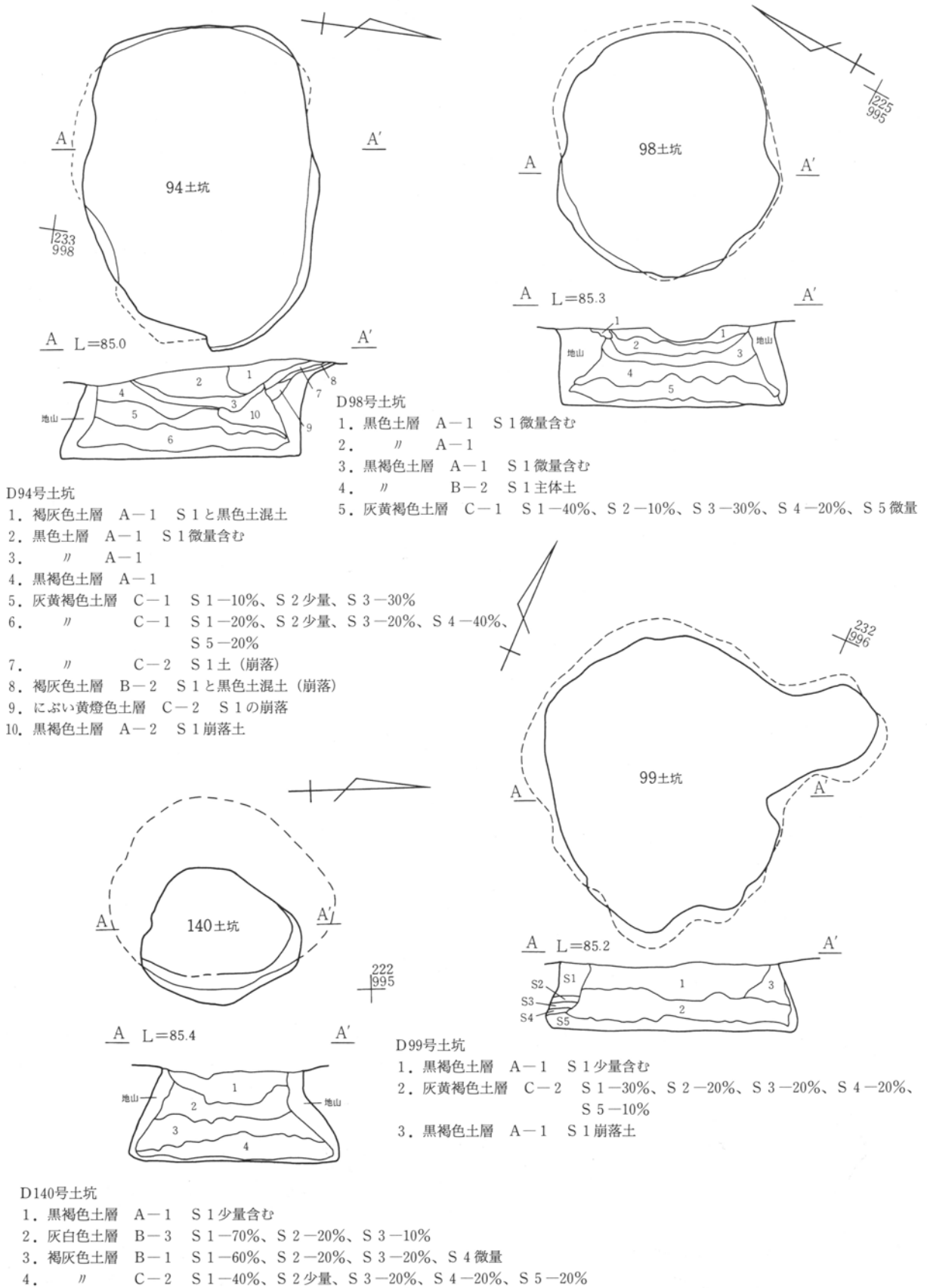
D95号土坑

1. 黒褐色土層 B-1 S1少量含む
2. 黒色土層 A-1 S1微量含む
3. にぶい黄橙色土層 C-2 S1-40%、S2-10%、S3-40%、S4-10%
4. 黒褐色土層 A-1 S1少量含む
5. // A-1 S1と黒色土混土
6. 褐灰色土層 C-1 S1-30%、S2-10%、S3-30%、S4-20%、S5-10%
7. 灰黄褐色土層 C-2 S1-50%、S2-10%、S3-20%、S4-20%、S5少量

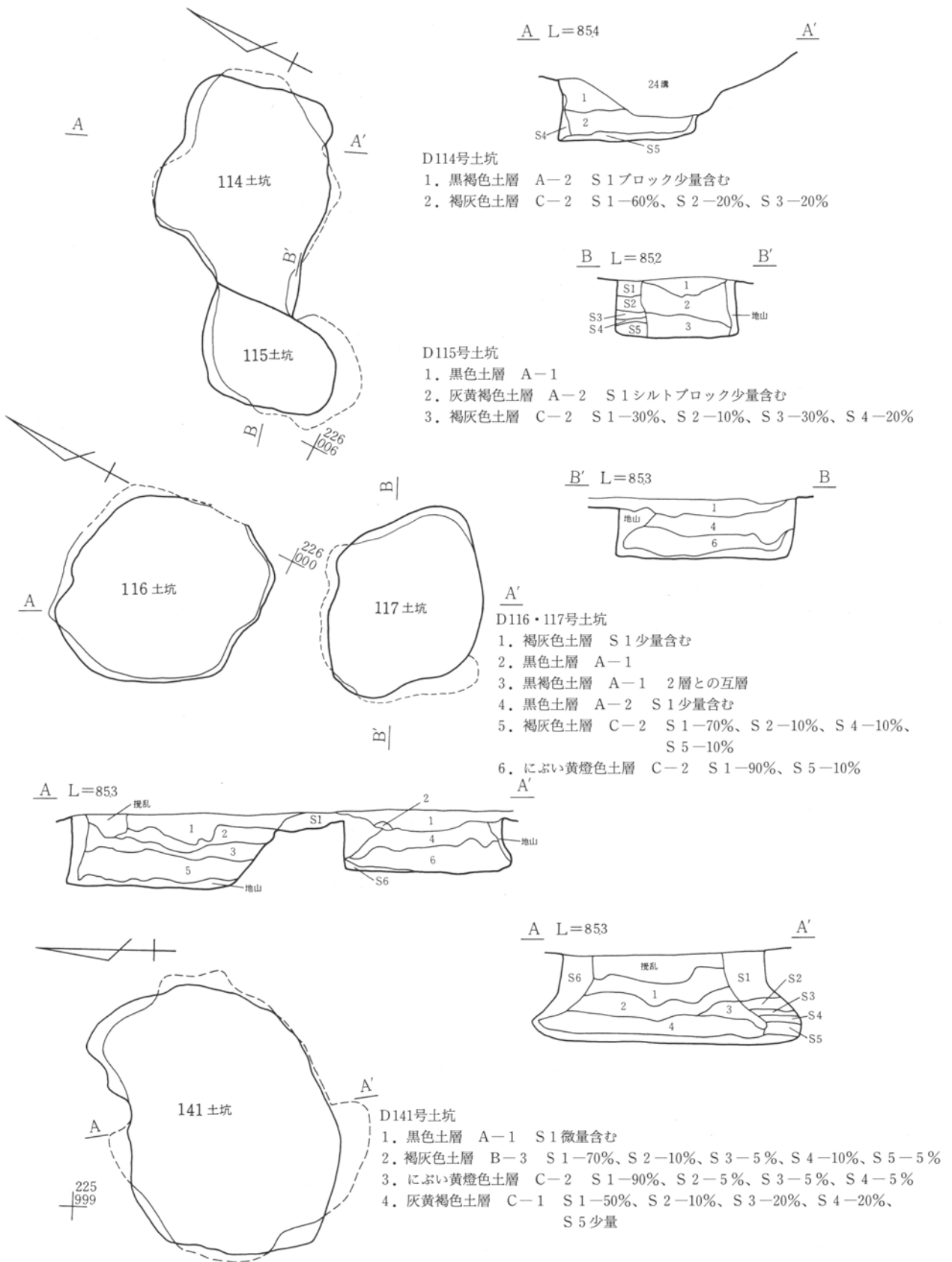


第185図 D区土坑(9)

第3章 検出された遺構と遺物

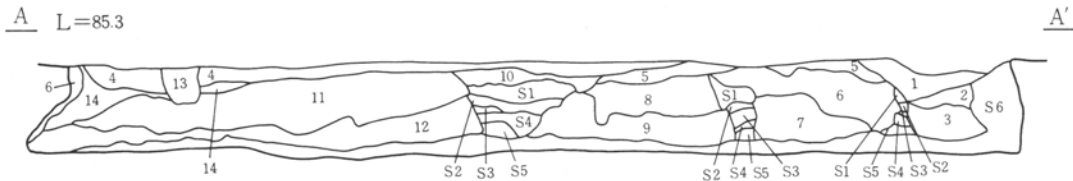
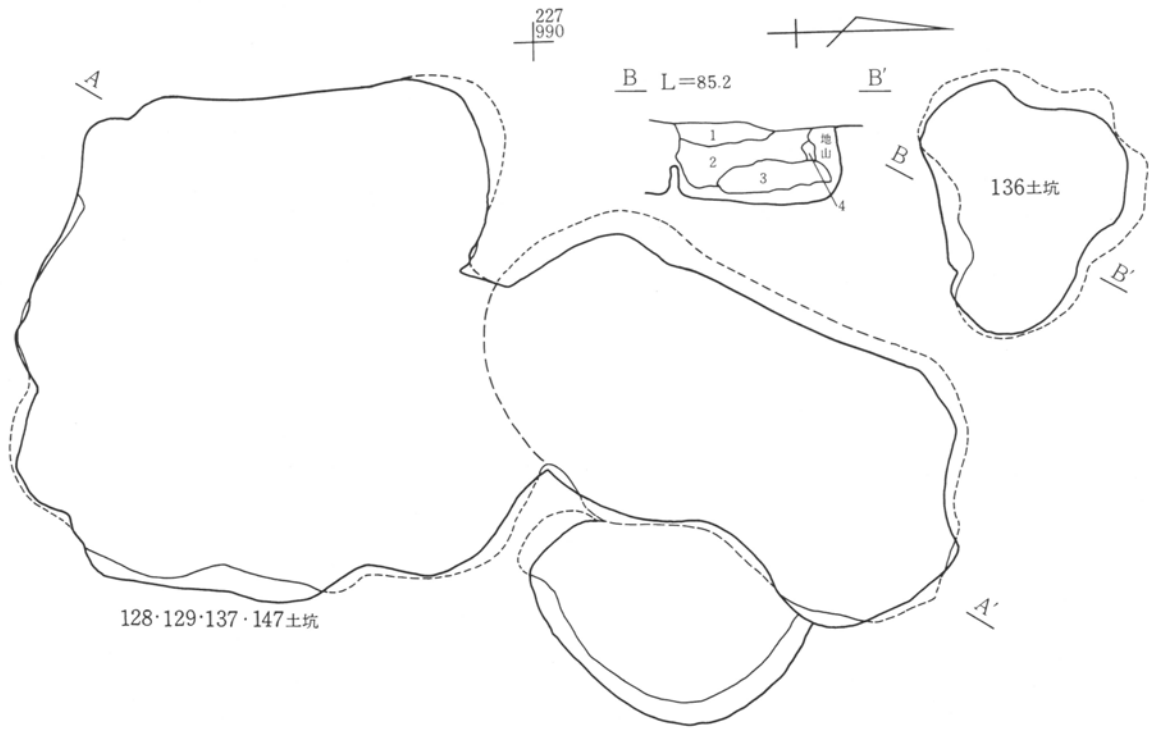


第186図 D区土坑(10)



第187図 D区土坑(II)

第3章 検出された遺構と遺物

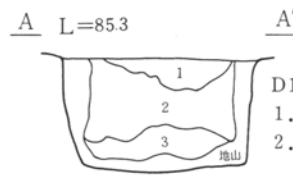
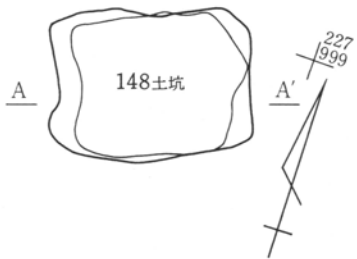


D128・129・137・147号土坑

1. 灰黄褐色土層 B-2 S1主体土
2. " B-3 S1-90%、S2-10%
3. 褐灰色土層 C-1 S1-30%、S2-10%、S3-30%、S4-20%、S5-5%
4. 黒褐色土層 C-1 S1少量含む
5. 褐灰色土層 B-2 S1と黒色土混土
6. におい黄橙色土層 C-1 S1-40%、S2-10%、S3-30%、S4-10%
7. 褐灰色土層 C-2 S1-30%、S2少量、S3-30%、S4-30%、S5-10%
8. 黒褐色土層 B-2 S1-70%、S2-10%、S3-20%
9. 褐灰色土層 C-2 S1-70%、S2-10%、S3-30%、S4-30%、S5-10%
10. 灰黄褐色土層 B-1 S1と黒色土の互層
11. 褐灰色土層 C-2 S1-20%、S2-10%、S3-40%、S4-20%、S5-10%
12. 灰黄褐色土層 C-2 S1-20%、S2少量、S3-40%、S4-30%、S5-10%
13. 褐灰色土層 A-1 S1少量含む
14. 黒褐色土層 A-2 S1と黒色土と粘質土の互層

D136号土坑

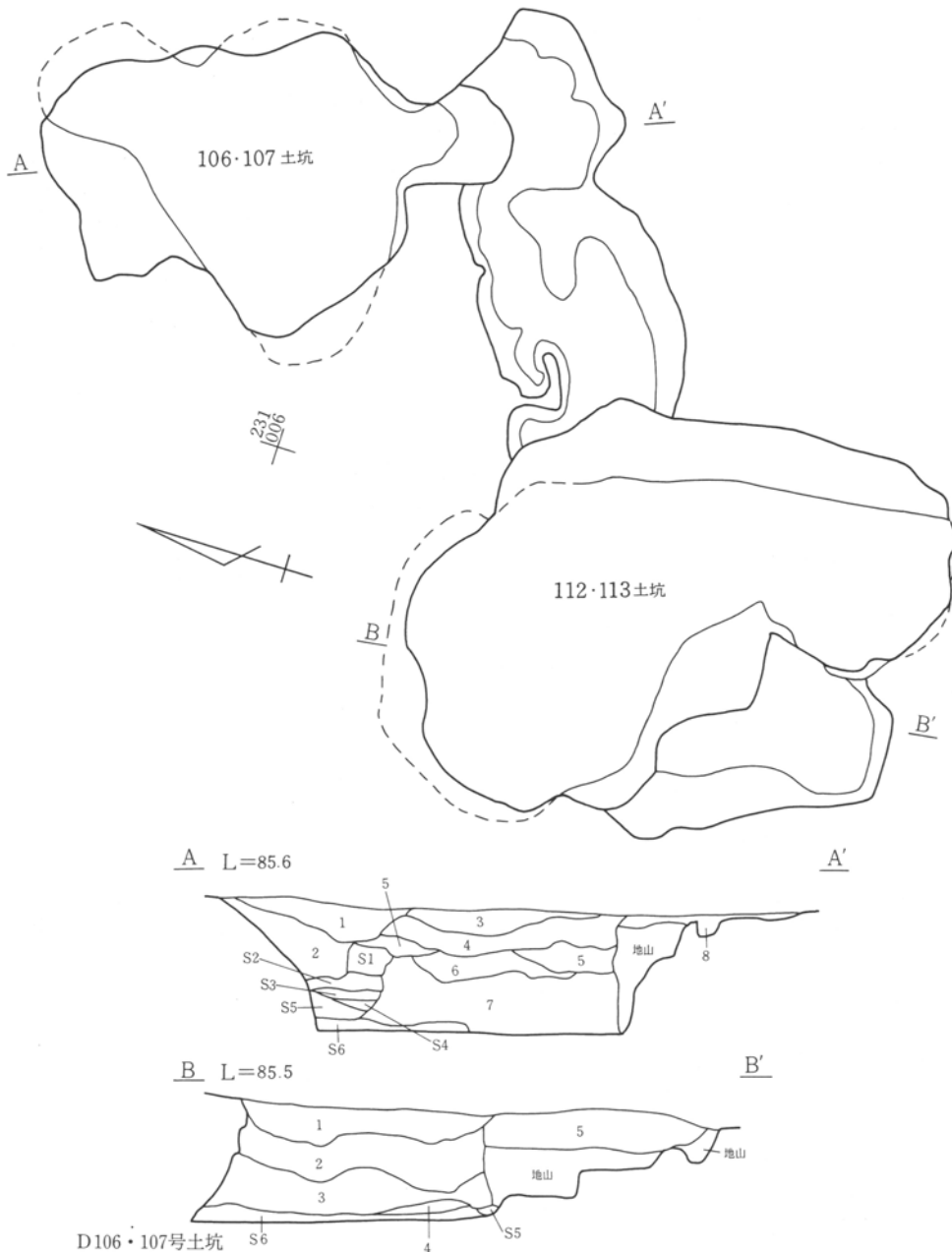
1. 黒褐色土層 A-2 S1と粘質土少量含む
2. " B-2 S1-70%、S2-10%、S3-20%
3. 褐灰色土層 C-2 S1-30%、S2-20%、S3-20%、S4-20%、S5-10%



D148号土坑

1. 黒褐色土層 A-2 S1少量含む
2. 黒褐色土層 B-2 S1-60%、S2少量、S3-20%、S4-30%、S5-30%
3. 黒色土層 C-1 S1-20%、S2少量、S3-20%、S4-30%、S5-30%

第188図 D区土坑(12)



D106・107号土坑

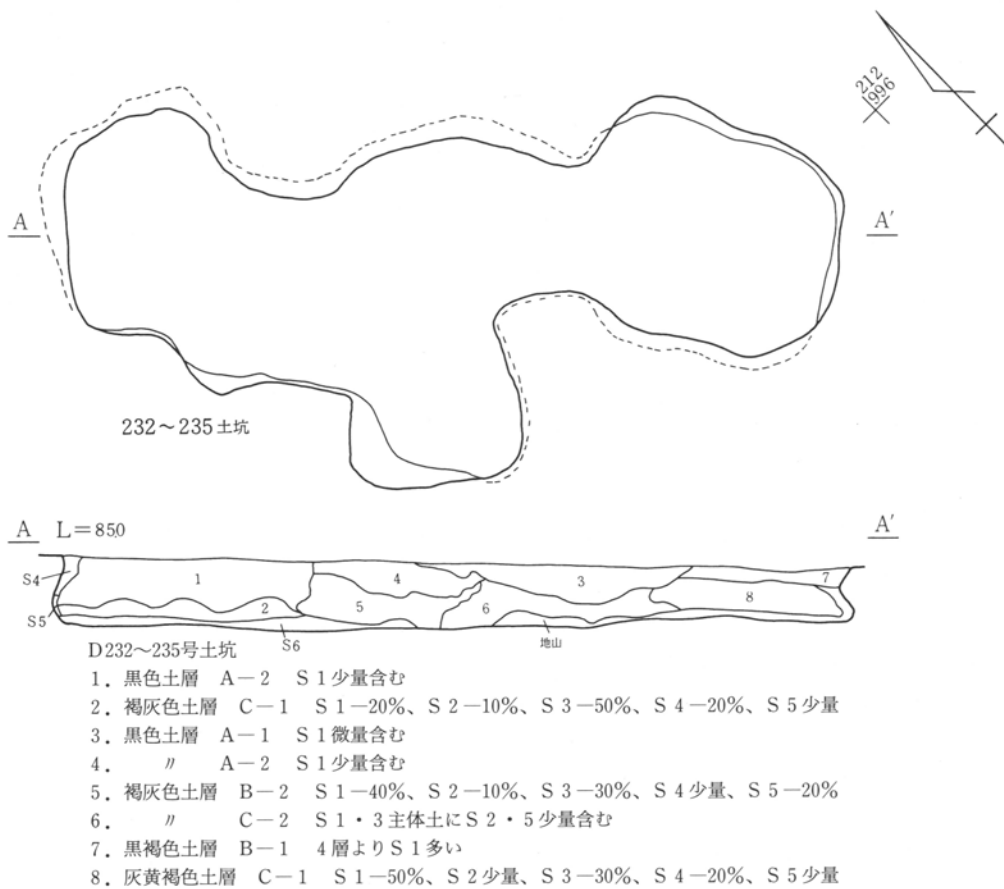
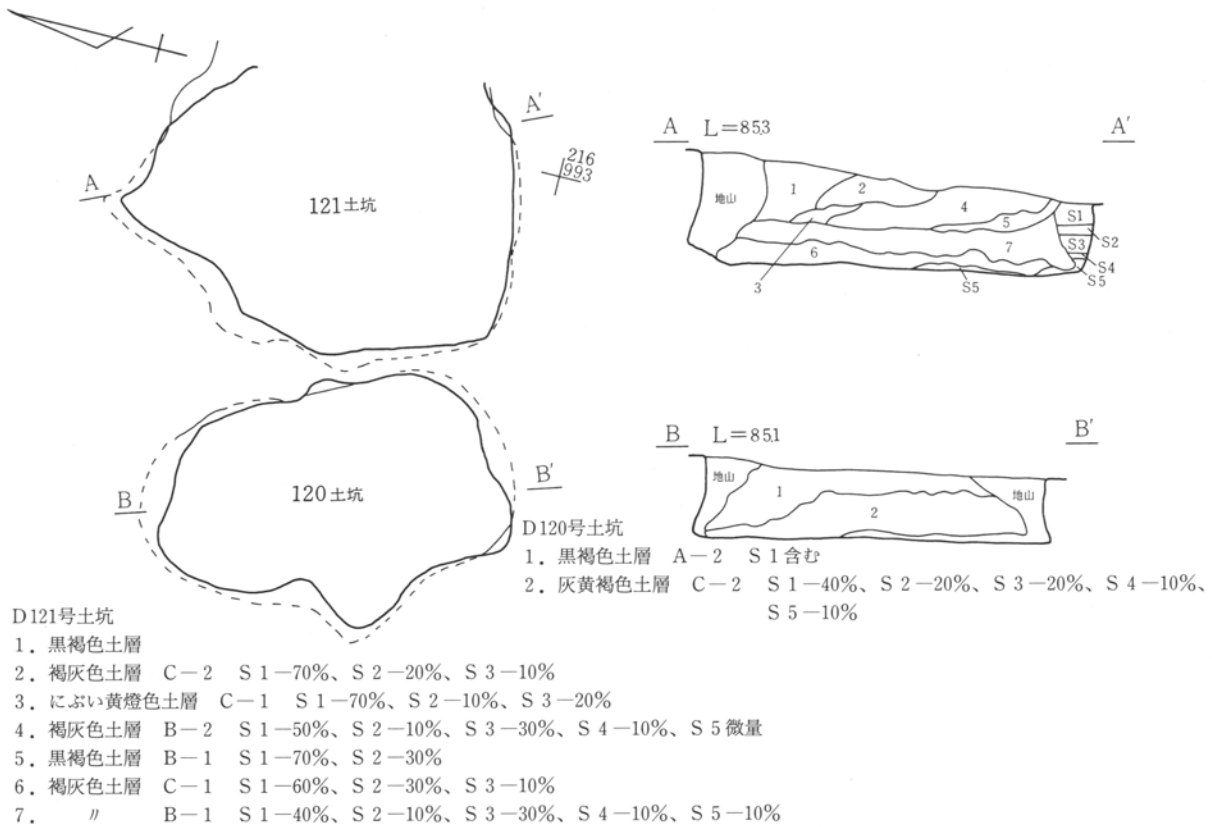
1. 黒色土層 A-2 S1ブロック微量含む
2. 黒褐色土層 B-2 S1-70%、S2-10%、S3-10%、S4-10%、S5-10%
3. 黒色土層 A-1 S1ブロック含む
4. 黒褐色土層 B-1 S1主体土
5. 灰黄褐色土層 C-1 S1-80%、S2-20%
6. 黒褐色土層 A-2 S1-40%、S2-20%、S3-10%、S4-10%、S5-20%
7. 褐灰色土層 C-2 S1-40%、S2-20%、S3-10%、S4-10%、S5-20%
8. 黒褐色土層 S1シルトブロック含む

D112・113号土坑

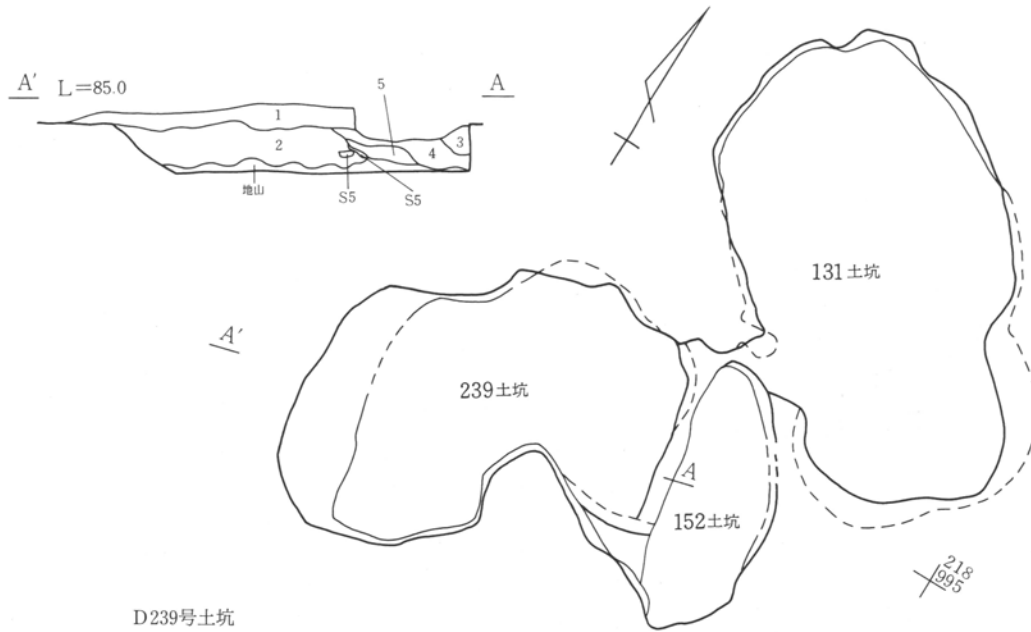
1. 黒色土層 A-1 パミス多量含む
2. 灰黄褐色土層 B-3 S1-40%、S2-30%、S3-20%、S4-10%、S5-10%
3. 黒褐色土層 S1・2・3ブロック含む
4. 灰黄褐色土層 S1・4主体土
5. 黒褐色土層 S1シルトブロック少量含む

第189図 D区土坑(3)

第3章 検出された遺構と遺物

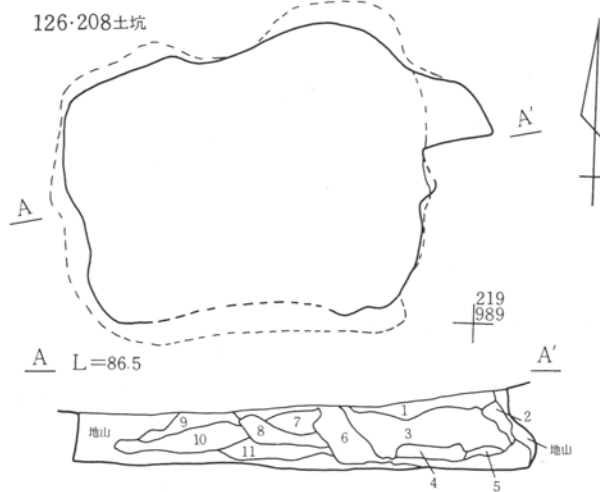


第190図 D区土坑(14)



D239号土坑

1. 黒褐色土層 S1微量含む
2. にぶい黄橙色土層 C-2 S1-50%、S2-10%、S3-20%、S4-10%、S5-10%
3. 黒褐色土層 B-2 S1-80%、S3-20%
4. 褐灰色土層 C-1 S1-20%、S2-20%、S3-40%、S4-20%、S5少量
5. にぶい黄橙色土層 C-2 S1主体、S4少量

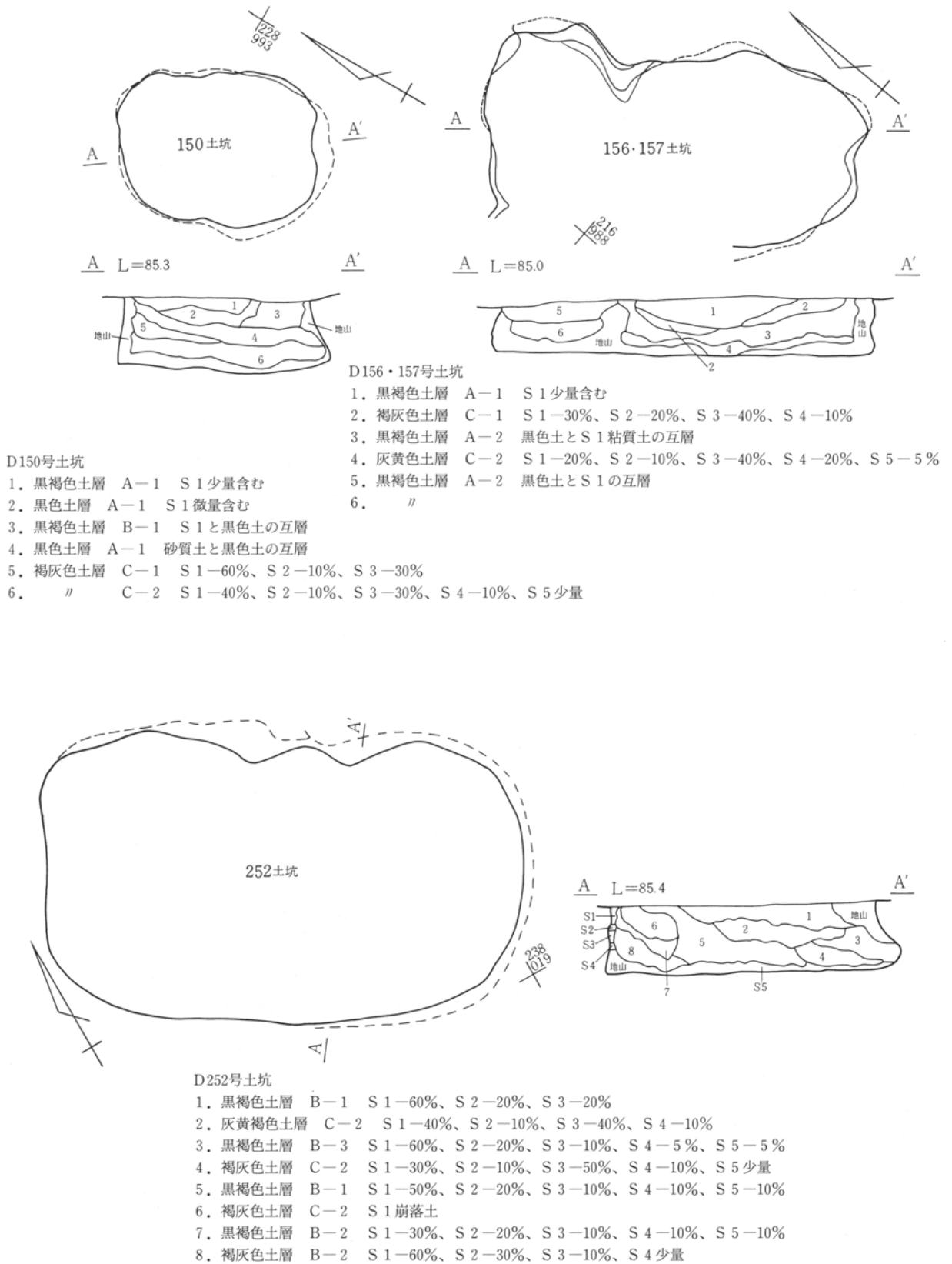


D126・208号土坑

1. 黒褐色土層 A-1 S1少量含む
2. 褐灰色土層 B-2 S1-70%、S2-10%、S3-20%
3. にぶい黄橙色土層 C-1 S1-50%、S2-10%、S3-40%
4. 黒褐色土層 B-2 S1-60%、S2-20%、S3-20%
5. 黒色土層 C-2 S3・4・5混土
6. 褐灰色土層 C-1 S1-40%、S2-10%、S3-20%、S4-20%、S5-10%
7. にぶい黄橙色土層 B-2 S1-50%、S2-10%、S3-30%、S4-10%
8. 褐灰色土層 B-1 S1・2少量含む
9. " B-2 S1と粘質土の互層
10. " C-2 S1-30%、S2-10%、S3-50%、S4-10%、S5少量
11. 灰黄褐色土層 C-1 S1-30%、S2-10%、S3-40%、S4-10%、S5-10%

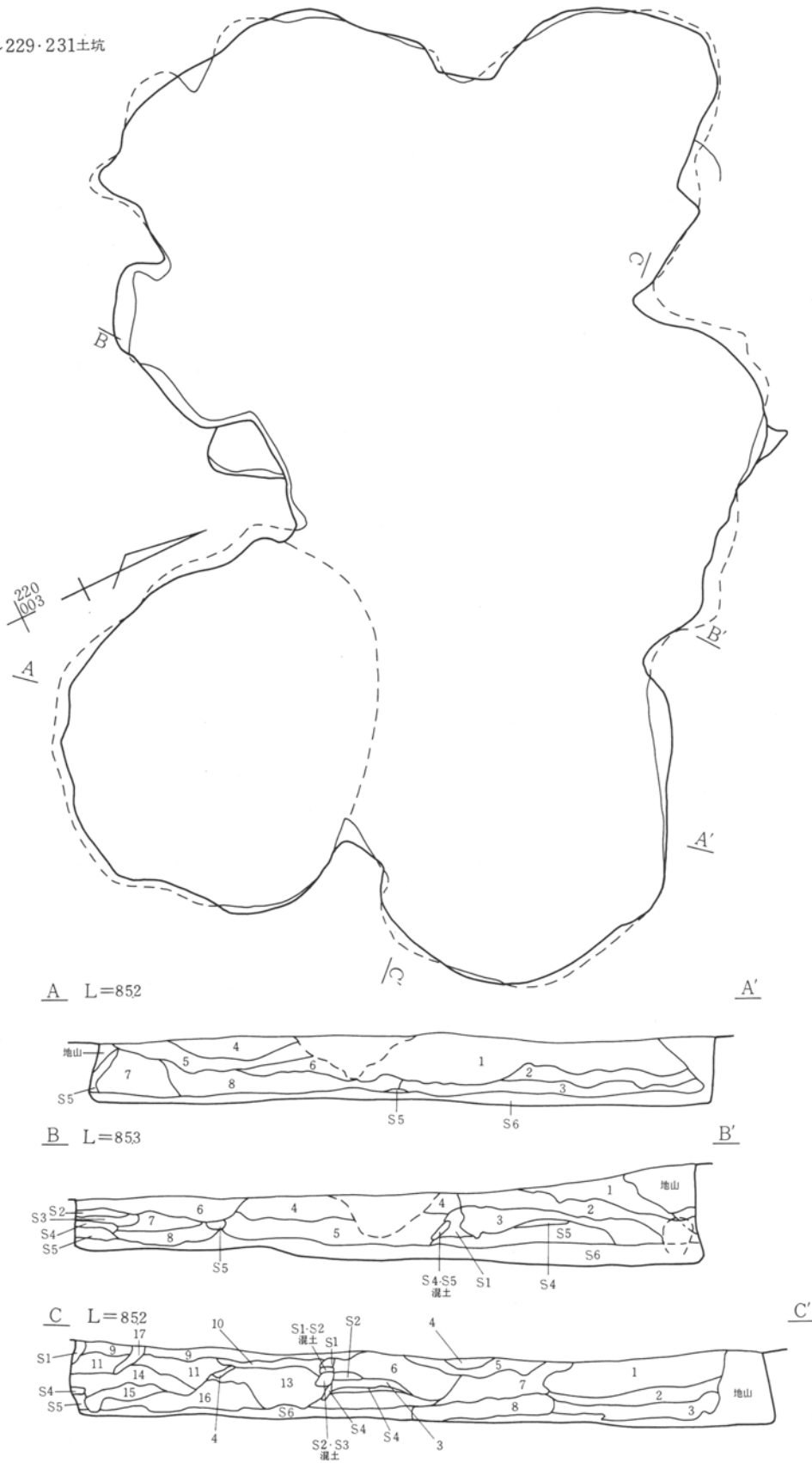
第191図 D区土坑(15)

第3章 検出された遺構と遺物



第192図 D区土坑(16)

221~229·231土坑



第193図 D区土坑(17)

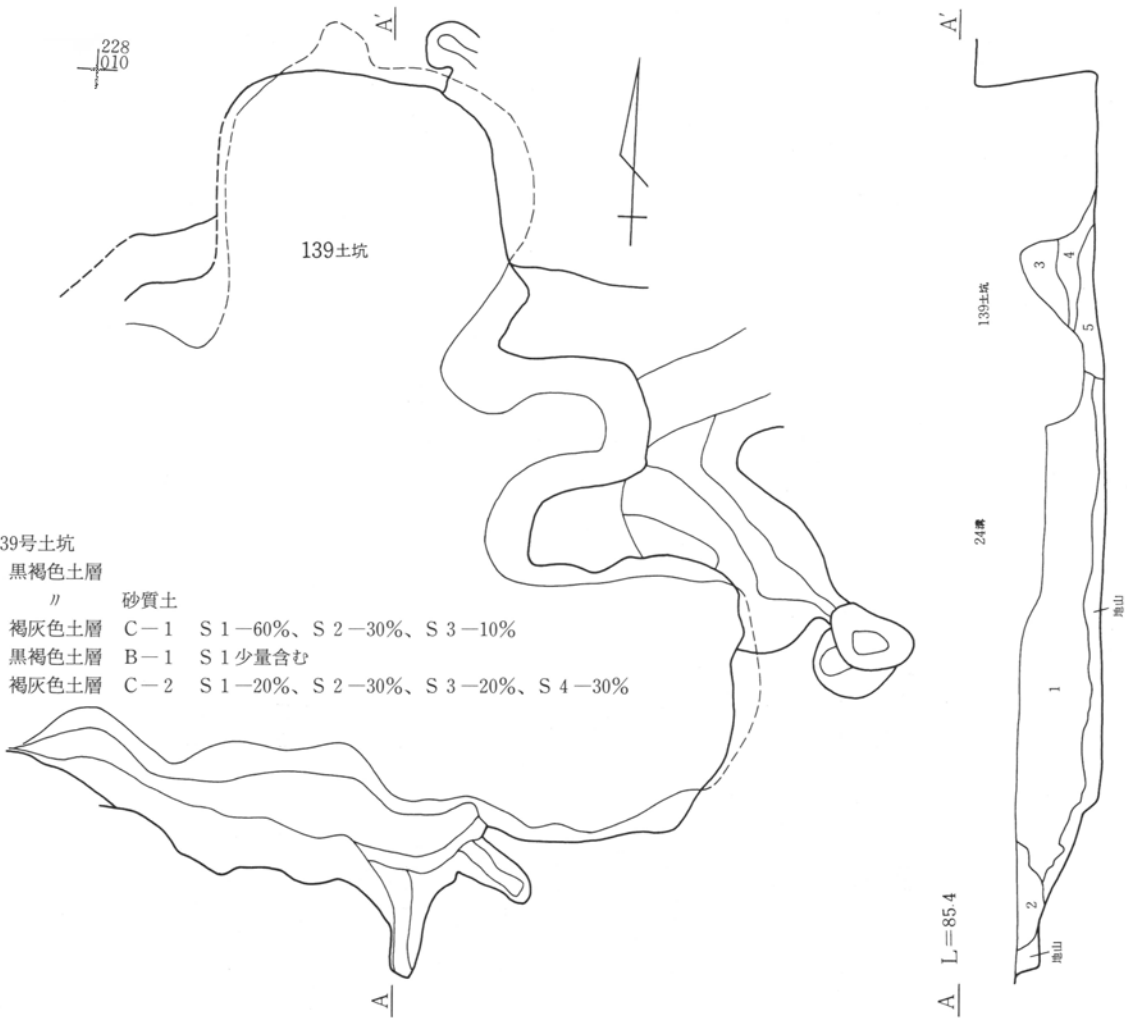
第3章 検出された遺構と遺物

D221~229・231号土坑

1. 褐灰色土層 B-2 S1-40%、S2-30%、S3少量、S4-20%、S5-10% (221号)
2. // C-1 S1・3主体土、S4・5ブロック少量 (221号)
3. // C-1 S4主体土、S1・2微量 (221号)
4. にぶい黄橙色土層 S1ブロック含む (223号)
5. 黒色土層 A-1 粘質土と黒色土の互層 (223号)
6. 黒褐色土層 C-2 S1-60%、S2-20%、S3-10%、S4-40% (223号)
7. 灰黄褐色土層 C-2 S1-60%、S2微量、S3-20%、S4-20%、S5微量 (223号)
8. 褐灰色土層 C-2 S1-20%、S2-20%、S3-20%、S4-30%、S5-10% (223号)
9. 黒褐色土層 B-1 粘質ブロック少量含む (224・225号)
10. 黒褐色土層 B-2 S1ブロック少量含む (224・225号)
11. 灰黄褐色土層 C-2 S1主体土 (224・225号)
12. 褐灰色土層 粘質土、2層同じ (224・225号)
13. // C-1 S1-50%、S2-20%、S3-30% (224・225号)
14. // C-1 S1-30%、S2-20%、S3-10%、S4-20%、S5-10% (224・225号)
15. にぶい黄橙色土層 C-2 S1-70%、S2-10%、S3少量、S4-20%、S5微量 (224・225号)
16. 黒褐色土層 C-2 S1-10%、S2-20%、S3-10%、S4-50%、S5-10% (224・225号)
17. 灰黄褐色土層 S1と1層の混土 (224・225号)

D139号土坑

1. 黒褐色土層
2. // 砂質土
3. 褐灰色土層 C-1 S1-60%、S2-30%、S3-10%
4. 黒褐色土層 B-1 S1少量含む
5. 褐灰色土層 C-2 S1-20%、S2-30%、S3-20%、S4-30%



第194図 D区土坑(18)

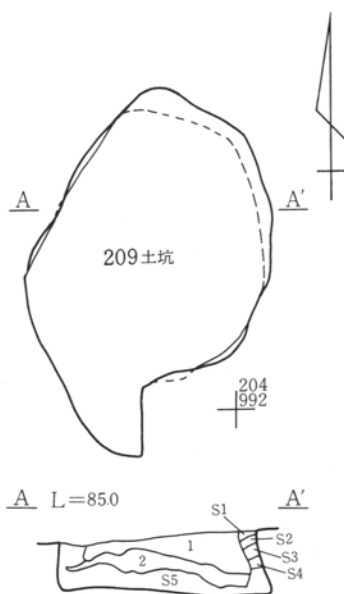


第195图 D区土坑(19)

第3章 検出された遺構と遺物

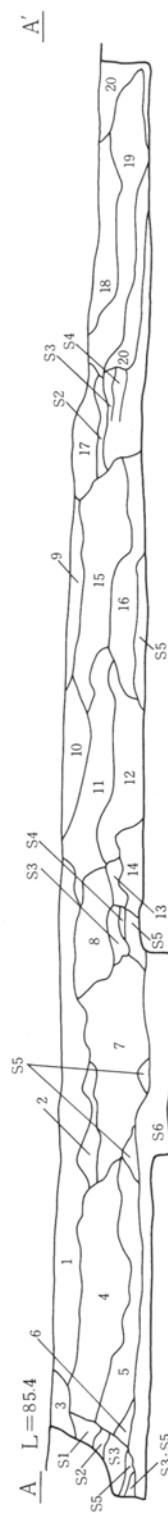
D252・253・258・259・260・262号土坑

1. 黒褐色土層 A-2 S1含む
2. // A-1 S1ブロック少量含む
3. // A-1 白色パミス多量含む
4. 灰黄褐色土層 B-3 S1-60%、S2-20%、S3-20%、S4-10%
5. // C-2 S1-50%、S2-20%、S3-20%、S4-15%、S5-5%
6. 黒褐色土層 C-2 S3-20%、S4少量、S5-80%
7. 灰黄褐色土層 C-2 S1-60%、S2-20%、S3-20%、S4-10%、S5少量
8. // B-3 S1と黒色土と粘質土の互層
9. // A-1 3層よりS1ブロック多い
10. にぶい黄橙色土層 C-1 S1主体土
11. // C-1 S1-60%、S2-20%、S3-20%
12. 黒褐色土層 B-2 S1-30%、S2-20%、S3-30%、S4-20%
13. 灰黄褐色土層 B-2 S1-20%、S2-30%、S3-10%、S4-40%、S5少量
14. // C-2 S1-40%、S2-30%、S3-10%、S4-20%、S5微量
15. 黒褐色土層 A-2 S1主体土
16. 灰黄褐色土層 C-2 S1-40%、S2-20%、S3-20%、S4-20%、S5少量
17. // C-2 S1多量
18. にぶい黄橙色土層 C-2 S1-80%、S2-10%、S3-10%
19. 灰黄褐色土層 C-1 S1-60%、S2-10%、S3-20%、S4-10%、S5少量
20. 黒褐色土層 B-2 S1-40%、S2-20%、S3-30%、S4-10%、S5少量

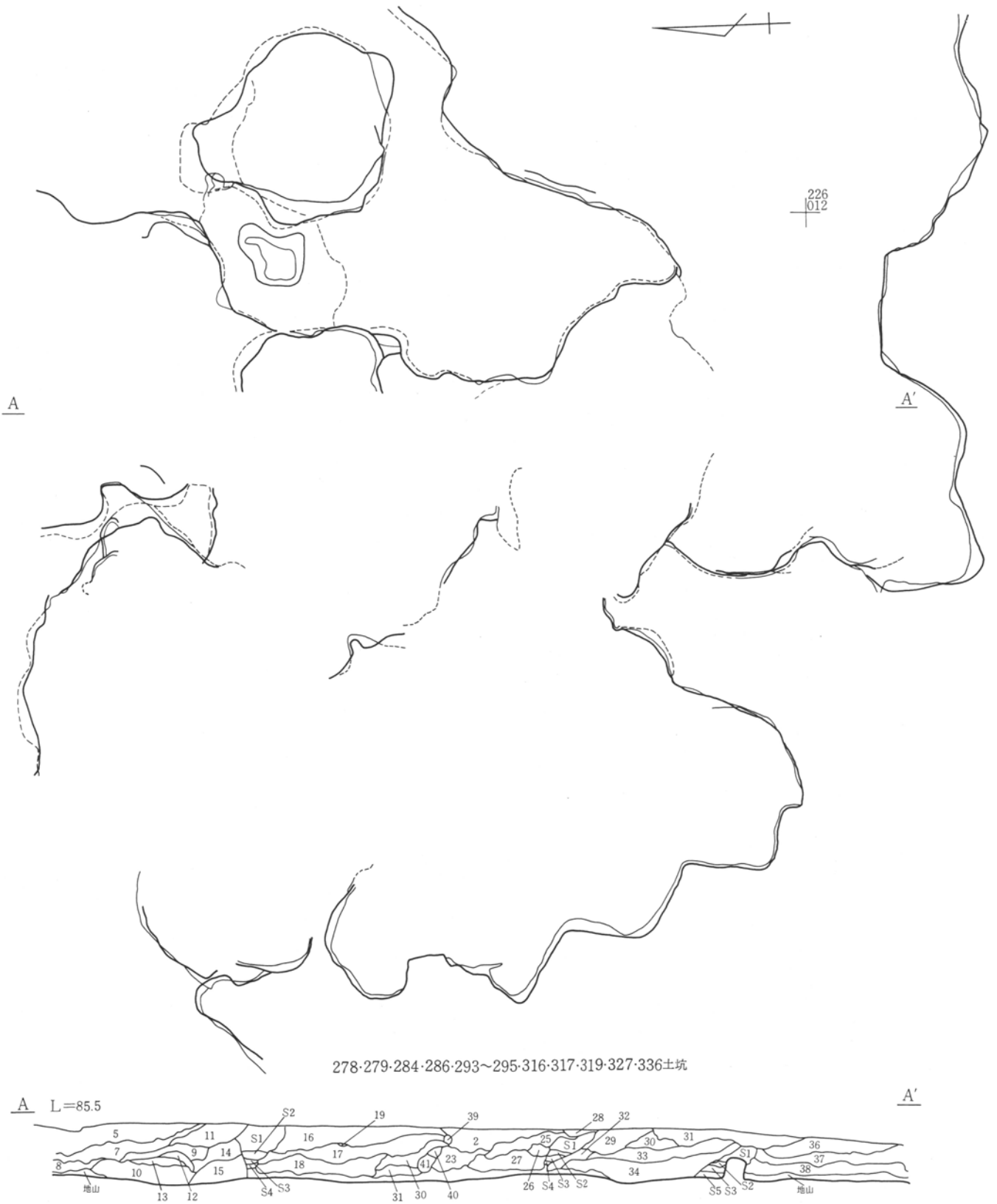


D209号土坑

1. 黒褐色土層 A-2 S1と黒色土の互層
2. 褐灰色土層 C-2 S3-30%、S4-30%、S5-40%



第196図 D区土坑(20)

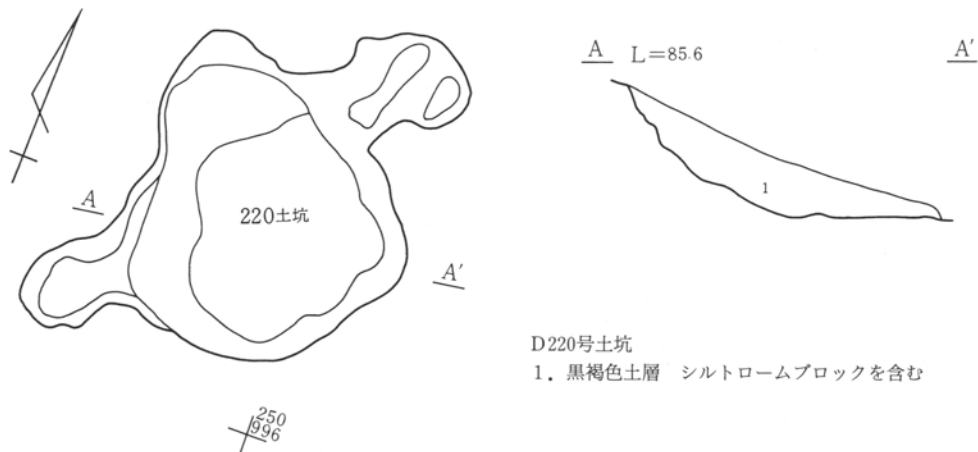


第197图 D区土坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物

D278・279・284・286・293~295・316・317・319・327・336号土坑

2. 灰黄褐色土層 C-1 S1-30%、S2-10%、S3-30%、S4-20%、S5-10%
5. // B-1 S1-60%、S2-20%、S3-20%
7. 灰黄褐色土層 B-3 S1-30%、S2少量、S3-50%、S4-20%、S5少量
8. // C-1 S1-40%、S2-20%、S3-30%、S4-10%、S5少量
9. 黒褐色土層 A-1 S1少量含む
10. 褐灰色土層 C-2 S1-40%、S2-10%、S3-30%、S4-20%、S5少量
11. にぶい黄橙色土層 C-1 S1-60%、S2-20%、S3-20%
12. 灰黄褐色土層 C-1 S1-40%、S2-20%、S3-20%、S4-20%、S5少量
13. 黒色土層 A-1 S1少量含む
14. 黒褐色土層 B-2 S1-40%、S2-30%、S3-20%、S4-10%
15. 褐灰色土層 C-1 S1-30%、S2-20%、S3-10%、S4-20%、S5-20%
16. // B-2 S1-70%、S2-10%、S3-20%
17. 黒褐色土層 A-2 S1-80%、S2-10%、S3-10%
18. 灰黄褐色土層 C-2 S1-30%、S2-20%、S3-40%、S4-10%、S5少量
19. 褐灰色土層 C-2 S1-40%、S2-20%、S3-30%、S4-10%、S5少量
23. // B-2 S1-60%、S2-40%
25. 灰黄褐色土層 C-2 S1-40%、S2-20%、S3-20%、S4-20%
26. // C-1 S1-40%、S2-20%、S3-20%、S4-20%
27. // C-2 S1-30%、S2-20%、S3-20%、S4-30%、S5少量
28. 黒褐色土層 A-1 S1少量含む
29. 灰黄褐色土層 C-1 S1主体土
30. // C-2 S1-20%、S2少量、S3-50%、S4-20%、S5-10%
31. // C-2 S1-30%、S2-10%、S3-20%、S4-30%、S5-10%
32. // C-2 S1-60%、S2-20%、S3-10%、S4-10%
33. 黒褐色土層 A-2 S1-60%
34. 灰黄褐色土層 C-2 S1-20%、S2-10%、S3-50%、S4-20%、S5少量
36. 灰黄褐色土層 C-1 S1-80%、S2-20%
37. 黒褐色土層 B-3 S1-50%、S2-30%、S4-20%、S5少量
38. 灰黄褐色土層 C-2 S1-30%、S2-10%、S3-70%、S4-20%、S5少量
39. 黒褐色土層 B-3 S1主体土
40. 褐灰色土層 C-2 S3・4混土
41. 黒褐色土層 C-2 S4・5混土



第198図 D区土坑(2)



265·266·268·271·273土坑

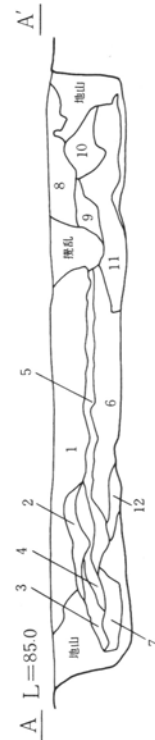
B L=85.3

第199图 D区土坑(23)

第3章 検出された遺構と遺物

D265・266・268・271・273号土坑

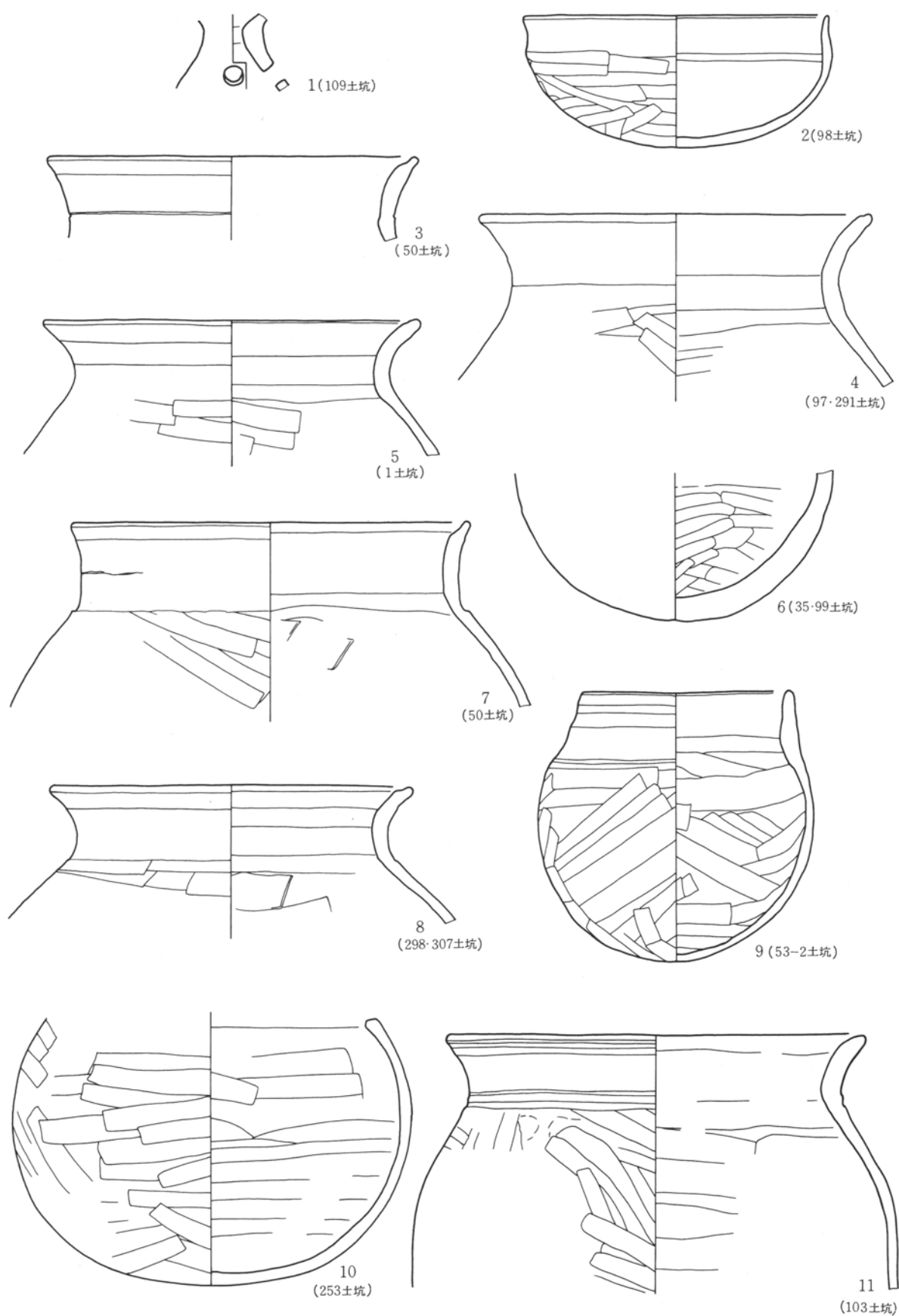
1. 暗褐色土層 A-1 S1微量含む (274号)
2. 黒褐色土層 C-1 S1少量含む (265号)
3. 灰黄褐色土層 C-1 S1-40%、S2-20%、S3-30%、S4-10%、S5微量 (265号)
4. 褐灰色土層 C-2 S1-30%、S2-10%、S3-40%、S4-20%、S5少量 (265号)
5. 灰黄褐色土層 C-2 S3・4混土 (266号)
6. 褐灰色土層 C-2 S4・5混土 (266号)
7. // C-2 S1-30%、S2-20%、S3-30%、S4-20%、S5微量 (266号)
8. 黒色土層 A-1 S3・4微量含む (266号)
9. 灰黄褐色土層 C-2 S3・4・5混土
10. 黒褐色土層 1層とS1混土 (274号)
11. // 10層より1層を多く含む (274号)
12. 灰黄褐色土層 B-3 S1-30%、S2-10%、S3-30%、1層30% (268号)
13. 黒褐色土層 A-2 S1主体層 (271号)
14. 灰黄褐色土層 C-2 S1-50%、S2-10%、S3-30%、S4-10%、S5微量 (271号)
15. 褐灰色土層 C-2 S1-40%、S2-10%、S3-50%、S4-10%、S5微量 (271号)
16. にぶい黄橙色土層 C-1 S1ブロック (273号)
17. 黒褐色土層 A-2 S1少量含む (273号)
18. 褐灰色土層 C-2 S1-30%、S2-10%、S3-30%、S4-30% (273号)
19. 黒褐色土層 粘質土
20. // 粘質土層 白色パミス多量に含む (273号)
21. // 粘質土層 S5を少量含む (273号)



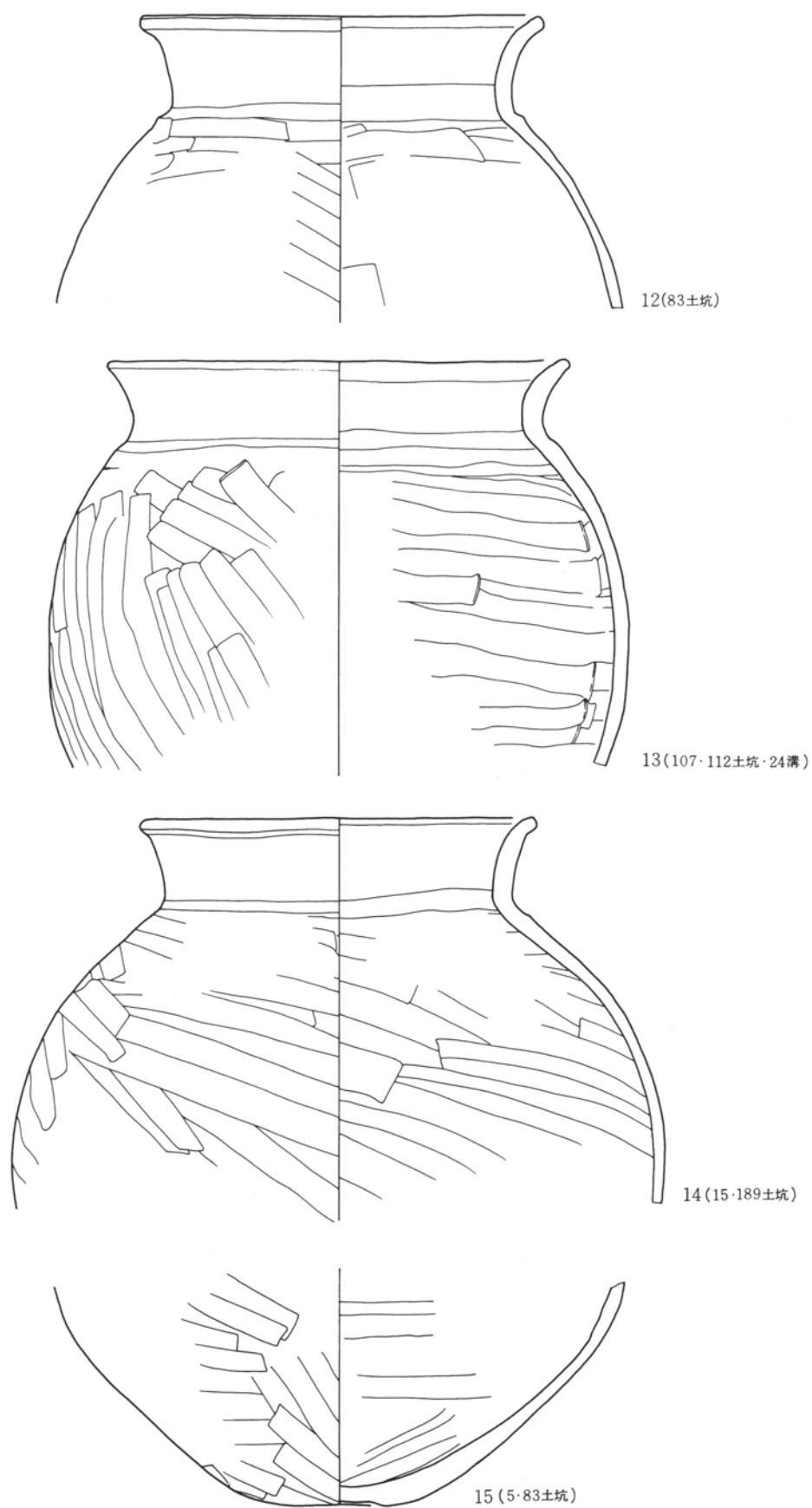
D206・207号土坑

1. 黒色土層 A-2 S1含む
2. 黒褐色土層 A-1
3. 灰黄褐色土層 C-1 S1-30%、S3-60%、S4-10%
4. // B-3 S1-20%、S3-70%、S4-10%
5. 褐灰色土層 A-1 S1微量含む
6. // C-2 S1-20%、S2-10%、S3-50%、S4-10%、S5-10%
7. // C-2 S1-20%、S2-10%、S3-30%、S4-30%、S5-10%
8. 黒色土層 A-1 S1微量含む
9. 褐灰色土層 C-1 S1-20%、S3-70%、S4-10%、S5微量
10. // B-2 黒色土・砂質土・S1ブロックの互層
11. // C-2 S1-30%、S2少量、S3-40%、S4-20%、S5-10%
12. 灰黄褐色土層 C-2 S1-30%、S2-10%、S3-30%、S4-20%、S5-10%

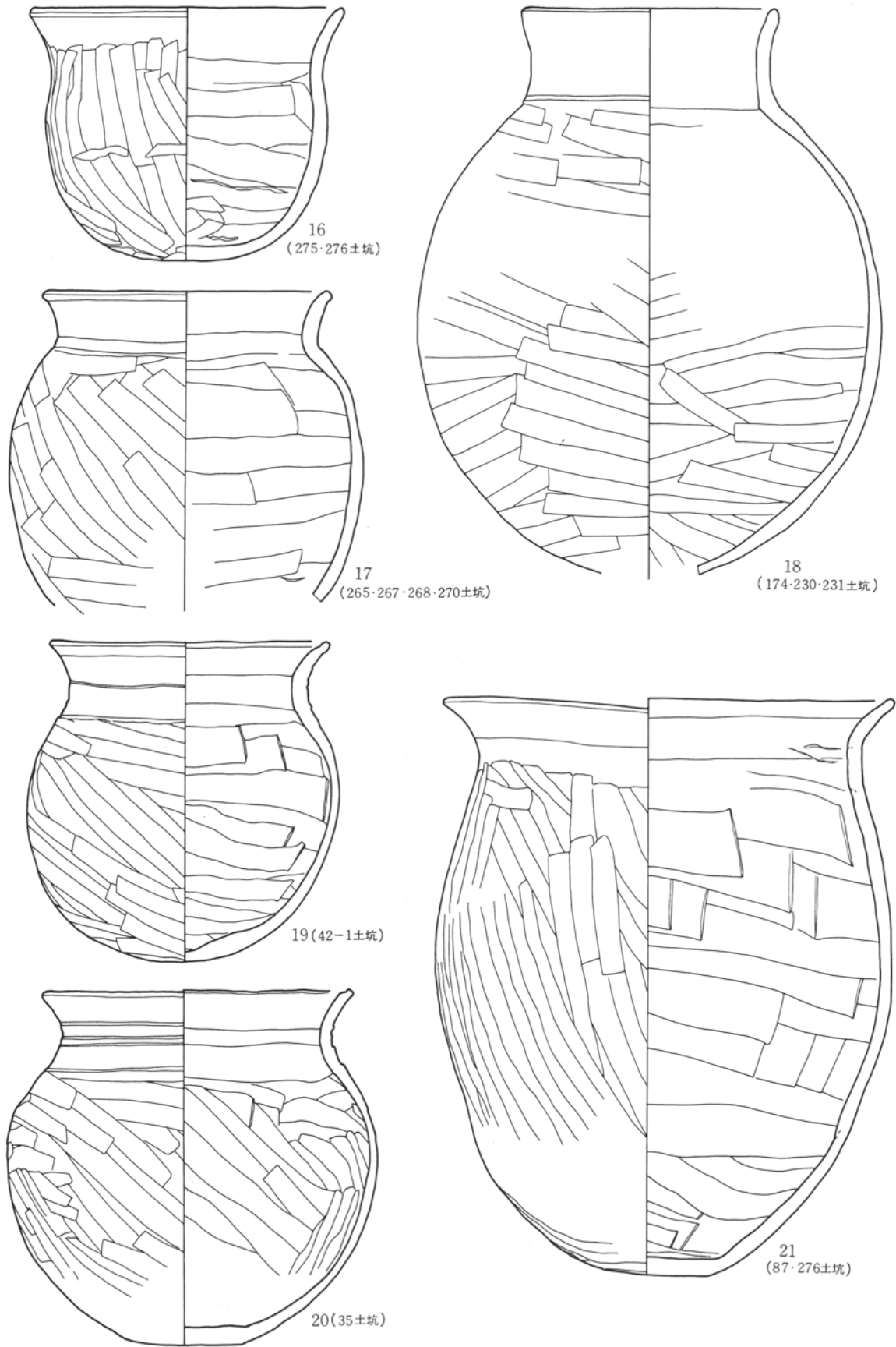
第200図 D区土坑(2)



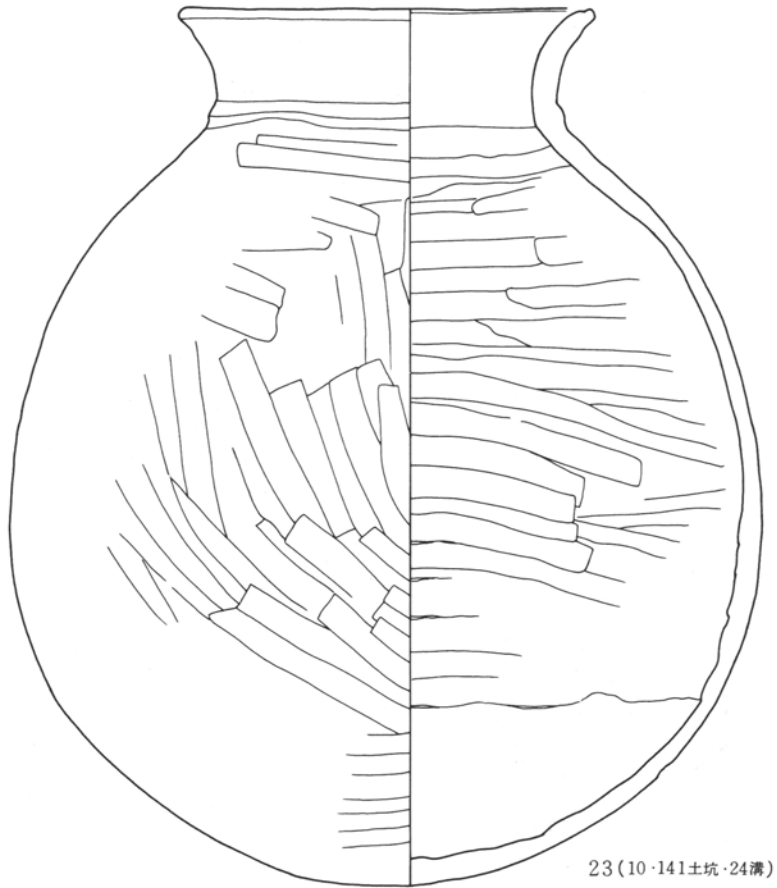
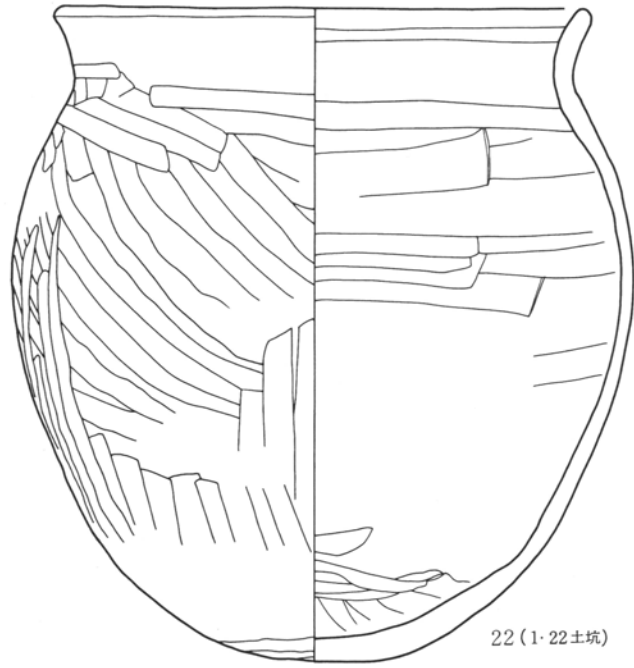
第201图 D区土坑出土遺物(1)



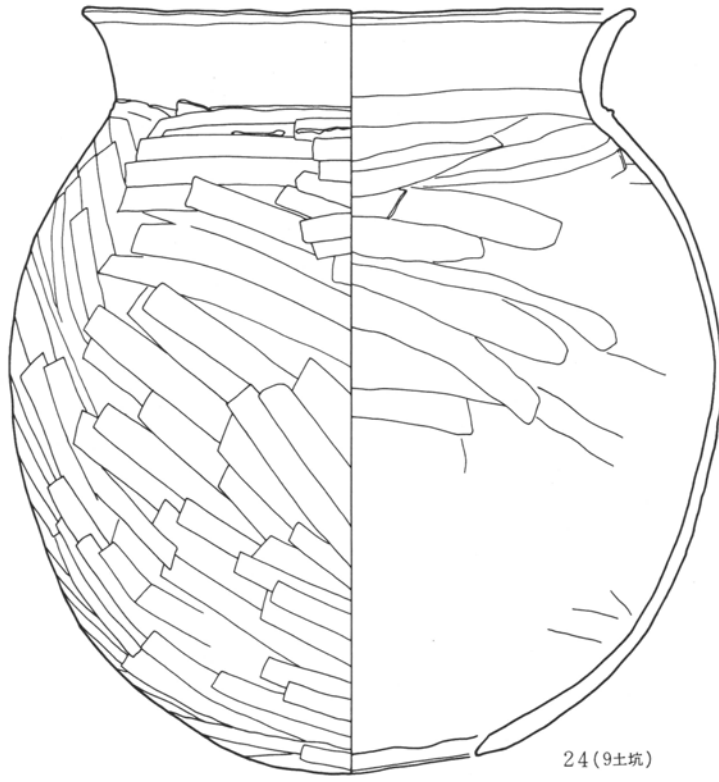
第202図 D区土坑出土遺物(2)



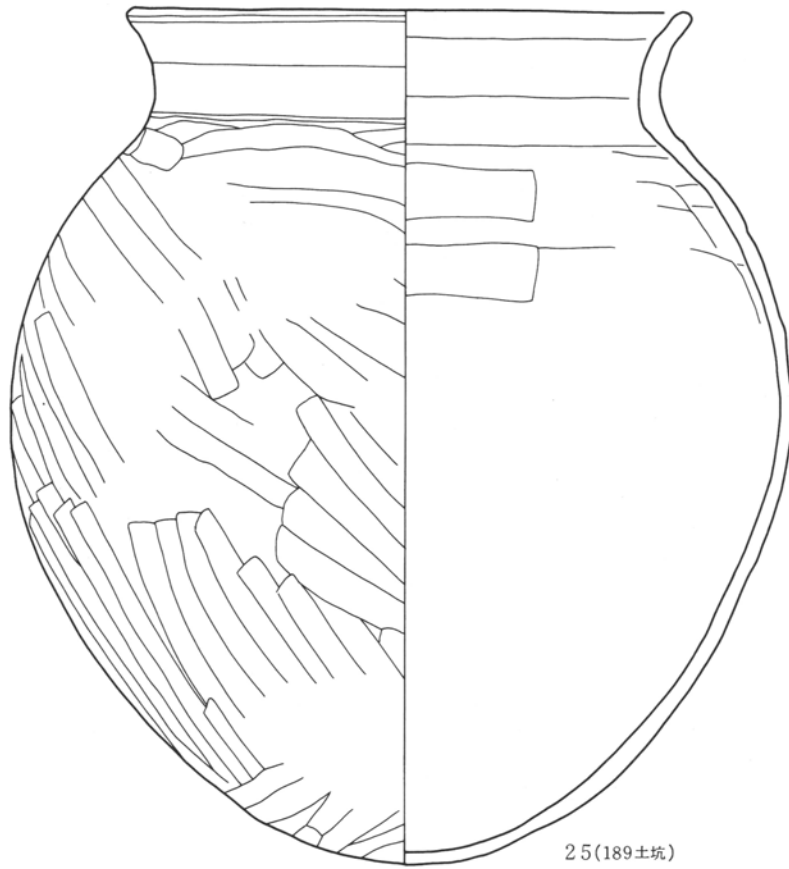
第203図 D区土坑出土遺物(3)



第204図 D区土坑出土遺物(4)



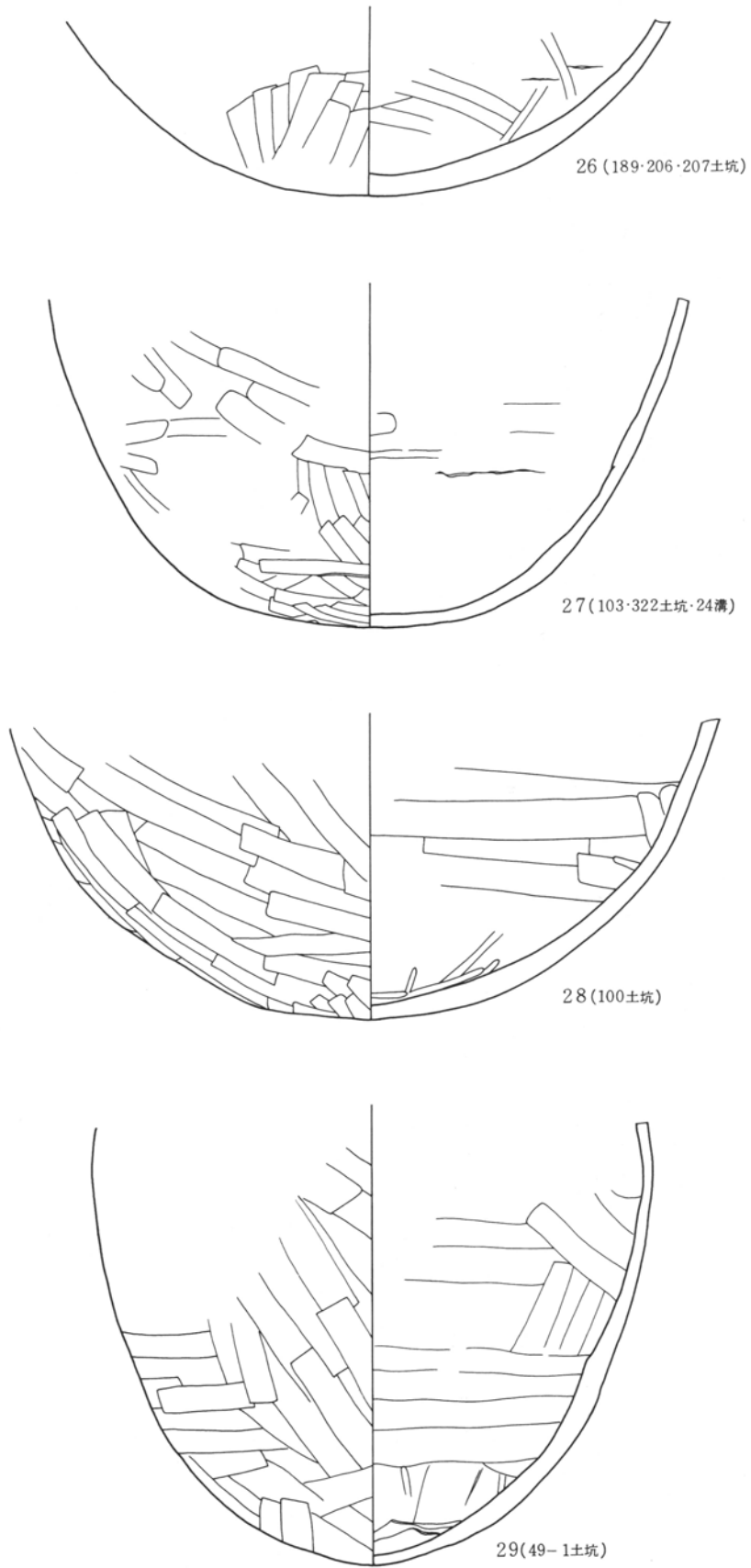
24(9土坑)



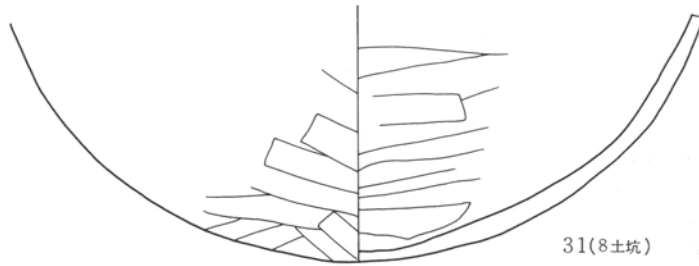
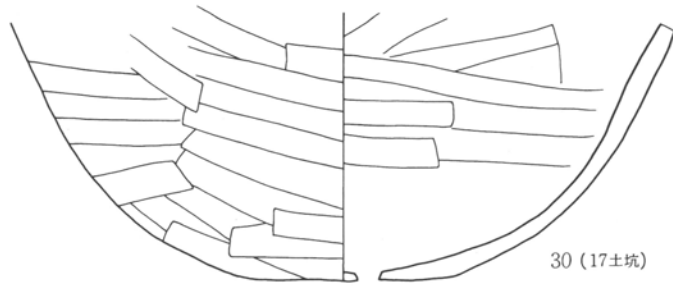
25(189土坑)

第205图 D区土坑出土遗物(5)

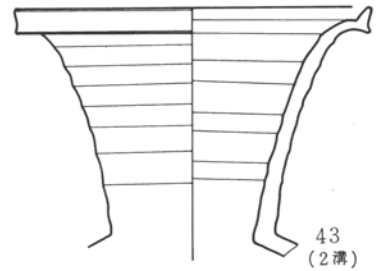
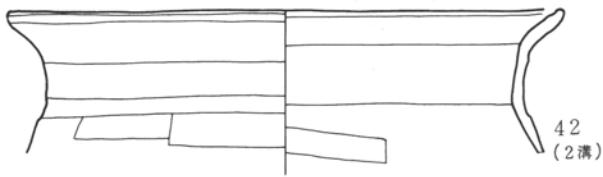
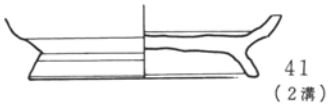
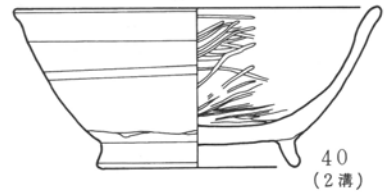
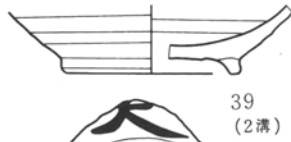
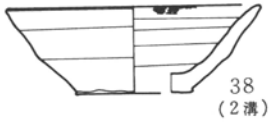
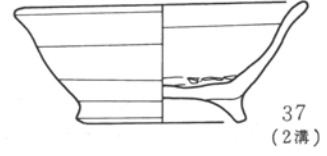
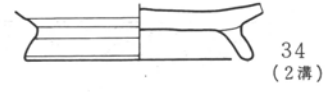
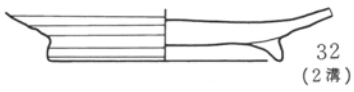
第3章 検出された遺構と遺物



第206図 D区土坑出土遺物(6)

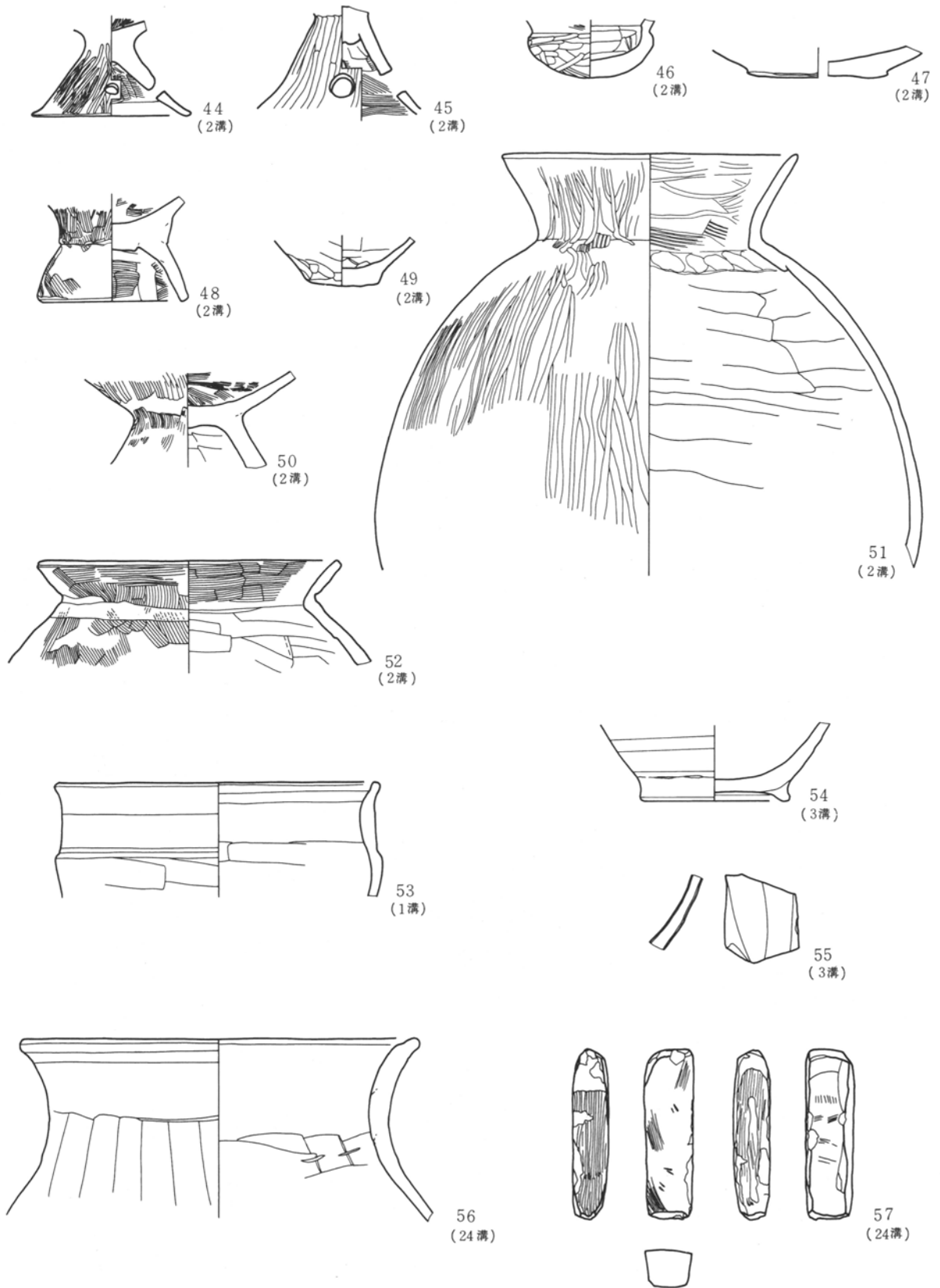


第207图 D区土坑出土遺物(7)

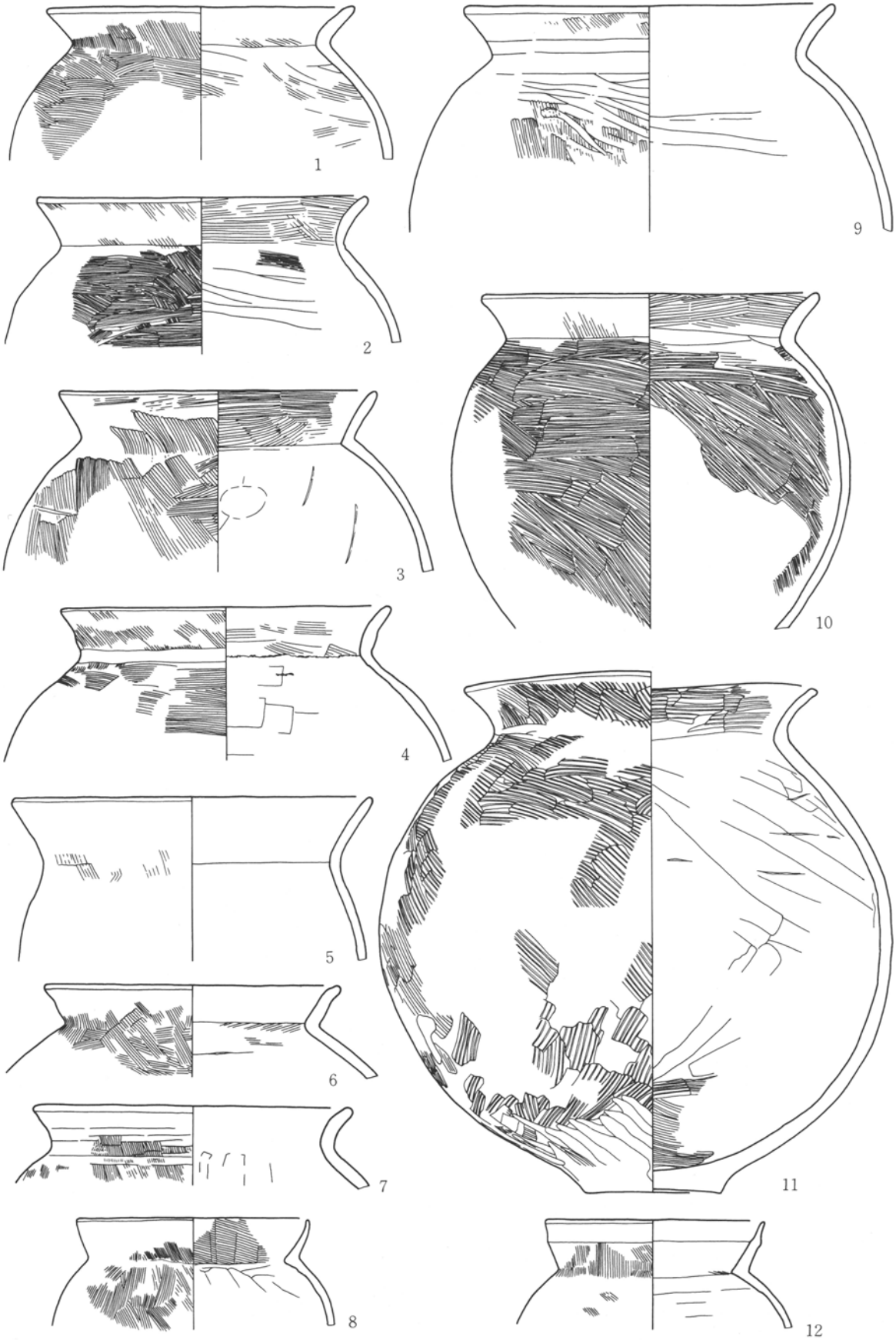


第208图 D区溝出土遺物(1)

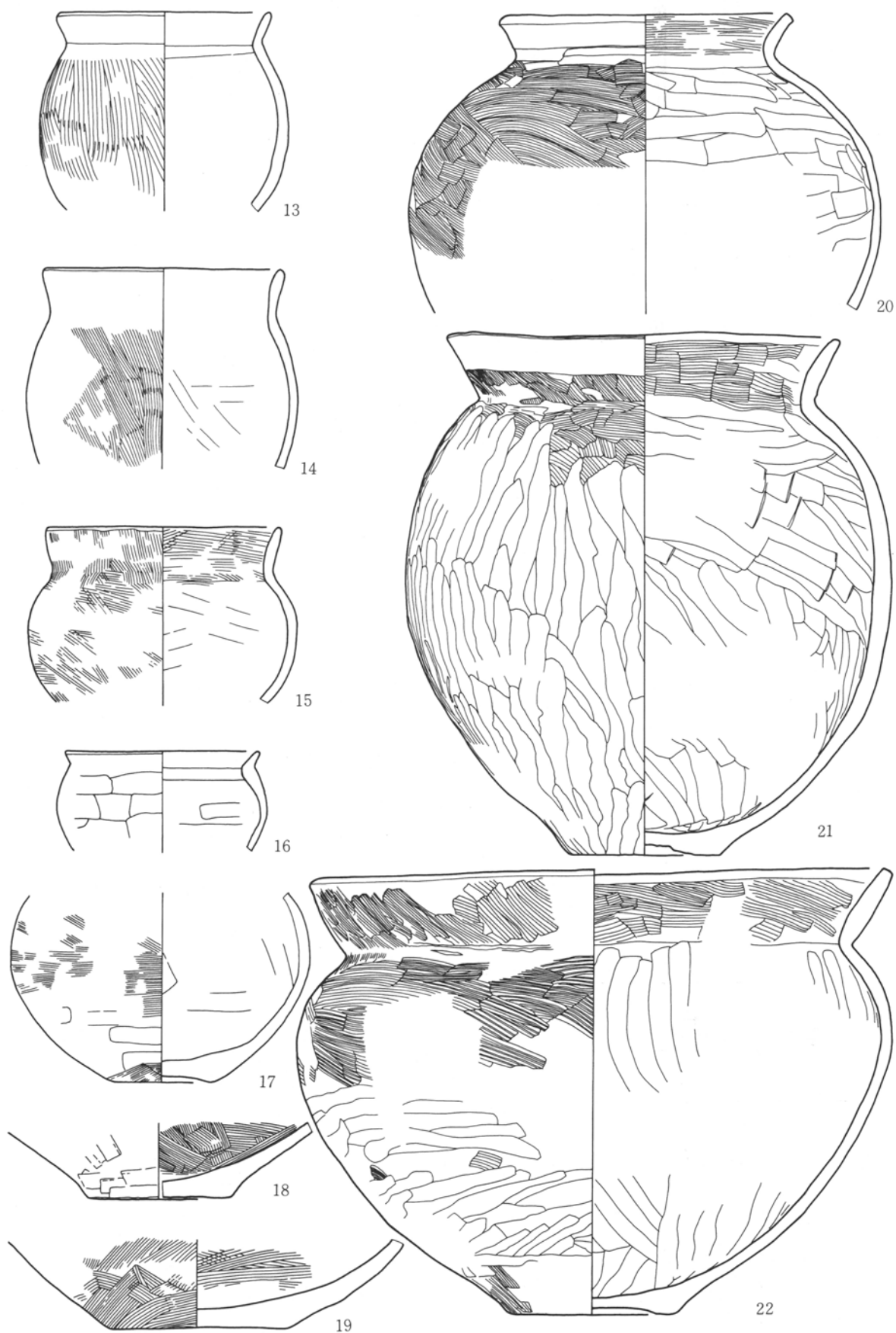
第3章 検出された遺構と遺物



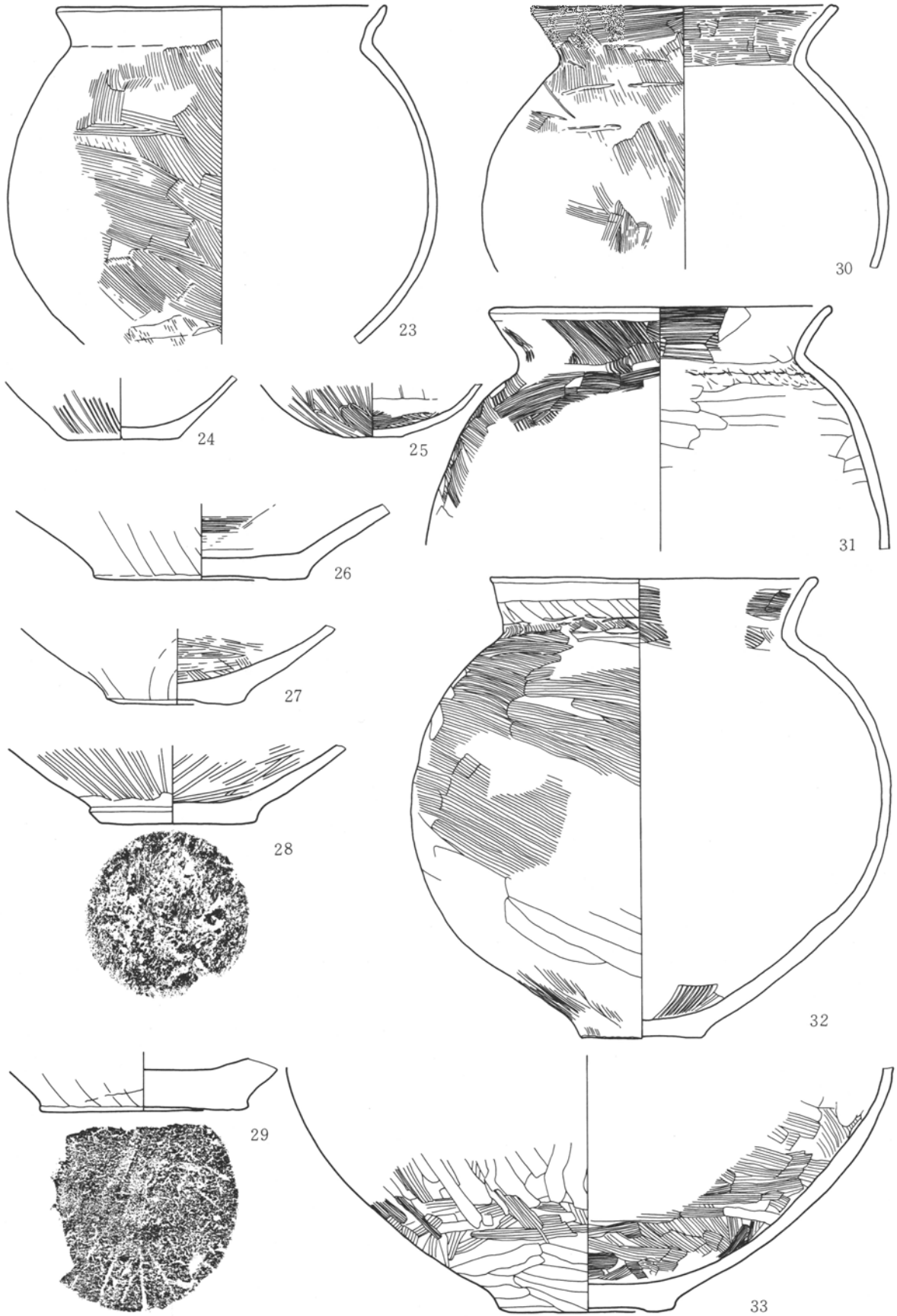
第209図 D区溝出土遺物(2)



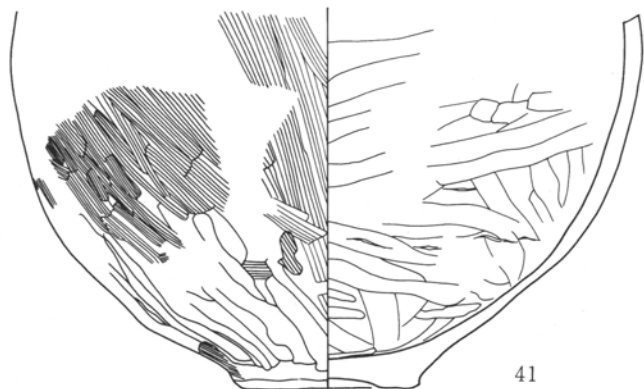
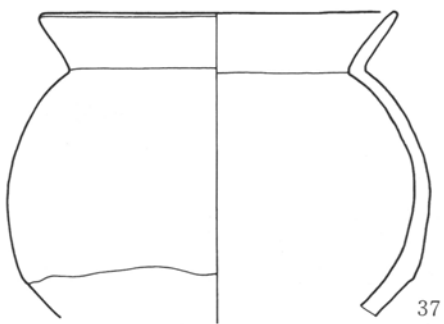
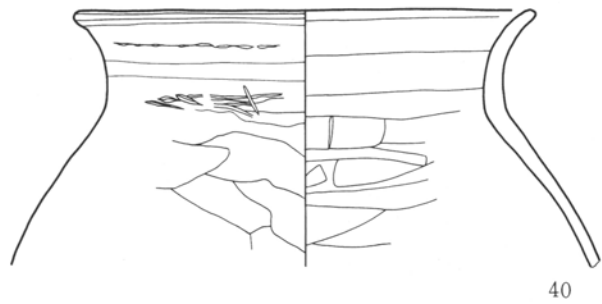
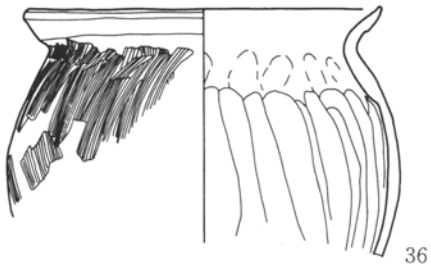
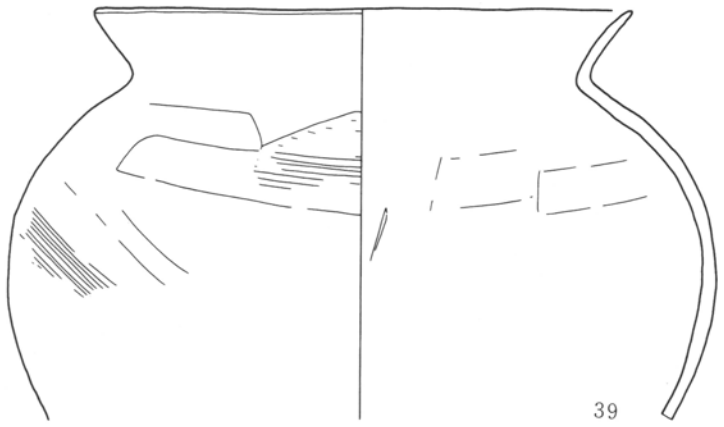
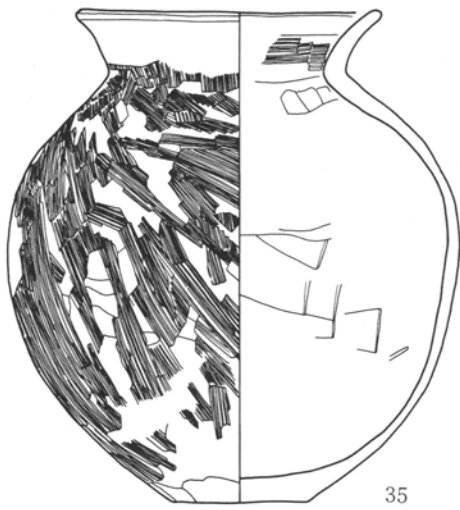
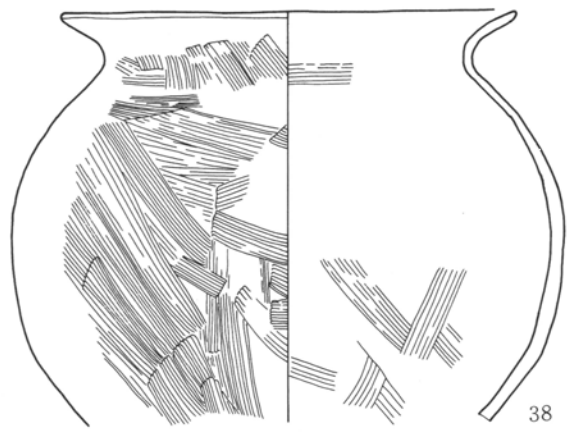
第210图 D区b河道出土遗物(1)



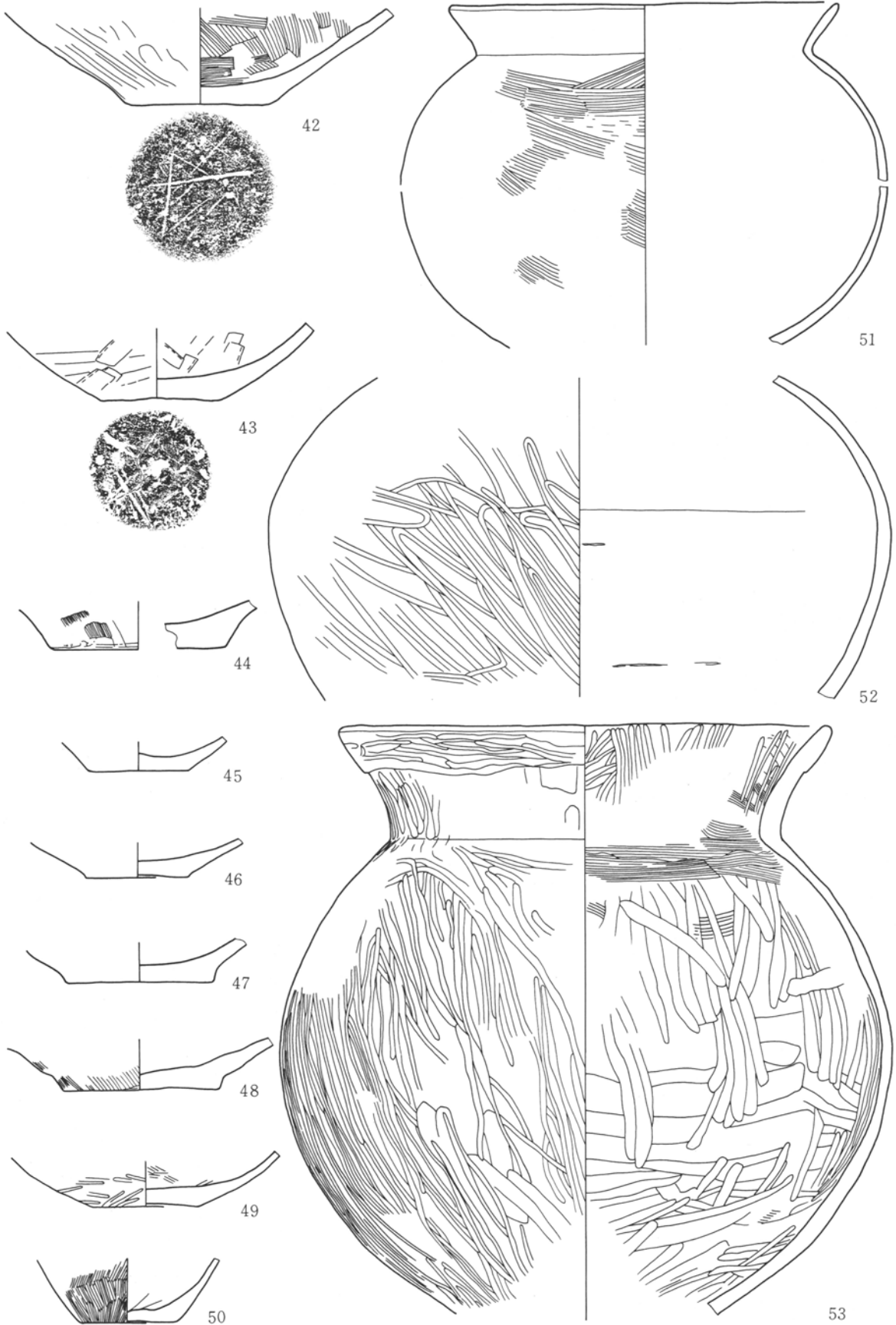
第211図 D区b河道出土遺物(2)



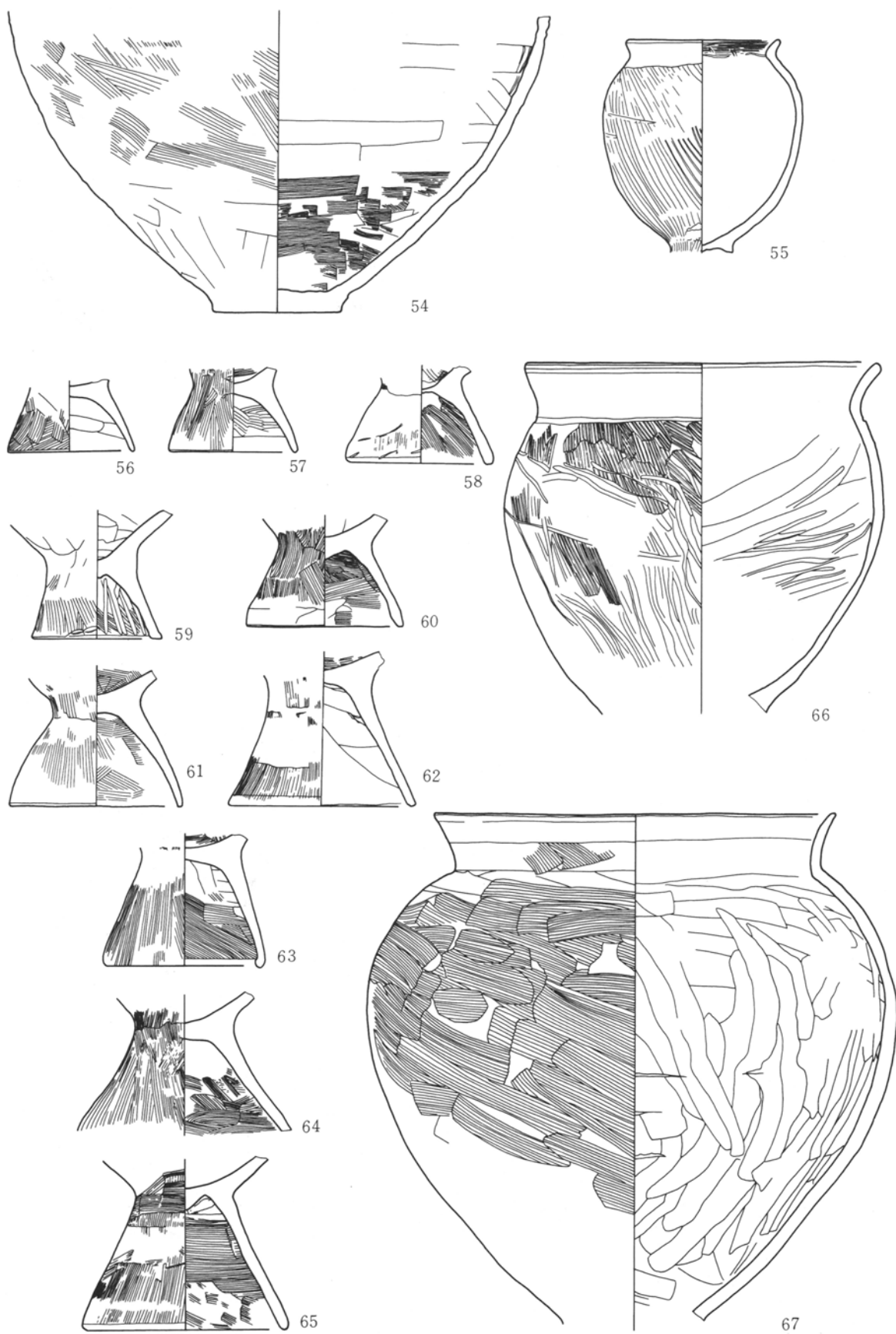
第212図 D区b河道出土遺物(3)



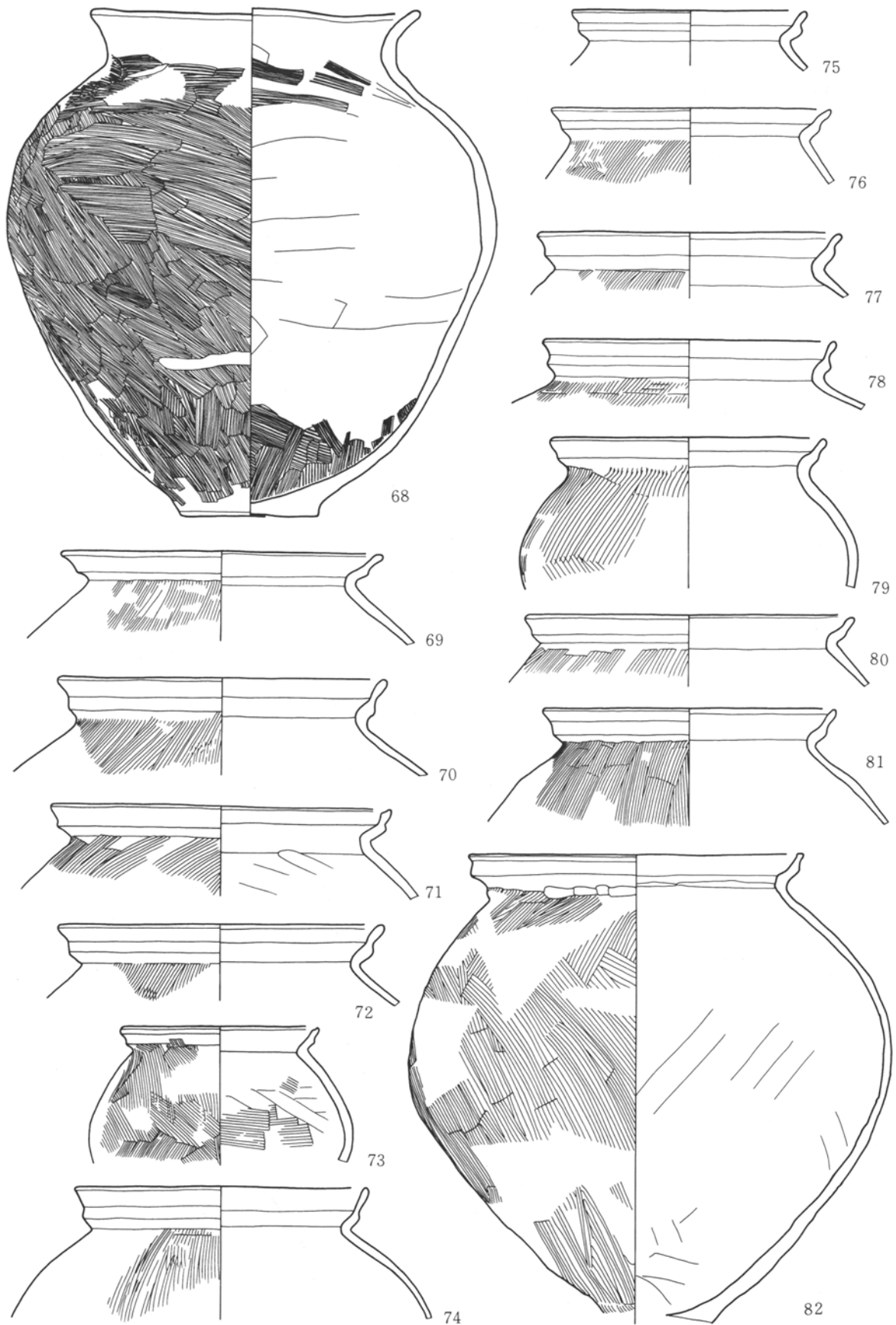
第213図 D区b河道出土遺物(4)



第214图 D区b河道出土遗物(5)

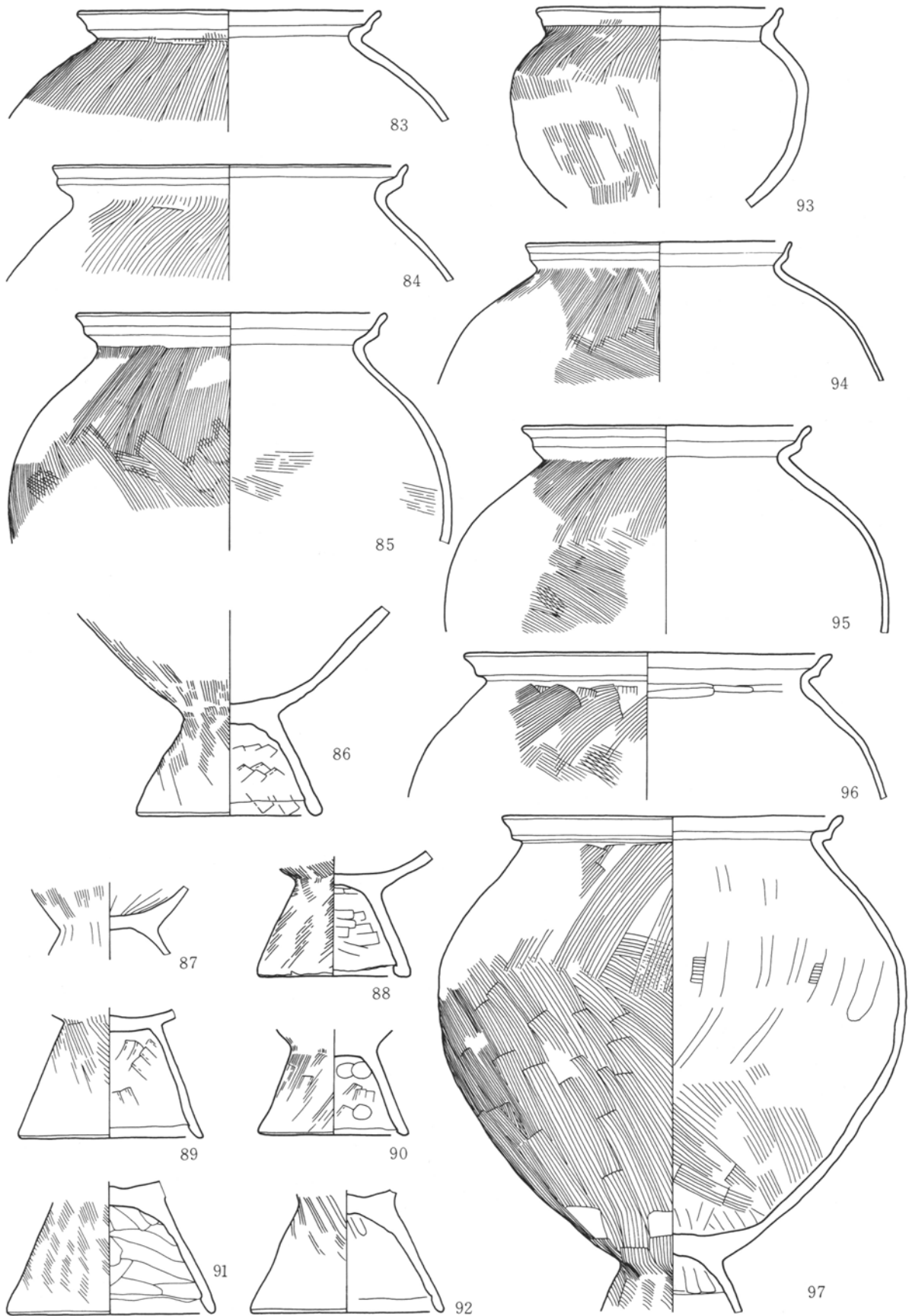


第215図 D区b河道出土遺物(6)

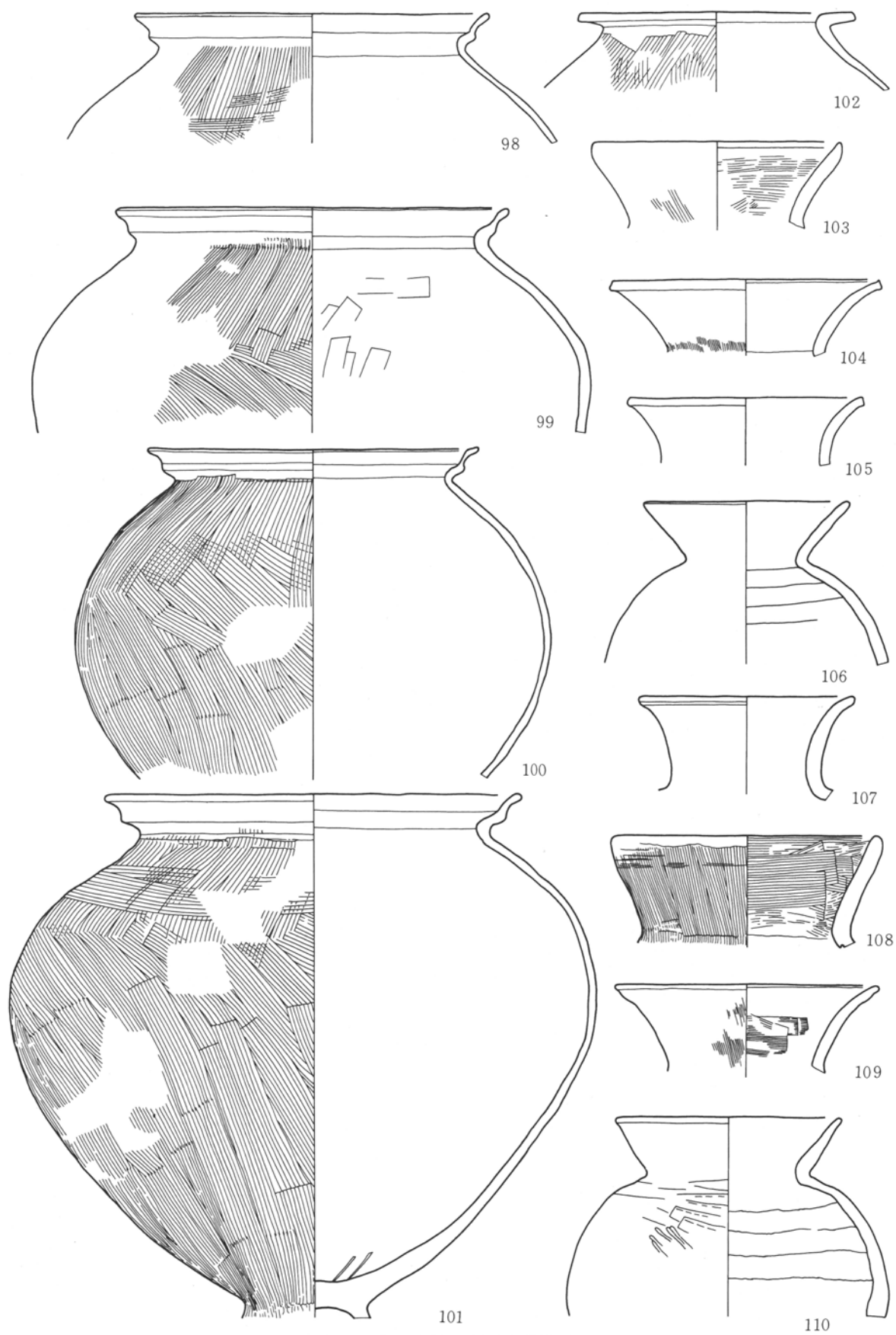


第216图 D区b河道出土遗物(7)

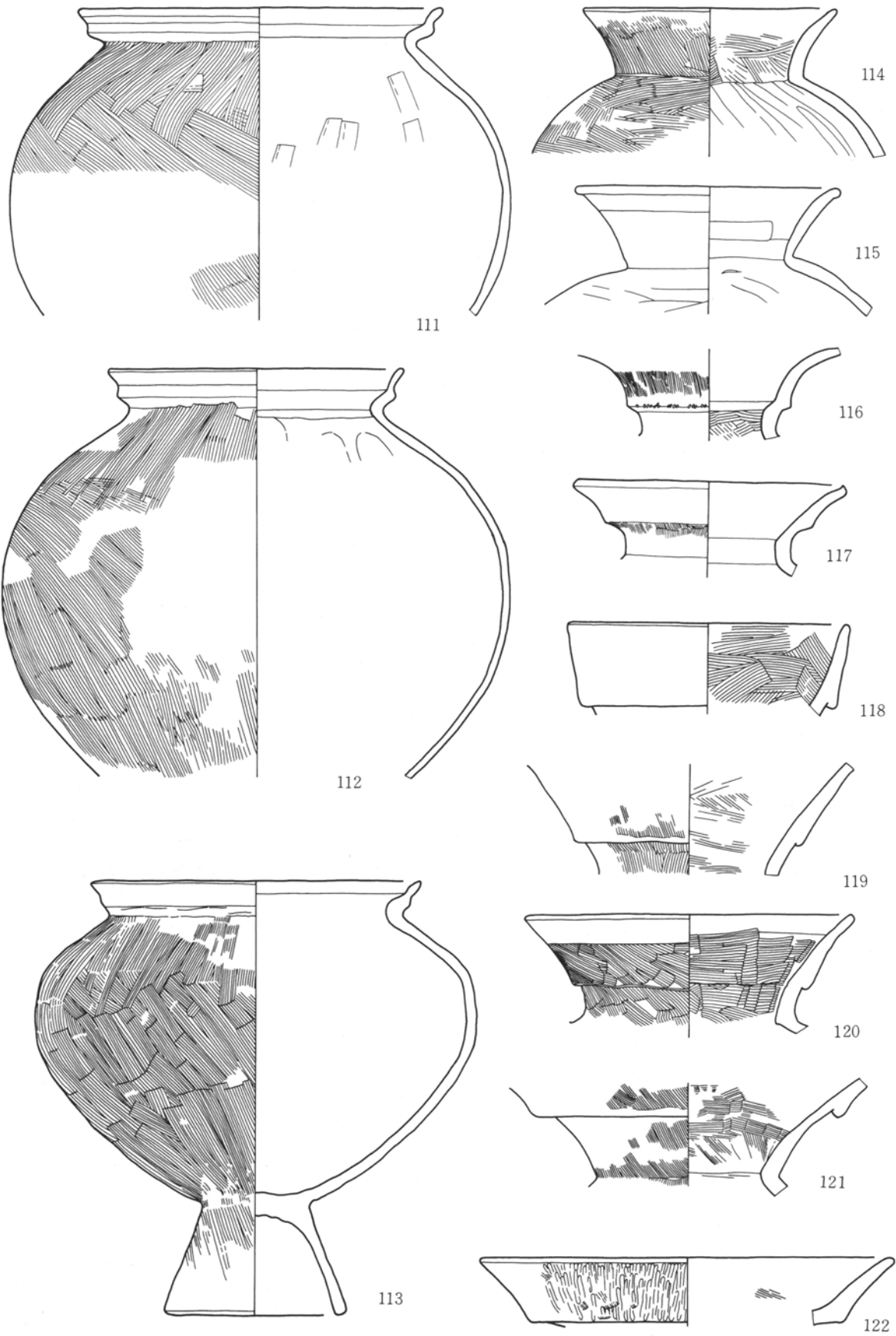
第3章 検出された遺構と遺物



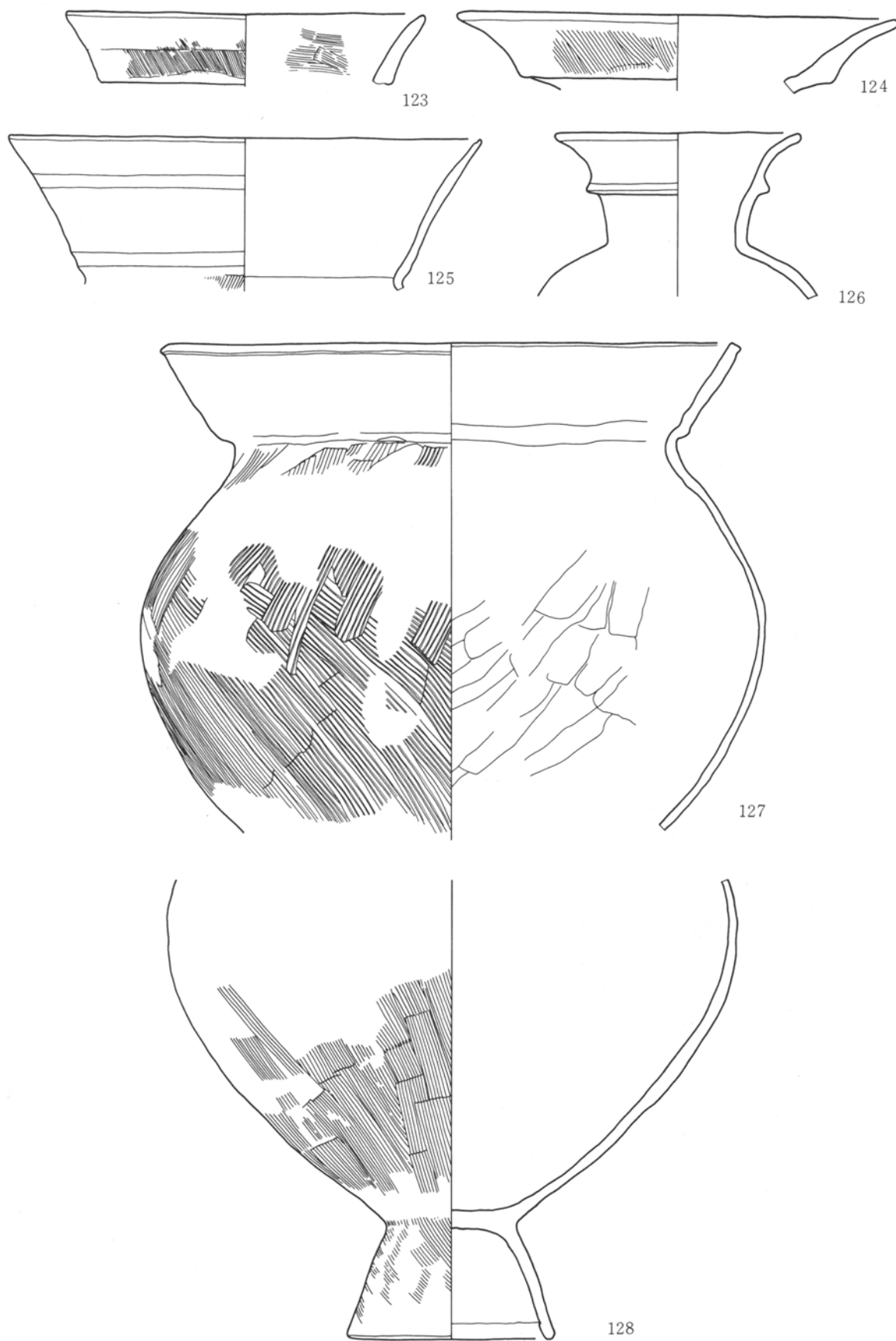
第217図 D区b河道出土遺物(8)



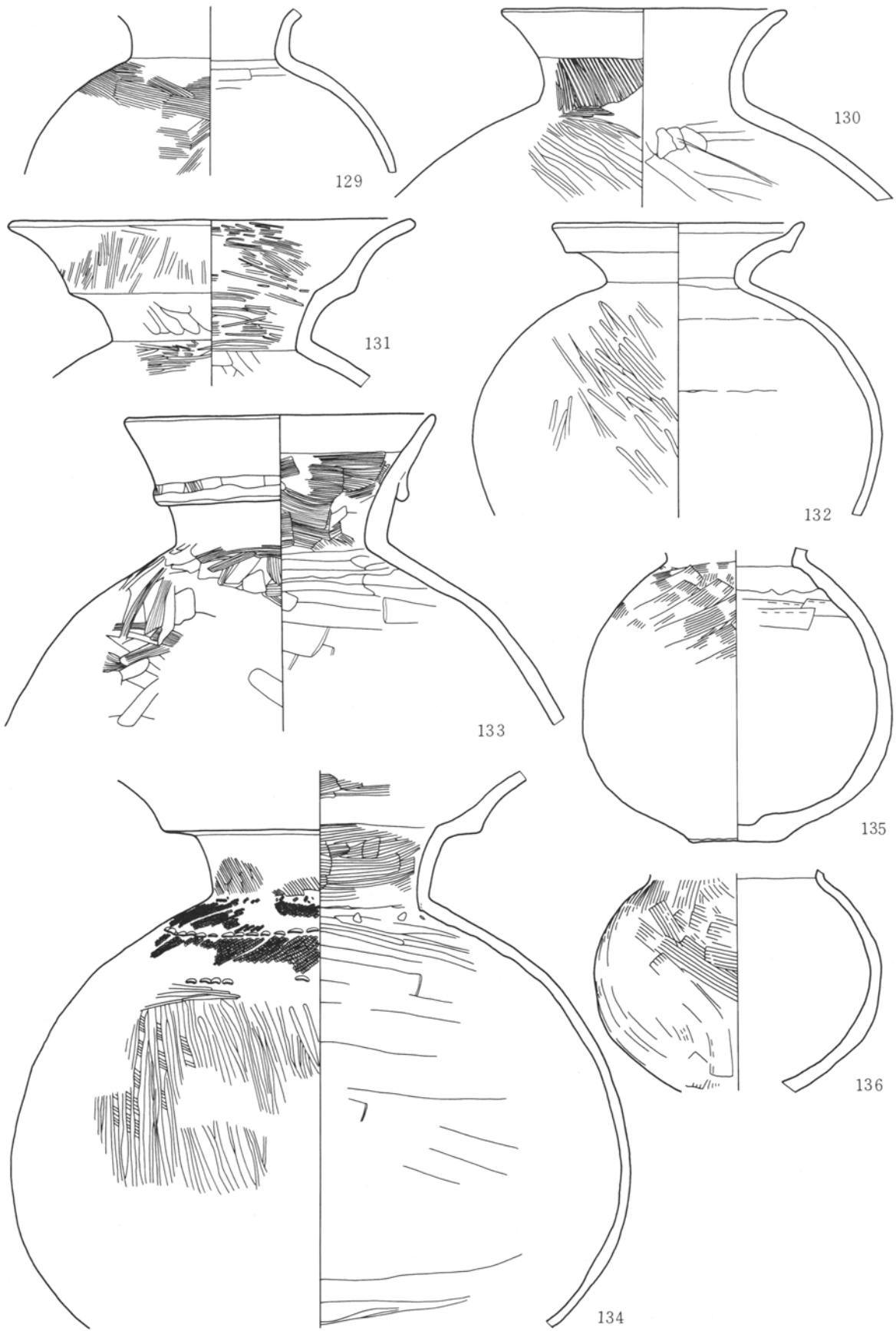
第218图 D区b河道出土遗物(9)



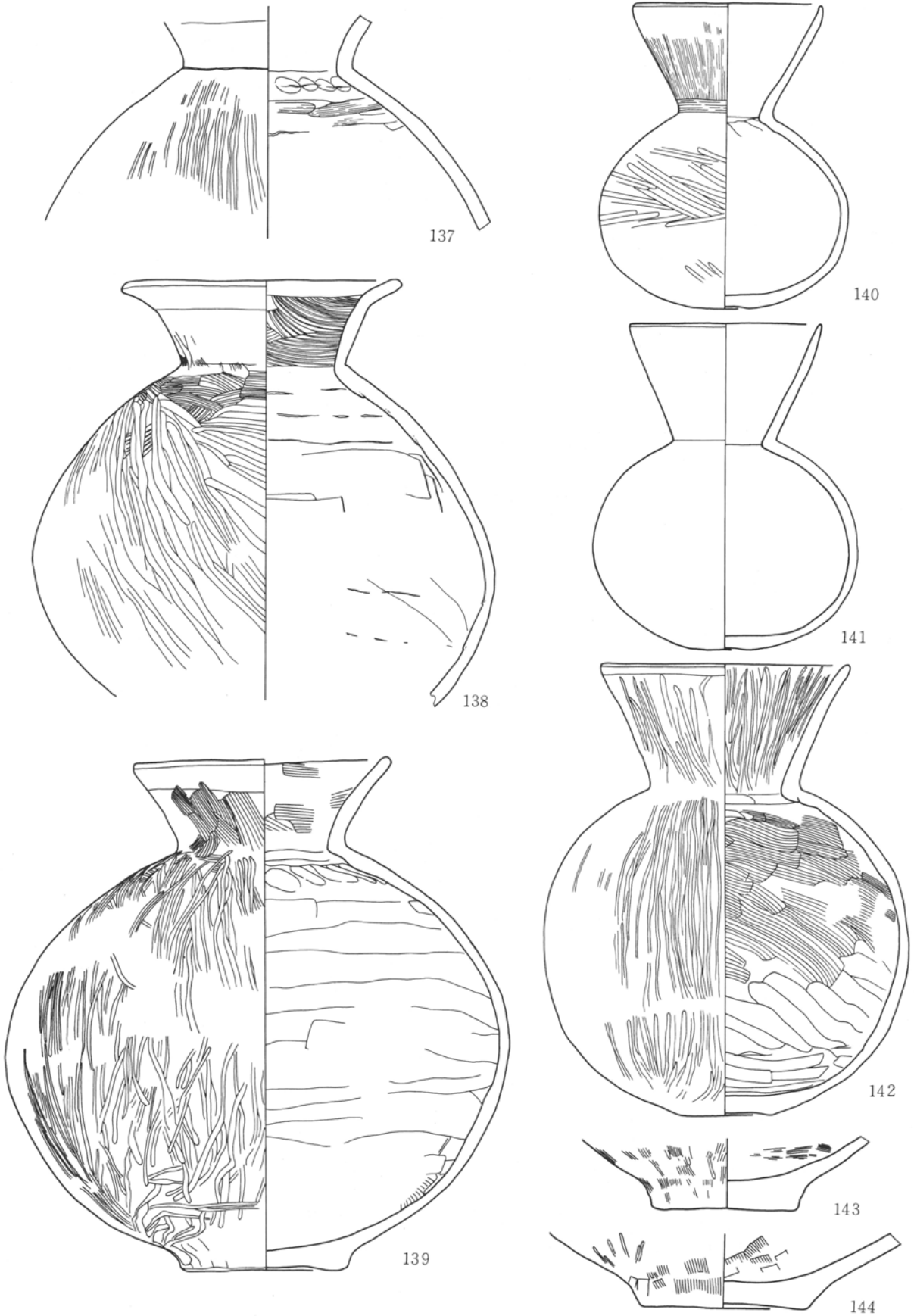
第219図 D区b河道出土遺物(0)



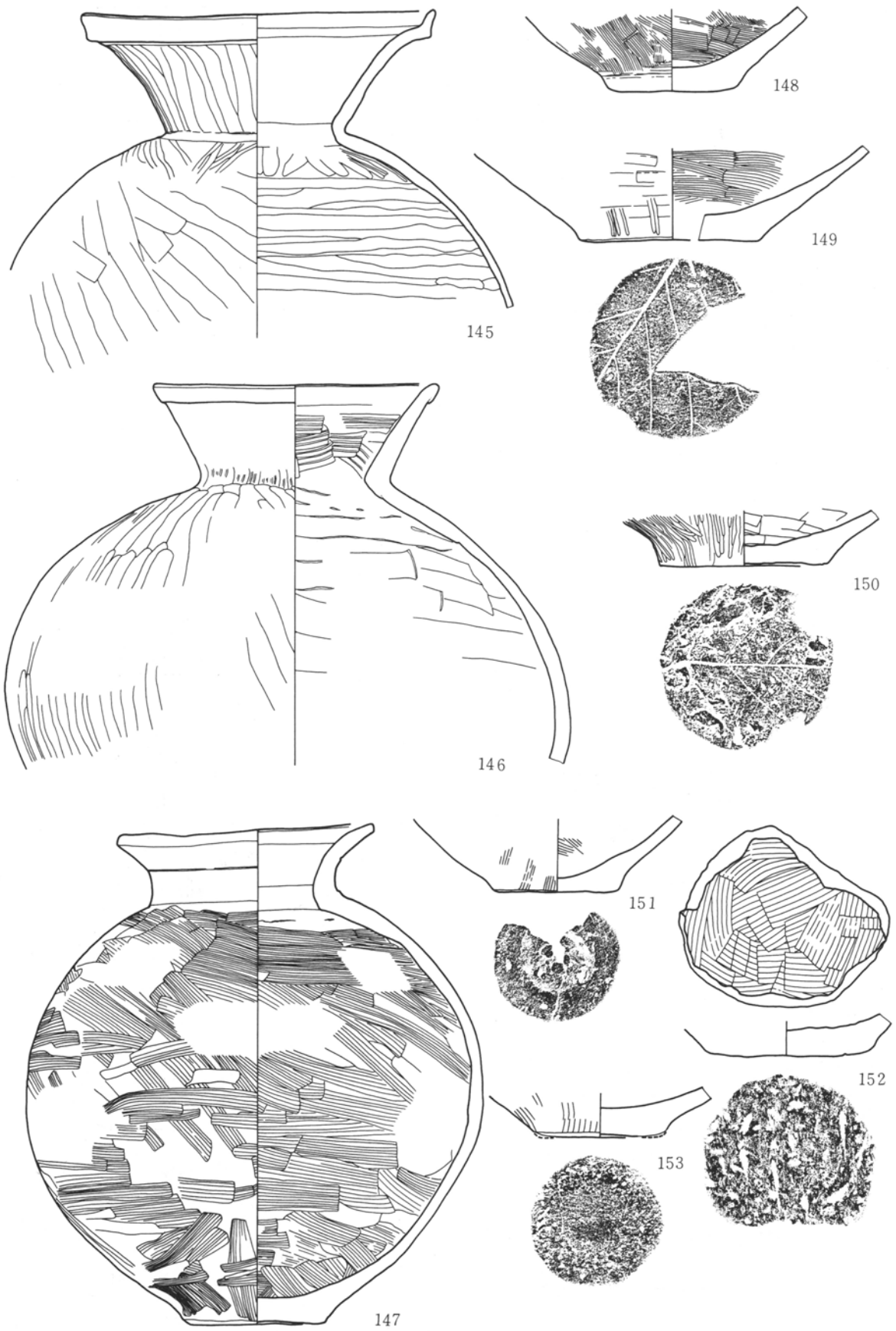
第220图 D区b河道出土遗物(11)



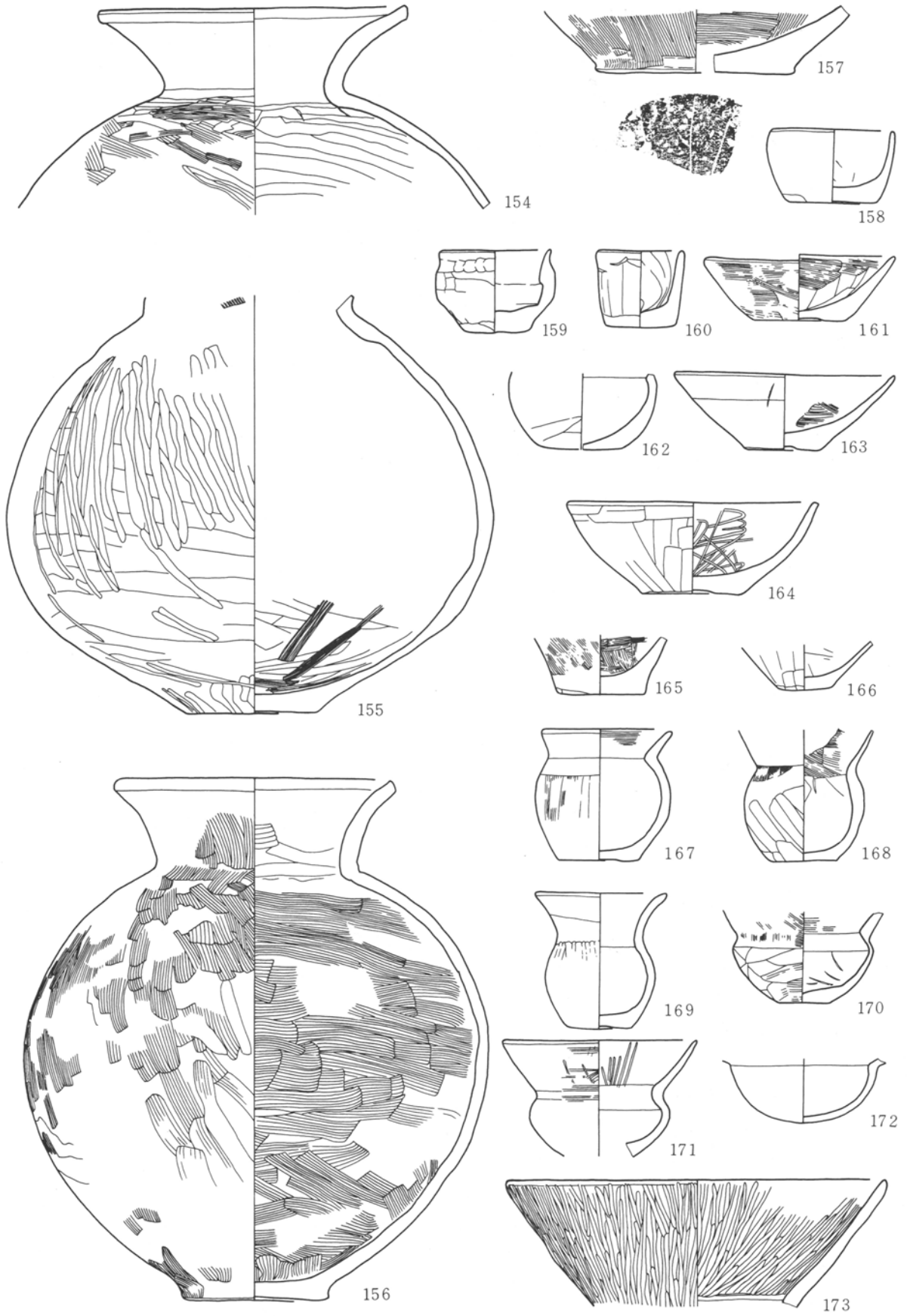
第221図 D区b河道出土遺物(12)



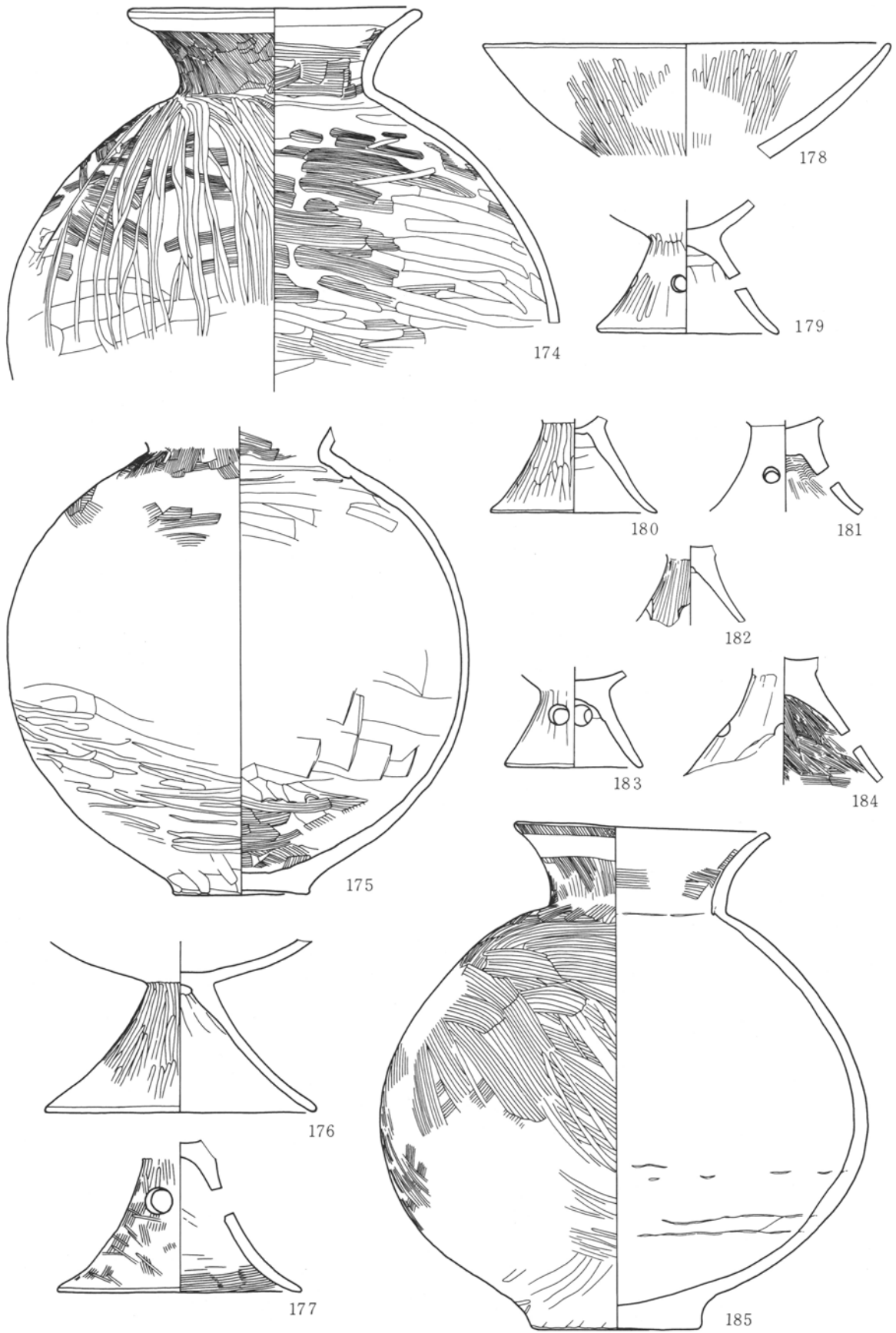
第222図 D区b河道出土遺物(13)



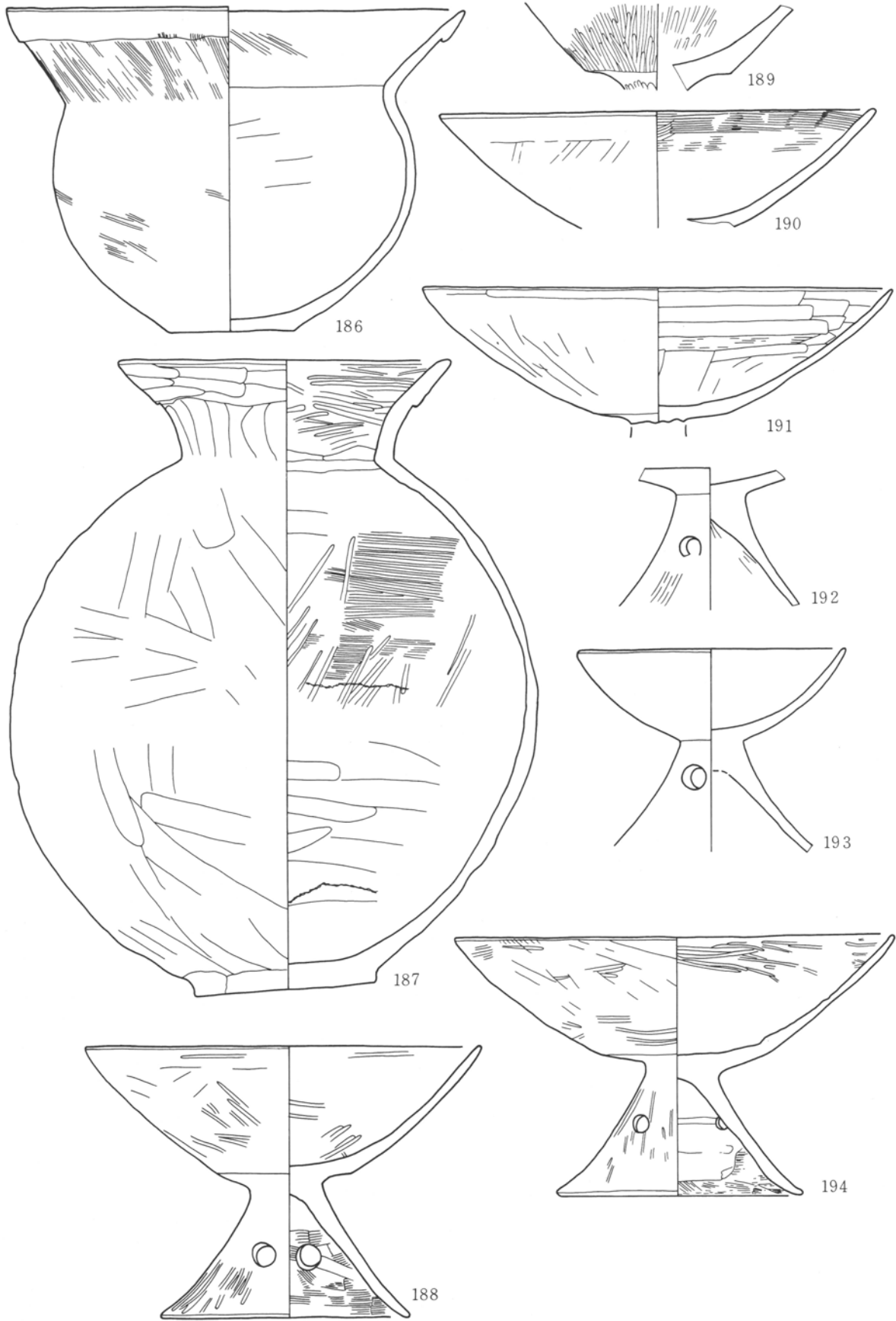
第223図 D区b河道出土遺物(14)



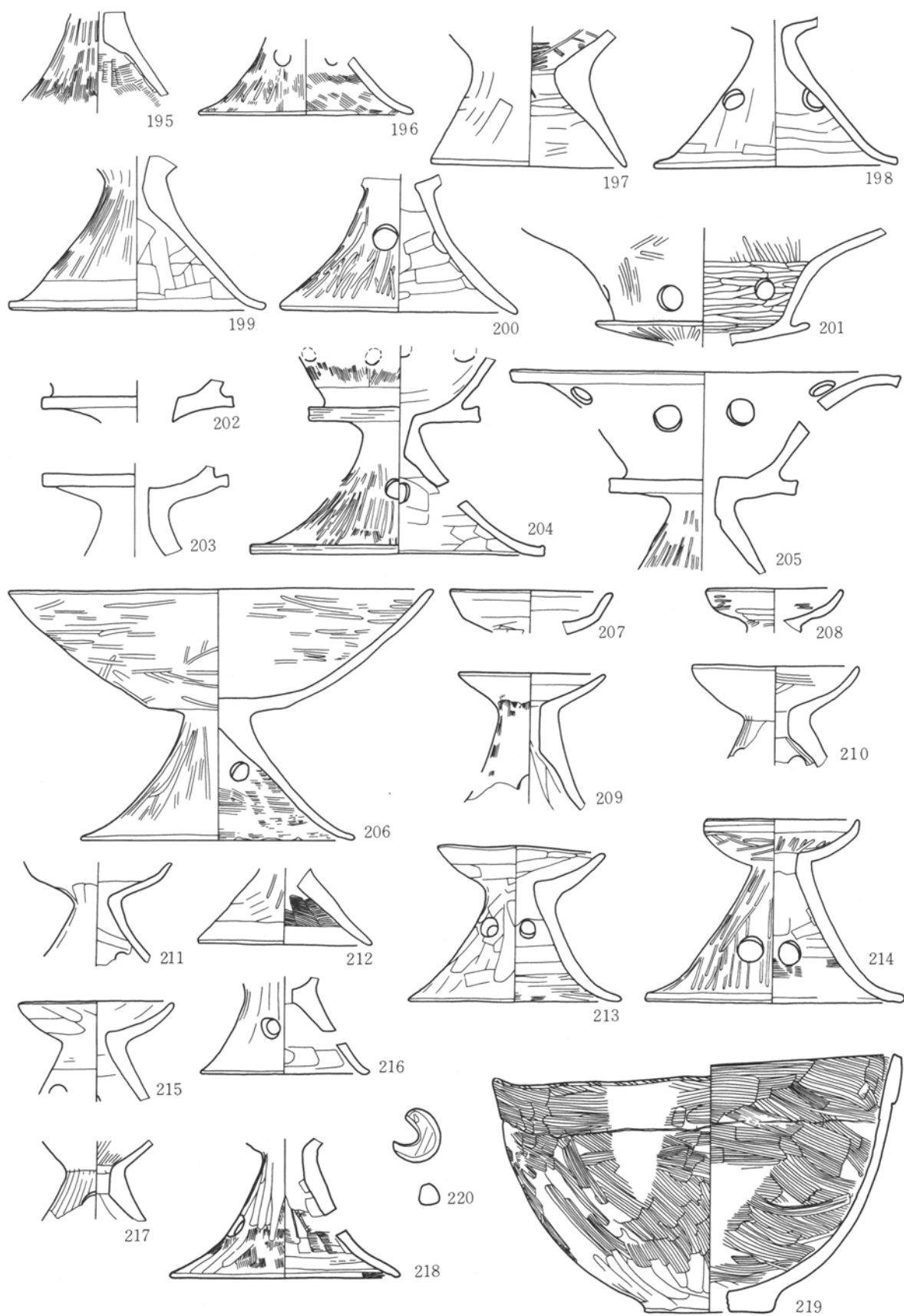
第224图 D区b河道出土遗物(15)



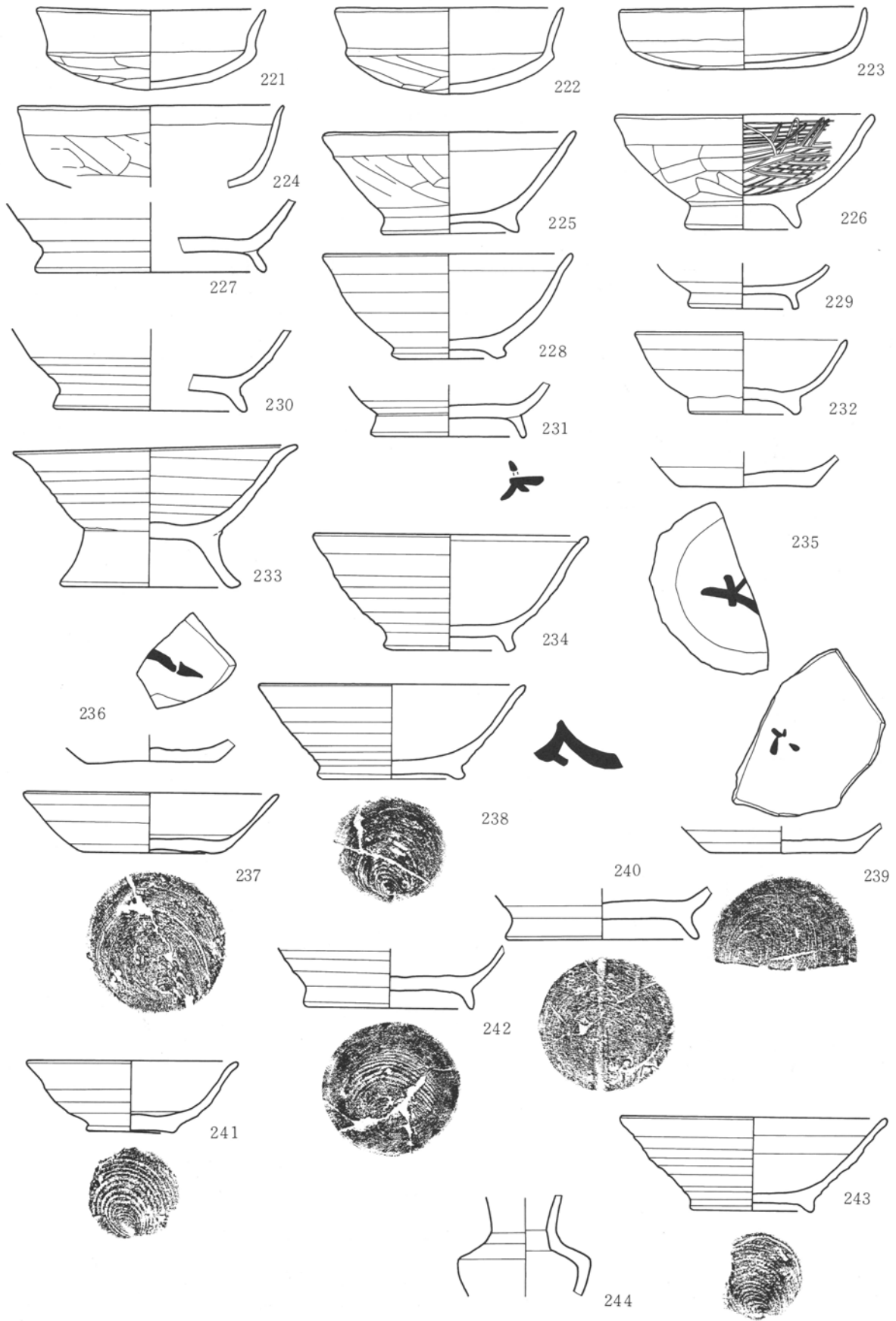
第225図 D区b河道出土遺物(16)



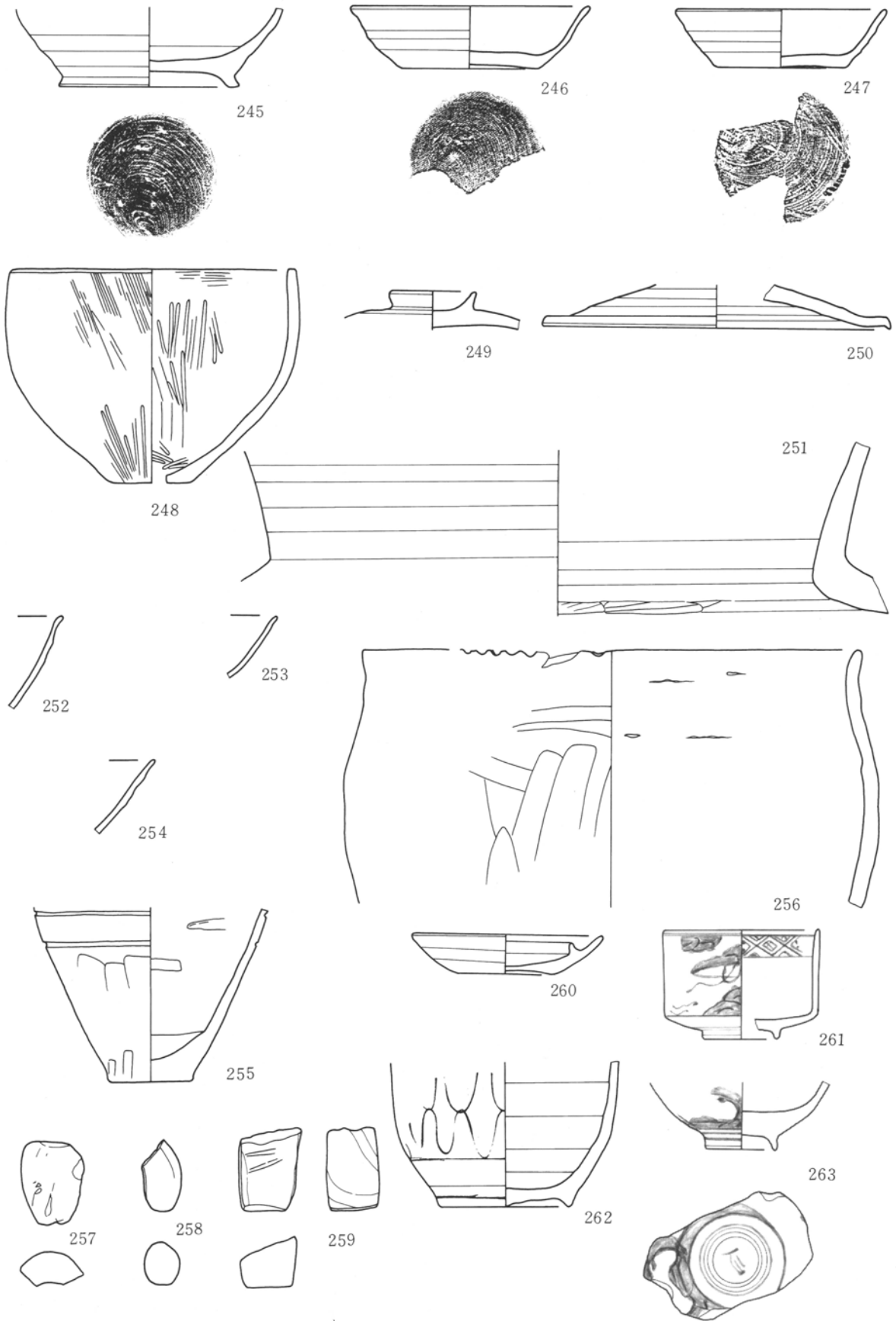
第226图 D区b河道出土遺物(17)



第227図 D区b河道出土遺物(18)



第228図 D区b河道出土遺物(19)



第229図 D区b河道出土遺物(20)

第4章 光仙房遺跡出土木器

光仙房遺跡からは木器が多数検出された。その中で図示可能な55点を掲載した。

D区91号土坑から出土した土掘り具(3)の出土状況は最終頁(202頁)に掲載してある。図の縮尺は20分の1である。

土掘り具あるいは耕作具は1~4個体出土した。各々の出土位置は以下のとおりである。

1. D区58号土坑
 2. D区内土坑
 3. D区91号土坑
 4. D区b河道
- 5から26まではC・D区内の住居跡柱穴から出土した柱材の一部と礎盤である。

出土位置

D1号住居跡(第231~233図、PL70・71)

5~8はすべて柱材各々は、5(柱穴1)6(柱穴2)7(柱穴3)8(柱穴4)9~14は柱穴内の駒(礎盤)である。各々9(柱穴1)10・14(同2)11~13(同3)である。

C31号住居跡(第233・234図、PL71)

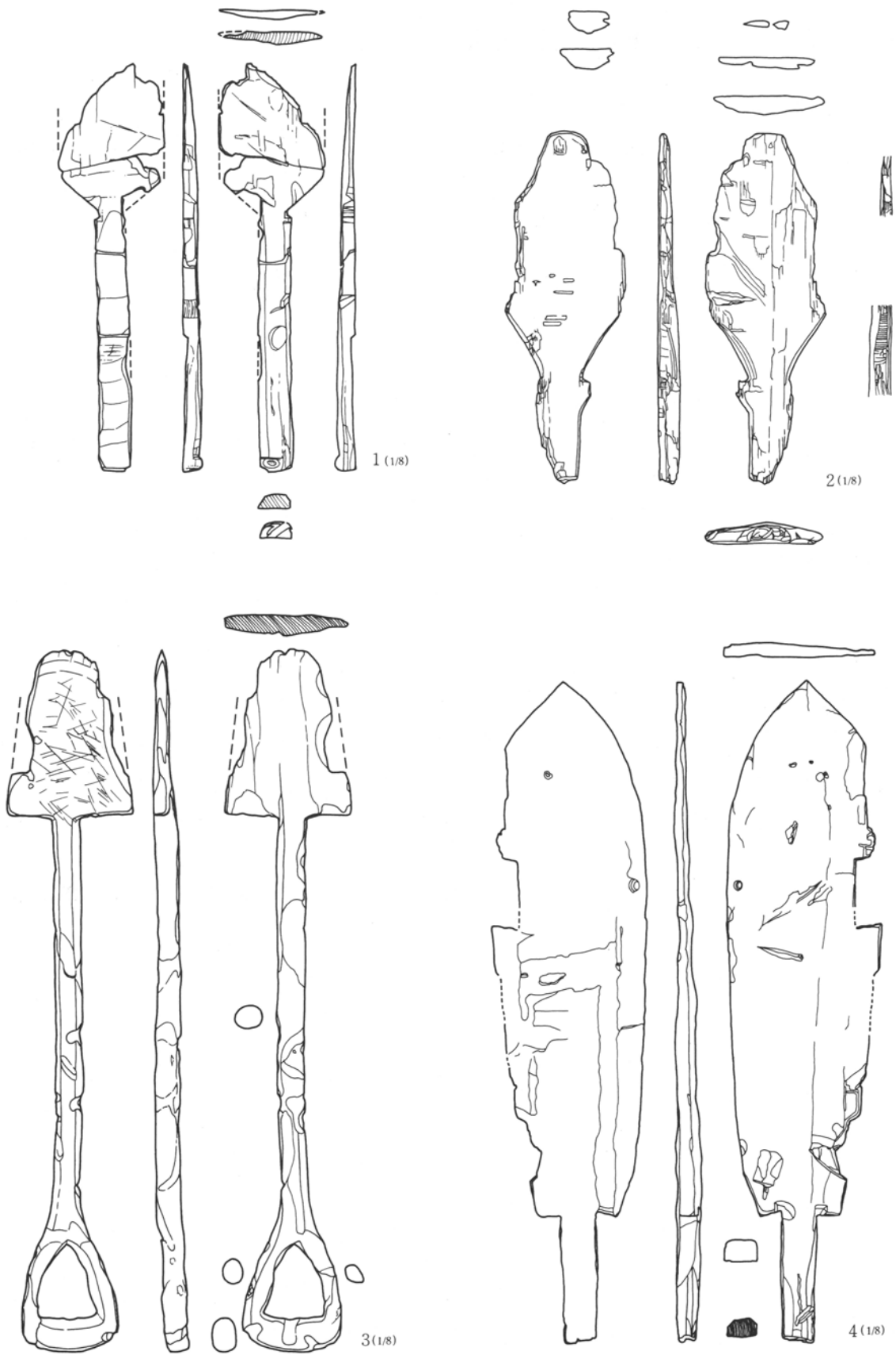
15~20で、15~17は柱材か駒かは不明である。各々15・17(柱穴3)16(柱穴4)である。18~20は駒と考えられ、各々18(柱穴4)19・20(柱穴2)である。

C39号住居跡(第234・235図、PL71)

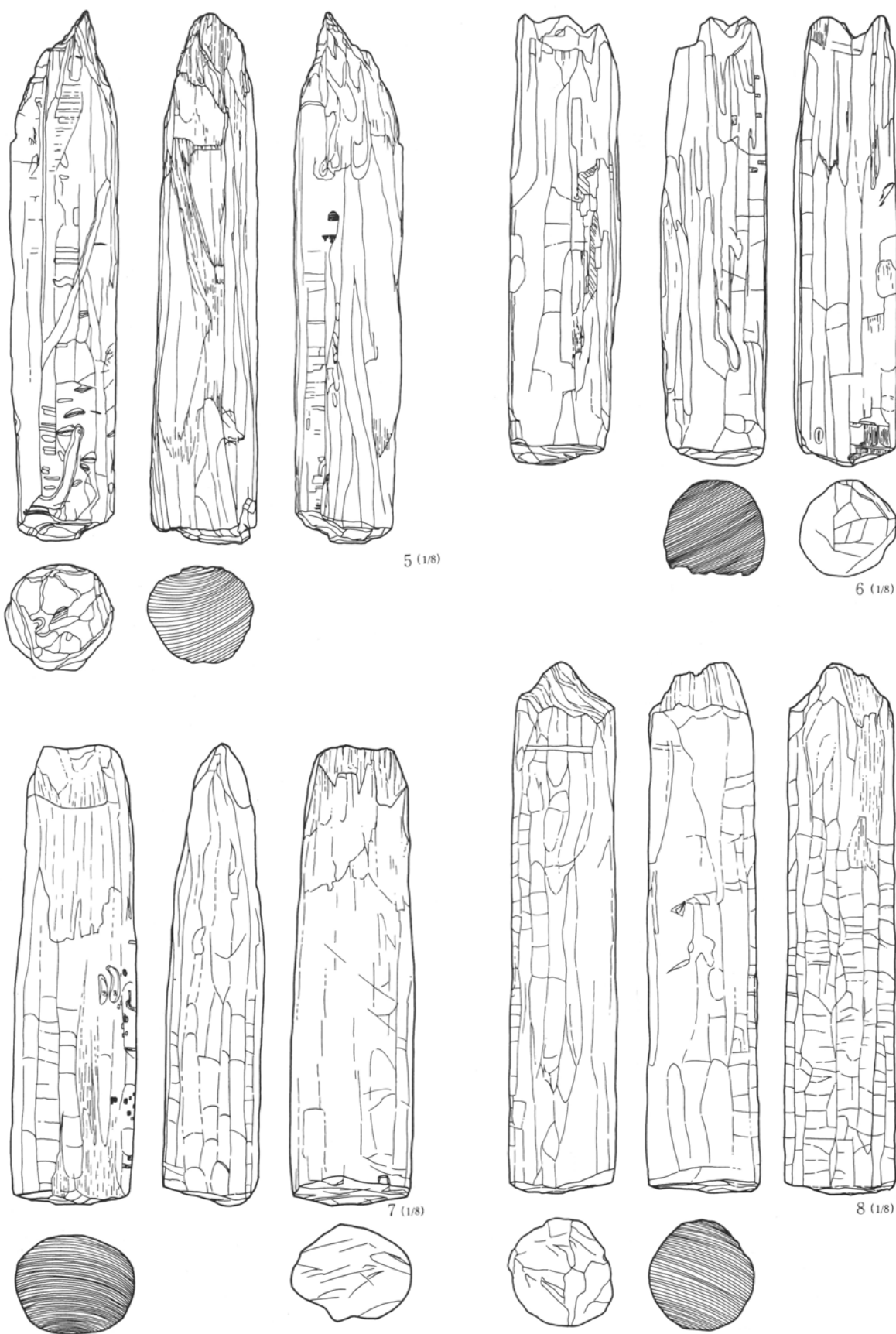
21~26すべて駒と考えられる。各々21・24(柱穴4)22・26(柱穴3)23(柱穴2)25(柱穴1)C31・39号住居跡の調査時の図・写真はない。

他に27~40はすべてD10号土坑出土の曲げ物等の破片や材である。41以降はそれぞれ加工が施された木器である。

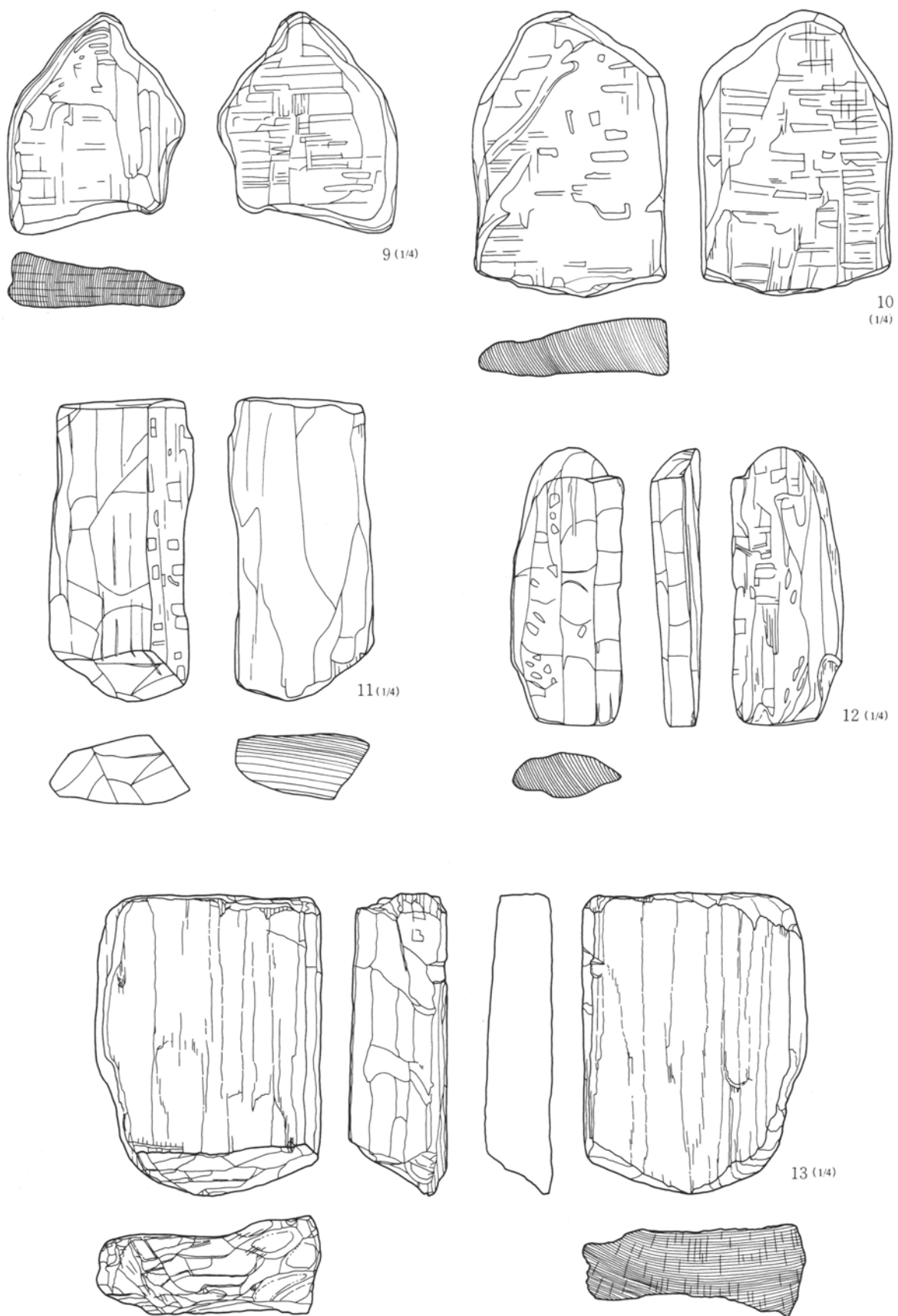
41(Df河道)、42~45(D24溝)、46~49(D29溝)、51~53(Db河道)、54(D53土坑)、55(Db河道)。



第230图 D区出土木器(1)



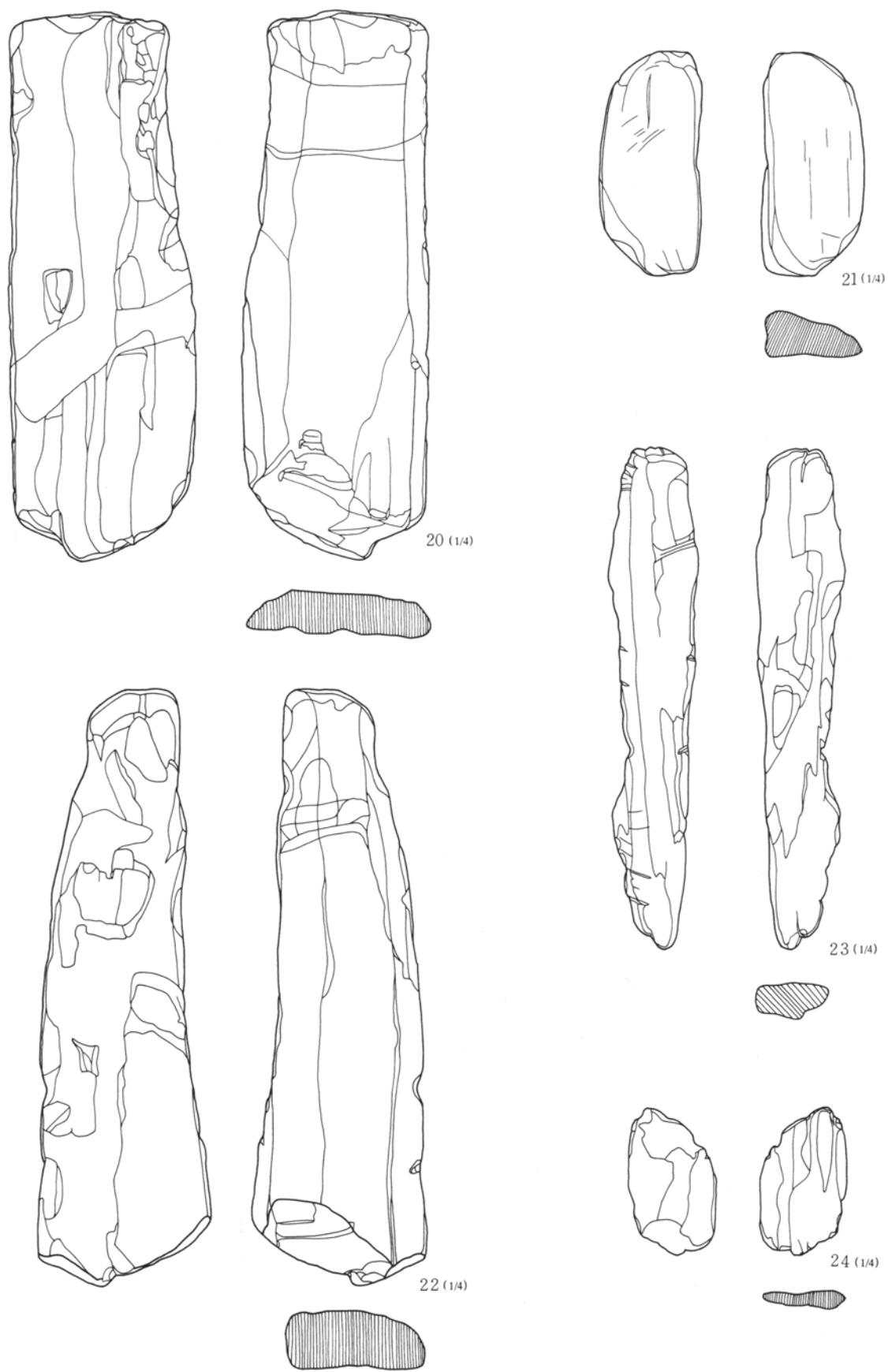
第231图 D区出土木器(2)



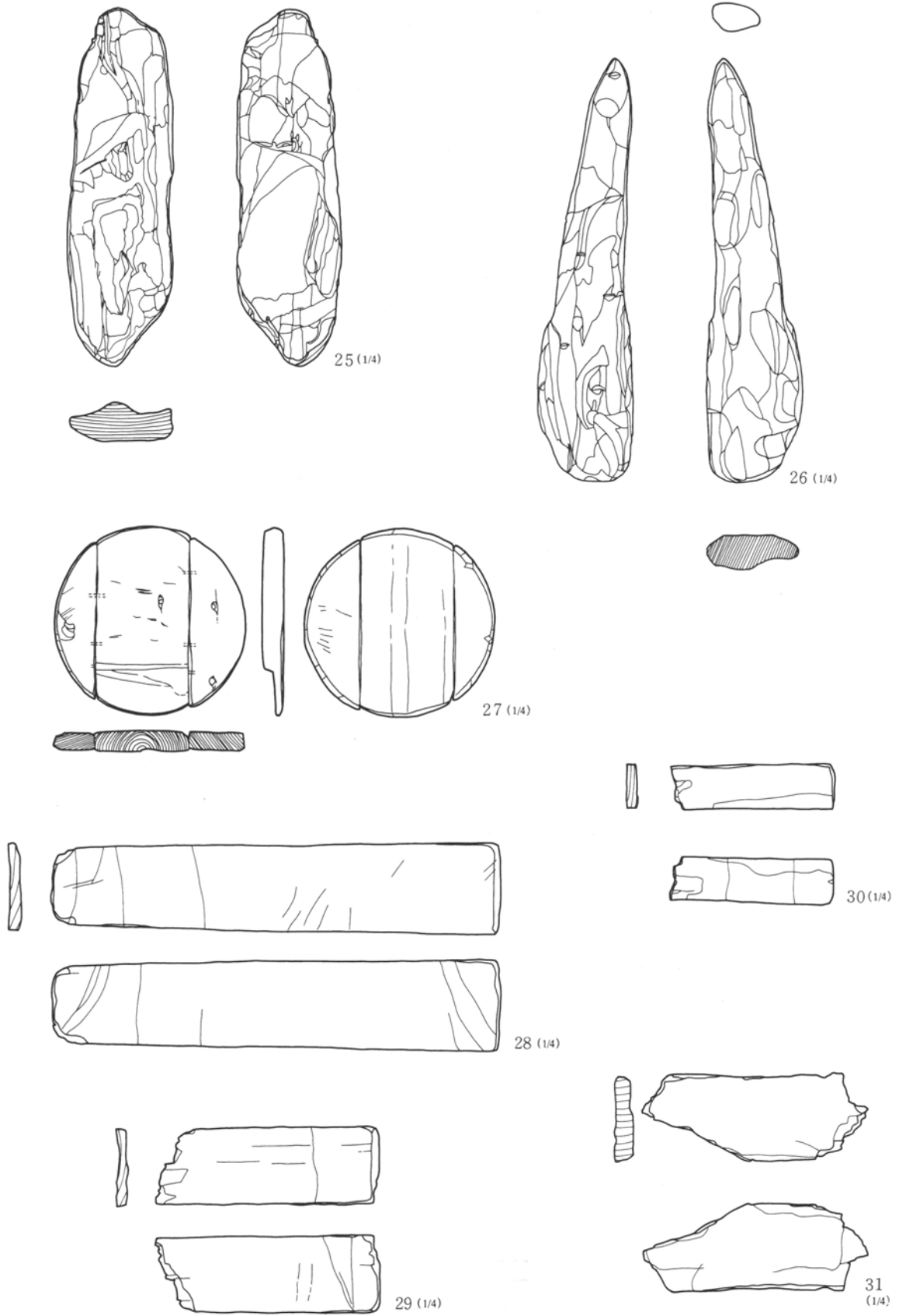
第232図 D区出土木器(3)



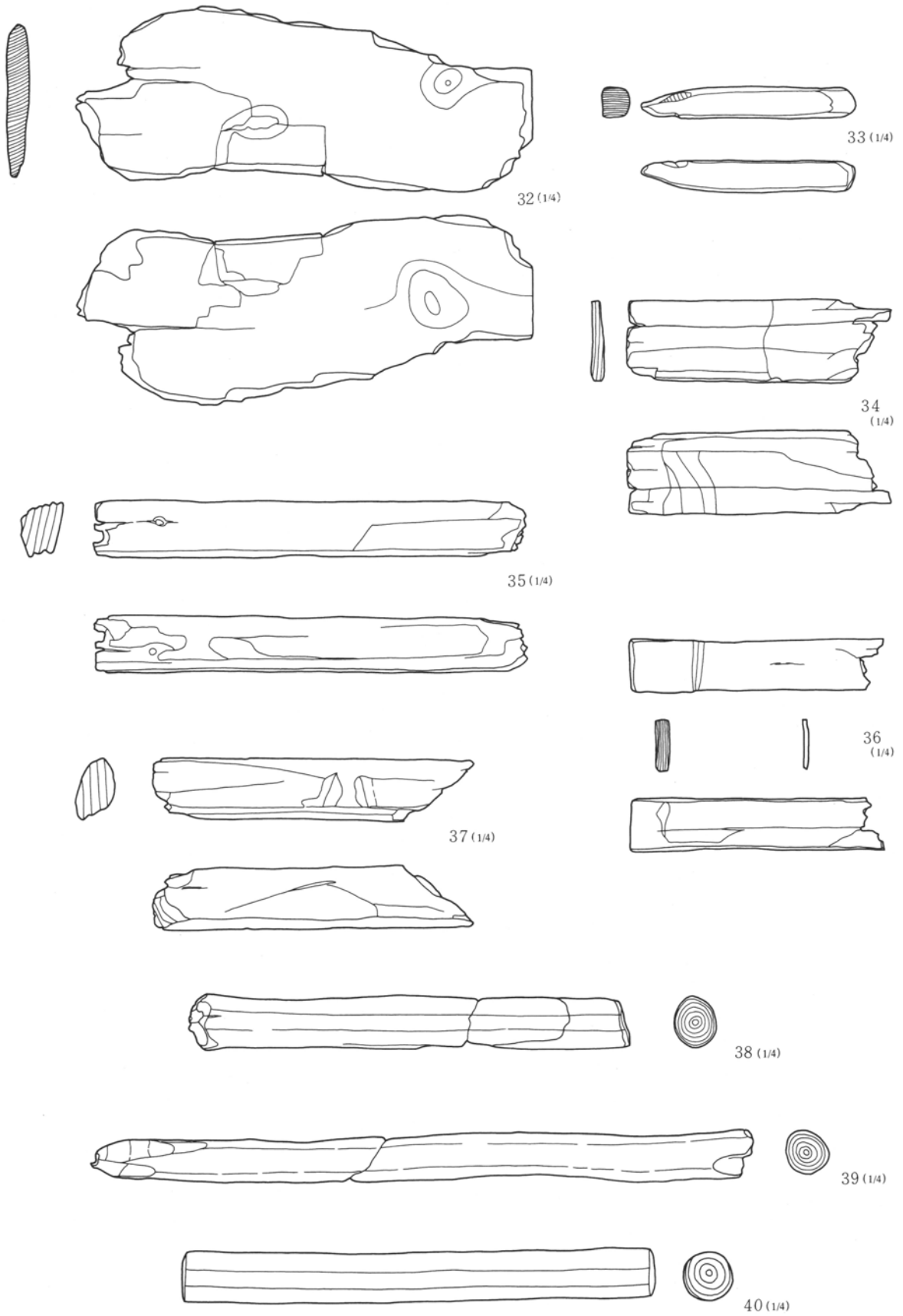
第233图 C·D区出土木器(4)



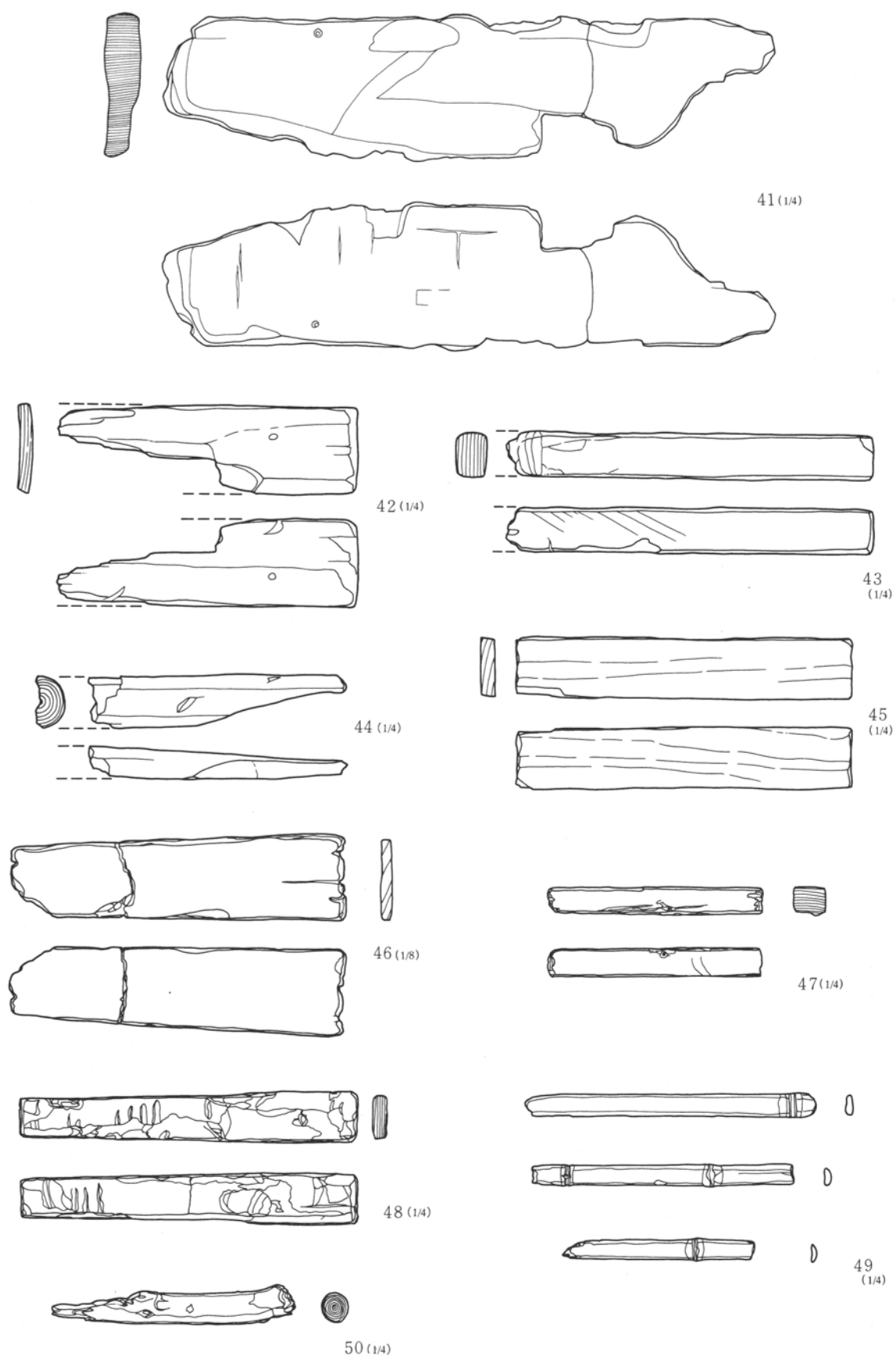
第234图 C区出土木器(5)



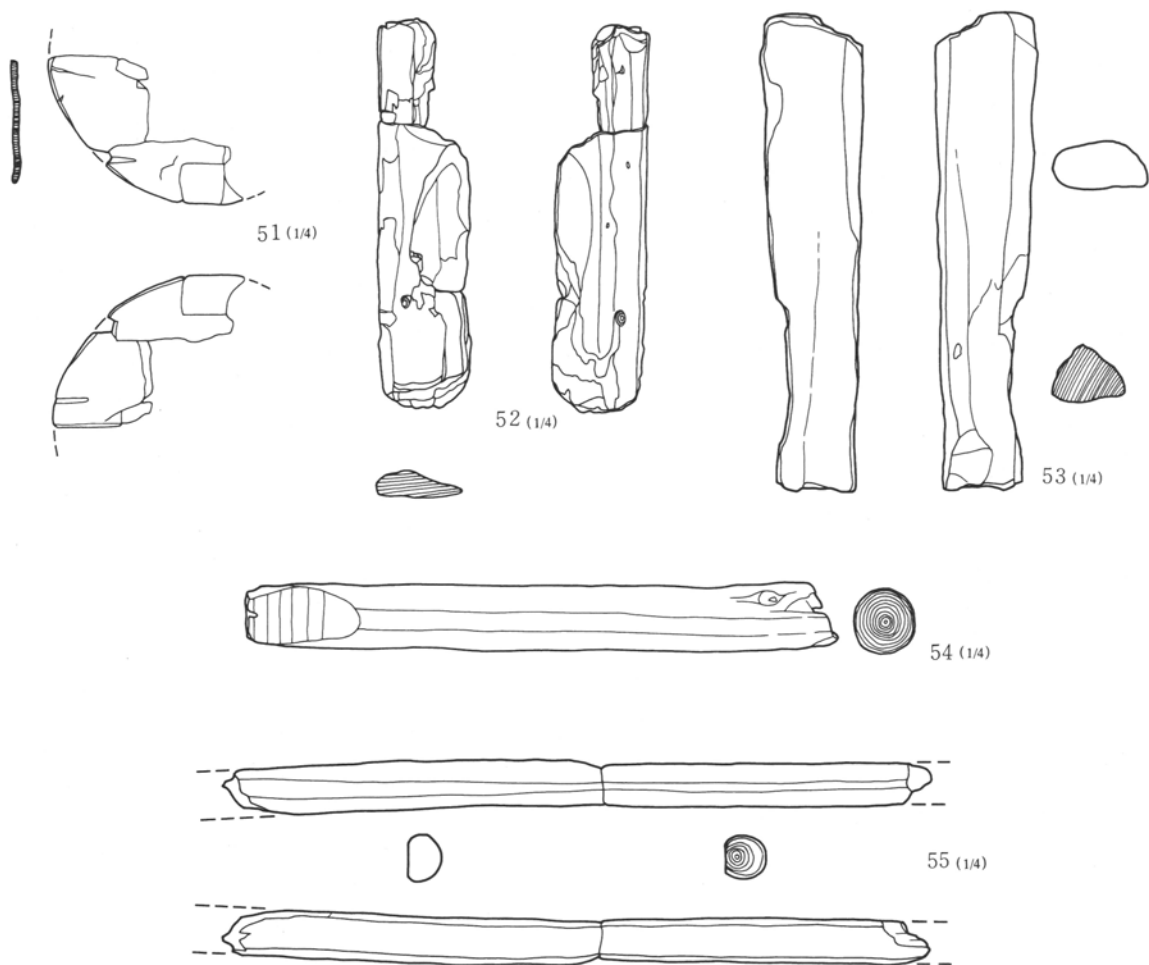
第235図 C・D区出土木器(6)



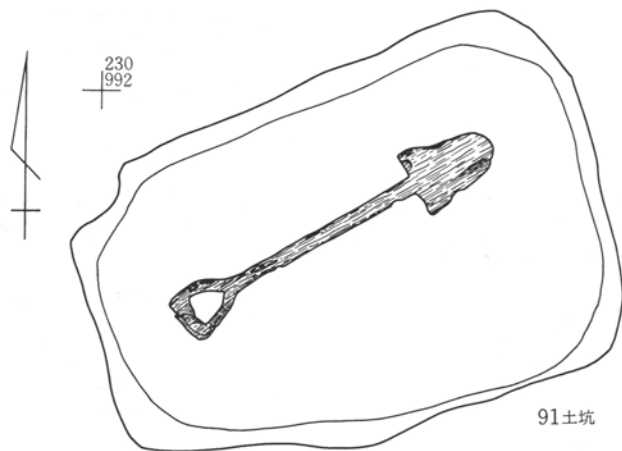
第236图 D区出土木器(7)



第237图 D区出土木器(8)



第238图 D区出土木器(9)



第239图 D区91号土坑

第5章 縄文時代 (第240～243図、PL72～75)

出土した縄文土器は後期を主体とするもので比較的まとまった資料といえよう。

出土位置をみるとほとんどが埋没河川からである。埋没河川以外から縄文土器の出土は認められていない。土器は大形破片も含まれるとともに、器面状態も流動による摩滅はあまり認められないことから、近接地に集落が存在するものとみられる。この埋没河川が北側に想定されている湧水を水源とすることから、その周囲に集落が存在する可能性が高い。

D区d河道およびf河道として調査した埋没河川には縄文土器以外の遺物は出土していない。石器についても台地部において散発的に認められているのみである。また、西側台地部には古墳時代の遺構群が密集するが、同時期の遺物についても全く出土は認められていない。河川の埋没状況については不明であるが、このことから古墳時代には埋没していたものとみられる。さらに、遺物の出土状況からdおよびf河道は縄文時代に存在していた埋没河川と考えることができよう。

埋没河川以外の調査区では縄文時代の遺構および遺物はほとんど認められていない。しかし、河川内には土器の出土が多い。このことは、河川法面崩落などにより流入したのではなく、河川への土器の廃棄による行為の結果であろうことが考えられる。

縄文時代の埋没河川の調査例については、近隣では新田町下田遺跡（中期後半から後期初頭）がある。ここでは土器や石器の他、石斧柄、櫛、各種漆器などの木製品類および木の実等の植物遺体等、当時の生活関連遺物が豊富に出土している。今回の調査例とは遺物出土のあり方に相違が認められるが、生活と密接な関係をもつ河川の存在は重要な内容をもつ。

なお、この埋没河川の西側には古墳時代の埋没河川が検出されている。ここからは古墳時代遺物の出土は確認されているものの、縄文時代遺物の出土はないようであり、異時期の埋没河川が近接して確認されていることになる。

以下、概要を報告しておきたい。

D区f河道（D区全体図付図）

幅残存部で5m、深さ約1.5mの規模で、延長23mが確認された。流路は地形に沿ったもので南側にかけて緩やかに傾斜する。法面傾斜もほぼ20度前後で自然河川の一部とみられる。下層には砂層が堆積し、遺物はほとんどがこの層から出土する。このf河道は228—970グリッド付近でd河道と合流する。

D区f河道出土土器（第240図～第243図、PL72～75）

堀之内2式土器（1～3）

いずれも深鉢の口縁部片である。1、2は細紐線文を横位に3条巡らせ、その間に縦位の細紐線文を加え交点に円文を付加する。3は横位の細紐線文が2条である。紐線文上には棒状工具による刺突文が加えられる。3点とも口唇部内側に沈線文が1条巡る。

加曾利B2式土器（4～52）

f河道出土の主体的土器である。出土位置については250—970グリッド周辺にやや集中する傾向が看取される。これらの土器については文様の特徴により説明しておく。

4～15は口縁部に沿って押圧文を施す紐線文を横位に巡らせる粗製深鉢である。紐線文が1条のもの（5～10）、2条のもの（11～15）の2種がみられる。

第5章 縄文時代

5～10は、紐線文が1条口縁部直下に加えられる。紐線文はやや太めで折り返し口縁状にもみえる。6、7、10は胴部に単一沈線文による弧状文、9は条線文による弧状文が施される。

11～15は紐線文を2条もつものである。11、12は紐線文間は無文で、胴部に平行線による弧状文が施される。13～15は紐線文間に格子状線文が加えられる。14は胴部に平行線による弧状文、11、15は器面整形痕をそのまま残す無文としている。なお、4は小片だが紐線文の状態から2条もつものの口縁部片だろう。

16は8字状文と列文帯が認められる。17は折り返し状に肥厚する口縁に沿って中空円形文が加えられる。

18～26、29は弧線文をもつ一群である。18は列文帯と上向きの弧状文がみられ、弧状文内にはRL横位が施される。19は口縁部が内湾する浅鉢で、頸部に列文帯が横走り、その上位に中央に円文をもつ対弧文を配する。胴部にはLR横位を充填する弧状文が施される。20は弧状文交点に円文が加えられる。21は口縁部に沿って円文が巡り、以下RL横位を充填する横走線文が施される。25は小片だが結節縄文が認められる。26は頸部に列点文をもつ細隆線文が巡り、口縁部にLR横位を施す弧状文、胴部に縦位のS字状文と弧線文が施される。27は頸部に刻目帯が巡り、対弧文が加えられる。28は横走線文が認められるが他文様は不明である。29は縦位の平行文に横走線文が施される。

30はLR横位を地文とし、平行沈線文を横切る蛇行状沈線文が施される。31、32は深鉢頸部で、くびれ部上位に横走線文と対弧文が施される。33は内湾する口縁部をもつ波状口縁の深鉢で、頸部に列文帯が巡り、胴部にRL横位を充填する弧状文が施される。口縁部は口縁に沿って単一沈線文を加える以外文様は認められない。34は浅鉢口縁部で、内側に沈線帯が1条巡る。

35～40は矢羽根状沈線文をもつものである。35は口唇部に貼付文列が加えられ、頸部に無文帯をおき、口縁部および胴部に斜行沈線文が施される。36は口縁部に矢羽根状沈線文帯が巡り、内側には沈線帯が認められる。40には補修孔が観察される。

41、42、44～48は口縁部から弧状文が垂下する深鉢である。41、42、45、47、48は条線文により、44、46は単一沈線文による。43は頸部に横位沈線文が巡り、胴部には格子状沈線文が施される深鉢である。

49は頸部が括れ、口縁部が直線的に開く深鉢である。器面調整痕を残すのみで無文であり、口唇内側に沈線帯が1条巡る。50～52は網代底であり、いずれも一本越え1本潜りによるものとみられる。

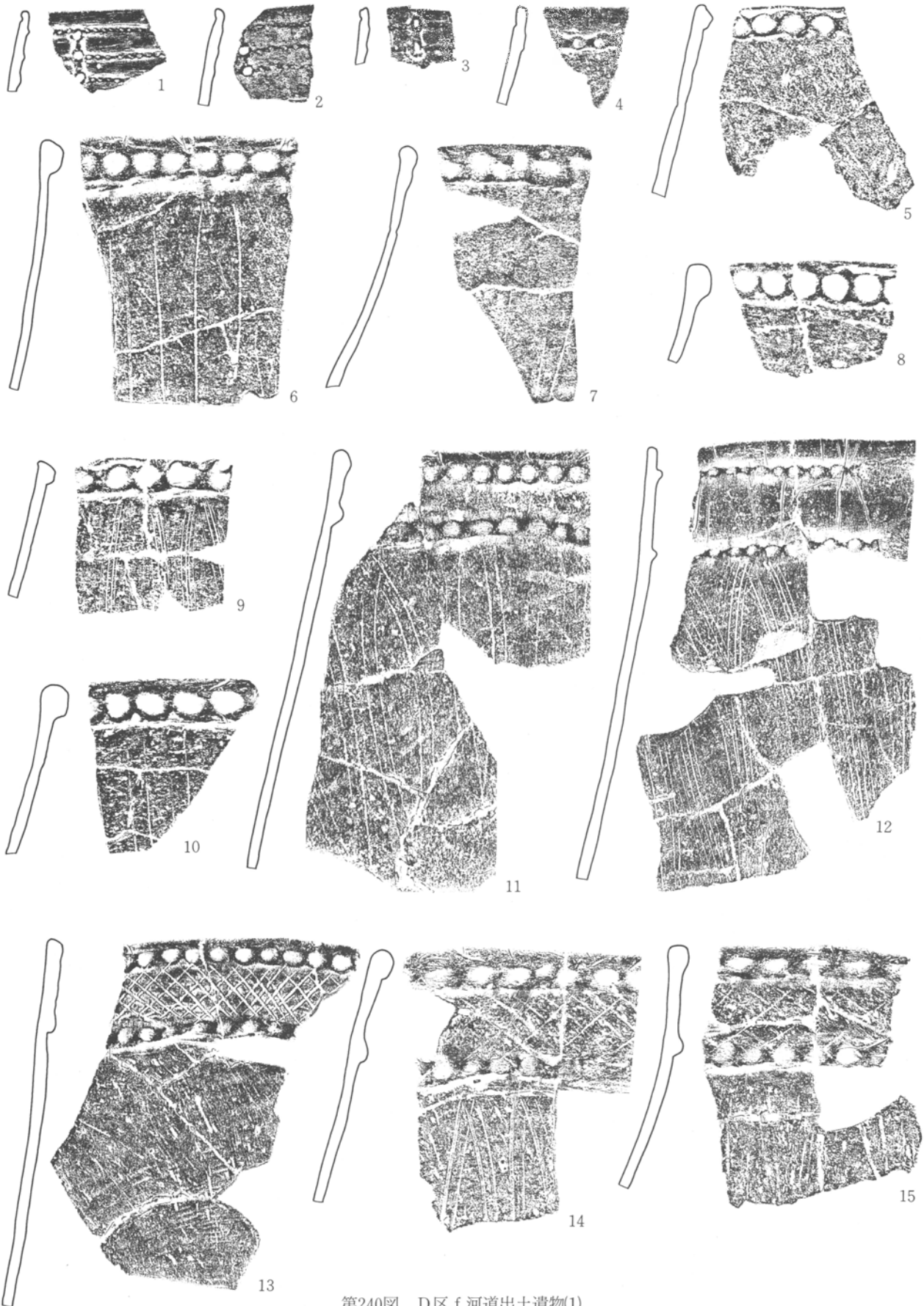
D区d河道

f河道と合流するが、発掘調査では両河道の時間的關係は把握できていない。しかし、出土土器をみると加曽利B2式土器を中心とするf河道よりやや新しいものといえる。出土総量は少ないが、安行2式から3a式土器が多いようである。なお、f河道出土遺物と同様に河川関連の遺物は認められていない。

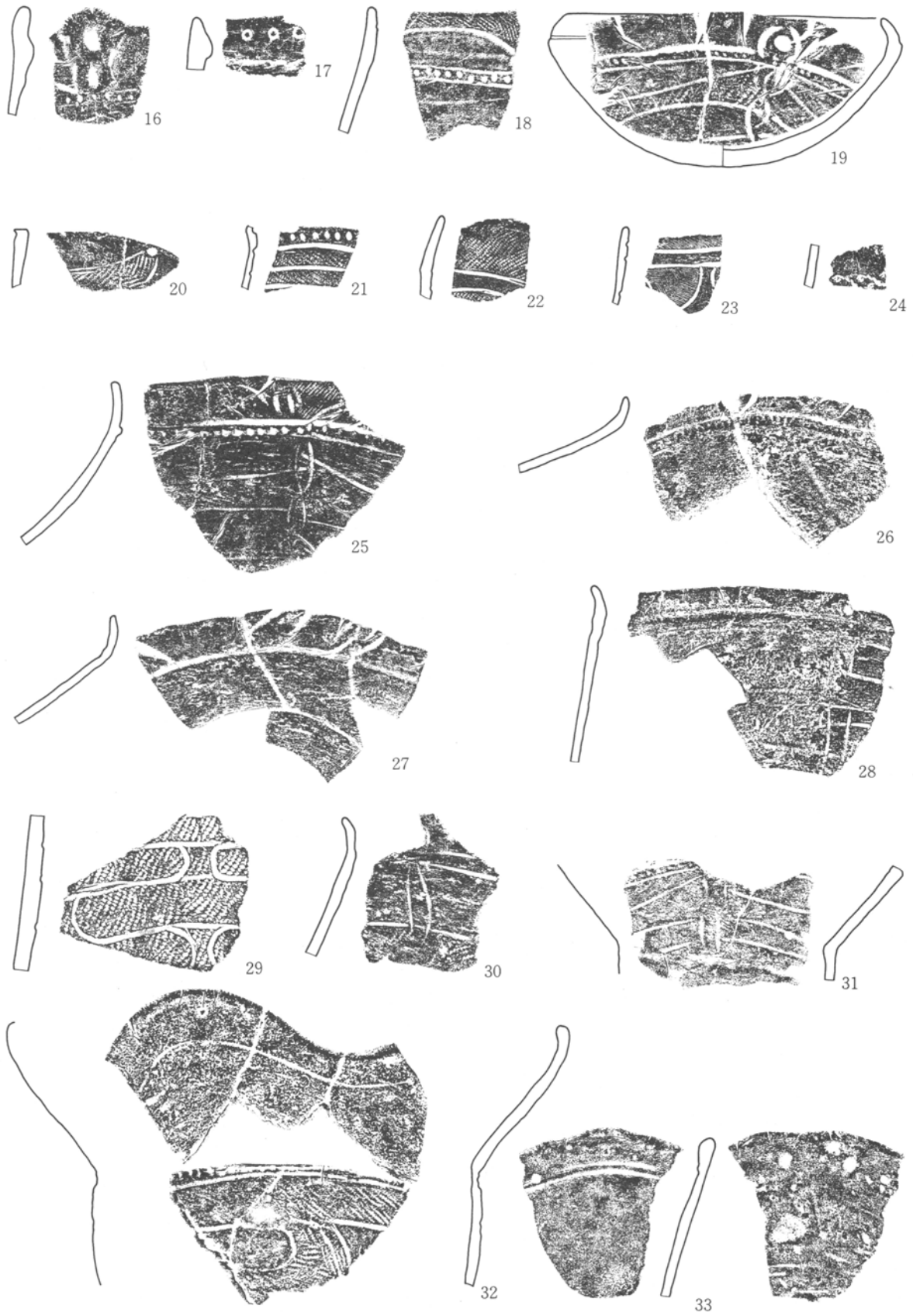
以下、出土土器の概要について報告する。

D区d河道出土土器 (第243図、PL75)

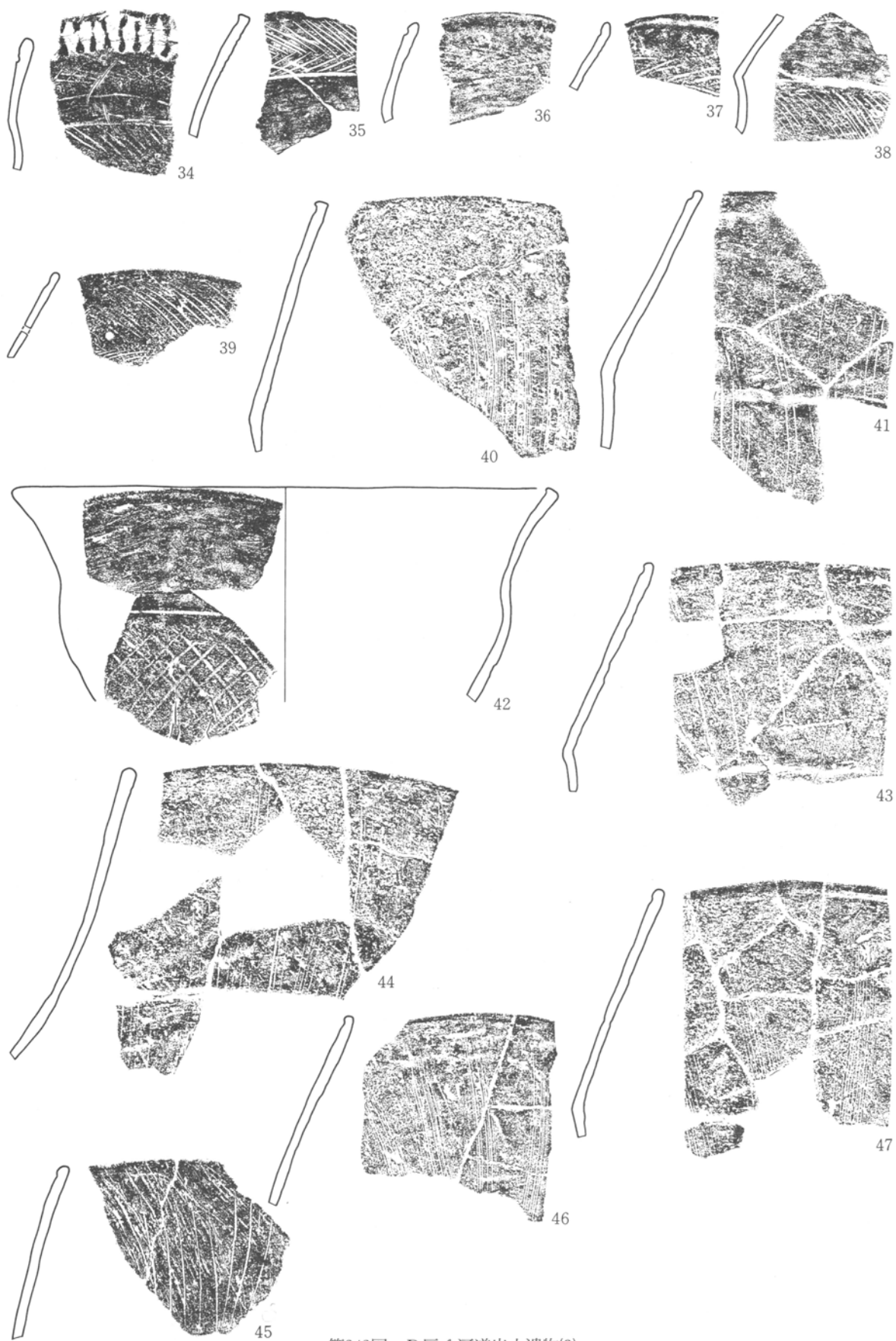
53はLRがやや斜位ぎみに施され、条が横走する。54は刺突文をもつ口縁部。55～61は折り返し状口縁部をもつ。55は2段の折り返し口縁となる。56～61は肥厚ぎみの口縁部形態となる。62は口唇部内側に平坦面をもつ無文の口縁部である。63は突起をもつ波状口縁部で、口縁下に円孔を穿つ。64は区画線文内にLR横位が施され、沈線文に接して1対の刺突文をもつ小突起を貼付する。65は弧状の沈線文帯にLRが充填され、交点に刺突をもつ小突起が加えられる。66、67は弧状入り組み文が施され、区画線内にはLRが加えられる。68は磨消部に蕨手状沈線文が加えられる。68はLR横位を施す押走線文帯の上位にS状文、下位に蕨手文を施す。69、70は沈線文による区画内にLR横位が充填される。71は網代底で1本越え1本潜りによるものとみられる。



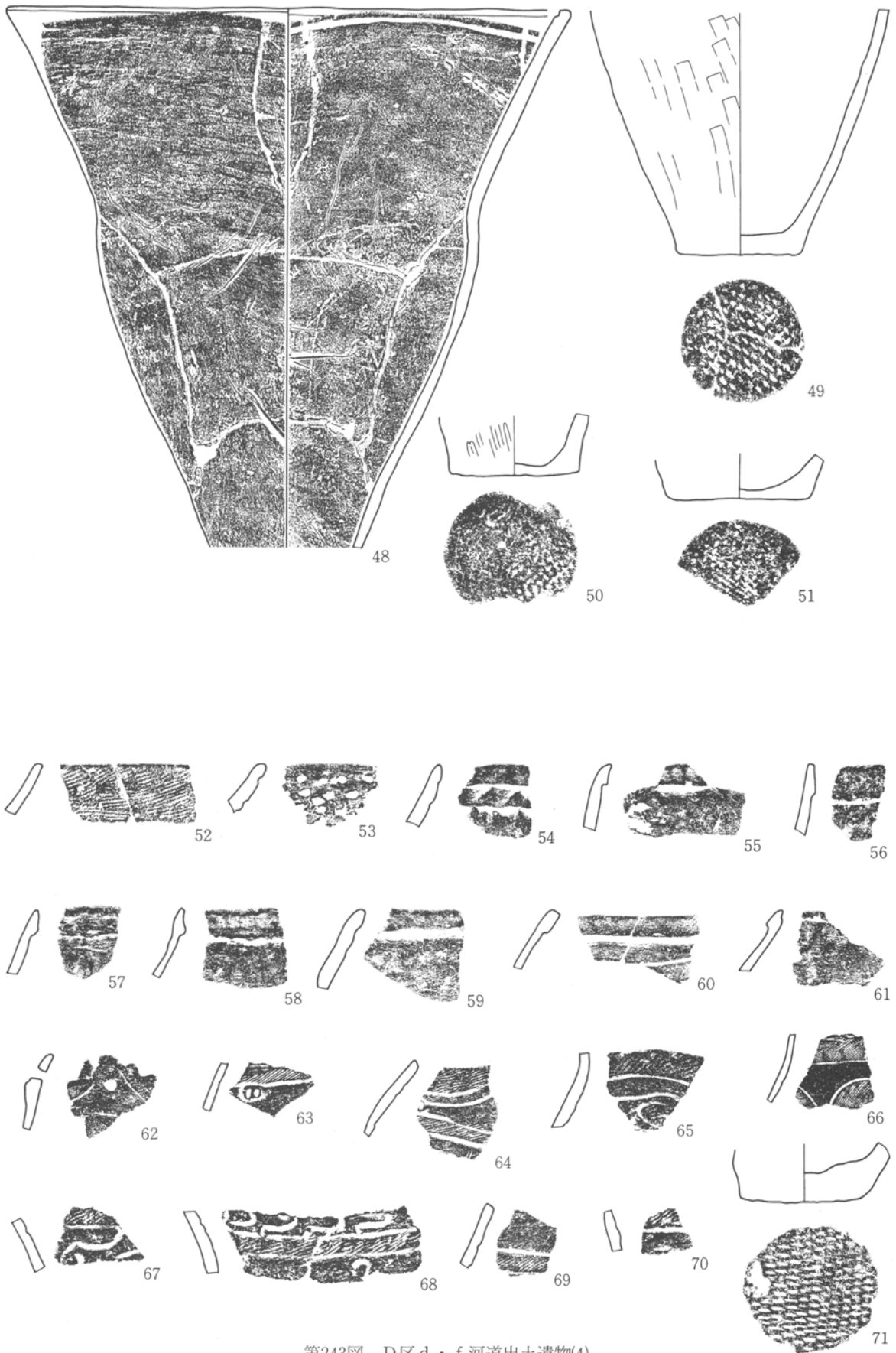
第240図 D区f河道出土遺物(1)



第241図 D区f河道出土遺物(2)



第242図 D区f河道出土遺物(3)

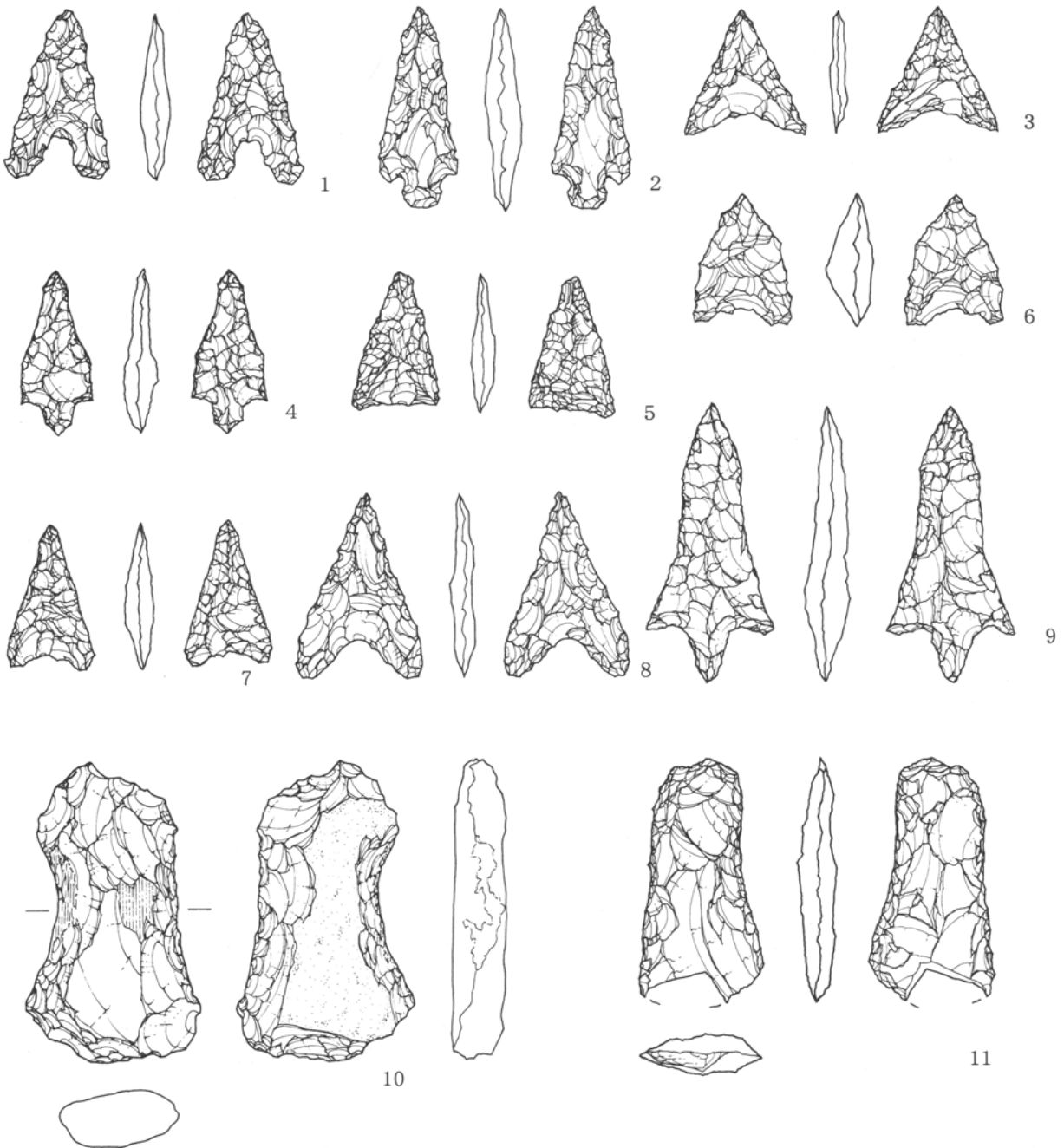


第243図 D区d・f河道出土遺物(4)

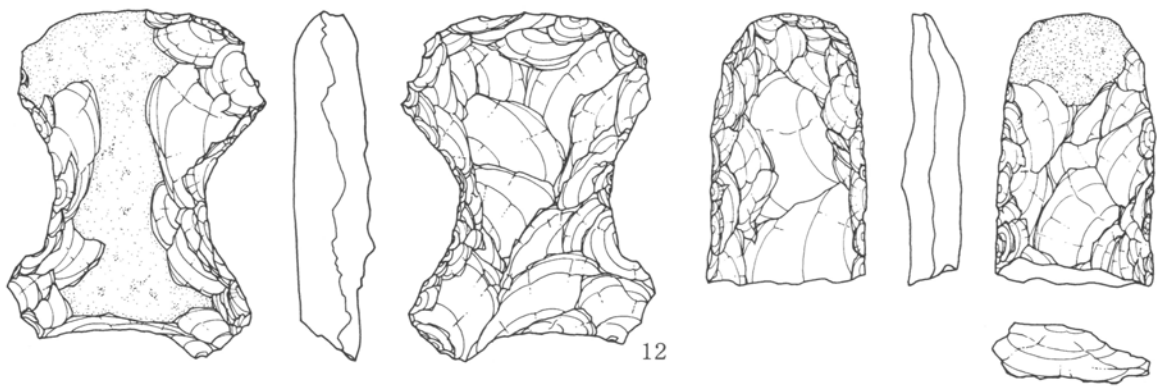
C区 表採遺物 (第244・245図、PL76)

C区内で表採あるいは住居跡の覆土等から採集した石器である。1～9までは原寸、10～13は1/2、14・15が1/3である。

出土位置は、1. B区表採、2. C15号住居跡、3. C1号住居跡、4. C31号住居跡、5. C30号住居跡、6. C18号住居跡、7. C15号住居跡、8. C22号住居跡、9. C31号住居跡、10～16. A・B区表採。

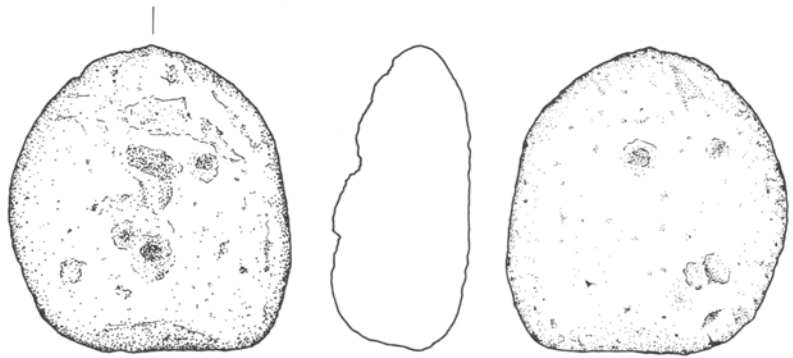


第244図 表採石器・石鏃(1)

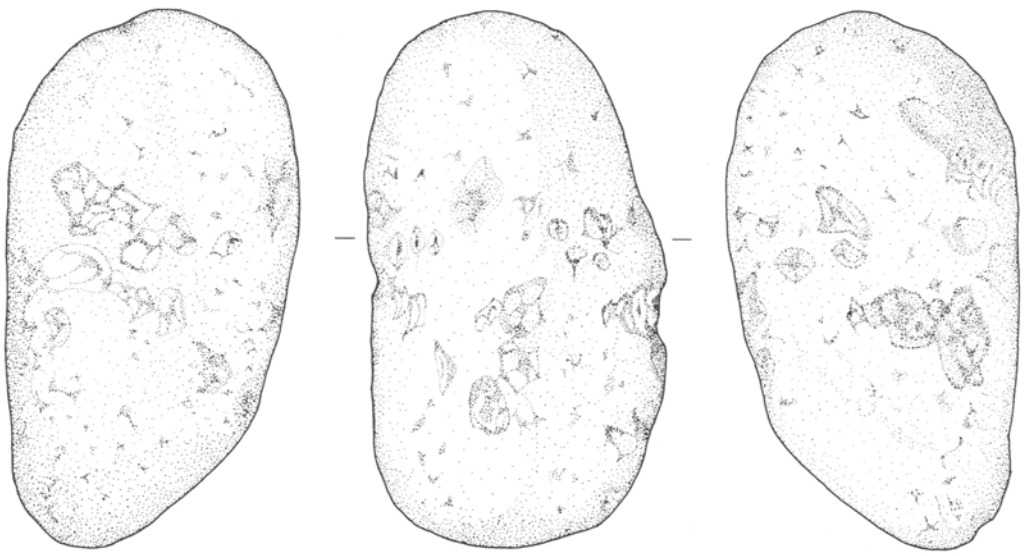


12

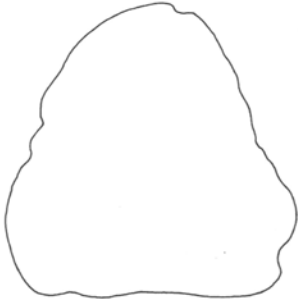
13



14



15



第245図 表採石器・石鏃(2)

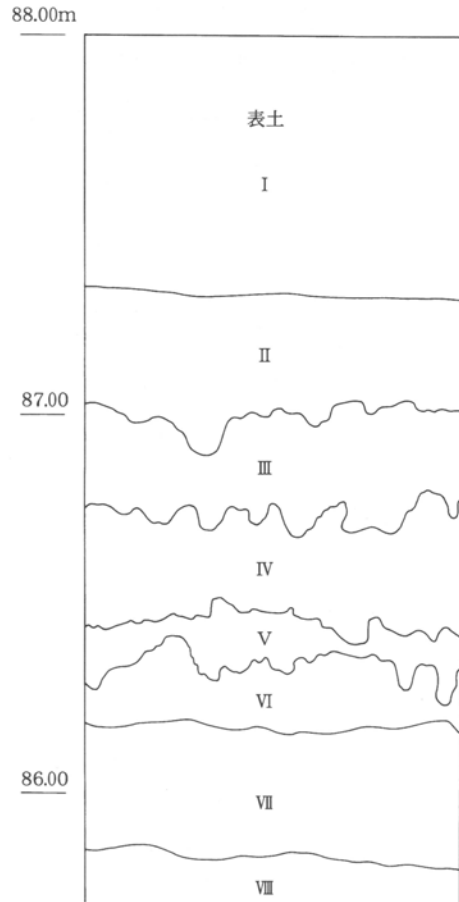
第6章 旧石器時代

1. 調査の概要と基本土層

上植木光仙房遺跡は、大間々扇状地 I 面の西端部に位置し、遺跡のすぐ西には、大間々扇状地を画するように粕川が流れている。周辺は、湧水点を谷頭とする中小の低地と、間に広がるローム台地とが入り組んだ様相を呈している。このローム台地上では、隣接する舞台、三和工業団地遺跡などで旧石器時代の石器群が多数発見されている。本遺跡では、遺跡の東半に低地、西半にローム台地が展開している。このうち、ロームの堆積が認められた A 区と B 区で、旧石器時代遺物の存在を確認するため試掘調査を行った (第247図)。その結果、B 区の西端で 2 地点から石器が出土し、拡張して調査を行った。

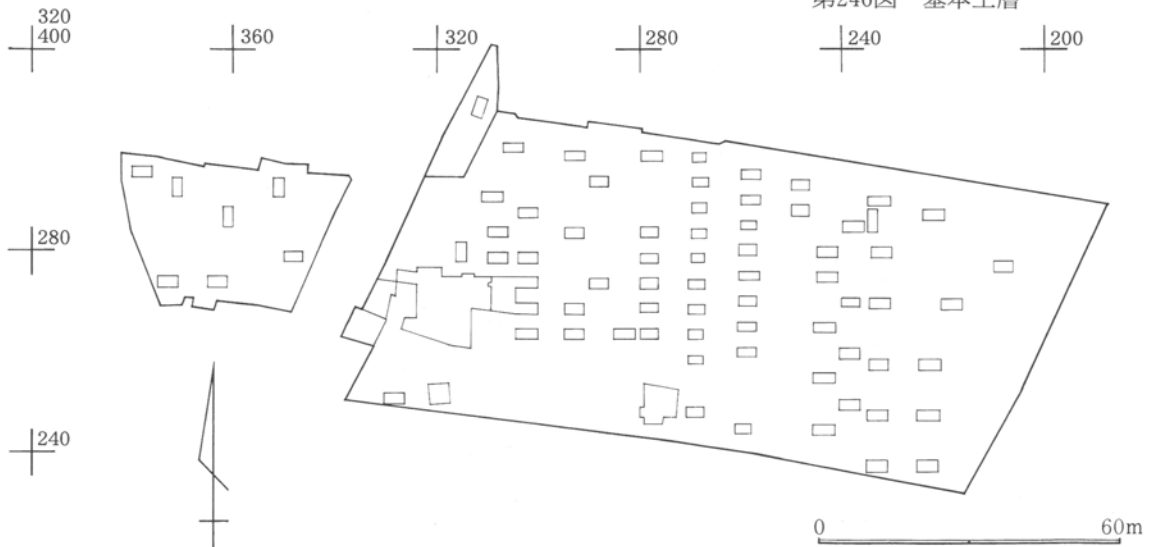
それぞれの地点は出土層位を異にしており、2 枚の文化層として捉えられた。より上位の第 I 文化層はわずか 4 点の石器が出土したのみであったが、第 II 文化層では 2 つのブロックが発見され、うち 1 つには 2 基の礫群が伴っていた。A 区でも旧石器時代に属すると考えられる石器が数点単独で出土している。

本遺跡の基本土層は第246図のとおりである。遺跡周辺は畑地としての開発が進み、耕作機械などによって地中深くまで攪乱されていた。本遺跡でも耕作が深くまで及



- II 暗褐色軟質ローム層 AS-YP をまばらにごく少量含む
- III 褐色軟質ローム層 AS-OP 1(Φ0.1~3mm)を全体的にまばらに含む
- IV 褐色硬質ローム層 AS-BP(Φ1.0mm以下)上層にある程度まとまって含む
- V 褐色硬質ローム層
- VI 暗褐色軟質ローム層 (暗色帯漸移層)
- VII 暗褐色軟質ローム層 暗色帯
- VIII 褐色硬質ローム層

第246図 基本土層

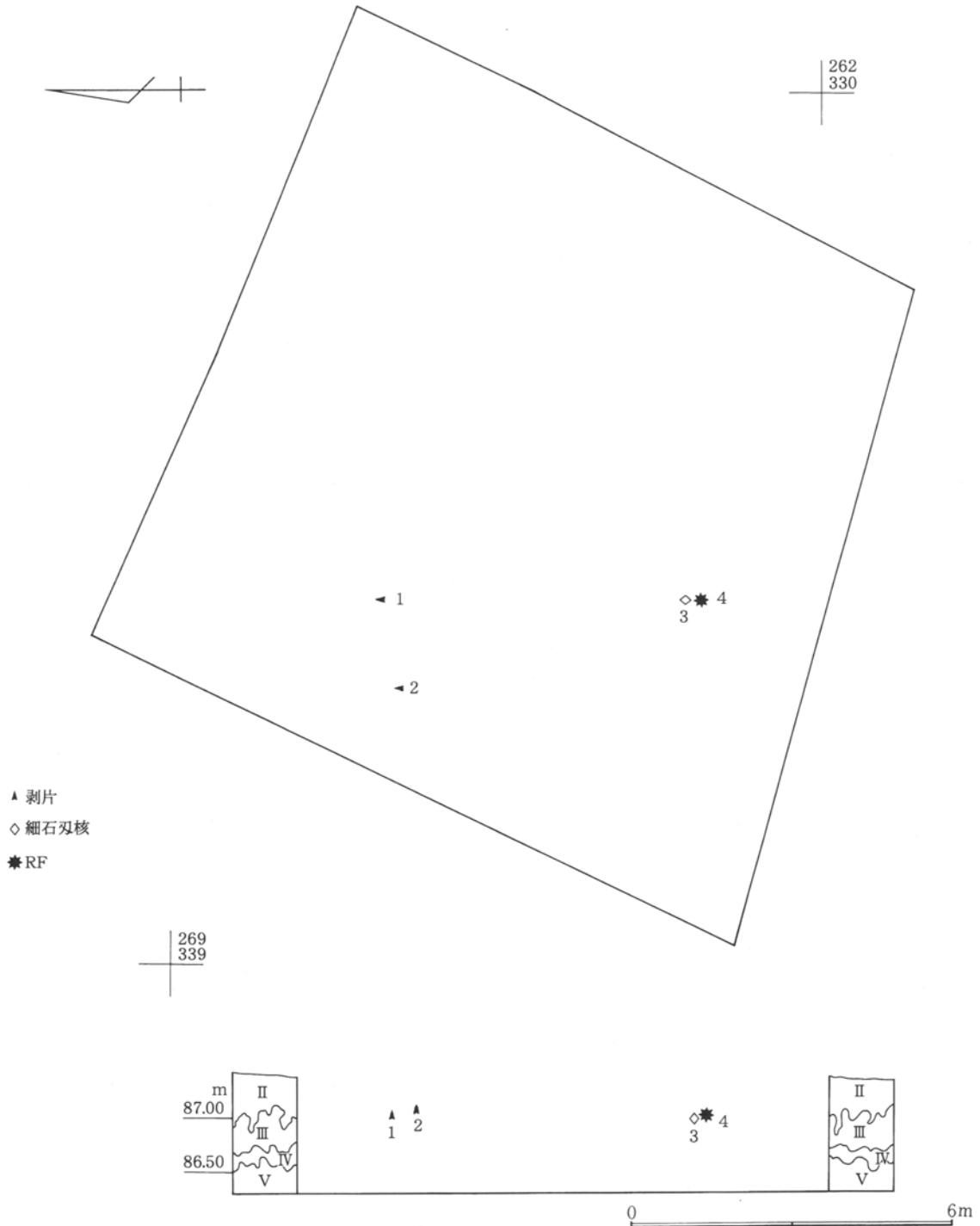


第247図 調査区 (A・B区) 全体図

第6章 旧石器時代

び、表土を除去するとすでにソフトロームが現れる状況であった。テフラとの関連では、II層に浅間一板鼻黄褐色軽石（以下 As-YP）、III層に浅間一大窪沢第1軽石（以下 As-OP 1）の混入が確認されたが、いずれも二次的な混入である。IV層には浅間一板鼻褐色軽石（以下 As-BP）が混入しており、一部層の上位でブロック状に堆積しているのが確認された。また、肉眼では観察できなかったが、テフラ分析の結果、VI層中に始良一丹沢火山灰（以下 AT）の混入が確認されている。

以下、各文化層ごとに記す。



第248図 B区第I文化層遺物出土状況

2. 第I文化層

1) 出土した石器

B区の西端から4点の石器が出土した。出土層位はIII層の上位に当たる。石器は散漫な分布を示しているが、調査区西端に集中し、調査区外に分布が延びるものと推測される(第248図)。事実、調査区西側を走る県道の拡幅工事に伴う発掘調査において、県道を挟んだ南西側で、同一の文化層に属する石器が発見されている。

4点の内訳は、細石刃核1点、二次加工ある剥片1点、縦長剥片が2点である。石材はいずれも黒色頁岩。接合資料はない(第249図)。

1は細石刃核である。素材は分割礫と考えられる。分割面を打面とし、打面側からの調整を両側面に加えて、細身の船底形に整形している。下縁側からの調整はみられない。その後長軸の一端に作業面を設定して少なくとも3枚の細石刃を剥離、反対側の端部には自然面を残している。いわゆる「ホロカ型」の細石刃核に分類できる。

2は二次加工ある剥片。大型の縦長剥片の背面右側の中央部に調整を加え、やや内湾した刃部を形成している。素材剥片は、大きな平坦打面を持つ。

3、4は縦長の剥片である。ともに両側が平行し、石刃状の形状を呈する。3は厚手で大型の剥片で、背面側に、剥片の剥離と同一方向からの剥離面が3枚認められる。打面は大きな平坦打面。4の背面も、剥片の剥離と同一方向からの剥離面で構成される。打面は剥離の際の加撃によって弾け飛んでいる。先端をわずかに欠損。

A区からは、試掘調査の際に、旧石器時代から縄文時代草創期に属すると考えられる石器が2点、ローム層上位から出土している(第249図)。明確な時期の特定はできなかったが、比較的時期の近い第I文化層の中で取り扱うこととする。

5は、スクレイパーである。両側の平行する縦長剥片を素材とし、腹面の両側に調整を加えている。素材剥片の打面は大きな平坦打面で、背面側に剥片の剥離方向と同一方向からの剥離面が2枚認められる。石材は黒色頁岩。

6は、大型の剥片である。打面から左側にかけて自然面が残っており、直方体状の原石を輪切りにするように剥離されたものと考えられる。石材は黒色安山岩である。

2) まとめ

以上6点の石器のうち、B区出土の4点は、「ホロカ型」細石刃核の存在から、細石刃石器群に位置付けられる。群馬県内で「ホロカ型」の細石刃核が出土した遺跡は、富士見村龍ノ口、宮城村の枅形・柏倉芳見沢、笠懸町和田遺跡などが知られている⁽¹⁾。これらのうち宮城村の遺跡では、細石刃核の形状の他に、大型の縦長剥片を伴う点でも共通しており、同一の段階に属するものと考えられる。テフラとの関連では、As-OP1を含むIII層上位からの出土であることから、As-OP1の降下年代より新しいことがわかる。As-YPとの前後関係は、本遺跡では確定できなかった。本県では、この他に「野岳・休場型」細石刃核を持つ石器群と、湧別技法による細石刃核を持つ石器群が知られている。このうち、湧別技法による細石刃核を持つ一群は標高100m前後の比較的低い地域の大きな河川付近に、その他は標高150~400mの高い地域に分布することが知られていた。この分布域の違いから、それぞれの石器群が、主たる生業を異にしていた可能性を指摘していた⁽²⁾。しかし、今回発見された光仙房遺跡は標高約88mと低く、従来の分布域とは異なった地域に位置して

いる。本遺跡に隣接する三和工業団地遺跡では、「野岳・休場型」細石刃核を持つ石器群も検出されており、標高差による石器群の違いは、再考しなければならないであろう。

また、A区出土の2点は、出土層位や石材の特徴、表面の風化の様子、石器の形状などから旧石器時代から縄文草創期に属する遺物と判断したが、正確な位置付けは難しい。B区の細石刃石器群に共伴する可能性も捨てきれないが、現段階では別と考えている。

3. 第II文化層

1) 概要

B区南西隅の地点から出土。遺物は主にIII層からIV層に分布する。石器は大きく2つのブロックに分かれて分布している(第250図)。このうち、東側の2ブロックには2基の礫群が伴う。出土層位や石器の様相に加え、石器1例と礫2個体がブロック間での接合関係が認められたため、2つのブロックは同時に形成されたものと判断した。

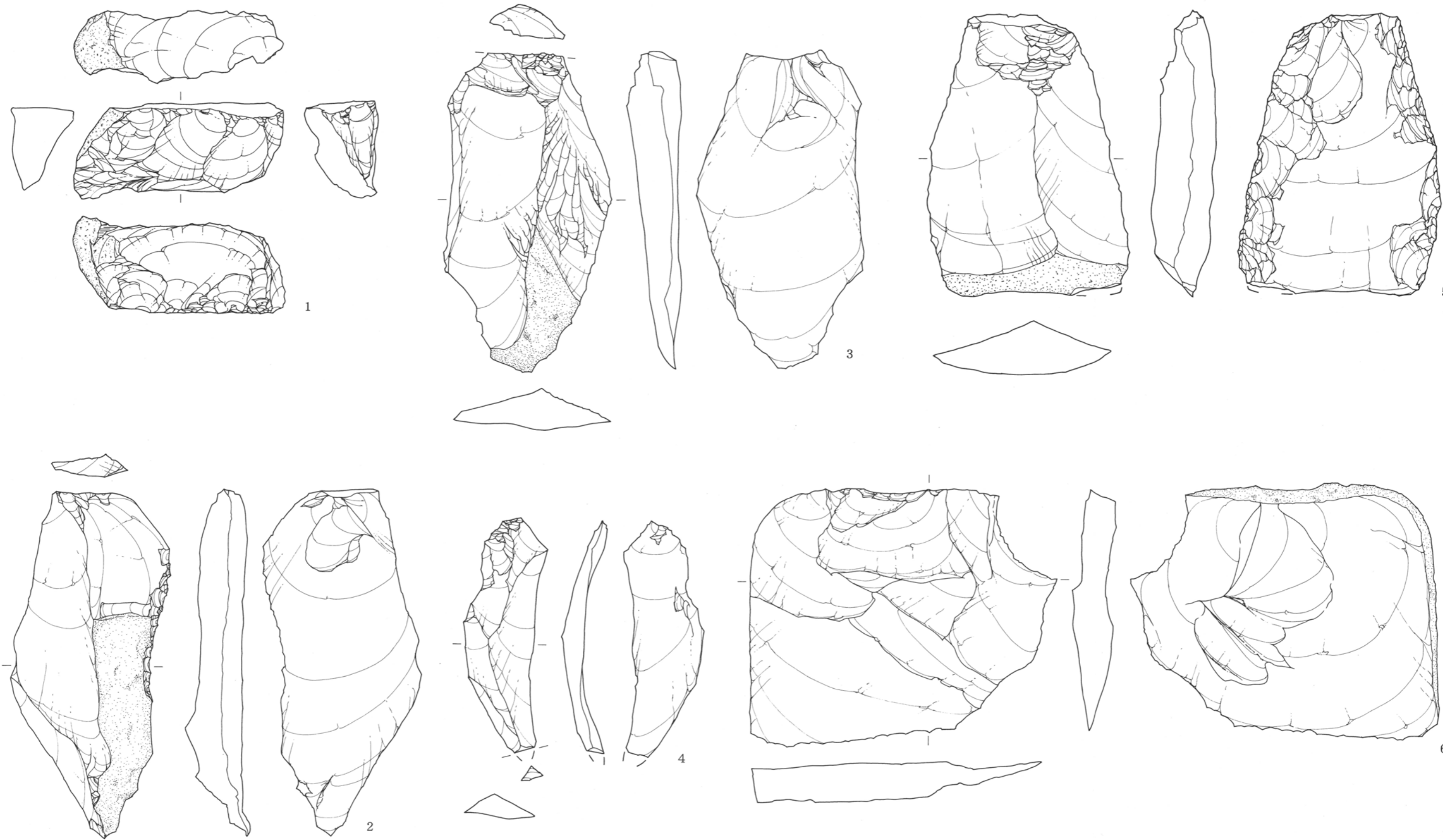
2) 石器の分布

2ブロック内の2基の礫群が集中した分布を示す他は、概して分布密度は高くない。接合率も低く、素材剥片の生産を含む一連の石器制作が行われていた可能性は低い。

1ブロックは、直径約5m程の範囲に29点の石器が散漫に分布する(第251図)。剥片と碎片が多いが、2点のエンドスクレイパーと、彫刻刀形石器、微細剥離痕ある剥片が各1点、二次加工ある剥片が3点含まれている。このうち、1点のエンドスクレイパーは刃部再生剥片と接合し(第258図接合資料-1)、適宜刃部再生を行いながらエンドスクレイパーを使用していたことが伺える。この他には、小型の剥片2点の接合例(第259図接合資料-5)と二次加工ある剥片が1点2ブロック出土の石器と接合するのみで(第255図15)、素材剥片の生産を含む剥片剥離工程が行われた痕跡は少ない。以上から、本ブロック内では、エンドスクレイパーや彫刻刀形石器を使用して、何らかの作業が行われていたものと考えられる。

2ブロックは、長軸約6m、短軸約3mの楕円形状に石器が分布、ほぼ両端にそれぞれ礫群が位置している。全点数中の66.2%に当たる104点が礫で、その他の石器は53点にすぎない。礫以外は特に集中する部分はなく、全体に分布している。礫以外の石器は、彫刻刀形石器4点(接合後3点)、尖頭器と石核が各2点、エンドスクレイパー1点、二次加工ある剥片4点などが含まれ、1ブロックに比べ加工された石器の比率が高い。接合資料は、1ブロックとの間の1例をのぞき、4例が存在する。このうち接合資料-3は、石核と小型の剥片が接合する。石核はこのほかにもう1点が本ブロックに存在するが、ともに消耗の度合いが非常に高く、さらなる剥片剥離は望めそうにない。特に接合資料-3では、小型の剥片の剥離によって作業面に大きなステップが生じ、そのために廃棄されたと考えられる。おそらく、剥片剥離がかなり進行した段階の石核を持ち込んで、ごく少数の剥片を剥離した後に、素材として使用可能なもののみ搬出したのであろう。また、接合資料-2は剥片と二次加工ある剥片の接合例だが、両者の剥離の間に剥離された剥片が見つかっておらず、ともに外部から素材剥片として搬入された可能性が高い。以上から、本ブロックではごく小規模な剥片剥離と、彫刻刀形石器や尖頭器などの加工が行われていたものと推測される。また、礫群中には接合資料-6のように熱ではじけた礫や、被熱した礫がかなりの割合で認められた。これらの礫は接合するものも多く、礫群間での接合も複数認められる(第253図)。一部は1ブロックの礫と接合するものもあった。礫群間、ブロック間での接合が見られることから、火を使用した作業の後に一括して廃棄された可能性が考えられよう。

石材別の分布では、比較的比率の高い珪質頁岩、黒色頁岩が偏った分布を示さないのに対し、黒色安山岩



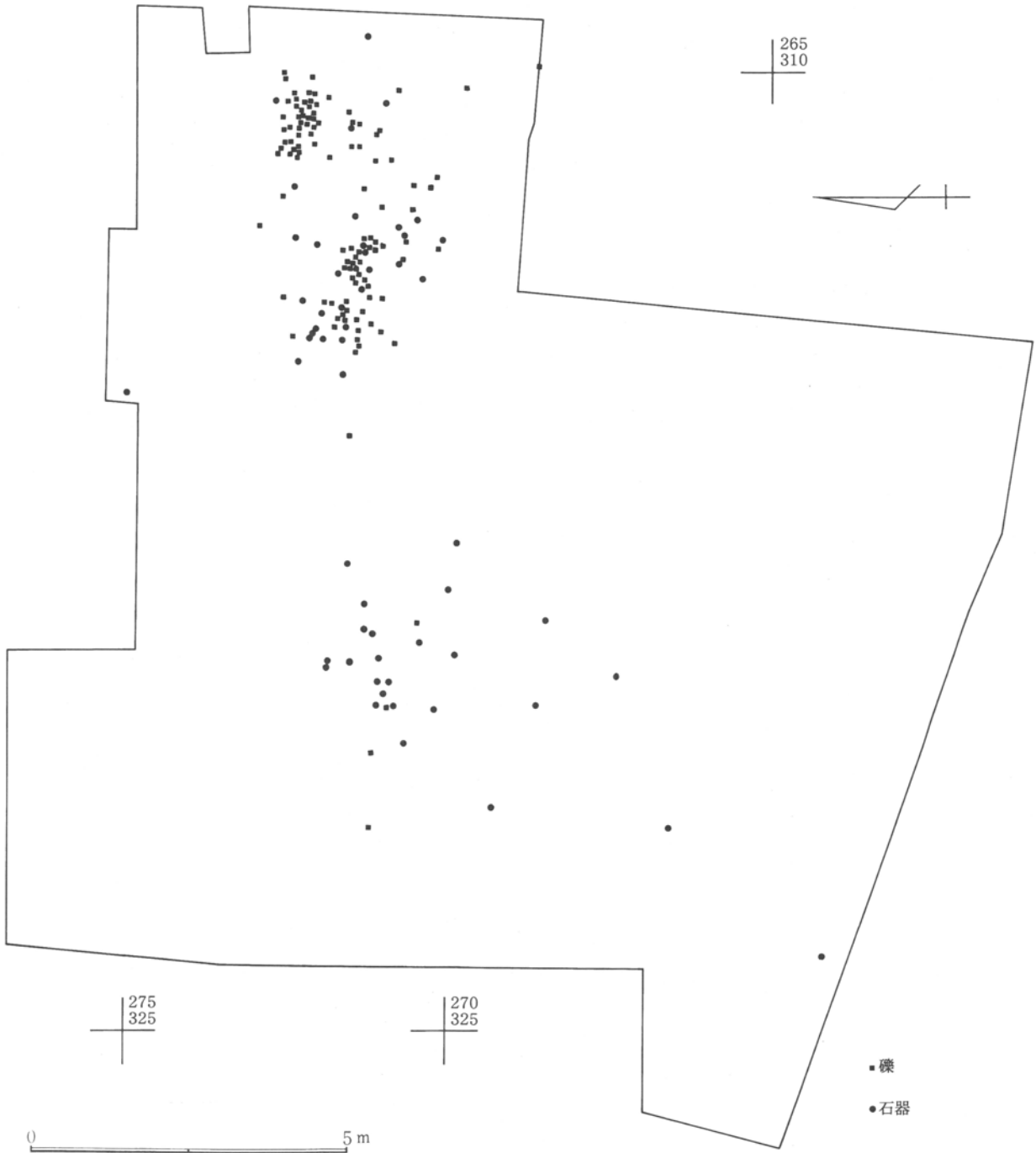
第249图 B区第I文化層出土石器(1~4)·A区出土石器(5·6)

0 5cm

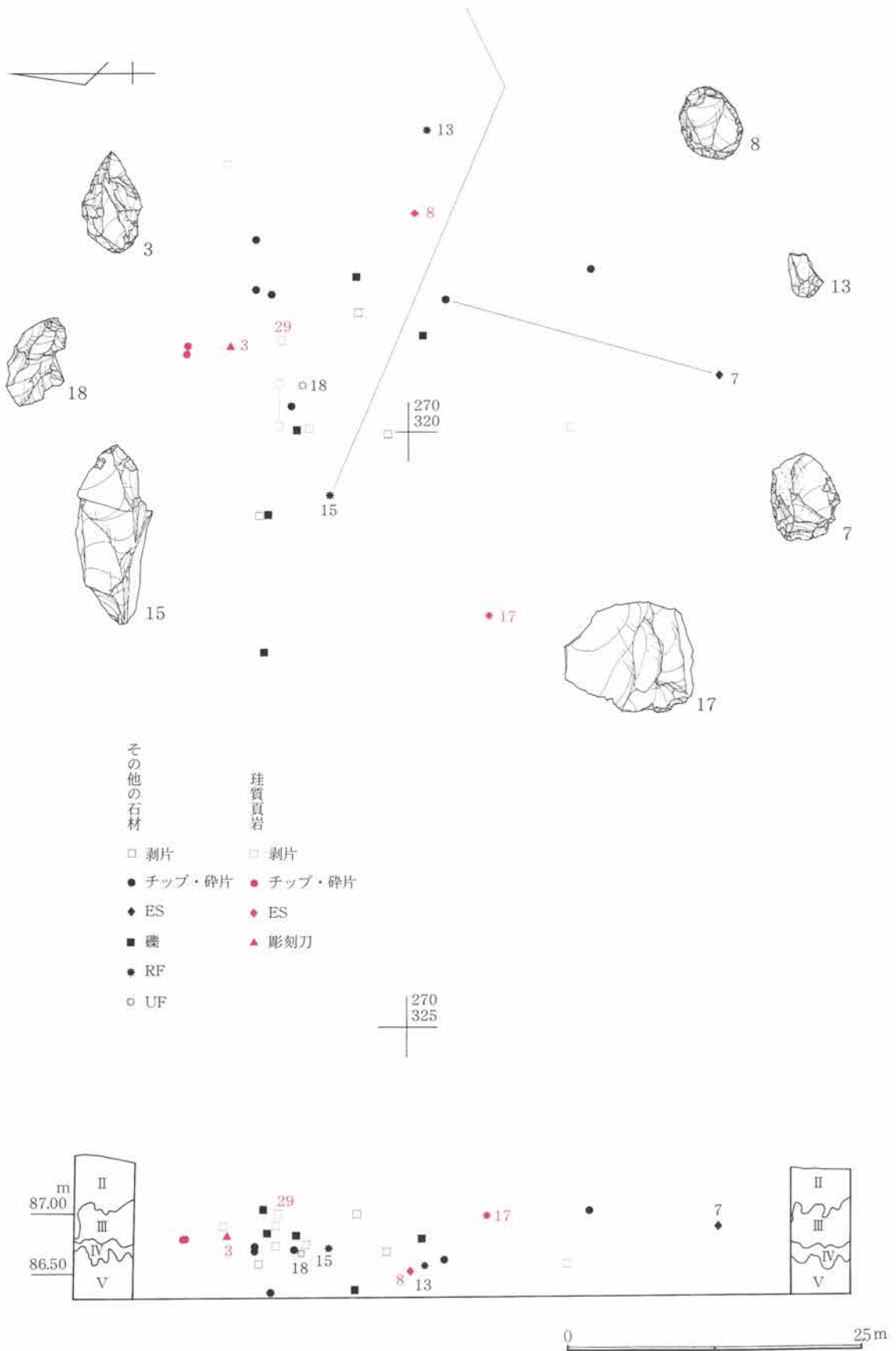
はほとんどすべてが2ブロックに集中する。

3) 出土した石器

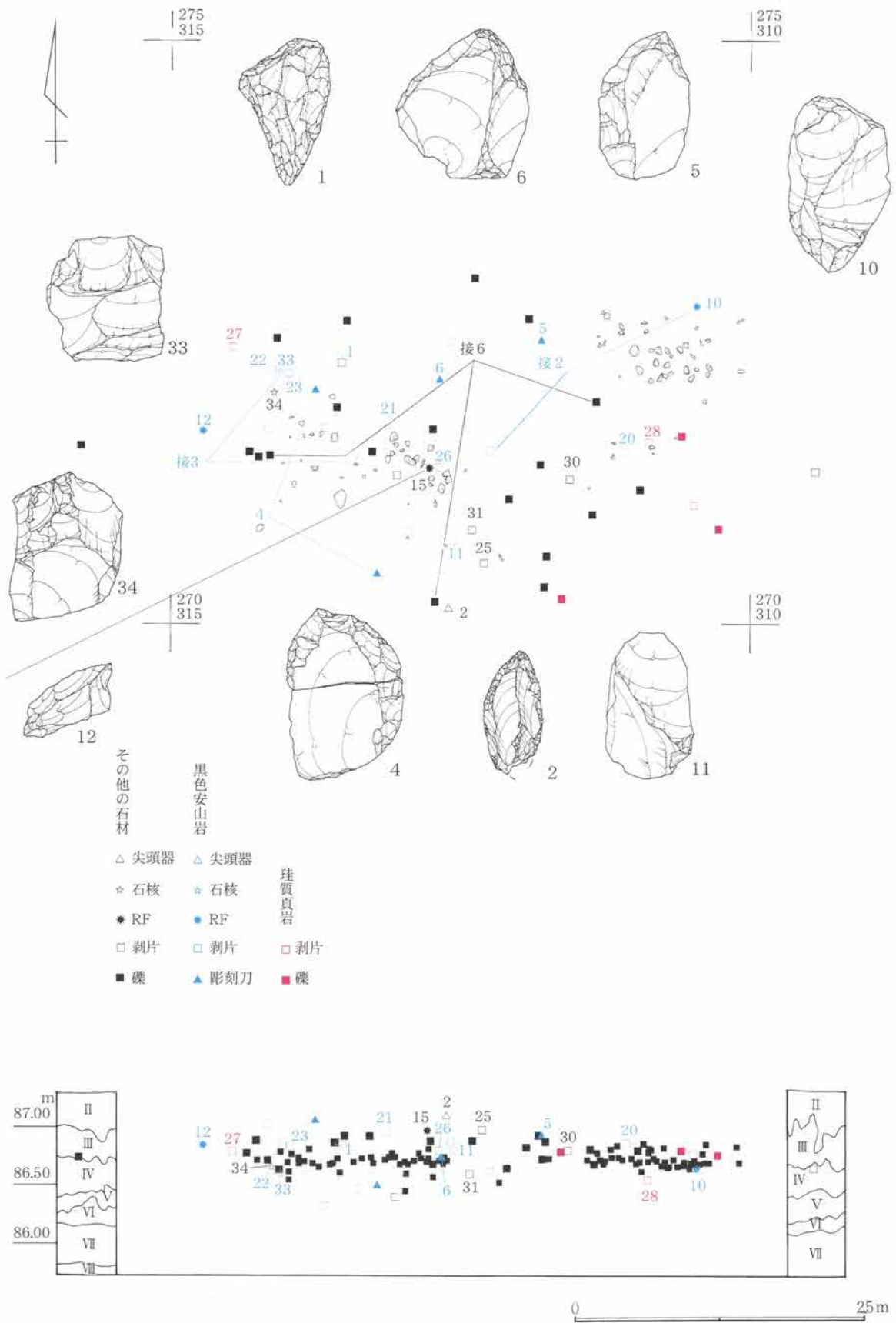
石器は総数193点で、内訳は、尖頭器2点、彫刻刀形石器5点（接合後4点）、エンドスクレイパー3点、二次加工ある剥片9点（接合後8点）、微細剥離痕ある剥片1点、剥片33点、碎片8点、石核2点、礫130点である。礫以外の石器の石材は、黒色安山岩が全体の4割を占める。ついで珩質頁岩が22%、黒色頁岩17%、その他黒曜石、チャート、玉随などがわずかに含まれる。礫では粗粒輝石安山岩が全体の6割と最も多く、ついで溶結凝灰岩が2割近くを占める。その他にチャート、ホルンフェルス、珩質頁岩、石英斑岩、点紋頁



第250図 B区第II文化層遺物出土状況



第251図 1 ブロック遺物出土状況

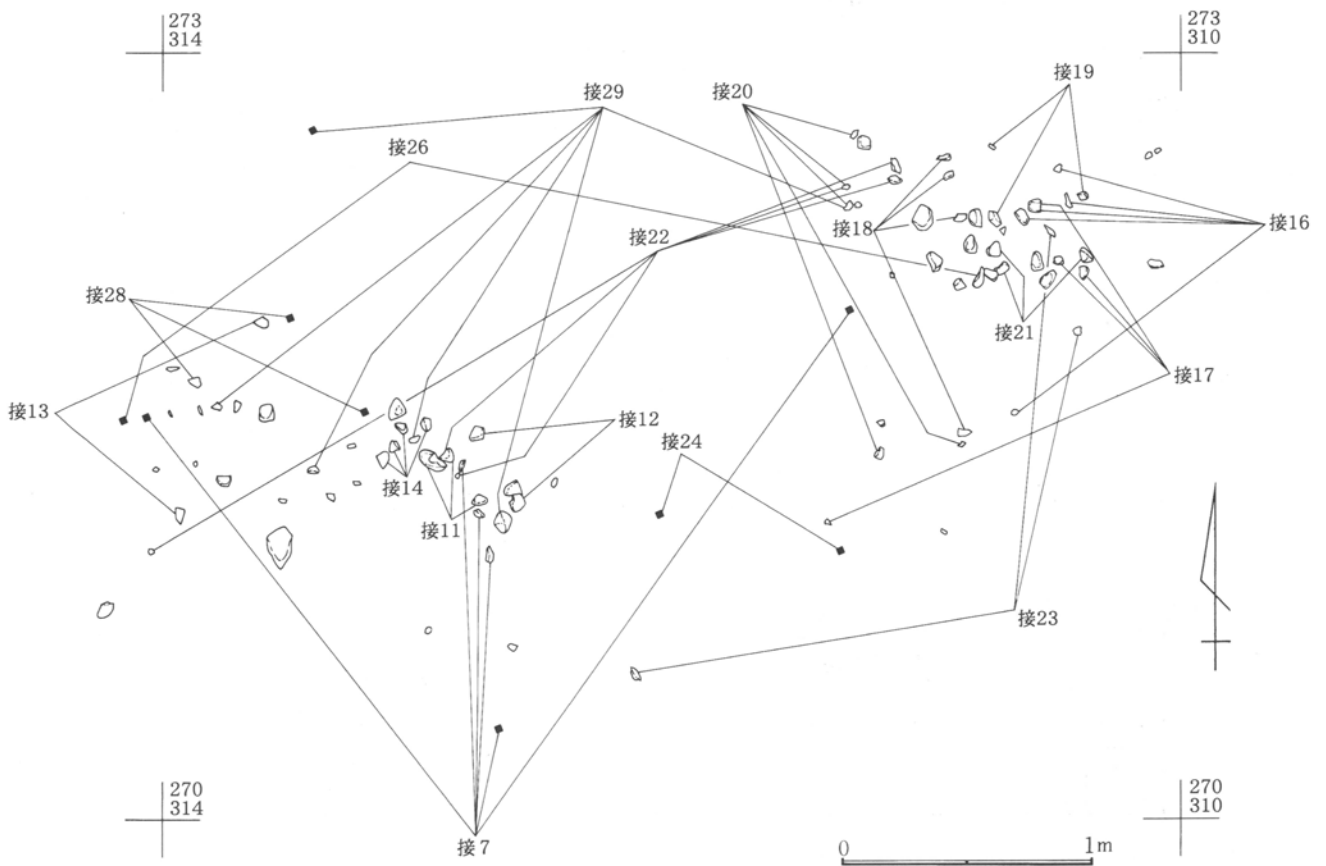


第252図 2ブロック遺物出土状況

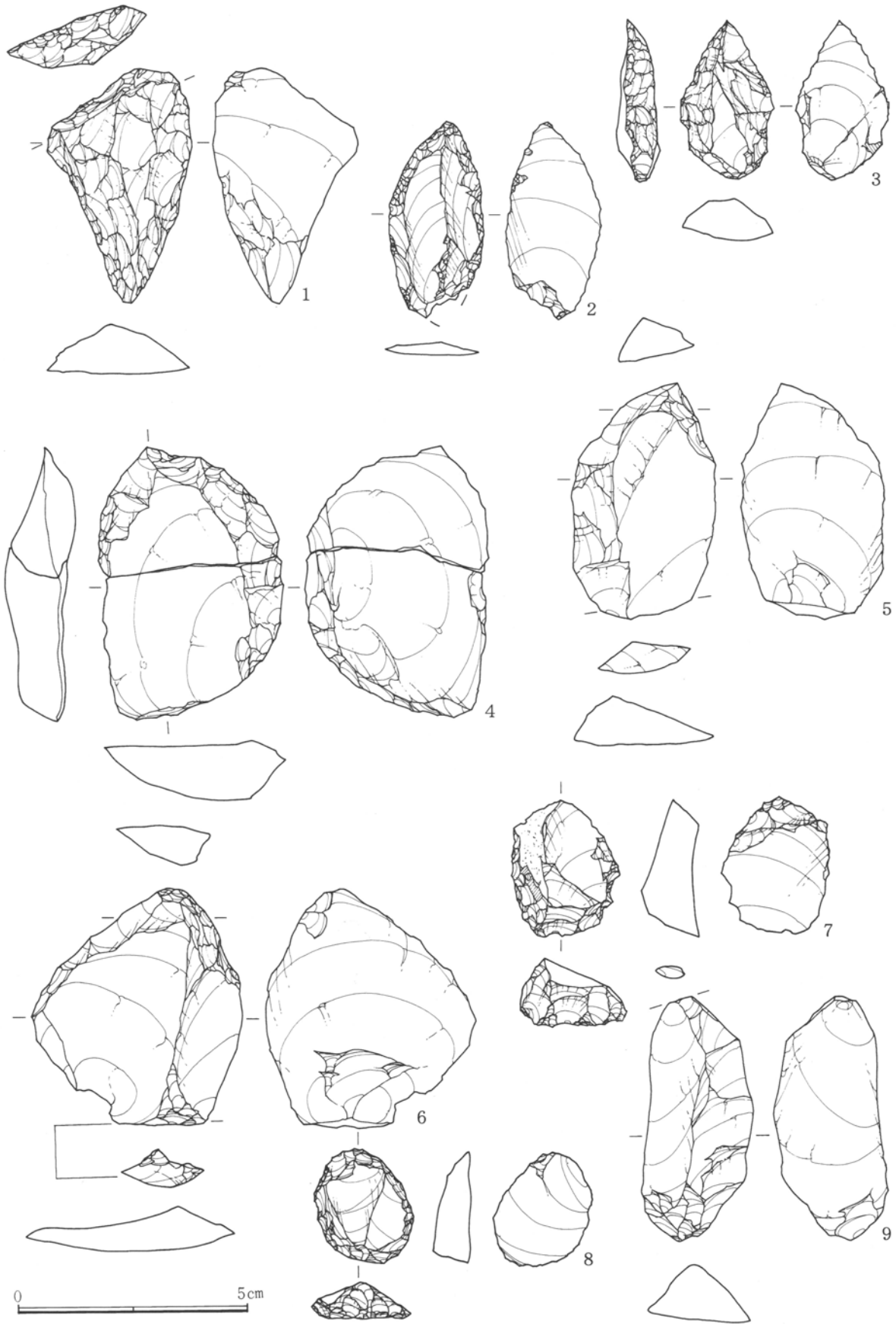
岩などが含まれる。礫の石材組成は、遺跡周辺の大間々扇状地の構成礫組成によく類似しており⁽³⁾、近隣の低地などから採取してきたものと考えられる。以下、各器種ごとに記す（第254～257図）。

尖頭器（1・2） 1は、一見すると尖頭器とは思われないが、先端部を欠損した後に再調整が施されたものと判断した。左右非対称の形状から、東内野型の有樋尖頭器であった可能性が考えられる。調整は背面に集中し、腹面側では器体基部、素材剥片の打面部付近に限られる。上部では、折れ面に急角度の調整が加えられている。石材は黒色安山岩。2は、片面周辺加工の尖頭器である。薄手の縦長剥片を素材とし、背面周辺に調整を加えて成形する。調整は特に先端部に集中する。基部はわずかに欠損。石材は良質の黒曜石。1、2ともに2ブロック出土。

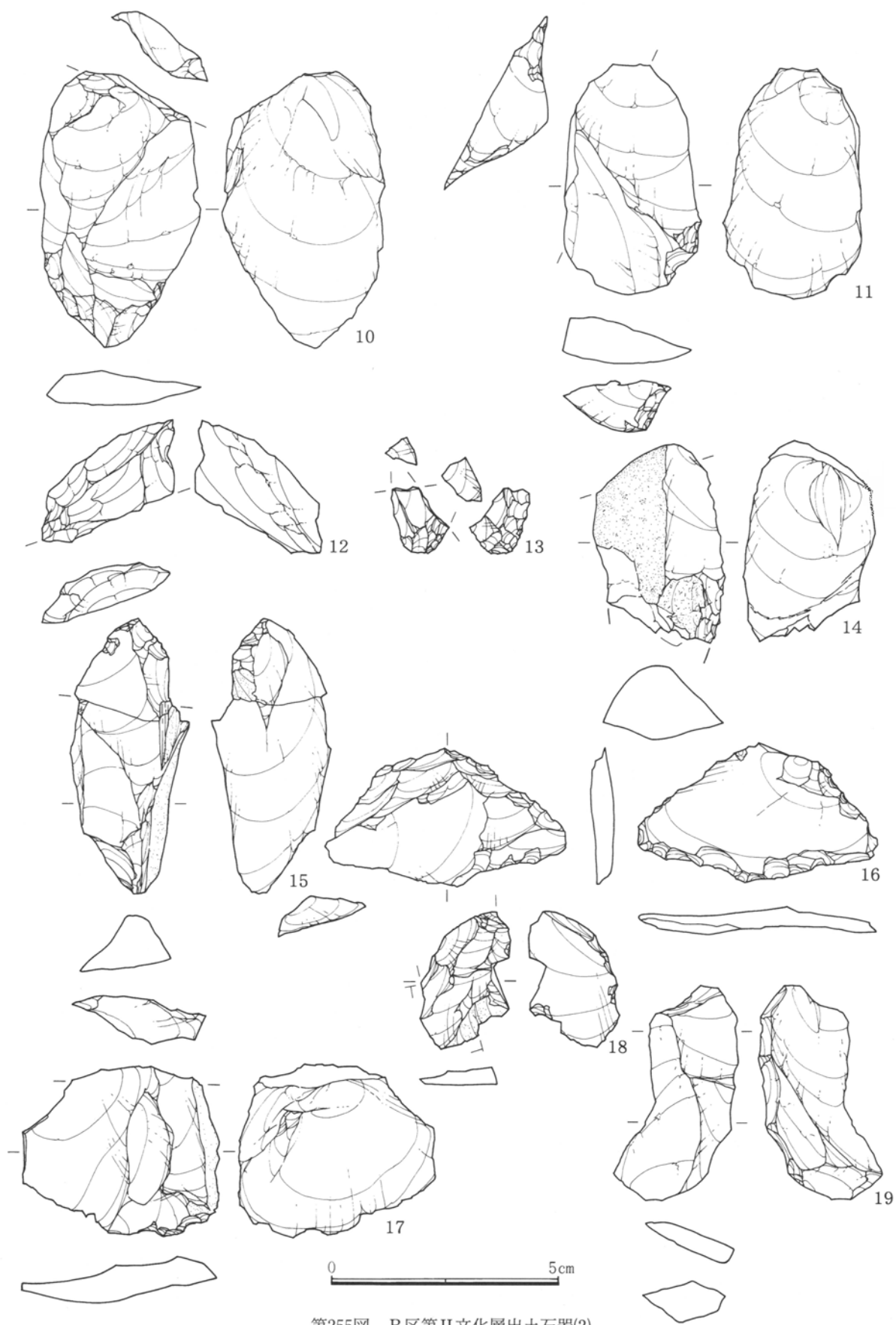
彫刻刀形石器（3～6） 3は、剥片の背面周辺にやや急角度の調整加え尖頭器状に整形した後に、器体右肩に彫刻刀面を刻む。基部に素材剥片の打面とバルブを残す。打面は平坦打面である。石材は珪質頁岩。4は、横長剥片の背面に調整を加えた後に、器体左側に彫刻刀面を刻む。ほぼ中央部で2つに割れている。背面の調整は器体右側と左側の上位のみで、素材剥片の打面とバルブはそのまま残している。先端部右側はわずかに内湾しており、彫刻刀面作出の際の打面として意識的に調整されたのであろう。石材は黒色安山岩。5は、縦長剥片の背面先端部に調整を加えた後、器体左側に彫刻刀面を刻む。基部は未加工のまま残され、素材剥片の打面とバルブを残す。石材は黒色安山岩。6は、幅広の剥片の背面先端部に調整加え、器体左側に彫刻刀面を刻む。彫刻刀面は2回作出されているが、再度先端部に調整が加えられており、彫刻刀面の再生を意図したものと考えられる。基部は未加工。石材は黒色安山岩。3のみ1ブロックからの出土で、他はすべて2ブロックに属する。



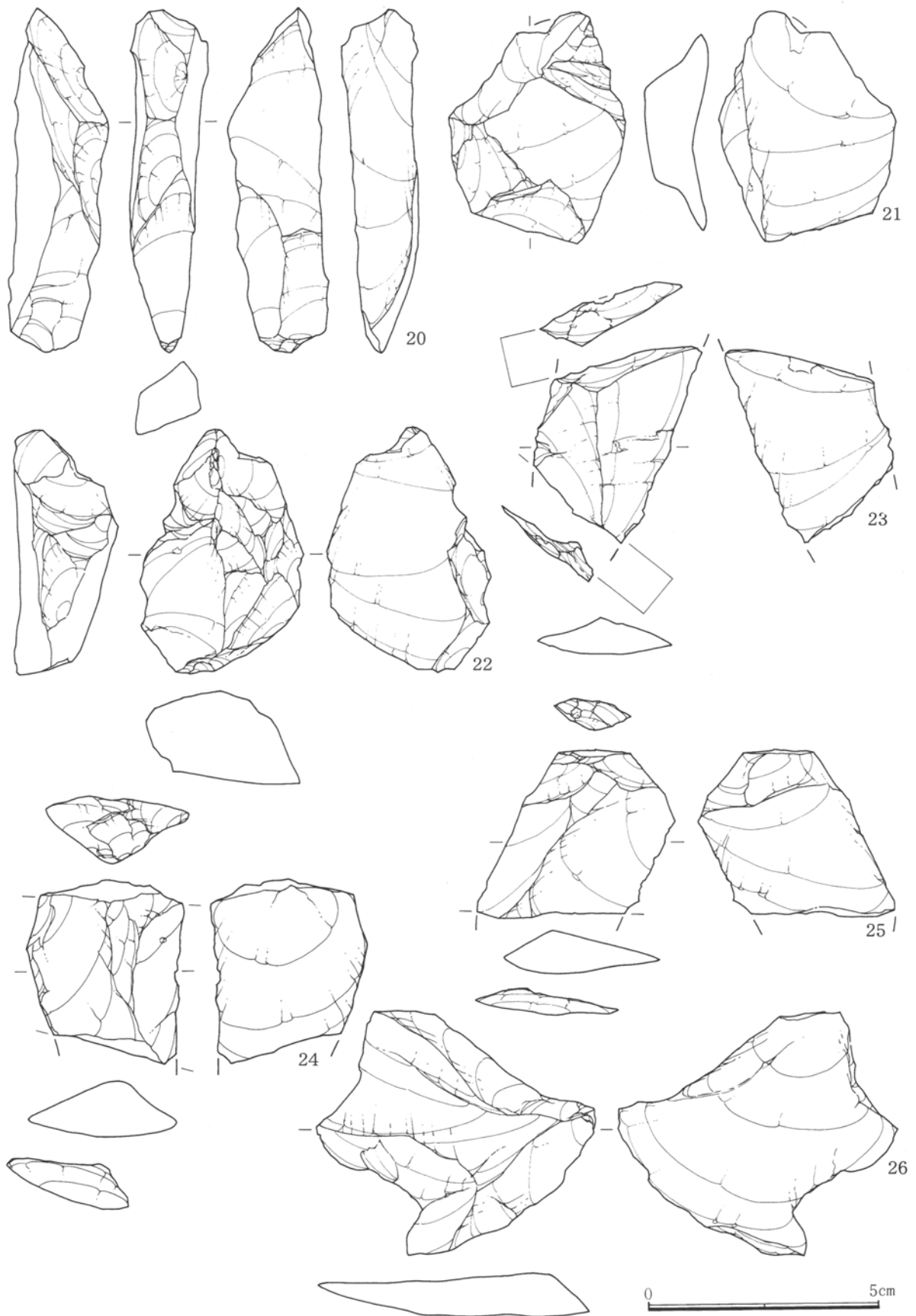
第253図 2ブロック礫接合状況



第254图 B区第II文化層出土石器(1)



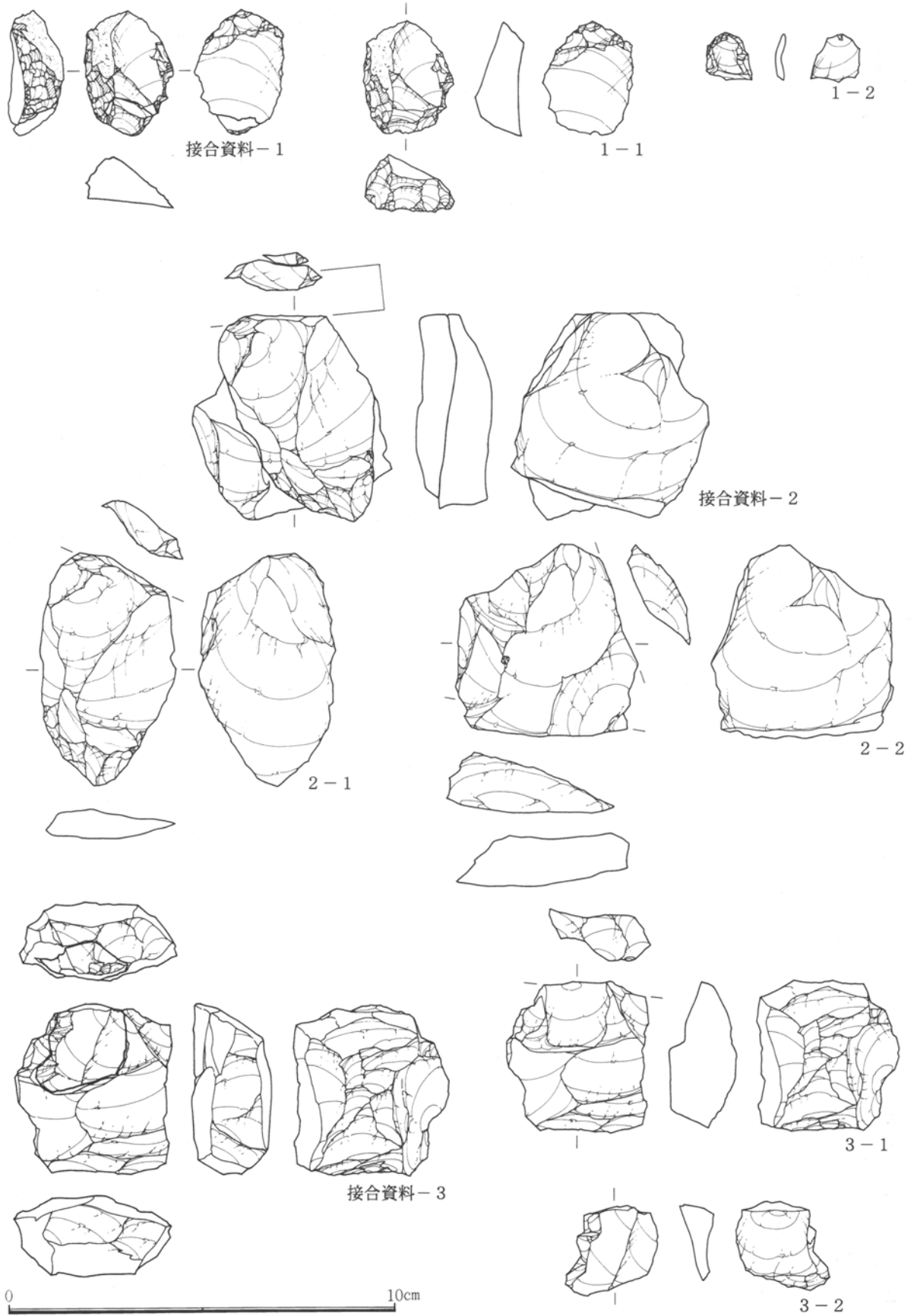
第255图 B区第II文化層出土石器(2)



第256图 B区第II文化層出土石器(3)



第257图 B区第II文化層出土石器(4)



第258図 B区第II文化層接合資料(1)

第6章 旧石器時代

以上のように、本遺跡出土の彫刻刀形石器は、やや厚手の剥片を素材とし、背面の先端部を中心に調整を加えた後に彫刻刀面を作出する。先端は尖頭状に尖る。調整は彫刻刀面を作出する際の打面部が中心で、素材の形状を大きく変えることはなく、素材の打面やバルブも残している。素材となった剥片の形状はまちまちで、彫刻刀形石器の形状も素材剥片の形状に左右されている。

エンドスクレイパー(7~9) 7は、小型の剥片のほぼ全週に急角度の調整加えて成形し、端部に刃部を作出する。刃部の調整剥離はやや大雑把で、鋸歯状を呈している。調整は背面側に集中し、腹面側では基部に平坦剥離が施されているのみである。石材はチャート。8も小型の剥片を素材とし、背面全週にやや急角度の調整加え端部に弧状の刃部を作出する。石材は珪質頁岩。9は、縦長剥片の背面先端に調整加え刃部を作出。調整は刃部のみで、ごくわずかである。石材は黒色安山岩。7、8は1ブロックからの出土で、9のみ2ブロック出土。

二次加工ある剥片(10~17) 10は、縦長剥片の背面先端に調整が施される。先端は尖頭状に整形されており、彫刻刀形石器の未製品の可能性が高い。石材は黒色安山岩。11は、縦長剥片の背面右先端に部分的な調整が見られる。石材は黒色安山岩。12は、剥片の背面両側に調整が認められるが、両端を欠損しているため全体の形状は不明。石材は黒色安山岩。13は、剥片の両面周辺に調整が加えられる。小破片のため形状は不明であるが、比較的調整の頻度が高いことから、尖頭器の破片である可能性が考えられる。石材は黒色頁岩。14は、縦長剥片の背面右側に一部調整が認められる。石材は黒色頁岩。15は、縦長剥片の背面打面付近に不規則な調整が加えられる。器体上位で2点に割れている。石材は黒色頁岩。16は、横長剥片の腹面端部に不規則な調整が加えられる。背面の一部にも調整が見られる。石材は黒色頁岩。17は、横長剥片の背面端部に一部不規則な調整が認められる。石材は珪質頁岩。10~12は2ブロック、13、14、17は1ブロック、15は両ブロックに分かれて出土、16はブロック外である。

微細剥離痕ある剥片(18) 黒曜石の縦長剥片の背面一侧に微細な剥離痕が並ぶ。裏側には刃こぼれ状の小剥離が認められ、使用による痕跡と考えられる。上半を欠損。1ブロックからの出土。

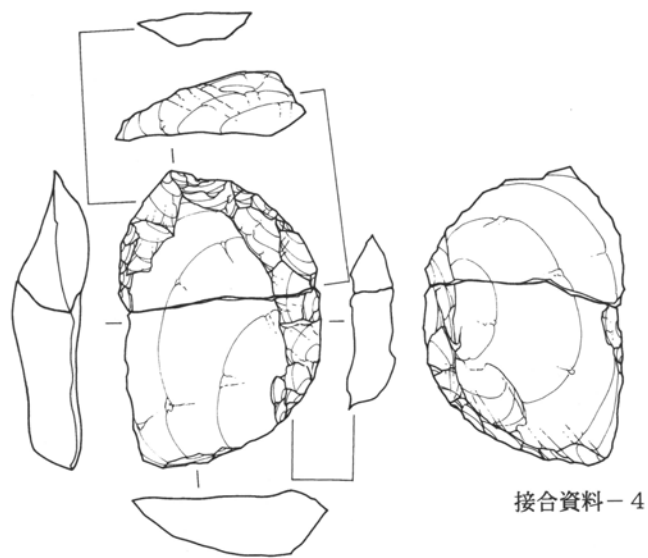
剥片(19~32) 19は、縦長の剥片であるが、背面側に稜状の調整が見られる。また剥離方向が一方に捻れており、大型の彫刻刀削片の可能性もある。石材は黒色安山岩。20~26は、黒色安山岩製の剥片である。形状の整った石刃状のものはないが、石核の形状から、20や23~25のような縦長の剥片を目的として剥片剥離を行っていたものと推測される。27~29は珪質頁岩製、30は黒曜石、31は玉髄、32は黒色頁岩の剥片である。30は全体に小さな夾雑物を多量に含み、背面に大きく自然面を残す。剥片が剥がされた原石が、かなり小型の円礫であったことがわかる。29のみ1ブロック出土で、他はすべて2ブロックに属する。

石核(33・34) 33は薄い直方体状で、主に表面で剥片剥離を行っている。上面に打面を設定し、適時打面再生を行いながら剥片を剥離。表面中央で剥片を剥離した際に大きくステップ状となってしまったため、放棄されたと考えられる。石材は黒色安山岩。34は、背面に自然面を残すことから、厚手で大型の剥片、もしくは分割礫を素材とするものと考えられる。形状は薄手の直方体状で、上下に打面を設定し、打面の再生と移動を繰り返しながら剥片を剥離している。両側でも剥片を剥離した痕跡が認められ、作業面も移動していたようである。石材は黒色頁岩。2点とも2ブロック出土。

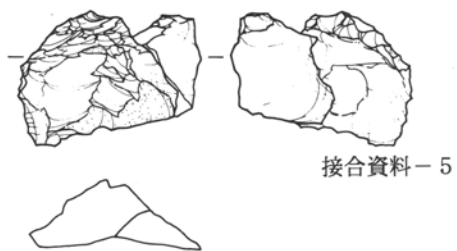
4) 接合資料

第II文化層では、7例の接合資料が得られた。このうち、1例は、第255図15の二次加工剥片であるため、ここでは割愛した。残り6例について記す(第258・259図)。

接合資料一 1 2点の資料からなる。エンドスクレイパー(1)とその調整剥片(2)が接合した。接合



接合資料-4



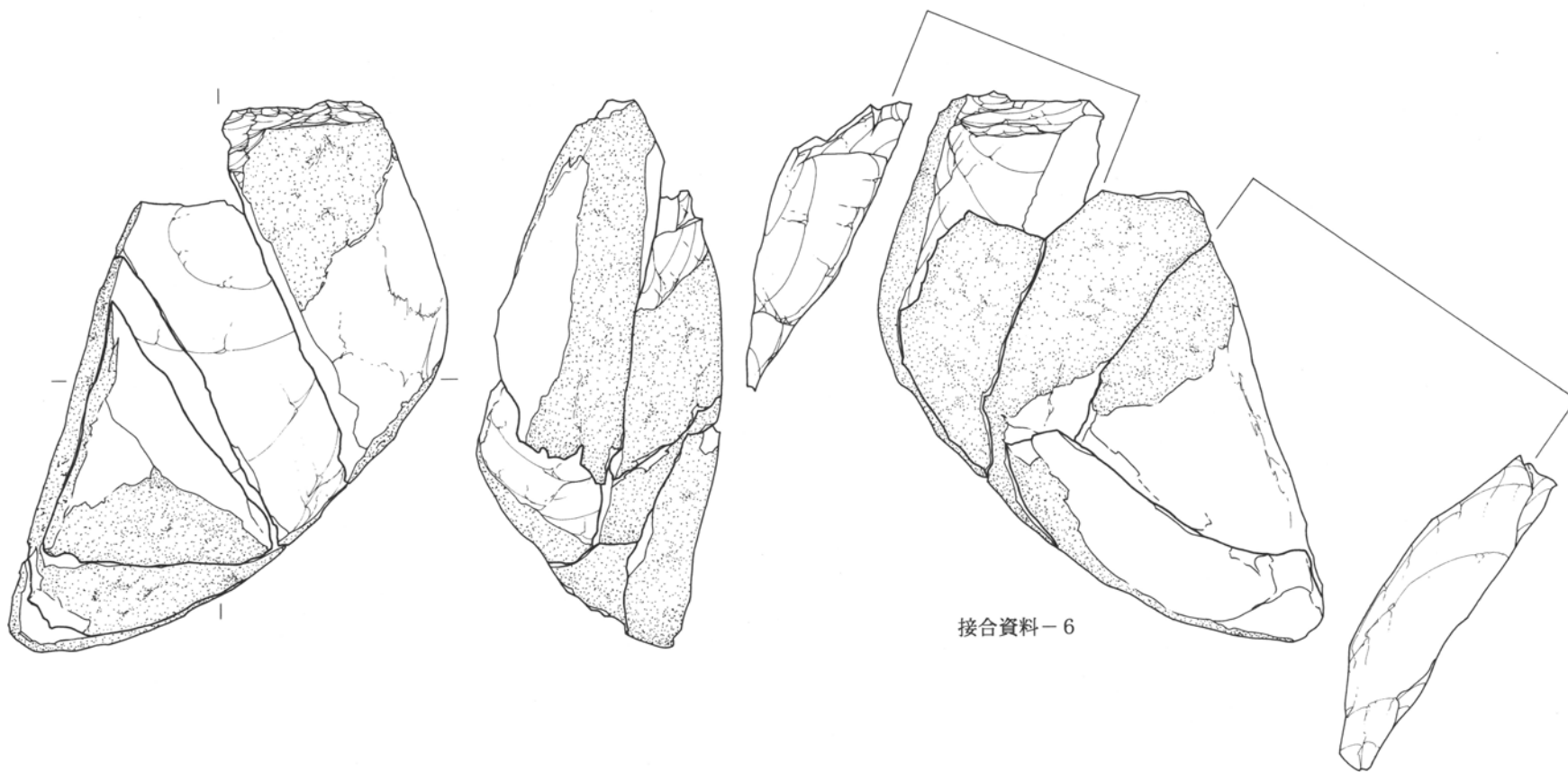
接合資料-5



5-1



5-2



接合資料-6

0 10cm

第259图 B区第II文化層接合資料(2)

状態では、エンドスクレイパーの刃部は弧状になっており、使用と刃部再生を繰り返して最終的に廃棄されたものと考えられる。石材はチャート。

接合資料—2 2点の資料からなる。二次加工ある剥片(1)と剥片(2)が接合。1の剥離後、同一の打面から小型の剥片が剥離され、続けて2も剥離された。縦長の剥片を意図しながら打面・作業面を固定して剥片剥離を行い、より縦長で形状が整っていた1の剥片が加工された。石材は黒色安山岩

接合資料—3 2点の資料からなる。石核(1)と剥片(2)が接合。上面を打面として縦長の剥片を剥離していたが、2の剥離によって作業面に大きなステップが生じ、廃棄された。2の剥片も素材とするには小型であったため、加工されずに廃棄されたのであろう。石材は黒色安山岩。

接合資料—4 2点の資料からなる。彫刻刀形石器が中央から折れたものである。石材は黒色安山岩。

接合資料—5 2点の資料からなる。ともに剥片で、短期間に連続して剥離されたものと考えられる。打面は2点とも調整打面で、腹面側にやや傾斜する。いわゆるポイントフレイクで、かなり大型の両面調整の石器を製作した際に剥離された可能性が高い。石材は珪質頁岩。

接合資料—6 6点の資料からなる。大型の亜円礫が熱によって弾けたものである。石材は点紋頁岩。

この他に、礫の接合例が21例ある(第253図)。

5) まとめ

本遺跡の第II文化層は、槍先形尖頭器石器群に位置付けられる。槍先形尖頭器は、わずか2点の出土であるが、ともに片面加工である。器種組成の特徴としては、尖頭器の他に彫刻刀形石器、エンドスクレイパーを含み、ナイフ形石器が欠落することが挙げられる。本遺跡は小規模なブロック群であり、本来の器種組成が全て揃っている確証はないが、ナイフ形石器の比重が低かったことは指摘できよう。また、ツールの素材は縦長剥片が多いものの、石刃状のものは皆無であり、横長剥片や縦横の比率がほとんど同じ剥片も使われている。使用される石材は黒色安山岩など在地系の石材が大半を占め、黒曜石はごくわずかである。

本石器群の詳細な年代的位置付けを、槍先形尖頭器の形態から考えるのは困難である。わずか2点しか出土しなかったのに加え、元来この段階の槍先形尖頭器の形態がバラエティーに富み、再調整などによる形態変化が激しいためである。従って、その他の器種組成や使用石材などの特徴から考えると、群馬県内では下触牛伏遺跡第I文化層に最も近い⁽⁴⁾。ただし、下触牛伏遺跡では依然としてナイフ形石器が主要な器種であり、ツールの素材においても石刃の占める割合が高い。この2点は、両者の間の大きな差違として捉えられる。従来槍先形尖頭器段階の変遷は、その前段階に主要な器種であったナイフ形石器に対し、槍先形尖頭器が出現、次第に主要な器種として置き換わっていく過程として捉えられる。それにつれて、ナイフ形石器の素材生産に重要な位置を占めていた石刃技法が減少し、その他の剥片剥離の方法が採られていく。このような変遷観に従うなら、本石器群は、ナイフ形石器の減少、ツールの素材剥片の形状などから、下触牛伏遺跡第I文化層よりも新しい段階に位置付けられよう。

註

- (1) 原田恒弘・中東耕志「勢多郡富士見村龍ノ口遺跡試掘調査報告書(1)」[群馬県立歴史博物館調査報告] 1 1985
関矢 晃「柃形遺跡調査報告書」宮城村教育委員会 1981
若月省吾「和田遺跡」[笠懸村史別巻1] 1983
宮城村柏倉芳見沢遺跡については未報告であるが、「市之関前田遺跡I」(宮城村教育委員会 1991)中に紹介されており、筆者も実見している。
- (2) 桜井美枝「北関東の細石刃文化」[細石刃文化研究の新たなる展開I] 佐久考古学会、八ヶ岳旧石器研究グループ 1993
- (3) 津島秀章「IV 大間々扇状地構成礫の調査と石器石材の獲得」[三和工業団地I遺跡(1)] 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999
- (4) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「下触牛伏遺跡」1986

第6章 旧石器時代

第I文化層出土石器属性表

No.	掲載No.	X	Y	Z	器種	石材	グリッド	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
1	1	6.04	5.62	87	M C	黒頁	263-335	—		7.4	2.6	1.4	12.09
2	2	5.84	6.44	87.05	R F	黒頁	263-335	—		10	5.3	1.7	60.3
3	3	3.22	5.62	86.99	剥片	黒頁	265-336	—		6.8	3	2.4	48
4	4	3.06	5.64	87.04	剥片	黒頁	266-335	—		10.9	5	0.9	73.5
5	5				S S	黒頁	295-375	—		8.8	6.4	1.6	98.63
6	6				剥片	黒安	290-360	—		8	9.6	1.2	121.92

第II文化層出土石器属性表

No.	掲載No.	X	Y	Z	器種	石材	グリッド	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
4	24	4.17	3.86	86.82	剥片	黒安	260-320	外		10.9	5	0.9	73.50
5	14	1.55	1.85	86.78	R F	黒頁	265-320	外		4.4	2.9	1.6	20.72
6	17	4.31	1.55	86.99	R F	珪頁	265-320	1		3.8	4.3	1	14.91
7		1.21	1.86	87.03	レキ	粗安	270-320	1		3.6	2.3	2.7	31.58
11		1.20	0.70	86.83	レキ	ホル	270-320	1	26	5	4.7	3.9	83.30
12	15	0.66	0.53	86.70	R F	黒頁	270-320	1	4	4.1	2.5	1.1	11.76
13		0.17	0.02	86.67	剥片	黒頁	265-315	1		2	1.2	0.2	0.61
15		3.62	4.96	86.59	剥片	珪頁	265-315	1		1.6	1	0.3	0.33
16	7	2.36	4.52	86.87	E S	チャ	265-315	1	1-1	3	2.4	1.1	8.74
18		4.88	4.19	86.78	レキ	粗安	265-315	1		7.7	6.5	5.6	211.50
19		4.69	3.89	86.60	碎片	チャ	265-315	1	1-2	1.3	1.2	0.2	0.33
21	8	4.95	3.17	86.52	E S	珪頁	265-315	1		2.3	2.2	0.7	4.18
22	13	4.84	2.27	86.55	R F	黒頁	265-315	1		1.4	1.3	0.6	0.91
23		0.44	3.70	86.35	レキ	ホル	270-315	1	26	2.2	2.4	1.5	8.24
25		0.42	4.00	86.99	剥片	粗安	270-315	1		2.9	2.2	0.8	3.64
26		0.84	4.98	86.74	剥片	珪頁	270-315	1		1.3	0.9	0.2	0.31
27		0.94	4.99	86.81	レキ	粗安	270-315	1	27	6.5	7.6	4.9	280.10
28		0.98	4.78	86.69	碎片	黒曜	270-315	1		1.1	0.6	0.3	0.17
29		1.09	4.60	86.73	剥片	珪頁	270-315	1	5-1	3.8	3	0.9	5.86
30	18	0.90	4.62	86.66	U F	黒曜	270-315	1		3	1.4	0.4	2.08
31	29	1.07	4.24	87.00	剥片	珪頁	270-315	1		2.3	2.5	1.2	4.46
32	3	1.50	4.30	86.78	B U	珪頁	270-315	1		6.9	4	1.8	5.38
33		1.87	4.33	86.78	碎片	珪頁	270-315	1		1.3	0.8	0.1	0.15
34		1.86	4.30	86.78	碎片	珪頁	270-315	1		1.3	0.9	0.2	0.22
35		1.29	3.81	86.68	碎片	黒頁	270-315	1		0.7	0.8	0.2	0.11
36		1.19	3.85	86.33	碎片	黒曜	270-315	1		0.9	0.6	0.2	0.11
37		1.29	3.39	86.71	碎片	黒頁	270-315	1		1.1	1	0.2	0.25
38		1.54	2.76	86.89	剥片	珪頁	270-315	1		3	1.4	0.3	0.93
39		3.45	3.63	87.01	碎片	玉随	265-315	1		1.2	0.9	0.4	0.35
41-1		1.52	0.77	86.75	レキ	粗安	270-315	外	30	5.4	3.9	5.3	119.60
41-2		1.52	0.77	86.75	レキ	粗安	270-315	外	30	3.4	3	3.5	30.60
42	12	1.65	4.71	86.84	R F	黒安	270-310	2		3.7	2.7	0.7	5.86
43	27	2.37	4.48	86.80	剥片	珪頁	270-310	2		4.2	3.2	0.6	6.57
44		2.54	4.02	86.85	剥片	黒安	270-310	2		1.8	1.7	0.3	1.18
45	22	2.18	4.06	86.62	剥片	黒安	270-310	2		5.3	3.5	2.3	35.09
46	23	2.15	3.99	86.83	剥片	黒安	270-310	2		4.2	3.6	0.8	9.92
47	34	1.99	4.12	86.66	石核	黒頁	270-310	2		5.2	3.8	2.3	53.74
48		1.68	4.14	87.02	剥片	黒安	270-310	2		2.7	1.8	0.4	1.92
49		1.48	4.32	86.78	レキ	粗安	270-310	2		5.9	2.3	4.3	73.30
50		1.43	4.25	86.89	レキ	ホル	270-310	2	26	3	2.5	1.7	23.20
51	4	2.01	3.73	87.05	B U	黒安	270-310	2	4-2	4	3.6	1.3	20.78
52		2.60	3.49	86.91	レキ	溶凝	270-310	2	29	4.6	2.7	2.8	45.00
53-1	1	2.31	3.54	86.86	P O	黒安	270-310	2		1.7	0.8	0.3	0.31
53-2		2.31	3.54	86.86	剥片	凝灰	270-310	2		5.1	3.1	1.1	13.80
54		1.86	3.57	86.87	レキ	粗安	270-310	2	28	3.4	2.8	4.1	37.40
55	21	1.75	3.11	86.95	剥片	黒安	270-310	2		3.8	5	1.4	24.27
56		1.47	3.27	86.92	レキ	粗安	270-310	2	28	4.1	3.7	3.3	56.60
57		1.67	2.75	86.88	レキ	粗安	270-310	2		1.5	1.1	0.7	1.51
58	15	1.33	2.77	86.97	R F	黒頁	270-310	2	4	2.2	2.1	0.6	3.36
59	25	0.52	2.30	86.97	剥片	黒安	270-310	2		3.6	4.3	0.9	12.25

第6章 旧石器時代

No	掲載No	X	Y	Z	器種	石材	グリッド	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
60	2	0.13	2.60	87.09	P O	黒曜	270-310	2		4.2	2.1	0.3	3.19
61	16	0.11	0.05	87.15	R F	黒頁	275-315	外		3	5.3	0.5	8.02
64		2.96	2.39	86.88	レキ	粗安	270-310	2		1.4	1.2	0.5	0.67
65		2.42	2.57	86.87	剥片	黒安	270-310	2		1.4	1.2	0.3	0.53
66		2.61	1.92	86.82	レキ	粗安	270-310	2		3.3	2.1	1.7	14.29
67	5	2.42	1.78	86.92	B U	黒安	270-310	2		5.1	3.1	1.1	20.03
68	6	2.08	2.67	86.73	B U	黒安	270-310	2		5.1	4.6	1	20.18
69		1.35	1.81	86.92	レキ	溶凝	270-310	2		4.8	3.1	1.5	18.11
70	30	1.22	1.55	86.79	剥片	黒曜	270-310	2		3.6	3.2	1.2	12.13
71	11	0.70	2.55	86.79	R F	黒安	270-310	2		4.3	4.2	0.8	19.46
72	31	0.80	2.40	86.59	剥片	玉随	270-310	2		4	1.8	0.5	3.94
73		1.06	2.09	86.64	レキ	溶凝	270-310	2	24	7	3.2	3	69.10
74	20	1.46	1.04	86.85	剥片	黒安	270-310	2		7.5	2.1	1.3	21.30
75		0.92	1.36	86.80	レキ	溶凝	270-310	2	24	1.9	3.1	1.4	1.34
76		0.56	1.76	86.87	レキ	チャ	270-310	2		2.7	2.1	1.3	9.22
77		0.30	1.77	86.72	レキ	溶凝	270-310	2		3	1.3	1	3.45
78		0.21	1.63	86.79	レキ	珪頁	270-310	2		2.2	1.7	1.2	4.87
79		1.13	0.95	86.79	レキ	石斑	270-310	2		2.9	2.8	3.1	28.90
80		1.60	0.59	86.80	レキ	珪頁	270-310	2		1.4	1.1	0.6	0.97
81		1.02	0.50	86.77	剥片	珪頁	270-310	2		2.6	1.3	0.3	1.01
82		0.81	0.18	86.76	レキ	珪頁	270-310	2	31	4.5	1.5	1.4	7.93
83	10	2.72	0.44	86.63	R F	黒安	270-310	2	2-1	6.1	3.6	0.8	18.41
84	32	1.30	4.44	86.63	剥片	黒頁	270-305	2		4.45	2.7	0.5	8.11
85		4.75	0.24	86.79	レキ	珪頁	265-310	2	31	2.2	1.1	0.7	1.27
86		3.64	4.92	86.87	レキ	珪頁	265-305	外		3	2.3	1.8	12.91
87		0.19	2.73	86.68	レキ	点頁	270-310	2	6	8.5	5.4	2.3	137.00
88	4	0.44	3.21	86.49	B U	黒安	270-310	2	4-1	3.9	2.3	1.4	12.88
89		0.80	2.85	86.61	剥片	黒安	270-310	2		1.9	1.1	0.5	1.17
90		1.08	4.95	86.80	剥片	珪頁	270-315	1	5-2	2.6	2.1	0.6	1.64
92		1.27	3.05	84.05	剥片	黒頁	270-310	2		1.7	1.5	0.2	0.56
93		2.46	4.09	86.64	レキ	珪変	270-310	2		4.6	4.3	1.7	40.15
94					レキ	ホル	不明	不明	26	7.4	4.4	3.7	134.20
95	33	2.16	4.03	86.59	石核	黒安	270-310	2	3-1	4.2	4.1	2.1	43.35
96		1.44	4.14	86.72	レキ	点頁	270-310	2	6	6	5.3	2.4	50.00
97	26	1.35	2.67	86.79	剥片	黒安	270-310	2	2-2	5.3	6	0.9	23.79
98		1.49	2.23	86.61	剥片	黒安	270-310	2	6	5.1	4.8	1.3	37.84
99		1.90	1.33	86.67	レキ	点頁	270-310	2		8.1	3.3	1.2	34.84
100		1.22	0.70	86.57	剥片	黒曜	270-320	1		1.1	1.8	0.4	0.55
101		1.68	3.66	86.32	剥片	黒安	270-310	2		3.3	1.5	0.4	2.50
102		1.38	3.36	86.47	剥片	黒安	270-310	2	3-2	2.3	2.5	0.9	4.05
103	28	1.55	0.88	86.55	剥片	珪頁	270-310	2		2.9	3.2	0.6	5.53
149-1		0.82	4.23	86.72	レキ	粗安	270-310	2	15	6.7	5.4	5.7	201.70
149-2		0.82	4.23	86.72	レキ	粗安	270-310	2	15	3.6	2.4	1.1	10.10
150		1.04	4.05	86.62	レキ	粗安	270-310	2	22	2.9	1.8	1.7	10.00
151		1.19	3.94	86.77	レキ	粗安	270-310	2	13	7.4	3.8	2.9	74.40
152		1.39	3.87	86.69	レキ	粗安	270-310	2		3.9	3.9	3	39.80
153		1.33	3.76	86.69	レキ	粗安	270-310	2		6.4	6.4	3	136.00
154	19	1.59	3.97	86.70	剥片	黒安	270-310	2		4.7	2.7	0.9	9.64
155		1.76	3.97	86.55	レキ	粗安	270-310	2		4.6	3.9	1.8	29.70
156		1.72	3.87	86.71	レキ	粗安	270-310	2	28	6.3	4.8	3.6	10.10
157		1.60	3.85	86.71	レキ	ホル	270-310	2		3.2	1.7	1.4	11.15
158		1.62	3.70	86.66	レキ	粗安	270-310	2		8.1	6.1	4	180.70
159		1.60	3.59	86.69	レキ	粗安	270-310	2		8.6	5.9	4.8	259.70
160		1.08	3.54	86.73	レキ	溶凝	270-310	2		18.8	10.7	8.2	2035.00
161		1.24	3.52	86.61	レキ	粗安	270-310	2		3.4	2.9	1.9	18.95
162		1.36	3.41	86.70	レキ	溶凝	270-310	2	29	3.2	3	4	75.30
163		1.31	3.24	86.69	レキ	石斑	270-310	2		3.9	3	3.5	44.50
164		1.45	3.09	86.74	レキ	粗安	270-310	2	14	5.6	4.9	3.8	113.30
165		1.53	3.06	86.74	レキ	粗安	270-310	2	14	5.8	3.7	5.1	105.50
166		1.59	3.08	86.75	レキ	粗安	270-310	2	29	9.3	8.3	6.6	640.00
167		1.48	3.01	86.68	レキ	溶凝	270-310	2		2.7	1.6	4.4	27.51

第6章 旧石器時代

No	掲載No	X	Y	Z	器種	石材	グリッド	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
168		1.54	2.96	86.75	レキ	粗安	270-310	2	14	5.7	2.7	4.7	44.38
169		1.40	2.95	86.68	レキ	粗安	270-310	2	11	12.5	7.3	6.4	750.00
170-1		1.42	2.88	86.71	レキ	粗安	270-310	2	22	6.5	5.4	4.5	134.40
170-2		1.42	2.88	86.71	レキ	粗安	270-310	2	11	6.1	6.4	2.6	111.60
171		1.50	2.76	86.69	レキ	粗安	270-310	2	12	8.5	5.8	5	295.30
172		1.38	2.83	86.73	レキ	点頁	270-310	2	6	8.2	3.4	1.9	70.01
173		1.34	2.84	86.77	レキ	粗安	270-310	2	22	7.2	4.4	2.2	66.20
174		1.24	2.76	86.81	レキ	粗安	270-310	2	11	6.4	4.8	2.1	58.70
175		1.19	2.76	86.69	レキ	点頁	270-310	2	6	8.8	3.7	3.1	126.52
177		0.73	2.96	86.45	レキ	粗安	270-310	2		3.2	2.7	1.4	13.39
178		0.67	2.63	86.68	レキ	粗安	270-310	2		4.5	2.7	1.4	28.74
179-1		1.15	2.67	86.72	レキ	粗安	270-310	2	12	7.8	8	5.9	465.10
179-2		1.15	2.67	86.72	レキ	粗安	270-310	2	12	6.4	3.1	5.4	120.60
180		1.31	2.46	86.73	剥片	黒安	270-310	2		3.7	1.9	0.5	4.78
181		0.57	2.15	86.52	レキ	溶凝	270-310	2	23	7.7	2.2	2.4	37.83
182-1					レキ	溶凝	不明	2	29	2.8	3.4	3.4	44.00
182-2					レキ	粗安	不明	2		4	2.4	2.2	21.20
182-3					レキ	粗安	不明	2		2.9	1.5	1.4	4.80
182-4					レキ	粗安	不明	2		2.2	1.6	0.7	2.26
183		2.60	0.09	86.82	レキ	粗安	270-310	2		2.6	2.3	2.8	14.90
184		2.35	0.60	86.65	レキ	粗安	270-310	2	16	7.2	7.6	2.3	135.70
185-1		2.18	0.55	86.68	レキ	粗安		2		9.1	6.7	5	423.30
185-2					レキ	粗安		2		4.7	3.4	1.7	32.00
186		2.18	0.46	86.67	レキ	粗安		2	17	4.7	4.2	2.8	40.60
187		2.14	0.37	86.68	レキ	粗安		2	17	4.4	4	5.4	69.70
188		2.30	0.68	86.65	レキ	チャ		2		4.1	3.5	1.8	23.65
189		2.35	0.72	86.69	レキ	溶凝		2	19	5.5	5.5	2.9	111.80
190		2.35	0.79	86.70	レキ	粗安		2		10.3	7.2	5.1	545.40
191		2.13	0.74	86.66	レキ	粗安		2		10.7	7.3	7.2	650.00
192		2.54	0.46	86.69	レキ	粗安		2	16	5.1	4.2	1.6	32.90
193		1.43	1.18	86.80	レキ	溶凝		2	20	3.1	2.4	3.5	24.67
194		2.35	0.85	86.69	レキ	粗安		2	18	6	4.3	2.6	113.30
195		2.12	1.12	86.83	レキ	溶凝		2		1.8	1.8	1.8	7.88
196		2.50	1.12	86.73	レキ	粗安		2	22	8.1	5.4	3.3	68.10
197		2.58	0.92	86.61	レキ	粗安		2	18	6.5	2.7	2.4	45.10
198		2.40	1.26	86.70	レキ	砂岩		2		8.1	5.6	3.7	163.50
199-1		2.39	1.30	86.72	レキ	粗安		2		3.2	3.1	2.6	30.69
199-2		2.39	1.30	86.72	レキ	石斑		2		3.2	1.7	2	14.45
199-3		2.39	1.30	86.72	レキ	溶凝		2	29	2.9	1.8	1.8	8.93
199-4		2.39	1.30	86.72	レキ	溶凝		2	20	1.3	0.9	1.4	2.64
200-1		2.46	1.31	86.77	レキ	粗安		2		3.8	2.7	4.3	48.41
200-2		2.46	1.31	86.77	レキ	粗安		2	22	3.8	3.2	2	32.63
200-3		2.46	1.31	86.77	レキ	溶凝		2	20	3.2	1.5	2.2	12.28
201-1		2.51	0.90	86.84	レキ	粗安	270-310	2	18	2.8	2.5	3.1	28.00
201-2		2.51	0.90	86.84	レキ	粗安		2	18	1.7	1.1	2.2	6.31
202		1.37	4.03	86.79	レキ	粗安	270-310	2		2.1	2.1	2.5	15.39
203		1.95	3.61	86.68	レキ	粗安	270-310	2	13	5.5	4.9	2	69.00
204		1.62	3.78	86.81	レキ	溶凝	270-310	2	29	3.8	2.6	2.3	27.60
208	9	1.26	3.33	86.73	E S	黒安	270-310	2		5.3	2.5	1.2	15.61
209		1.46	3.25	86.74	レキ	粗安	270-310	2	25	6.2	4.4	1.8	48.70
210		1.41	3.13	86.72	レキ	粗安	270-310	2	14	6.6	4.9	4.8	125.30
211		1.03	2.72	86.57	レキ	点頁	270-310	2	6	4.5	3.2	2.1	34.45
212		1.16	2.66	86.72	レキ	溶凝	270-310	2	29	7.5	5.7	5.5	164.10
213		2.17	0.08	86.68	レキ	粗安	270-310	2	17	5.3	4.4	2.5	62.90
214		2.43	0.36	86.84	レキ	溶凝	270-310	2	19	3.1	3.3	3.1	38.60
215		2.41	0.42	86.67	レキ	粗安	270-310	2	16	6.7	4.8	1.6	49.90
216-1		2.39	0.56	86.66	レキ	粗安	270-310	2	16	6.7	6.5	2.6	125.30
216-2		2.39	0.56	86.66	レキ	粗安	270-310	2	17	6.3	5.3	4.7	66.40
217		2.30	0.50	86.68	レキ	溶凝	270-310	2	23	6.3	2.7	2.8	67.40
218		2.20	0.35	86.68	レキ	粗安	270-310	2	21	3.8	3.1	1.8	20.00
219		2.11	0.51	86.64	レキ	粗安	270-310	2		7.2	6.2	5.3	312.20

第6章 旧石器時代

No.	掲載No.	X	Y	Z	器種	石材	グリッド	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
220		1.91	0.39	86.76	レキ	溶凝	270-310	2	23	3.2	2.9	1.9	19.78
221		1.59	0.64	86.71	レキ	粗安	270-310	2	16	3.3	2.5	1.2	9.42
222		2.23	0.72	86.67	レキ	粗安		2	21	6.8	4.7	2.2	76.20
223		2.25	0.81	86.72	レキ	粗安		2		9.7	8.7	4.8	590.00
224-1		2.15	0.69	86.66	レキ	粗安		2	21	7	4.5	4.1	147.00
224-2		2.15	0.69	86.66	レキ	粗安		2	21	6.1	2.8	4.1	77.20
225		2.09	0.86	86.77	レキ	粗安		2		3.8	3.4	2.8	45.10
226		1.46	0.84	86.79	レキ	溶凝		2	20	2.5	2.1	2.9	19.40
227		1.51	0.85	86.80	レキ	粗安		2	18	4.9	3.4	2.8	51.80
228		1.55	1.17	86.73	レキ	粗安		2	27	10.1	7.4	5.2	400.00
229		1.13	0.93	86.69	レキ	石斑		2		2.5	2.1	1.9	9.00
230-1		1.16	1.39	86.71	レキ	粗安		2	17	5.5	5.4	5.3	149.40
230-2		1.16	1.39	86.71	レキ	石斑		2		2.6	1.8	2.3	11.70
231-1		2.11	0.78	86.72	レキ	チャ		2	26	2.8	1.3	1.3	4.58
231-2		2.11	0.78	86.72	レキ	チャ		2	26	2.4	1.7	1.1	3.12
232		2.18	0.95	86.68	レキ	粗安		2		8.8	5.2	5.1	257.60
233		2.35	1.00	86.72	レキ	粗安		2		10.8	7.2	8.5	920.00
234-1		2.63	0.73	86.81	レキ	溶凝		2	19	1.9	1.9	2	7.42
234-2		2.63	0.73	86.81	レキ	溶凝		2	19	2	2.1	1.5	7.64
235		2.55	1.11	86.71	レキ	粗安		2	22	7.5	3.5	3.1	71.78
236		2.05	1.23	86.70	レキ	溶凝		2	20	4.2	5.6	4.5	142.40

(注)

- | | |
|--------------|----------------|
| 黒安 (黒色安山岩) | MC (細石刃核) |
| 黒頁 (黒色頁岩) | SS (スクレイパー) |
| 溶凝 (溶結凝灰岩) | PO (尖頭器) |
| 粗安 (粗粒輝石安山岩) | BU (彫刻刀形石器) |
| 珪頁 (珪質頁岩) | ES (エンドスクレイパー) |
| チャ (チャート) | RF (二次加工ある剥片) |
| ホル (ホルンヘルス) | UF (微細剝離痕ある剥片) |
| 石斑 (石英斑岩) | |
| 黒曜 (黒曜石) | |
| 凝灰 (凝灰岩) | |
| 点頁 (点紋頁岩) | |
| 珪変 (珪質変質岩) | |

写真図版



A1号古墳全景



A1号古墳周溝内墓坑



B2号住居跡全景



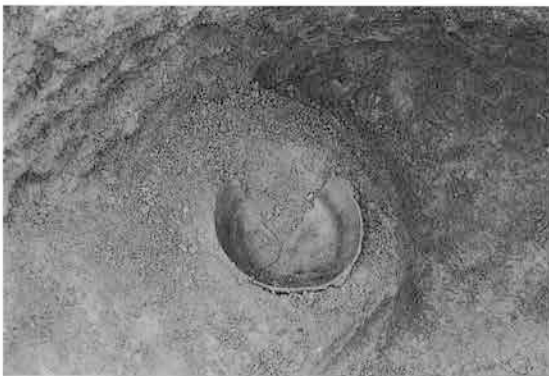
B2号住居跡竈



B2号住居跡竈支脚



B2号住居跡竈支脚



B2号住居跡貯蔵穴出土遺物



B2号住居跡出土遺物

PL 2



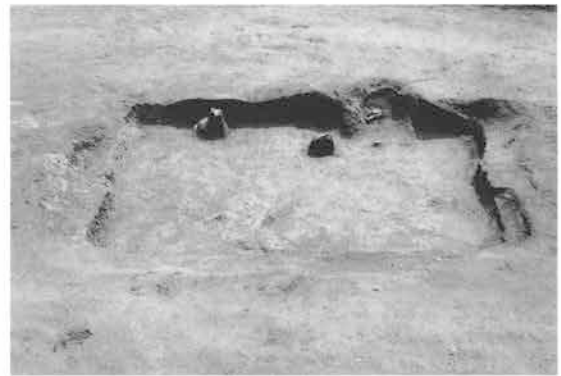
B3号住居跡全景



B3号住居跡全景



B3号住居跡竈出土遺物



B4号住居跡全景



B4号住居跡竈全景



B4号住居跡出土遺物



B4号住居跡出土遺物



B4号住居跡出土遺物



B5号住居跡全景



B5号住居跡竈全景



B6号住居跡全景



B6号住居跡掘り方全景



B6号住居跡出土遺物



B6号住居跡出土遺物



B6号住居跡内掘り込み



B7号住居跡全景

PL4



B7号住居跡出土遺物



B7号住居跡出土遺物



B7号住居跡出土遺物



B8号住居跡全景



B8号住居跡竈全景



B8号住居跡竈出土遺物



B8号住居跡出土遺物



B8号住居跡出土遺物



B南 1 号住居跡全景



B南 1 号住居跡竈全景



B南 1 号住居跡出土遺物



B南 2 号住居跡全景



B南 1 号墓坑



B南 1 号墓坑



B南 1 号墓坑出土遺物

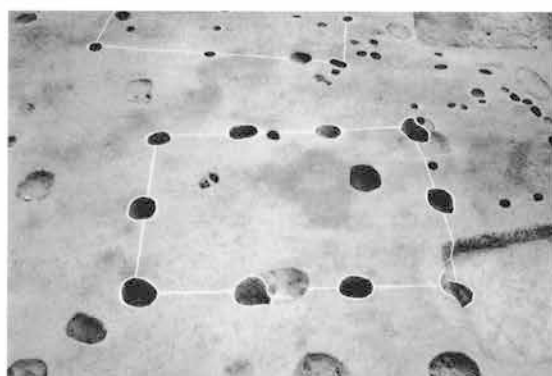


B南 1 号掘立柱建物跡

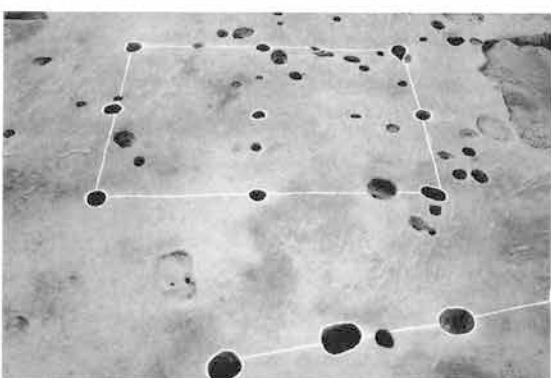
PL6



B2号掘立柱建物跡



B3号掘立柱建物跡



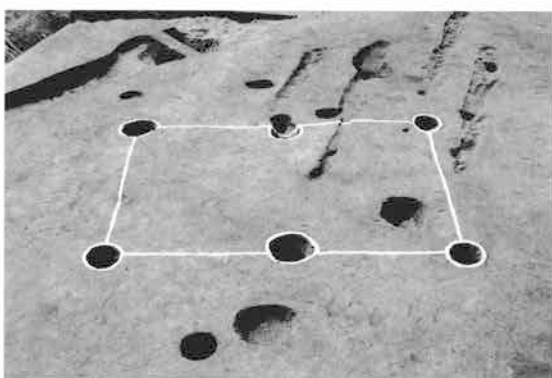
B4号掘立柱建物跡



B5号掘立柱建物跡



B6号掘立柱建物跡



B7号掘立柱建物跡



B南1号掘立柱建物跡



B1号土坑



B2号土坑



B3号土坑



B5号土坑



B南2号土坑



B南3号土坑



B南4号土坑



B南5号土坑



B南1号井戸



B6号井戸



B7号井戸



B1号古墳全景



B1号古墳出土遺物



B1号古墳出土遺物



B1号古墳出土遺物



B1号古墳出土遺物



B4号溝



B5号沟



B8号沟



C1号住居跡全景



C2号住居跡全景



C4号住居跡全景



C7号住居跡全景



C10号住居跡全景



C12号住居跡全景

PL 10



C15号住居跡全景



C16号住居跡全景



C17号住居跡全景



C18号住居跡全景



C18号住居跡竈全景



C18号住居跡竈出土遺物



C19号住居跡全景



C19号住居跡竈全景



C20号住居跡全景



C21号住居跡全景



C22号住居跡全景



C23号住居跡全景



C24号住居跡全景



C26号住居跡全景



C27号住居跡全景



C29号住居跡全景



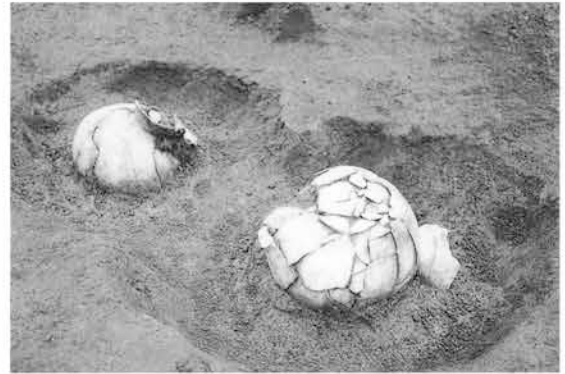
C30号住居跡全景



C31号住居跡全景



C31号住居跡出土遺物



C31号住居跡出土遺物



C32号住居跡全景



C36号住居跡全景



C40号住居跡全景



C41号住居跡全景



C1号掘立柱建物跡



C30号土坑出土遺物



C30号土坑出土遺物



D1号住居跡全景



D1号住居跡全景



D1号住居跡柱穴1



D1号住居跡柱穴1



D1号住居跡柱穴2

P L 14



D1 号住居跡柱穴 3



D1 号住居跡柱穴 1



D1 号住居跡柱穴 1



D1 号住居跡柱穴 1



D1 号住居跡柱穴 1



D1 号住居跡柱穴 2



D1 号住居跡柱穴 2



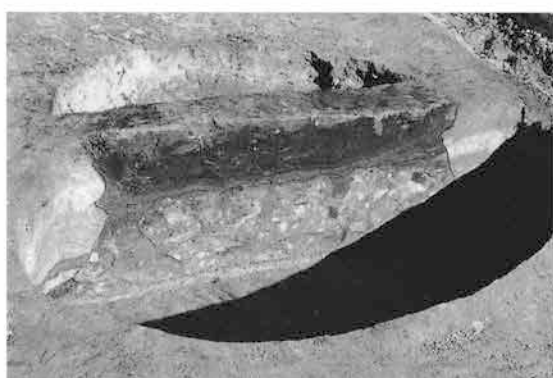
D1 号住居跡柱穴 3



D1号住居跡柱穴4



D1号住居跡柱穴4



D5号土坑



D23号土坑



D26·27号土坑



D30号土坑



D35号土坑



D84号土坑

P L 16



D91号土坑出土木器



D127号土坑出土木器



D127号土坑出土木器



D127号土坑出土木器



D152号土坑



D区出土木器



D区出土木器



D区出土木器



D区出土木器



D区出土木器



D2号沟流木



D2号沟流木



D2号沟流木



D2号沟流木



D2号沟流木

P L 18



B区 南西部旧石器出土状況（北から）



同上（東から）



旧石器出土状況



同上

P L 20



B区 旧石器基本土層



出土遺物No.3



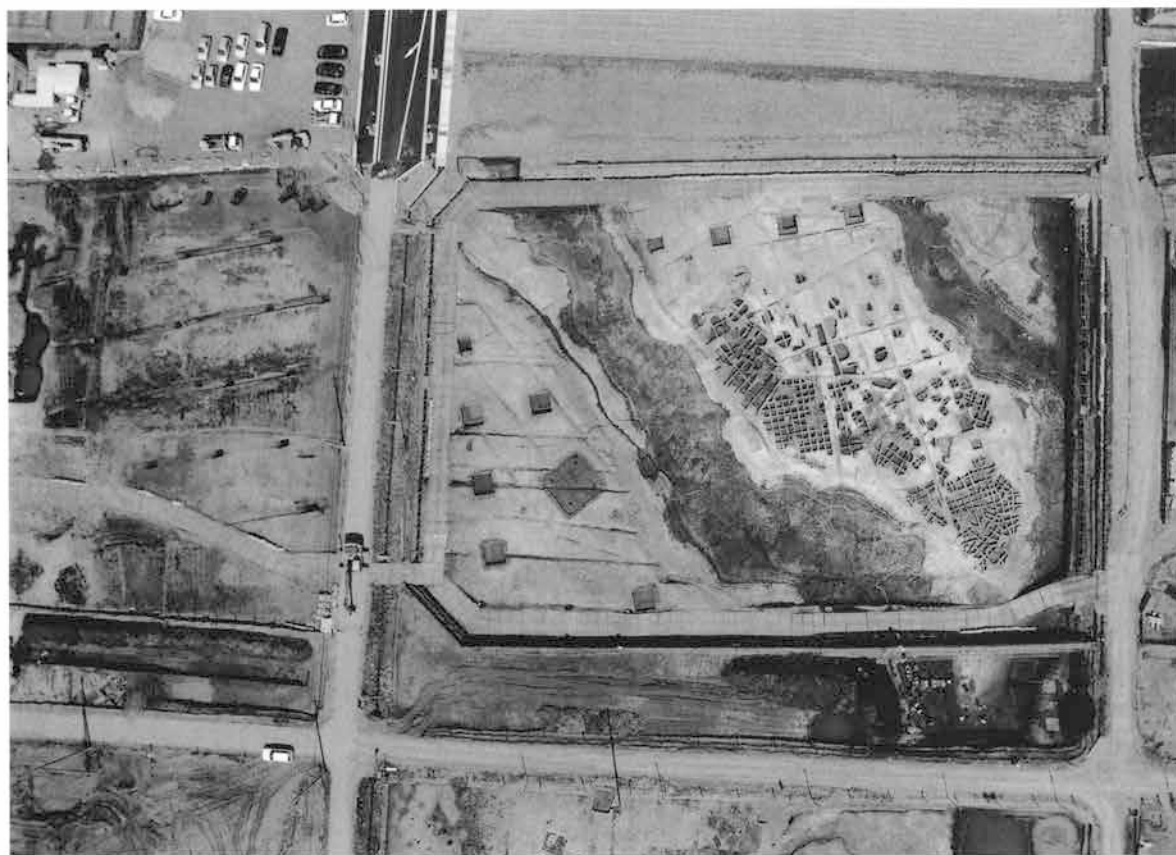
出土遺物No.2



出土遺物No.7



出土遺物No.30



D区 全景



D区 C台地全景 (南から)



A1 古墳18



A1 古墳23



A1 古墳10



A1 古墳30



A1 古墳27



A1 古墳7



A1 古墳5



A1 土坑1



A1 土坑2



A1 古墳9



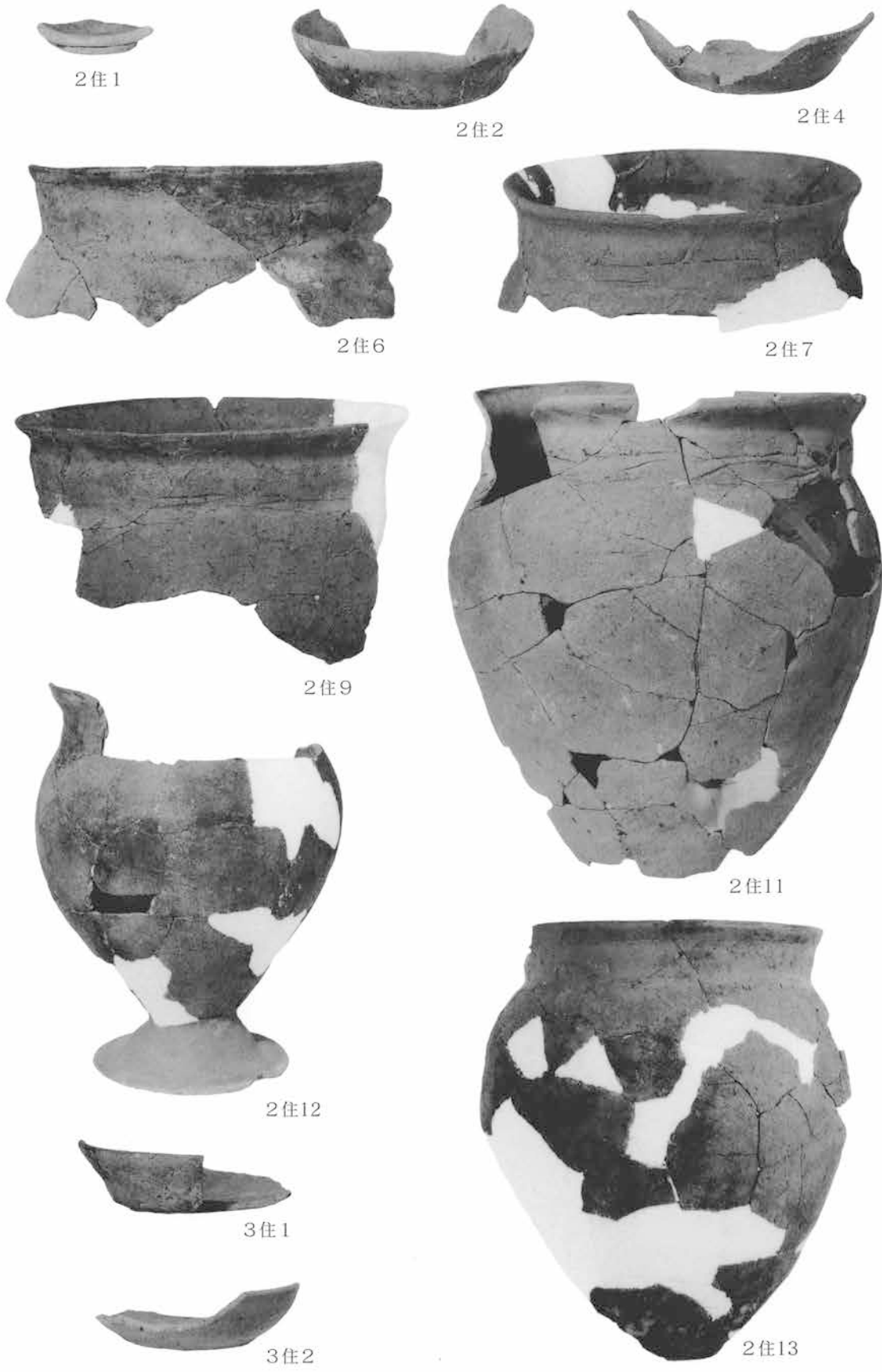
B1 古墳3



B1 古墳2



B1 古墳4



PL 24



3住9



5住1



6住2



6住1



6住3



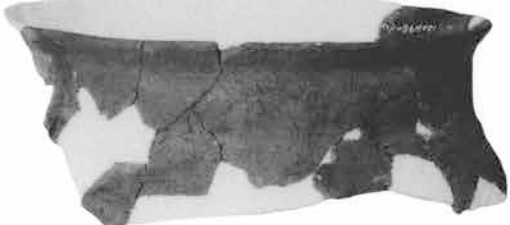
6住5



6住11



4住2



6住10



7住2



6住8



8住4



8住9



8住5



8住7



8住13



8住17



8住19





8住18



南1住1



南1住2



南1住3



南1住4



南1住5



南1住6



南2住1



南2住5



南1墓坑5



南1墓坑6



南1墓坑7



1墓坑9



1墓坑10



1墓坑8



1井戸13



1井戸14



3溝17



B2土坑12



B表採25



B表採26



C1住2



C1住3



C1住4



C1住14



C1住19



C1住18



C1住15



C1住21

PL28



1住16



2住1



2住3



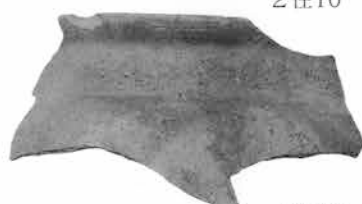
2住7



2住10



2住11



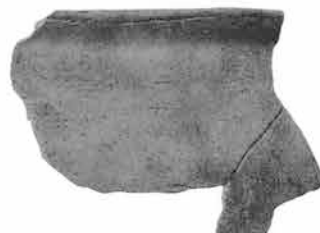
2住12



2住14



2住13



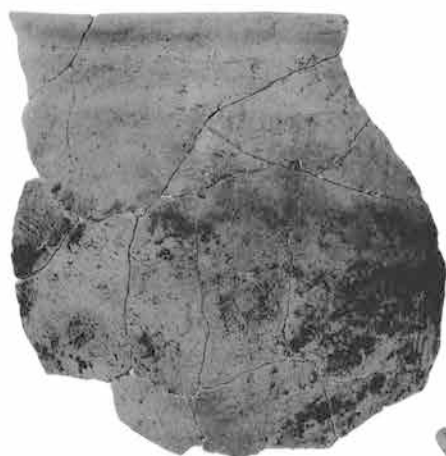
2住17



3住5



2住16



3住6



2住19



4住2



4住3



4住4



4住5



4住6



4住7



4住8



4住11



5住1



5住2



5住3



4住12



5住4



5住6



5住7



5住5



5住11



5住8

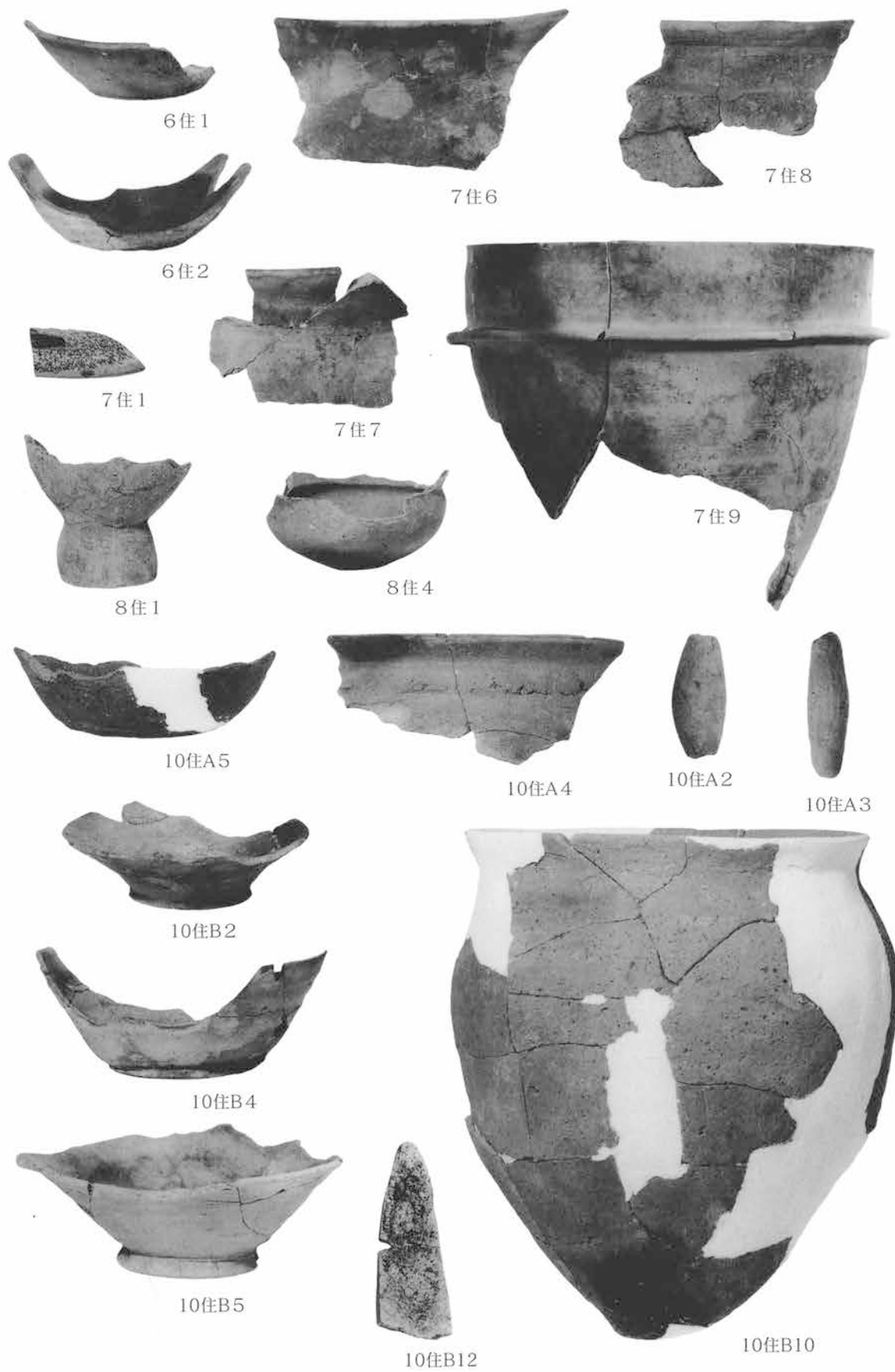


5住9



5住10

P L 30



C区 住居跡出土遺物



12住1



12住2



14住3



15住2



15住3



15住4



15住5



15住6



15住7



15住8



15住9



15住10



15住11



15住13



15住15



15住12



15住24



15住16



15住23



15住36



15住43



15住44



15住45



15住46



15住47



15住48



15住49



15住50

P L 32



15住39



15住42



15住41



15住51



15住51



15住52



15住52



15住55



15住56



15住53



16住1



15住64



16住2



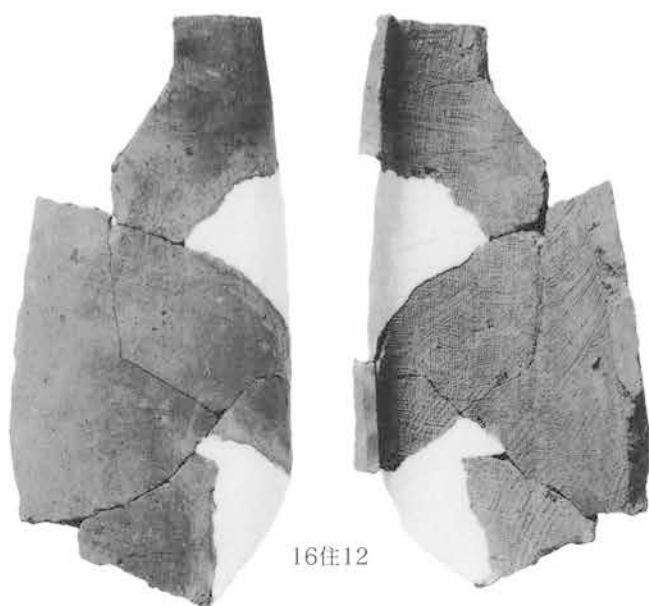
16住4



16住11



PL34



16住12



16住17



18住25



18住1



18住4



18住5



18住6



18住8



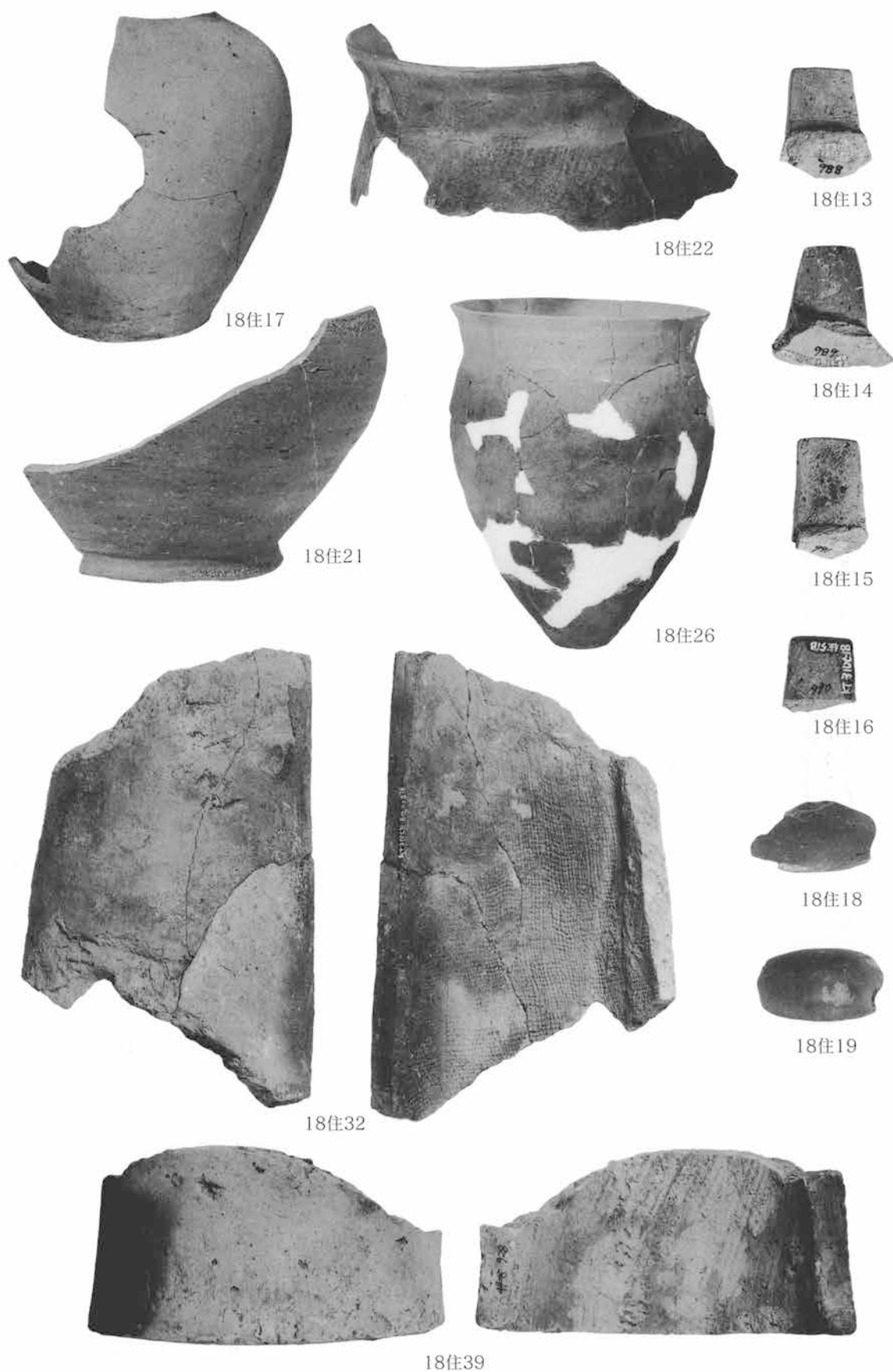
18住10

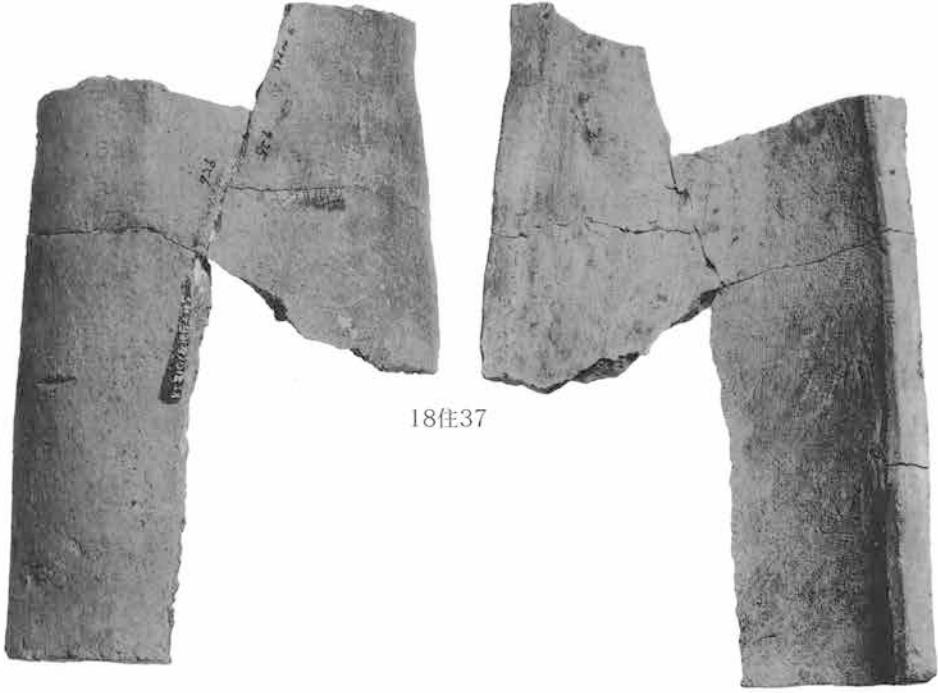


18住12

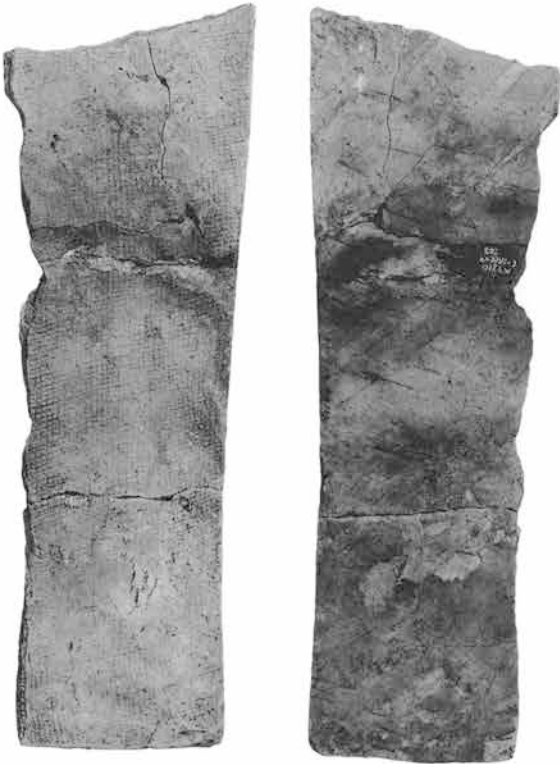


18住27





18住37



18住36



19住2

19住5

19住6

19住7

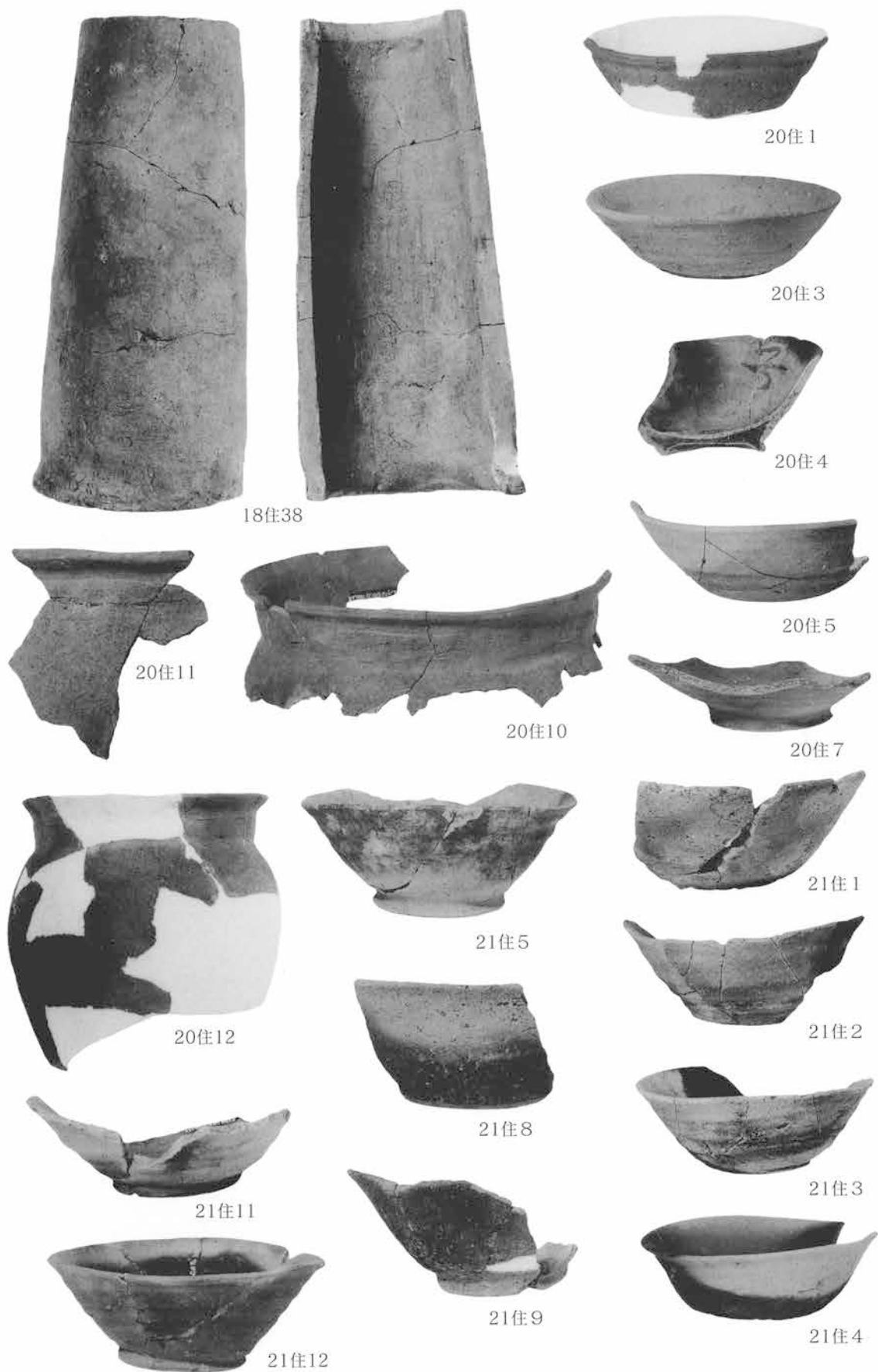
19住13



19住11



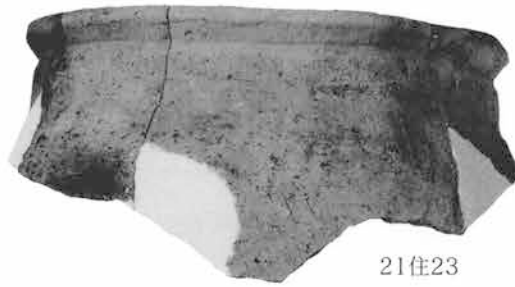
19住14



P L 38



21住13



21住23



21住24



21住25



22住1



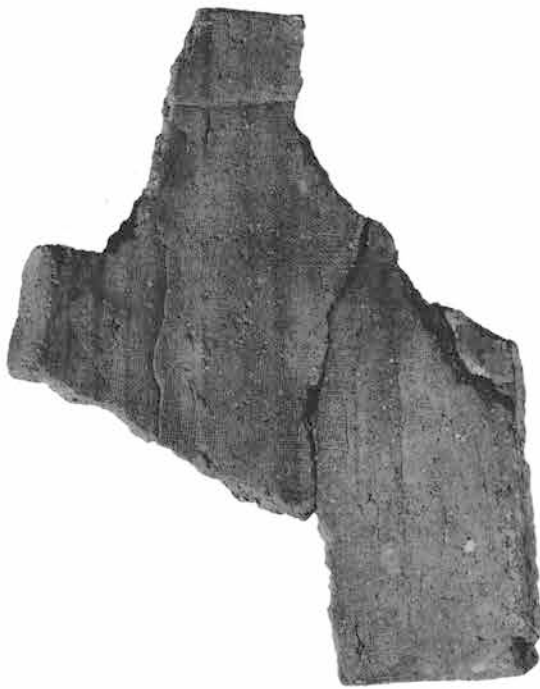
22住14



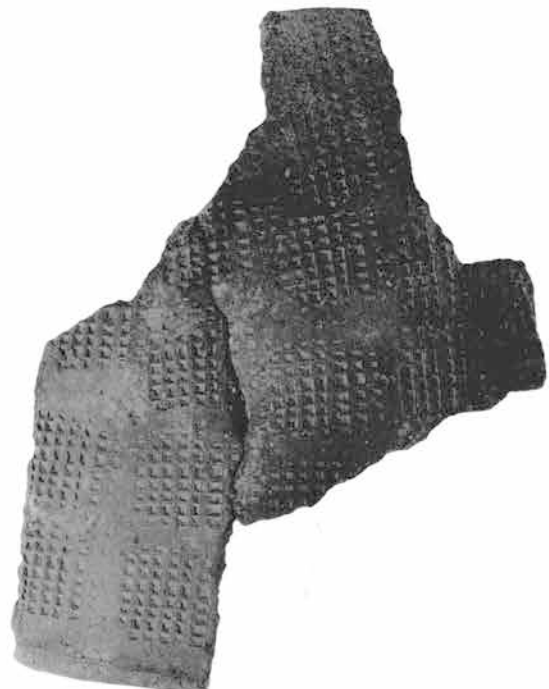
22住15



22住16



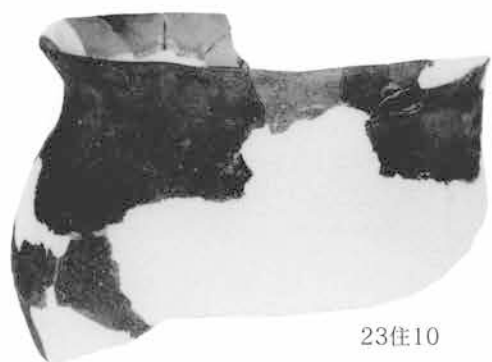
22住17



23住2



23住9



23住10



24住1



24住2



24住3



24住5



24住6



23住15



24住11



24住16



24住17



24住22



24住24



24住27



24住28



24住29



24住30



26住1



26住2



26住3



26住4



26住6



26住7



26住8



28住6



28住7



28住8



28住9



26住9



28住10



28住12



29住8



29住2



29住1



29住10



29住3



29住5



29住4



29住9



29住11

PL42



30住1



30住3



30住13



31住8



31住13



31住12



31住14



31住17



31住16



31住18



31住24



32住1



32住2



33住1



34住1



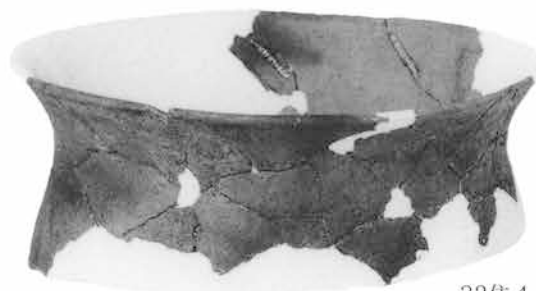
34住3



34住4



32住3



32住4



36住1



36住4



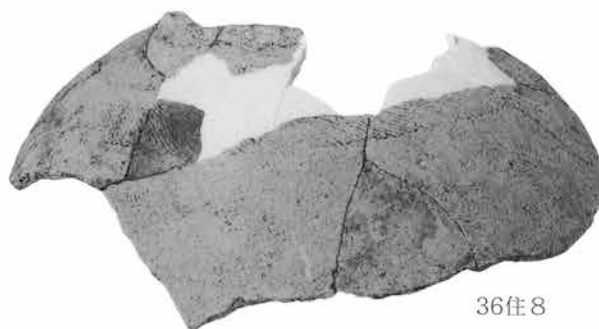
36住5



36住10

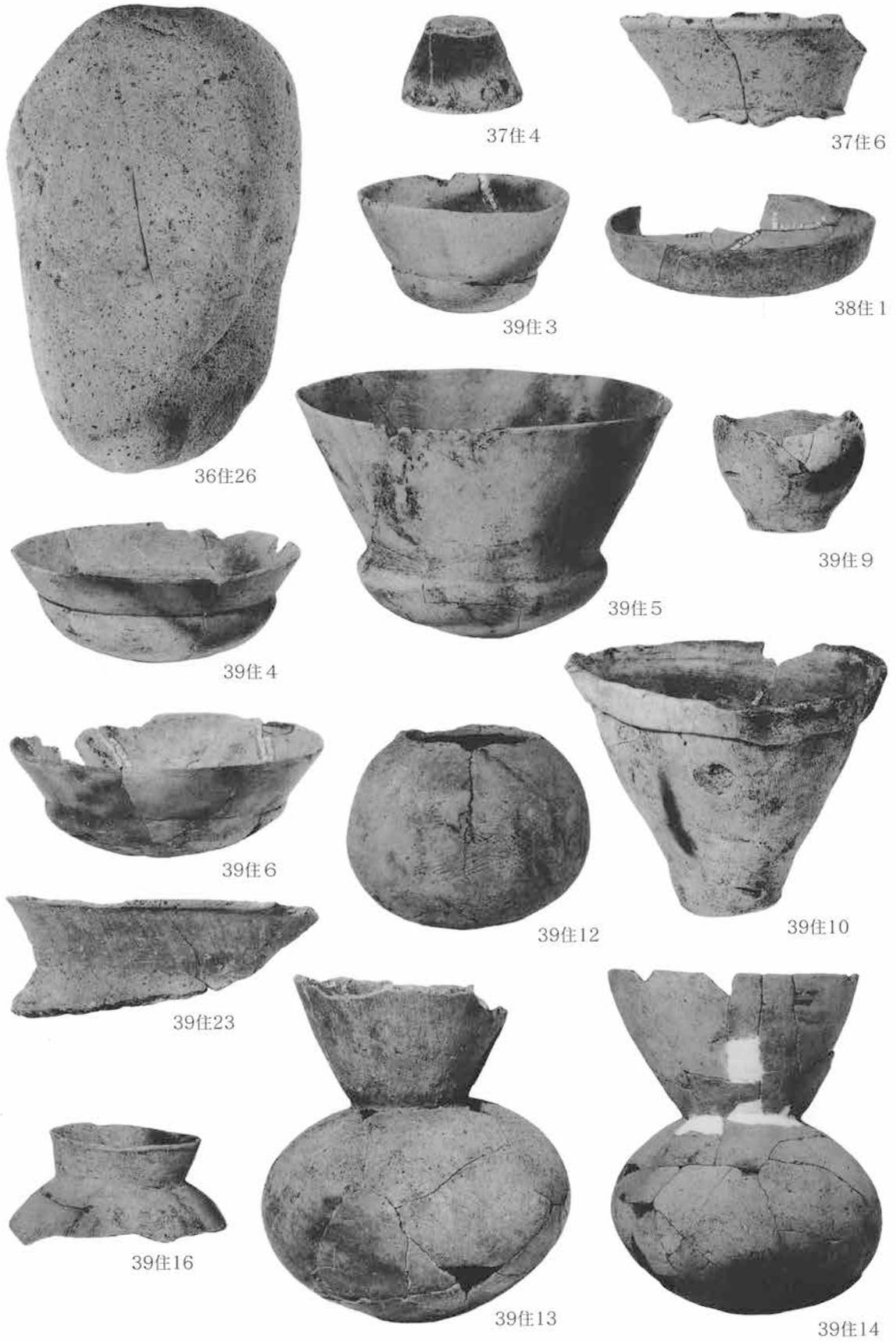


36住12



36住8

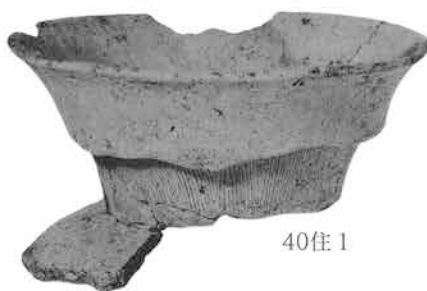
PL44



C区 住居跡出土遺物



39住26



40住1



41住1



1 (11土坑)



4 (30土坑)



9 (30土坑)



8 (30土坑)



5 (30土坑)



13 (6井戸)



表採 1



表採 2



表採 4



表採 7



表採 8



表採 10



表採 11



表採 13



表採 14



表採 15



表採 16



表採 17



表採 18



表採 19



表採 20



表採 21



表採 22



表採 23

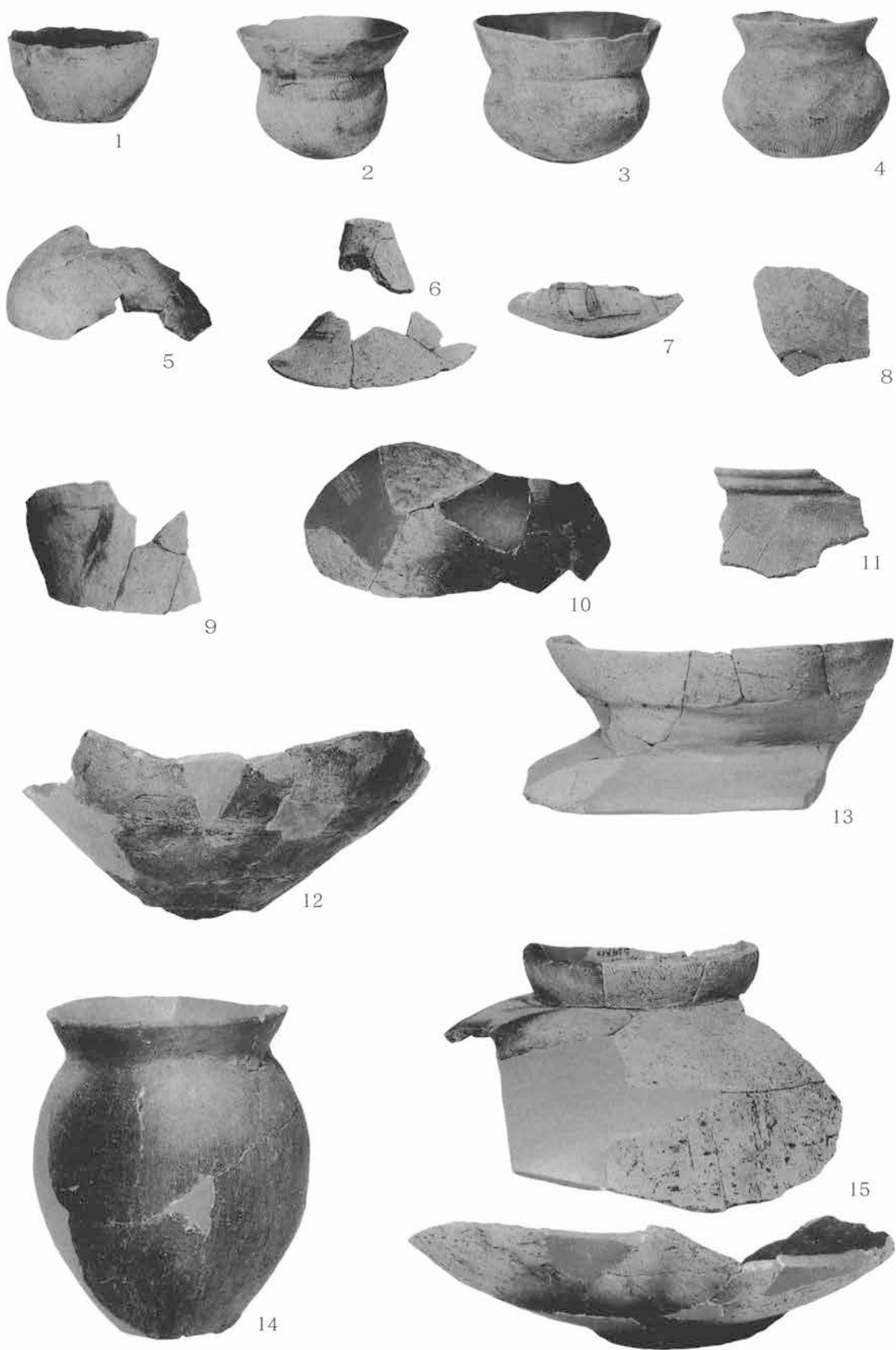


表採 24

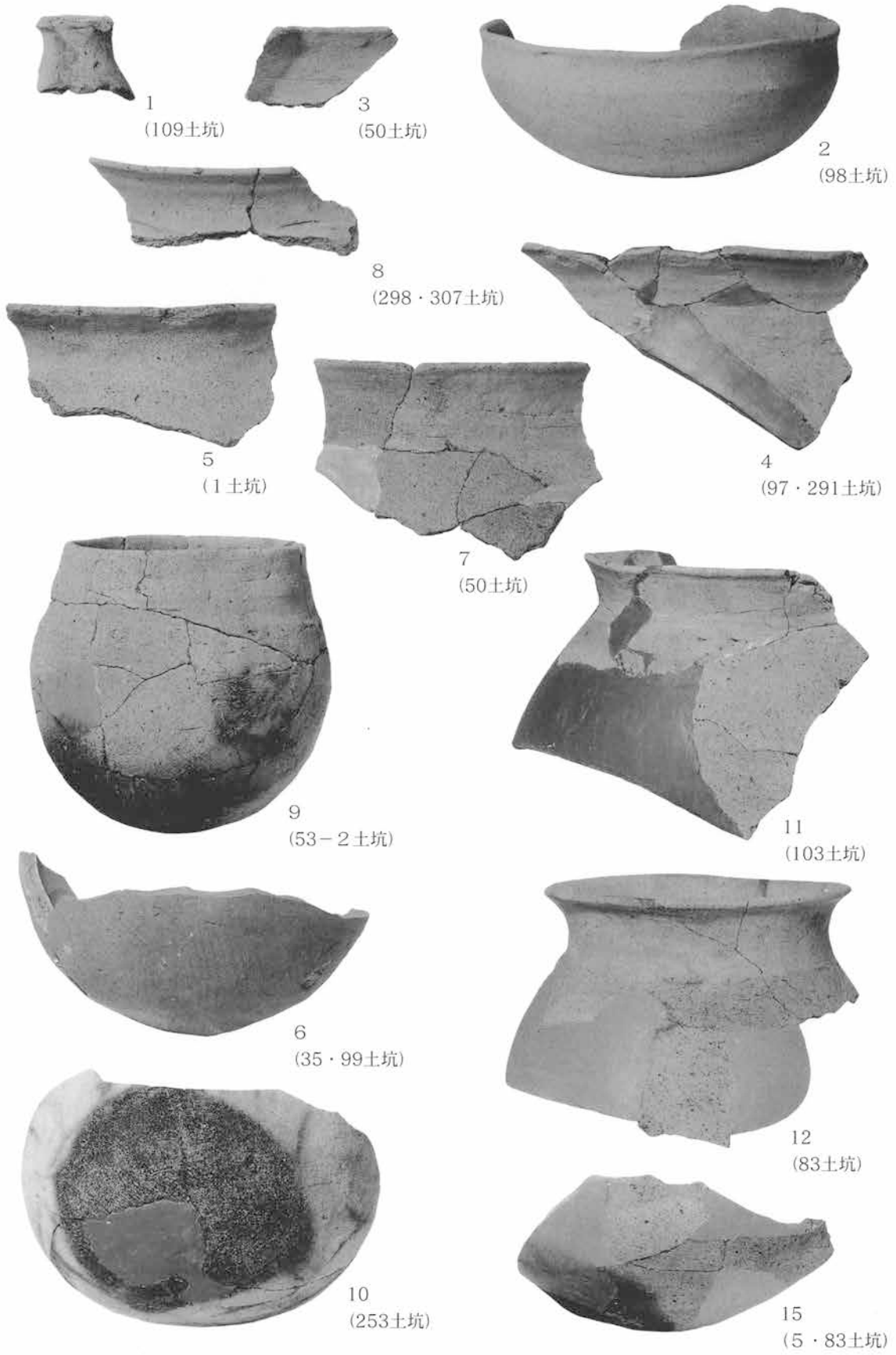


表採 25





P L 48





13
(107·112土坑, 24溝)



14
(15·189土坑)



16
(275·276土坑)



19
(42-1土坑)



17
(265·267·268·270土坑)



20
(35土坑)

P L 50



22
(1·22土坑)



23
(10·104土坑)



21
(87·276土坑)



24
(9土坑)



25
(189土坑)



26
(189·206·207土坑)



27
(103·322土坑, 24溝)



31
(8土坑)



28
(100土坑)

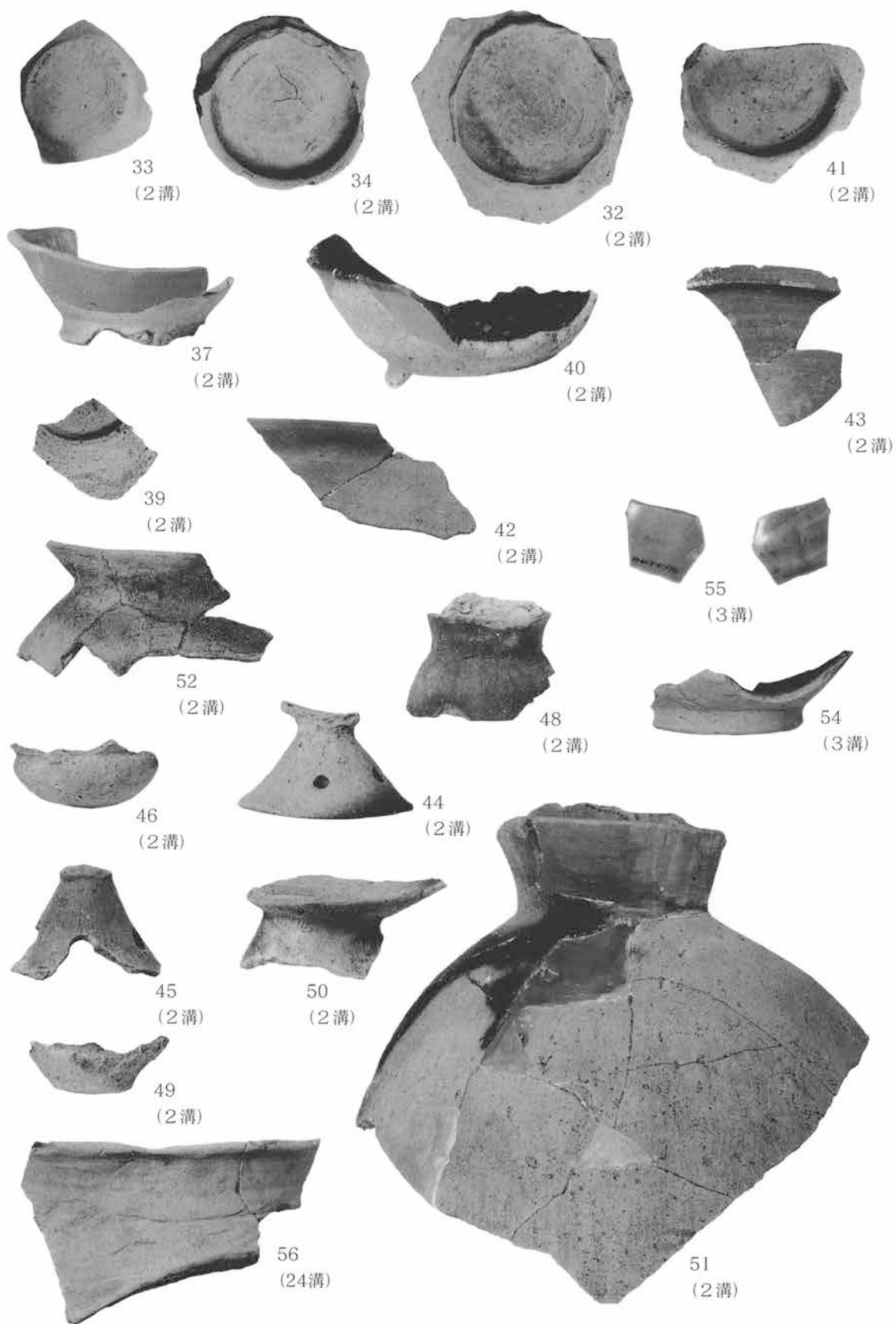


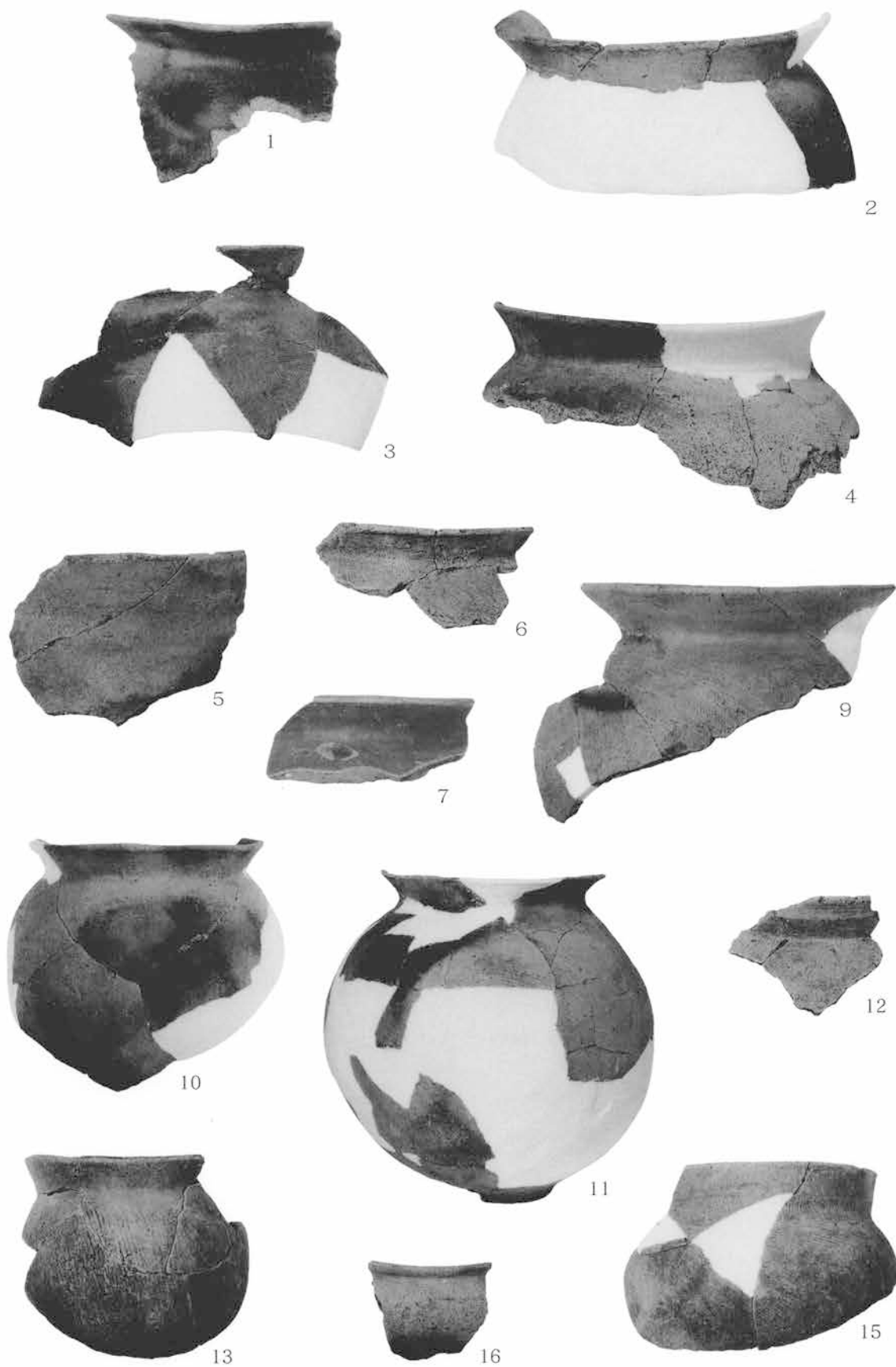
30
(17土坑)



29
(49-1土坑)

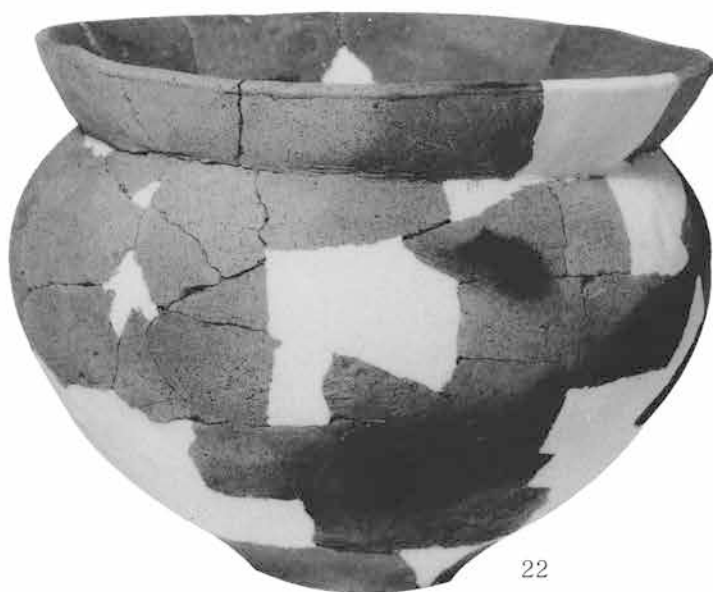
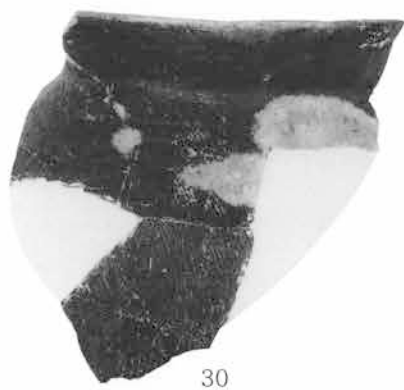
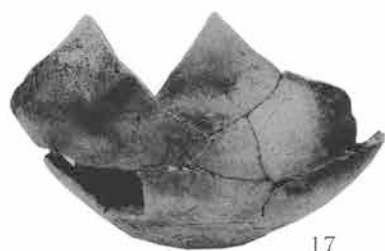
P L 52





D区 b河道出土遺物

P L 54



D区 b河道出土遺物



32



36



38



33



40



39

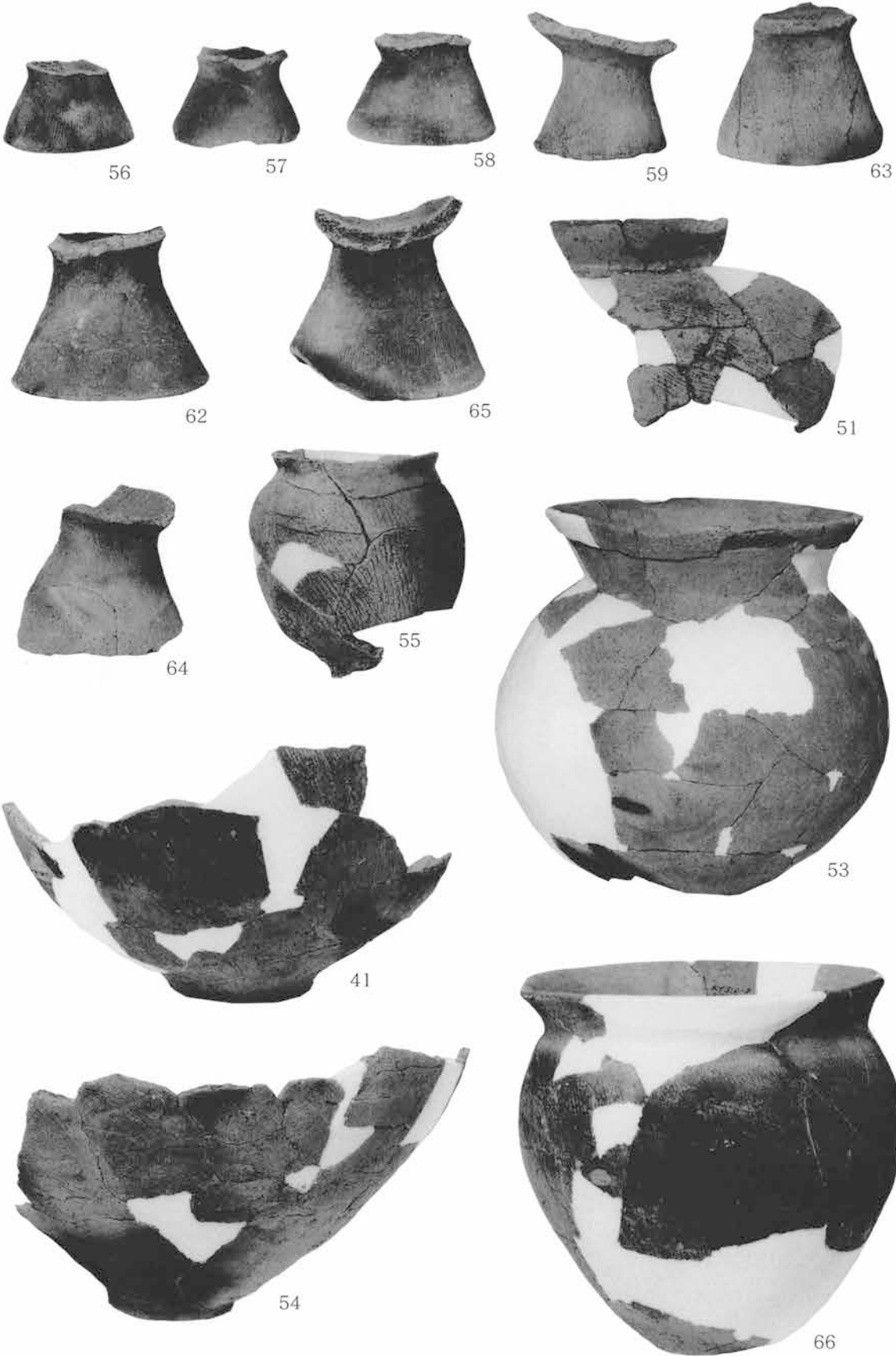


34

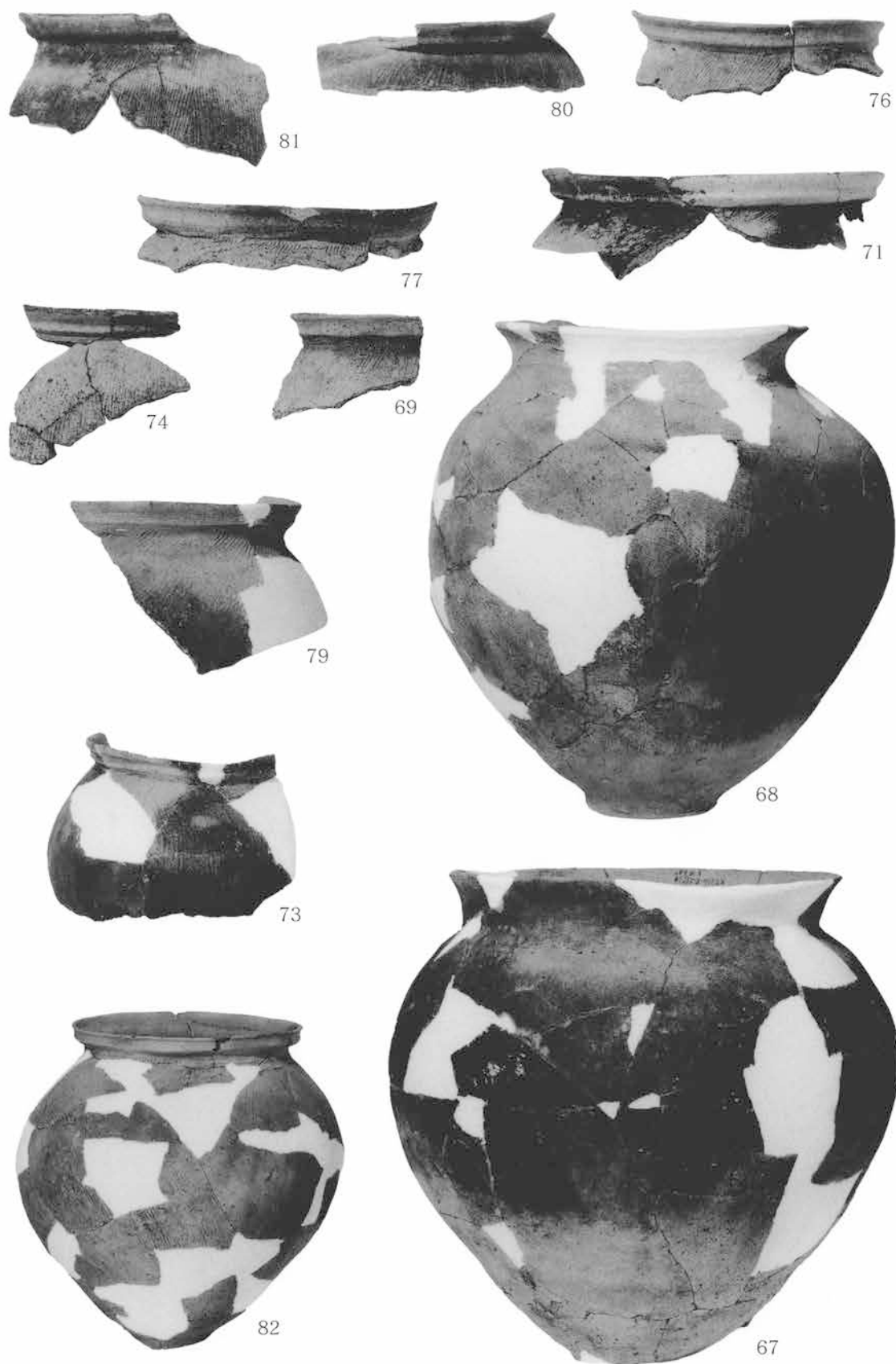


35

P L 56

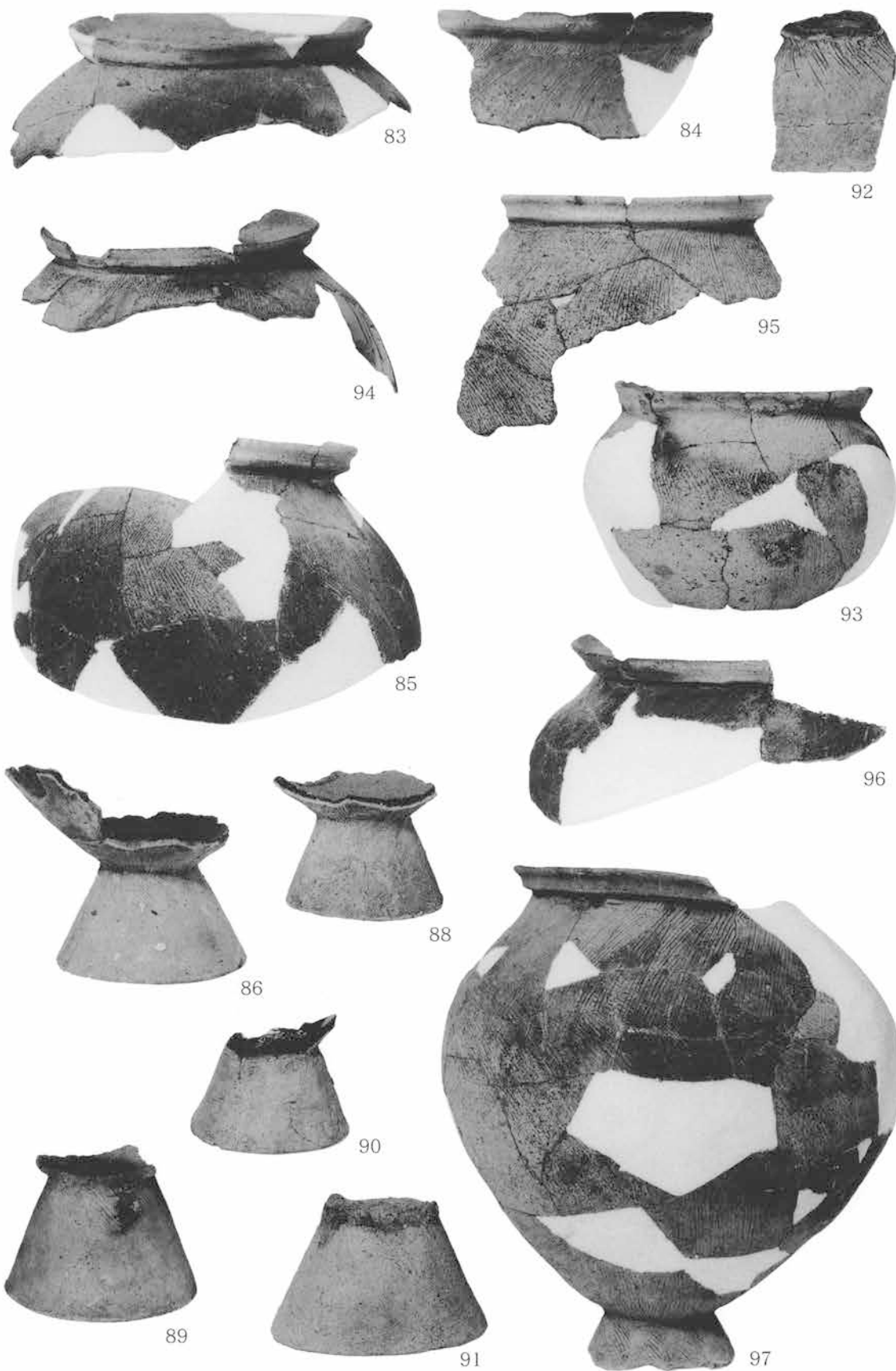


D区 b河道出土遺物

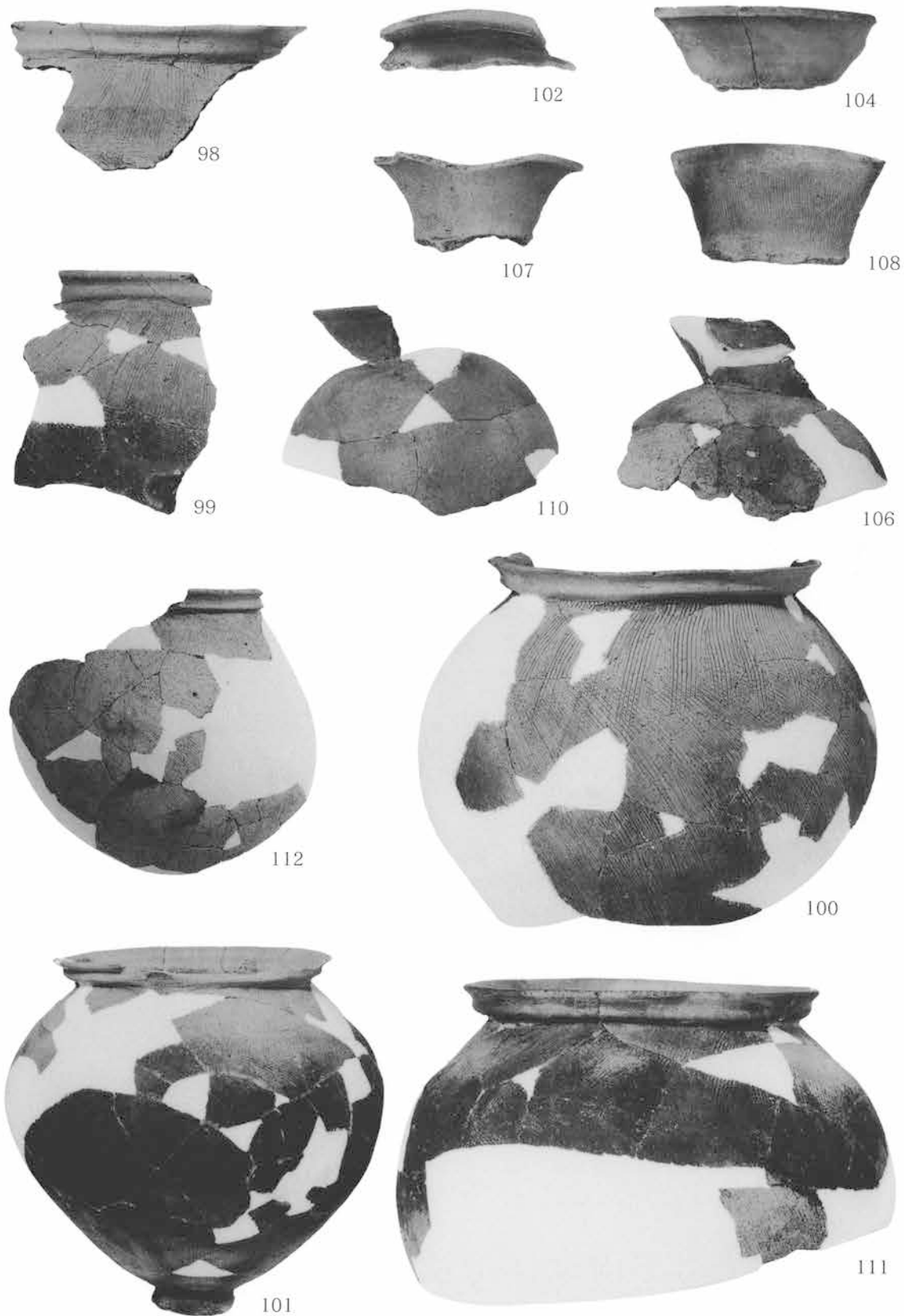


D区 b河道出土遺物

P L 58



D区 b河道出土遺物



P L 60

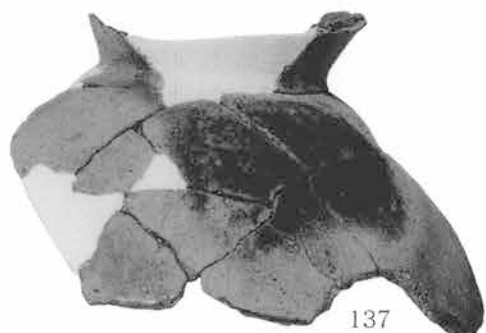




131



130



137



133



132



136



134



135

P L 62



141



138



140



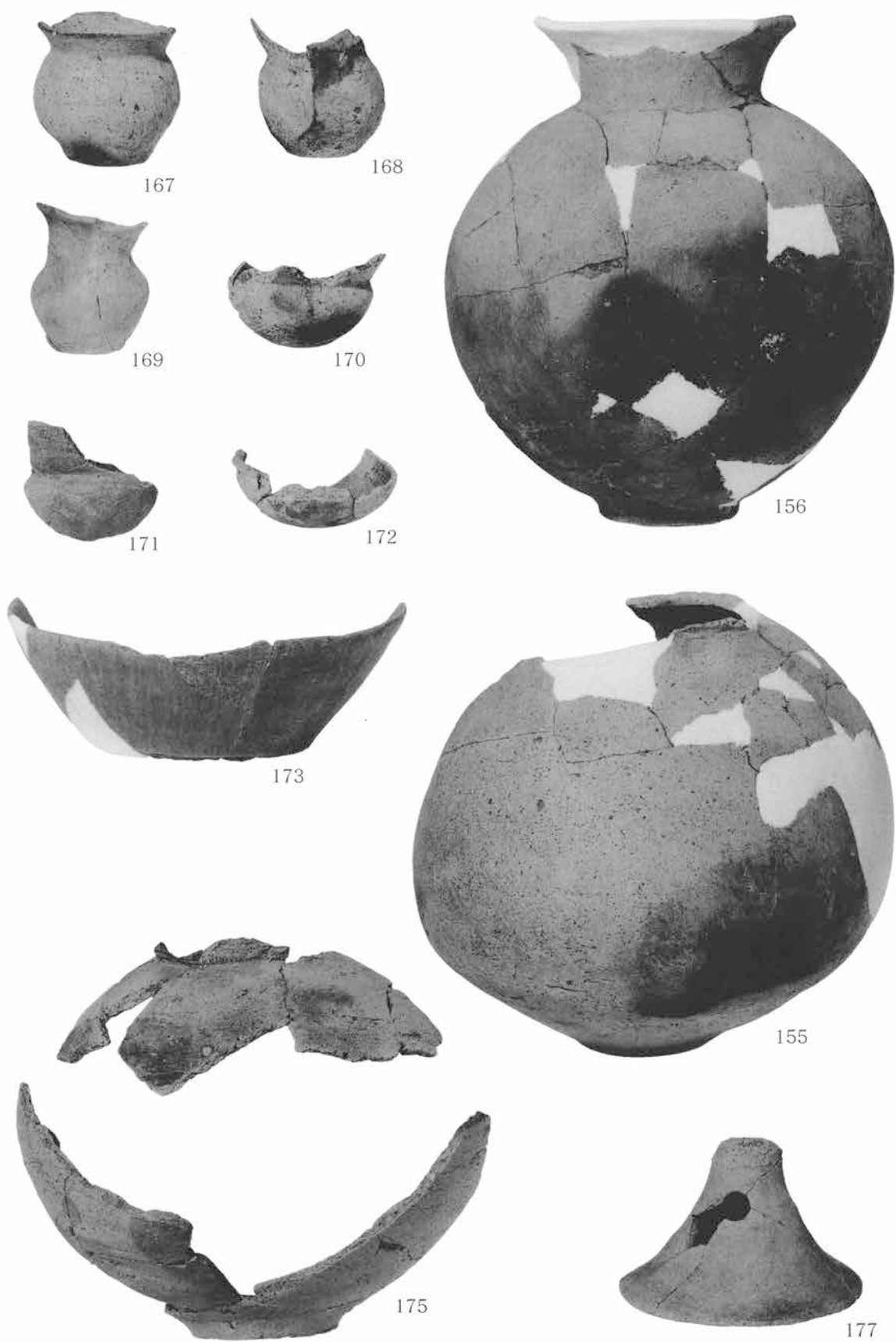
139



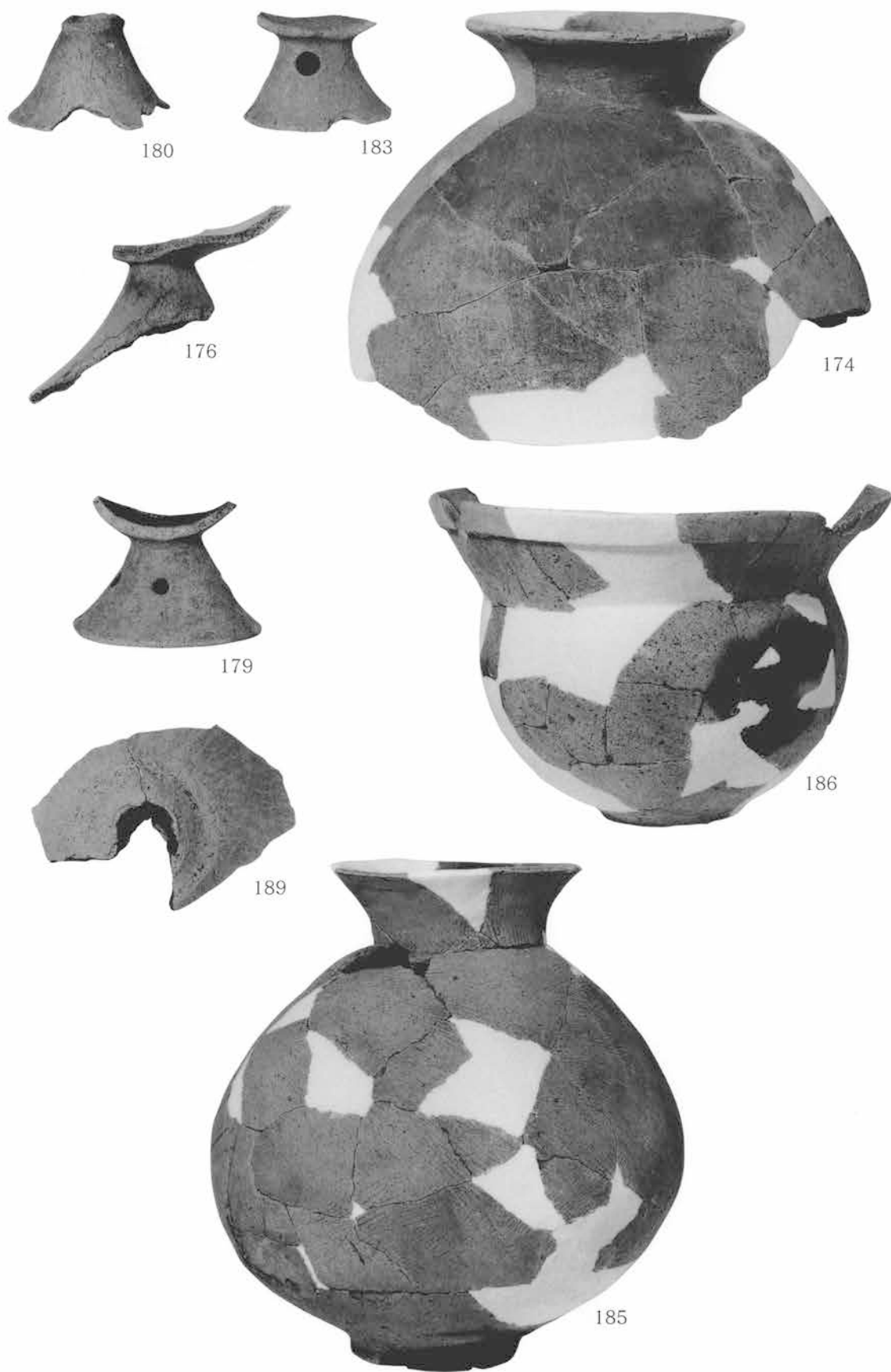
142



P L 64



D区 b河道出土遺物



D区 b河道出土遺物

P L 66



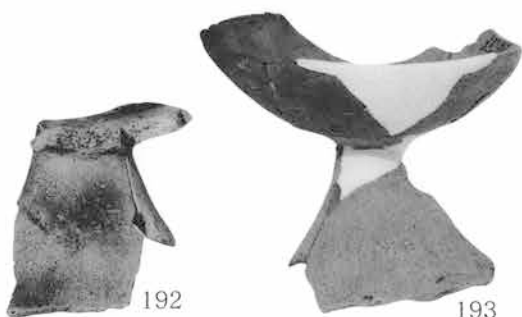
190



191



187



192

193



195



196



199



200



198



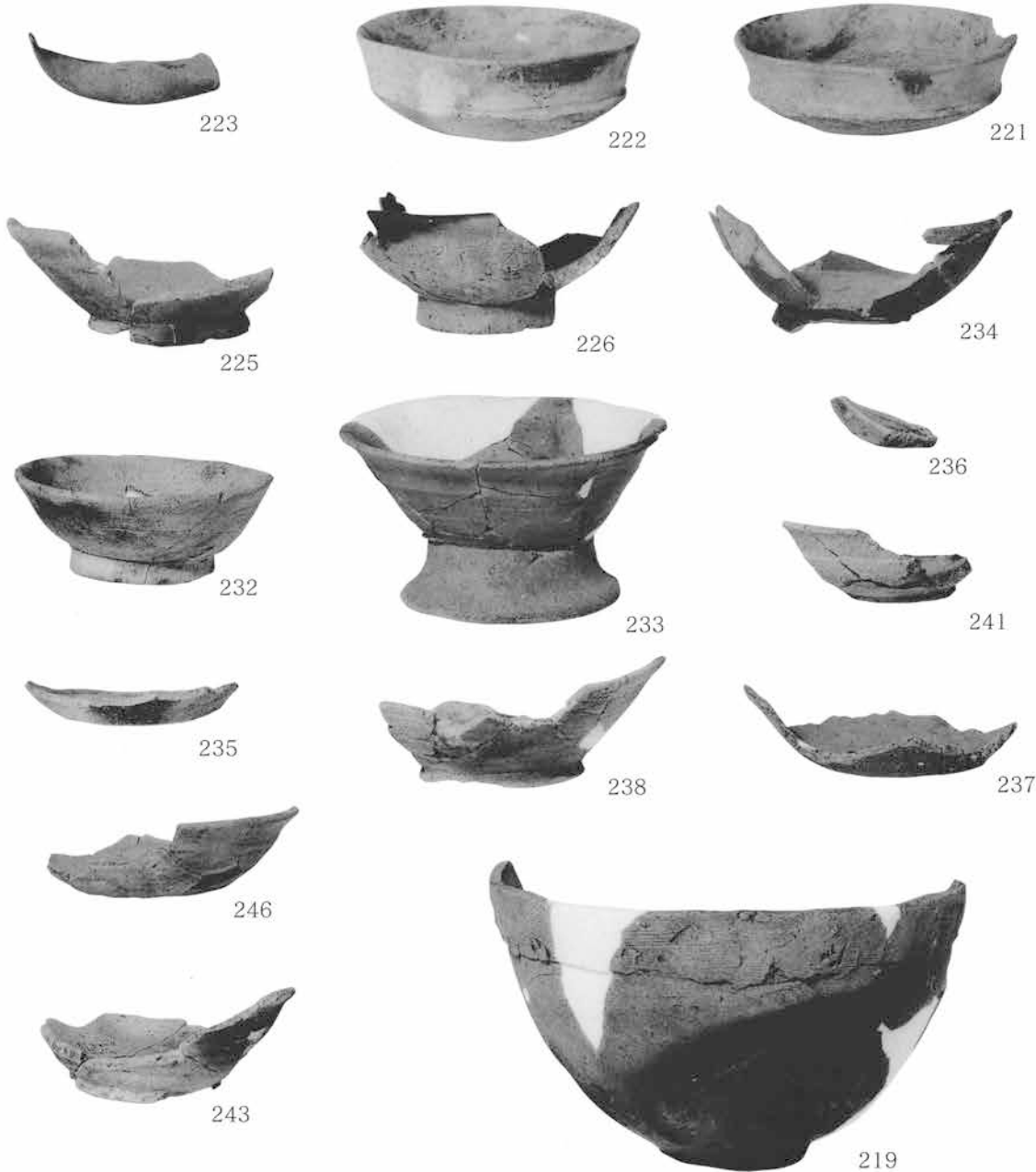
188



194



P L 68





1



2



3



4

P L 70



5



6



7



8



9



10



11



12



13



PL72



1



2



3



4



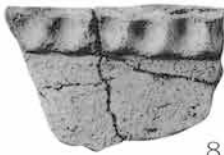
5



6



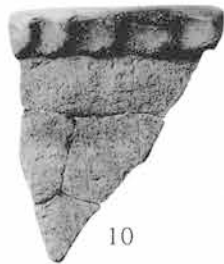
7



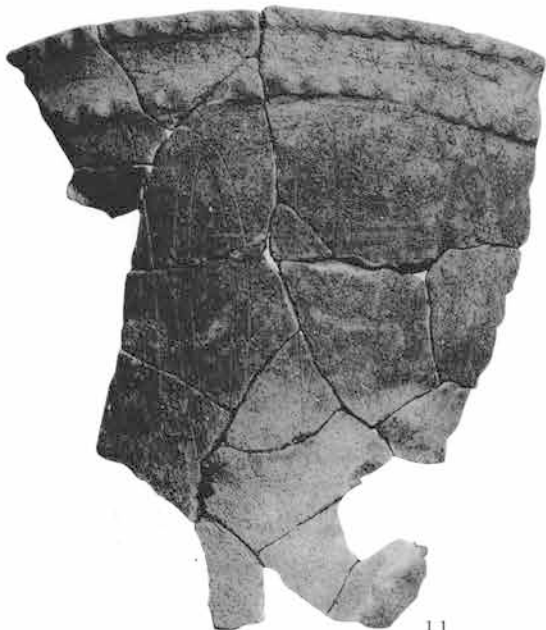
8



9



10



11



12

D区 f 河道出土繩文土器



13



14



16



17



18



15



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28

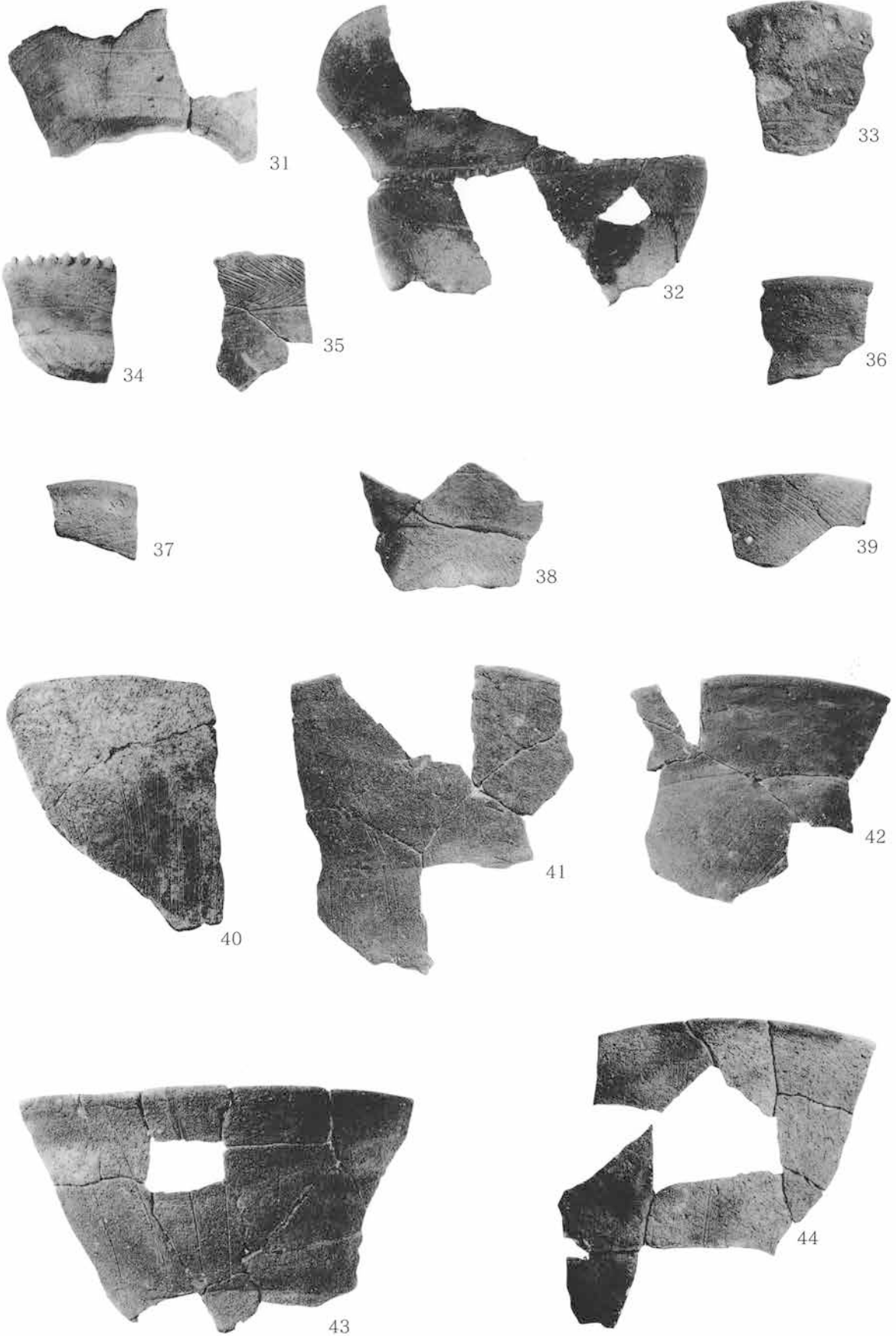


29



30

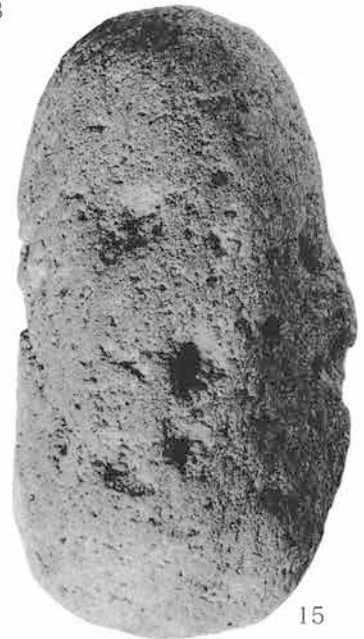
PL74



D区 f 河道出土繩文土器



P L 76





1



3

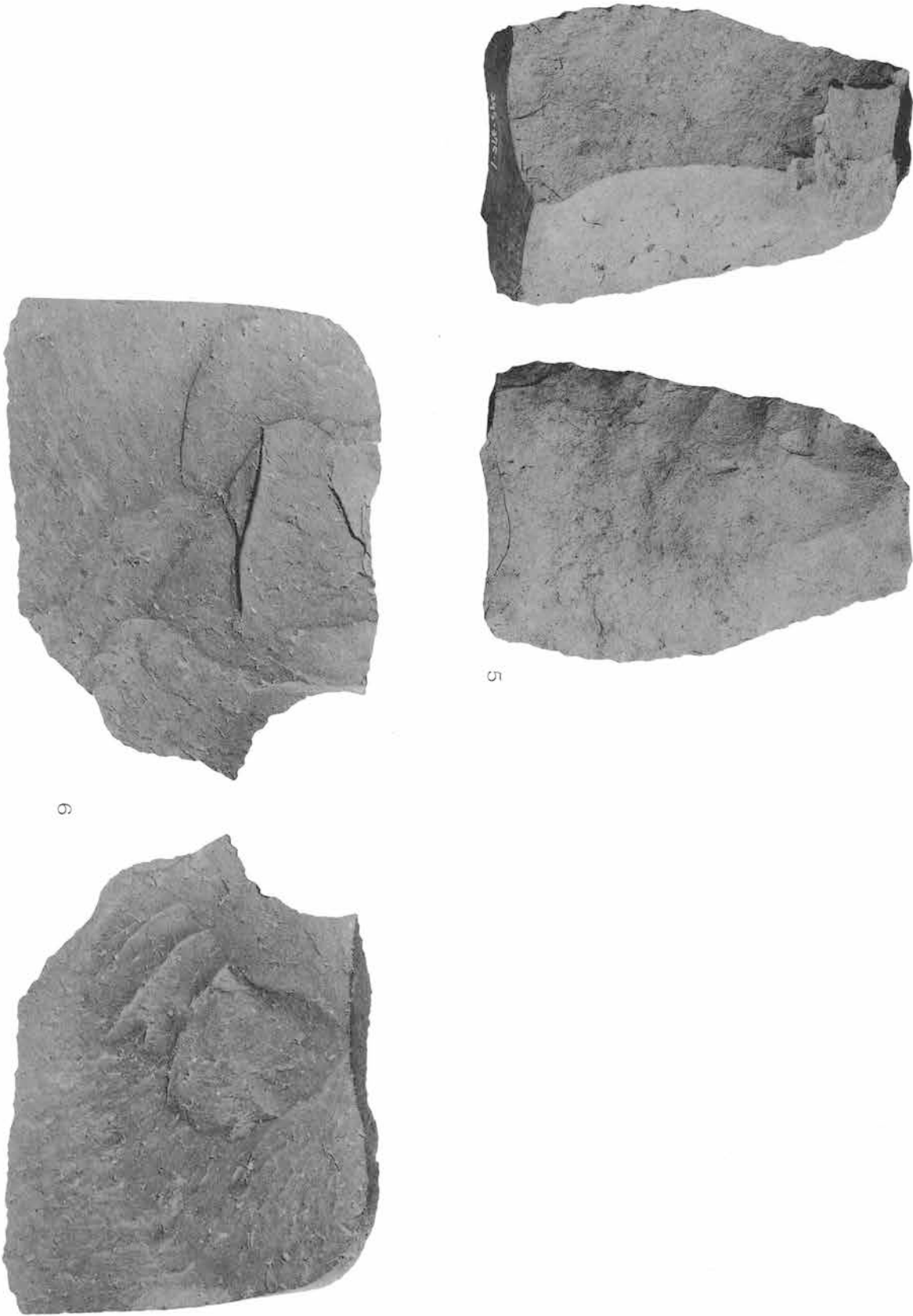


2

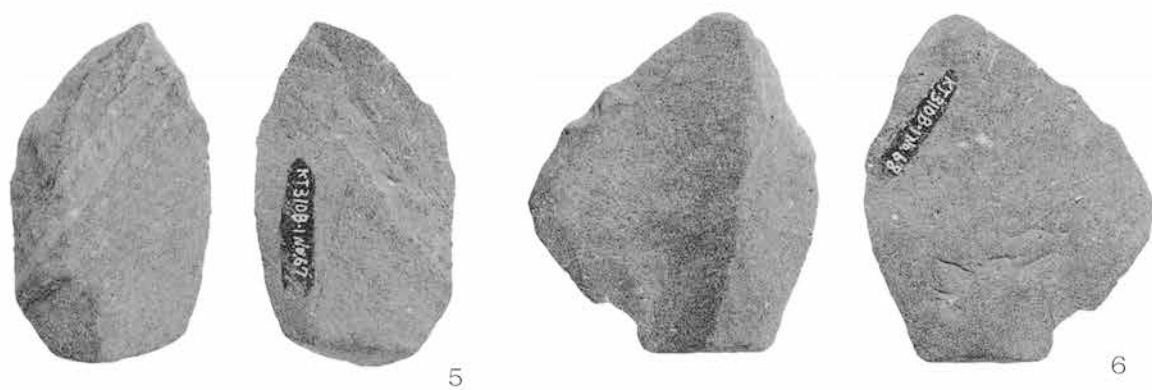
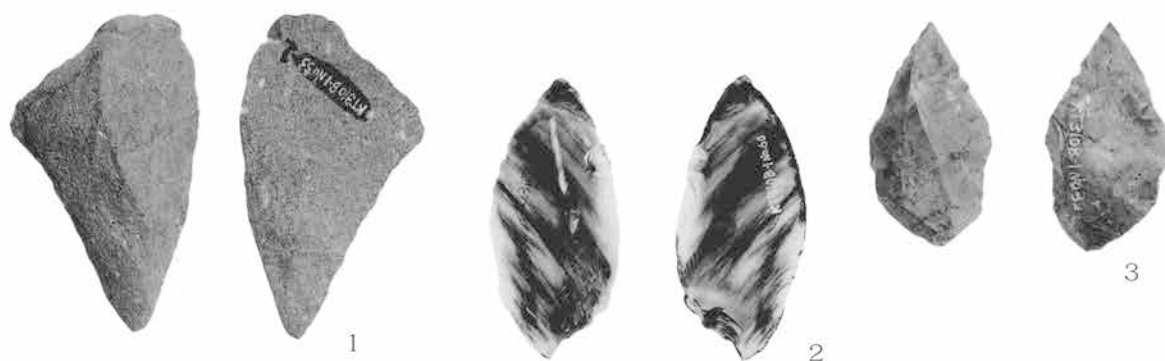


4

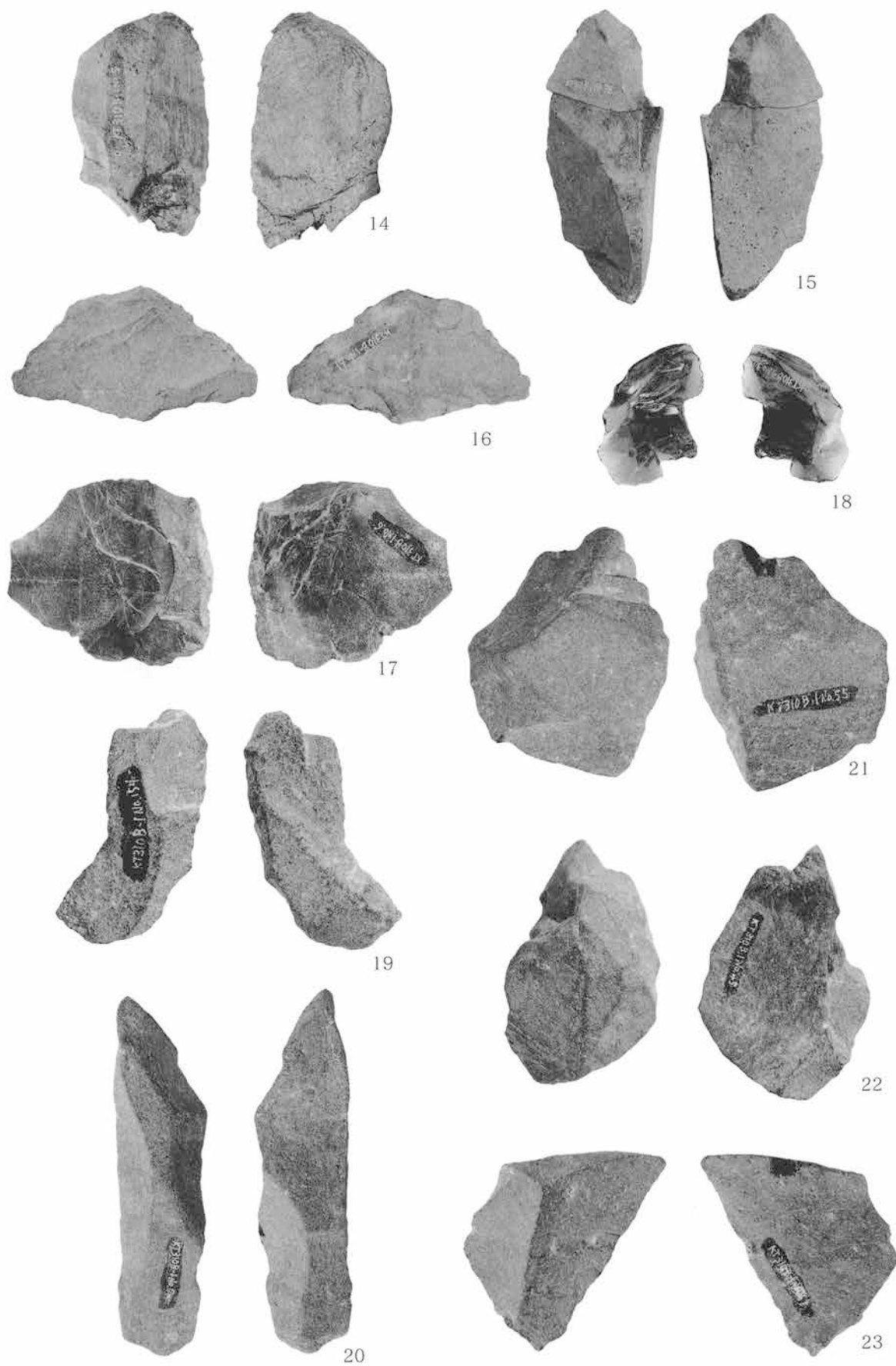
PL78



B区 旧石器時代出土遺物



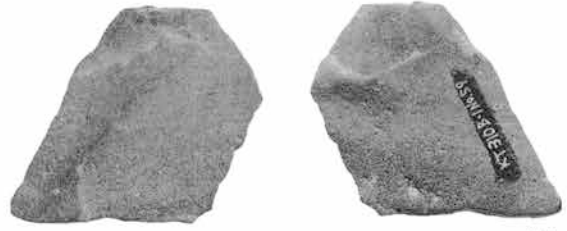
P L 80



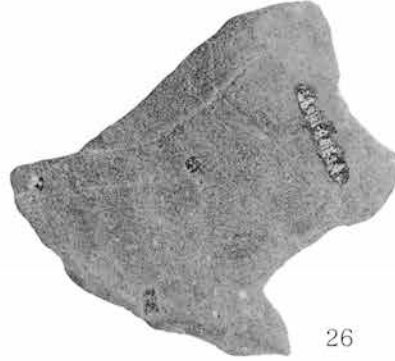
B区 旧石器時代出土遺物



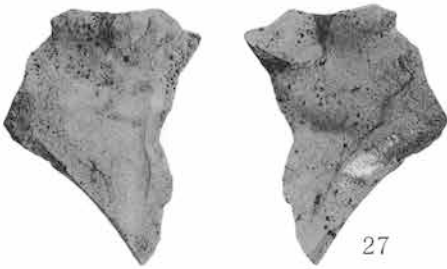
24



25



26



27



28



29



30



31



32



33

PL82



接1



接1-1



接2



接2-2



接3



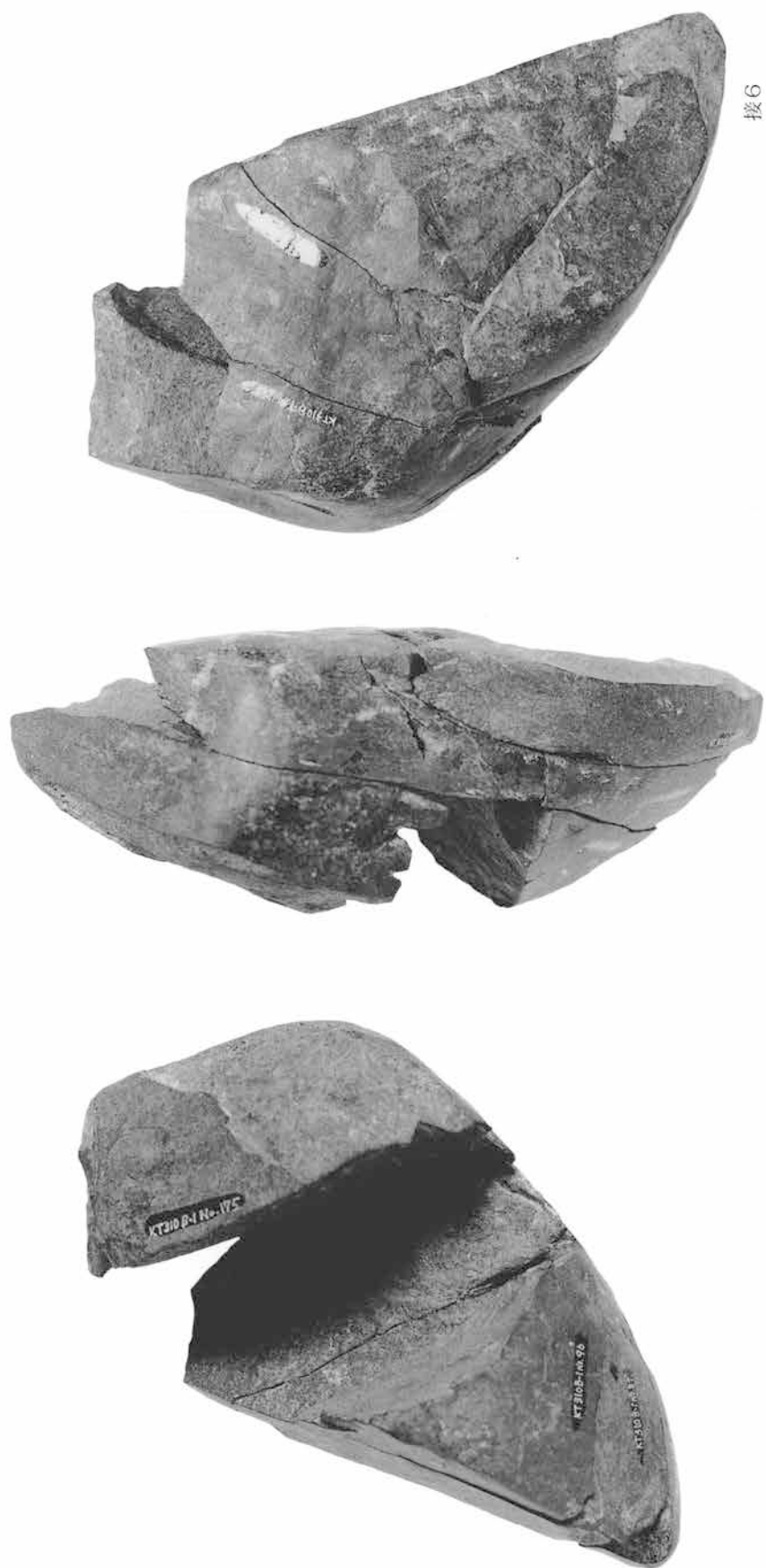
接3-3



接4



接5



B区 旧石器時代出土遺物



財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第308集

光仙房遺跡
(集落編)

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

平成15年3月20日 印刷
平成15年3月27日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社